

 YAMAHA

SPORTS

TZR250

サービスマニュアル



3MA-28197-00

はじめに

このサービスマニュアルは、通常おこなう点検・調整をはじめ、主要部の分解、点検、組立て整備要領を説明しております。

シンボルマークを使用して読む事項を少なく、分解図、写真を数多く使用し見て理解できるよう工夫して編集致しました。

本書を皆様の点検、調整、分解、組立て等に関する「整備の手引き」としてご利用ください。なお仕様変更などにより記載内容が実車と異なる場合がありますのでご了承ください。

1989年 2月

ヤマハ発動機株式会社
サービス部 資料課

◎速度警告灯装備車はメーカーオプション仕様です。

注意

このサービスマニュアルは整備に関することだけを全て記載しているわけではありません。ヤマハオートバイに関する整備上の一般知識及び技能を有する人(販売店、整備業者)を対象として作成してあります。

整備上の一般知識及び技能の無い人はこのマニュアルだけで点検、調整、分解、組立て等を行なわないでください。知識不足、技能不足等のため整備上のトラブル及び機械破損等の原因となる場合があります。

本書の使い方

1. 本書の構成は総説、サービスデータ、点検・調整、エンジン、水冷機構、キャブレタ、車体、電装、トラブルシューティングの9章に分類して編集致しました。
2. 目次を巻頭にまとめました。全体の構成がどのようになっているか確かめ、必要とする章、項目を探します。
 - 本の小口を斜めに曲げて、目的の章のシンボルマークに合わせて開いてページ数で見たい項目、見たい所を探します。
3. シンボルマークを使用して読む事項を少なく、見て理解できるように致しました。












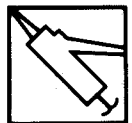



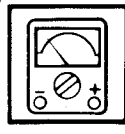










シンボルマークはマニュアルを通して各章、特殊工具、締付トルク、オイルの種類、グリースの種類、標準値及び使用限度等および注意事項、作業方法を表示します。
4. 整備等に関する情報を3つに区分し、下記シンボルマークで表示しました。

整備要領 整備上のポイントを明確にする情報

注意 オートバイの部品に損傷を与えないようにするための情報

危険 オートバイに乗る人、点検・整備を行う人の安全を守るための情報

シンボルマーク

① 総説 	② サービス データ 			
③ 点検 調整 	④ エンジン 			
⑤ 水冷 機構 	⑥ キャブレタ 			
⑦ 車体 	⑧ 電装 			
⑨ トラブル シューティング 	⑩ 			
⑪ 	⑫ 			
⑬ 	⑭ 			
⑮ 	⑯ 	⑰ 		
⑱ 	⑲ 	⑳ 	㉑ 	㉒ 
⑳ 	㉔ 	㉕ 		
㉖ 	㉗ 			

シンボルマーク

シンボルマークは下記の意味、事項を示します。

- ①総説編
- ②サービスデータ編
- ③点検、調整編
- ④エンジン編
- ⑤水冷機構編
- ⑥キャブレタ編
- ⑦車体編
- ⑧電装編
- ⑨トラブルシューティング編
- ⑩エンジン車載整備ができる。
- ⑪特殊工具
- ⑫オイル量
- ⑬グリースの種類
- ⑭締付トルク
- ⑮標準値及び使用限度
- ⑯エンジン回転数
- ⑰Ω、V、Aの規定値
- ⑱ヤマハオートループスーパーオイル
- ⑲ヤマハギヤオイル
- ⑳ヤマハ4サイクルオイル
- ㉑ヤマハ4サイクルオイルFX
- ㉒二硫化モリブデンオイル
- ㉓ヤマハグリースB
- ㉔ヤマハグリースE
- ㉕ヤマハ二硫化モリブデングリース
- ㉖ネジロック
- ㉗組付時新品と交換する部品

目次

§ 1 総説編	 総説 1
§ 2 サービスデータ編	 サービス データ 2
§ 3 点検・調整編	 点検・調整 3
§ 4 エンジン編	 エンジン 4
§ 5 水冷機構編	 水冷機構 5
§ 6 キャブレタ編	 キャブレタ 6
§ 7 車体編	 車体 7
§ 8 電装編	 電装 8
§ 9 トラブルシューティング編	? トラブル シューティング 9

目次

第1章 総説編

外観写真、車台No.打刻位置、エンジン型式打刻位置、認定番号添付位置	P1-1
外観四面図	P1-2
性能曲線図	P1-3
機構説明	P1-4
整備上の注意事項(1)	P1-17
整備上の注意事項(2)	P1-20
特殊工具・機器	P1-21


第2章 サービスデータ編

主要データ	P2-1
仕様諸元	P2-2
締付トルク	P2-6
エンジン	P2-6
車体	P2-8
その他、一般締付トルク	P2-9
オイル、グリース、シール剤塗布箇所	P2-10
エンジン	P2-10
車体	P2-11
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図	P2-12


第3章 点検・調整編

点検整備方式	P3-1
カバー類の脱着	P3-3
フロントアンダボディの取外し	P3-3
カウリングの取外し	P3-3
サイドカバー	P3-4
サイドカバーの組付け	P3-4
カウリングの組付け	P3-5
フロントアンダボディの組付け	P3-5
エンジン	P3-6
ミッションオイル量の点検	P3-6
交換時期	P3-6
ミッションオイル量・指定オイル	P3-6
ミッションオイルの抜き出し	P3-6
キャブレタの点検	P3-7
キャブレタ全開点検	P3-7
スロットルケーブル遊びの点検	P3-7

アイドルリング調整	P3-8
オイルポンプ合マークの点検	P3-8
オイルポンプエア抜き	P3-9
圧縮圧力の点検	P3-9
リカバリタンク水量点検	P3-10
冷却水の交換	P3-11
ラジエタキャップの点検	P3-13
ラジエタキャップ開弁圧の点検	P3-13
冷却水循環システム水漏れの点検	P3-14
クラッチの点検、調整	P3-15
エアクリーナエレメントの点検、清掃	P3-15
エキゾーストパイプ、サイレンサの点検	P3-16
車体	P3-17
フロントブレーキの点検、調整	P3-17
エア抜き	P3-17
ブレーキパッドの点検	P3-18
リザーバタンク液量の点検	P3-18
リヤブレーキの点検、調整	P3-19
リヤストップスイッチの点検	P3-19
ドライブチェーンの点検、調整	P3-20
ホイールの点検	P3-21
空気圧の点検	P3-21
ホイールの振れ、がたの点検	P3-21
タイヤの点検	P3-21
ハンドル、ステアリングの点検	P3-22
フロントフォーク、アンダブラケットの点検	P3-22
フロントフォーク初期スプリング荷重の調整	P3-23
リヤアームの点検	P3-23
リヤクッションの点検	P3-23
リヤクッションの調整	P3-24
電装	P3-25
バッテリーの点検	P3-25
補充電	P3-26
スパークプラグの点検	P3-26
標準プラグ型式	P3-26
スパークプラグの締付け	P3-27
信号、照明の点検	P3-27
ハロゲンランプの取扱い	P3-27
照射角の点検	P3-28
計器の作用	P3-28



総説 **1**



サービス
データ **2**



点検・調整 **3**




エンジン **4**



水冷機構 **5**



キャブレタ **6**



車体 **7**



電装 **8**

? **9**

トラブル
シューティング

第4章 エンジン編

エンジン車載整備可能箇所	P4-1
エンジンの取外し	P4-2
エンジンの分解	P4-7
ドライブチェンの取外し	P4-7
エンジンの取外し	P4-7
シリンダヘッド、シリンダの取外し	P4-8
ピストン、ピストンリングの取外し	P4-9
バルブの取外し	P4-9
オートループポンプの取外し	P4-10
クラッチの取外し	P4-10
オートループポンプドライブギヤの取外し	P4-11
オイルポンプ、ストレーナの取外し	P4-12
キックスタータの取外し	P4-12
シフトシャフト、トランスミッションの取外し	P4-13
プライマリドライブギヤ、 balanサギヤの取外し	P4-14
C.D.Iマグネットの取外し	P4-14
エンジン部品の点検	P4-15
リードバルブの取外し	P4-15
クランクシャフト、 balansaの取外し	P4-15
シリンダヘッドの点検	P4-17
シリンダの点検	P4-17
ピストン、ピストンピンの点検	P4-18
ピストンリングの点検	P4-20
ピストンクリアランスの点検	P4-21
バルブの点検	P4-21
オイルストレーナの点検	P4-22
オイルポンプの点検	P4-22
デリバリパイプの点検	P4-22
クラッチの点検	P4-23
キックスタータの点検	P4-24
シフトシャフトの点検	P4-24
オートループポンプドライブギヤの点検	P4-25
シャフト、オイルシールの点検	P4-25
クランクシャフトの点検	P4-26
balansaドリブンギヤの点検	P4-27
ミッションギヤの点検	P4-27
シフトフォーク、シフトカムの点検	P4-28
クランクケースの点検	P4-28
リードバルブの点検	P4-29

クランクケース、クランクシャフト、バルンサ	P4-30
構成部品	P4-30
クランクケース、クランクシャフト、バルンサの組付け	P4-32
シリンダヘッド、シリンダ、ピストン、バルブ	P4-34
構成部品	P4-34
バルブの組付け	P4-36
ピストン、ピストンリングの組付け	P4-36
シリンダ、シリンダヘッドの組付け	P4-37
リードバルブ	P4-40
構成部品	P4-40
リードバルブの組付け	P4-41
トランスミッション、シフトシャフト	P4-42
構成部品	P4-42
トランスミッション、シフトシャフトの組付け	P4-45
C.D.Iマグネット	P4-47
構成部品	P4-47
C.D.Iマグネットの組付け	P4-48
キックスタータ	P4-49
構成部品	P4-49
キックスタータの組付け	P4-50
オイルポンプ、オイルストレーナ、オートループポンプドライブギヤ	P4-51
構成部品	P4-51
オイルポンプ、ストレーナの組付け	P4-53
オートループポンプドライブギヤの組付け	P4-53
クラッチ	P4-54
構成部品	P4-54
クラッチの組付け	P4-55
エンジン脱着	P4-58

第5章 水冷機構編

ラジエタ、サーモスタット、ウォーターポンプ	P5-1
構成部品	P5-1
ラジエタ、サーモスタットの取外し	P5-3
ウォーターポンプの取外し	P5-4
ラジエタ、サーモスタットの点検	P5-5
インペラシャフト、インペラギヤの点検	P5-6
ウォーターポンプの組付け	P5-7
サーモスタット、ラジエタの組付け	P5-8



総説

1



サービス
データ

2



点検・調整

3



エンジン

4



水冷機構

5



キャブレタ

6



車体

7



電装

8

?

トラブル
シューティング

9

第6章 キャブレタ編

キャブレタ	P6-1
構成部品	P6-1
キャブレタの取外し	P6-2
キャブレタの分解	P6-3
キャブレタの点検	P6-5
キャブレタの組立て	P6-7
キャブレタの組付け	P6-10
フュエルレベルの点検	P6-11

第7章 車体編

フロントホイール	P7-1
構成部品	P7-1
フロントホイールの取外し	P7-2
フロントホイールの点検	P7-3
ギヤユニット、メータクラッチの点検	P7-3
フロントホイールの組立	P7-4
ホイールバランス調整	P7-5
フロントホイールの組付け	P7-6
リヤホイール	P7-7
構成部品	P7-7
リヤホイールの取外し	P7-8
リヤホイールの点検	P7-9
リヤホイールの組立	P7-9
リヤホイールの組付け	P7-10
フロントブレーキ、リヤブレーキ	P7-12
構成部品	P7-12
ブレーキパッドの交換	P7-14
ブレーキフルードの交換〔フロント〕	P7-15
キャリパの取外し	P7-17
キャリパの分解	P7-17
マスタシリンダの取外し〔フロント〕	P7-18
マスタシリンダの取外し〔リヤ〕	P7-18
マスタシリンダの分解	P7-19
ブレーキディスクの取外し	P7-19
ブレーキディスクの点検	P7-20
ブレーキホースの点検	P7-20
キャリパの点検	P7-20
マスタシリンダの点検	P7-21
ブレーキディスクの組付け	P7-22

キャリパの組付け	P7-22
マスタシリンダの組付け〔フロント〕	P7-24
フロントフォーク	P7-27
構成部品	P7-27
フロントフォークの取外し	P7-28
フロントフォークの分解	P7-29
フロントフォークの点検	P7-30
フロントフォークの組立て	P7-31
フロントフォークの組付け	P7-34
ハンドル	P7-35
構成部品	P7-35
ハンドルの取外し	P7-36
ハンドルの点検	P7-37
ハンドルの組付け	P7-37
ステアリング	P7-39
構成部品	P7-39
アンダブラケットの取外し	P7-40
ステアリングの点検	P7-41
アンダブラケットの組付け	P7-42
ドライブチェーン	P7-45
構成部品	P7-45
ドライブチェーン、ドリブンスプロケットの取外し	P7-46
実車でのドライブチェーンの点検	P7-47
クラッチハブの点検	P7-47
ドリブン、ドライブスプロケットの点検	P7-48
ドライブチェーンの点検	P7-48
ドライブチェーン、ドリブンスプロケットの組付け	P7-49
リヤクッション	P7-51
構成部品	P7-51
リヤクッションの取外し	P7-52
リヤクッションの点検	P7-53
リヤクッションの組付け	P7-54
リヤアーム	P7-56
構成部品	P7-56
リヤアームの取外し	P7-57
リヤアームの点検	P7-58
リヤアームの組付け	P7-59
フュエルタンク	P7-62
構成部品	P7-62



総説

1



サービス
データ

2



点検・調整

3



エンジン

4



水冷機構

5



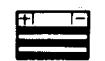
キャブレタ

6



車体

7



電装

8

?

トラブル
シューティング

9










第8章 電装編

電装品配置図	P8-1
点火系統点検	P8-3
点火系統結線図	P8-3
点検ステップ	P8-4
スパーク点検	P8-5
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	P8-5
メインスイッチの点検	P8-5
エンジンストップスイッチの点検	P8-6
ニュートラルスイッチの点検	P8-6
イグニッションコイル1次コイル抵抗値の点検	P8-7
イグニッションコイル2次コイル抵抗値の点検	P8-8
火花性能の点検	P8-8
C.D.Iマグネットの点検	P8-9
ピックアップコイルの点検	P8-9
チャージコイルの点検	P8-9
C.D.Iユニットの点検	P8-9
充電系統点検	P8-11
充電系統結線図	P8-11
点検ステップ	P8-12
バッテリーの点検	P8-13
ヒューズの点検	P8-13
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	P8-14
充電電圧の点検	P8-14
ステータコイルの点検	P8-15
レクチファイヤレギュレタの点検	P8-15
信号、照明系統点検	P8-17
信号、照明系統結線図	P8-17
点検ステップ	P8-18
バルブの点検	P8-19
ヒューズの点検	P8-19
バッテリーの点検	P8-19
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	P8-19
メインスイッチの点検	P8-19
ライトスイッチの点検	P8-19
ディマスイッチの点検	P8-20
フロントストップスイッチの点検	P8-21
リヤストップスイッチの点検	P8-21
フラッシュスイッチの点検	P8-22

ホーンスイッチの点検	P8-22
ホーンの点検	P8-23
ホーンコイル抵抗値の点検	P8-23
ホーンの音色、音量の点検、調整	P8-23
レクチファイヤレギュレタの点検	P8-23
C.D.Iマグネット(ライディングコイル)の点検	P8-23
オイルレベル警告灯系統点検	P8-25
オイルレベル警告灯系統結線図	P8-25
点検ステップ	P8-26
オイルレベル警告灯の点検	P8-27
バッテリーの点検	P8-27
ヒューズの点検	P8-27
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	P8-27
メインスイッチの点検	P8-27
オイルレベルゲージの点検	P8-28
Y.P.V.S系統点検	P8-29
Y.P.V.S系統結線図	P8-29
点検ステップ	P8-30
バッテリーの点検	P8-31
ヒューズの点検	P8-31
メインスイッチの点検	P8-31
サーボモータの点検	P8-31
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	P8-31
C.D.Iユニットの点検	P8-32
冷却系統点検	P8-33
冷却系統結線図	P8-33
点検ステップ	P8-34
バッテリーの点検	P8-35
ヒューズの点検	P8-35
メインスイッチの点検	P8-35
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	P8-35
サーモユニットの点検	P8-35
水温計の点検	P8-36

第9章 トラブルシューティング編

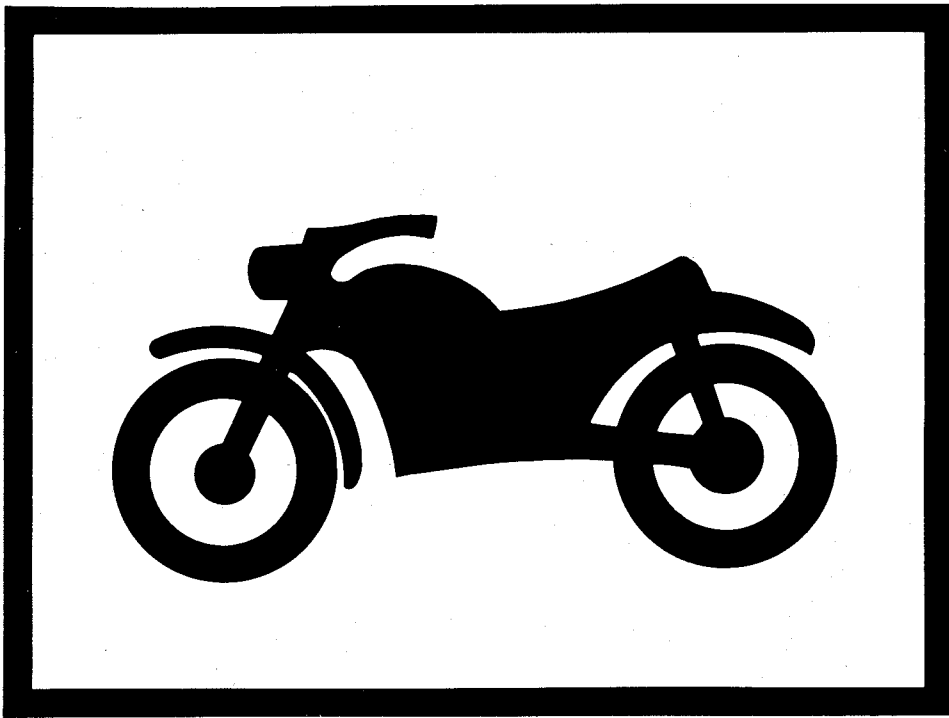
始動不良・始動困難	P9-1
アイドル不調	P9-2
中高速不調	P9-2
エンジン騒音	P9-3
クラッチの滑り・切れ不良	P9-4
キック不良	P9-4
変速不良	P9-5

	1
総説	
	2
サービスデータ	
	3
点検・調整	
	4
エンジン	
	5
水冷機構	
	6
キャブレタ	
	7
車体	
	8
電装	
	9
トラブルシューティング	

ブレーキ不良	P9-5
フロントフォークオイル漏れ、作動不良	P9-6
縦安定性不良	P9-6
信号照明システムの不良	P9-7
Y.P.V.S不調	P9-8
オーバヒート、オーバクール	P9-8



第1章 総説編



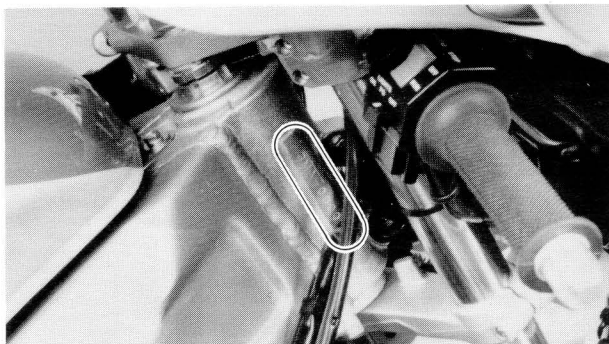


外観写真

1



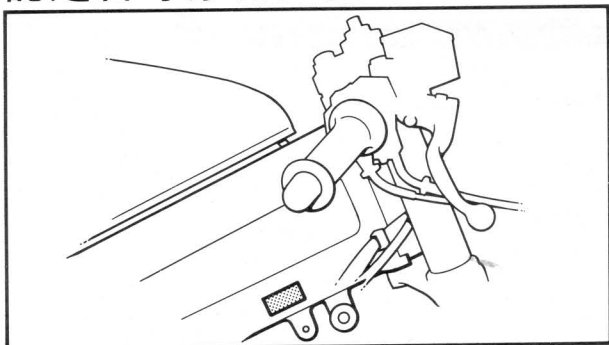
車台番号打刻位置



エンジン型式打刻位置



認定番号添付位置



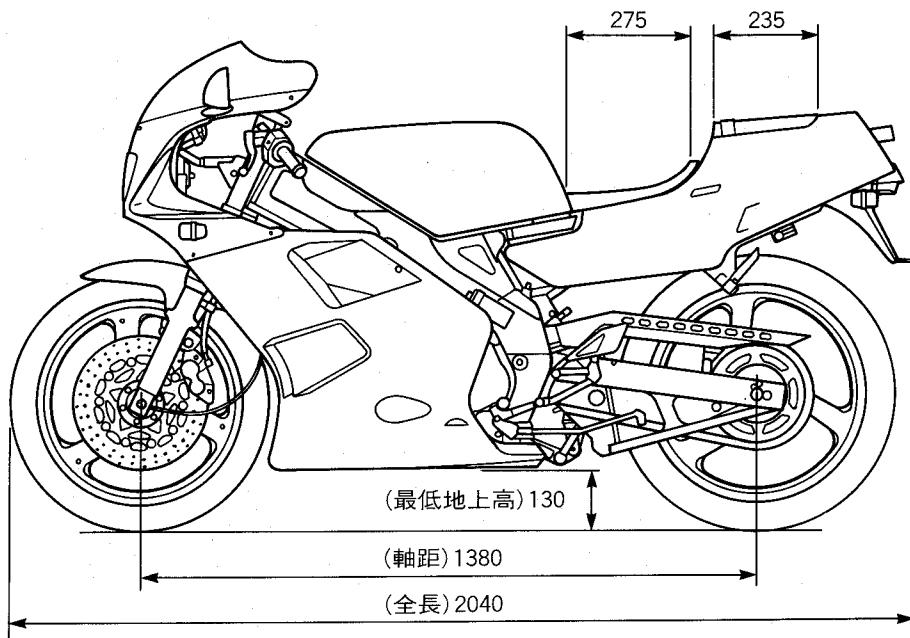
営業呼称	TZR250
通称名	ヤマハ・TZR250
車名・型式	ヤマハ・3MA
工場呼称	TZR250CJ9
機種コード	3MA1
認定番号	Ⅱ-159
原動機型式	3MA
車台打刻開始番号	3MA-000101
全長	2040mm
全幅	655mm
全高	1100mm
総排気量	249cm ³ (cc.)
車両重量	156kg
カラーリング	シルキーホワイト/ファインレッド



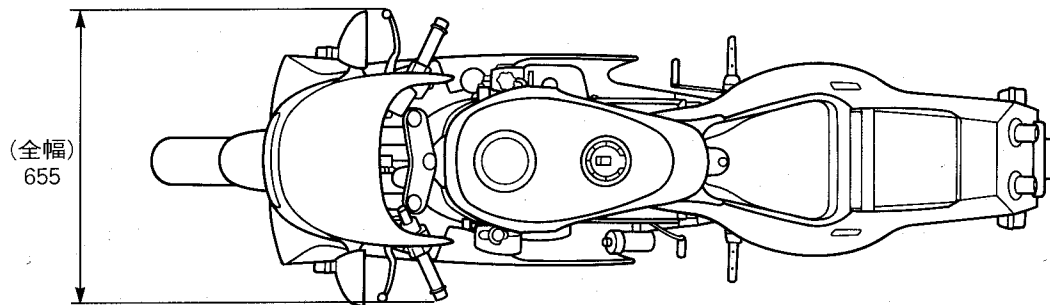
外觀四面図

単位mm

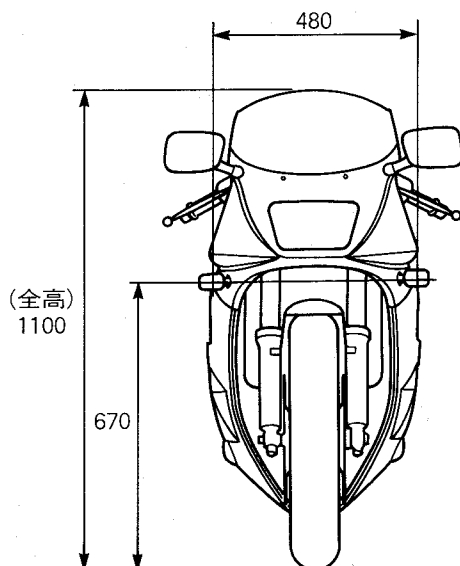
側面図



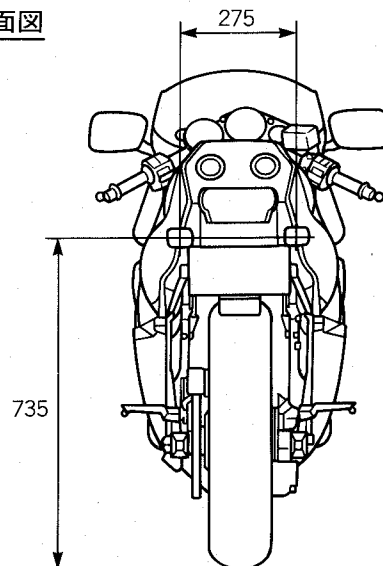
上面図



前面図



後面図

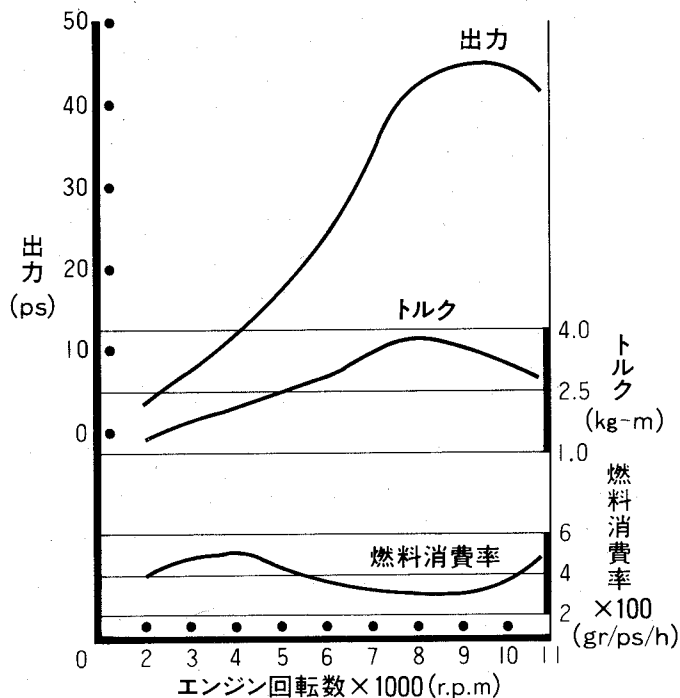


1



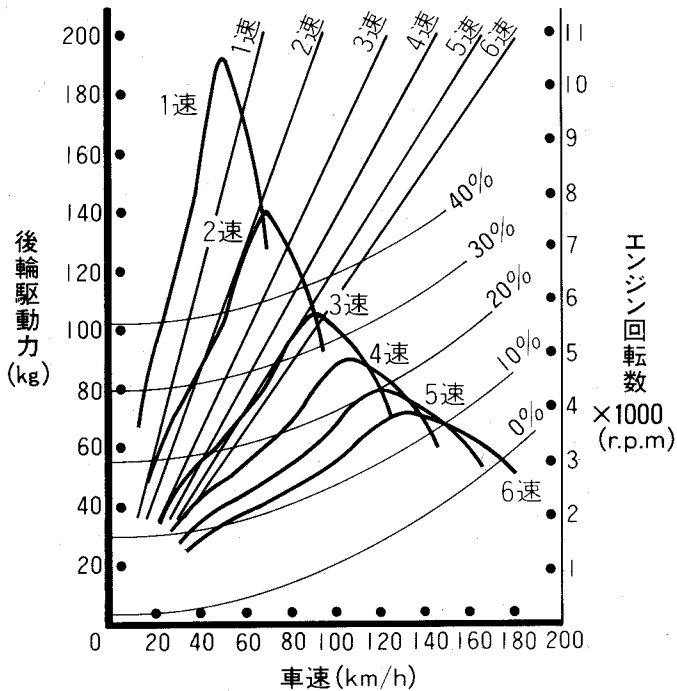
性能曲線図

エンジン性能曲線図



最高出力：45PS/9500rpm
 最大トルク：3.8kg・m /8000rpm

走行性能曲線図



1次減速比：61/25：2.440
 2次減速比：43/14：3.071
 変速機変速比
 1速：34/14：2.428
 2速：30/17：1.764
 3速：24/18：1.333
 4速：25/22：1.136
 5速：24/24：1.000
 6速：20/22：0.909
 タイヤサイズ
 フロント：110/70 R17 54H
 リヤ：140/60 R18 64H

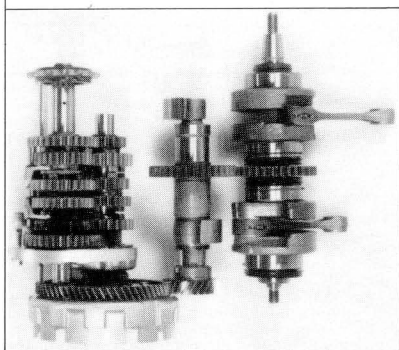
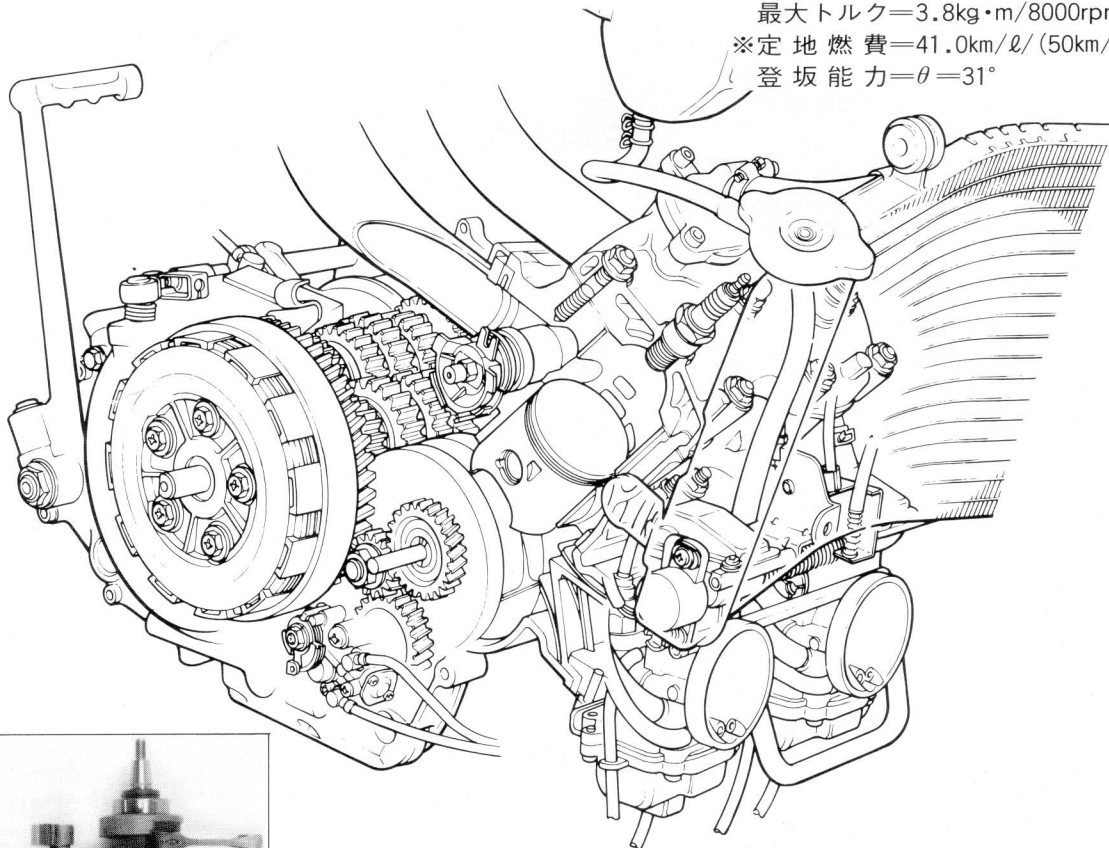


新開発・後方ストレート排気エンジン

『パワーユニット』

- ▲ライダの意志に忠実で、しかも鋭いレスポンスを極限まで高めたパワーユニット。
- ▲スペックには表れないフィーリングまでも徹底的に追求したエンジン性能。
- ▲サーキットなどのスポーツ走行におけるメンテナンスを大幅に向上させたカセット式トランスミッション。
- ▲エレクトロニクスを最大限に取入れた、マップ制御のデジタルCDI点火方式、エアジェットコントロールシステム付キャブレタの採用で、最適な点火時期と混合気づくり。

最高出力=45PS/9500rpm
 最大トルク=3.8kg・m/8000rpm
 ※定地燃費=41.0km/ℓ/(50km/h)
 登坂能力=θ=31°



ミニQ&A

Q：後方ストレート排気のメリットはなんですか。

A：①前方排気と比べ、エンジンは最初にベンチで回す時にはストレートマフラで性能の開発をおこないます。それをエンジン、車体のレイアウトに合わせマフラを曲げます。その時どうしても効率は低下します。しかし後方排気のレイアウトでは、エキゾーストパイプの曲がりほぼストレートになり、管路抵抗のロスを最小限に抑え排気効率を向上しました。

②吸気管長が短くなり、より高性能を発揮しやすくなります。

③エンジンを前傾させる事により、低重心化が図られます。

※定地燃費は定められた試験条件のもとでの値です。

従って走行時の気象・道路・車両・整備などの諸条件によって異なる場合があります。

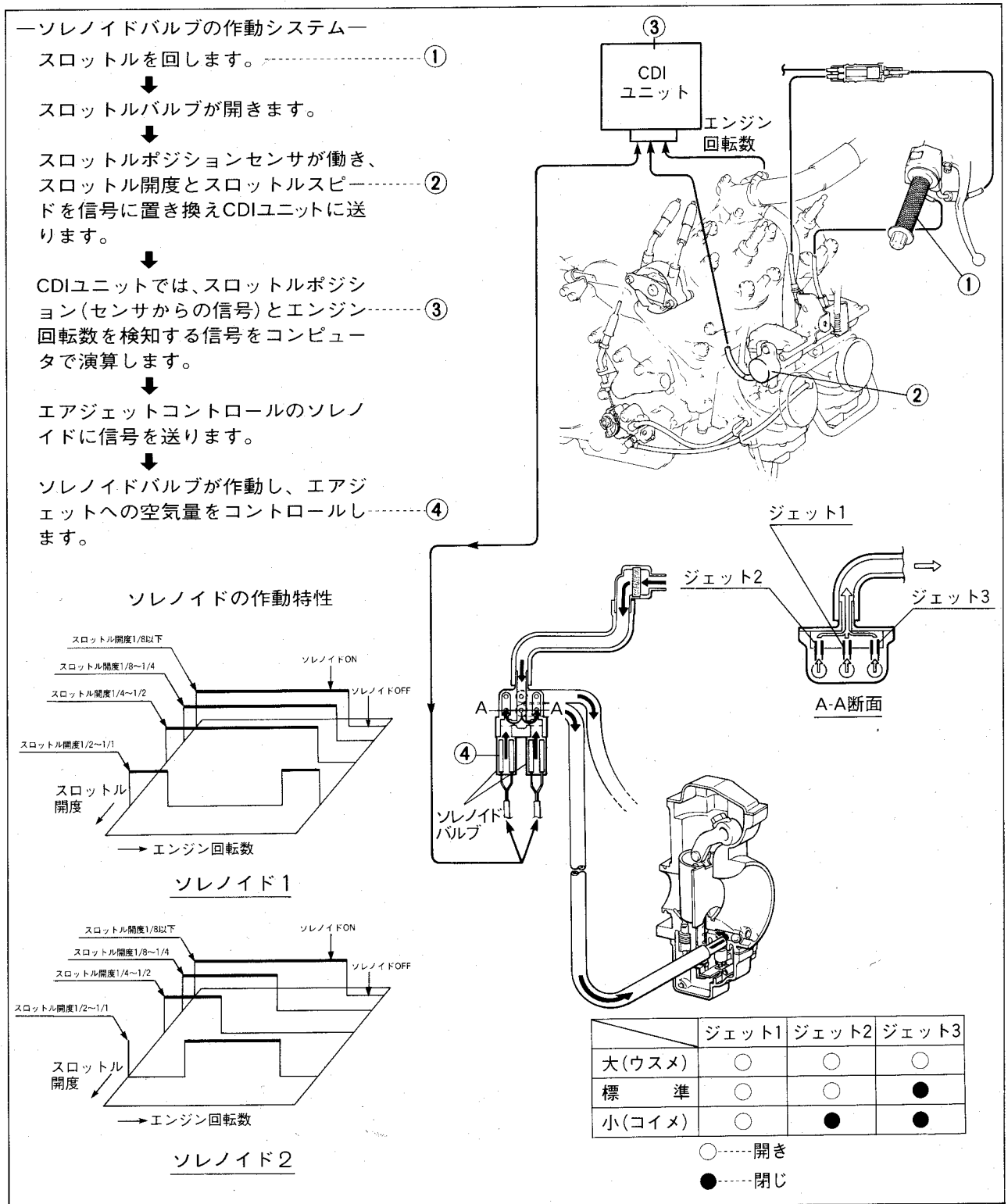


キャブレタ

十分な空気量を得るために大口径φ 32mmのセミフラットキャブレタ (TM32SS)を採用しました。また大口径キャブレタに特有の過度特性の低下をエアジェットコントロールシステムにより解消し優れたレスポンスを得ています。

『エアジェットコントロールシステム』

エンジン回転数とスロットル開度を検知し、CDIユニットに内蔵したコンピュータにより、ソレノイドバルブの開閉を制御します。これによりエアジェットへの空気量をコントロールしスロットルの急開閉時にも常に適正な混合気を供給するシステムです。





マップ制御のデジタルCDI点火方式

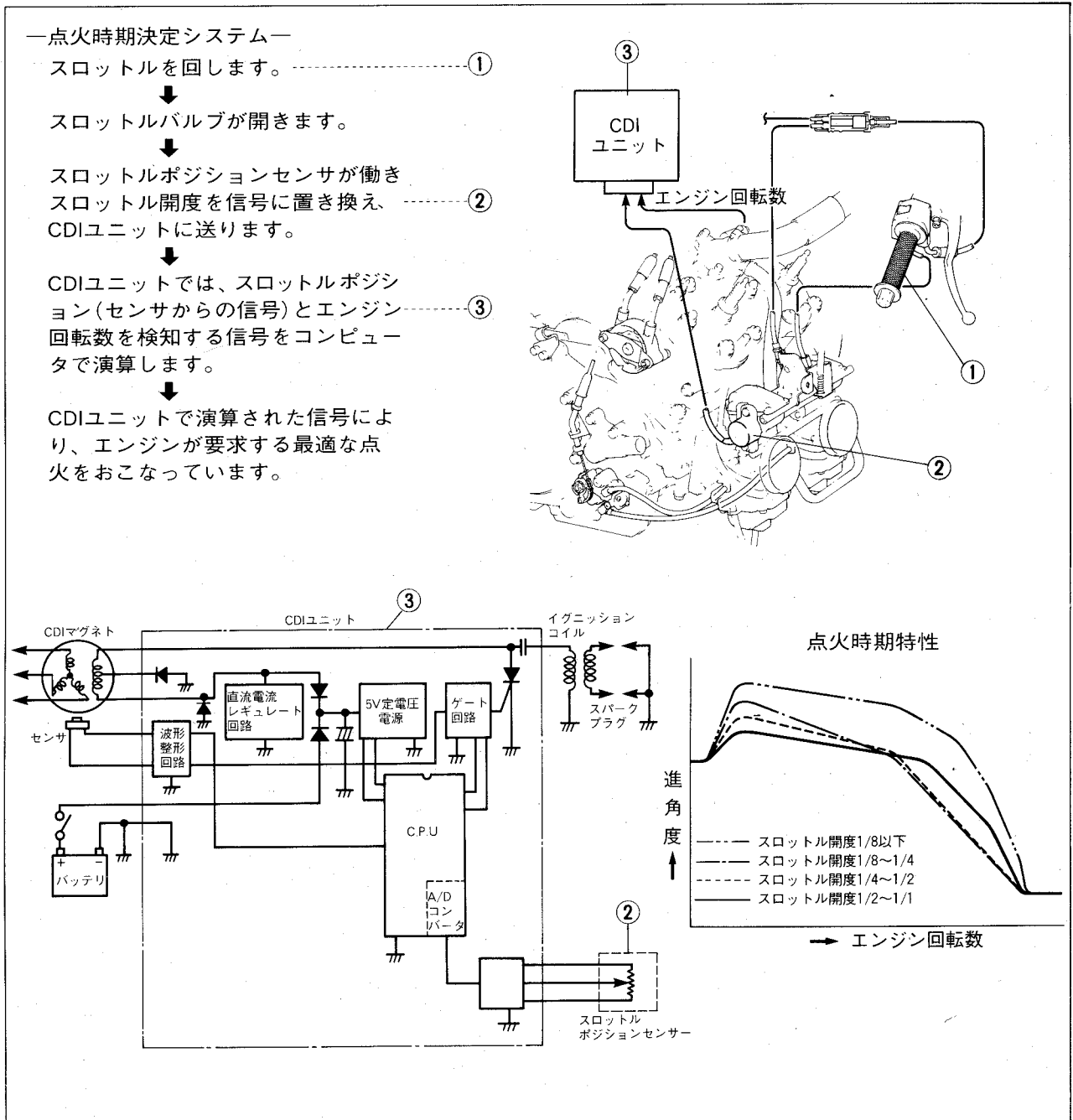
マップ制御のCDI点火方式は、点火時期をコンピュータがコントロールする機構です。

従来のエンジン回転数のみを検知する点火時期制御と異なり、エンジン回転数とスロットル開度を検知 (CDIユニットで) し、点火の進角を最適にコントロールするコンピュータ制御機構です。

これにより、低・中速回転域よりスロットルを急に開いた時でも瞬間に点火時期が変化し、最適タイミングを与える点火時期を実現しました。

この結果、全回転域にわたり、さらに優れた燃焼効率を得られ、ツキの良いレスポンスを可能にしました。

〔ライダの意志に忠実に反応し優れたコントロール性を発揮します。〕



マップとは：地図という意味、そして計画を前もって立てるという意味もあります。

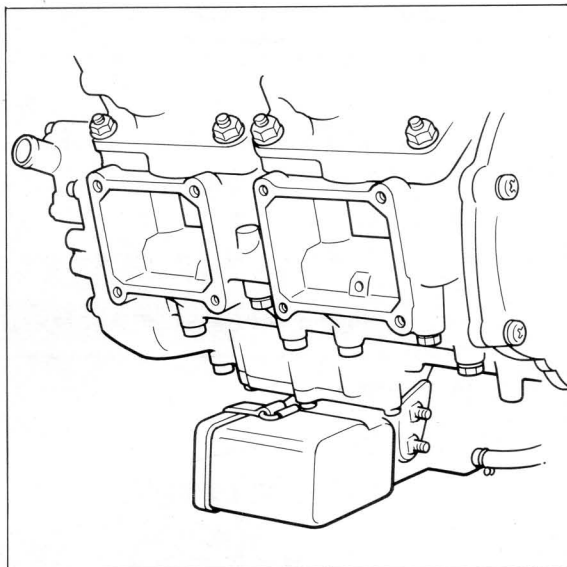
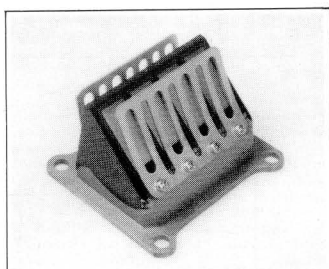
マップ制御のデジタルCDI点火方式も、CDIユニット内のコンピュータに前もってスロットル開度とエンジン回転数の関係のデータをインプットしておきます。そのデータベースと実際にエンジンが要求する最適点火時期をCDIユニット内のコンピュータでデジタル演算し進角の位置を決めています。



クランク室リードバルブ

混合気をダイレクトにクランク室内に吸入させることにより、吸気効率を大幅に高め驚異的なパワーと低・中速回転域でのトルクアップ、クイックレスポンスを実現しました。

また、8枚の樹脂製リードバルブそしてクランクの回転方向が正回転(右回り)に設定しています。

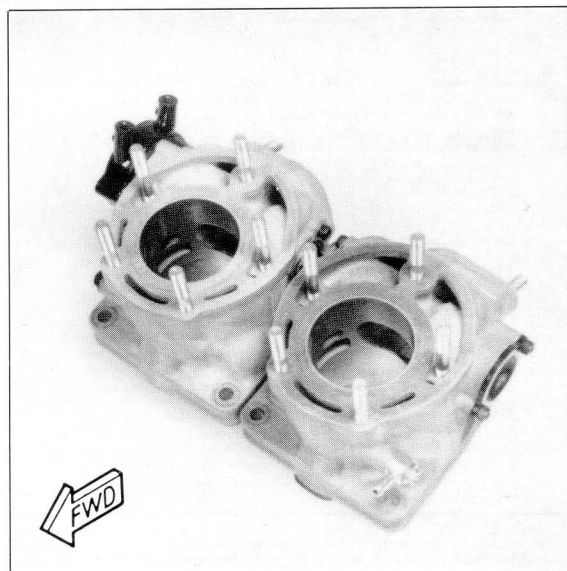


排気システム

シリンダ

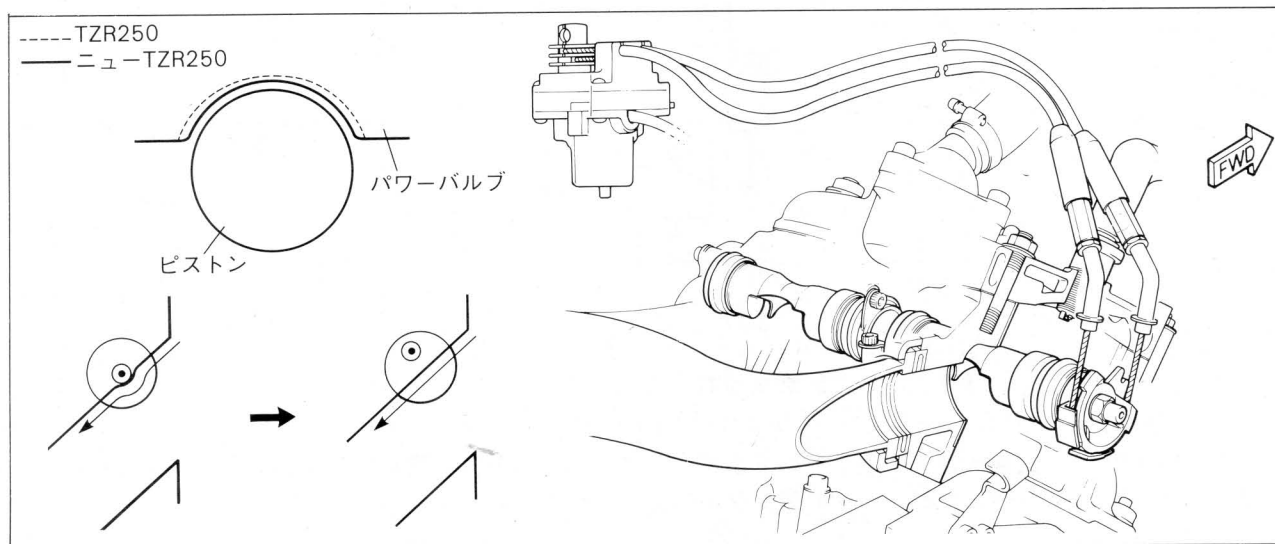
TZゆずりのセラミックコンポジットメッキシリンダにより、摺動抵抗の低減、耐久性の向上を図っています。

エンジン回転数に応じ排気タイミングを変えるYPVSにより、高効率な排気を得ています。



YPVS

エンジン回転数に応じて、排気ポートに設けられた可変バルブを回転(開閉)させ、クイックレスポンスと全回転域にわたって豊かなトルクを発揮させるシステムです。





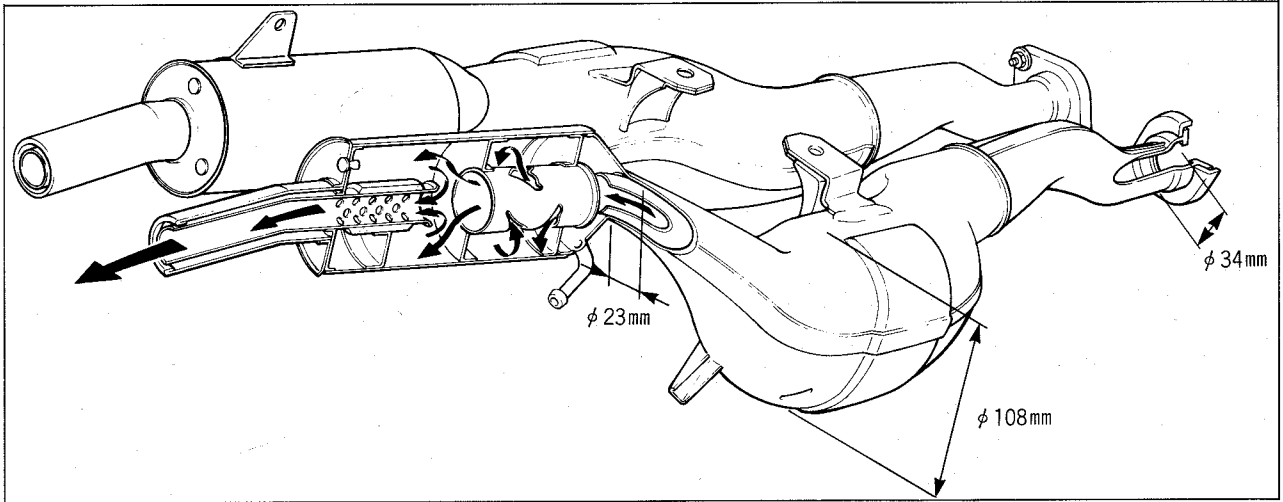
マフラ

'88TZ250で話題を集めた後方ストレート排気システムをTZR250で新たに採用しました。

この後方ストレート排気は、ほぼ一直線にまとめたマフラで管路抵抗の低減を図り、排気効率を極限まで高めました。

TZ250のマフラをベースに最高の脈動効果が得られる様に胴径 $\phi 108\text{mm}$ 、その両端の径を $\phi 34\text{mm}$ と $\phi 23\text{mm}$ に設定し、効率よく燃焼ガスの排出と新気ガスの吹き抜けを防ぐものとしています。

また、チャンバーは多段膨張反転式で優れた静粛性を保ちながら、響くサウンドはライダーに心地よく与えます。



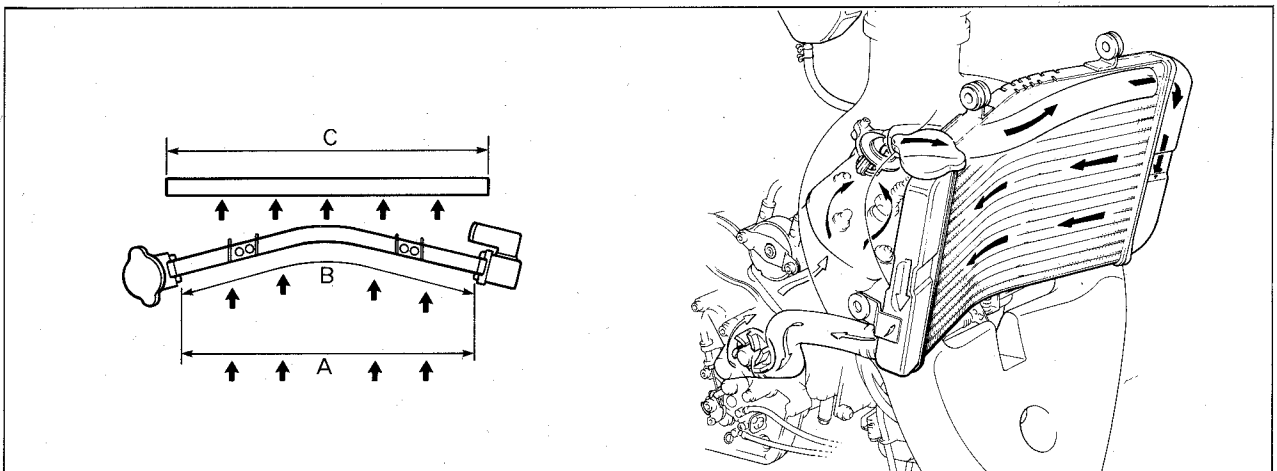
冷却システム

ラジエタ

高性能なエンジンに伴い、ラジエタをV型クロスフロータイプにして、冷却効率を大幅に高めました。

ラジエタをV型にすることにより、前面投影面積は同じでも通風面積が大幅にアップでき、冷却効率向上に寄与しています。

前面投影面積とは下図A、また通風面積とは下図Bの様になります。つまり、V型ラジエタを平坦にすると下図Cの様に大きくなり、ラジエタの面積を大きくとることができ冷却効率を高めています。



ミニQ&A

Q：V型ラジエタの冷却効率の向上率はどのくらいですか。

A：従来のTZR250比で17%の向上です。また、実際の冷却では11,200kcal/hの放熱量を確保しサーキットなどのスポーツ走行にも十分対応できるように配慮しました。

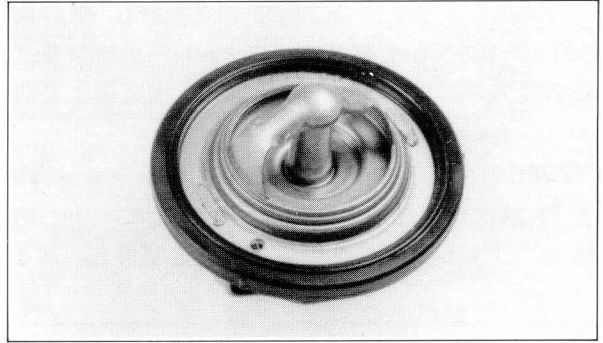


サーモスタット

走行条件下に於ける冷却水の温度コントロールをサーモスタットはおこなっています。

始動時、アイドル時は、サーモスタットが閉じて暖気時間の短縮を図っています。

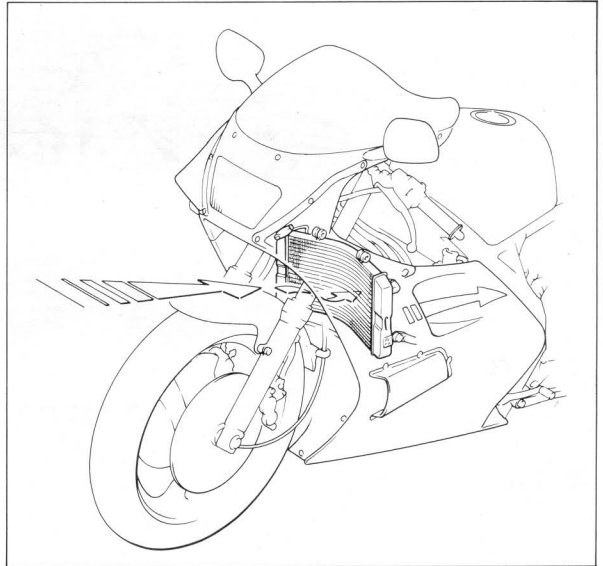
水温の上昇に伴い、サーモスタットが開きラジエタへ冷却水を導きます。



フルフェアリング

ラジエタがビックでもそれに見合う量の空気を供給しなくては十分な冷却性能が発揮されません。

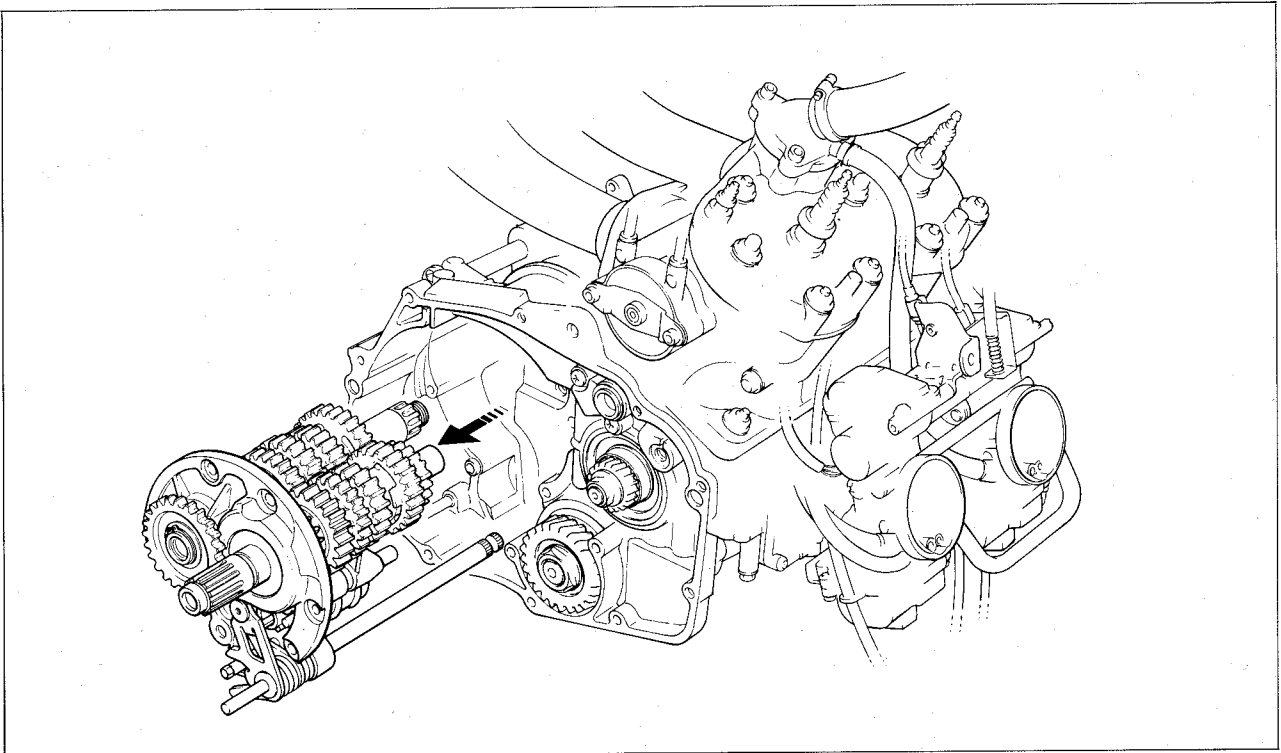
TZR250では、走行時にいかに多くの空気をラジエタに導き、そして排出される様に、フロントフェンダ、フルフェアリングの形状に流体力学をおしみなくつぎ込み、マシンが持っている優れた性能を発揮できる形状としました。





カセット式トランスミッション

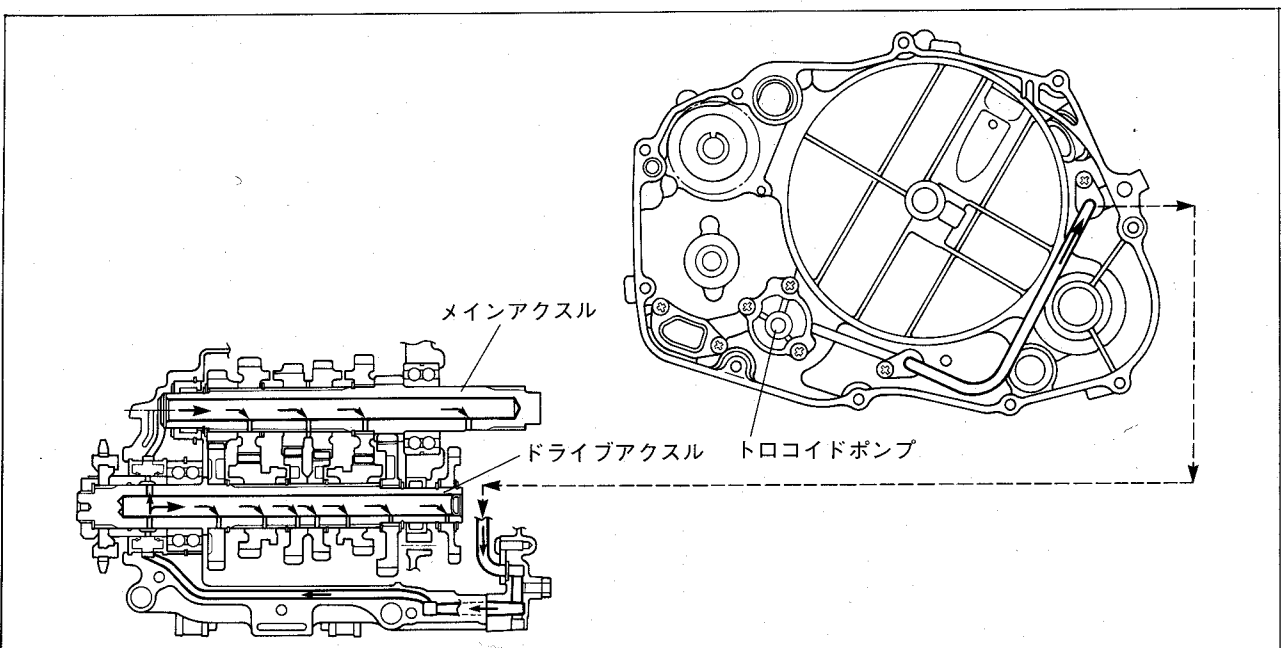
エンジンがフレームに搭載されたままトランスミッションの取外しが可能なカセット式を採用しました。サーキットなどのスポーツ走行におけるギアレシオの選択を容易にしました。



トランスミッションオイルの潤滑

オイルの潤滑は、トロコイドポンプ(減速比 $37/20 \times 30/37 = 1.500$)による強制潤滑方式(ドライサンプ)を採用しました。

トロコイドポンプはドライブアクスル、メインアクスルの通路へ直接オイルを圧送し、各ギヤを潤滑します。また、オイルの攪拌によるフリクションロスを少なくし、パワーの伝達ロスを最小限にしています。



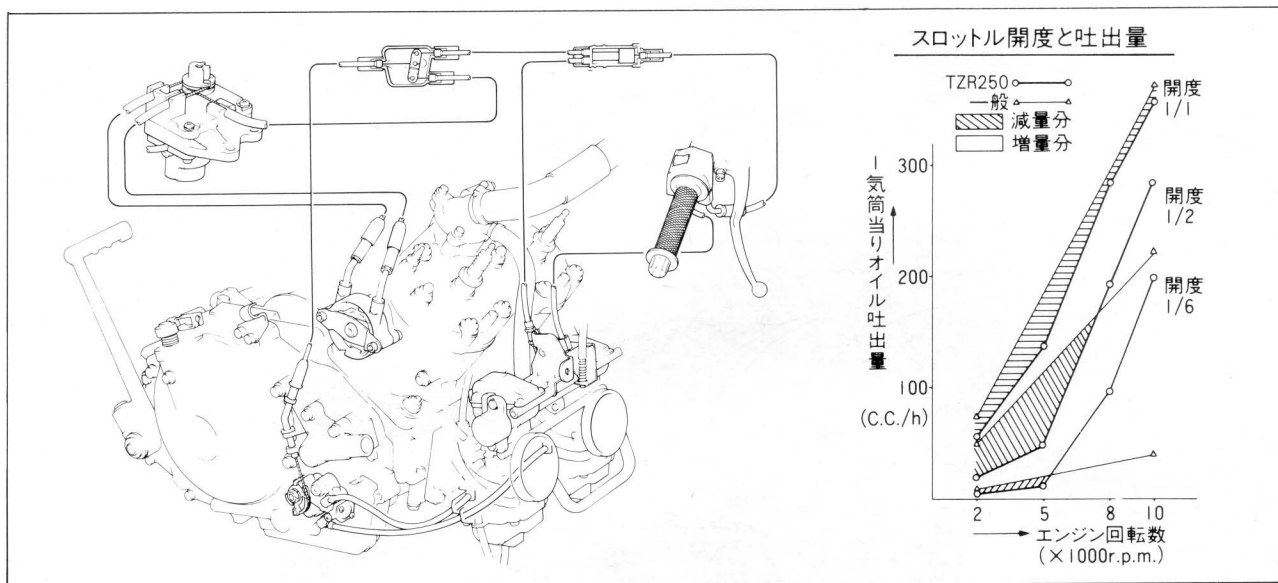
1



YPVS連動オートループオイルポンプ

キャブレタのスロットル開度とYPVSモーターと連動させることにより、オイルの供給量をスロットル開度(運転状況)とエンジン回転数に合わせてコントロールしオイル消費量の低減を図りました。

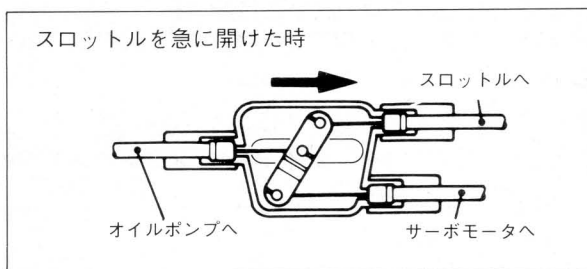
1



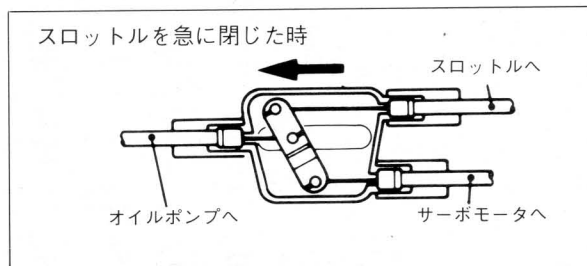
— 作 動 —

サーボモータの作動は、CDIユニットによりエンジン回転数を信号に置き換え、コンピュータがパワーバルブの開度の信号に演算し、サーボモータを駆動させ、エンジン回転に応じた排気タイミングにすると共に、オイルポンプを連動させ、運転状況に合ったオイル量を決定します。

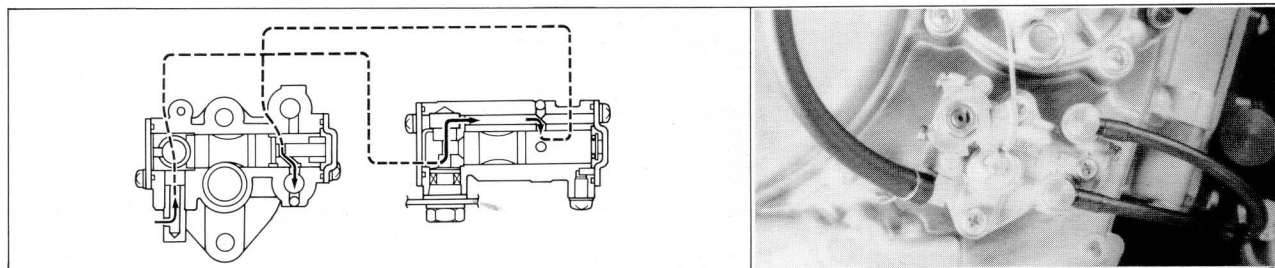
低回転域では、スロットルを急に開いても、YPVSが作動しないため、オイルポンプは最大ストローク状態になりません。そのため過剰なオイルの供給を防ぎオイルの消費量の低減を図っています。



高回転域で、スロットルを急に閉じても、YPVSが開いた状態のため、オイルポンプは最小ストローク状態になりません。そのため最小ストロークの設定を小さくすることができ、低回転域でのオイル消費量を低減することができます。



オイルポンプは小型で高性能な新設計 オイルポンプを採用しました。





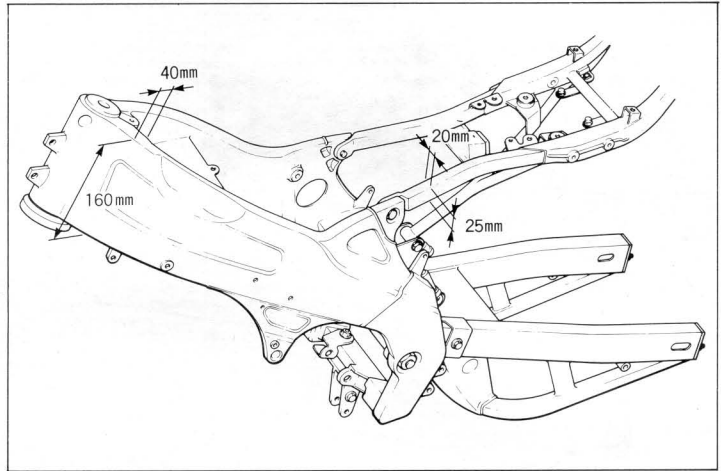
乗りやすさ。そのテーマをみごとに実現！

アルミデルタボックスフレーム

ライディングポジションのベストな条件は乗り易いこと、それは、マシンとライダーが一体になることです。そしてエンジンのパワーをあますところなく路面に伝えるフレームには、高剛性でしかも軽量でなければなりません。

TZR250のメインフレームの幅160mm×40mmのアルミデルタボックス形状でサーキットなどのスポーツ走行でも横曲げ、縦曲げ、ネジリに対して十分な剛性の確保と共に、中空形状(箱型)で大幅な軽量化を図りました。また、前後重量配分が50:50になる様にフレームレイアウトを設定すると共に、デルタリヤアームと相まった高荷重の旋回時でも十分な剛性の確保を図りました。

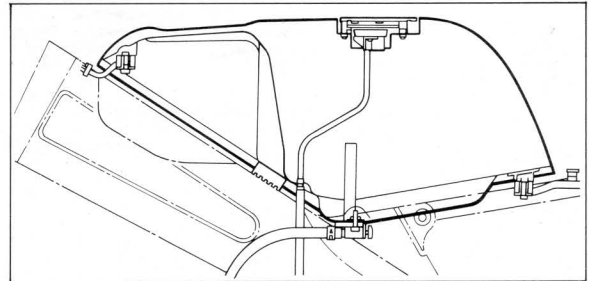
リヤフレームの幅25mm×20mmの角形断面形状にし、ボルトオンタイプで、サーキットなどのスポーツ走行でも使い易いものとなりました。



フュエルタンク

マスの集中化を図るために、燃料がタンク中央に集まる形状のフュエルタンクを採用しました。

また、メンテナンスを配慮しサブコックを装備しました。



フロントフォーク

新開発のパワーユニットと完成度をさらに増したスタイリングにマッチする様に優れたフロントフォークを採用しました。

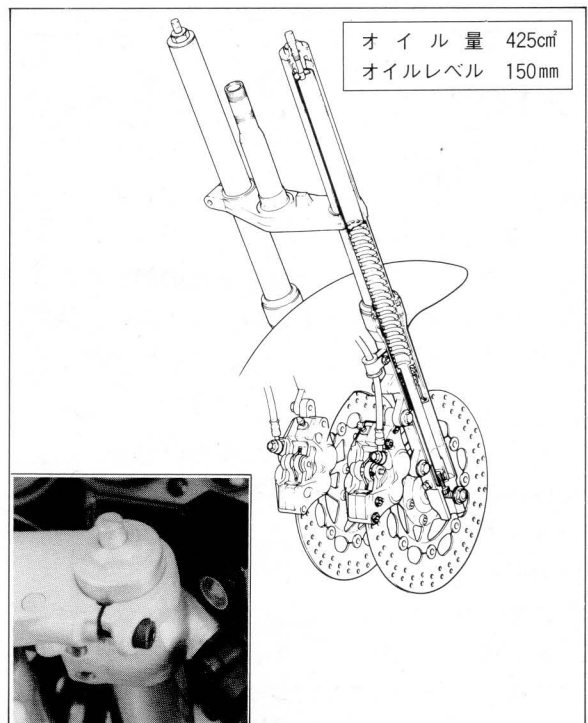
従来のTZR250に比べ、キャスト角を $26^{\circ}00'$ → $25^{\circ}00'$ にまた、トレールを96mm→94mmに設定することで、クイックでしかもコントローラブルなハンドリング性能をさらに向上しました。

フロントフォークのインナチューブ径を $\phi 39\text{mm}$ → $\phi 41\text{mm}$ にサイズアップして、より高い剛性の確保とフォークセッティングの見直しにより、初期作動のスムーズな優れた乗り心地と腰の強さの両立をさらに高めました。

また、走行条件およびライダーに合わせ5段階のスプリング初期荷重調整機構を装備しました。

スプリング初期荷重セッティング表

標準値	2段
一般走行	2段
高速走行	2段
サーキット走行	3~4段





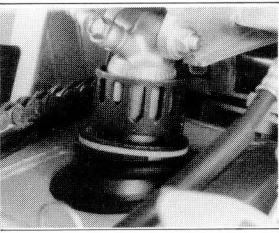
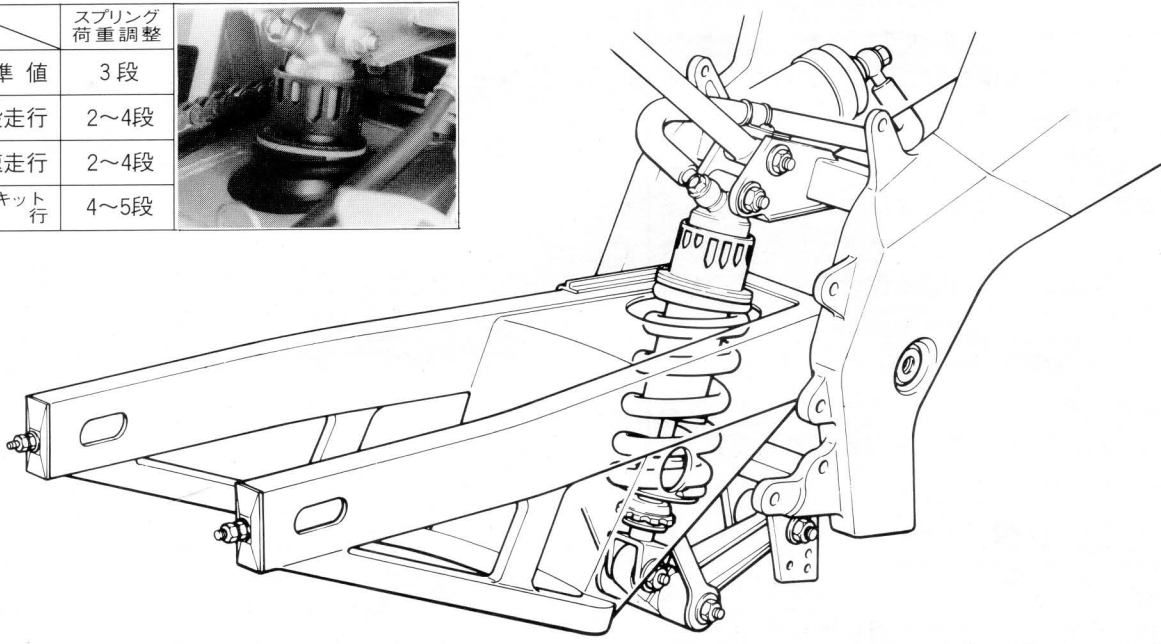
リヤサスペンション

TZと同タイプのサブタンク付ビルシュタインタイプのリヤクッションを組合わせたリンク式モノクロスサスペンションを採用し、優れた路面追従性とトラクションの確保をしました。

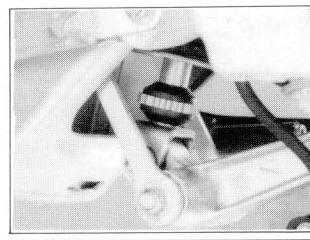
サブタンクを設けることにより、リヤショックアブソーバのオイル室とガス室容積を増加し、サーキットなどのスポーツ走行に対しても性能の安定性を図りました。

また、減衰力調整機構を設け、セッティングの自由度の増大を図りました。

	スプリング 荷重調整
標準値	3段
一般走行	2~4段
高速走行	2~4段
サーキット 走行	4~5段

	減衰力調整
標準値	15段
一般走行	14~16段
高速走行	14~16段
サーキット 走行	12~13段



ブレーキ

フロントブレーキ

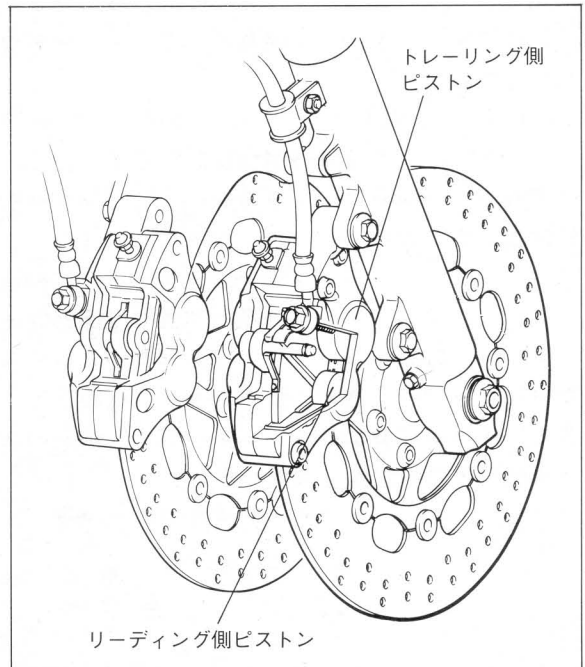
大径φ 298mmのフローティング・ダブルディスクブレーキを採用しました。

また、異径4ポットキャリパーとの組合せによる、強力なストッピングパワーを発揮すると共に、絶妙のブレーキタッチを実現しました。

異径ピストンの効用

パッドはディスク回転方向に細長い場合、パッドがディスクに引っ張り込まれようとする為にリーディング側程パッドの面圧が高くなり易くなります。その結果、パッドの面が有効に使いにくくなります。

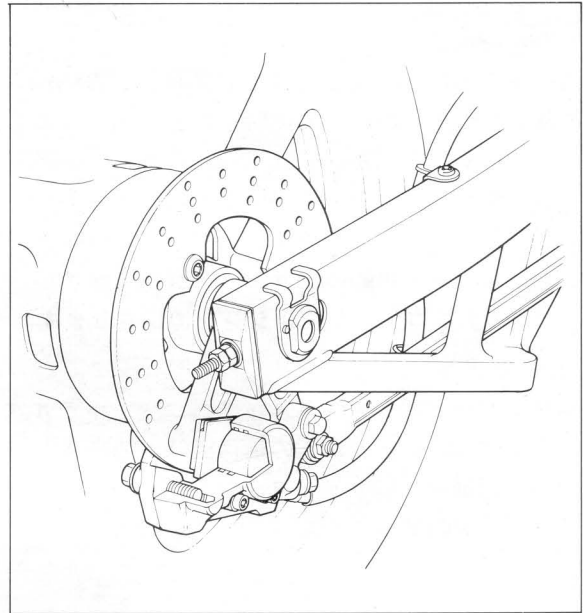
そこで、リーディング側ピストン径をトレーリング側ピストン径に比べ小さくして、パッドの動的圧力を均一化させスムーズなストッピングパワーを発揮させるものです。





リヤブレーキ

φ 210mmのシングルディスクブレーキを採用しました。
キャリパーはフローティング方式を採用し、コントロール性を向上させています。



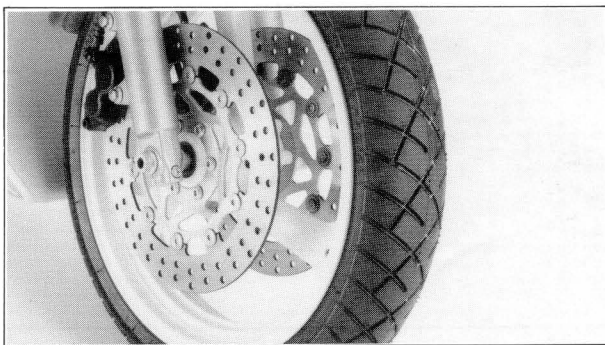
タイヤ

フロントタイヤ

110/70 R17 54Hの偏平ラジアルタイヤを装備しました。

フロント側に求められるタイヤの性能は、グリップ、ハンドリング、ブレーキ性能を高水準で発揮できるものでなければなりません。

TZR250に採用したタイヤは優れたグリップと軽快なハンドリングを両立させたものを採用しました。

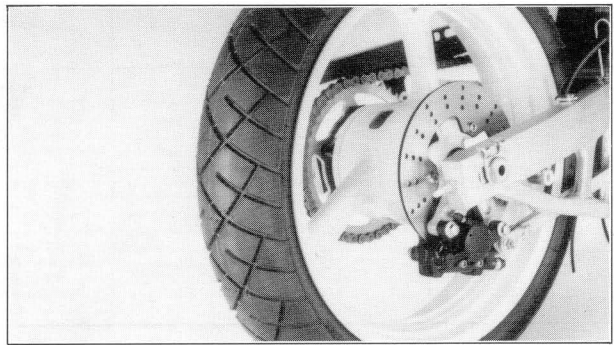


リヤタイヤ

140/60 R18 64Hの偏平ラジアルタイヤを装備しました。

リヤ側に求められるタイヤの性能は、トラクショングリップ、ブレーキ性能を高水準で発揮できるものでなければなりません。

TZR250に採用したタイヤは優れたグリップ、トラクションと高い旋回性をもったものを採用しました。

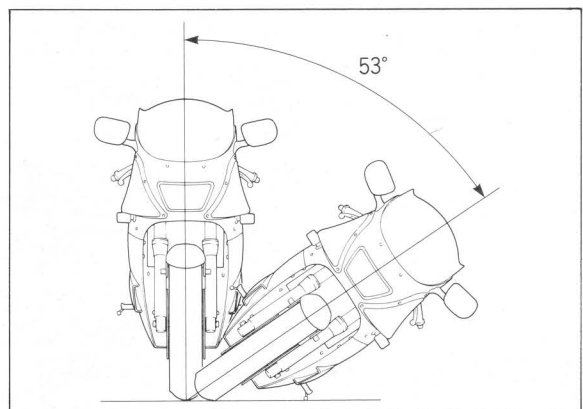


バンク角

実際の走りで重要な意味を持つ静的バンク角53°に設定しました。

走行条件下には、ツーリング、あるいはサーキットなどのスポーツ走行があげられます。

高荷重の旋回時でも接地しにくい様に、フレームの構造、フルフェアリングの形状、ペダル位置などを徹底的に解析し、余裕のバンク角にしました。





始動装置

始動時の飛び出し防止とサイドスタンドの格納忘れを防止するため、始動装置を採用しました。

注意：サイドスタンド使用時、ニュートラルにしないと、キックしても点火はしません。従ってエンジンは始動しません。

サイドスタンドを格納するとニュートラル以外でもクラッチレバーを握りキックすれば点火されエンジンも始動します。

エンジン始動後、サイドスタンドを使用していると、クラッチレバーを握りチェンジを入れた瞬間に点火をカットしエンジンを停止させます。サイドスタンドは確実に格納してから発進の操作をしてください。

構成：サイドスタンドスイッチ、ニュートラルスイッチ、CDIユニット。

作動：CDIユニットからの信号回路が遮断されると点火をカットします。

始動回路にサイドスタンド、ギヤポジションの各操作を設けて、それぞれの状態に応じて、CDIユニットの点火の制御をおこないます。

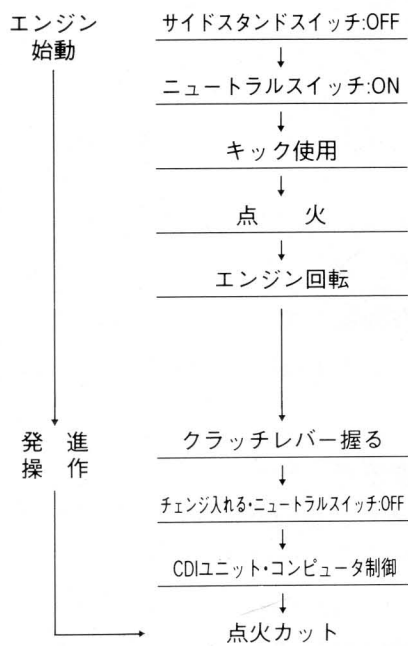
始動と発進の条件

サイドスタンド	チェンジ	点火		
使用時	ニュートラル時	○		<p>①接触子 ③プランジャ ②ローラ ④リタンスプリング</p>
	ニュートラル以外	×		
格納時	ニュートラル時	○		
	ニュートラル以外	○		

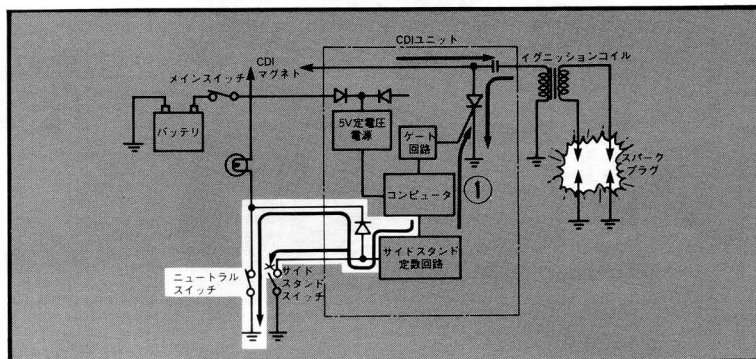


作動説明 [CDIユニットからの信号回路が遮断されると点火をカットします。]

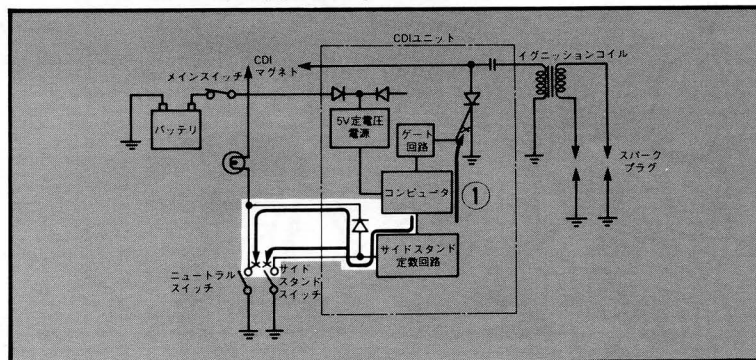
1. サイドスタンド使用時



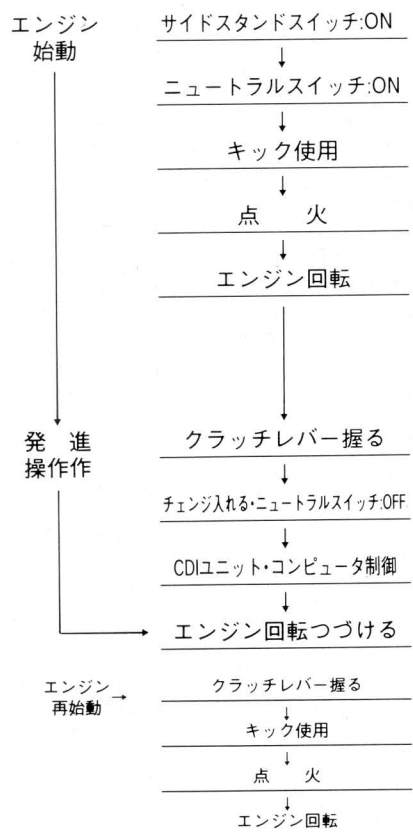
- ニュートラルスイッチがONのため、CDIユニット内の回路①が成立し、点火します。



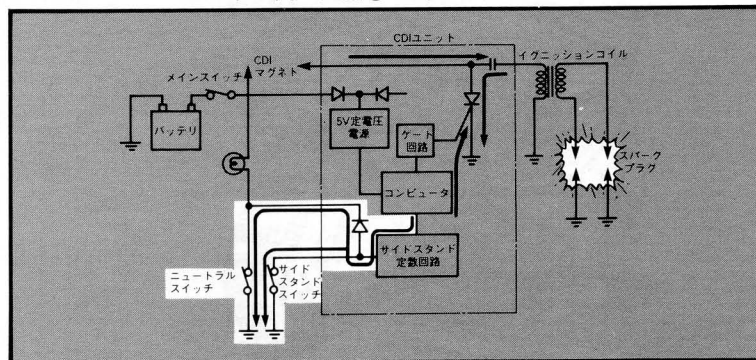
- ニュートラルスイッチ、サイドスタンドスイッチがOFFのため、CDIユニット内の回路①が成立しなくなり、点火をカットします。



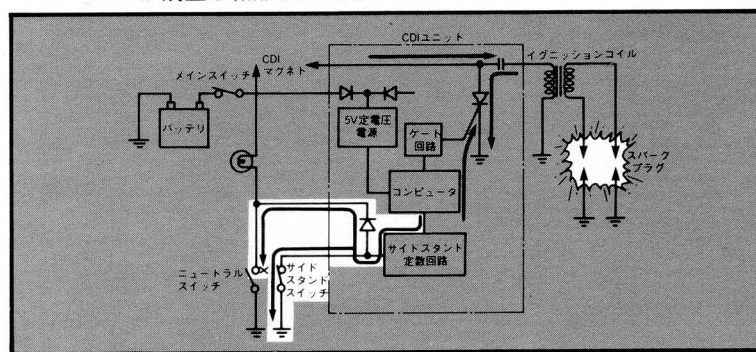
2. サイドスタンド格納時



- ニュートラルスイッチ、サイドスタンドスイッチがONのため、CDIユニット内の回路①が成立し、点火します。

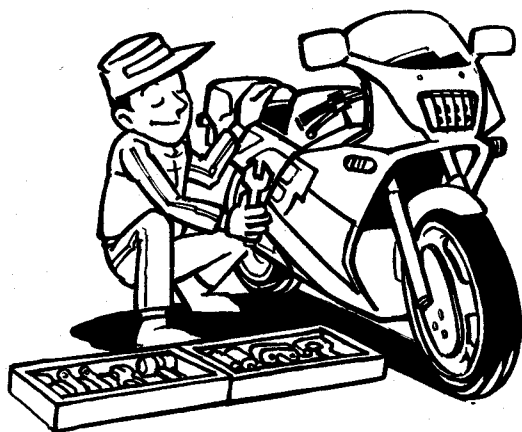
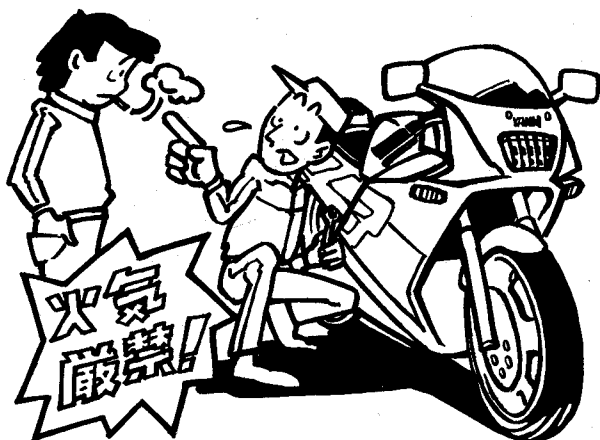


- サイドスタンドスイッチがONのため、CDIユニット内の回路①が成立し、点火します。





1



整備上の注意事項(1)

1. 洗車

車体、エンジンの泥、ほこり等をよく落とし、作業中内部に混入しない様にする事。

注意

- フロントウインド、メータレンズは樹脂製です。アルコール、シンナ、ガソリンや有機性溶剤を使用して清掃しないこと。
- 清掃は柔らかい布かスポンジを使用して、水または中性洗剤を使用して水で洗うこと。
- 洗車時はサイレンサテールパイプ部に栓等をしてから行うこと。
- 洗車時にアルカリ系の強い洗剤を使用するとアルミフレームの表面の酸化皮膜が溶け、白く変色する事があります。洗剤使用時には洗剤の種類及び注意事項を十分確認の上使用すること。

2. レーシングスタンド

- ①エンジンを始動して後輪を回転させないこと。
- ②レーシングスタンド使用中は乗車しないこと。スタンドの変形、破損の原因となります。

3. 火気厳禁

整備工場には火気を絶対に近づけないこと。

4. 正しい工具

部品に損傷を与えない様に、特殊工具の必要な箇所には必ず特殊工具を使用する。また適切な工具と計器に依る適正な作業を実施すること。(スパナ等は出来るだけ避け、メガネ、ボックスレンチ等を使用すること。)

5. 消耗部品

ガスケット(パッキン)、Oリング、コッタピン、サークリップ、ロックワッシャ等は新品と交換すること。

6. 純正品

使用する部品や油脂類は必ずヤマハ純正品、及び推奨品を使用し、他のものは使用しないこと。



7. ワックス

プラスチック部品や樹脂塗装部品はコンパウンド入りの自動車用ワックスを使用すると変色、色落ちします。

コンパウンドのっていないヤマハ純正ワックス(ユニコンカークリーム)を使用すること。

8. 密閉タイプバッテリーの取扱い

(YUASA製バッテリーを説明しています。)

電解液の注液方法

お願い

- 必ずバッテリーを車両から降して注液してください。
- バッテリーと同一形式か確認しご使用ください。

1 電池の用意

バッテリーを水平な所に置き「封口シール」を取除く。

2 電解液の用意

ビニール袋より取り出し、カバー兼密封栓(電池のフタに使用する)を取外す。

注意：シール部をはがしたり、鋭利な物で穴をあけないでください。

3 電池への注液

電解液容器を逆さにし、6ヶ所のシール部を注液口に垂直に当ててシールを破る様、1度に強く押し込んでください。6ヶ所より泡が出て注液が始まります。

注意：電解液容器を斜めに押し込むと注液出来ないことがあります。

4 注液の確認

6ヶ所それぞれから泡が出ていることを確認し、そのままの状態20分以上放置してください。

注意：もし、泡の出ない所があれば(容器は取外さない)容器の底を軽く2~3度たたいてください。泡が出て注液出来ます。

5 注液完了の確認と液容器の取外し

注液が完全に行なわれたか確認し、液が残っていたら上記同様たたいて入れてください。注液が完了したら、容器を静かに抜いてください。

6 密封栓の取付け

カバー兼密封栓を注液口へ完全にはめ込む。(密封栓がバッテリー上面と同じ高さになるまで)

密封栓(電解液容器カバーを使用)

両手で水平に押し込む

以後は密封栓を外し、補水補液を絶対にしないでください。

充電方法

- このバッテリーは密閉式です。密封栓は充電時でも外さないで下さい。
- 補水は絶対しないで、充電時は12Vで下記電流と時間を守ってください。

標準：0.4A×5時間又は急速：4A×30分間

このバッテリーは12V用で液量点検及び補水不要な密閉式です。次の点に特にご注意ください。

- 充電時等いかなる場合においても密封栓は絶対に外さないで下さい。(密封栓を外さない代わりにガス排気弁を設けてあります)
- 充電状態の点検は、デジタルボルトメーターまたはバッテリーテスタを用い電圧測定により行って下さい。(規定電圧：12.8V以上)
- この電池は密閉タイプバッテリー(装填車以外)には使用しないで下さい。

バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取扱いを誤ると爆発や火傷をすることがあります。

充電時等に必ず守っていただきたいこと

- 火気厳禁—ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気は危険(爆発)
- バッテリー液(希硫酸)に注意—皮膚、目、衣服につくと危険(やけど、失明等)

必ず守っていただきたいこと

- 皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗う。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受ける。

DANGER
子供の手の届く所に置かないでください。
KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

注意 電解液は必ずバッテリーメーカーの指定するものを使用すること。

YT4(L)-BS用 電解液

YUASA

ECS-0.18N

注液方法

注液に際しては、反対側の電解液取扱説明書を必ずお読み下さい。

取扱い上の注意

- この電解液は、**【医薬外用劇物】**である**【希硫酸】**です。
- この電解液をバッテリーに注入するときは、皮膚についたり、服に入ったりしないよう十分注意して下さい。
- もし皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗後石鹸でよく洗い流して下さい。
- 万一服に入ったときは、直ちに流水で十分に洗い流し医師の治療をうけて下さい。
- バッテリーに注入し、容器に電解液が残ったとき(貯量分も含む)は、希硫酸ナトリウム(薬毒)を浴の出なくなるまで入れてから、多量の水で薄めてすて下さい。
- 内容物が飛散、漏出ししないよう十分注意して保管して下さい。
- 万一盗難があったときは、直ちに警察署に届出下さい。

注意

この電解液は、YT4(L)-BS形以外に使用しないで下さい。

販売店の皆様へ

本品は、「毒物及び劇物取締法」の規定により、販売店の登録を受けていない店舗では、このまま販売してはけません。従って無登録店舗では、電解液をバッテリーに注入して、液入充電液バッテリーにしてから販売して下さい。

きけん

販売元
湯淺電池株式会社
大阪府高槻市城西町6番6号

医薬外用劇物

希硫酸

- 比重(20℃)1.32
- 容量 0.18ℓ
- 硫酸 41%

製造元

長沢産業株式会社
埼玉県川口市上青木西4-2-4
電話 0482-66-3366



9. ケガ、やけど

整備中、ケガをしない様、またエンジン、エキパイ、マフラ等で火傷する事のない様に、十分注意して作業すること。

10. 分解、組立て上の注意

- ① 分解を行なう場合、必要な部品については分解中に点検、測定をしてその記録を残し組付け時の参考とする。
- ② 各部品を混同、紛失しない様に、各セクション毎に整理する。
- ③ エンジン、ミッション部品は、分解後洗油で洗浄し、エアで吹くこと。
- ④ 組立は、各部品の修正結果および分解前のデータを確認しながら作業を進める。
- ⑤ 組付け中の各部品にほこりや異物が付着しないようにする。
- ⑥ 各セクション毎に、作動を確認し、組付けて行く。
- ⑦ 摺動部分には、オイルを塗布する。
- ⑧ 規定の締付トルクを守ること。
- ⑨ 作業を2人でする場合は、相互の連絡を密にする。

11. 冷却水

冷却水を車に付着したまま放置すると塗装、メッキが損傷するので早目に水洗すること。

クーラントの取扱い上の注意

クーラントは毒性がありますので取扱いには充分注意すること。

● 目に入った場合

水で充分に洗い流してから医師の治療を受けること。

● 皮膚や衣類についた場合

すみやかに水洗いしたのち石鹼水で洗うこと。

● 飲んだ場合

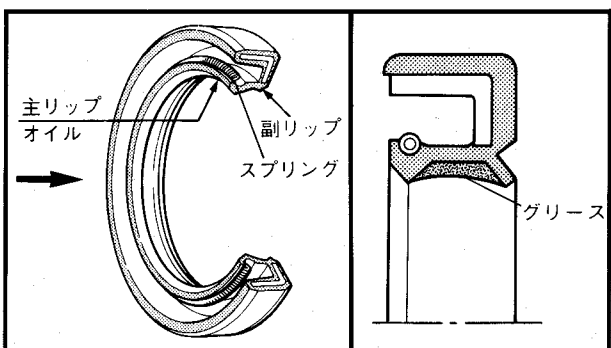
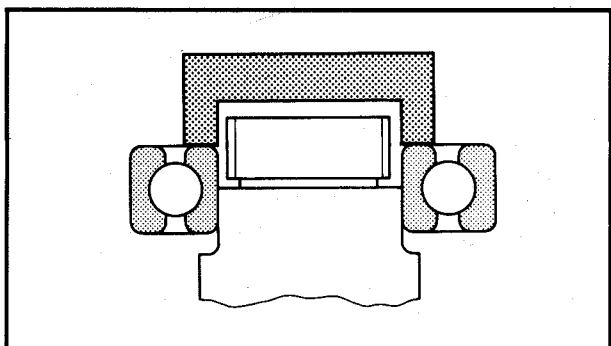
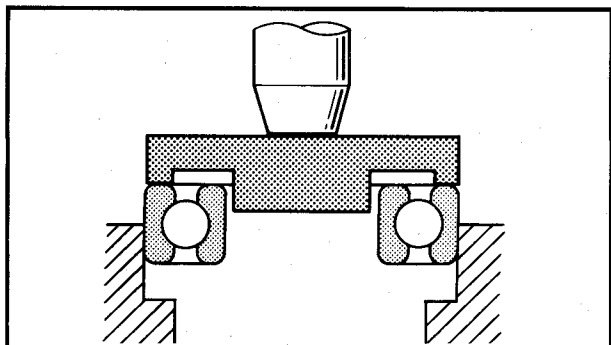
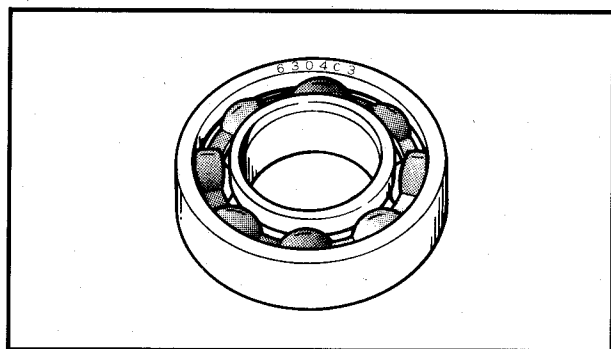
ただちにおう吐させ医師の治療を受けること。



整備上の注意事項(2)

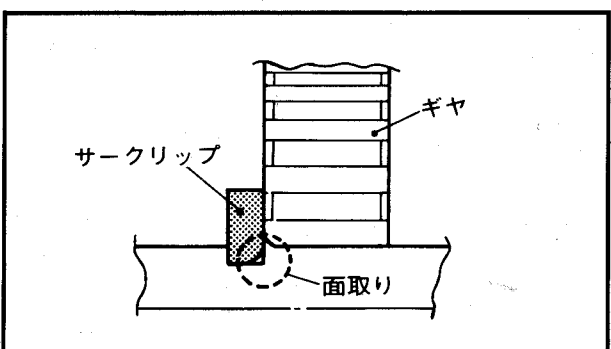
ベアリングの組付け方

- ベアリングの組付け方向はメーカー印、サイズ記号の記入されている面を組付側(外側)に向けて組付けます。
- ベアリングをケースに打込む時はアウトレースに力を加えて平行に打込みます。
- ベアリングをアクスル(軸)に打込む時はインナレースに力を加えて平行に打込みます。



オイルシールの組付け方

- オイルシールの組付け方向は主リップを油室側(シールする対象側)に向けて組付けます。
- オイルシールリップ部に必ずグリースをうすく均一に塗布して組付けます。



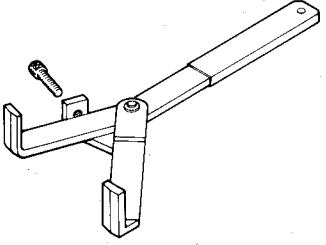
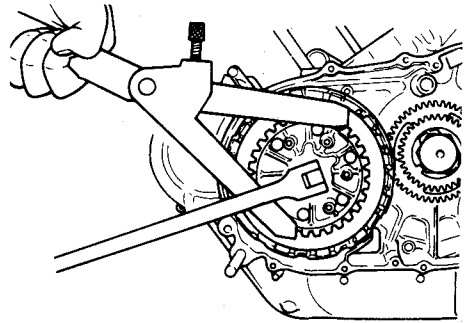
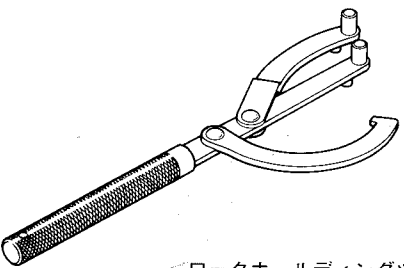
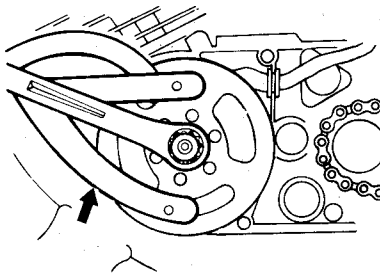
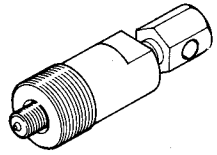
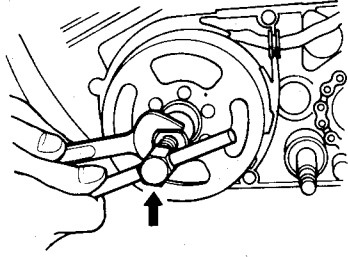
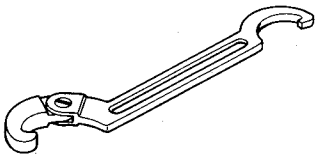
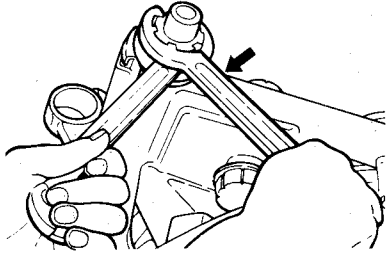
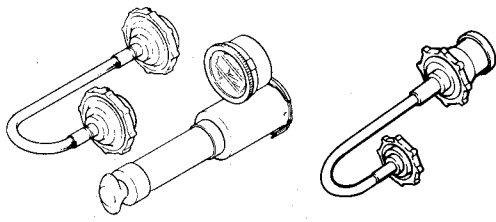
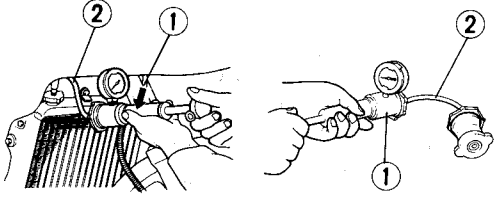
サークリップの組付け方

- サークリップの組付け方向はサークリップの面取り側を内側に向けて組付けます。
- サークリップを必要以上に広げないこと。

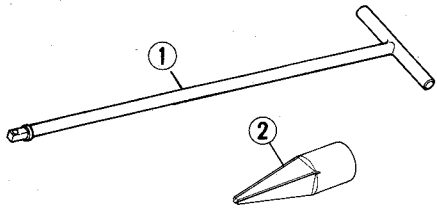
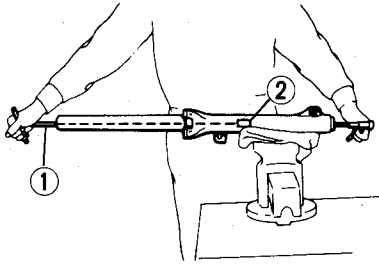
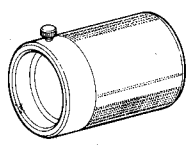
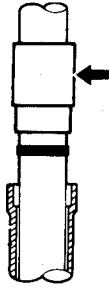
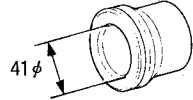
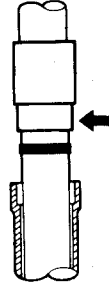
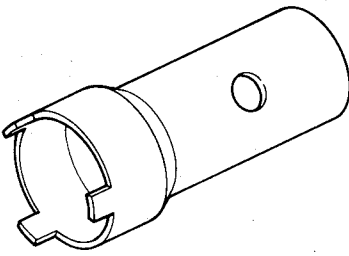
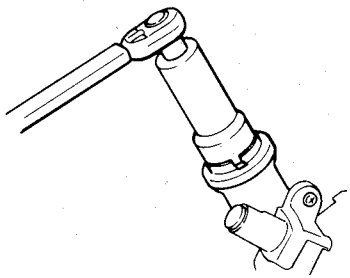
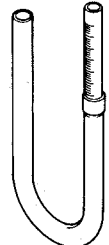
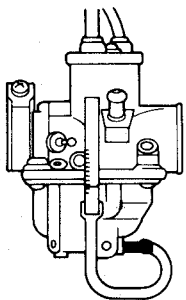


特殊工具・機器

1

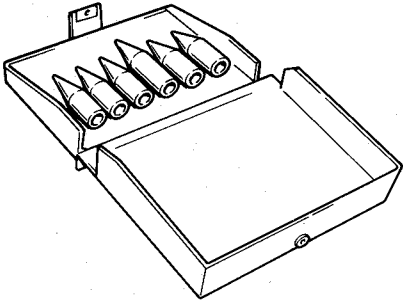
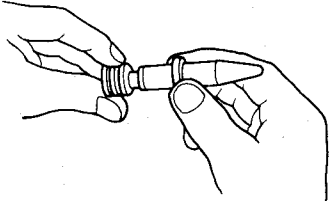
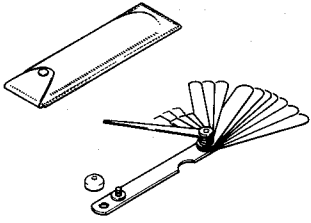
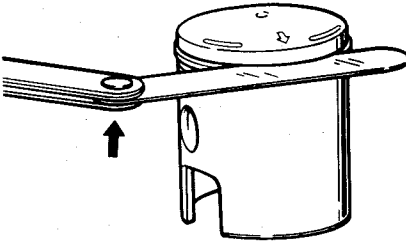
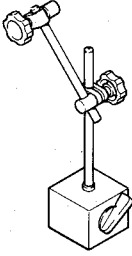
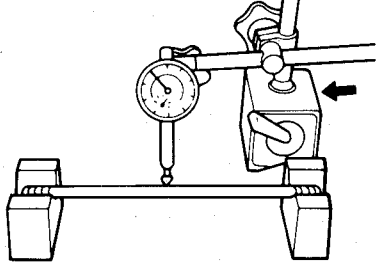
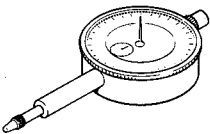
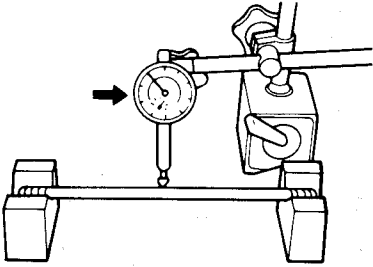
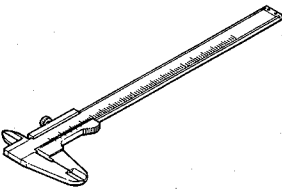
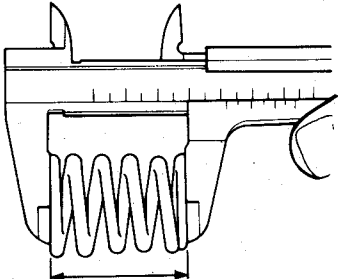
名 称	使 用 方 法 例	使 用 頁
 <p>クラッチホルダ 90890-04086</p>		<p>P4-10 P4-55</p>
 <p>ロータホールディングツール 90890-01235</p>		<p>P4-14 P4-48 P4-55</p>
 <p>マグネットプーラ 90890-01189</p>		<p>P4-14</p>
 <p>ステアリングナットレンチ 90890-01268</p>		<p>P3-22 P7-40 P7-43</p>
 <p>① ラジエタキャップテスタ 90890-01325 ② ラジエタキャップテスタアダプタ 90890-01352</p>		<p>P3-13 P3-14</p>



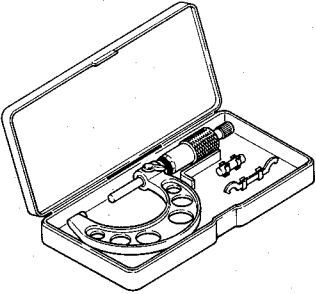
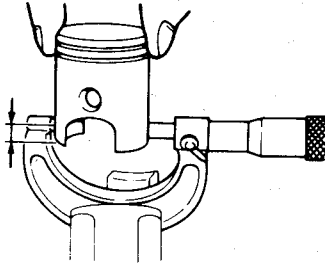
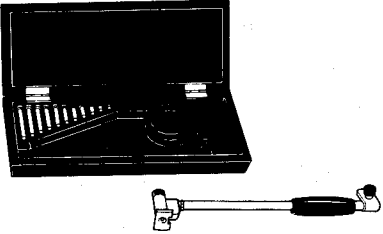
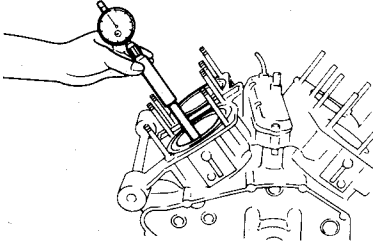
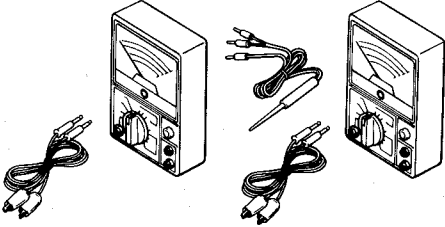
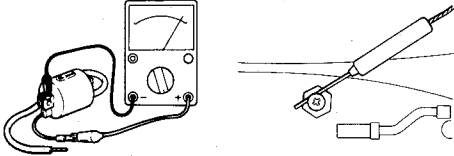
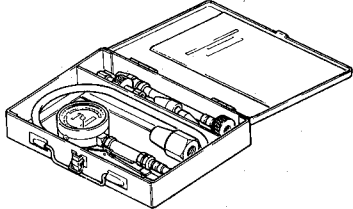
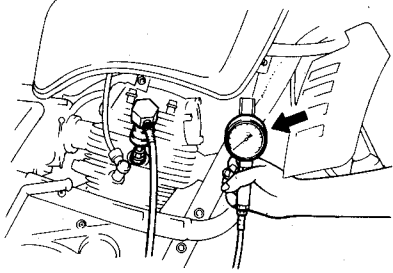
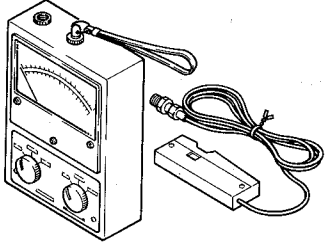
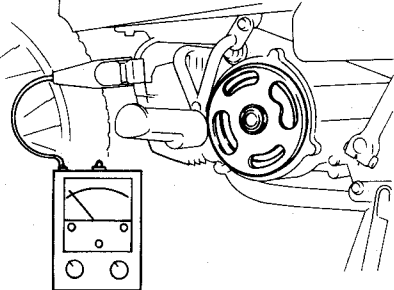
名 称	使 用 方 法 例	使 用 頁
 <p>①フォークシリンダコンプリートハンドル 90890-01326 ②ハンドルアダプタ 90890-01432</p>		P7-30
 <p>フロントフォークオイルシール圧入ウエイト 90890-01367</p>		P7-32
 <p>アダプタ 90890-01381</p>		P7-32
 <p>ステアリングナットホルダ 90890-01385</p>		P7-43
 <p>フュエルレベルゲージ 90890-01312</p>		P6-11



1

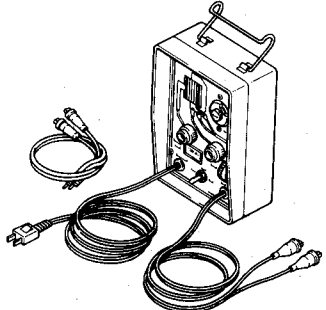
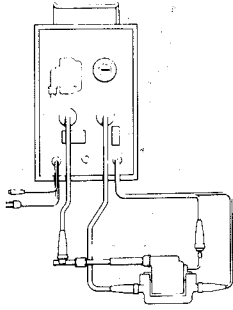
名 称	使 用 方 法 例	使 用 頁
 <p>シリンダカップインストラセット 90890-01996</p>		P7-24
 <p>シックネスゲージ 90890-03079</p>		P4-20
 <p>マグネットベース 90890-03019</p>		P7-3 P7-31
 <p>ダイヤルゲージ 90890-03097</p>		P7-3 P7-31
 <p>ノギス 90890-03005</p>		P4-23

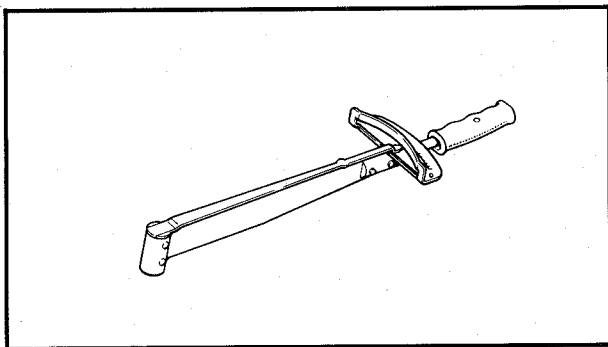


名 称	使用 方 法 例	使用 頁
 <p>マイクロメータ 0—25mm＝ 90890-03006 25—50mm＝ 90890-03007 50—70mm＝ 90890-03008</p>		P4-19
 <p>シリンダゲージ 90890-03017</p>		P4-18
 <p>ポケットテスタ 90890-03112 温度ブローフ付ポケットテスタ 90890-03132</p>		P8-6～8-9 P8-14,15 P8-20～8-23 P8-27 P8-35
 <p>コンプレッションゲージ 90890-03081</p>		P3-9 P3-10
 <p>エンジンタコメータ 90890-03113</p>		P3-8 P8-14

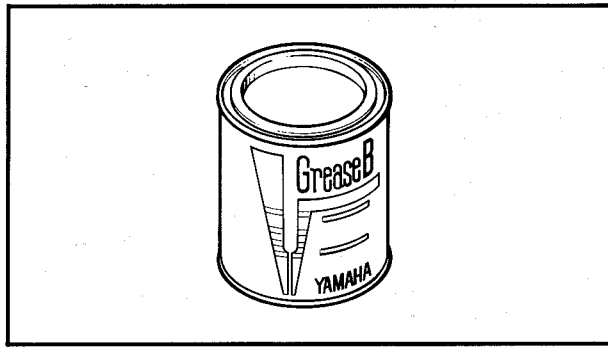


1

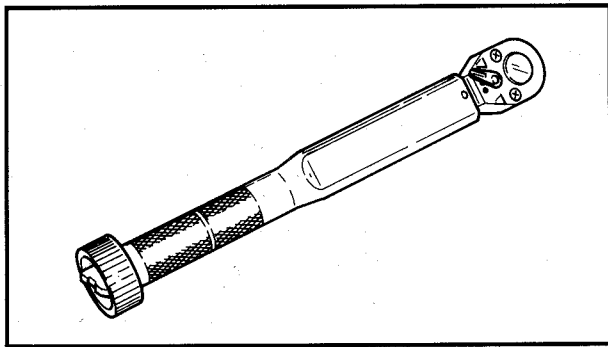
名 称	使 用 方 法 例	使用頁
 <p>コイルテスタ 90890-03074</p>		<p>P8-8</p>



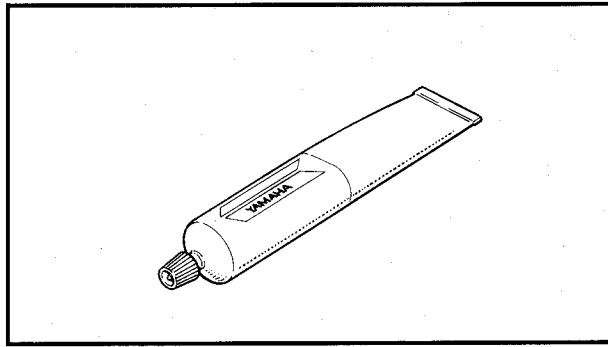
F型トルクレンチ 90890-05006



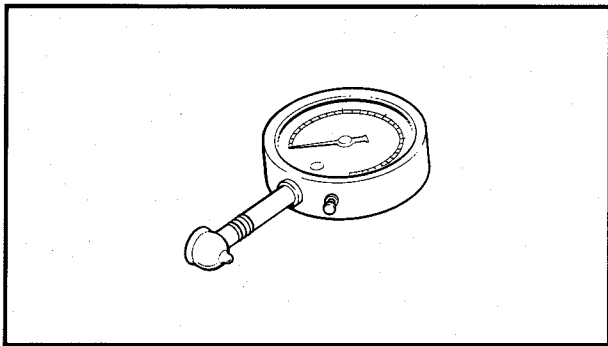
ヤマハグリース(B) 90890-69916



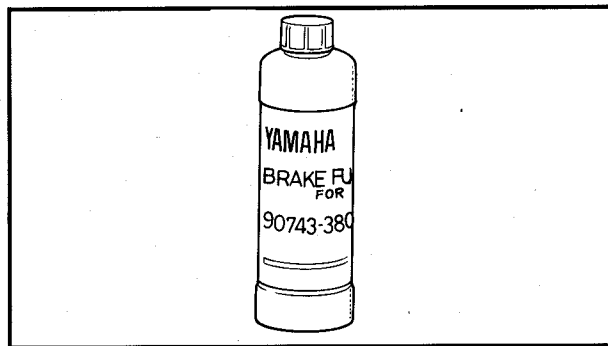
QL型トルクレンチ(ヤマハ推奨品) 450.1800



ヤマハボンド1215 90890-85505



タイヤゲージ 90890-05098



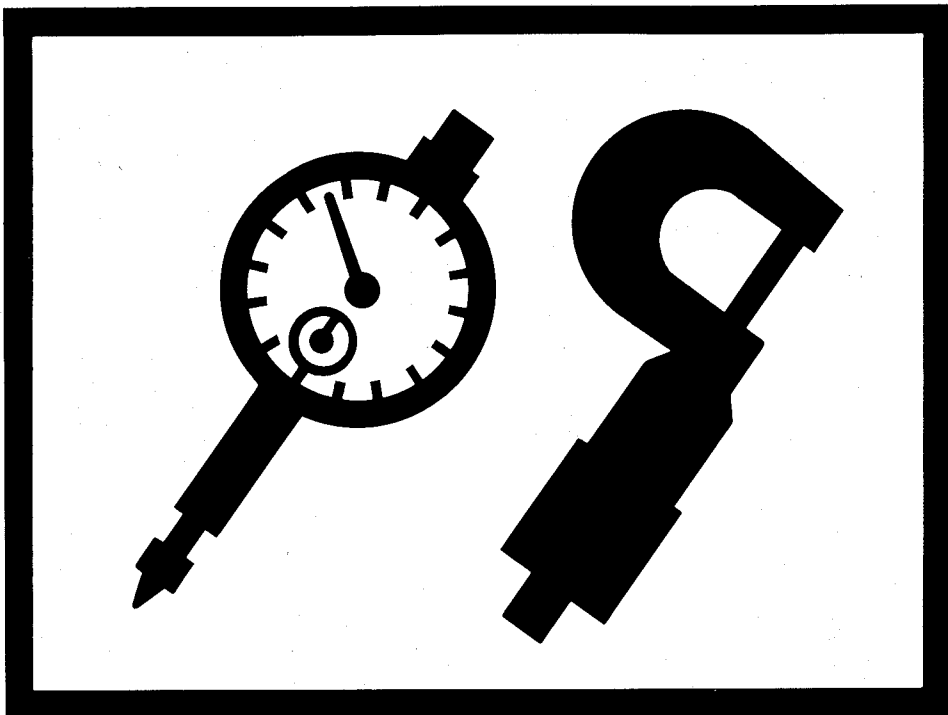
ヤマハブレーキフルード(DOT4) 90743-38001



第2章

サービスデータ編

2





主要データ

このデータは、日常の点検、調整等で使用頻度の高いものを抽出しました。

このデータ以外は本文中のデータまたは仕様諸元を参照ください。

ミッションオイル量	
通常交換時	900cm ³
オーバーホール時	950cm ³

オートループポンプ	
合わせマーク	全開時プーリー切欠き部 $\text{\textcircled{D}}$ マーク

冷却水量	
全容量	1.63 l
ラジエタ容量	0.56 l

フュエルタンク容量	
全容量	16 l
予備容量	約3 l

キャブレタ	
型式	TM32SS
ボア	ϕ 32
メインジェット	#180
ジェットニードル	6L02-63-2
クリップ段数	2
H寸法	18.9~20.9mm
フュエルレベル	5~7 mm
アイドル回転数	1250rpm

フロントブレーキ	
ブレーキレバーの遊び	2~5 mm
ディスクの厚さ	5 mm

リヤブレーキ	
ブレーキパダル取付高さ	50mm
ディスクの厚さ	5 mm

フロントフォーク	
オイル量	425cc
オイルレベル	インナチューブ上端より150mm
フォークスプリング自由長	293.7mm

ドライブチェン	
たわみ量	30~40mm
サイズ	DID520V2
駒数	112

クラッチ	
クラッチレバーの遊び	10~15mm

1次減速歯数・比	
歯数	61/25
減速比	2.440

2次減速歯数・比	
歯数	43/14
減速比	3.071

タイヤ空気圧		
1名乗車	前後	2.00kg/cm ²
	前後	2.25kg/cm ²
2名乗車	前後	2.00kg/cm ²
	前後	2.50kg/cm ²
高速走行(1名)	前後	2.00kg/cm ²
	前後	2.50kg/cm ²

タイヤサイズ	
前	110/70R17 54H
後	140/60R18 64H

バッテリー	
型式	YT4L-BS
容量	12V3Ah

スパークプラグ	
型式	BR8ES、BR9ES、BR10EV
プラグギャップ	0.7~0.8mm

イグニッションコイル抵抗値	
1次コイル	0.281~0.38 Ω
2次コイル	4.72~7.08K Ω

C.D.マグネット	
ピックアップコイル抵抗値	(白/緑-白/黒) 188~282 Ω
チャージコイル抵抗値	(緑-茶) 128.8~193.2 Ω (茶-赤) 3.6~5.4 Ω
ステータコイル抵抗値	(白-白) 0.44~0.66 Ω
充電電圧値	14.3~15.3V/3000rpm

灯火	
ヘッドランプ	12V60/55W
ストップ/テールランプ	12V21/5W \times 2
フラッシュランプ	12V10W \times 4

ヒューズ	
メイン	20A



仕様諸元

営業呼称	ヤマハスポーツTZR250	
車名・型式	ヤマハ・3MA1	
車種コード番号	3MA	
認定番号	II-159	
車台打刻開始番号	3MA-000101~	
原動機打刻型式	3MA	
発売年・月	1989年2月	
寸法	全長	2040mm
	全巾	655mm
	全高	1100mm
	シート高	770mm
	軸間距離	1380mm
	最低地上高	130mm
	重量	乾燥重量
車輻重量		156kg
前輪分布		78kg
後輪分布		78kg
車輻総重量		266kg
量	前輪分布	100kg
	後輪分布	166kg
乗車定員	2名	
性能	定地燃費	41km/ℓ (50km/h)
	登坂能力	$\theta = 31^\circ$
	最小回転半径	3100mm
	制動停止距離	14m(50km/h)
原動機	原動機種類	2サイクル、水冷
	気筒数配列	並列2気筒横置
	総排気量	249cm ³
	内径×行程	56.0mm×50.7mm
	圧縮比	7.4
	圧縮圧力	7.0kg/cm ² -700rpm
	最高出力	45PS/9500rpm
	最大トルク	3.8kg・m/8000rpm
	エアクリーナ形式	湿式ウレタンフォーム
	クラッチ形式	湿式多板

原動機	ミッションチェンジ方式	常時噛合式前進6段	
	始動方式	キック式	
	点火方式	C.D.I点火	
	潤滑方式	ヤマハオートループ	
	車体	フレーム型式	アルミデルタボックス
		キャスト	25°00'
		トレール	94mm
		ハンドル切れ角	左右各30°
		フュエルタンク容量	16ℓ
		オイルタンク容量	1.4ℓ
ブレーキ形式		前	油圧式ディスクブレーキ
		後	油圧式ディスクブレーキ
懸架方式		前	テレスコピック
		後	スイングアーム
緩衝方式	前	オイルダンパ+エア、コイルスプリング	
	後	ガス、オイルダンパ+コイルスプリング	
タイヤサイズ	前	110/70R17 54H	
	後	140/60R18 64H	
指定タイヤ	前	ダンロップ K610F ブリヂストン CY15	
	後	ダンロップ K610 ブリヂストン CY16	
クラシクシャフト	構造	組立式	
	大端部軸受種類	ニードルベアリング	
	クランクシャフト組立標準値		
ピストン	ピストンクリアランス	0.045~0.050mm	

2

定地燃費(運輸省届出値)は定められた試験条件のもとでの値です。従って走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。



2

ピ ス ト ン	ピストンピン孔 内 径	標準値	16.004~16.015mm		
		使用限度	16.035mm		
組 付 方 向	矢印排気側				
ピ ス ト ン	ピストンピン 外 径	標準値	15.995~16.000mm		
		使用限度	15.975mm		
ピ ス ト ン リ ン グ	形 状	TOP	キーストン		
		2nd	プレーン (エキスパンダ入)		
	合 口 隙 間	TOP	0.30~0.45mm		
		2nd	0.30~0.45mm		
		使用限度	0.8mm		
	サ イ ド ク リ ア ラ ンス	TOP	0.02~0.06mm		
2nd		0.035~0.070mm			
使用限度	0.10mm				
シ リ ン ダ	シリンダヘッド	歪み限度	0.03mm		
		シリンダ歪み限度	0.03mm		
原 動 機	吸 気	開 き	自動管制式		
		閉 じ	自動管制式		
	排 気	開 き	A. T. D. C. 82°~99°		
		閉 じ	B. T. D. C. 82°~99°		
	掃 気	開 き	A. T. D. C. 116°		
		閉 じ	B. T. D. C. 116°		
ク ラ ッ チ	クラッチプレート× フリクションプレート		6×7		
	ク ラ ッ チ プ レ ー ト	標準厚さ	1.5~1.7mm		
		歪み限度	0.05mm		
	フ リ ク シ ョ ン プ レ ー ト	標準厚さ	2.9~3.1mm	3.4~3.6mm	
		使用限度	2.8mm	3.3mm	
	ク ラ ッ チ ス プ リ ン グ	自由長	40.1mm		
使用限度		38.1mm			
減 速 比	1 次 減 速	歯 数	61/25		
		比	2.440		
変 速 歯 数 ・ 比	変 速 歯 数 ・ 比	1 速	34/14	2.428	
		2 速	30/17	1.764	
		3 速	24/18	1.333	
		4 速	25/22	1.136	

減 速 比	変 速 歯 数 ・ 比	5 速	24/24	1.000
		6 速	20/22	0.909
2 次 減 速	歯 数 比	43/14		
		3.071		
ド チ	型 式	DID520V2		
ラ イ エ イ ン	メ ー カ	大同工業		
	駒 数	112L		
た わ み 量	30~40mm			
ミ ッ シ ヨ ン オ イ ル	指 定 オ イ ル	ヤマハギヤオイル		
	オ イ ル 量	定期交換	900cm ³	
オニバル ホニバル		950cm ³		
リ バ ー ド ブ	リ ー ド バ ル ブ と シ ー ト の す き 間 限 度	1.0mm		
	ス ト ッ パ の 高 さ	9.6mm		
オ ル ボ ー ト ブ	指 定 オ イ ル	ヤマハオートループ スーパーオイル		
キ ャ ブ レ タ	型 式	TM32SS		
	刻 印	3MA-01		
	ベ ン チ ュ リ 口 径	φ 32		
	メ イ ン ジ ェ ッ ト	#180		
	メ イ ン エ ア ジ ェ ッ ト	MAJ1 #130 2 #50 3 #160		
	ジ ェ ッ ト ニ ー ド ル	6L02-63-2		
	ク リ ッ プ 段 数	2段		
	ス ロ ッ ト ル バ ル ブ (C.A)	5.0		
	パ イ ロ ッ ト ジ ェ ッ ト	#15		
	パ イ ロ ッ ト エ ア ジ ェ ッ ト	1.4		
	ニ ー ド ル ジ ェ ッ ト	Q-8		
	ス タ ー タ ジ ェ ッ ト	#35		
	フ ェ エ ル レ ベ ル	5~7mm		
	H 寸 法	18.9~20.9mm		
ア イ ド リ ン グ 回 転 数	1250rpm			
パ ワ ー ジ ェ ッ ト	#20			
エ ア ス ク リ ュ 標 準 戻 し 回 数	2½±½			
ス ト ロ ッ ケ ル	ス ロ ッ ト ル ケ ー ブ ル の 遊 び (ス ロ ッ ト ル グ リ ッ プ 外 周 部)	4~6mm		
ト ポ ロ コ ン イ ド ブ	ロ ー タ ハ ウ ジ ン グ 端 面 と ロ ー タ 端 面 の す き 間	標 準 値	0.03~0.15mm	
		使用限度	0.18mm	
ア ウ タ ロ ー タ	ア ウ タ ロ ー タ と ロ ー タ ハ ウ ジ ン グ の す き 間	標 準 値	0.10~0.15mm	
		使用限度	0.17mm	

仕様諸元

サービス
データ



ト ボ ロ コ ン イ ド ブ	インナロータと アウトロータのすき間	標準値	0.04~0.09mm	
		使用限度	0.12mm	
	ロータの厚さ	標準値	7.98~8.00mm	
ラ ジ エ タ	型 式	コルゲートフィン型		
	幅	325.0mm		
	高 さ	217.4mm		
	厚 さ	16mm		
	耐 圧	1.8kg/cm ²		
	ラジエタキャップ開弁圧	0.75~1.05kg/cm ²		
	冷却水総容量	1.63ℓ		
サ ー モ ス タ ッ ト	型 式	47X		
	メ ー カ	日本サーモスタット		
	バルブ開き始め温度	63~67℃		
	バルブ全開温度	80℃		
サ ユ ニ ー モ ト	型 式	2YK		
	メ ー カ	日本精機		
	水 温 計	型 式	可動磁石式	
		メ ー カ	日本精機	
		コイル抵抗値	(50℃156Ω)→ (115℃18.2Ω)	
オ イ ル レ ベ ル ジ	型 式	3MA		
	メ ー カ	太平洋アスティー		
	ホイールトラベル	140mm		
	オイル量	425cm ³		
	オイルレベル	150mm		
	指定オイル	ヤマハサスペンション オイルG5		
	インナチューブ径	φ41		
ス リ テ ン ア グ	上 種 下	スプリング	自由長	293.7mm
			使用限度	288mm
フ ロ ン ト ホ イ ー ル	ホイールアクスルの曲り限度	0.25mm		
	リムの振れ限度	2mm		

フ ロ ン ト ホ イ ー ル	フ ロ ン ト ブ レ ー キ	ブレーキレバー先端部遊び	2~5mm		
		ディスクの振れ限度	0.5mm		
		ディスクの 厚 さ	標準値	5.0mm	
			使用限度	4.5mm	
		パッドの 厚 さ	標準値	5.5mm	
			使用限度	0.5mm(インジケータ有)	
指定ブレーキフルード	ヤマハブレーキフルードDOT3 又はDOT4				
リ ヤ ホ イ ー ル	リ ヤ ホ イ ー ル キ	ホイールアクスルの曲り限度	0.25mm		
		リムの振れ限度	2mm		
		ブレーキ ペダル	取付高さ	50mm	
			遊 び	13~15mm	
		ディスクの振れ限度	0.5mm		
		ディスクの 厚 さ	標準値	5.0mm	
			使用限度	4.5mm	
パッドの 厚 さ	標準値	5.5mm			
	使用限度	0.5mm(インジケータ有)			
指定ブレーキフルード	ヤマハブレーキフルードDOT3 又はDOT4				
リ ク ッ シ ョ ン	リ ク ッ シ ョ ン	ホイールトラベル	120mm		
		調整範囲	H ← 標準 3 → S1		
タ イ ヤ	タ イ ヤ	空 気 圧	1名乗車	前	2.00kg/cm ²
				後	2.25kg/cm ²
		2名乗車	前	2.00kg/cm ²	
			後	2.50kg/cm ²	
		高速走行 (1名乗車)	前	2.00kg/cm ²	
			後	2.50kg/cm ²	
残溝使用限度	一般	0.8mm			
	高速	1.6mm			
バ ッ テ リ	バ ッ テ リ	型 式	YT4L-BS		
		メ ー カ	日本電池		
		容 量	12V3Ah		
		充電電流	標準	0.4A×5H	
	急速	4A×0.5H			
電 解 液	電 解 液	量	約180cc		
		比重	1.32(20℃)		
C ・ D ・ イ	C ・ D ・ イ	型 式	VCE79		
		メ ー カ	日本電装		

2



2

Cマ ・グ Dネ ・ト I	発電機種類	交流発電機	
	ピックアップコイル抵抗値	188~282Ω (白/緑-白/黒)	
	チャージコイル1抵抗値	128.8~193.2Ω (緑-茶)	
	チャージコイル2抵抗値	3.6~5.4Ω (茶-赤)	
	ステータコイル抵抗値	0.44~0.66Ω (白-白)	
	充電電圧値	14.3~15.3V/3000rpm	
C・D ・I	型	式	3MA-00
	メ	カ	日本電装
サモ ボタ	型	式	2XT
	メ	カ	ヤマハ
コン ット ロー ル	型	式	QCA08
	メ	カ	日本電装
点 タイ ミン グ 火	点火時期	B. T. D. C19°/1200rpm	
	進角方式	電気式	
イコ グ ニ ッ シ ヨ ン ル	型	式	3MA
	メ	カ	日本電装
	火花性能	6mm以上	
	コイル抵抗値	一次	0.281~0.38Ω
二次		4.72~7.08KΩ	
ス パ ラ ク グ	型	式	BR8ES, BR9ES, BR10EV
	メ	カ	N. G. K
	プラグギャップ	0.7~0.8mm	
レ ク チ フ ラ イ ヤ	型	式	SH569
	メ	カ	新電元工業
	調整電圧	14.3~15.3V	
ホ ン	型	式	GF-12
	メ	カ	ニッコー金属
	性能	95~105dB/2m	
	巻線抵抗	4.4~4.78Ω	
	電流	1.5A以下	
フリ ラ ッ シ ヤ	型	式	FZ249SD
	メ	カ	日本電装
	点滅回数	85±10回/分	
	フラッシュリレータイプ	コンデンサ式	
信 照 号 明	ヘッドランプ	12V60/55W(ハロゲン)	

信 号 ・ 照 明	マーカーランプ	12V3.4W		
	ストップ/テールランプ	12V21/5W×2		
	フラッシュランプ	12V10W×4		
	メーターランプ	12V3.4W×4		
	パ イ ロ ッ ト ラ ン プ	フラッシュ	12V3.4W	
		オイル残量警告	12V3.4W	
ハイビーム		12V3.4W		
ニュートラル		12V3.4W		
速度警告	12V3.4W			
ヒ ュ ズ	メ	イ	ン	20A
ベ ア リ ン グ	クランクシャフト	左、右	83464A1SH2-9TCS36	
		中	83406E1SH2-9TCS36	
	メインアックスル	左	NK20×33×15N-1	
		右	5205	
	ドライブアックスル	左	83427	
		右	20NQ3212	
	シフトタ	右	HKS36×42×12-1	
	フロントホイール	左	6203	
		右	6203	
	リヤホイール	左	6004RS	
右		6204		
クラッチハブ	6205ZRS			
オ イ ル シ ン ク	クランクシャフト	左	FWJ25-40-10GS	
		右、中	FWJ35-62-7 ZS	
	ウォーターポンプ	FLJ12-31-13.5 GS		
	クラッチ(プッシュアックスル)	SD15-25-5		
	ドライブアックスル	SD-35-52-8HS		
		(補修用)	SD7 35-52-8 VS (+サークリップ)	
	シフトシャフト	SD-12-22-5 HS		
	キックアックスル	SD-20-30-6		
	Y. P. V. S(シリンダ)	XMH15 23 5-6. 4J-D		
	フロントホイール	SD-23-40-7		
メーターギヤ部	(SDD) MHS 2A 45-56-6			
リヤホイール	SD-28-47-7			
クラッチハブ	SD-32-52-7			



締付トルク

エンジン

(単位 kg・m)

締付箇所	ネジ径×ピッチ	個数	締付トルク	備考
シリンダヘッド締付	M 8 × 1.25	10	2.2	
スパークプラグ	M14 × 1.25	2	2.0	
シリンダ締付	M 8 × 1.25	8	2.8	
キャップシール締付	M 5 × 0.8	2	0.7	
カバー締付	M 5 × 0.8	2	0.7	
バルブ 1、2 締付	M 5 × 0.8	2	0.7	トルクオーバに注意
プーリ締付	M 6 × 1.0	1	1.0	
スラストプレート締付	M 5 × 0.8	2	0.7	
ホルダ 1 締付	M 5 × 0.8	1	0.7	
ジョイント 1、2 締付	M 5 × 0.8	2	0.7	
ワイヤプーリ締付	M 6 × 1.0	1	0.8	
ポンプドライブギヤ締付	M12 × 1.25	1	5.0	
ハウジングカバー締付	M 6 × 1.0	5	1.0	
ジョイント 1 締付	M 6 × 1.0	2	0.8	
ウォーターポンプドレンボルト	M 8 × 1.25	1	1.6	
ラジエタ締付	M 6 × 1.0	3	0.6	
サーモスタットカバー締付	M 6 × 1.0	3	1.0	
温水用ユニオンボルト	M 6 × 1.0	2	0.8	
ストッパ締付	M 5 × 0.8	1	0.5	
オイルポンプ締付	M 5 × 0.8	2	0.5	
デリバリパイプ 1 締付	M 5 × 0.8	2	0.5	ネジロック使用
ストレーナカバー締付	M 5 × 0.8	2	0.5	ネジロック使用
マニホールド締付	M 6 × 1.0	8	1.0	
スタータレバー締付	M 4 × 0.7	2	0.3	トルクオーバに注意
クリーナ締付	M 6 × 1.0		0.5	
サイレンサ締付	M 6 × 1.0	1	0.5	吸気
マフラ締付	M 8 × 1.25	8	1.8	
クランクケース 1、2 締付	M 8 × 1.25	8	2.4	
クランクケース 1、2 締付	M 8 × 1.25	2	1.0	
クランクケース 1、2 締付	M 6 × 1.0	7	1.0	
ゼネレータカバー締付	M 6 × 1.0	7	0.5	樹脂カバー
チェンカバー締付	M 6 × 1.0	3	0.5	樹脂カバー
クランクケース 3 締付	M 6 × 1.0	6	1.5	
クランクケースカバー 2 締付	M 6 × 1.0	9	1.0	
カバー 1 (オイルパン) 締付	M 6 × 1.0	6	1.0	

2

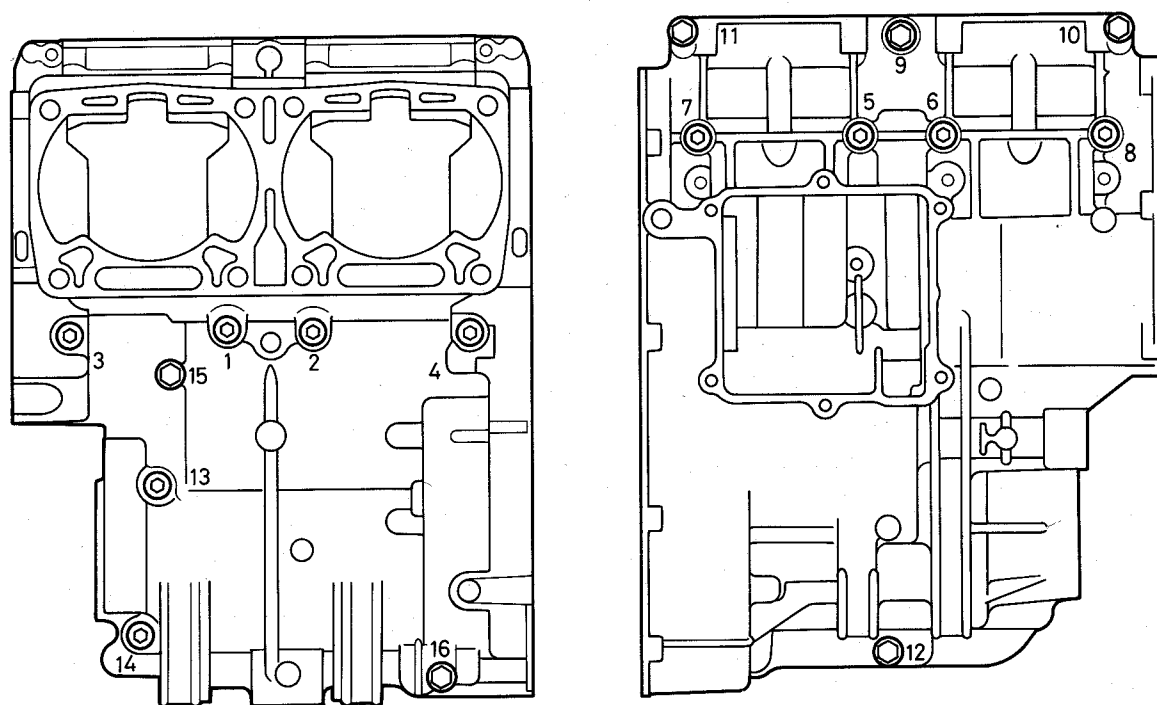


(単位 kg・m)

締付箇所	ネジ径×ピッチ	個数	締付トルク	備考
オイルドレンボルト	M10×1.25	2	2.2	
クラッチケーブルホルダ締付	M 6 ×1.0	1	1.0	
キッククランク締付	M 8 ×1.25	1	2.5	
プライマリドライブギヤ締付	M18×1.0	1	8.0	2面巾30mm左ネジネジロック使用
クラッチボス締付	M20×1.0	1	9.0	2面巾29mm ロックワッシャ有り
プレッシャプレート締付	M 6 ×0.8	5	1.0	
プッシュレバーアクスル締付	M 6 ×1.0	1	0.7	
カバープレート締付	M 6 ×1.0	2	1.0	メインアクスル右ベアリング位置決めネジロック使用
ドライブsprocket締付	M20×1.0	1	9.0	2面巾32mm ロックワッシャ有り
ストッパプレート2締付	M 5 ×0.8	2	0.7	ネジロック使用
ストッパレバー (スプリング引掛け)	M 8 ×1.25	1	0.8	ネジロック使用
シフトアーム締付	M 6 ×1.0	1	1.0	
シフトロッド締付	M 6 ×1.0	2	0.8	1ヶ左ネジ
CDIベース取付	M 6 ×1.0	3	0.7	ネジロック使用
ピックアップコイル取付	M 5 ×0.8	2	0.5	ネジロック使用
CDIマグネット取付	M12×1.25	1	9.25	2面巾17mm
ニュートラルスイッチ締付	M10×1.25	1	0.4	トルクオーバに注意
サーモユニット締付	PT 1/8	1	1.5	
サーボモータドライブプーリ締付	M 5 ×0.8	1	0.7	ネジロック使用 トルクスボルト使用

2

クランクケース締付順序





車 体

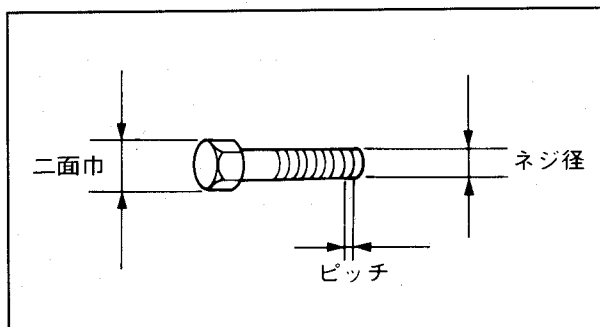
(単位kg・m)

締 付 箇 所	強度区分	ネジサイズ	指定トルク	備 考
エンジン懸架フロント左、右	8 T	M8×1.25	3.5	
エンジン懸架リヤアッパ	8 T	M8×1.25	3.5	
エンジン懸架リヤアング	8 T	M8×1.25	3.5	
アーム1とリヤアーム	8 T	M10×1.25	4.0	
リヤクッションとフレーム、フレーム下とリヤフレーム	6 T	M10×1.25	5.0	
リヤクッションとリレーアーム	8 T	M10×1.25	4.0	
アーム1とリレーアーム	8 T	M10×1.25	4.0	
リレーアームとフレーム	8 T	M10×1.25	4.0	
ピボットシャフトとナット	7 T	M18×1.5	11.0	
フレームとリヤフレーム(前上左、右)	8 T	M10×1.25	5.5	ネジロック有(前上のみ)
リヤフートレストブラケットとリヤフレーム	8 T	M8×1.25	3.5	ネジロック有
ハンドルクラウンとステアリングシャフト	5 T	M22×1.0	11.0	
ハンドルクラウンとインナチューブ	6 T	M8×1.25	2.5	
ハンドルとインナチューブ	8 T	M8×1.25	2.3	
キャリパ取付(前後)	7 T	M10×1.25	3.5	
テンションバーとキャリパブラケット	6 T	M8×1.25	2.5	
テンションバーとフレーム	6 T	M8×1.25	2.5	
キャリパとブレーキホースユニオンボルト	7 T	M10×1.25	2.5	
キャリパとブリュードスクリュー	4 T	M8×1.25	0.6	
マスターシリンダブレーキユニオンボルト	7 T	M8×1.25	2.5	
フロントマスタシリンダキャップ	4 T	M5×0.8	0.2	
フロントマスタシリンダとブラケット	8 T	M8×1.25	2.0	
フロントホイールシャフト	8 T	M16×1.5	7.0	
フロントフェンダとフロントフォーク	6 T	M6×1.0	0.6	
リヤホイールシャフトナット	8 T	M18×1.5	9.0	
サイドスタンドブラケットとフレーム	8 T	M10×1.25	5.5	ネジロック有
サイドスタンドブラケットとフレーム		M10×1.25	5.5	シフトピン兼用ボルト ネジロック有
フロントアクスルホイール	8 T	M6×1.0	2.0	
スプロケットとハブ	8 T	M8×1.25	3.7	
ディスクブレーキとハブ	7 T	M8×1.25	2.0	
レバーコック	4 T	M4×0.7	0.2	
カウリングの樹脂ネジ		M5×0.8	0.04	スクリーニングダクト1,2 プロテクタ1,2
リッド1とロックAss'y		M22×1.5	0.3	POM
ステアリングシャフトとリングナット(下)	4 T	M25×1.0	0.3	
イグニッションコイルとフレーム	4 T	M6×1.0	0.1	ウェルナット
プレートブリッジとフレーム	4 T	M6×1.0	0.1	ウェルナット
フートレストブラケットとフレーム	8 T	M8×1.25	3.0	
リヤマスタシリンダとフレーム	8 T	M8×1.25	3.0	
サイドスタンドピボット部ボルト	7 T	M10×1.25	4.0	
サイドスタンドピボット部のロックナット	4 T	M10×1.25	3.5	



その他、一般締付トルク

締付トルク指定箇所以外のボルト、ナットの締付トルクはネジ径、ピッチにより締付トルクを決め締付けます。



ネジ径×ピッチ	締付トルク
M5×0.8	0.3~0.45kg・m
M6×1.0	0.55~0.8 kg・m
M8×1.25	1.2~1.9 kg・m
M10×1.25	2.4~3.9 kg・m
M12×1.5	4.5~7.2 kg・m

2



オイル、グリース、シール剤塗布箇所

エンジン

オイル、グリース塗布箇所		オイル、グリースの種類
全てのオイルシールリップ部		ヤマハグリースB
全てのOリング外周部		〃
全てのベアリングリテーナ部	クランクAss'y左、中央、右、大小端ニードルベアリング	ヤマハオートループスーパーオイル
	メイン軸左右、ドライブ軸左右、シフトカムAss'y右、フッシュロッドベアリング バラシヤ軸左右、フライマリドリブンギヤ内側、フッシュレバーアクセル上下	ヤマハギヤオイル
クランクシャフト大端部		ヤマハオートループスーパーオイル
ピストンリング外周部		〃
ピストン外周部		〃
ピストンピン外周部		〃
YPVSバルブ軸受部		ヤマハグリースB
インペラシャフト軸部		ヤマハギヤオイル
ドライブギヤシャフト軸部		〃
トロコイドポンプ部		〃
SPアイドルギヤ内面、端面		ヤマハ二硫化モリブデンオイル
キックシャフト軸受部		ヤマハギヤオイル
ドリブンギヤComp内面		〃
プッシュロッド軸部外周		〃
ドリブンギヤComp両端面部		〃
ミッション摺動ギヤ内面		〃
ミッション遊動ギヤ内面、端面		〃
ドライブ軸カラー内面		〃
シフトフォークガイドバー外周		〃
シフトシャフト軸受部		〃
シフトカムAss'y左側軸受部		〃
ボールリンク摺動部		ヤマハグリースB
シフトペダル内面		〃
クランクケース上、下合面		ヤマハスリーボンドNo.1215
ケース合面部のオイルシール外周		ヤマハグリースB又はヤマハギヤオイル

2



車 体

オイル、グリース塗布箇所	オイル、グリースの種類
ヘッドパイプ上下ベアリング部	ヤマハグリースB又はシェルレチナックスA
フロントホイールのオイルシールリップ部(左右)	ヤマハグリースB又はゼミコカップグリースNo.1
リヤホイールのオイルシールリップ部(左右)	〃
クラッチハブAss'yのオイルシールリップ部	〃
クラッチハブAss'yとリヤホイールとの嵌合部	〃
リヤブレーキペダルのシャフトの外周面	〃
チェンジペダルのシャフトの外周面	〃
サイドスタンドとボルト、サイドスタンドブラケットとの摺動面	〃
ガイドチューブの内面及びビスロットルケーブル取付部	〃
クラッチレバーのクラッチケーブル取付部	〃
クラッチレバー取付用カラーの外周面及びクラッチレバーとレバーホルダとの摺動面	〃
ブレーキレバー取付ボルトの軸部及びブレーキレバーとマスタシリンダとの摺動面	〃
アーム1、リヤアーム側取付部ベアリング内面	ヤマハ二硫化モリブデングリース 又はシェルレチナックスAM
ピボットシャフト外周面	〃
リヤアームピボット部ベアリング内面	〃
リヤアームスラストカバー内側	〃
リレーアームのベアリング内面	〃
リヤアームのオイルシールリップ部	〃
リヤフートレストボール部	ヤマハグリースB又はゼミコカップグリースNo.1
リヤフートレスト取付部のピン外周面	〃

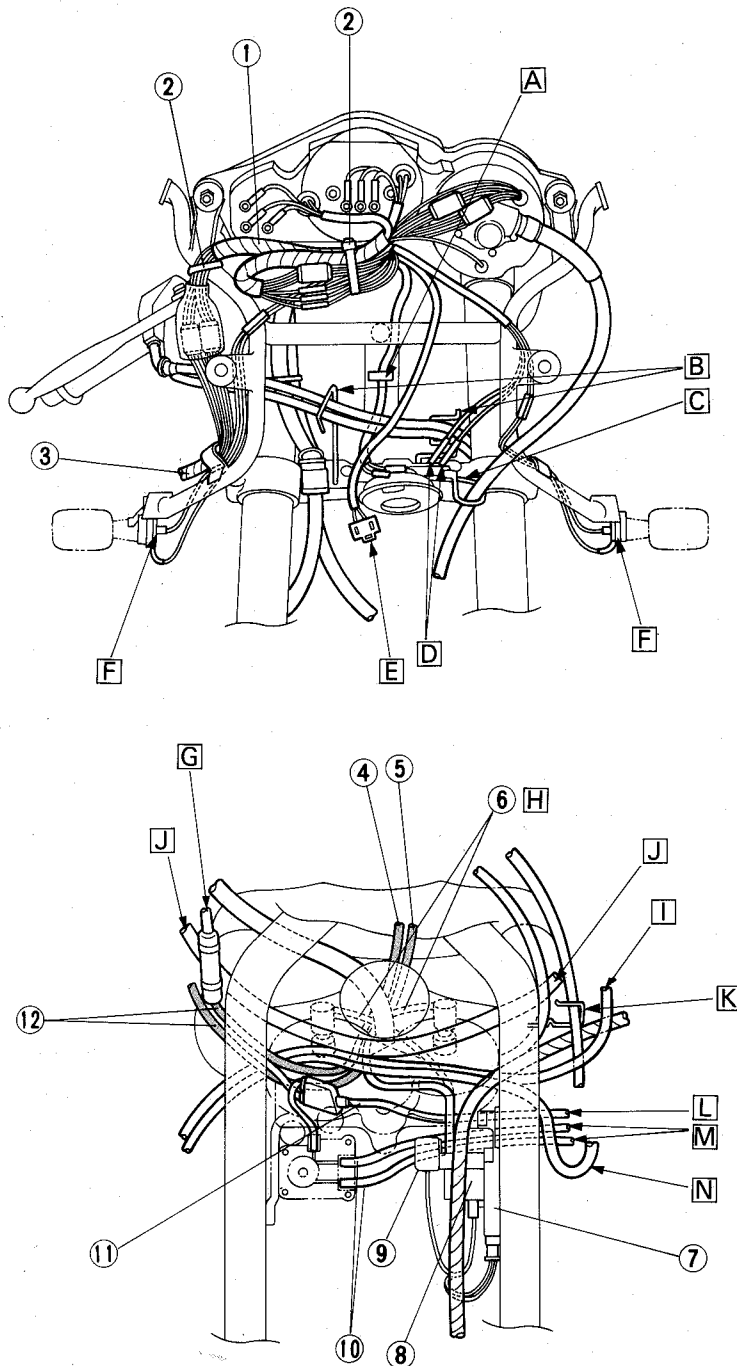
2



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① サブコード ② インシュロックバンド ③ ワイヤハーネス ④ キャブレタ引き側(スロットルケーブル) ⑤ キャブレタ戻し側(スロットルケーブル) ⑥ ハイテンションコード ⑦ レクチファイヤレギュレタ ⑧ イグニッションコイル ⑨ フラッシュリレー ⑩ Y.P.V.Sコントロールケーブル ⑪ ポンプケーブル ⑫ スロットルケーブル | <ul style="list-style-type: none"> A ホーンリード線をステアのクランプに通しクランプは曲げること。 B スロットルケーブルはホーンステアのガイドを通す。 C スピードメータケーブルはホーンステアのガイドを通す。 D マーカランプへ。 E ヘッドライトへ。 F フロントフラッシュと共締め、下側よりコードが出るように締めること。 G スロットルグリップへ。 H ハイテンションコードの長い方を右気筒、前方でクロスさせること。スロットルケーブルの上を通す。 I リカバリホース：サイレンサの後を通す。 J キャブレタジョイントへ。 K クラッチケーブルはワイヤガイドの外側部分を通す。 L オイルポンプへ。 M シリンダのY.P.V.Sプーリへ。 N オイルタンクのブリーザパイプはサイレンサの後を通す。 |
|---|--|





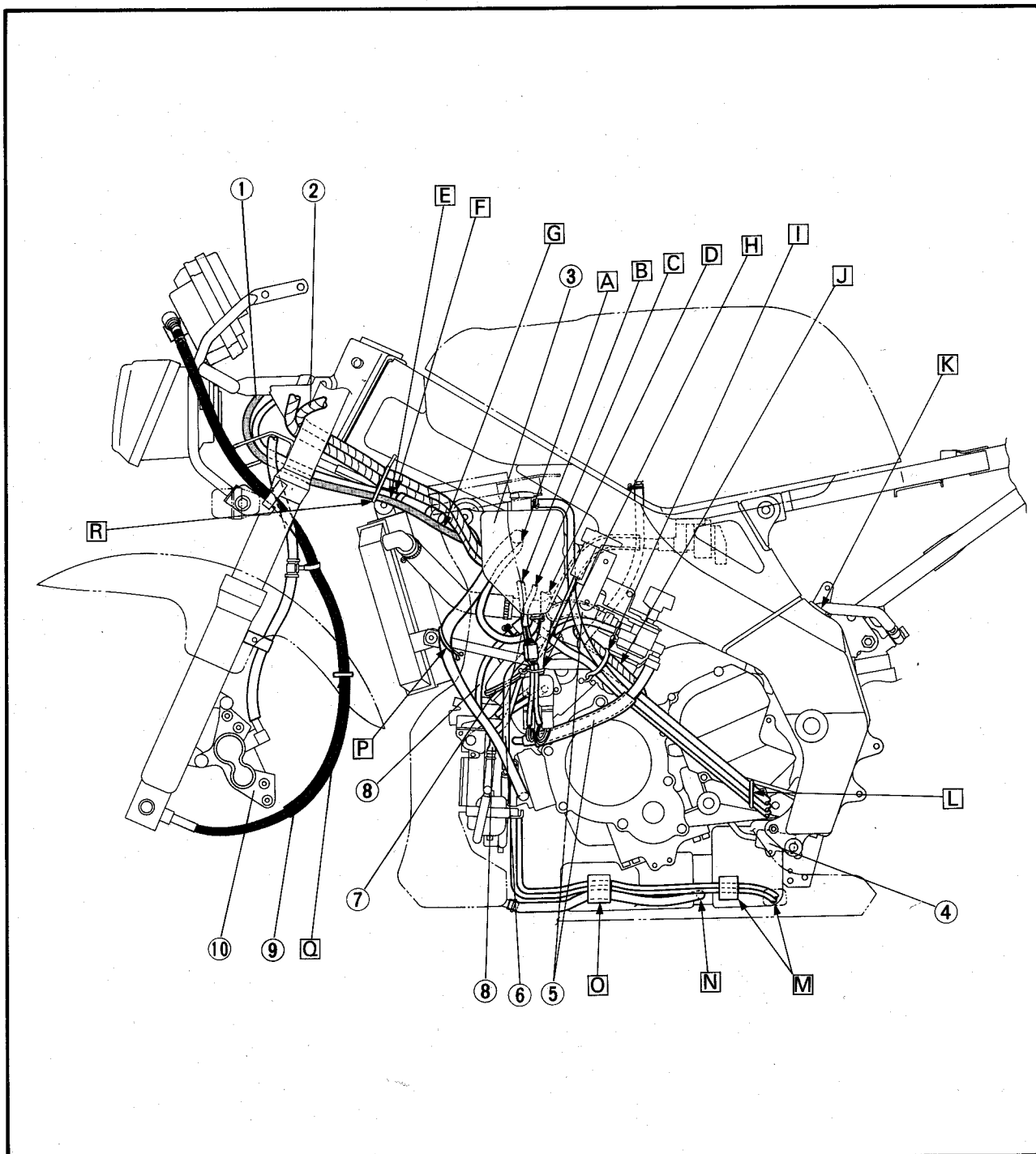
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- ① スロットルケーブル
- ② ハンドルスイッチリード線
- ③ リカバリタンク
- ④ サイドスタンドスイッチ
- ⑤ フューエルホース
- ⑥ 負圧ホース
- ⑦ スタータケーブル
- ⑧ 温水ホース
- ⑨ スピードメータケーブル
- ⑩ フロントブレーキキャリパ左
- A ラジエタへ。
- B オイルタンクへ。
- C ワイヤハーネスへ。
- D ミニエアクリーナへ。
- E オイルリンクシリンダへ。
- F キャブレタ引き側へ。

- G キャブレタ戻し側へ。
- H コンベンセータリード線をクランプでミニエアクリーナホースに固定する。
- I フュエルタンクドレンパイプ、オイルタンクブリーザパイプ、リカバリタンクブリーザパイプ、C.D.Iマグネトリード線をステーにクランプする。
- J C.D.Iマグネトリード線はフレームエンジン懸架部の外側を通す。
- K サブタンクホースはインシュロックバンドにてサイドカバーステーにクランプする。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
- L フュエルタンクドレンパイプ、オイルタンクブリーザパイプ、リカバリタンクブリーザパイプはガイドの中を通す。

- M キャブレタオーバーフローパイプはサイレンサのクランプとバッテリーボックスのクランプの中を通しカウルの穴より外へ出す。
- N エアクリーナドレンパイプはバッテリーボックス突起部に差し込む。
- O キャブレタオーバーフローパイプとエアクリーナドレンパイプをクランプに通す。
- P ラジエタステーとサクシヨンパイプをクランプして固定する。
- Q スピードメータケーブルはガイドワイヤを通す。
- R ラジエタと共締め、締付時は回り止めをフレームに密着させること。

2

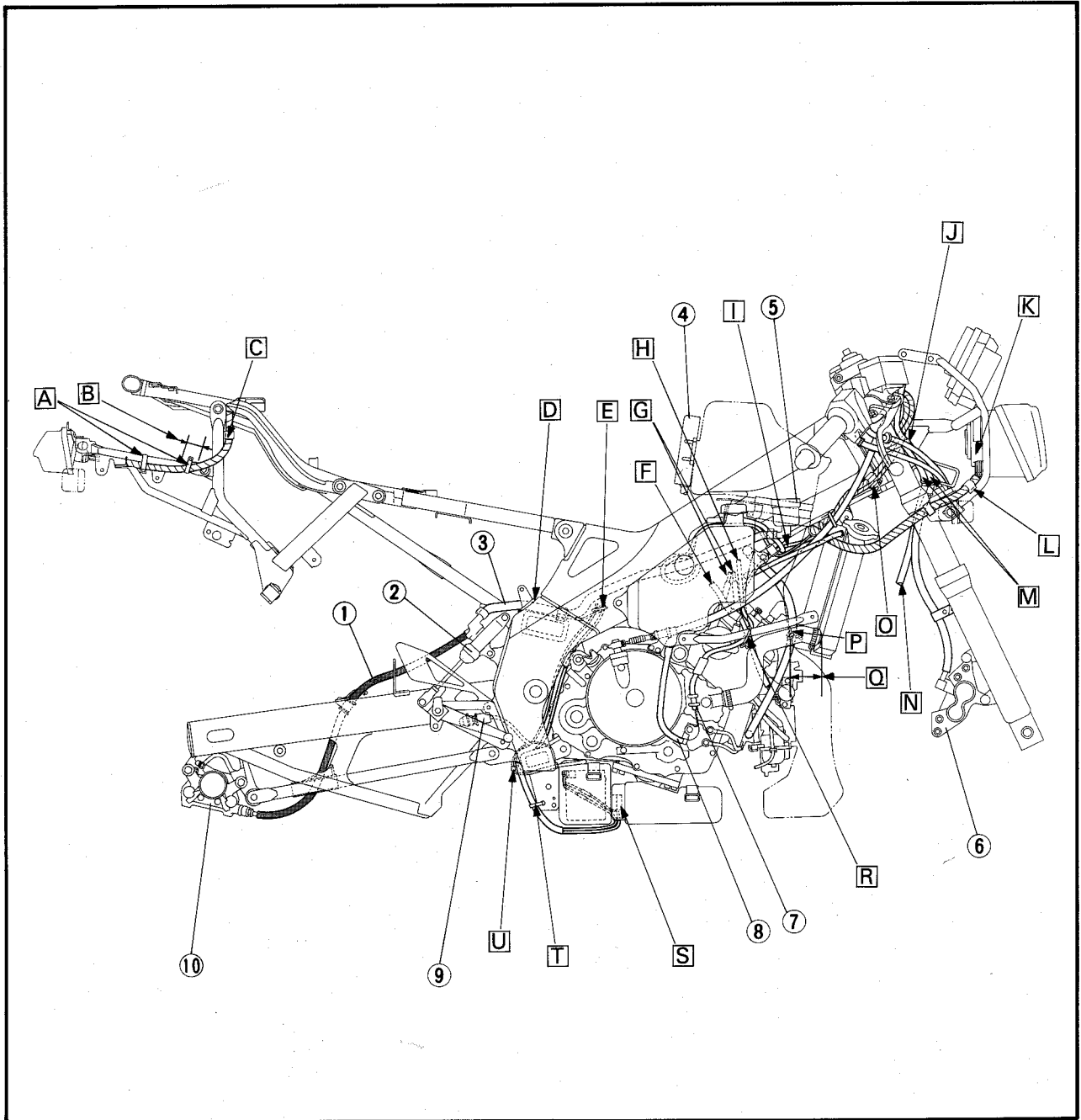


ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

サービス
データ



- ① ブレーキホース
 - ② マスタシリンダ
 - ③ リザーブホース
 - ④ C.D.Iユニット
 - ⑤ リザーバタンク
 - ⑥ フロントブレーキキャリパ右
 - ⑦ ポンプケーブル
 - ⑧ オイルパイプ
 - ⑨ リヤストップスイッチ
 - ⑩ リヤブレーキキャリパ
 - A インシュロックバンドで固定する。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - B パイプつぶり部にてクランプすること。
 - C 溶接クランプに通す。クランプは、ハーネスを通した後、曲げること。
 - D リザーブホースはインシュロックバンドにてサイドカバーステーに固定する。クランプ部は下方に目立たぬように。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - E ガイドに通す。
 - F C.D.Iユニットへ。
 - G Y.P.V.Sモータへ。
 - H オイルタンクシリンダへ。
 - I サーモユニットへ。
 - J ブレーキホースは左右共インシュロックバンドにてインナチューブに固定のこと。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - K ヘッドメータ部サブリードへ。
 - L コルゲートチューブをクランプで固定する。
 - M ブレーキホース右側を前方にしてホーンステーのクランプにはめ込むこと。
 - N キャリパ左へ。
 - O ハンドルスイッチリード線右をクランプする。
 - P サクションパイプをクランプにてラジエタホースと固定する。
 - Q 60mm以上
 - R クランプにてスロットルポジションセンサーリード線とオイルポンプケーブルをステーに共締めする。
 - S リード線側を奥にする。
 - T バッテリリード線をフレームにクランプする。
 - U サイドスタンドスイッチリード線、バッテリーリード線、リヤストップスイッチリード線をフレームクロスパイプにクランプする。
- サイドスタンドスイッチリード線、バッテリーリード線はフレームクロスパイプ後側を通す。クランプはエンジンマウントブラケットの手前、バンドの余りはカットすること。(2mm以内)



2

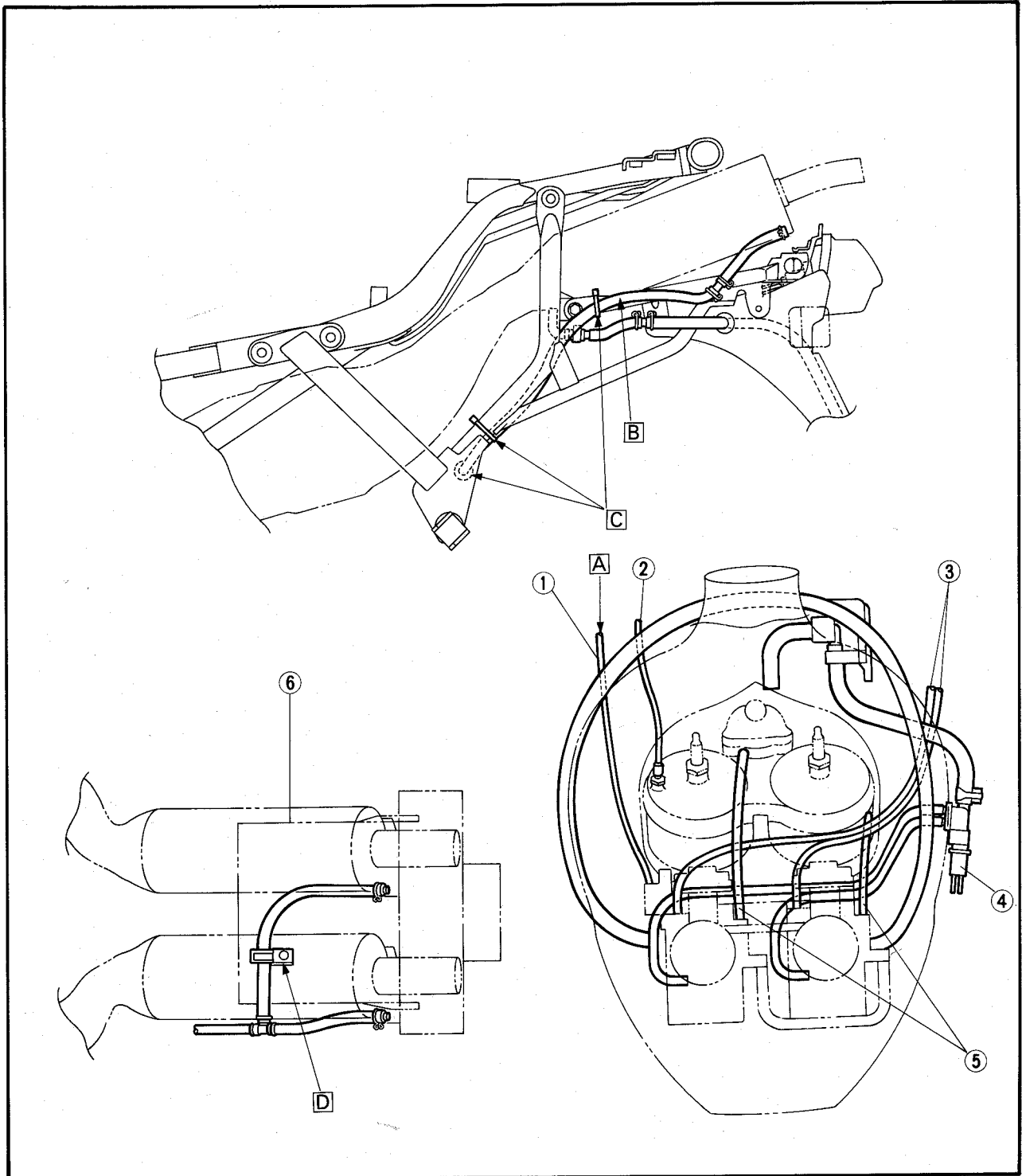


ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- ① キャブレタスロットルポジションセンサリード線
- ② サーモユニットリード線
- ③ スタータケーブル
- ④ コンペンセータ
- ⑤ 温水パイプ
- ⑥ リヤフェンダ

- A C.D.Iユニットへ。
- B マフラドレンパイプはフェンダステーの外側を通す。
- C マフラドレンパイプはリヤフォートレストブラケットにインシュロックバンドで固定し、先端をリヤフォートレストブラケットの穴に差し込む。(バンドを締め上げすぎないこと)
バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
- D マフラドレンパイプはクランプに通し、クランプは曲げること。

2



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

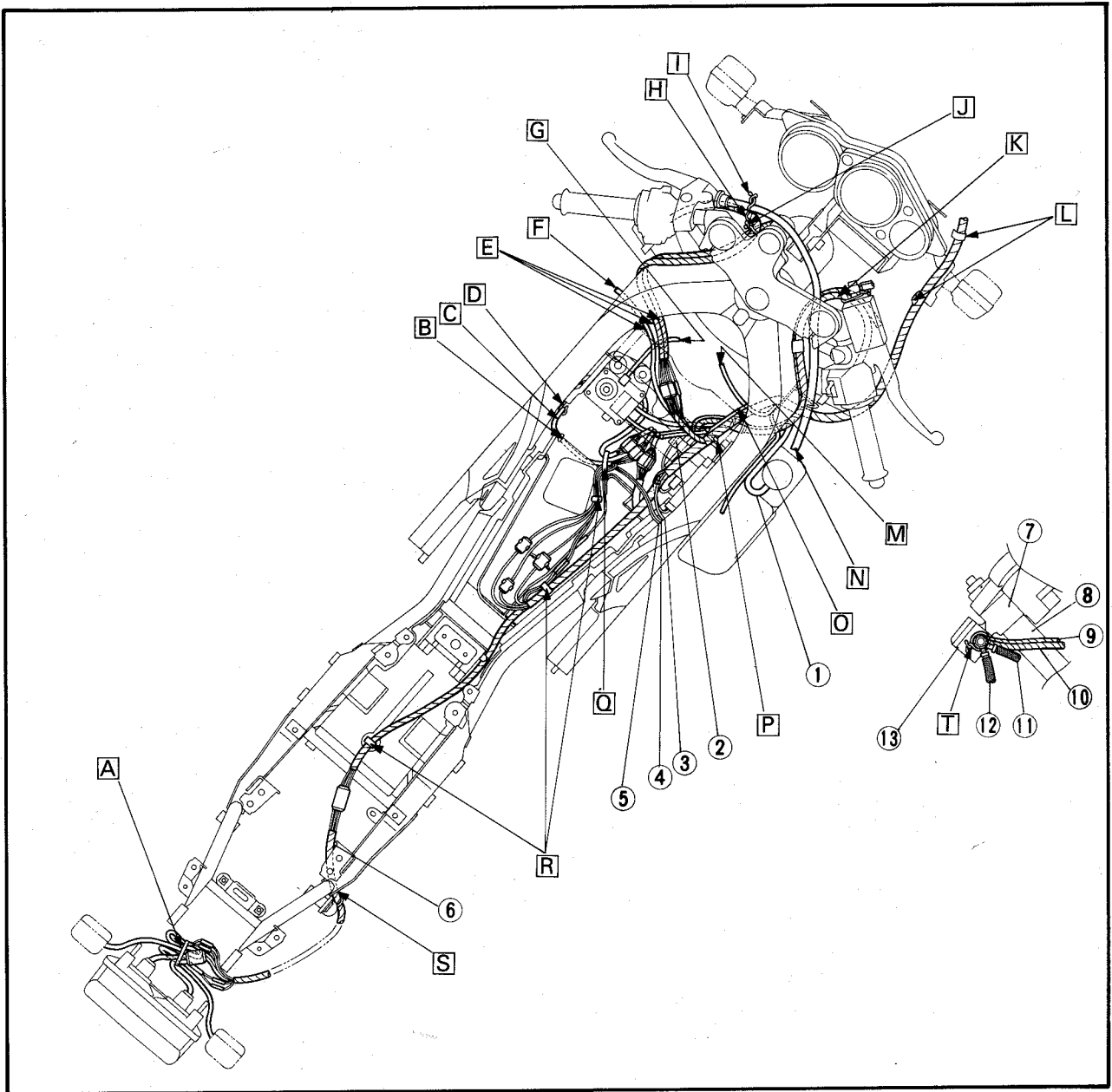
サービス
データ



- ① オイルタンクブリーザパイプ
 - ② フラッシュリレー
 - ③ バッテリリード線
 - ④ サイドスタンドスイッチリード線
 - ⑤ リヤストップスイッチリード線
 - ⑥ サブリード
 - ⑦ ハンドル
 - ⑧ インナチューブ
 - ⑨ ハンドルスイッチリード線右
 - ⑩ フロントストップスイッチリード線
 - ⑪ ブレーキホース左
 - ⑫ ブレーキホース右
 - ⑬ マスタシリンダ
- A テールライトハーネスとリヤフラッシュハーネスはインシュロックにてまとめる。バンドの余りはカットする。(2mm以内)
- B インシュロックバンドでC.D.Iマグネトリード線をパネル4の穴にクランプする。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)

- C C.D.Iマグネトリード線はパネル4の裏側を通すこと。
- D クランプに通す。
- E ハーネス類はスロットルケーブルの上を通すこと。
- F コンペンセータへ。
- G オイルリンクへ。
- H ハンドルスイッチリード線左はインナチューブの内側を通す。
- I ハンドルスイッチリード線左とクラッチケーブルはクランプで固定する。(クラッチ側を小径とする。)
- J メインスイッチリード線とハンドルスイッチ左リード線はクランプにて共締めする。
- K ハンドルスイッチリード線右はインナチューブの内側を通す。
- L 溶接クランプはメインハーネスを通し曲げること。
- M サーマユニットへ。サイレンサの後を通す。

- N クラッチへ。
- O スロットルポジションセンサへ。ブリッジプレートのクランプをメインハーネスと共に通す。
- P ハーネスのこの分岐点はこのクランプの後方、メインハーネスとスロットルポジションセンサリード線をブリッジプレートのクランプに入れる。
- Q インシュロックバンドでC.D.Iマグネトリード線とサイドスタンドスイッチリード線、リヤストップスイッチリード線をパネル4に固定する。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
- R クランプに通す。
- S メインハーネスはフレームとマッドガードの間を通す。
- T ハンドルスイッチリード線右とフロントストップスイッチリード線はフロントブレーキホース左側のジョイント口全部でクランプにて固定する。



2

2



第 3 章

点検・調整編





点検整備方式

- 注意：1. 運行前点検項目には高速走行点検項目を含みます。
 2. 「●」印は法規で義務づけられている点検時期を示し「○」印はそのほかメーカーで指定する時期を示します。
 3. 「☆」印は、保安部品の定期交換を示します。
 但し、その交換時期は、一般走行する不特定多数の車を対象に定めてあります。従って著しく走行条件の異なる車はこれに準拠して交換してください。

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考																						
		運行前	又は1か月目	自家用6か月毎																								
かじ取り装置	ハンドルの遊び、緩み及びがた			●																								
	操作具合			●																								
	左右の回転角度			●																								
	損傷		●	●																								
かじ取り装置	ホーク・スピンドルの取付状態	○	●	●		ステアリングステムを示す																						
	ホーク・スピンドルの軸受部のがた	○	●	●		ステアリングステムを示す																						
ブレーキペダル	遊び及び踏込んだときの床板とのすき間	○	●	●	遊びフロント(レバー式)レバー先端2~5mmリヤ(ペダル式)	無調整																						
	踏みしろ及びきき具合	●																										
	ブレーキのきき具合		●	●																								
制動装置	漏れ、損傷及び取付状態	○	●	●																								
	液量	●	●	●	液面レベル、LOWERレベル以上あること																							
制動装置	機能、摩耗及び損傷			●																								
	ディスクパッドとのすき間			●																								
制動装置	パッドの摩耗	○	●	●	標準厚さ5.5mm 使用限度0.5mm	インサート式																						
	ディスクの摩耗及び損傷			●	標準厚さ前5.0mm後5.0mm 使用限度前4.5mm後4.5mm																							
	ディスクパッド			●																								
走行装置	タイヤの空気圧	●	●	●		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">単位kg/cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>前輪</td> <td>後輪</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1名乗車</td> <td>一般</td> <td>2.00</td> <td>2.25</td> </tr> <tr> <td>高速</td> <td>2.00</td> <td>2.50</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2名乗車</td> <td>一般</td> <td>2.00</td> <td>2.50</td> </tr> <tr> <td>タイヤ仕様</td> <td>110/70 R17 54H</td> <td>140/60 R18 64H</td> </tr> </table>			単位kg/cm				前輪	後輪	1名乗車	一般	2.00	2.25	高速	2.00	2.50	2名乗車	一般	2.00	2.50	タイヤ仕様	110/70 R17 54H	140/60 R18 64H
			単位kg/cm																									
			前輪	後輪																								
	1名乗車	一般	2.00	2.25																								
高速		2.00	2.50																									
2名乗車	一般	2.00	2.50																									
	タイヤ仕様	110/70 R17 54H	140/60 R18 64H																									
タイヤの亀裂及び損傷	●	●	●																									
タイヤの溝の深さ及び異状な摩耗	●	●	●	残溝前輪0.8mmまで 後輪0.8mmまで																								
タイヤの金属片、石その他の異物	●	●	●																									

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考		
		運行前	又は1か月目	自家用6か月毎				
走行装置	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み		○	●	●	フロント・アクスル・ボルトの締付トルク1.7~2.2kg・m フロント・アクスルの締付トルク5.2~8.2kg・m リヤ・アクスル・ナットの締付トルク7.8~12.6kg・m	アクスルナットを示す	
	リム、サイド・リング及びホイール・ディスクの損傷		○	●	●	ホイール・リムの亀裂、リム端でフロントの横断れ2mm以下 縦断れ2mm以下 リヤの横断れ2mm以下 縦断れ2mm以下		
	フロント・ホイール・ベアリングのがた				●			
	リヤ・ホイール・ベアリングのがた				●			
緩衝装置	ショックばね				●		クッションスプリングを示す	
	サスペンション				●		連結部のがた及びアームの損傷	
緩衝装置	ショック・アブソーバ				●		油漏れ及び損傷	
	取付部のがた				●			
動力伝達装置	クランク		○	●	●	遊びレバー先端で10~15mm		
	作用		○	●	●			
動力伝達装置	油漏れ及び油量		○	●	●	油量のぞき窓式H~L間にあること		
	操作機構のがた				●			
動力伝達装置	チェーンの緩み		○	●	●	サイドスタンド使用時前輪スプロケットの中央で最大振幅30~40mm		
	スプロケットの取付状態及び摩耗				●			
電気装置	点火プラグの状態		○	●	●	プラグギャップ0.7~0.8mm		
	点火時期				●	●		無調整式
	断続器の状態				●	●		無接点式
	進角装置(進角機構を含む)の機能				●	●		無調整式

3

点検整備方式

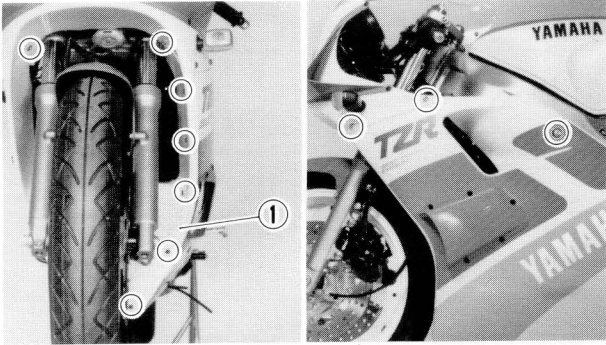
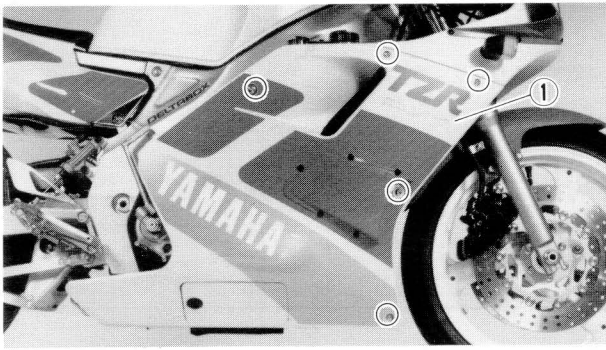
点検調整



点検整備項目		点検整備時期			判定基準	
		運行前	又は1か月毎	自家用 6か月毎 12か月毎		
電気装置	バッテリー			●		
	電気配線			●		
本体	かかり具合及び異音		●	●		
	低速及び加速の状態		●	●	アイドリング 回転数 1250rpm	
	排気の状態		●	●		
	エア・クリーナ・エレメントの状態		●	●		
潤滑装置	油漏れ	○	●	●		
	油の汚れ及び量		●	●	油量 パイロットランプ式 ランプが点灯していないこと	
	オイルの量	●				
燃料装置	燃料漏れ	○	●	●		
	スロットル・バルブ及び チョーク・バルブの状態			●		
	燃料フィルタの詰まり			●		
	燃料の量	●				
冷却装置	水量	●	●	●	リザーバタンク HI~LOW間にあること	
	水漏れ	●		●		
	ラジエタ・キャップの機能			●	開弁圧 0.75~1.05kg/cm ²	
灯火装置及び方向指示器	作用		●	●		
	点滅具合、汚れ及び損傷	●				

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考
		運行前	又は1か月毎	自家用 6か月毎 12か月毎		
警告装置及び 後写鏡及び 反射鏡	作用			●		
後写鏡及び 反射鏡	写影の状態	●				後写鏡のみ
は車両番号標 車登録番号標 反転鏡及び自動	汚れ及び損傷	●				
計器	作用			●		
エグ・ゾム 及びマフラス パイプ	取付けの緩み及び損傷			●		
	マフラの機能			●		
車体 及び車体	緩み及び損傷			●		
前日 の走行に 認められ た箇所	当該箇所に異状がない事 を確認	●				
その他	シャシ各部の給油脂状態			●	●	
制動装置	オイル ブレーキ					1年毎
	マスタシリンダカップ キット交換					☆2年毎
	キャリバピストンシール キット交換					☆2年毎
	ブレーキホース					☆4年毎
動力伝達装置	クラッチ ミッション 及び ミッション		○			5000km走行毎
冷却装置	冷却水の交換					2年毎
	冷却水ホースの交換					2年毎
保安部品	フェューエルホースの交換					☆4年毎

3



カバー類の脱着

フロントアンダボディの取外し

1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ 2 ①

取付スクリユを外し前方へづらすようにして
取外す。

2.以下の部品を取外す。

- インナパネル ①
- フロントアンダボディ 1

カウリングの取外し

1.以下の部品を取外す。

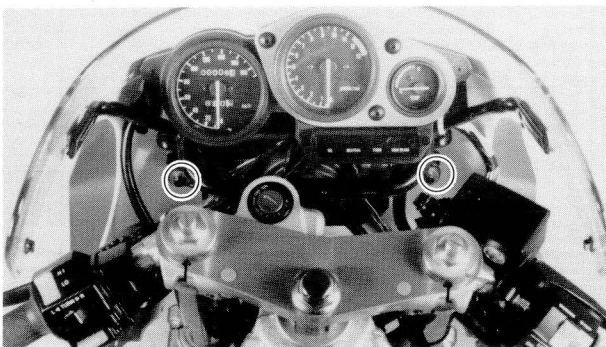
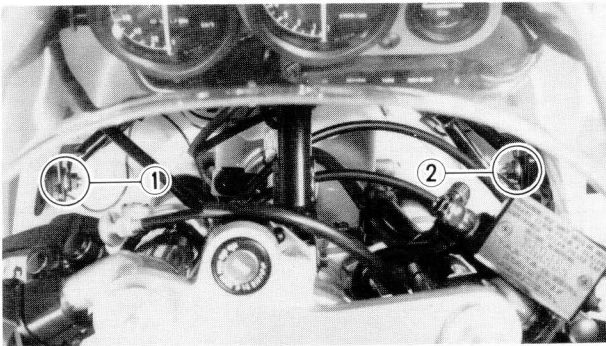
- バックミラー左
- バックミラー右

2.以下の接続を切離す。

- フロントフラッシュ左リード線コネクタ
- フロントフラッシュ右リード線コネクタ
- ヘッドランプカプラ
- マーカランプコネクタ

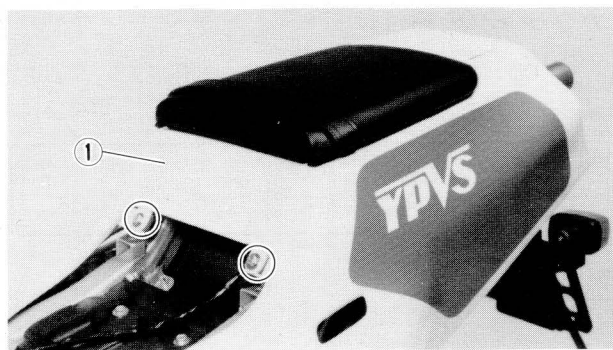
3.以下の部品を取外す。

- フロントフラッシュ左 ①
- フロントフラッシュ右 ②



4.以下の部品を取外す。

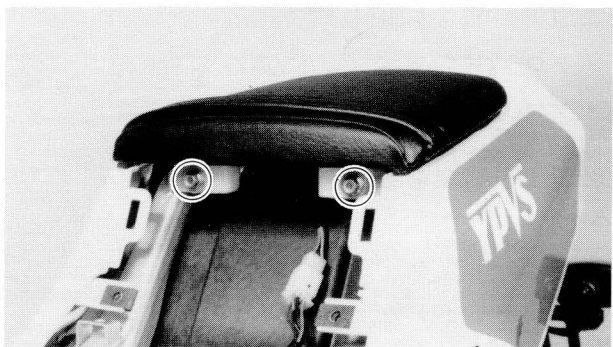
- カウリング Ass'y



サイドカバー

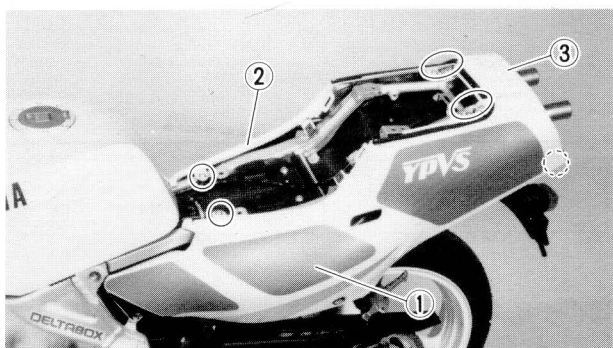
1.以下の部品を取外す。

- シングルシート
- カバー①



2.以下の部品を取外す。

- タンデムシート



3.以下の部品を取外す。

- サイドカバー 1①
- サイドカバー 2②
- テールカバー③



サイドカバーの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- テールカバー
- サイドカバー 1
- サイドカバー 2

テールカバーとサイドカバーの合わせ目を確実に組付ける。

2.以下の部品を組付ける。


- タンデムシート
- カバー
- シングルシート



カウリングの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- カウリングAss'y

	カウリング
	0.8kg・m

2.以下の部品を組付ける。


- フロントフラッシュ左(濃茶リード線)
- フロントフラッシュ右(濃緑リード線)

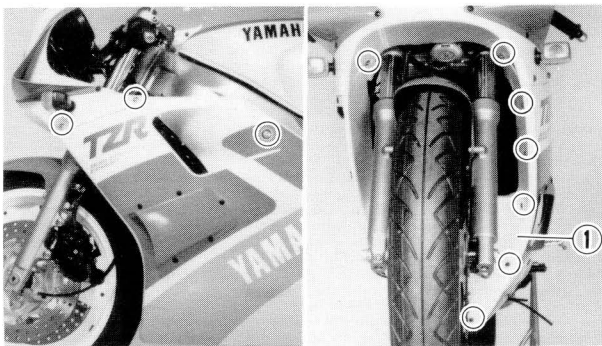
3.以下の結線をする。

- フロントフラッシュ左リード線
- フロントフラッシュ右リード線
- ヘッドライトカプラ

4.以下の部品を組付ける。

- バックミラー左
- バックミラー右

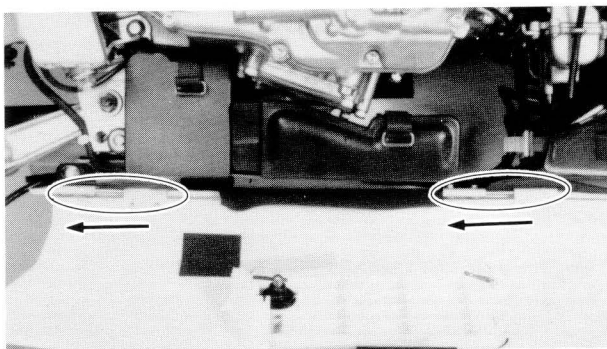
	バックミラー
	1.0kg・m



フロントアンダボディの組付け

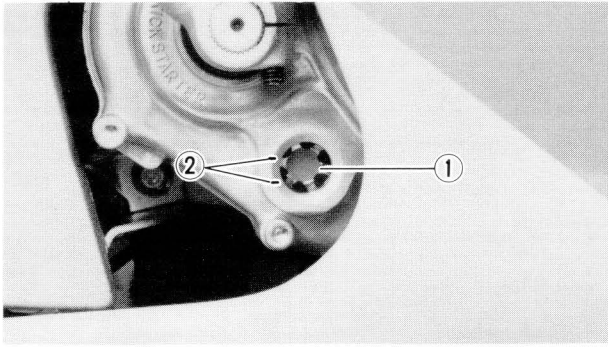
1.以下の部品を組付ける。

- フロントアンダボディ 1
- インナパネル①



2.以下の部品を組付ける。

- フロントアンダボディ 2



ミッションオイル量の点検

整備要領 点検は必ず平坦な場所で車を垂直に立てて行うこと。

1. 以下の点検をする。

- ミッションオイル量

エンジンを2～3分間アイドリング運転後、エンジンを停止し、2～3分後に車を垂直にして点検窓①のレベルマーク②の範囲内にあるか点検する。

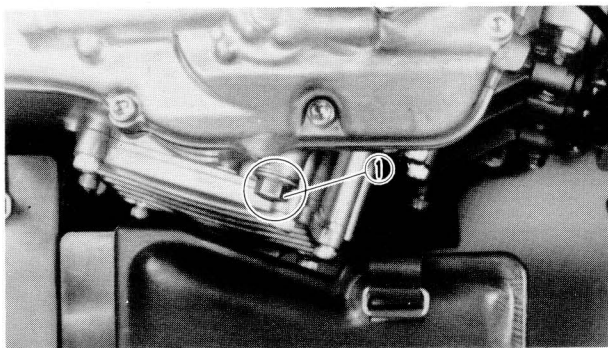
交換時期

下表に従って行うこと。

	初回交換	2回目交換	3回目交換	以降
	1 か月点検 又は1000km 走行時	6000km 走行時	12000km 走行時	6000km 走行毎

ミッションオイル量・指定オイル

	通常交換時	オーバホール時
	900cm ³	950cm ³
指定オイル	ヤマハギヤオイル	



ミッションオイルの抜き出し

1. 以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ
- ドレンボルト①

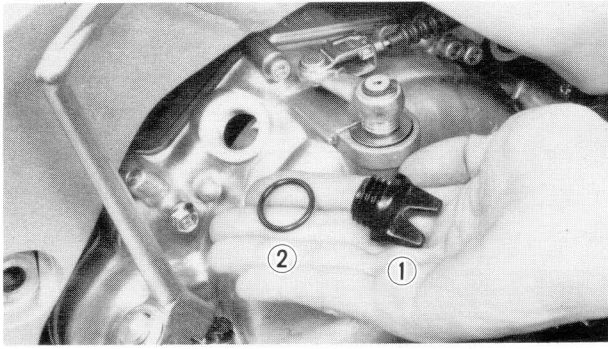
暖機運転後、車をすこし右側に傾けてミッションオイルを抜く。

2. 以下の部品を組付ける。

- ドレンボルト
- ガスケット

New	ガスケット
------------	-------

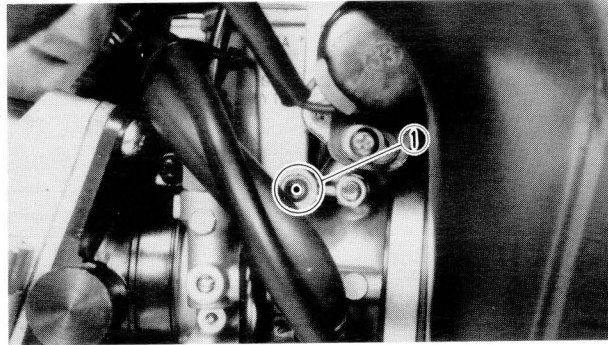
	ドレンボルト 2.2kg・m
--	-------------------



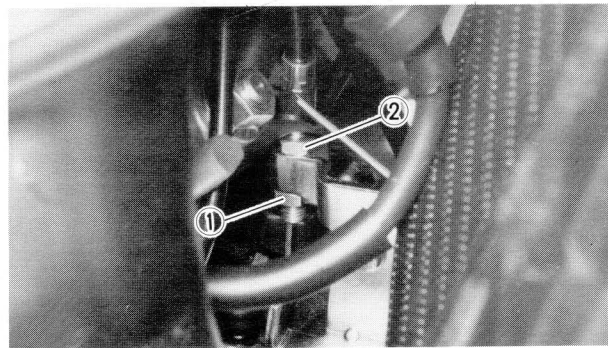
- 3.以下の部品を取外す。
 - オイルプラグ①
 - Oリング②
- 4.ミッションオイルを規定量注入する。
- 5.以下の部品を組付ける。
 - オイルプラグ①
 - Oリング②
 - フロントアンダボディ

キャブレタの点検

キャブレタ全開点検



- 1.以下の部品を取外す。
 - フロントアンダボディ 2
- 2.以下の点検をする。
 - 全開点検
スロットルを全開にしたとき、キャブレタの点検窓①の中心とピストンバルブの●マークの中心が一致しているか点検する。
不一致→調整



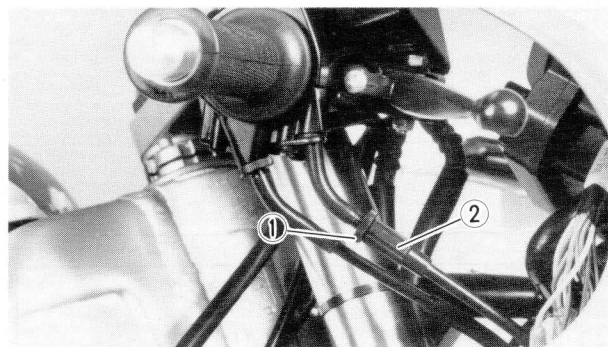
- 3.以下の調整をする。
 - 全開調整
ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整する。
- 4.以下の部品を組付ける。
 - フロントアンダボディ 2

スロットルケーブル遊びの点検

- 1.以下の点検をする。
 - スロットルグリップツバ外周部の遊び量①

	スロットルグリップツバ外周部の遊び量 4 ~ 6 mm
--	--------------------------------

規定値以外→調整

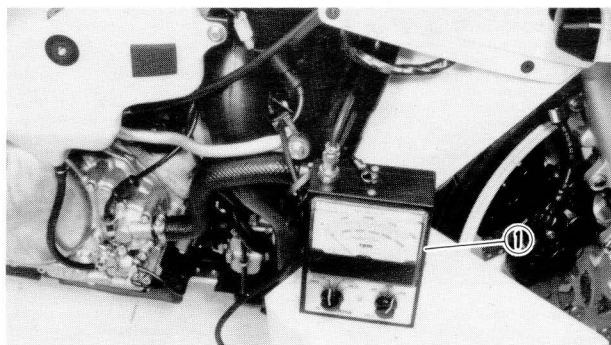


- 2.以下の調整をする。
 - スロットルケーブル遊び量
ロックナット①をゆるめ、アジャスタ②で調整する。



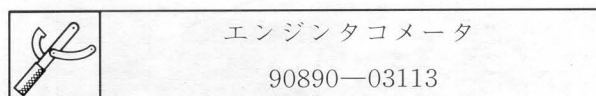
アイドリング調整

- 以下の部品を取外す。
 - フロントアンダボディ右



- 以下の機器をセットする。

- エンジンタコメータ①

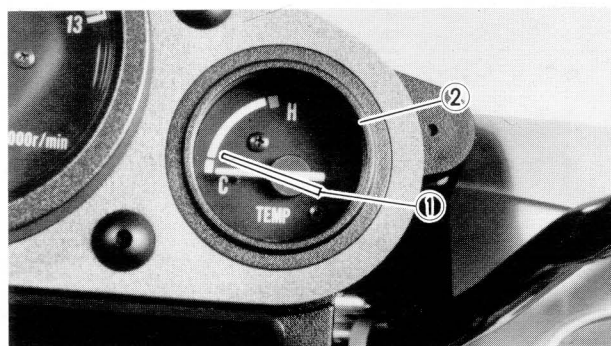


エンジンタコメータをハイテンションコードにセットする。

- 以下の確認をする。

- 水温計指針①

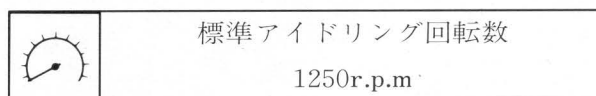
エンジンを始動し、水温計②の指針が図の位置になるまで暖機運転をする。



- 以下の調整をする。

- 標準アイドリング回転数

スロットルストップスクリュー①で標準アイドリング回転数に合わせ、スロットルグリップを数回まわして、アイドリング回転数に変化のないことを確認する。



オイルポンプ合マークの点検

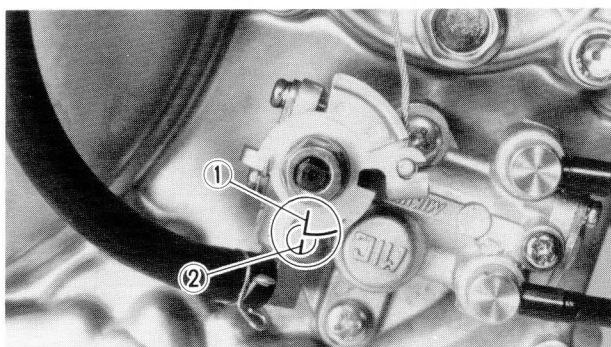
- 以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ

- 以下の点検をする。

- オイルポンプ合マークの点検

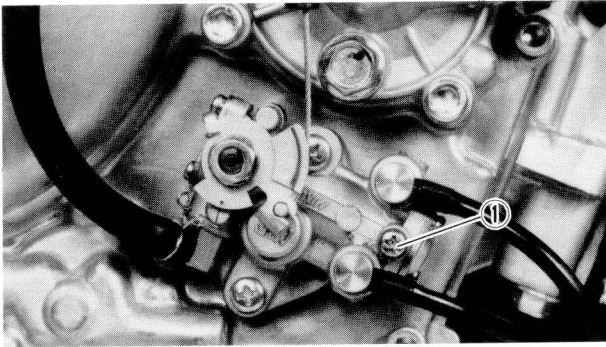
メインスイッチをONにしてバルブを1サイクルさせ(バルブ全開の位置)スロットルを全開にしたとき、プーリ端面①と刻線②が一致しているか点検する。



不一致→調整



3



3.以下の調整をする。

- オイルポンプ合マークの調整
ロックナットをゆるめて調整する。

オイルポンプエア抜き

1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ 2
- ブリーダボルト①

2.ブリーダ孔から気泡を含んだオイルが出なくなるまでオイルを流出させる。

整備要領

- オイルタンクにオイルを補給してから行う。
- オイルポンプ下部をウエス等でカバーする。
- エンジンまわりに付着したオイルはきれいに拭きとる。

3.以下の部品を組付ける。

- ブリーダボルト
- フロントアンダボディ 2

圧縮圧力の点検

1.暖機運転をする。

2.以下の部品を取外す。

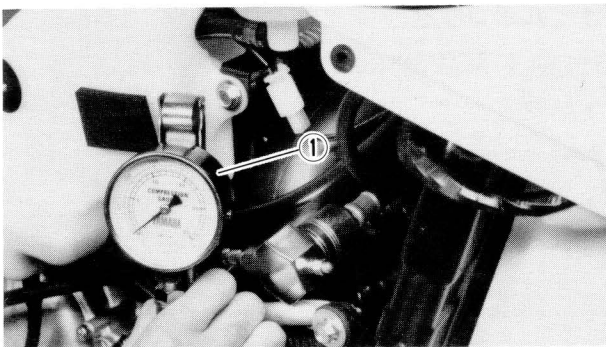
- フロントアンダボディ

3.以下の部品を取外す。

- スパークプラグ

4.以下の計器をセットする。

- コンプレッションゲージ①
コンプレッションゲージをスパークプラグ孔に圧縮漏れのないようにセットする。



コンプレッションゲージ


90890-03081



5.以下の点検をする。

• 圧縮圧力

スロットルを全開にし、力強くキックしてコンプレッションゲージ①の最高指示値を読みとる。

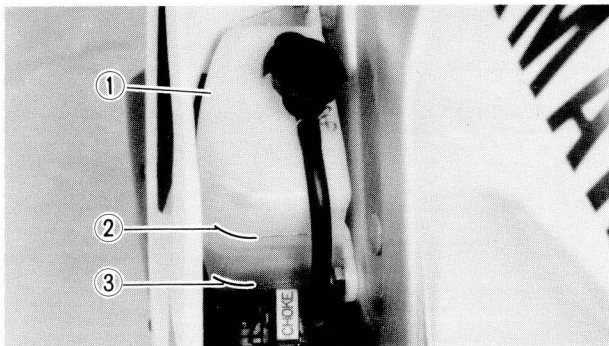
	標準圧縮圧力	7.0kg/cm ² -700rpm
	圧縮圧力限度	5.0kg/cm ² -700rpm

★圧縮圧力が低い場合

- a) シリンダヘッドガasketの破損
- b) シリンダの摩耗
- c) ピストン、ピストンリングの摩耗

★圧縮圧力が高い場合

- a) シリンダヘッド燃焼室のカーボン堆積
- b) ピストンヘッドのカーボン堆積



リカバリタンク水量点検

1.以下の点検をする。

• リカバリタンク水量

リカバリタンク①のFULLレベル②とLOWレベル③の間に水位があるか点検する。

LOWレベル以下→FULL-LOWレベル中間まで水道水を補給。

注意 補給する水は水道の水を使用し、井戸水(硬水)や塩分の含まれた天然水は使用しないこと。

整備要領 FULLレベル以上入れない。



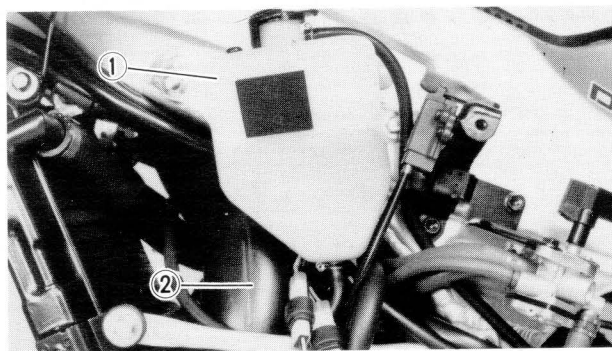
冷却水の交換

危険

- エンジン停止直後は冷却水が高温のため、冷却水の交換はエンジンが冷えてから行うこと。
- 冷却水が100℃以上あると思われる時はラジエタキャップを取外さないこと。
やむをえず取外す場合はタオルのような厚い布をかぶせてゆっくり取外すこと。
- 冷却水が車にかかった時は水洗いをする

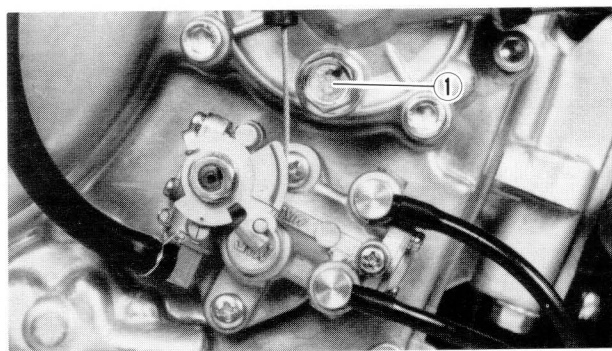
1. 以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ



2. 以下の部品を取外す。

- リカバリタンク①
- ブリーザパイプ②
リカバリタンクを外しブリーザパイプをリカバリタンク側で外し、リカバリタンク内の冷却水を抜く。

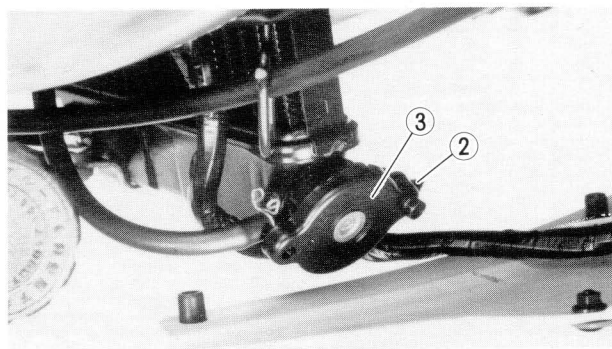


3. 以下の部品を取外す。

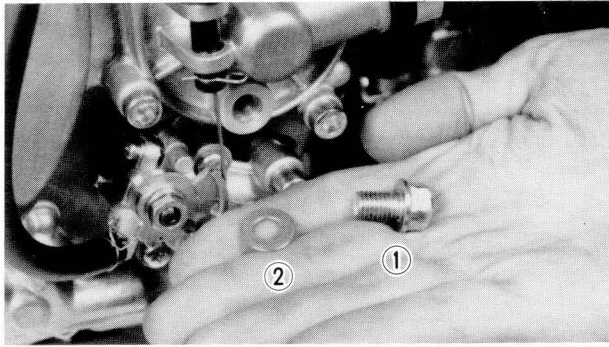
- ドレンボルト①
- ストップ②
- ラジエタキャップ③
ラジエタキャップをゆっくり取外し、冷却水を抜く。

整備要領

- ラジエタキャップはドレンボルトを取外し後に取外す。
- 平坦な場所で車を垂直にしないと冷却水は完全に抜けません。




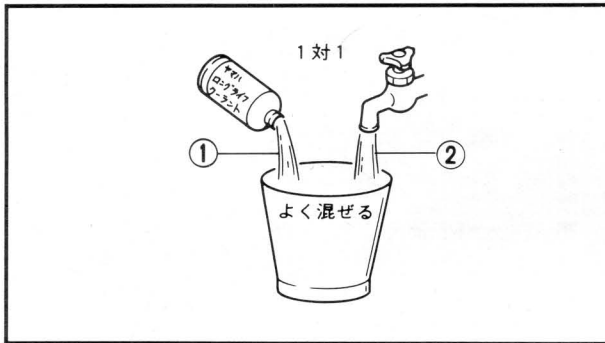
4. ラジエタより水道水を注入して、ラジエタ内を洗浄する。



5. 以下の部品を組付ける。

- ドレンボルト①
- ガasket②


	ドレンボルト
	1.6kg・m
New	ガスケット

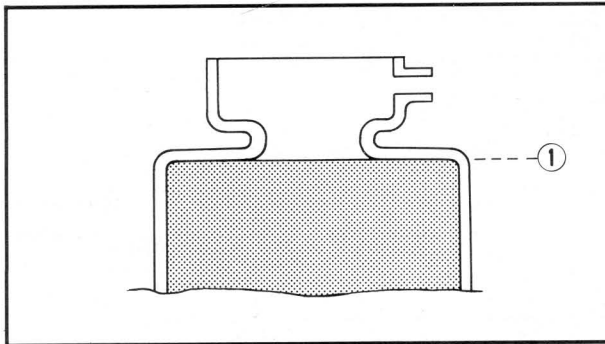


6. 冷却水を作る。

- ヤマハ純正ロングライフクーラント①
- 水道水②

ヤマハ純正ロングライフクーラントと水道水を1対1の割合で混合し、冷却水を作る。

	冷却水容量	エンジン/ラジエタ容量	1.30ℓ
		リカバリタンク容量	0.33ℓ
		総容量	1.63ℓ
交換時期		2年毎	
ヤマハ純正ロングライフクーラント		90890-70067	



7. 冷却水をラジエタ規定水面①までゆっくり注入する。

8. 以下の部品を組付ける。

- ラジエタキャップ
- リカバリタンク
- ブリーザパイプ

9. エンジンを始動する。

10. 以下の点検をする。

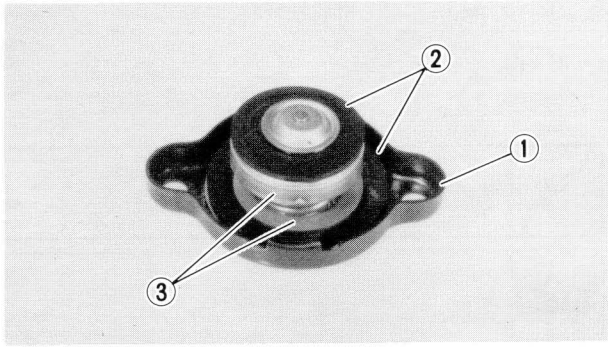
- エンジンを止め、冷却水が規定水面で安定しているか点検する。
規定水面以下→冷却水を補充して冷却水面が安定するまで行う。

11. リカバリタンクのFULL-LOWレベル中間まで冷却水を注入する。

整備要領	FULLレベル以上入れない。
-------------	----------------

12. 以下の部品を組付ける。

- フロントアンダボディ



ラジエタキャップの点検

1.以下の部品を取外す。

- エアスクープ1
- ストップ
- ラジエタキャップ

2.以下の点検をする。

- ラジエタキャップ①
- パッキン②
- 弁、弁座③

パッキンの亀裂、損傷、変形の有無

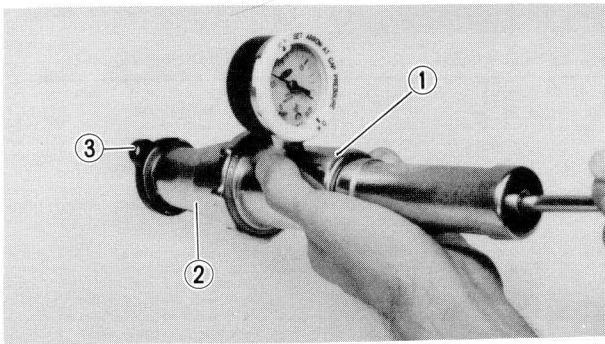
亀裂、損傷、変形→交換

弁、弁座の変形、打痕、水あかの有無

変形、打痕→交換

水あか→清掃または交換

3



ラジエタキャップ開弁圧の点検

1.以下の点検をする。

- ラジエタキャップ開弁圧

ラジエタキャップテスト①にアダプタ②、ラジエタキャップ③を組付け、テストを作動させ、標準圧力値内で5～10秒間保持できるか点検する。



標準圧力値

0.75～1.05kg/cm²



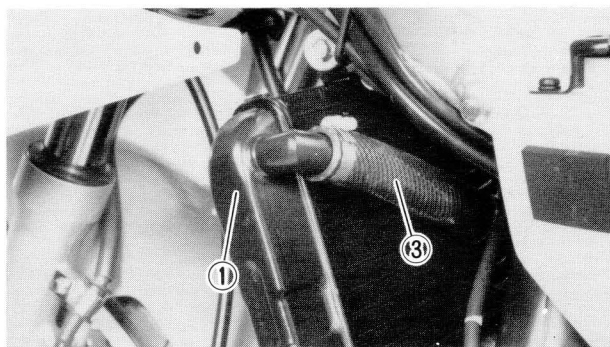
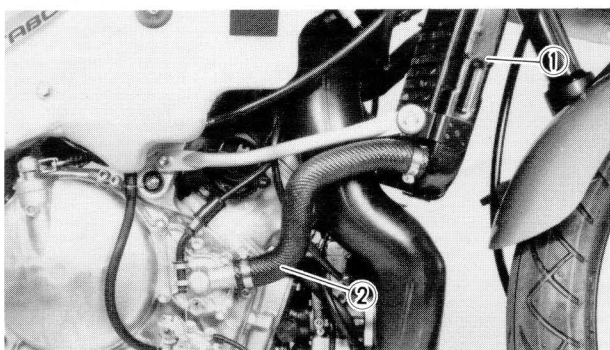
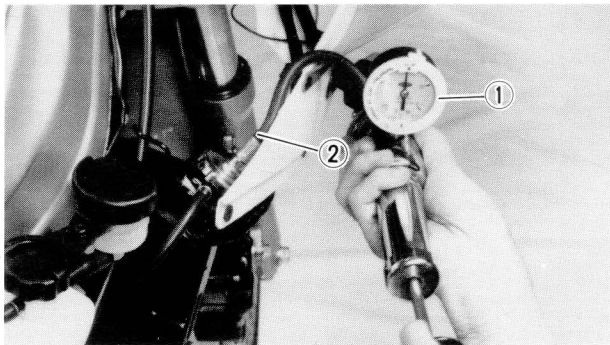
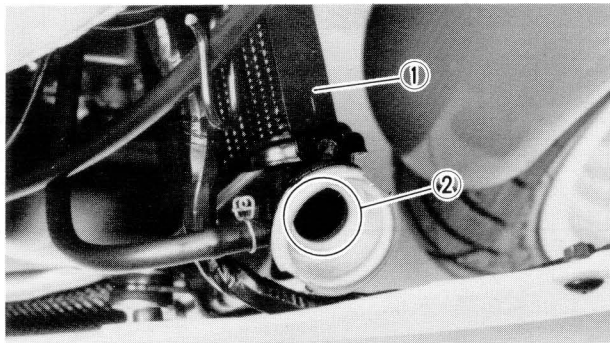
ラジエタキャップテスト

90890-01325

5～10秒間保持できない→交換

整備要領

- テスタにラジエタキャップを取付ける時、パッキンに水を塗る。
- 水あかが付着しているものは、清掃後点検する。



冷却水循環システム水漏れの点検

1.以下の点検をする。

- ラジエタ①
- 規定水面②

エンジンを暖機運転し、エンジンを止め、冷却水面を点検する。

規定水面以下→水道水を規定液面まで補充

2.以下の部品を組付ける。

- ラジエタキャップテスト①
- ラジエタキャップテストアダプタ②

ラジエタキャップテストにアダプタを組付けラジエタに組付ける。

3.テストを作動させ標準圧力値をかける。



標準圧力値

1.0kg/cm²

注意

- 標準圧力値以上の高圧力をかけないこと。
- シリンダヘッドガスケット交換後の点検は5～10分間アイドリング回転で運転後に点検すること。
- 冷却水は必ず規定水面まで入れて行うこと。

4.以下の点検をする。

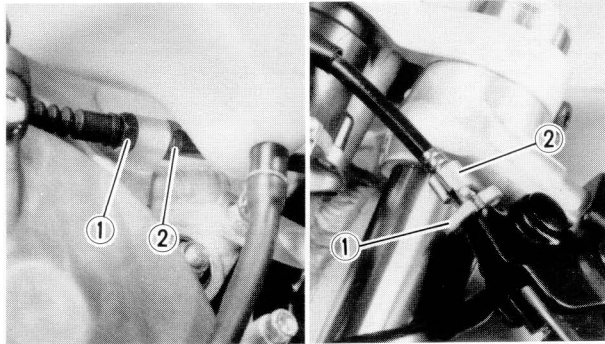
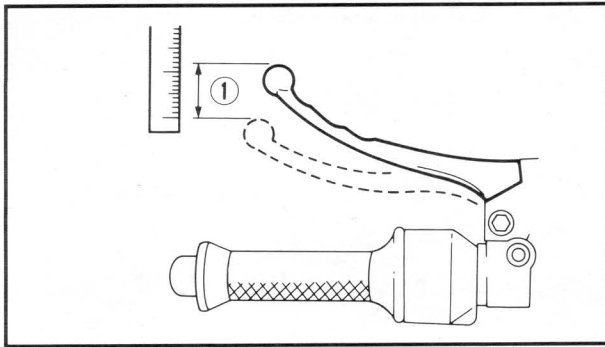
- ラジエタ①
- パイプ1②
- パイプ2③
- パイプ接続部

各部の水漏れおよびパイプのふくらみを点検する。

標準圧力値で5～10秒保持する→良好

パイプのふくらみ→交換

危険 ラジエタキャップテストを外す時冷却水が吹き出すので、ウエス等をかぶせて取外すこと。



クラッチの点検、調整

1.以下の点検をする。

- クラッチレバー先端部の遊び量①



クラッチレバー先端部の遊び量

10～15mm

規定値以外→調整

2.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ

3.以下の調整をする。

- ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整する。

(微調整はレバー側で行う。)

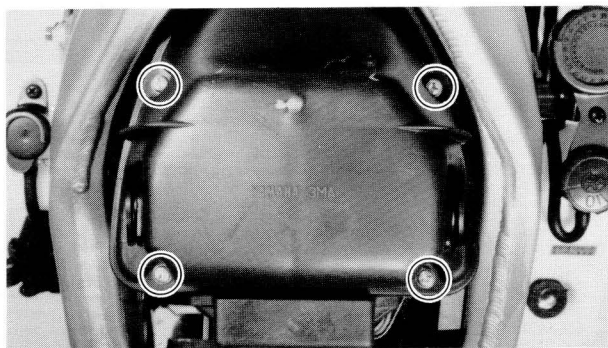
4.調整後、クラッチの作用を確認する。

エアクリーナエレメントの点検、清掃

注意 ガソリンや酸性、アルカリ性、有機性の揮発油で洗浄しないこと。

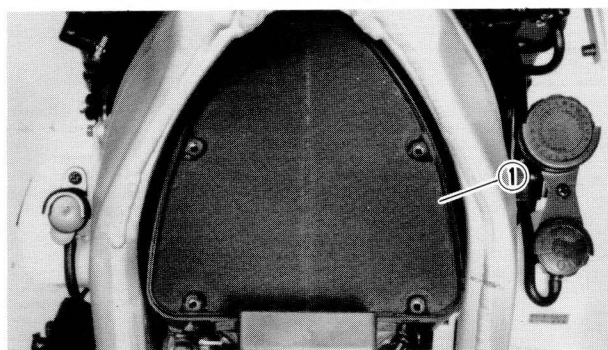
1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ
- シングルシート
- フュエルタンク



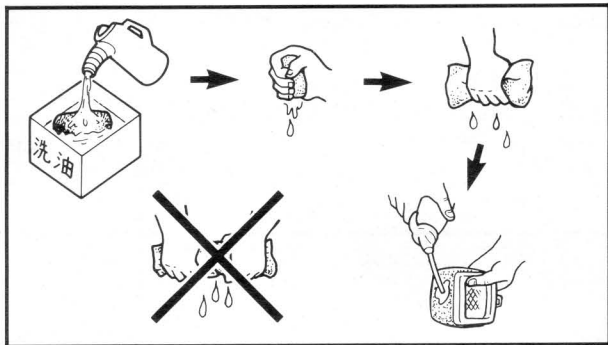
2.以下の部品を取外す。

- エアクリーナケースキャップ



3.以下の部品を取外す。

- エアクリーナエレメント①



4. 以下の点検、清掃をする。

- エアクリーナエレメントの破損の有無を点検する。破損のあるもの→交換
- エアクリーナエレメントを洗油で洗浄後、オートループオイルに浸してからウエス等で包み、軽く絞る。

注意 ガソリンや酸性、アルカリ性、有機性の揮発油で洗浄しないこと。

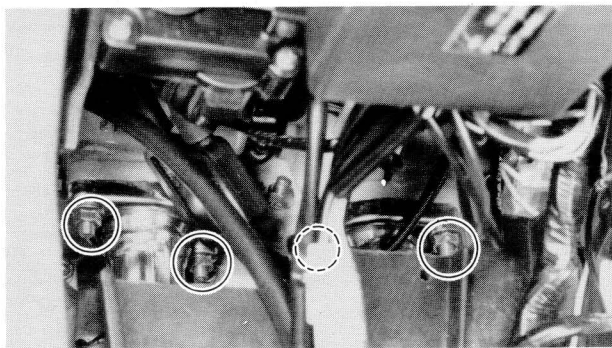
エキゾーストパイプ、サイレンサの点検

危険 エキゾーストパイプ、サイレンサの点検は、冷時間に行うこと。

3

1. 以下の部品を取外す。

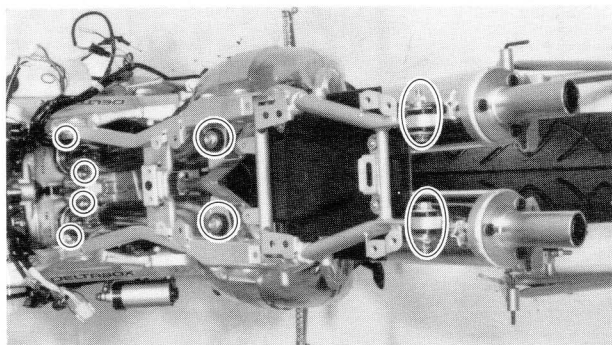
- フロントアングボディ
- シングルシート
- フュエルタンク
- サイドカバー
- テールカバー
- カバー

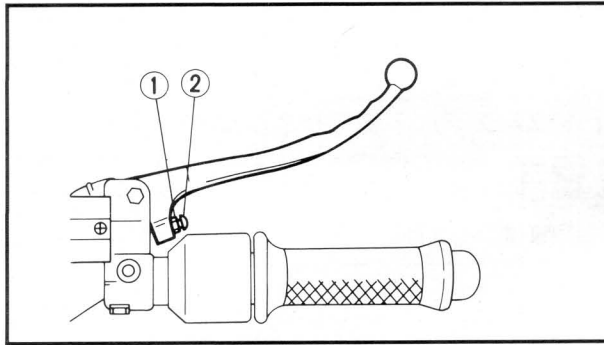
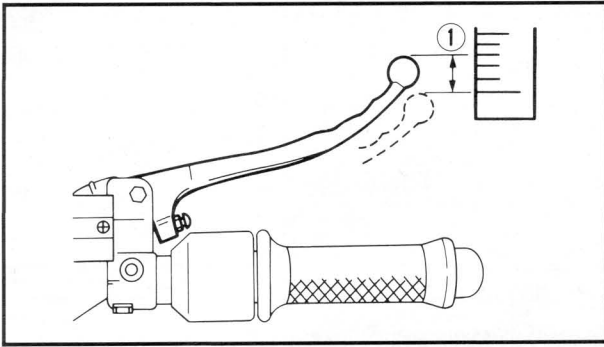


2. 以下の点検をする。

- リングナット取付ナットのゆるみ
- マフラ取付ボルトのゆるみ
- 排気ガスの漏れ
ゆるみ→増締め
漏れ→ガスケット交換または増締め

	リングナット締付ナット	1.8kg・m
	マフラ締付ボルト	1.8kg・m

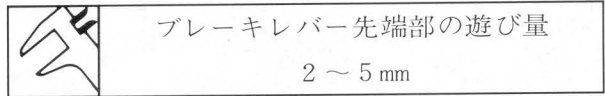




フロントブレーキの点検、調整

1.以下の点検をする。

- ブレーキレバー先端部の遊び量①



規定値以外→調整

2.以下の調整をする。

- ロックナット①をゆるめアジャスタ②で遊びが2～5mmになるように調整する。

危険 引き具合がやわらかく感じる時はブレーキ液漏れ、エア混入によるブレーキの効き不良の恐れがあるので、ブレーキ液量の点検、ブレーキホース接続部の増締めまたはエア抜きを行うこと。

エア抜き

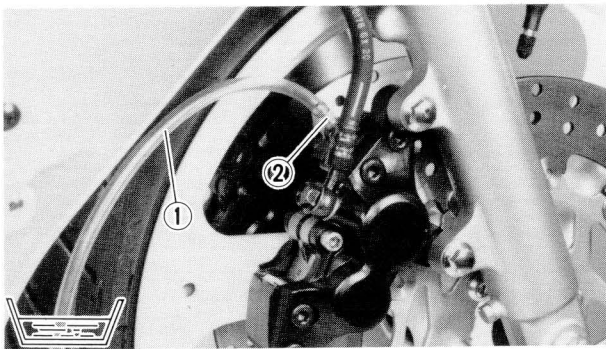
ブレーキフルードに関連する部品を取外した場合は各部の締付けを確認した後に必ずエア抜きを行う。

1.以下の部品を取外す。

- リザーバキャップ
- リザーバダイヤフラム

2.以下の部品を組付ける。

- ビニールパイプ①
- ブリードスクリュ②の先端にビニールパイプを組付け、ビニールパイプ先端に受皿を用意する。



3.ブレーキレバー(ブレーキペダル)を数回作動させた後、ブレーキレバー(ブレーキペダル)を一杯に握った(踏んだ)状態でブリードスクリュを約1/2回転ゆるめて再び締付ける。

整備要領 ブリードスクリュを締付けるまでブレーキレバー(ブレーキペダル)を放さない。



4. ブレーキレバー（ブレーキペダル）を放し、数秒後にゆっくり数回ブレーキレバー（ブレーキペダル）を作動させ、ブリードスクリュからエア（気泡）が出なくなるまで繰り返す。

整備要領 リザーバタンクにブレーキフルードを補充しながら行う。

危険 ブレーキレバー（ブレーキペダル）を握って（踏んで）ブレーキフルードの漏れがないか点検すること。

注意 ブレーキディスク、タイヤ、ホイール等に付着したブレーキフルードをきれいにふきとること。

5. 以下の部品を組付ける。

- リザーバダイヤフラム
- リザーバキャップ

ブレーキパッドの点検

1. 以下の点検をする。

- ブレーキパッド摩耗量
- インジケータ①とブレーキディスク②のすき間
すき間無し→ブレーキパッド交換

リザーバタンク液量の点検

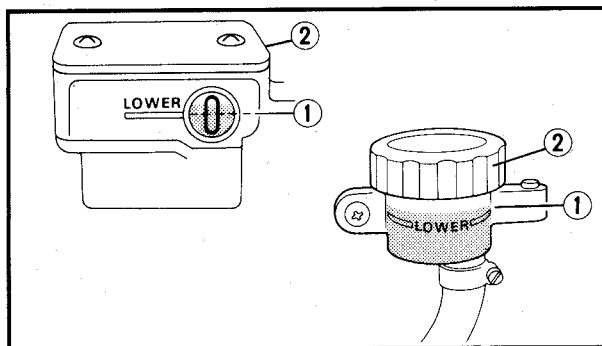
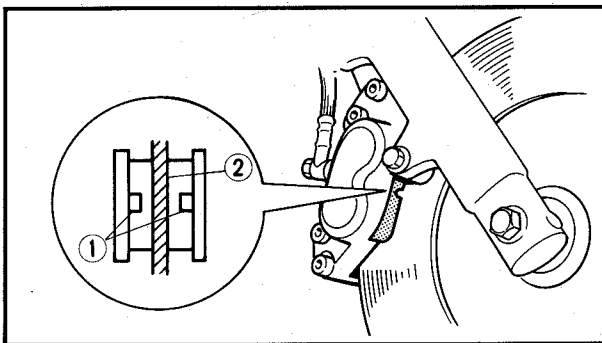
1. 以下の点検をする。

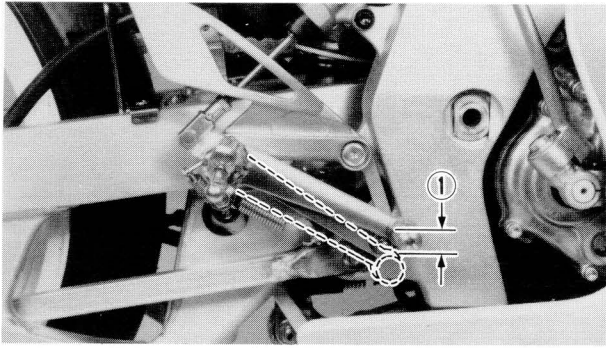
- ブレーキ液面
リザーバキャップ②面を水平な状態にし点検する。
ロアレベル以下→ブレーキフルードをロアレベル①以上に補給する。

ヤマハブレーキフルード DOT3またはDOT4

注意

- 銘柄の異なるブレーキフルードの混合使用をしないこと。
- ブレーキフルードを塗装面、プラスチック、ゴム類に付着させると部品が損傷するので付着させないこと。付着したブレーキフルードは直ちに拭き取ること。





リヤブレーキの点検、調整

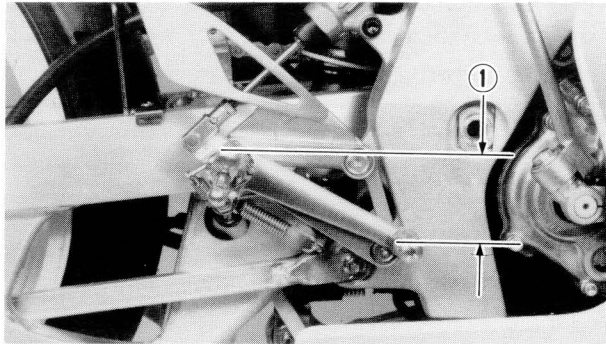
1.以下の点検をする。

- ブレーキペダル先端の遊び量①



ブレーキペダル先端部の遊び量
13~15mm

規定値以外→マスタシリンダ、リザーバタンクを点検(遊びの調整はできない)



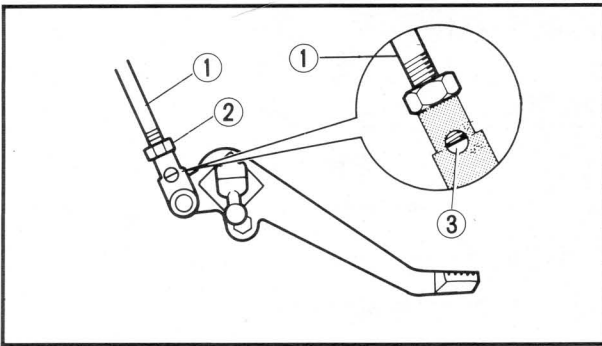
2.以下の点検をする。

- ブレーキペダルの取付高さ①



ブレーキペダル取付高さ
50mm

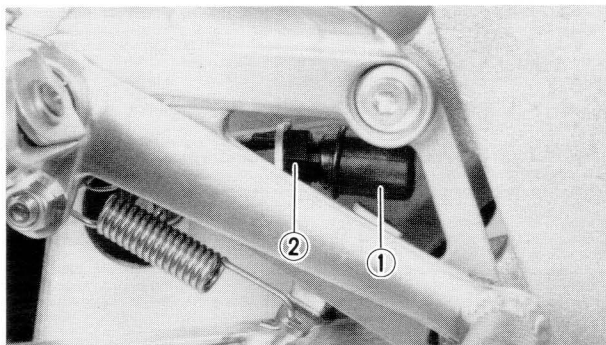
規定値以外→調整



3.以下の調整をする。

- ロックナット②をゆるめ、点検孔③からロック①の先端部が見える範囲で調整する。

危険 踏み具合がやわらかく感じる時はブレーキ液漏れ、エア混入によるブレーキの効き不良の恐れがあるので、ブレーキ液量の点検、ブレーキホース接続部の増締めまたはエア抜きを行うこと。



リヤストップスイッチの点検

1.以下の点検をする。

- ストップランプの点灯
- ブレーキペダルを13~15mm踏み込んだとき、ストップランプが点灯するか点検する。
13~15mm踏み込んでも点灯しない→調整(アジャスタを回して調整する。)
- リヤストップスイッチ①
- アジャスタ②

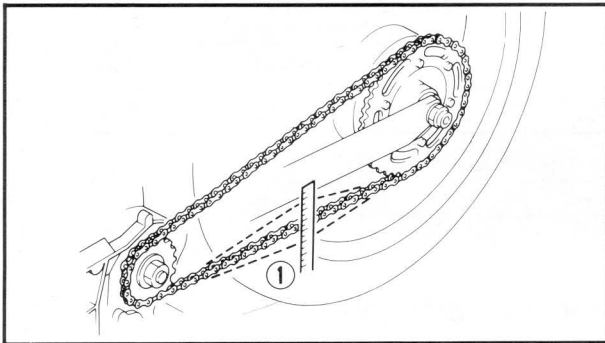


ドライブチェーンの点検、調整

整備要領 チェーンの洗浄は水または中性洗剤を使用し、給油はSAE30～50のモータオイルを給油する。

禁止

- スチーム洗浄は行わないこと。
- シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用して洗浄しないこと。



1. 以下の点検をする。

● たわみ量①

サイドスタンドを使用した状態で、前後スプロケット中央でのたわみ量を点検する。



たわみ量

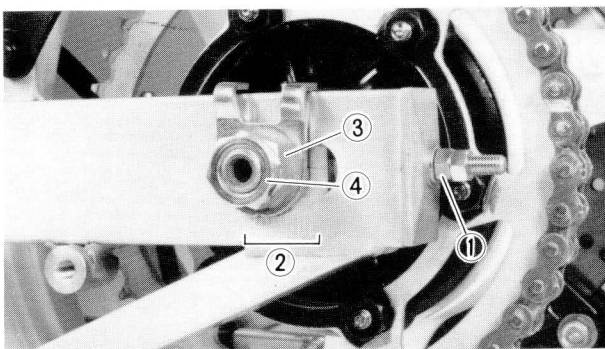
30～40mm

規定値以外→調整

調整

1. 以下の部品をゆるめる。

- リヤアクスルロックナット
- リヤアクスルナット



2. 以下の調整をする。

- たわみ量
- アジャスタ①を回してたわみ量を調整する。

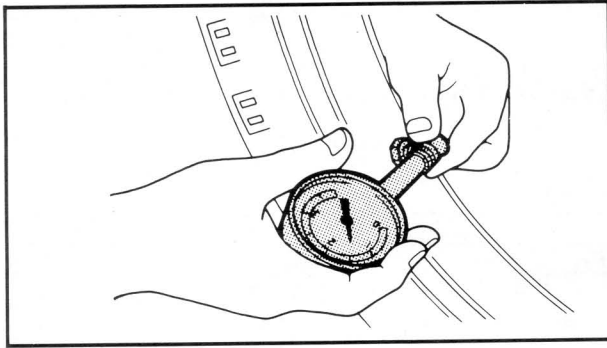
整備要領 アジャスタ刻み目盛②を左右同じ位置に合わせる。

3. 以下の部品を締付ける。

- リヤアクスルナット③
- リヤアクスルロックナット④



リヤアクスルナット	9.0kg・m
リヤアクスルロックナット	4.5kg・m



ホイールの点検

空気圧の点検

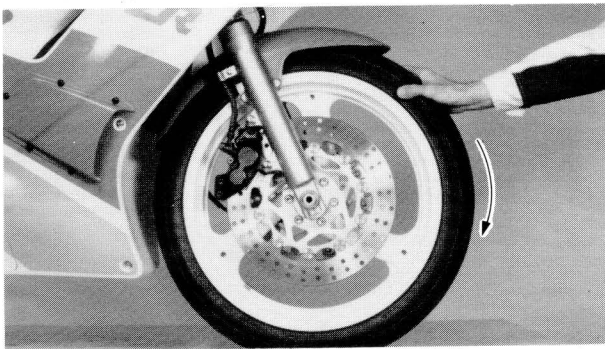
1.以下の点検をする。

- 空気圧
タイヤが冷えているとき、タイヤゲージを使用して点検する。

		前輪	後輪
1名乗車	一般	2.00kg / cm ²	2.25kg / cm ²
	高速	2.00kg / cm ²	2.50kg / cm ²
2名乗車	一般	2.00kg / cm ²	2.50kg / cm ²
タイヤサイズ		110/70R 17 54H	140/60R 18 64H
指定タイヤ	ダンロップ	K610F	K610
	ブリヂストン	CY15	CY16

規定値以外→調整

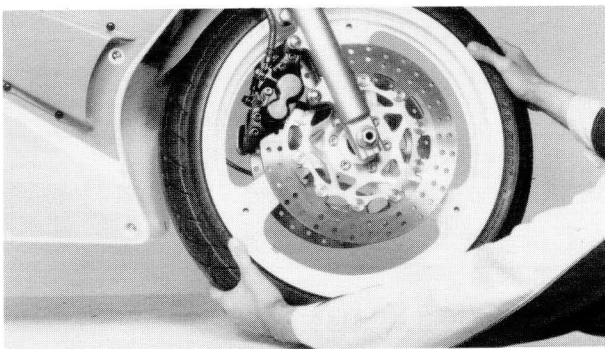
3



ホイールの振れ、がたの点検

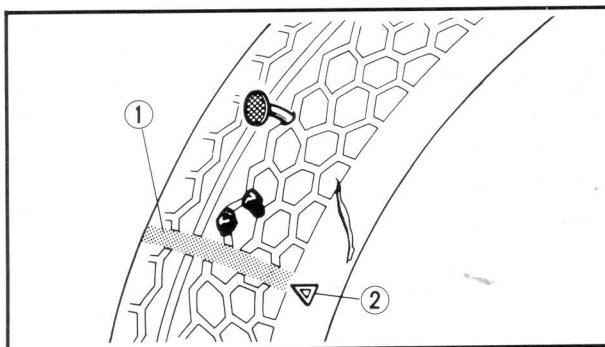
1.以下の点検をする。

- フロントホイールを浮かして、ゆっくり回し異状な振れ、異音、回転不良の有無を点検する。
異状な振れ→修正または交換
異音、回転不良→ホイールベアリングを交換



2.以下の点検をする。

- タイヤの両端に手をかけて動かし、ホイールベアリングのがたの有無を点検する。
がた→ホイールベアリングを交換



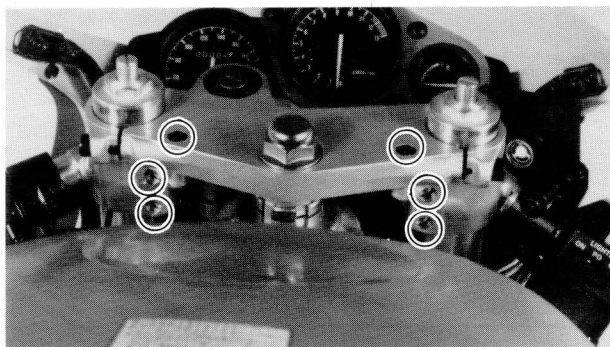
タイヤの点検

1.以下の点検をする。

- 亀裂、損傷、局所的な異状摩耗、残り溝の深さ、異物のかみ込みの有無を点検する。
ウエアインジケータ①
ウエアインジケータ表示マーク②

	タイヤ摩耗使用限度
	前後輪とも0.8mm


ウエアインジケータの現われたもの→交換



ハンドル、ステアリングの点検

1.以下の点検をする。

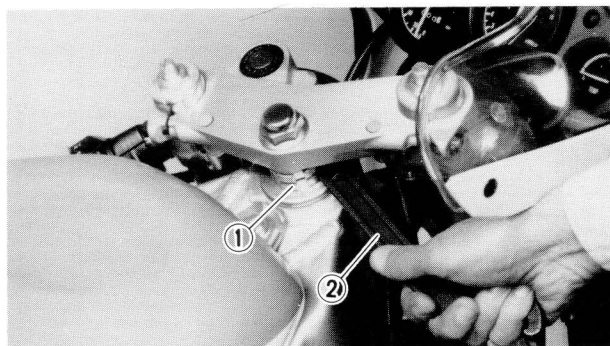
- ハンドル取付ボルトの締付け具合を点検する。

	ハンドルとハンドルクラウン	1.0kg・m
	ハンドルとインナチューブ	2.3kg・m



2.以下の点検をする。


- フロントホイールを浮かした状態で、フロントフォーク下部を前後に動かし、ステアリング部のがたの有無を点検する。
- ハンドルが左右に円滑に動くか点検する。
がた、作動不良→ステアリングフィッティングナットの締付け具合の調整



調整

1.以下の調整をする。

- ステアリングフィッティングナット①
エキゾーストリング&ステアリングナットレンチ②を使用して調整する。

	エキゾーストリング&ステアリングナットレンチ	
		90890—01268



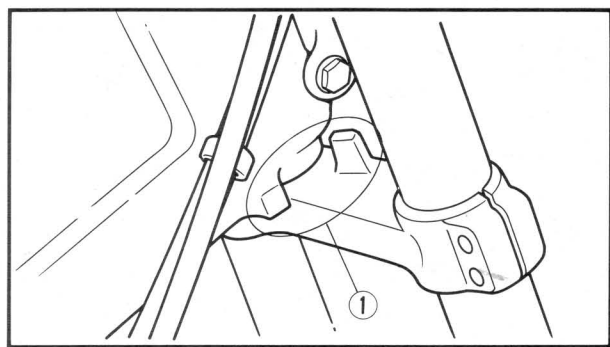
フロントフォーク、アンダブラケットの点検

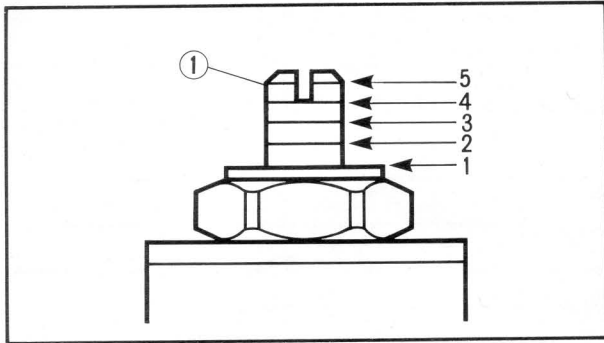
1.以下の点検をする。

- フロントフォークの損傷、オイル漏れの有無を点検する。
- フロントフォークを上下に動かし、曲り等による異音の有無を点検する。
損傷、オイル漏れ → 異状部品を交換
曲り、異音 →

2.以下の点検をする。

- ストッパ①
アンダブラケット部のストッパの変形、損傷の有無を点検する。
変形、損傷→アンダブラケット交換





フロントフォーク初期スプリング荷重の調整

1.以下の調整をする。

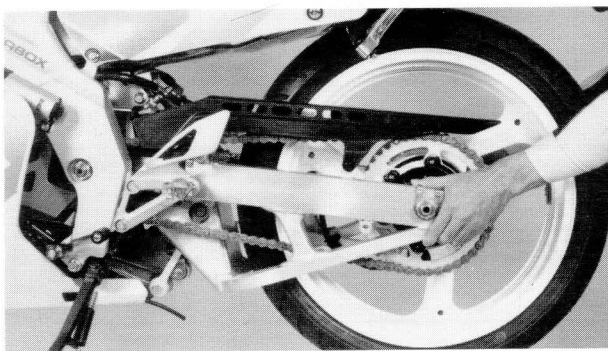
- 初期スプリング荷重

アジャスタ①を回すことにより初期スプリング荷重の調整ができる。

アジャスタ締め込む	スプリング固くなる
アジャスタゆるめる	スプリング柔らかくなる

整備要領 アジャスタは左右同位置に合わせる
こと。

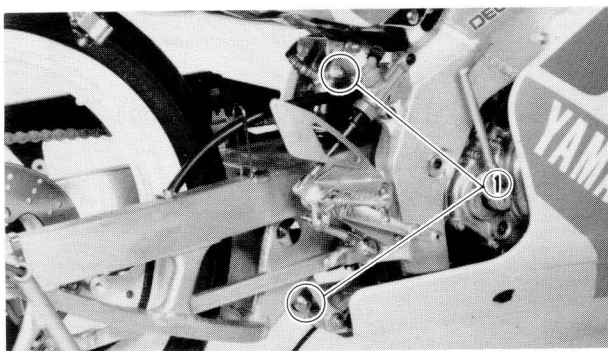
スプリングの強さ	弱←	標準	強
アジャスタ位置	1←	2	→5



リヤアームの点検

1.以下の点検をする。

- リヤアームを前後、左右に動かしてがたの有無を点検する。
がた→ブッシュ、ベアリングを交換



リヤクッションの点検

1.以下の点検をする。

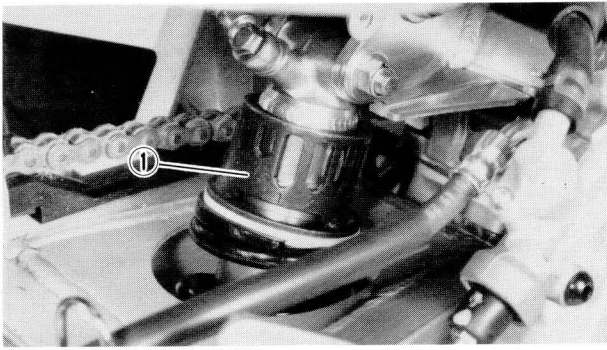
リヤクッション取付部①のゆるみの有無を点検する。

ゆるみ→増締め

	リヤクッション上	4.0kg・m
	リヤクッション下	4.0kg・m

2.以下の点検をする。

- クッションよりのオイル漏れの有無を点検する。
オイル漏れ→交換

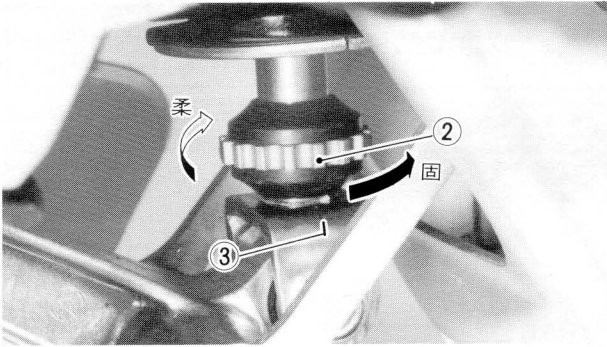


リヤクッションの調整

1. 以下の調整をする。

- アジャスタ①を回すことにより初期スプリング荷重を調整できる。

	弱	標準	強
アジャスタ	1 ←	3	→ 7



2. 以下の調整をする。

- ダンピングアジャスタ
アジャスタ②の●印とアッパブラケット③の刻線を合わせる。

	固い	柔らかい
アジャスタ	時計回転	反時計回転



バッテリーの点検

充電方法

- このバッテリーは密閉式です。密封栓は充電時でも外さないで下さい。
- 補水は絶対しないで、充電時は12Vで下記電流と時間を守って下さい。

標準：0.4A×5時間又は急速：4A×30分間

バッテリーの取扱いにご注意

このバッテリーは12V用で液量点検及び補水不要な密閉式です。次の点に特にご注意ください。

- 充電時等いかなる場合においても密封栓は絶対に外さないで下さい。(密封栓を外さないかわりにガス排気弁を設けてあります)
- 充電状態の点検は、デジタルボルトメーターまたはバッテリーテスタを用い電圧測定により行って下さい。(規定電圧：12.8V以上)
- この電池は密閉タイプバッテリー装着車以外には使用しないで下さい。

バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取扱いを誤ると爆発や火傷をすることがあります。

充電時等に必ず守っていただきたいこと

- 火気厳禁—ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気は危険(爆発)
- バッテリー液(希硫酸)に注意—皮膚、目、衣服につくと危険(やけど、失明等)

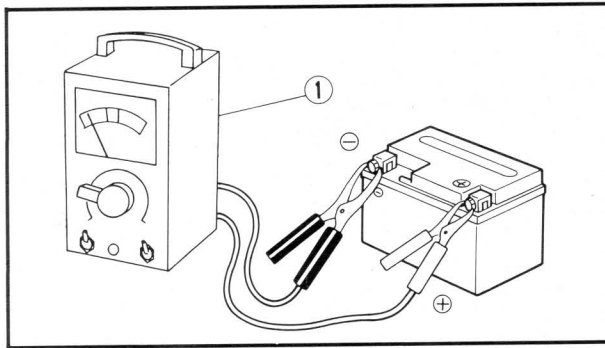
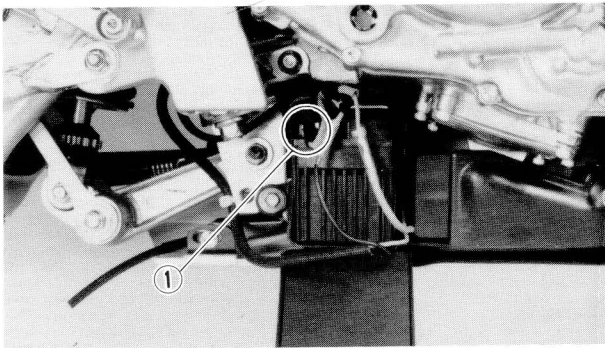
応急手当

- 皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗う。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受ける。

DANGER

子供の手の届く所に置かないでください。
KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

3



1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ

2.以下の点検をする。

- バッテリーターミナルの緩み①
緩み→増締め

3.以下の部品を取外す。

- バッテリー

整備要領 リード線は必ず先に⊖リード線、次に⊕リード線を取外す。

4.以下の点検をする。

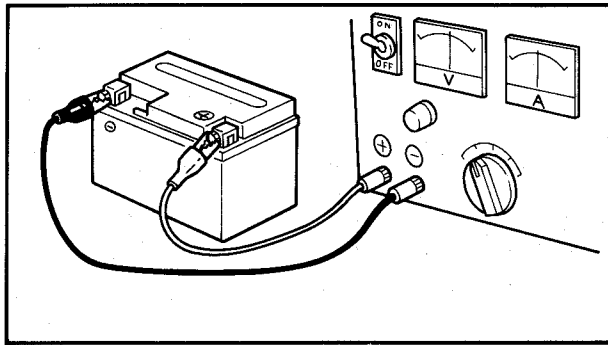
- バッテリー電圧

二輪車用バッテリーテスタ①を使用して点検する。

	完全充電時	緑帯範囲内
	充電不足時	黄又は赤帯範囲

黄又は赤帯範囲→補充電

整備要領 二輪バッテリーテスタの使い方は、取扱説明書に従って行う。



補充電

注意

- 火気厳禁。
- 蒸留水の補給は絶対にしないこと。
- 充電時でも密封栓は絶対に外さないこと。
- 充電はバッテリー単体で行うこと。
- 充電は必ず規定の電流及び電圧で行うこと。
- 急速充電は緊急時以外は行わないこと。
- バッテリー交換時は従来型バッテリーを使用しないこと。必ず密閉タイプバッテリーを使用すること。

・補充電は規定の電流及び電圧で行なう。

	標準充電	0.4A×5時間
	急速充電	4.0A×30分
	充電完了値	12.8V以上

3

スパークプラグの点検

注意

プラグの取外しはシリンダヘッドの泥、ホコリを取除いてから取外す。

1.以下の部品を取外す。

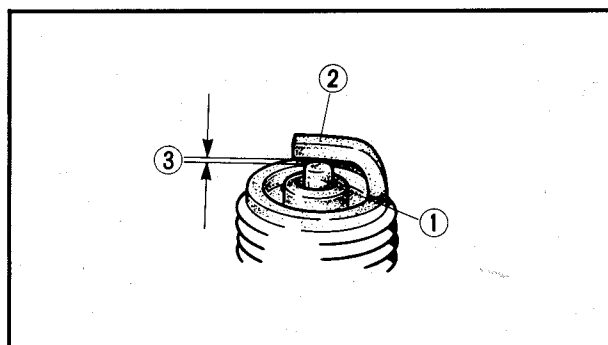
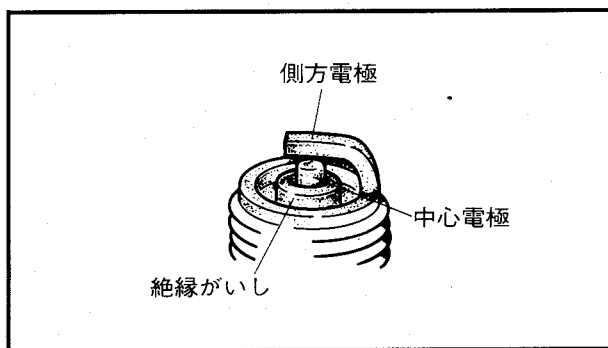
- ・フロントアンダボディ
- ・スパークプラグ

2.以下の点検をする。

- ・電極、絶縁がいしの汚れ、焼損、堆積物
焼損→交換
汚れ、堆積物→プラグクリーナ、ワイヤブラシ等で清掃

3.以下の点検をする。

- ・電極すき間
中心電極①と側方電極②とのすき間③を測定する。



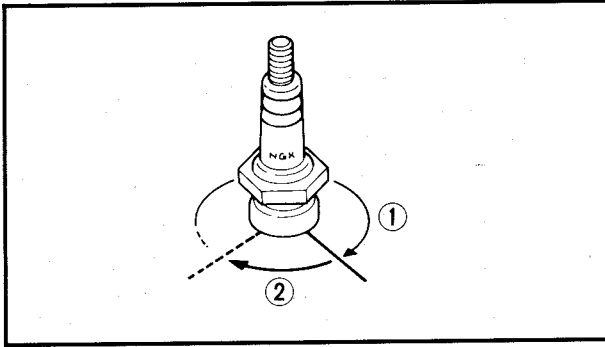
	電極間のすき間 0.7~0.8mm
--	----------------------

規定値以外→側方電極を曲げて調整する。

標準プラグ型式

標準プラグ	BR8ES, BR9ES, BR10EV
メーカー	NGK

※○は工場出荷時の装着プラグ



スパークプラグの締付け

- 指先で一杯に締付けて①から規定のトルク②で締付ける。

	スパークプラグ
	2.0kg・m

整備要領

- 取付け前にガスケット、プラグ表面を清掃する。
- 規定の締付トルク以上に締付けない。

信号、照明の点検

ハロゲンランプの取扱い

危険

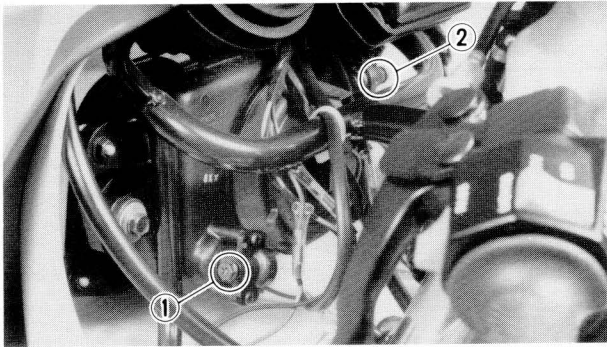
- ヘッドランプ点灯中及び消灯直後はバルブが高温になっているので可燃物や手を近づけないこと。
- バルブが冷えるまで触れないこと。

注意

バルブのガラス部分に直接手で触れたり、オイルを付着させると、ガラスの透明度、バルブの寿命、明るさに影響を与えるのでアルコールかシンナーできれいに拭き取ること。

1. 以下の点検をする。

- 電気配線に損傷、接続部の緩み、クランプに緩みがないか点検する。
- ヘッドライト、テール/ストップライトが点灯するか点検する。
- フラッシュを左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するか点検する。



照射角の点検

1. 以下の点検をする。

- ヘッドライトの明るさ、照射方向、角度に異常がないか、壁などに照射して点検する。

照射角度に異常があるときは照射方向調整スクリューを左右に回して調整する。

上下調整用スクリュー①

左右調整用スクリュー②

計器の作用

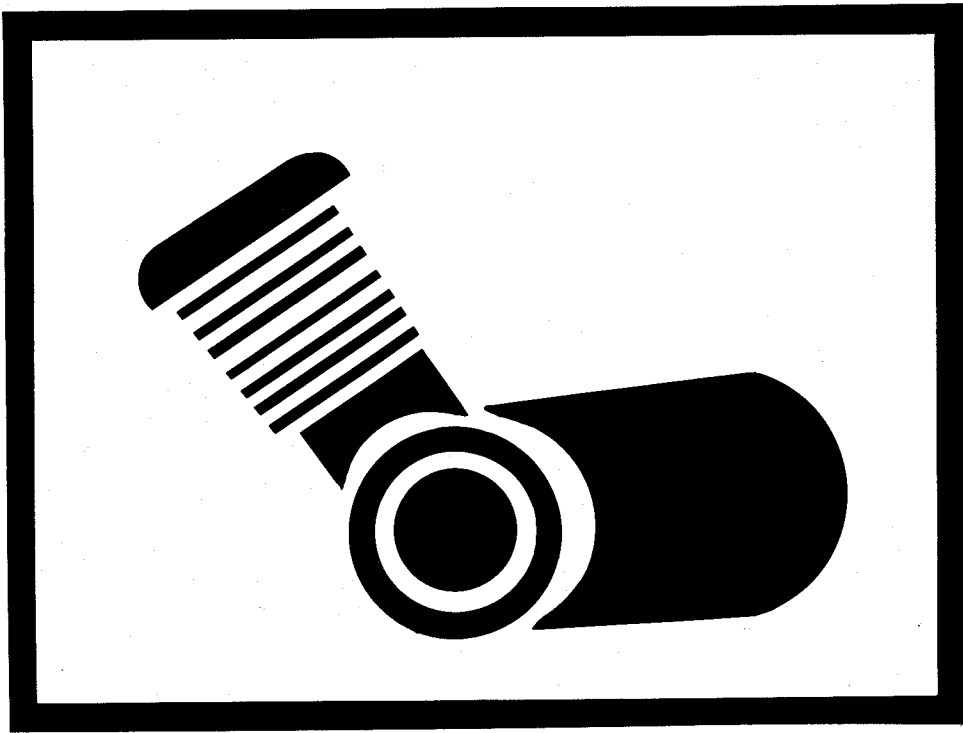
1. 以下の点検をする。

- 走行してスピードメータの指針が速度に応じて滑らかに追従するか点検する。
- タコメータの指針がエンジン回転数に応じて滑らかに追従するか点検する。



3

第4章 エンジン編





次に示す箇所は、エンジンが車載の状態のできる整備である。

●シリンダヘッド、シリンダ、ピストン、ピストンリング

1. フロントアンダボディ、シングルシート、サイドカバー、テールカバーを取外す。
2. フュエルタンクを取外す。
3. ラジエタを取外す。
4. エアクリーナダクトを取外す。
5. キャブレタを取外す。
6. Y.P.V.Sプーリを取外す。
7. マフラを取外す。
8. プラグキャップ、サーモユニットリード線を取外す。以下はP4-8参照

●クラッチ

1. フロントアンダボディを取外す。
2. ギヤオイルを抜く。
3. 冷却水を抜く
4. ポンプケーブルを取外す。
5. オイルパイプ、オイルデリバリパイプを取外す。以下はP4-10参照

●キックスタータ

1. クラッチAss'yを取外す。以下はP4-12参照

●トランスミッション、シフトシャフト

1. クラッチAss'yを取外す。
2. キックスタータを取外す。
3. シフトアーム、チェンカバー、ドライブsprocket、ドライブチェーンを取外す。以下はP4-13参照

●オートループポンプ

1. フロントアンダボディを取外す。
2. ポンプケーブルを取外す。
3. デリバリパイプ、オイルパイプを取外す。
4. オイルポンプを取外す。

●オートループポンプドライブギヤ

1. クランクケースカバー右を取外す。以下はP4-11参照

●オイルポンプ、オイルストレーナ

1. クランクケースカバー右を取外す。以下はP4-12参照

●C.D.Iマグネット

1. フロントアンダボディを取外す。
2. シングルシート、サイドカバーを取外す。
3. ゼネレータカバーを取外す。
4. シフトアーム、チェンカバーを取外す。以下はP4-14参照

●バランサ

1. クラッチAss'yを取外す。
2. C.D.Iマグネット、ベースを取外す。
3. オイルパンを取外す。
4. バランサギヤを取外す。以下はP4-16参照



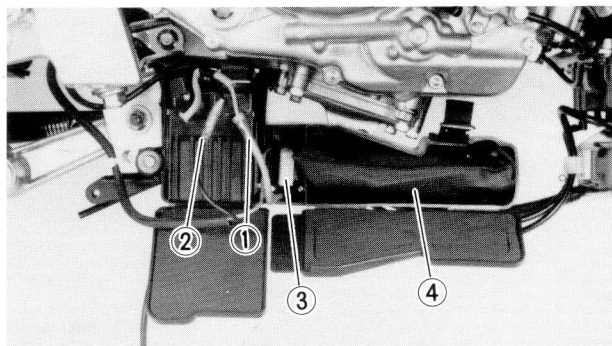
エンジンの取外し

整備要領

- クランクケース、クランクシャフトの整備のため、エンジン脱着作業を説明する。
- 取外した部品は、各セクション別にまとめて置く。

フロントアンダボディ、サイドカバー、テールカ バーの取外し

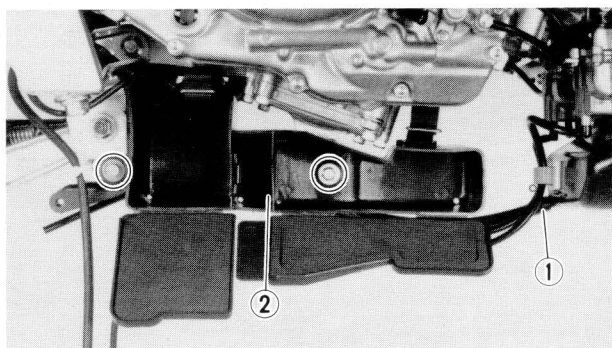
(P3-3、4参照)



バッテリー、バッテリーボックスの取外し

1. 以下の部品を取外す。

- バッテリー⊕リード線①
- バッテリー⊖リード線②
- ヒューズボックス③
- 車載ツール④



2. 以下の部品を取外す。

- ブリーザパイプ①
 - バッテリーボックス②
- ブリーザパイプはエアクリーナ側で取外す。

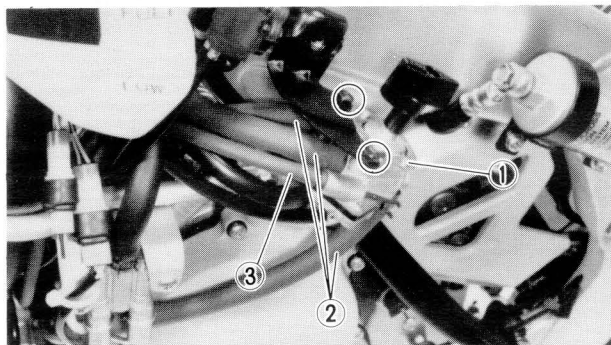
フュエルタンクの取外し

1. 以下の部品を取外す。

- フュエルタンク取付ボルト



2. フュエルタンクをすこし持ち上げ、フュエルサブコックをOFFの位置にする。



3. 以下の部品を取外す。

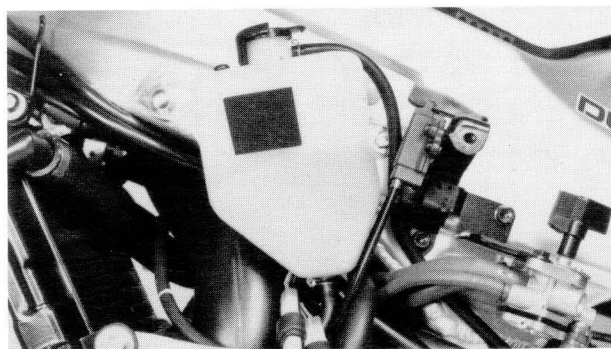
- フュエルコック①
- フュエルパイプ②
- 負圧パイプ③

フュエルコックをONまたはRESの位置にしてからパイプ類を取外す。

4. 以下の部品を取外す。

- フュエルタンク
- オーバフローパイプ

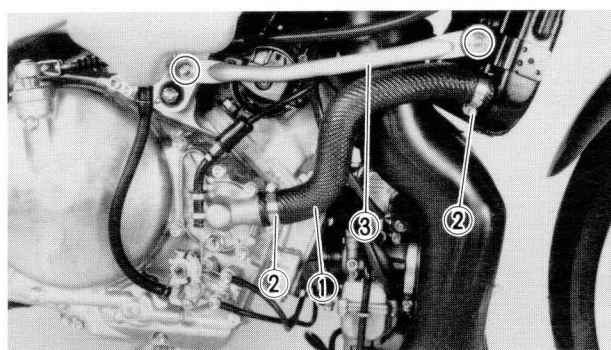
4



ラジエタの取外し

1. 以下の部品を取外す。

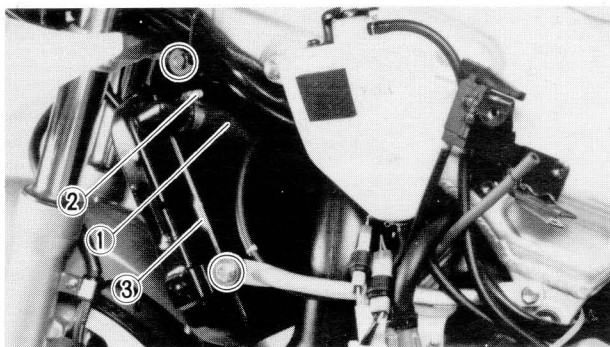
- ホース
ホースを外しリカバリタンク内の冷却水を抜く。



2. 冷却水を抜く。(P3-11参照)

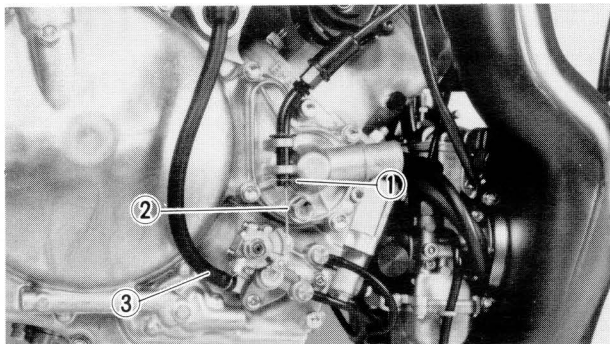
3. 以下の部品を取外す。

- パイプ1①
- クランプホース②
- ステア③



4.以下の部品を取外す。

- パイプ 2 ①
- クランプホース ②
- ラジエタ ③

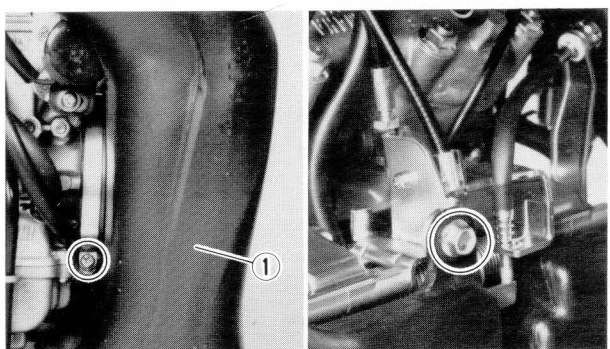


ポンプケーブル、オイルパイプの取外し

1.以下の部品を取外す。

- クリップ ①
- ポンプケーブル ②
- オイルパイプ ③

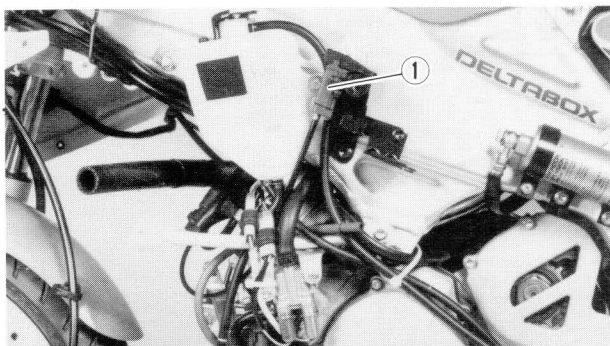
オイルがこぼれないように栓等をしておく。



エアクリーナサイレンサの取外し

1.以下の部品を取外す。

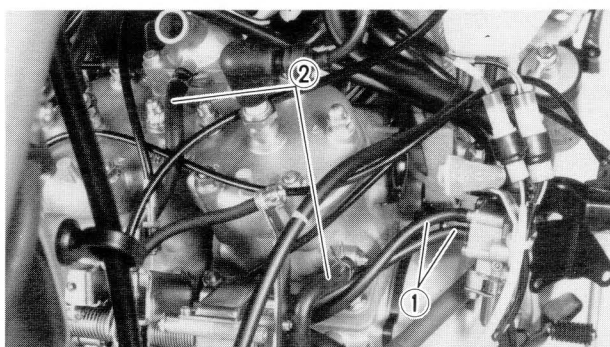
- カバー
- サイレンサ ①



キャブレタの取外し

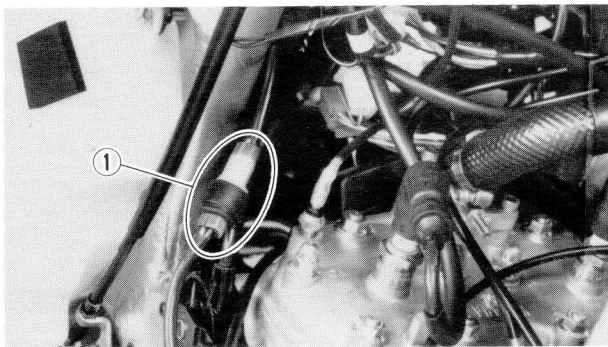
1.以下の部品を取外す。

- スタータケース ①



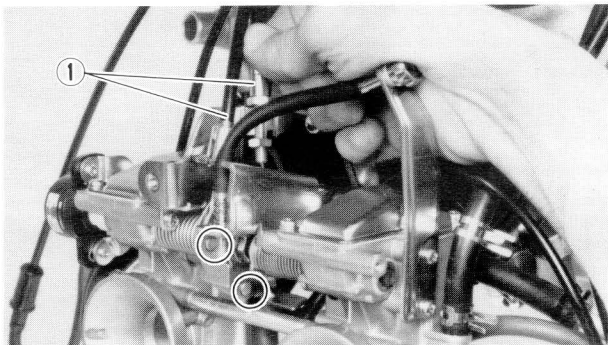
2.以下の部品を取外す。

- ホース ①
- 温水パイプ ②



3.以下の接続を外す。

- スロットルポジションセンサカプラ①



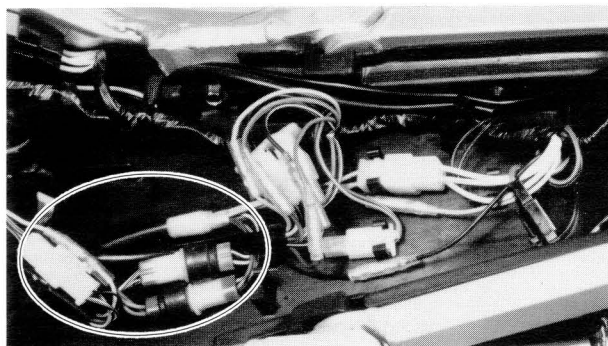
4.以下の部品を取外す。

- キャブレタ
キャブレタジョイントクランプをゆるめて取外す。

5.以下の部品を取外す。

- スロットルケーブル①

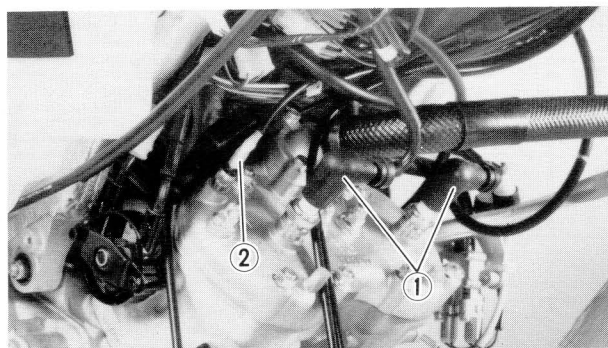
4



各配線の取外し

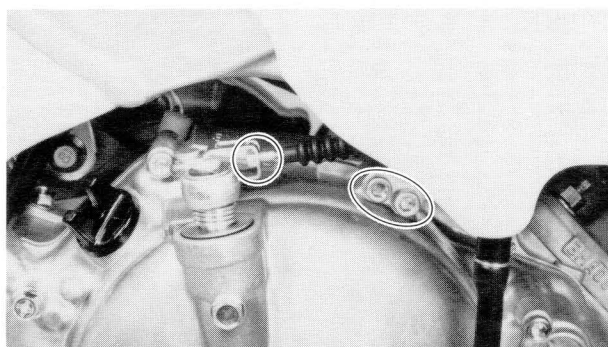
1.以下の接続を外す。

- C.D.Iマグネトリード線



2.以下の接続を外す。

- プラグキャップ①
- サーモユニットリード線②



クラッチケーブルの取外し

1.以下の部品を取外す。

- クラッチケーブル



Y.P.V.Sプーリの取外し

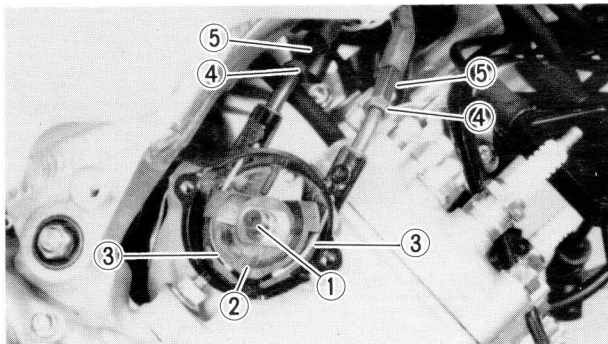
1.以下の部品を取外す。

- プレート

2.以下の部品を組付ける。

- ϕ 4 mmピン

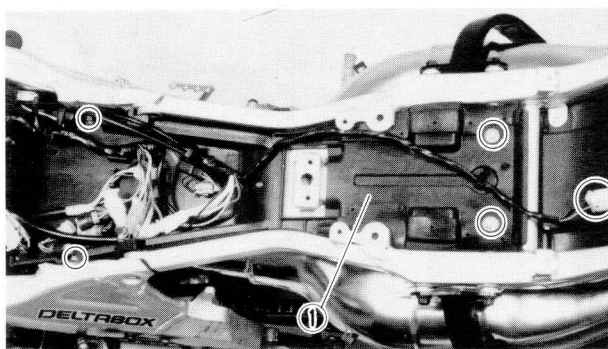
プーリ溝に組付ける。



3.以下の部品を取外す。

- ボルト①
- プーリ②
- プーリケーブル③

プーリケーブルのロックナット④をゆるめアジャスタ⑤を一杯まで締め、プーリを取外す。



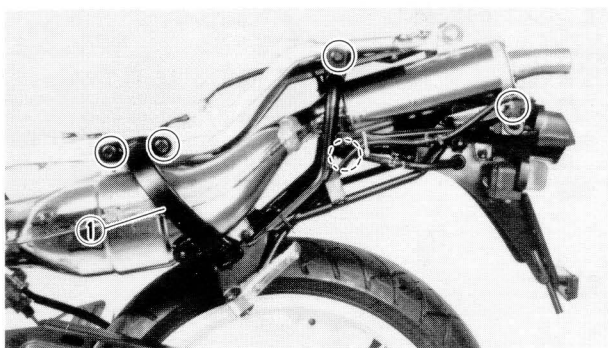
マフラの取外し

1.以下の接続を外す。

- テール / ストップランプ、リヤフラッシュカプラ

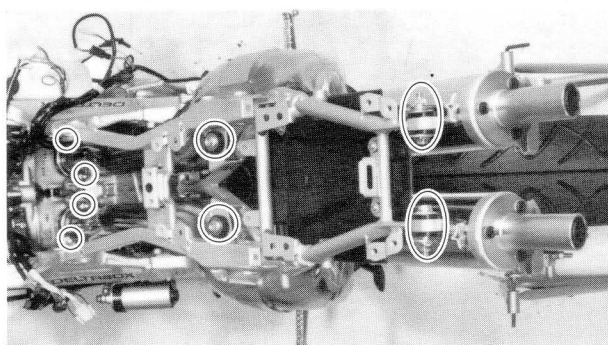
2.以下の部品を取外す。

- カバー①



3.以下の部品を取外す。

- ステア①
- パイプ



4.以下の部品を取外す。

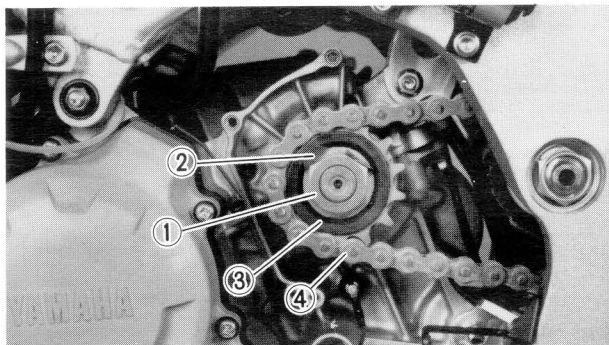
- マフラ



ドライブチェンの取外し

1.以下の部品を取外す。

- シフトアーム
- チェンカバー



2.以下の部品を取外す。

- ナット①
- ロックワッシャ②

ロックワッシャの曲げ部を起こし、リヤブレーキを効かしてナットをゆるめ、取外す。

3.チェンプラーのアジャスタをゆるめドライブチェンの遊びを大きくとる。

4.以下の部品を取外す。

- ドライブsprocket③
- ドライブチェン④

4

エンジンの取外し

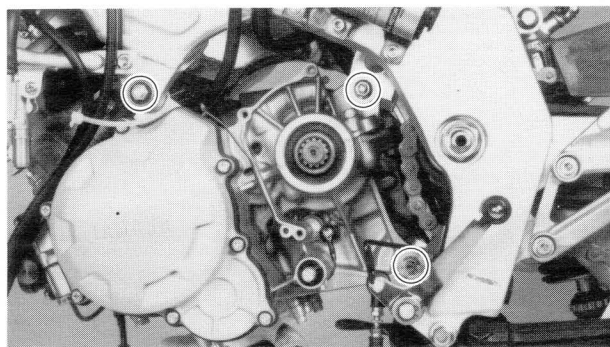
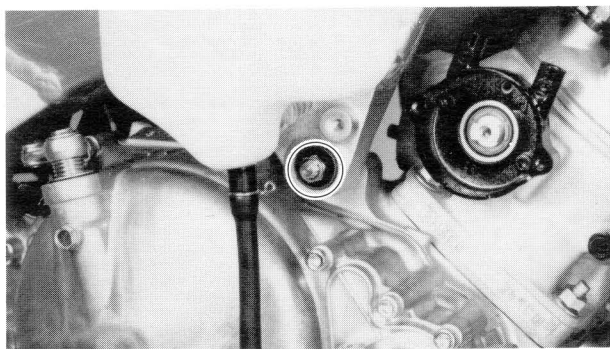
整備要領 エンジンを取外す前に、ワイヤハーネス、ケーブル、パイプ類の外し忘れがないか確認すること。

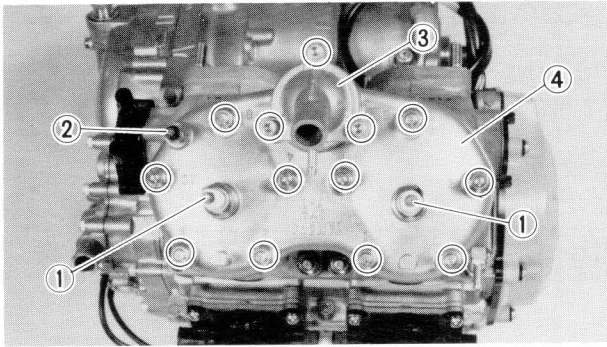
1.エンジン下部をジャッキ等で支える。

2.以下の部品を取外す。

- エンジンマウントボルト

3.エンジンを前右側へ取外す。



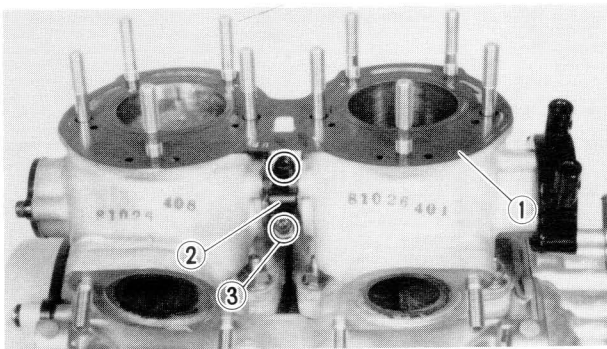


シリンダヘッド、シリンダの取外し

注意 シリンダを取外すとき、泥、ホコリ
冷却水がエンジン内に入らないように注意
すること。

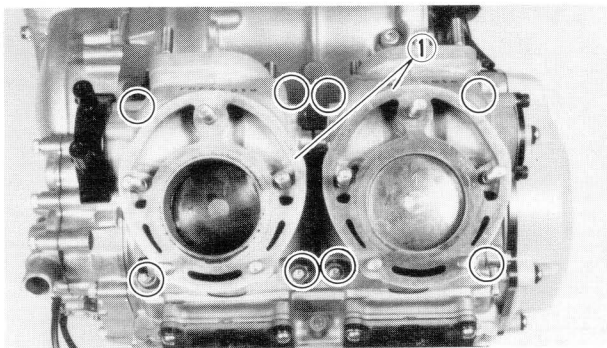
1. 以下の部品を取外す。

- スパークプラグ①
- サーモスイッチ②
- サーモスタットカバー③
- シリンダヘッド④
- サーモスタット



2. 以下の部品を取外す。

- シリンダヘッドガスケット①
- ジョイント1②
- ジョイント2③



3. 以下の部品を取外す。

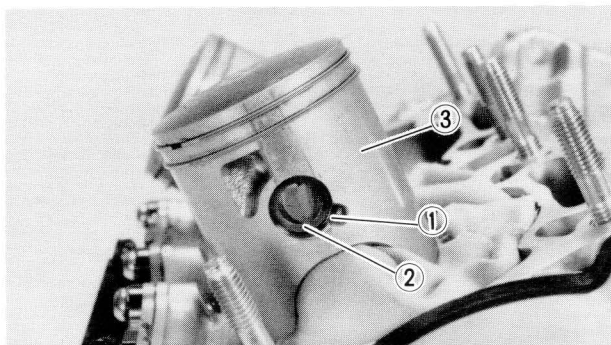
- シリンダ①
- シリンダガスケット



ピストン、ピストンリングの取外し

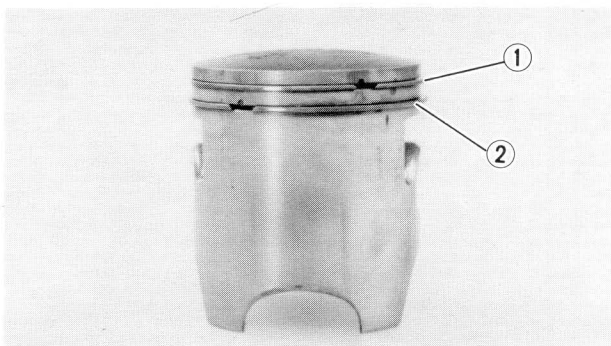
整備要領 ピストンピンサークリップをエンジン内に落さないように、ウエス等でカバーして取外す。

注意 ピストンピンを取外す時ハンマ等でたたいて取外さないこと。



1.以下の部品を取外す。

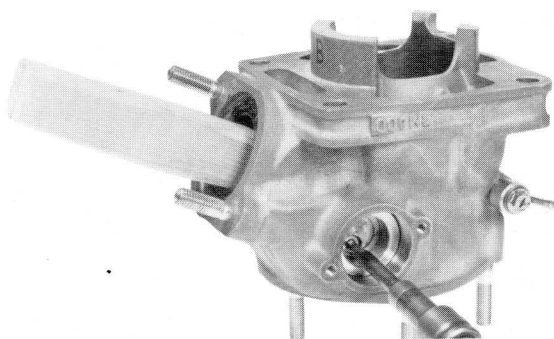
- ピストンピンサークリップ①
- ピストンピン②
- ピストン③
- スモールエンドベアリング



2.以下の部品を取外す。

- トップリング①
- セカンドリング(エキスパンダ入り)②

注意 ピストンを傷つけたり、ピストンリングを破損させないように注意すること。



バルブの取外し

1.以下の部品を取外す。

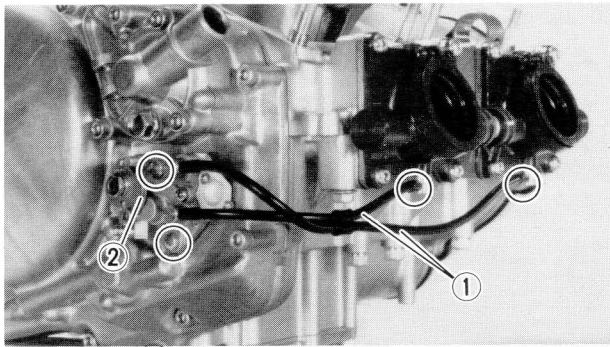
- カバー

2.以下の部品を取外す。

- バルブ連結ボルト

シリンダ排気孔より木片を差し込みバルブを固定して連結ボルトを取外す。

整備要領 右側シリンダのバルブ取外しは、ホルダを外してから行う。

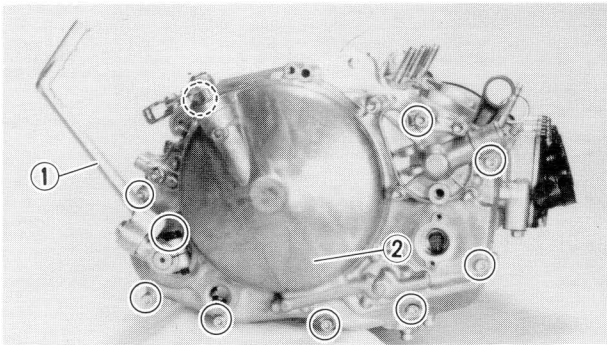


オートループポンプの取外し

1. 以下の部品を取外す。

- デリバリパイプ①
- オートループポンプ②

デリバリパイプはマニホールド側で取外す。

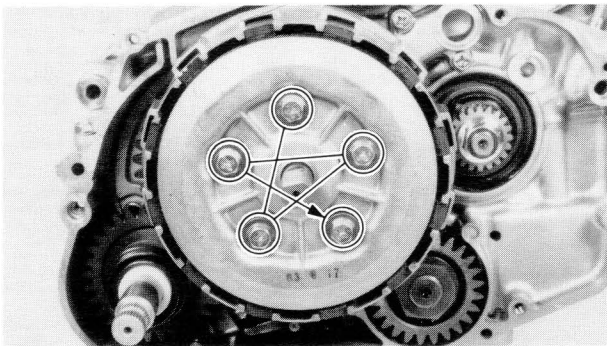


クラッチの取外し

1. ミッションオイルを抜く

2. 以下の部品を取外す。

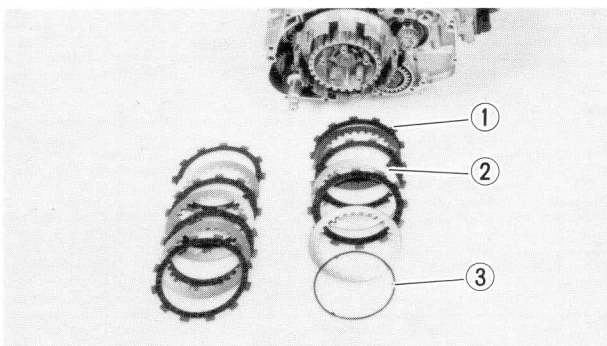
- キッククランク①
- クランクケースカバー②



3. 以下の部品を取外す。

- プレッシュプレート

クラッチスプリングスクリューを対角線に交互にゆるめて取外す。

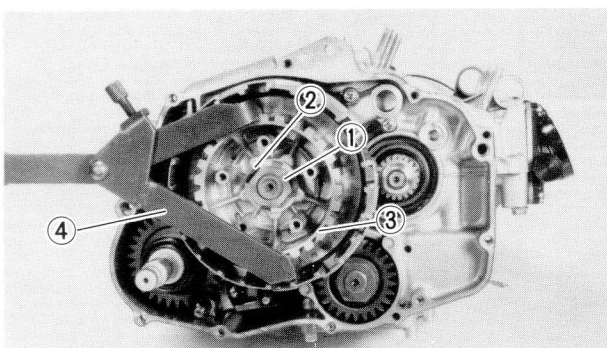


4. 以下の部品を取外す。

- フリクションプレート①
- クラッチプレート②
- クッションリング③

整備要領

組付順序を間違えないために外した順序のままそろえておく。



5. 以下の部品を取外す。

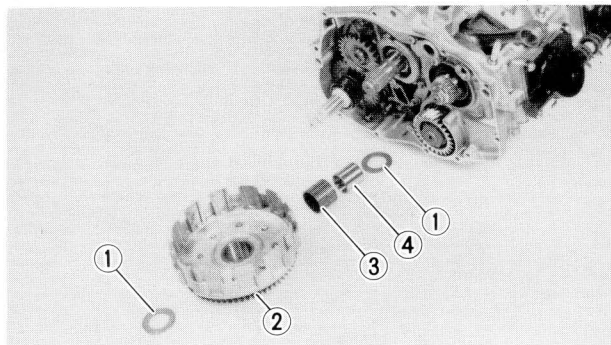
- ナット①
- ロックワッシャ②
- クラッチボス③

ロックワッシャの曲げを起こし、クラッチホルダ④を使用してナットを取外す。



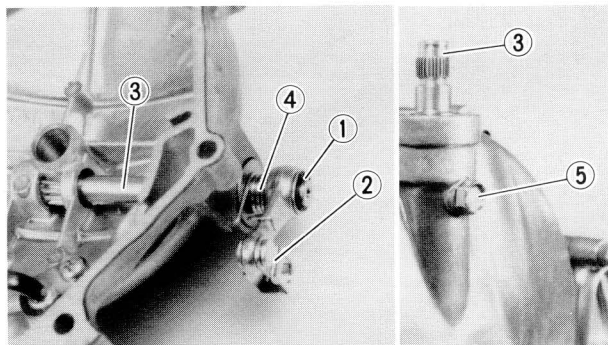
クラッチホルダ

90890-04086



6.以下の部品を取外す。

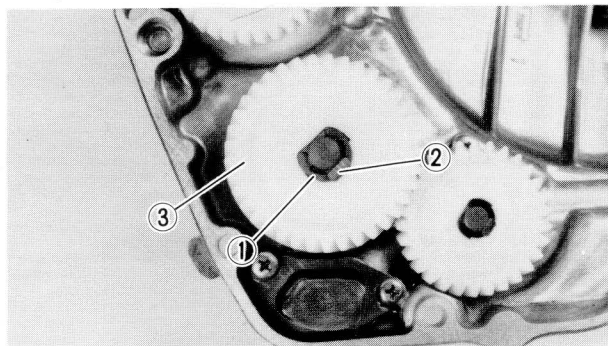
- スラストプレート①
- プライマリドリブンギヤ②
- ベアリング③
- カラー④



7.以下の部品を取外す。

- サークリップ①
- プッシュレバー②
- プッシュアクスル③
- トーションスプリング④
- ボルト⑤

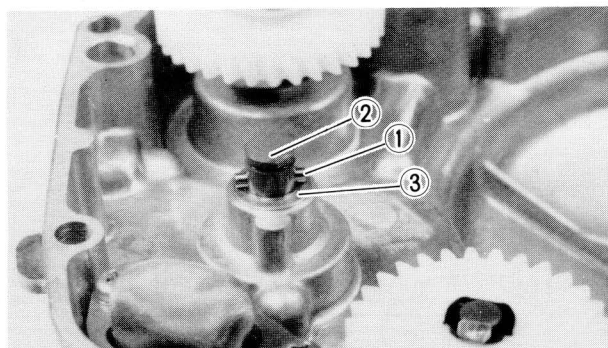
4



オートループポンプドライブギヤの取外し

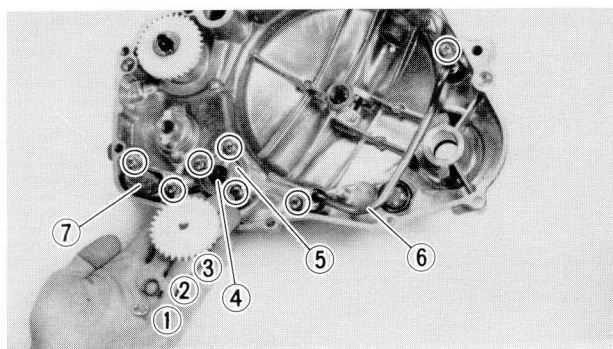
1.以下の部品を取外す。

- サークリップ①
- ロックワッシャ②
- オートループポンプドライブギヤ③



2.以下の部品を取外す。

- ダウエルピン①
- シャフト②
- プレーンワッシャ③

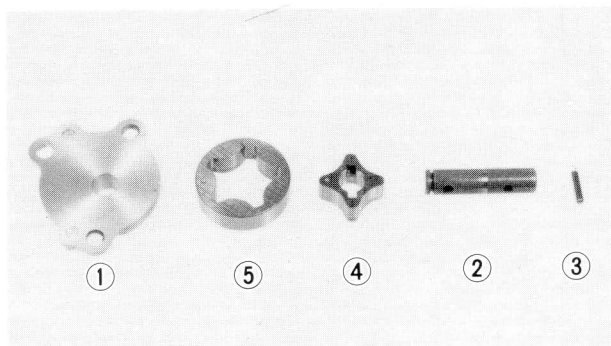


オイルポンプ、ストレーナの取外し

注意 取付スクリューにはネジロックをしているため注意して取外す。

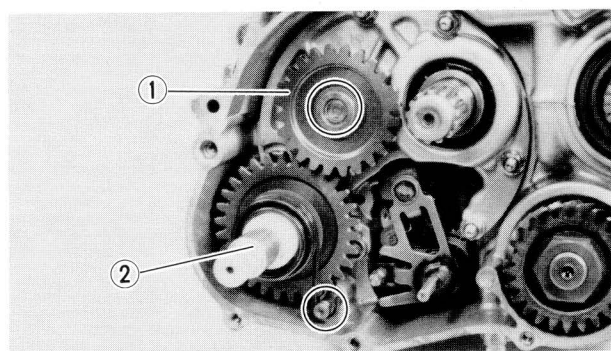
1. 以下の部品を取外す。

- サークリップ①
- プレーンワッシャ②
- ドライブギヤ③
- ダウエルピン④
- オイルポンプ⑤
- デリバリパイプ⑥
- オイルストレーナ⑦



2. 以下の部品を取外す。

- ロータハウジング①
- シャフト②
- ダウエルピン③
- インナロータ④
- アウタロータ⑤



キックスタータの取外し

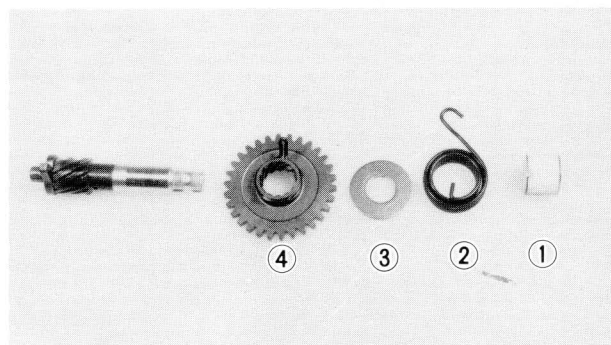
1. 以下の部品を取外す。

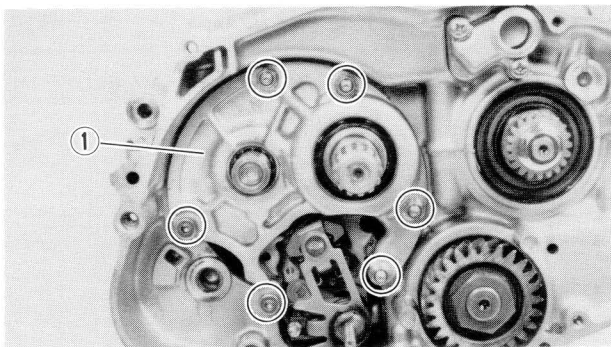
- キックアイドルギヤ①
- キックシャフト Ass'y②

トーションスプリングフック部をキックスプリングストップ部より外し、キックシャフト Ass'yを取外す。

2. 以下の部品を取外す。

- スペーサ①
- トーションスプリング②
- プレートワッシャ③
- キックギヤ④

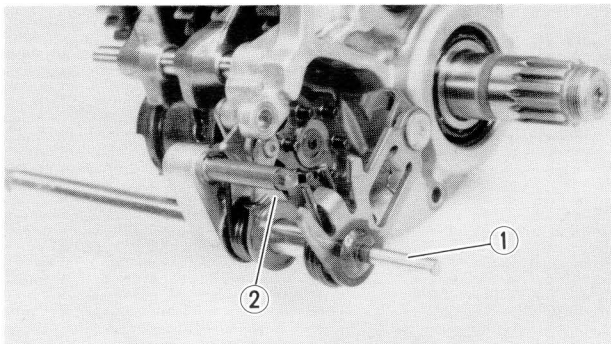




シフトシャフト、トランスミッションの取外し

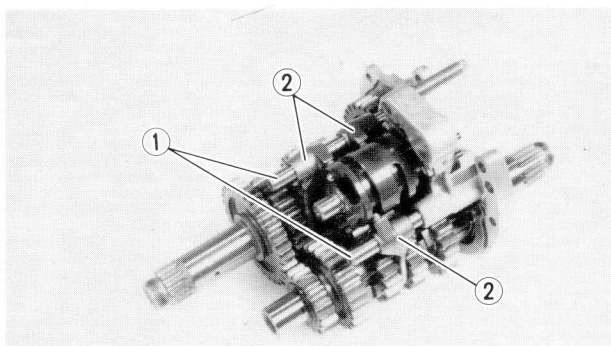
1.以下の部品を取外す。

- クランクケース 3 ①
- トランスミッション Ass'y



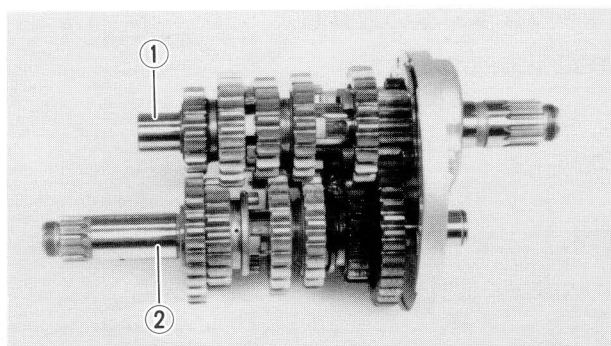
2.以下の部品を取外す。

- シフトシャフト①
- ストップレバー②



3.以下の部品を取外す。

- シフトフォークガイドバー①
- シフトフォーク②

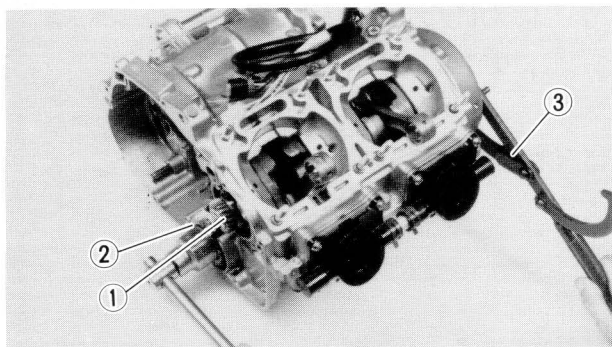


4.以下の部品を取外す。

- メインアクスル①
- ドライブアクスル②

5.以下の部品を取外す。

- シフトカム



プライマリドライブギヤ、 balanサギヤの取外し

1. 以下の部品を取外す。

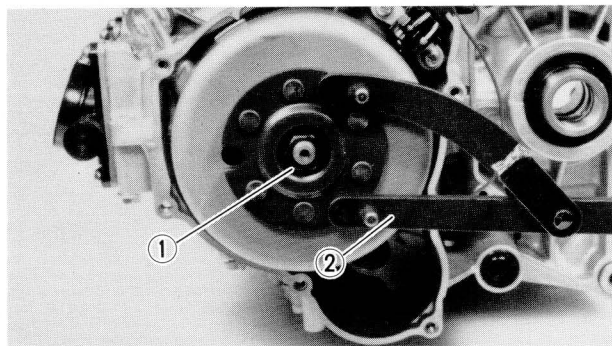
- ゼネレータカバー

2. 以下の部品を取外す。

- ポンプドライブギヤ①
- プライマリドライブギヤ②

ロータホールディングツール③でロータを固定しナットを外し、各ギヤを取外す。

整備要領 プライマリドライブギヤ締付ナットは逆ネジである。



C.D.Iマグネットの取外し

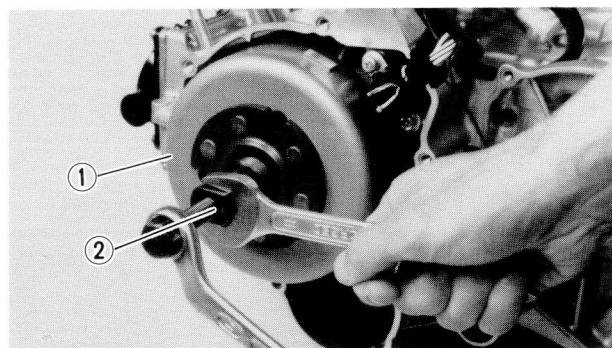
1. 以下の部品を取外す。

- ナット①

ロータホールディングツール②でロータを固定しナットを取外す。



ロータホールディングツール
90890-01235



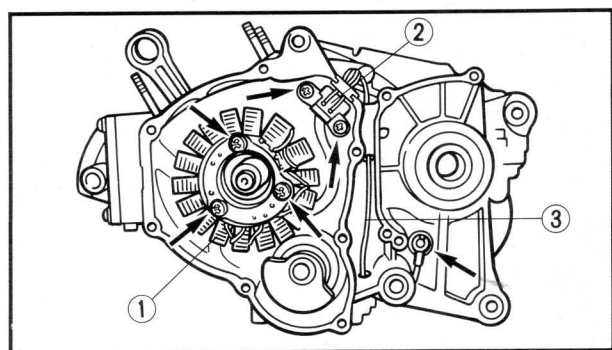
2. 以下の部品を取外す。

- ロータ①

マグネットプーラ②を使用してロータを取外す。

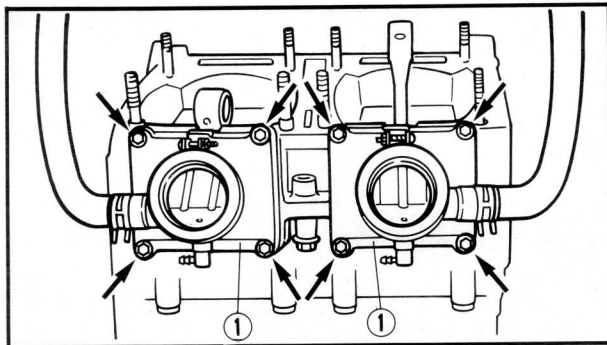


マグネットプーラ
90890-01189



3. 以下の部品を取外す。

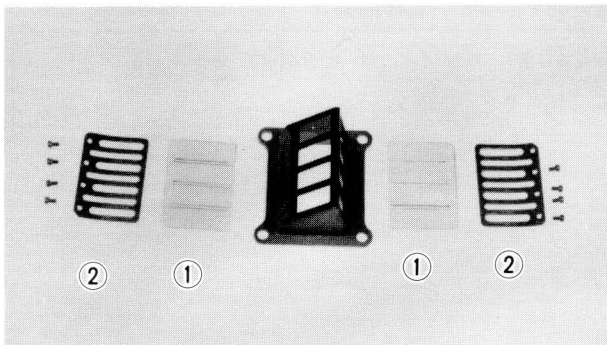
- チャージコイル①
- ピックアップコイル②
- ニュートラルスイッチリード線③



リードバルブの取外し

1.以下の部品を取外す。

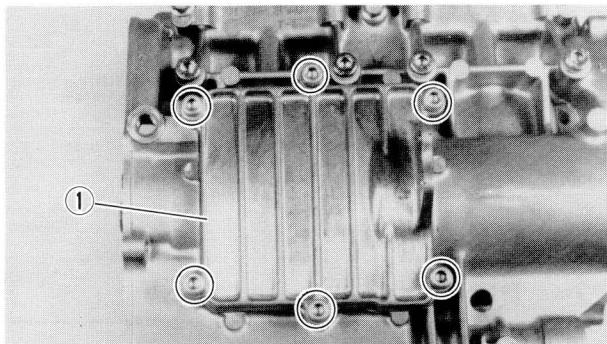
- マニホールド①
- リードバルブ Ass'y



2.以下の部品を取外す。

- リードバルブ①
- リードバルブストップ②

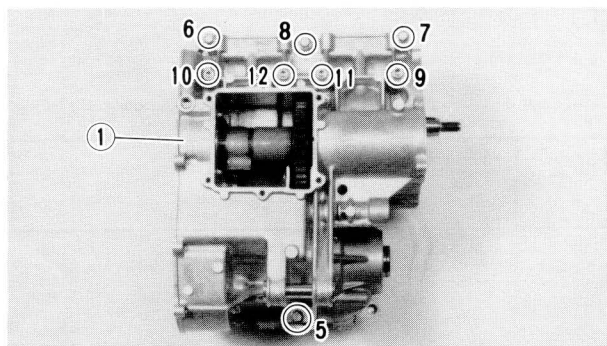
4



クランクシャフト、バランスの取外し

1.以下の部品を取外す。

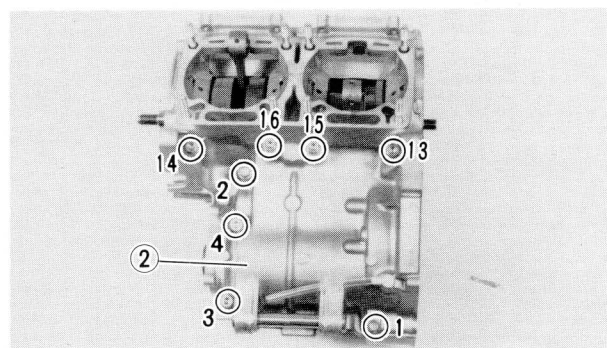
- オイルパン①

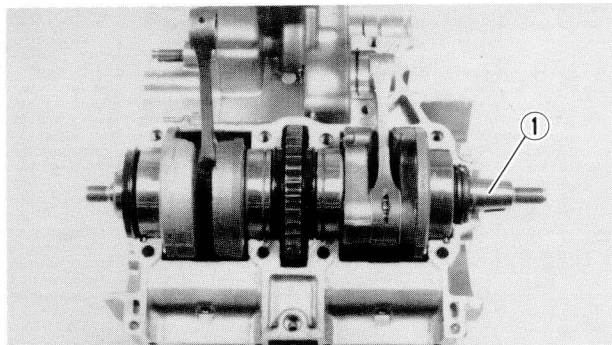


2.以下の部品を取外す。

- クランクケースロア①
- クランクケースアッパー②

取外し順序に従ってボルトを外しクランクケースを分割す。



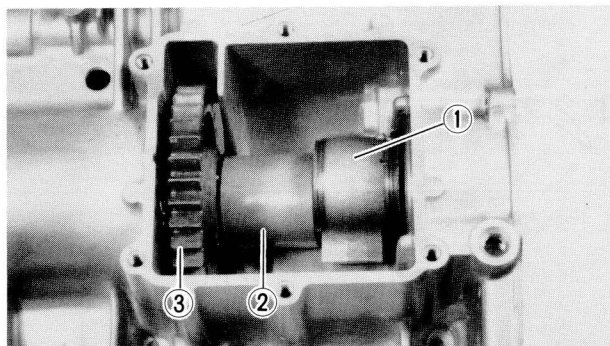


3.以下の部品を取外す。

- クランクシャフト①

4.以下の部品を取外す。

- バランサギヤ

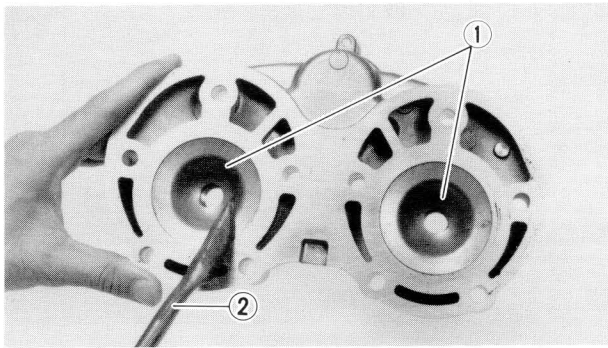


5.以下の部品を取外す。

- バランサシャフト

6.以下の部品を取外す。

- ウェイト①
- スペーサ②
- ドリブンギヤ③

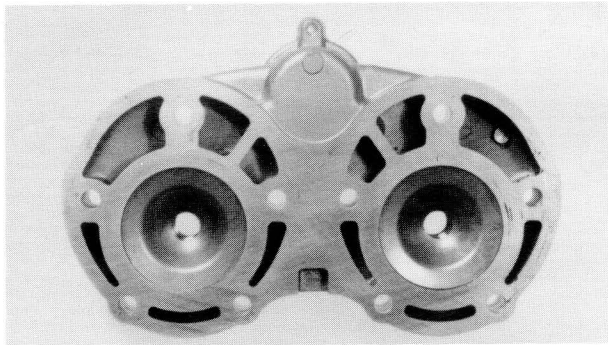


シリンダヘッドの点検

1.以下の点検をする。

- シリンダヘッド燃焼室のカーボン堆積
燃焼室①のカーボン堆積の有無を点検する。
堆積物→ワイヤブラシ②、ノコ刃等で除去

整備要領 シリンダとの合面に傷を付けない。



2.以下の点検をする。

- シリンダヘッド
スパークプラグ孔附近の亀裂、損傷の有無を点検する。
亀裂、損傷→交換

3.以下の点検をする。

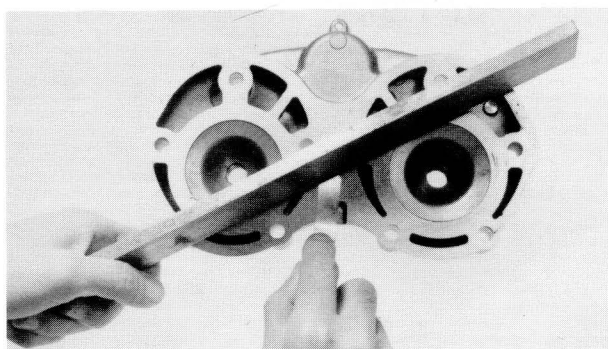
- シリンダヘッドの歪み



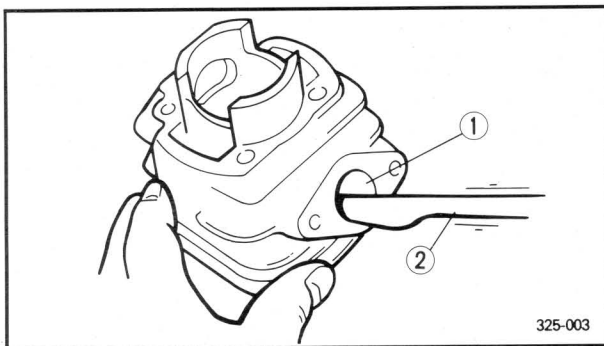
歪み限度

0.03mm

歪み限度以上→修正または交換



4



シリンダの点検

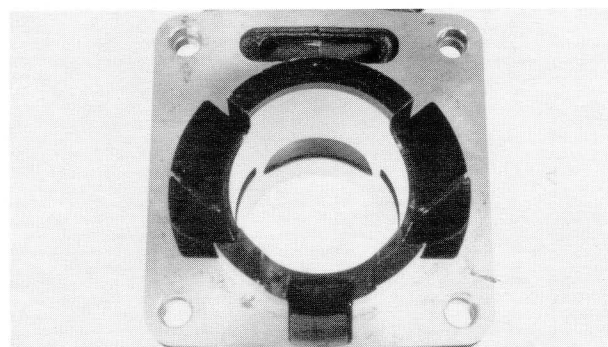
1.以下の点検をする。

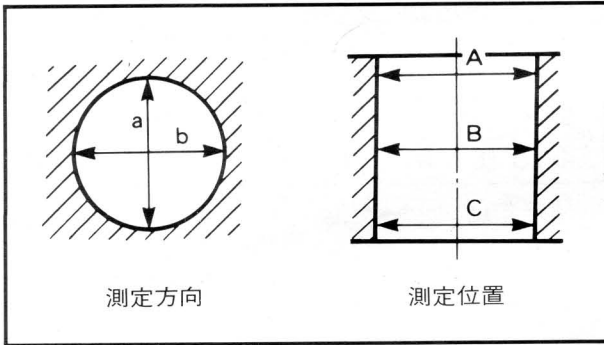
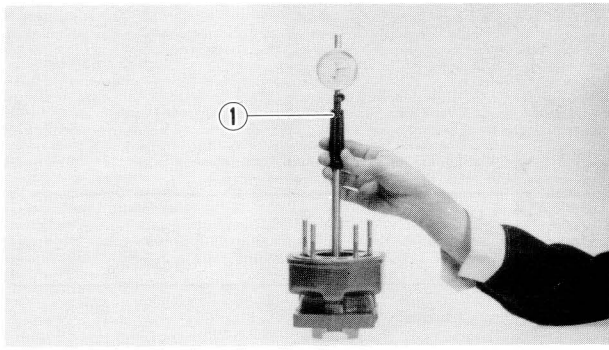
- エキゾーストポートのカーボン堆積
エキゾーストポート①のカーボン堆積の有無を点検する。
堆積物→スクレppa②、ノコ刃等で除去

整備要領 シリンダ内面に傷を付けない。

2.以下の点検をする。

- シリンダ
シリンダスリーブ面の傷、焼付き等の有無を点検する。
軽い傷付き、焼付き跡→修正
ひどい縦傷→交換





3.以下の点検をする。

・シリンダ摩耗量

各ポート部を避け、ピストンピンの軸方向 a とその直角方向 b のそれぞれ A, B, C の 6 か所をシリンダゲージ①を使用して点検する。

摩耗量 = 6 か所測定 の 最大値 - 最小値

	シリンダ内径標準値	56.000～56.020mm
	内径A,B,C差限度	0.05mm

限度以上→交換

	シリンダゲージ
	90890-03017

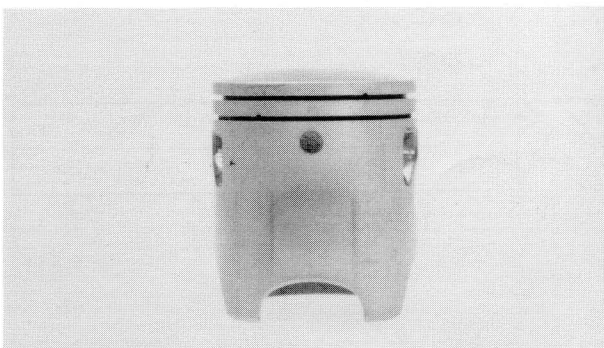


4.以下の点検をする。

・シリンダの歪み

	歪み限度
	0.03mm

限度以上→交換



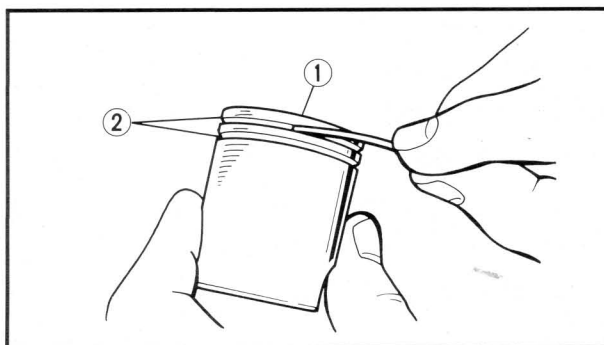
ピストン、ピストンピンの点検

1.以下の点検をする。

・ピストン

ピストンの傷、リング溝の摩耗の有無を点検する。

傷、リング溝の偏摩耗、亀裂等→交換



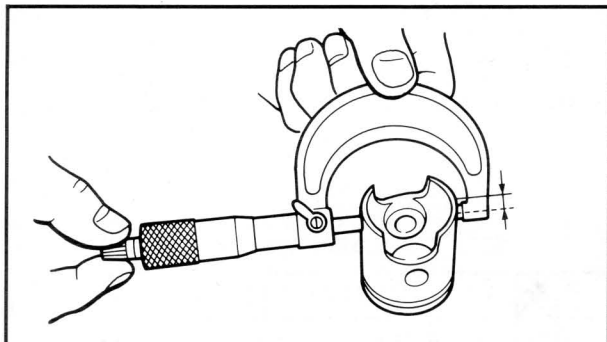
2.以下の点検をする。

・ピストンのカーボン堆積

ピストンヘッド①、リング溝②のカーボン堆積物の有無を点検する。

堆積物→スクレppaや古いピストンリングで除去

整備要領 ピストンに傷をつけない。

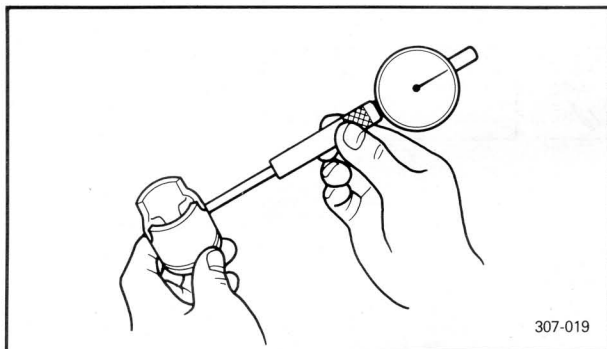


3.以下の点検をする。

- ピストン外径

ピストンスカート下端から 5 mm のところでピストン外径値を点検する。

	スタンダード
	55.95～55.98mm



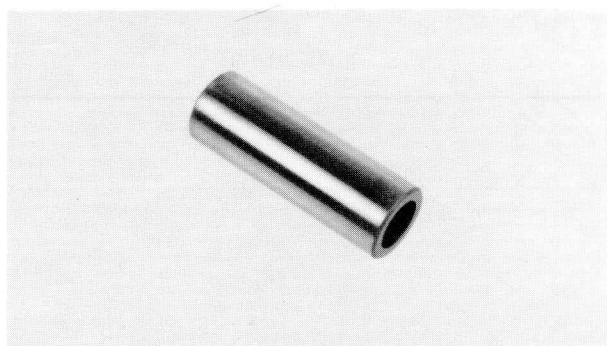
4.以下の点検をする。

- ピストンピン孔径

	内 径 標 準 値	16.004～16.015mm
	使 用 限 度	16.035mm

使用限度以上→交換

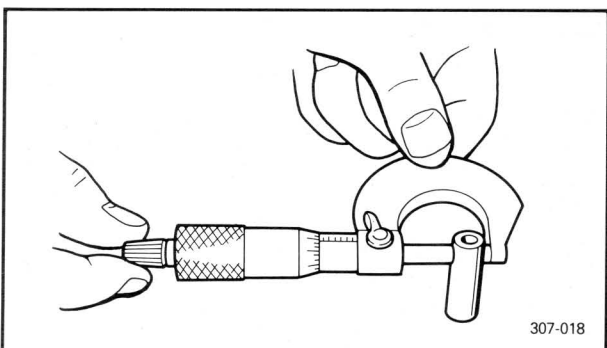
4



5.以下の点検をする。

- ピストンピン

段付摩耗、焼け→交換

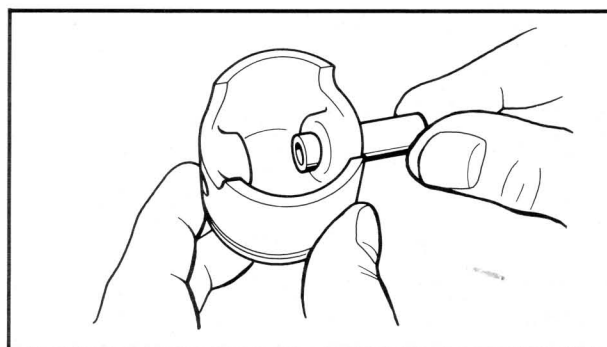


6.以下の点検をする。

- ピストンピン外径

	外 径 標 準 値	15.995～16.000mm
	使 用 限 度	15.975mm

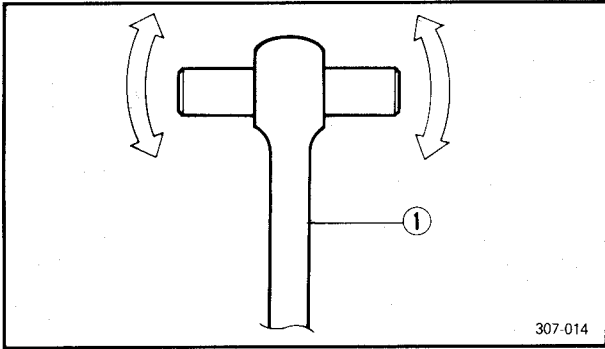
使用限度以下→交換



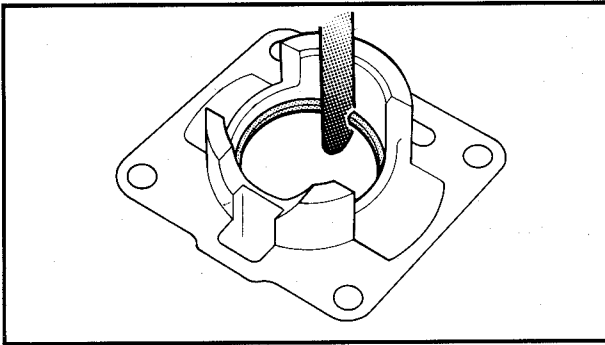
7.以下の点検をする。

- ピストンピンがピストンピン孔にスムーズに入るか点検する。

ピストンピンとピストンの嵌合がかたい場合はピストンピン孔を点検して突起物のある時はナイフまたはスクレップ等で突起物を軽く取り除いて指で軽く押し入るようにする。



307-014



8.以下の点検をする。

•コネクティングロッド①

ピストンピン、ベアリングをコネクティングロッドの小端部に組付けがたがなく、スムーズに回転するか点検する。

がた、スムーズに回転しないときはピストンピン、ベアリングを点検し、異状のあるものを新品と交換して再度点検する。

ピストンリングの点検

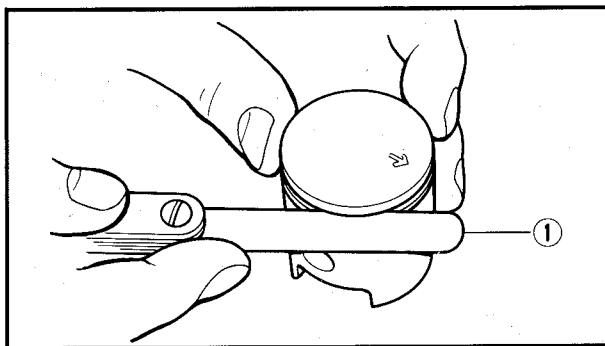
1.以下の点検をする。

•ピストンリング合口すき間

シリンダスカート切り欠き部より約10mmシリンダ内に押し込んだ位置でピストンリング合口すき間を点検する。

	合口すき間標準値	使用限度
トップリング	0.3~0.45mm	0.8mm
セカンドリング	0.3~0.45mm	

使用限度以上→交換

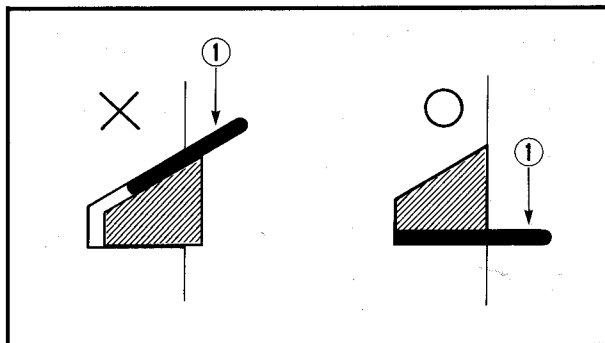


2.以下の点検をする。

•ピストンサイドクリアランス

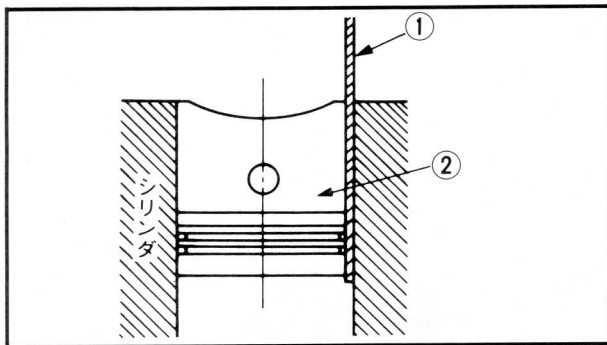
シクネスゲージ①をピストンリング溝の底まで届くように入れ、ピストンサイドクリアランスを点検する。

整備要領 測定は一か所だけでなく、数か所行う。



	サイドクリアランス標準値	使用限度
トップリング	0.02~0.06mm	0.10mm
セカンドリング	0.035~0.07mm	

使用限度以上→交換



ピストンクリアランスの点検

	ピストンクリアランス標準値
	0.045~0.050mm

1. フィラゲージを使用する方法

- フィラゲージ①
- ピストン②

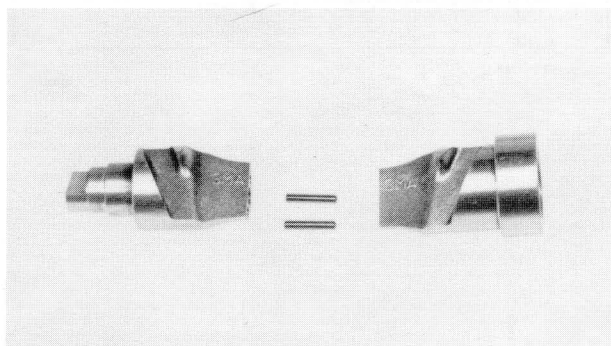
ピストンおよびフィラゲージをピストンピンとクランクシャフトの軸が平行になるように入れ、フィラゲージの引き抜き具合によりピストンクリアランスの適否を判断する。

2. シリンダ内径、ピストン外径を測定する方法

シリンダ内径 測定値	−	ピストン外径 測定値	=	ピストン クリアランス
---------------	---	---------------	---	----------------

※測定方法は、シリンダ点検、ピストン点検の項目を参照のこと。

4

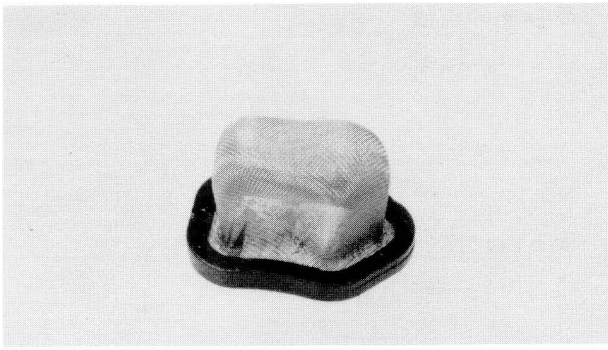


バルブの点検

1. 以下の点検をする。

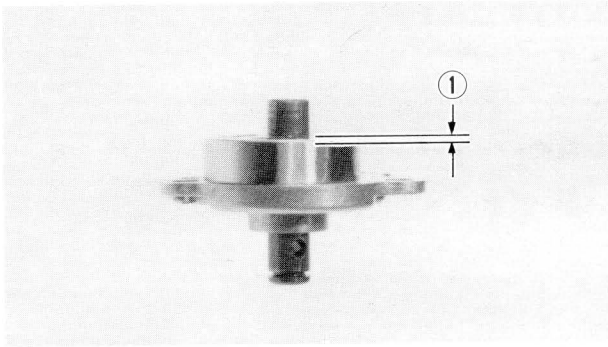
- バルブ
バルブの損傷およびカーボン堆積の有無を点検する。
損傷→交換
カーボン堆積→清掃または交換

整備要領	片方だけの損傷でも、セットで交換すること。
-------------	-----------------------



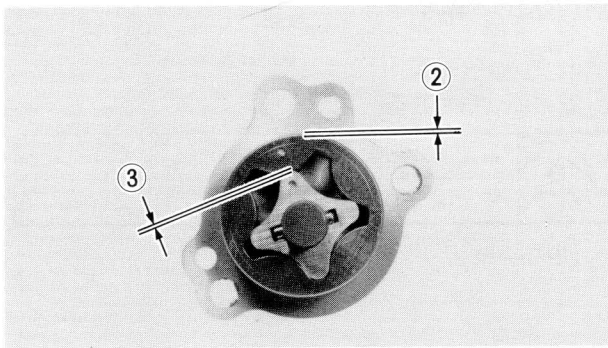
オイルストレナーの点検

- 以下の点検をする。
 - オイルストレナー
汚れ→清掃
破損→交換



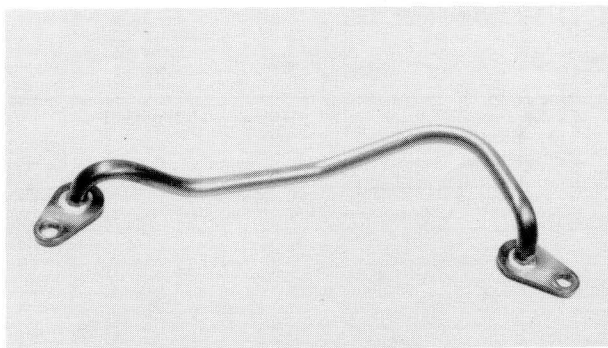
オイルポンプの点検

- 以下の点検をする。
 - ロータハウジング端面とロータ端面のすき間
①
 - アウトロータとロータハウジングのすき間②
 - インナロータとアウトロータのすき間③



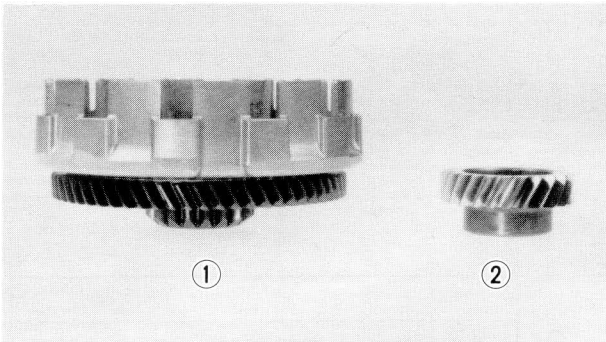
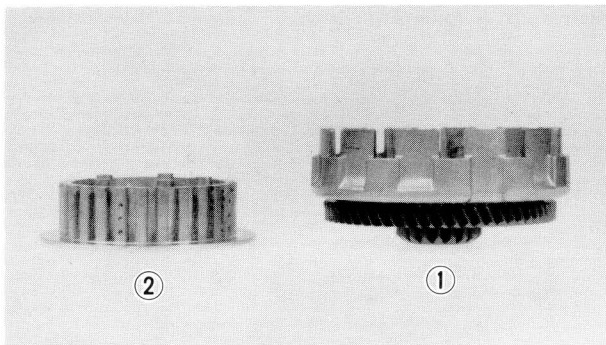
	標準値	使用限度
①	0.03~0.15mm	0.18mm
②	0.10~0.15mm	0.17mm
③	0.04~0.09mm	0.12mm

使用限度以上のもの→交換



デリバリパイプの点検

- 以下の点検をする。
 - デリバリパイプ
つまり→清掃
破損→交換



クラッチの点検

1.以下の点検をする。

- プライマリドリブンギヤ①
- クラッチボス②

フリクションプレート、クラッチプレートによる段付摩耗の有無を点検する。

段付摩耗→修正または交換

2.以下の点検をする。


- プライマリドリブンギヤ①
- プライマリドライブギヤ②

歯面のピッチング、損傷の有無を点検する。

ピッチング、損傷→交換

3.以下の点検をする。


- フリクションプレートの厚さ
- 厚さを点検する。

	新品標準厚さ	2.9~3.1mm	3.4~3.6mm
	使用限度	2.8mm	3.3mm

使用限度以下→交換

4.以下の点検をする。


- クラッチプレートの歪み

	クラッチプレート歪み限度	0.05mm
---	--------------	--------

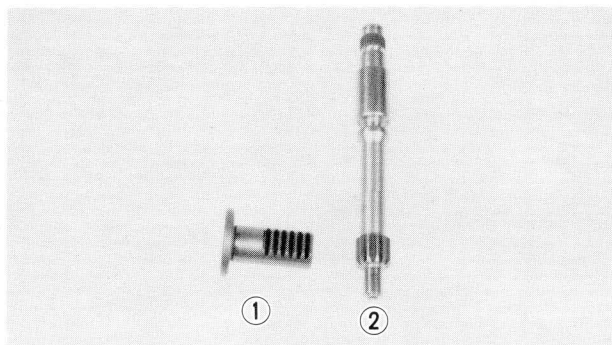
限度以上→交換

5.以下の点検をする。

- クラッチスプリング自由長
- 自由長を測定する。

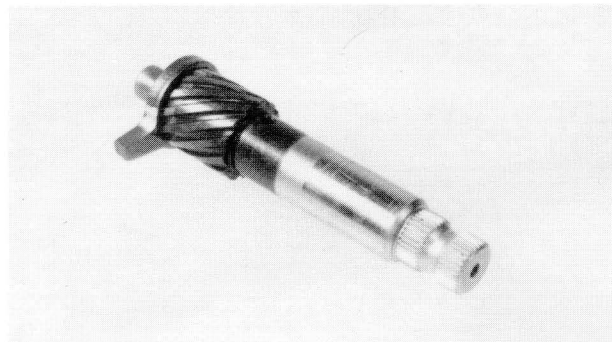
	標準値	40.1mm
	使用限度	38.1mm

使用限度以下→交換



6.以下の点検をする。

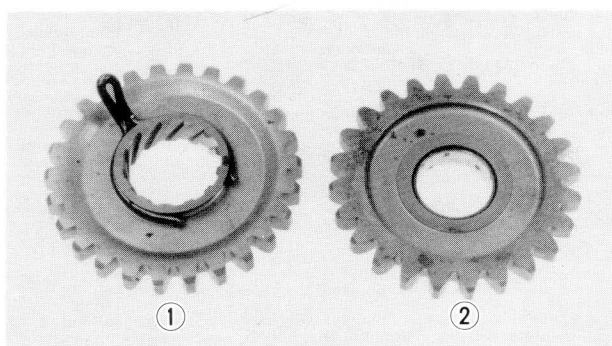
- プッシュロッド
摩耗、損傷→交換



キックスタータの点検

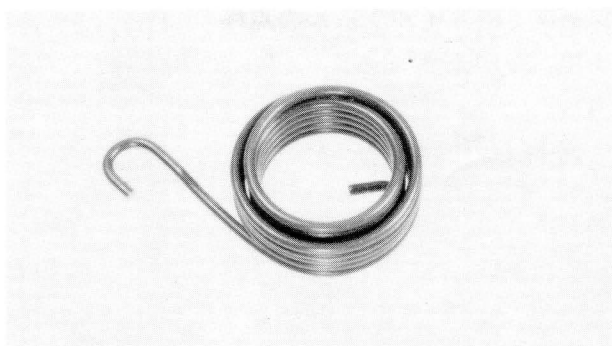
1.以下の点検をする。

- キックアクスルのセレーション
損傷、摩耗、つぶれ→交換



2.以下の点検をする。

- キックギヤ①
- キックアイドルギヤ②
損傷、摩耗→交換



3.以下の点検をする。

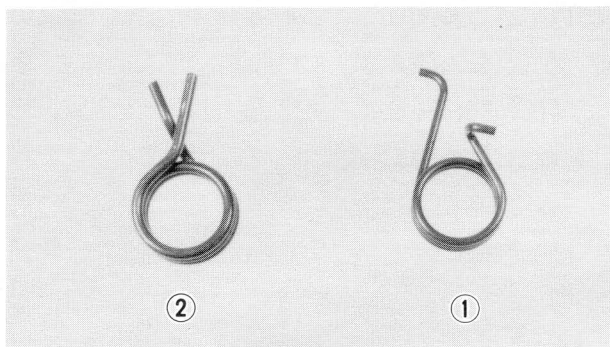
- トーションスプリング
亀裂、損傷、へたり →交換



シフトシャフトの点検

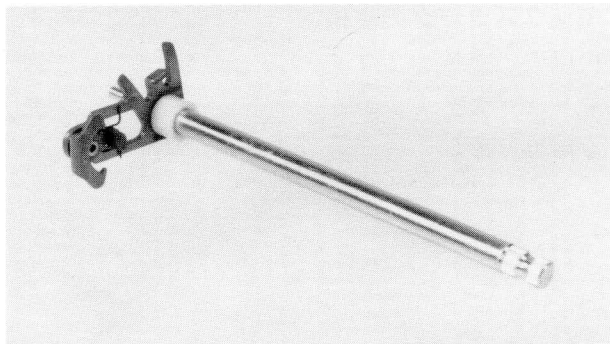
1.以下の点検をする。

- ストップレバーのローラ
スムーズに動かない →交換
損傷、摩耗 →交換



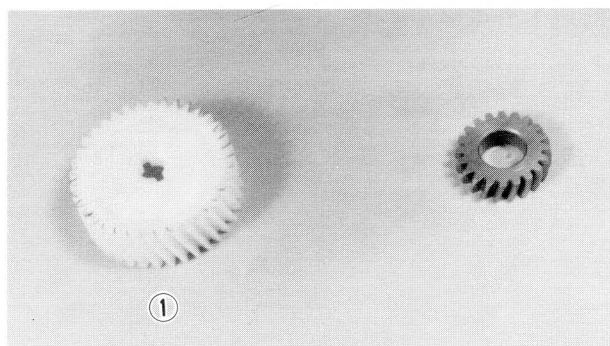
2.以下の点検をする。

- トーションスプリング(ストッパレバー部)①
- トーションスプリング(シフトシャフト部)②
亀裂、損傷、へたり→交換



3.以下の点検をする。

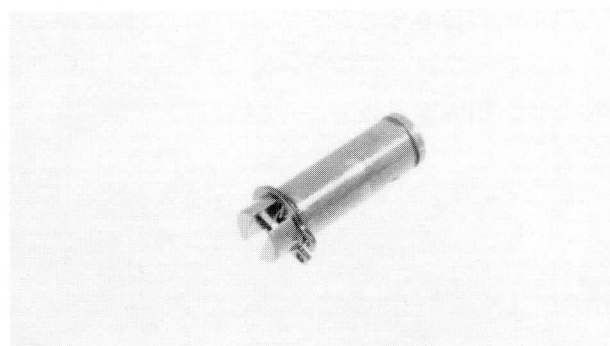
- シフトシャフト
曲り、損傷、摩耗→交換



オートループポンプドライブギヤの点検

1.以下の点検をする。

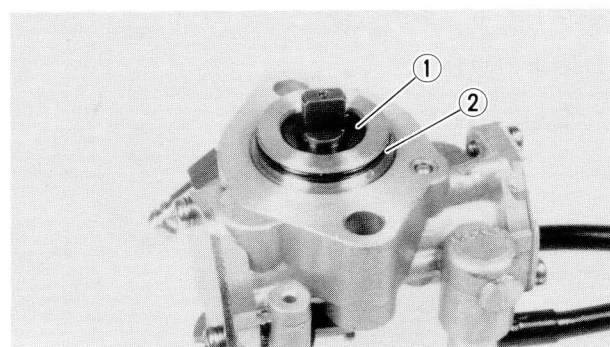
- オートループポンプドライブギヤ①
損傷、偏摩耗→交換



シャフト、オイルシールの点検

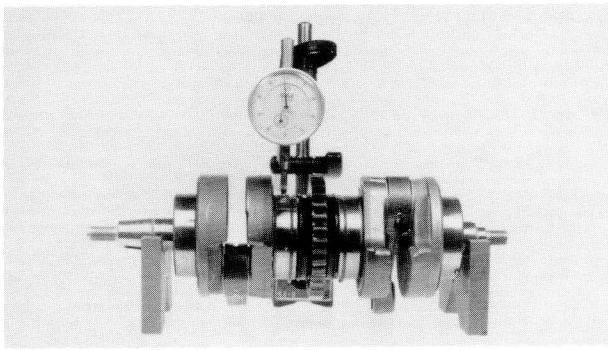
1.以下の点検をする。

- シャフト
摩耗、損傷→交換



2.以下の点検をする。

- オイルシール①
リップ部の摩耗、損傷→交換
- Oリング②



クランクシャフトの点検

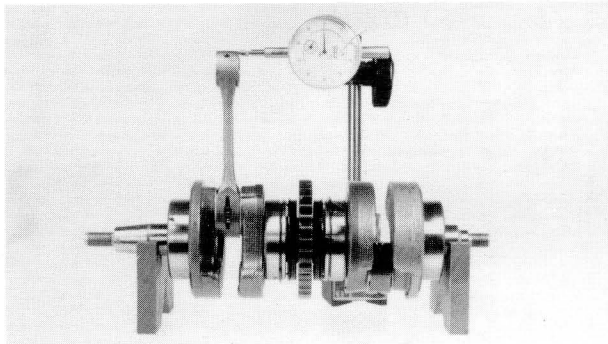
1. 以下の点検をする。

- クランクシャフトの振れ

クランクシャフトをゆっくりまわして点検する。

	クランクシャフト振れ限度
	0.03mm

振れ限度以上→修正または交換

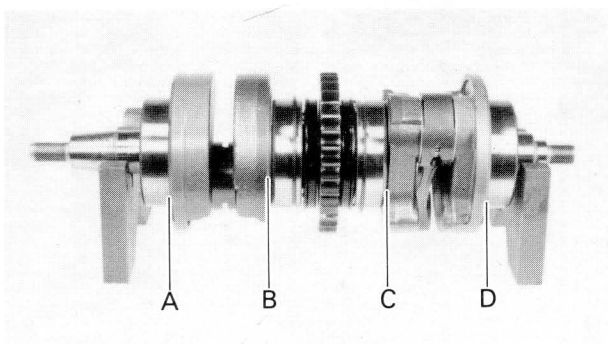


2. 以下の点検をする。

- コネクティングロッド小端部の横振れ

	コネクティングロッド小端部振れ標準値
	0.4~0.6mm

振れ標準値以外→交換

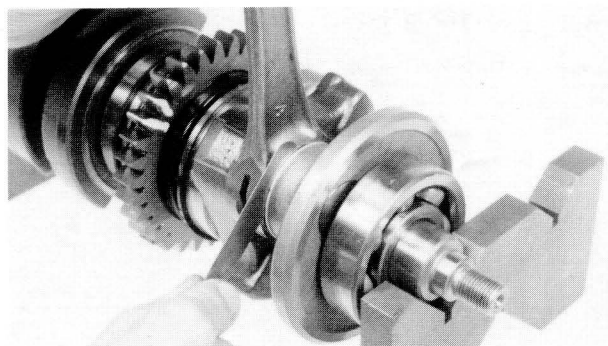


3. 以下の点検をする。

- クランクシャフト組立巾

	組立巾 標準値	A-B間	54.95~55.00mm
		B-C間	63.50~63.55mm
		A-D間	173.40~173.55mm

組立巾標準値以外のもの→交換

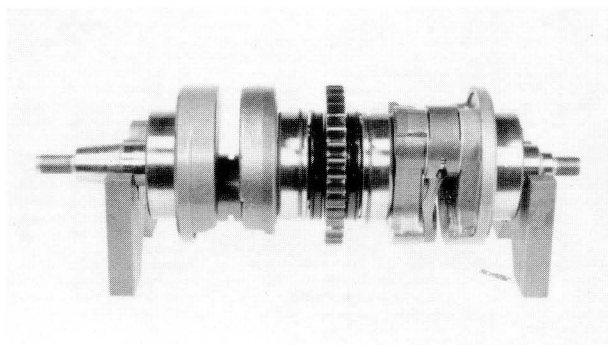


4. 以下の点検をする。

- コネクティングロッドサイドクリアランス

	サイドクリアランス標準値
	0.25~0.75mm

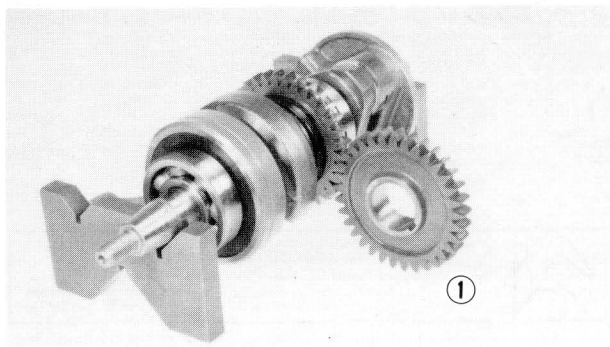
標準値以外→交換



5. 以下の点検をする。

- クランクシャフトベアリング

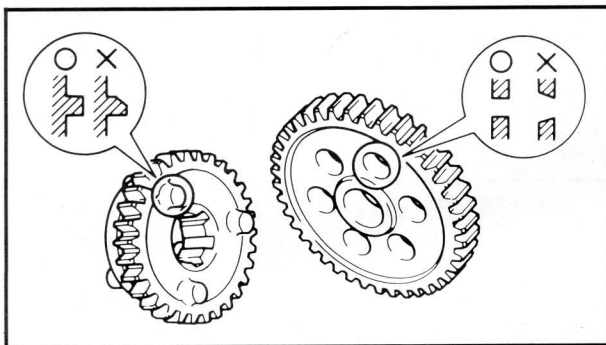
異音、がた→クランクシャフトAss'y交換



バランスドリブンギヤの点検

1.以下の点検をする。

- ドリブンギヤ①
損傷、摩耗、ピッチング→交換

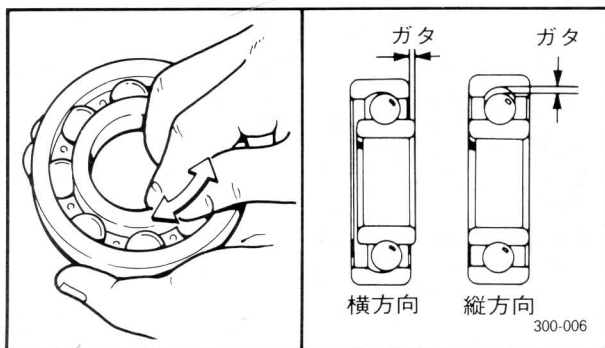


ミッションギヤの点検

1.以下の点検をする。

- ドッグ部の摩耗、ギヤ歯面
摩耗、ピッチング、損傷→交換

4

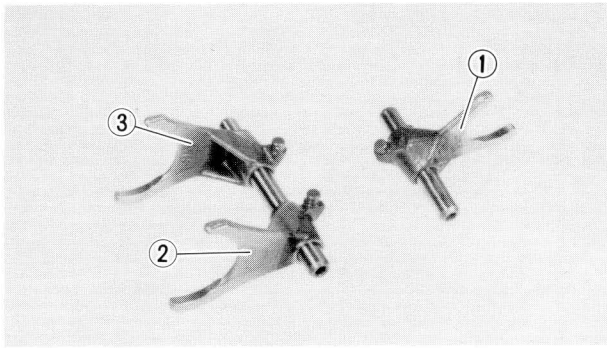


2.以下の点検をする。

- ベアリング
がた、異音→交換

3.以下の点検をする。

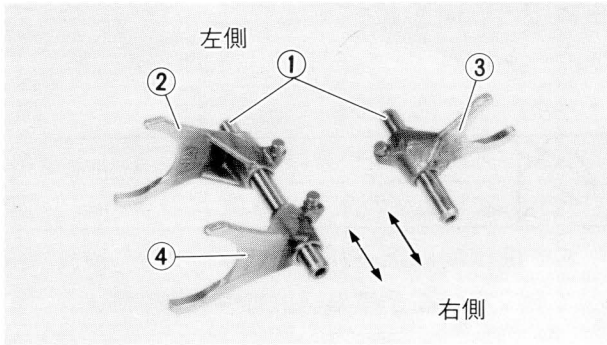
- 各ギヤがスムーズに動くか、回転するかを点検する。
スムーズに動かない } →修正または交換
回転不良 ————— }



シフトフォーク、シフトカムの点検

1. 以下の点検をする。

- シフトフォーク 1 ①
 - シフトフォーク 2 ②
 - シフトフォーク 3 ③
- 焼け、曲り、摩耗→交換



2. 以下の点検をする。

- シフトフォークガイドバー ①
- シフトフォーク 1 ②
- シフトフォーク 2 ③
- シフトフォーク 3 ④

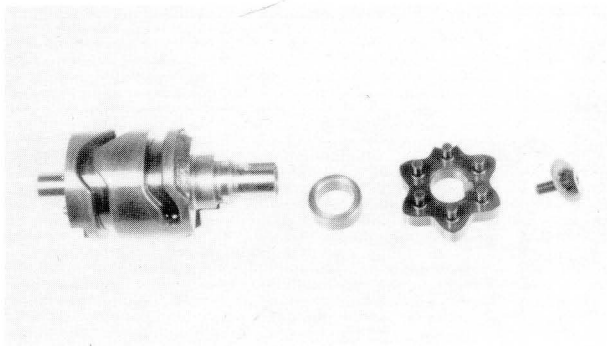
シフトフォークガイドバーに沿って、スムーズに作動するか点検する。

スムーズに作動しない→修正または交換

3. 以下の点検をする。

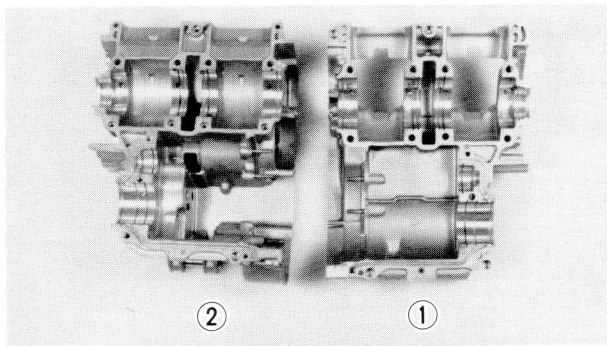
- シフトカム

摩耗、損傷、摩耗 → 交換



整備要領

シフトフォーク、ミッションギヤに異状がある場合は、1点だけの部品を交換するのではなくシフトフォークと互いにかみ合う2枚のギヤとの3点セットで交換すること。

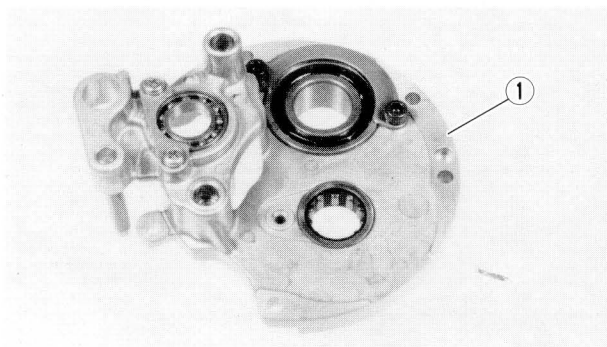


クランクケースの点検

1. 以下の点検をする。

- クランクケースアッパ ①
- クランクケースロア ②

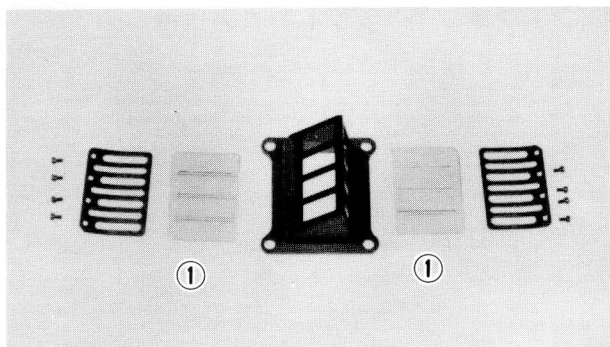
亀裂、損傷→セットで交換



2. 以下の点検をする。

- クランクケース 3 ①

亀裂、損傷→交換

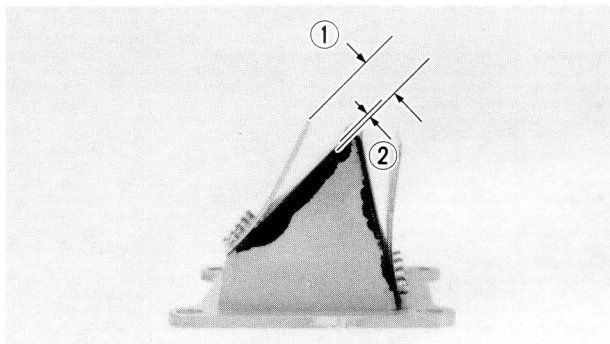


リードバルブの点検

1.以下の点検をする。

- リードバルブ①

亀裂、損傷→交換



2.以下の点検をする。

- リードバルブとシートのすき間①

- ストップの高さ②

	リードバルブとシートのすき間限度	1.0mm
	ストップの高さ標準値	9.6mm

すき間限度以上→リードバルブAss'y交換

ストップの高さ標準値以外→交換

整備要領 ストップを曲げて修正しないこと。



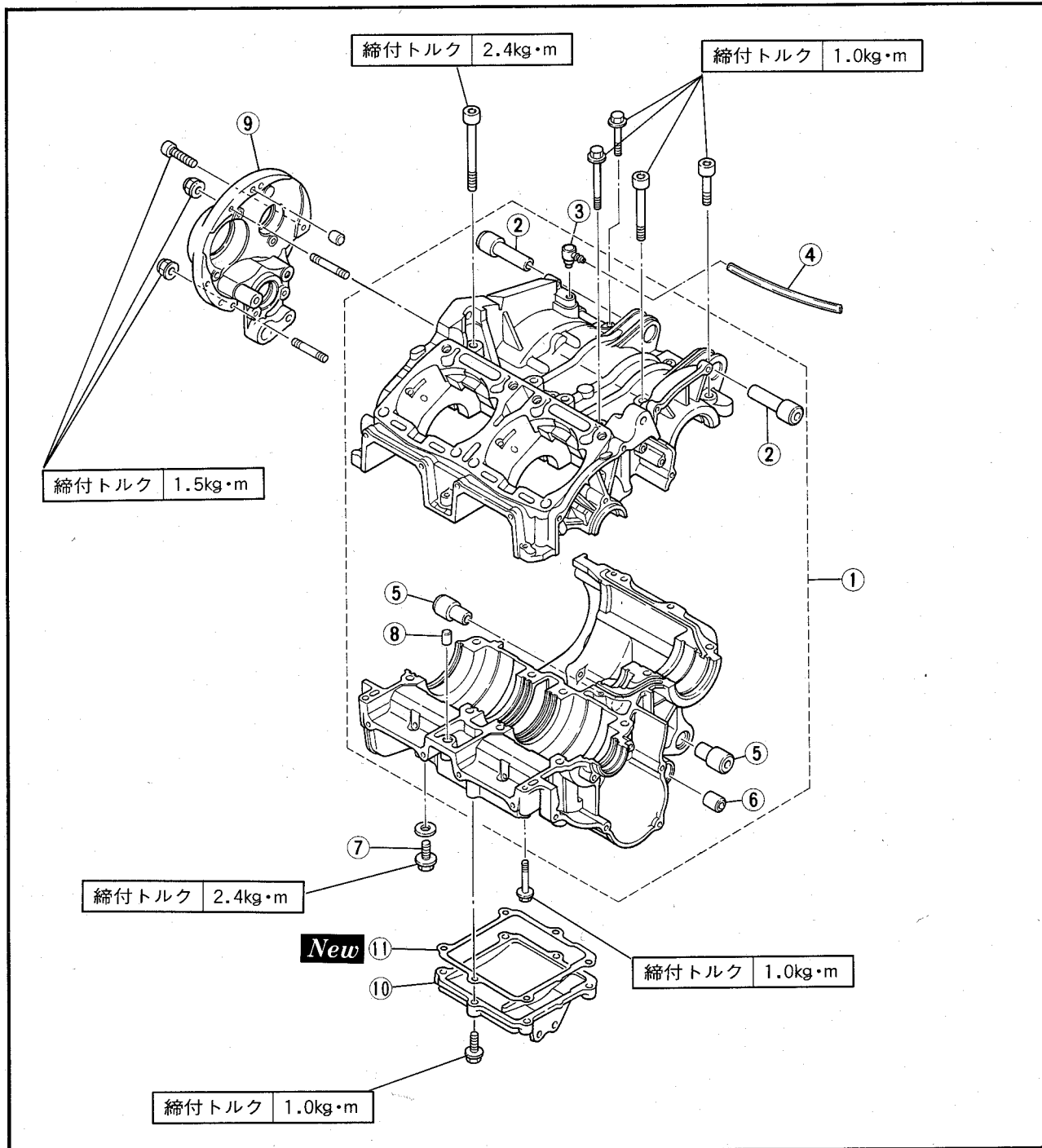
構成部品

クランクケース

- ①クランクケース Ass'y
- ②エンジンマウントスペーサ
- ③ブリーザ
- ④ホース
- ⑤エンジンマウントスペーサ
- ⑥フォームドブッシュ
- ⑦ドレンプラグ(オイルドレン)
- ⑧ダウエルピン
- ⑨クランクケース 3
- ⑩カバー 1
- ⑪キャブレタカバーガスケット

New マーク部品番号

⑪ 3MA-15453-00

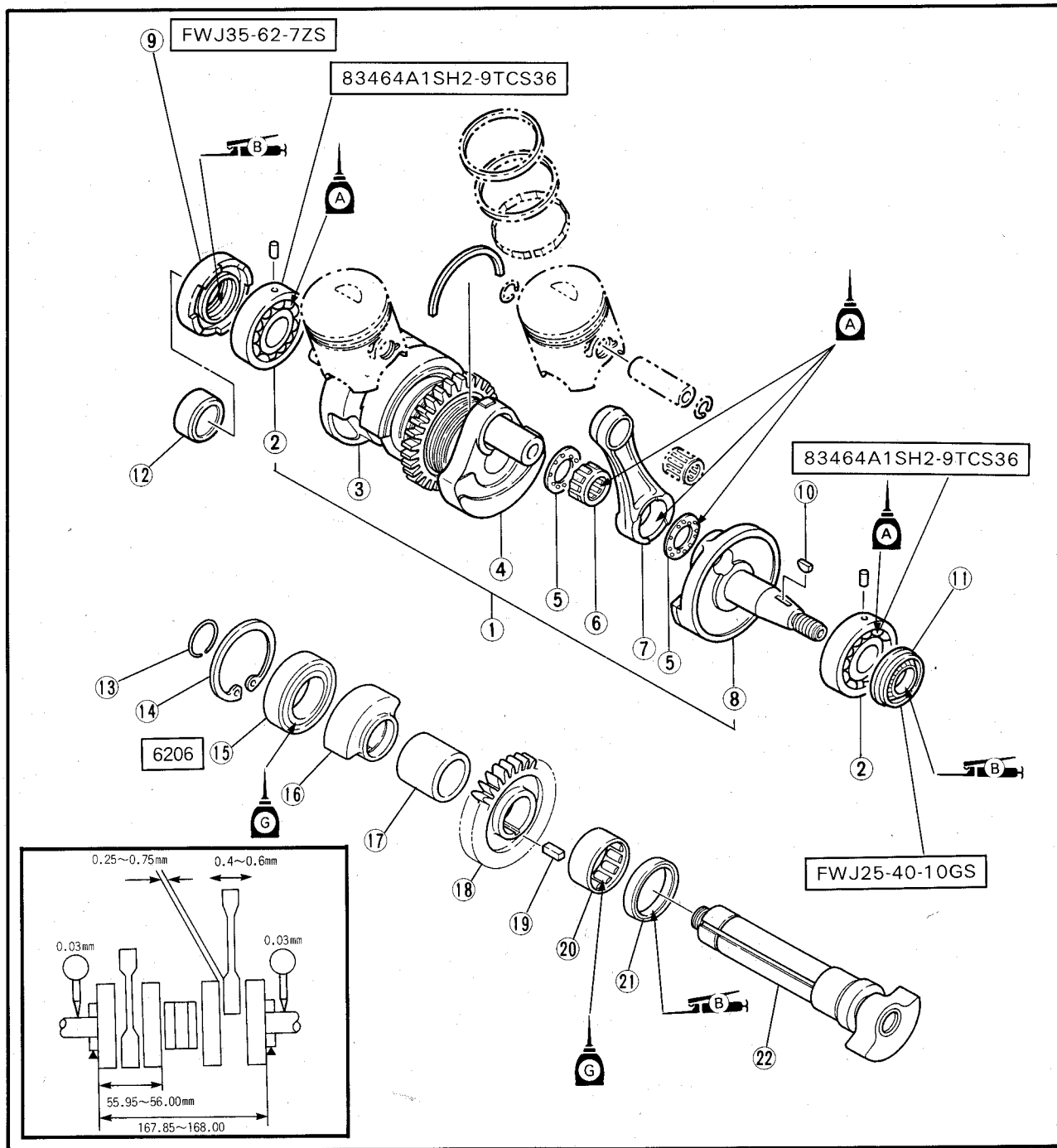




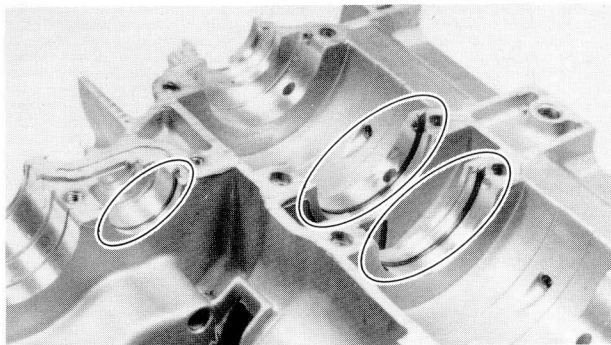
構成部品

クランクシャフト

- | | | |
|-----------------|----------|-------------|
| ①クランクシャフト Ass'y | ⑨オイルシール | ⑰スペーサ |
| ②ベアリング | ⑩ウッドラフキー | ⑱ドリブンギヤ |
| ③クランク 4 | ⑪オイルシール | ⑲ストレイトキー |
| ④クランクサブ Ass'y | ⑫スペーサ | ⑳ベアリング |
| ⑤プレートワッシャ | ⑬リップ | ㉑オイルシール |
| ⑥ベアリング | ⑭サークリップ | ㉒シャフト Ass'y |
| ⑦コネクティングロッド | ⑮ベアリング | |
| ⑧クランク 1 | ⑯ウエイト 2 | |



4

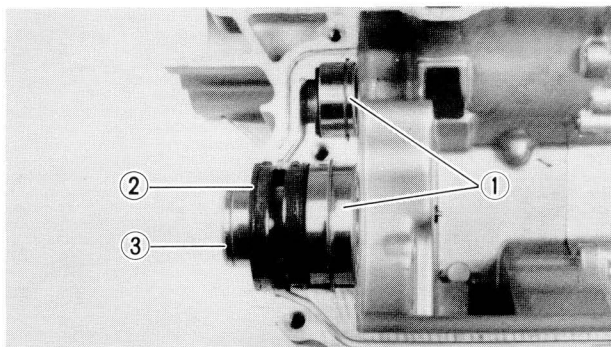


クランクケース、クランクシャフト、バルンサの組付け

1. 以下の部品を組付ける。

- サークリップ

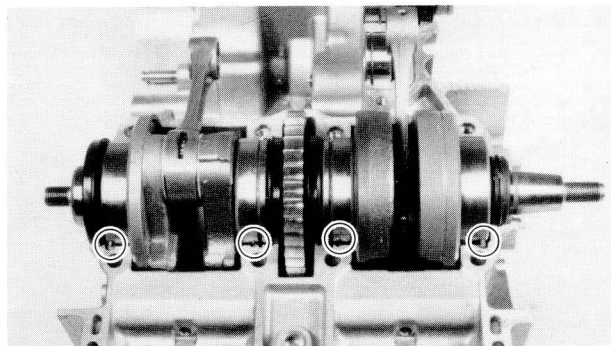
クランクケースロアの溝に確実に組付ける。



2. 以下の部品を組付ける。

- ベアリング①
- オイルシール②
- カラー③

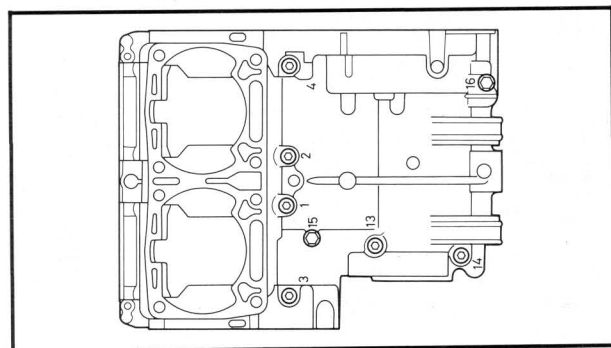
ベアリングの溝とサークリップを合わせ、オイルシールは突起部をクランクケース溝に合わせて組付け、外周にオイル又はグリースを塗布する。



3. 以下の部品を組付ける。

- クランクシャフト

クランクシャフトベアリングのロックピンをクランクケースロアの凹部に合わせ、ベアリングの溝をサークリップに、オイルシールの凸部をクランクケースロアの凹部に合わせて組付け、外周にオイル又はグリースを塗布する。

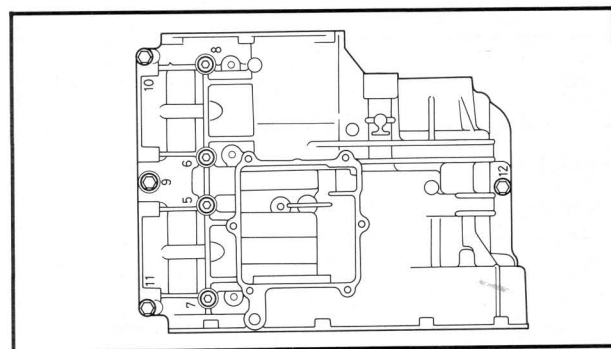


4. クランクケース合面にヤマハボンド1215をむらなく均等に塗布する。

注意 オイル通路を塞がないよう注意して塗布すること。

5. 以下の部品を組付ける。

- クランクケースアッパー



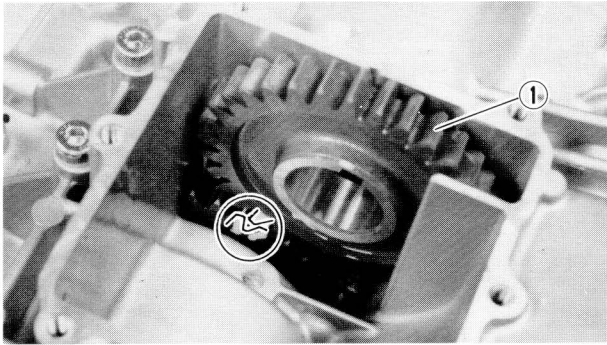
6. 以下の部品を締付ける。

- クランクケース

2回に分けて締付ける。

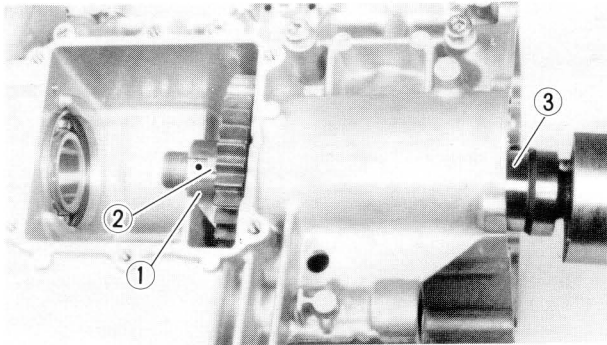
	1回目	M 8	1.0kg・m
		M 6	0.5kg・m

	2回目	M 8	2.4kg・m
		M 6	1.0kg・m



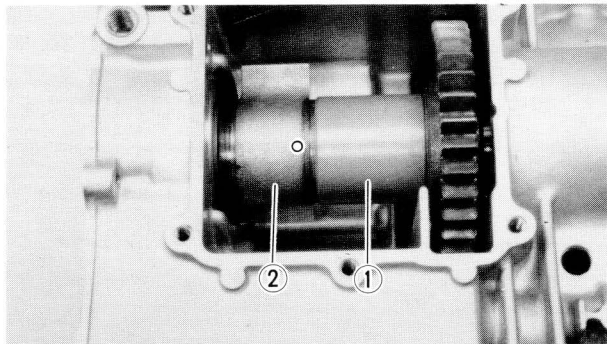
7.以下の部品を組付ける。

- ドリブンギヤ①
クランクシャフトギヤのマークとドリブンギヤの合マークを一致させて組付ける。



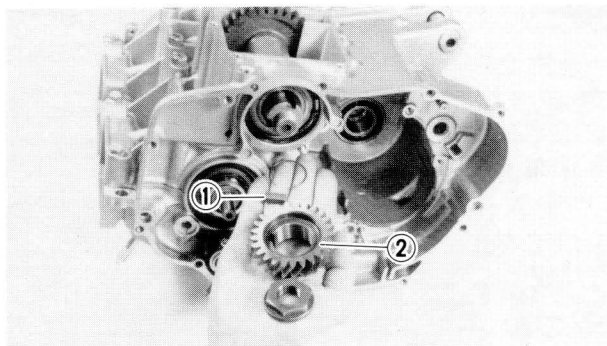
8.以下の部品を組付ける。

- バランサシャフト①
- ストレイトキー②
- スペーサ③
バランサシャフトにカラーを組付け、バランサシャフトの●マークのあるキー溝とバランサドライブギヤの溝を合わせ、ストレイトキーを組付ける。



9.以下の部品を組付ける。

- カラー①
- ウェイト②
バランサシャフトの●マークのあるキー溝とウェイトの合せマークを一致させて組付ける。



10.以下の部品を組付ける。

- ストレイトキー①
- プライマリドライブギヤ②

整備要領

- プライマリドライブギヤ締付ナットは逆ネジであり、仮締付けする。
- シャフトを入れる時にオイルシールのリップを傷つけないよう注意する。

	プライマリドライブギヤ締付ナット
--	------------------

11.以下の部品を組付ける。

- オイルパン

	オイルパン締付 1.0kg・m
--	--------------------

シリンダヘッド、シリンダ、ピストン、バルブ

エンジン



構成部品



シリンダ、シリンダヘッド、ピストン、バルブ

- ① スパークプラグ
- ② シリンダヘッド
- ③ シリンダヘッドガスケット
- ④ シリンダ2
- ⑤ シリンダ1
- ⑥ シリンダガスケット
- ⑦ ダウエルピン
- ⑧ ピストンリングセット
- ⑨ ピストンピンクリップ
- ⑩ ピストン
- ⑪ ピストンピン
- ⑫ ベアリング

New マーク部品番号

③	3MA-11181-00
⑥	3MA-11351-00
⑨	3MA-11634-00

シリンダヘッド歪み限度	0.03mm	
シリンダ歪み限度	0.03mm	
ピストンピン孔内径限度	16.035mm	
ピストンピン外径限度	15.975mm	
ピストンサイドクリアランス	トップ	0.02~0.06mm
	セカンド	0.035~0.07mm
ピストンリング合口すき間限度	0.3~0.45mm	
ピストンクリアランス	0.045~0.050mm	

4



構成部品



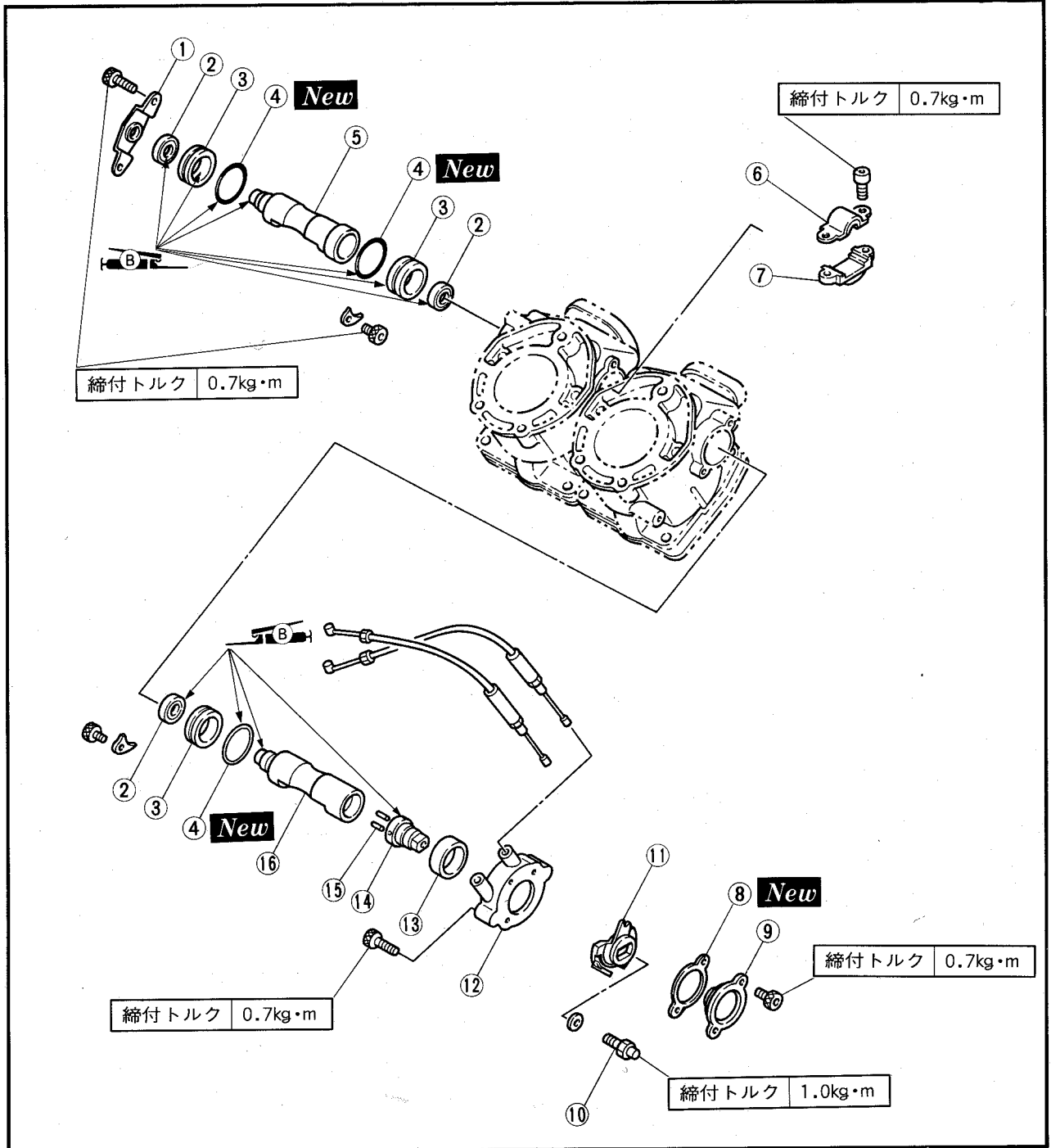
シリンダ、シリンダヘッド、ピストン、バルブ

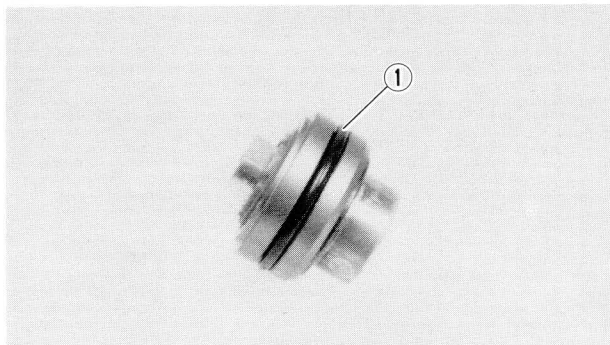
- ①シールキャップ ⑦ジョイント1 ⑬ソリッドブッシュ
- ②オイルシール ⑧ホルダガasket ⑭ジョイント3
- ③ホルダ2 ⑨ホルダ1 ⑮ダウエルピン
- ④Oリング ⑩シリンダホールディングボルト1 ⑯バルブ2
- ⑤バルブ1 ⑪プーリ1
- ⑥ジョイント2 ⑫カバー

New マーク部品番号

④	93210-27778
⑧	5X4-1131N-00

4

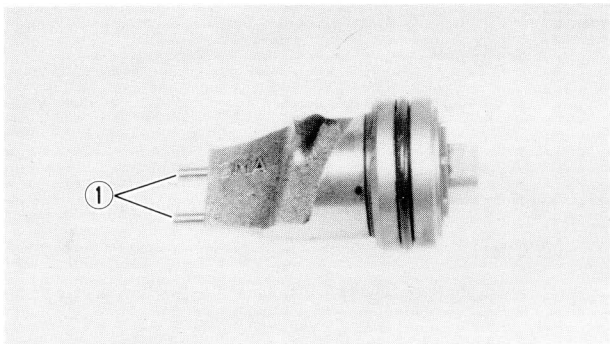




バルブの組付け

1. 以下の部品を組付ける。

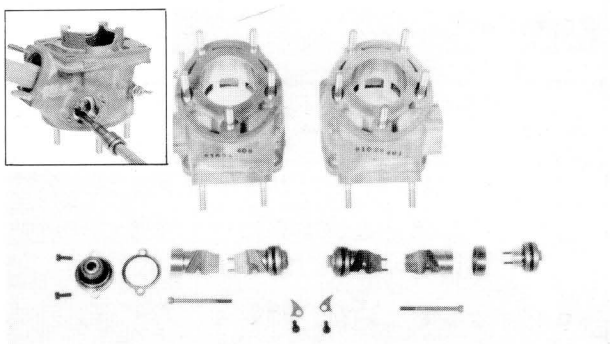
- Oリング①



2. 以下の部品を組付ける。

- ピン①

3. Oリング部にグリースを塗布する。



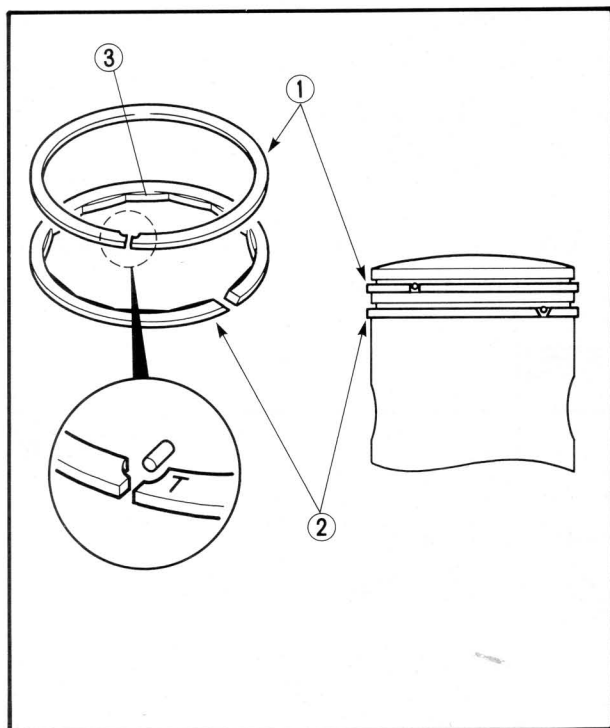
4. 以下の部品を組付ける。

- バルブ

シリンダ排気孔より木片を入れバルブを固定して締付ける。

	バルブ 1, 2 締付け
	0.7kg・m

4



ピストン、ピストンリングの組付け

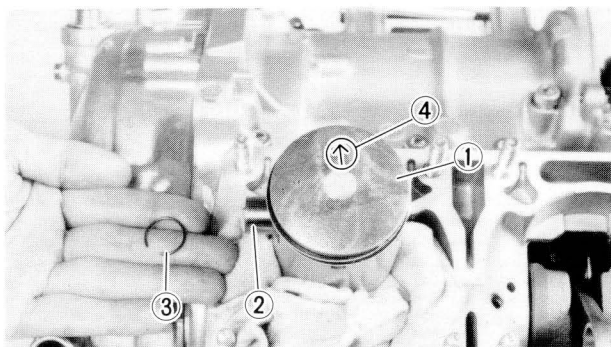
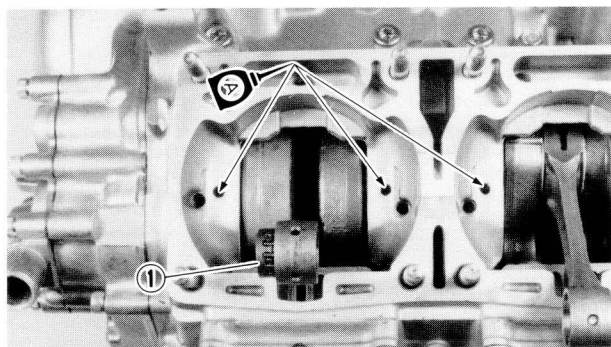
1. 以下の部品を組付ける。

- トップリング①
- セカンドリング②
- エキスパンダ③

ピストンリングマーク面を上に向けて組付け、合口を回り止めノックピンの位置に合わせる。組付後、ピストンリングがスムーズに動くか確認する。

整備要領

- ピストンに傷つけたり、ピストンリングを破損しないように注意すること。
- ピストンリングを交換するときは、セットで交換すること。



2.以下の部品を組付ける。

- ベアリング①

3.以下の箇所にオートループスーパーオイルを塗布する。

- コネクティングロッド大端ベアリング部
- コネクティングロッド小端ベアリング部

4.以下の部品を組付ける。

- ピストン①
- ピストンピン②
- ピストンピンサークリップ③

矢印マーク④を排気側(排気は後ろ向き)に向けて組付け、ピストンピンサークリップの合口はピストン孔切欠部をさけ溝部へ確実に組付ける。

New

ピストンピンサークリップ

注意

- ピストンピンサークリップをクランクケース内に落とさないようにウエス等でカバーして取外す。
- ピストンピン組付け時無理な力を加えないこと。

シリンダ、シリンダヘッドの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- ダウエルピン①
- シリンダガスケット②

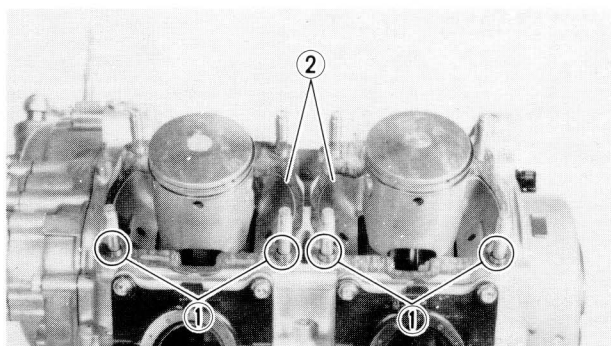
CASE捺印のある方をクランクケース側に向けて組付ける。

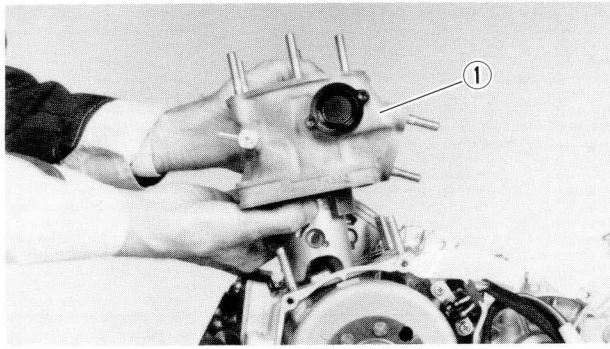
New

シリンダガスケット

2.以下の箇所へオートループスーパーオイルを塗布する。

- ピストン表面①
- ピストンリング②





3.以下の部品を組付ける。

- シリンダ①

シリンダ内面にオートループオイルを塗布し、ピストンリングの合口をロックピンに合わせ、ピストンリングを指先で押さえて、シリンダを組付け、対角線上に2～3回に分けて、規定のトルクで締付ける。

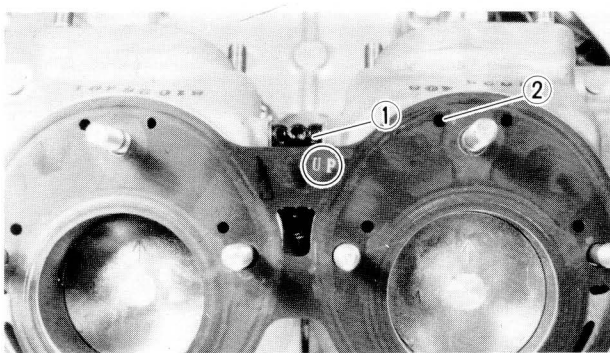


シリンダ締付トルク

2.8kg・m

整備要領

シリンダ組付後、キッククランクを作動させ、ピストンがスムーズに動くか確認すること。



4.以下の部品を組付ける。

- ジョイント1①
- ジョイント2
- シリンダヘッドガスケット②

シリンダヘッドガスケットのUPマークを上に向けて組付ける。

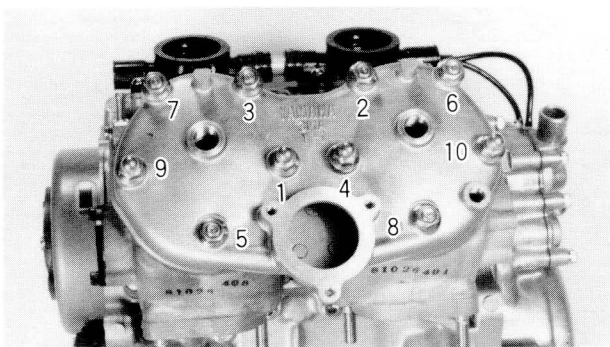


ジョイント1、2締付トルク

0.7kg・m

New

シリンダヘッドガスケット



5.以下の部品を組付ける。

注意

シリンダヘッドセンタ部(1.4.9.10)には銅ワッシャを使用し、クラウンナットを締付けること。

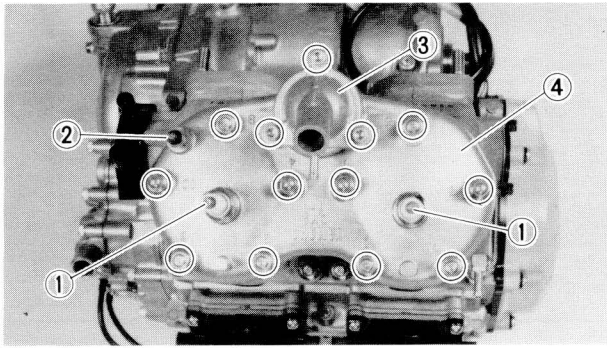
- シリンダヘッド

2～3回に分けて、締付順序に従って規定のトルクで締付ける。




シリンダヘッド締付トルク


2.2kg・m



6.以下の部品を組付ける。

- スパークプラグ①
- サーモユニット②
- サーモスタット
- サーモスタットカバー③
- シリンダヘッド④
- ゼネレータカバー

	スパークプラグ	2.0kg・m
	サーモユニット	1.4kg・m

	サーモユニット
---	---------

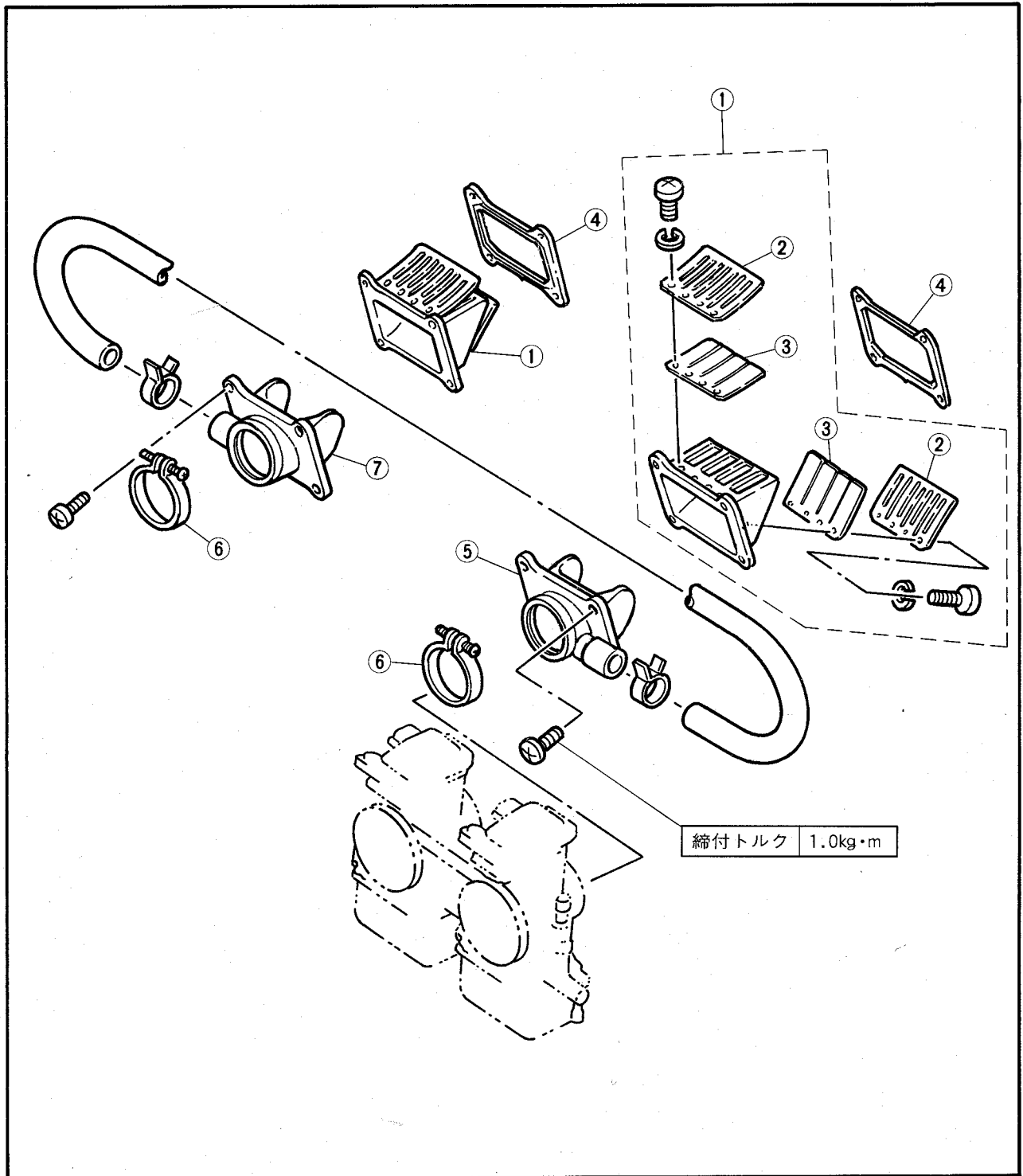


構成部品



リードバルブ

- ①リードバルブAss'y
- ②リードバルブストoppa
- ③リードバルブ
- ④バルブシートガスケット
- ⑤インテークマニホールド
- ⑥クランプホース
- ⑦インテークマニホールド

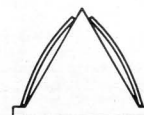




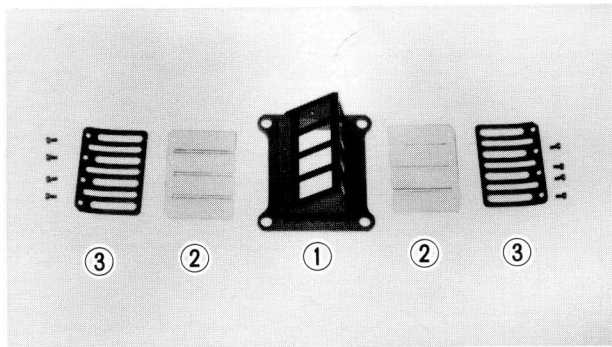
リードバルブの組付け

整備要領

- リードバルブは、切欠き同志を合わせそりのある方をシート側に向けて組付けること。



- ネジロックを塗布して組付けること。
- 締付トルク値を守ること。



1.以下の部品を組付ける。

- シート①
- リードバルブ②
- リードバルブストップ③



リードバルブストップ締付トルク
0.08kg・m

2.以下の部品を組付ける。

整備要領

ガスケットは突起のある方を上に向け、シール剤塗布側をクランクケース側に向けて組付ける。

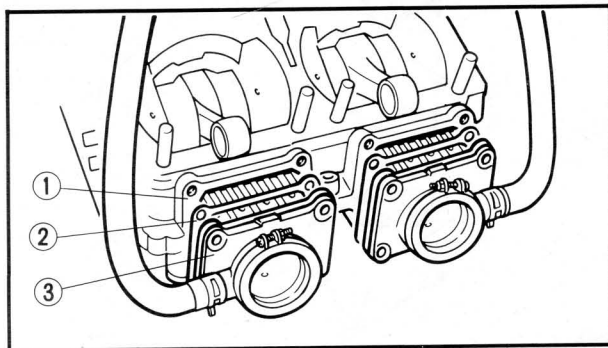
- インテークマニホールドガスケット①
- インテークバルブシート②
- マニホールド③



New インテークマニホールドガスケット



マニホールド締付トルク
1.0kg・m





構成部品

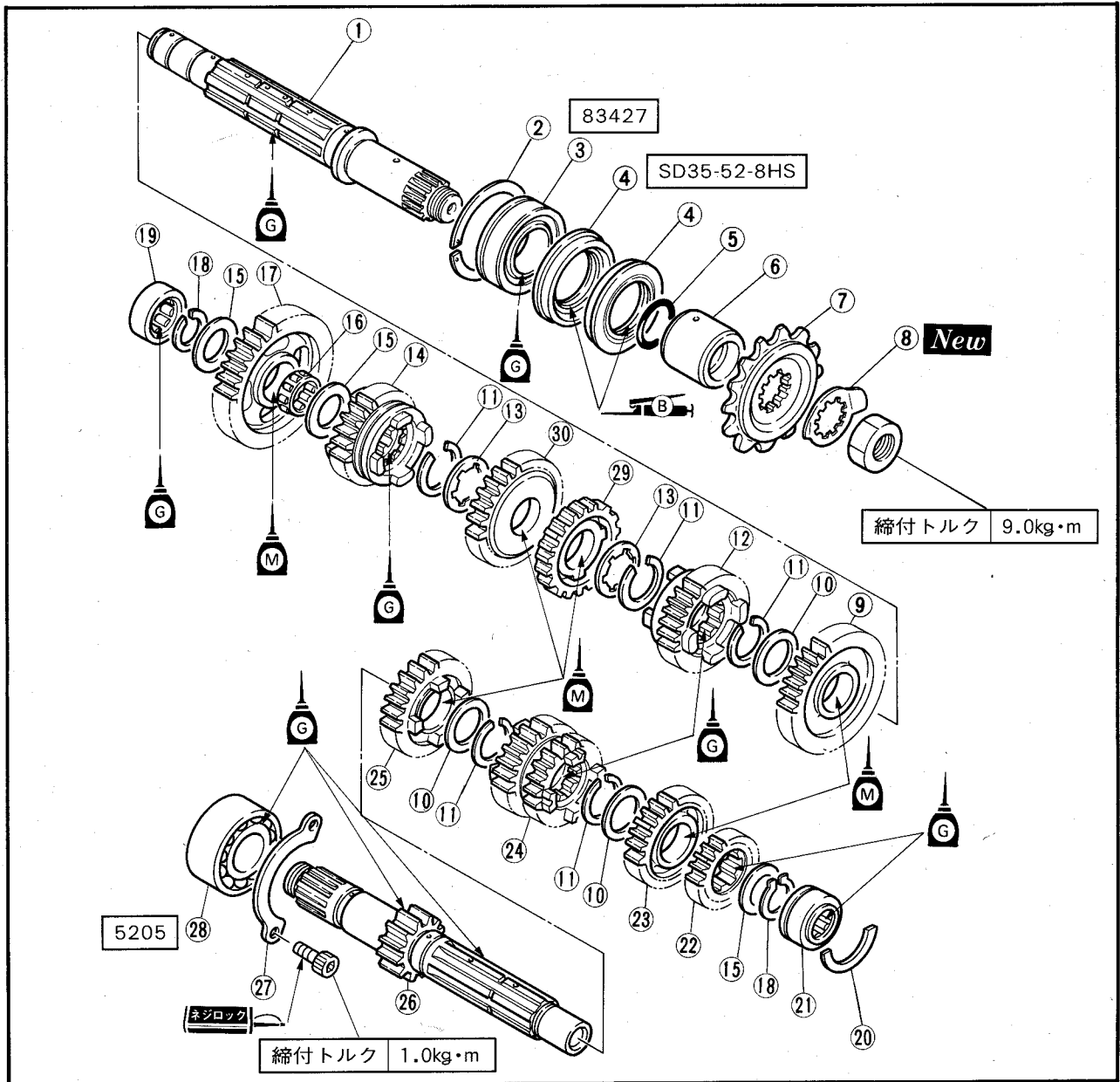


トランスミッション、シフトカム、シフトフォーク

- | | | |
|-----------------|--------------|----------------|
| ①ドライブアクスル Ass'y | ⑫ 5 thホイールギヤ | ⑳ 5 thピニオンギヤ |
| ②サークリップ | ⑬ ワッシャ | ㉑ 3 rdピニオンギヤ |
| ③ベアリング | ⑭ 6 thホイールギヤ | ㉒ 6 thピニオンギヤ |
| ④オイルシール | ⑮ プレートワッシャ | ㉓ メインアクスル |
| ⑤Oリング | ⑯ ベアリング | ㉔ ベアリングカバープレート |
| ⑥カラー | ⑰ 1 stホイールギヤ | ㉕ ベアリング |
| ⑦ドライブsprocket | ⑱ サークリップ | ㉖ 3 rdホイールギヤ |
| ⑧ロックワッシャ | ㉚ ベアリング | ㉗ 4 thホイールギヤ |
| ⑨ 2 ndホイールギヤ | ㉛ サークリップ 2 | |
| ⑩プレートワッシャ | ㉜ ベアリング | |
| ⑪ サークリップ | ㉝ 2 ndピニオンギヤ | |

New マーク部品番号

⑧ 90215-21256





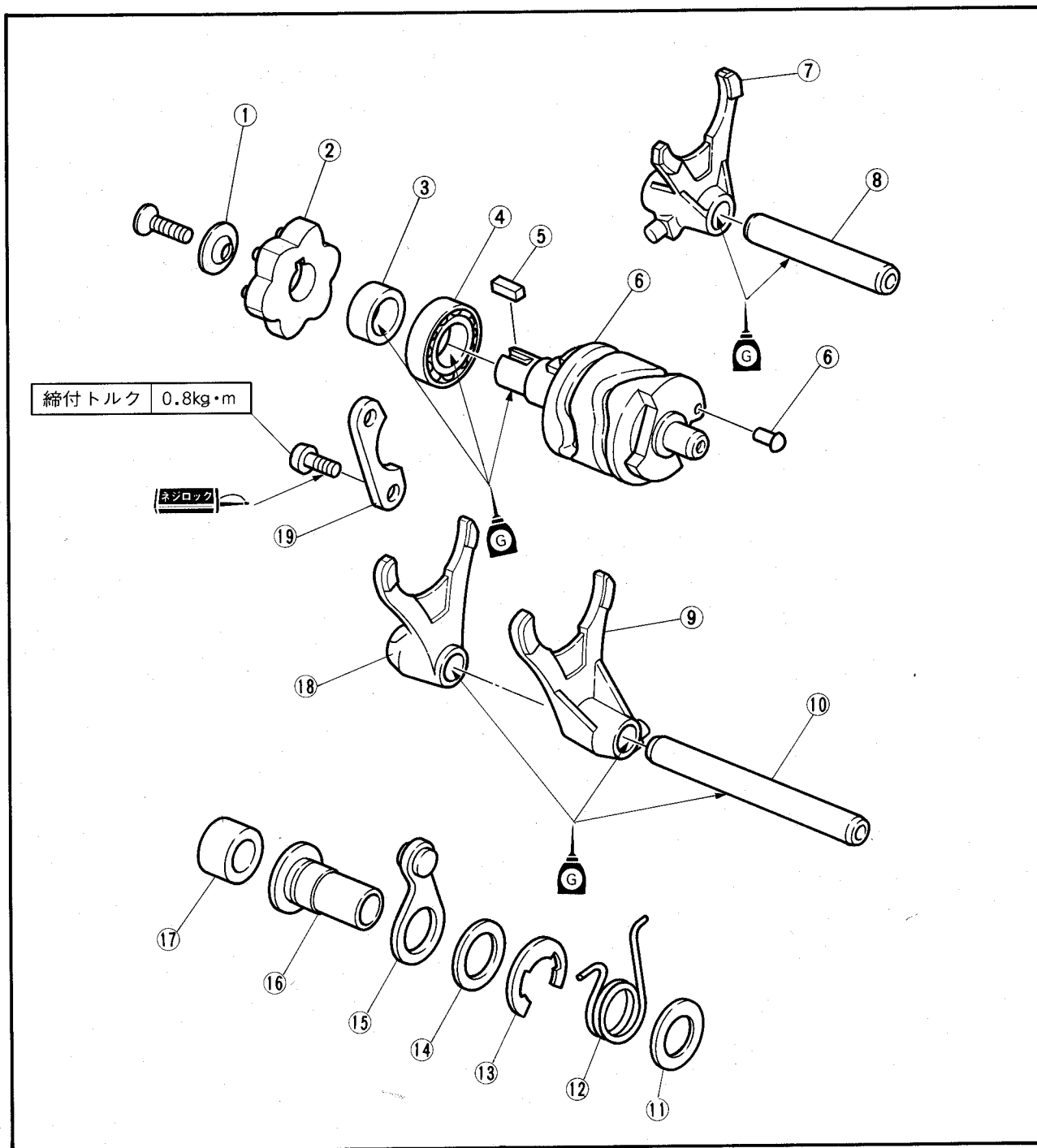
構成部品



トランスミッション、シフトカム、シフトフォーク

- | | | |
|---------------|------------------|-----------------|
| ① サイドプレート 1 | ⑧ シフトフォークガイドバー 1 | ⑮ ストッパレバー Ass'y |
| ② セグメント | ⑨ シフトフォーク 1 | ⑯ カラー |
| ③ カムシャフトスペーサ | ⑩ シフトフォークガイドバー 2 | ⑰ スペーサ |
| ④ ベアリング | ⑪ プレートワッシャ | ⑱ シフトフォーク 3 |
| ⑤ ストレイトキー | ⑫ トーションスプリング | ⑲ ストッパプレート 2 |
| ⑥ シフトカム Ass'y | ⑬ サークリップ | |
| ⑦ シフトフォーク 2 | ⑭ プレートワッシャ | |

4



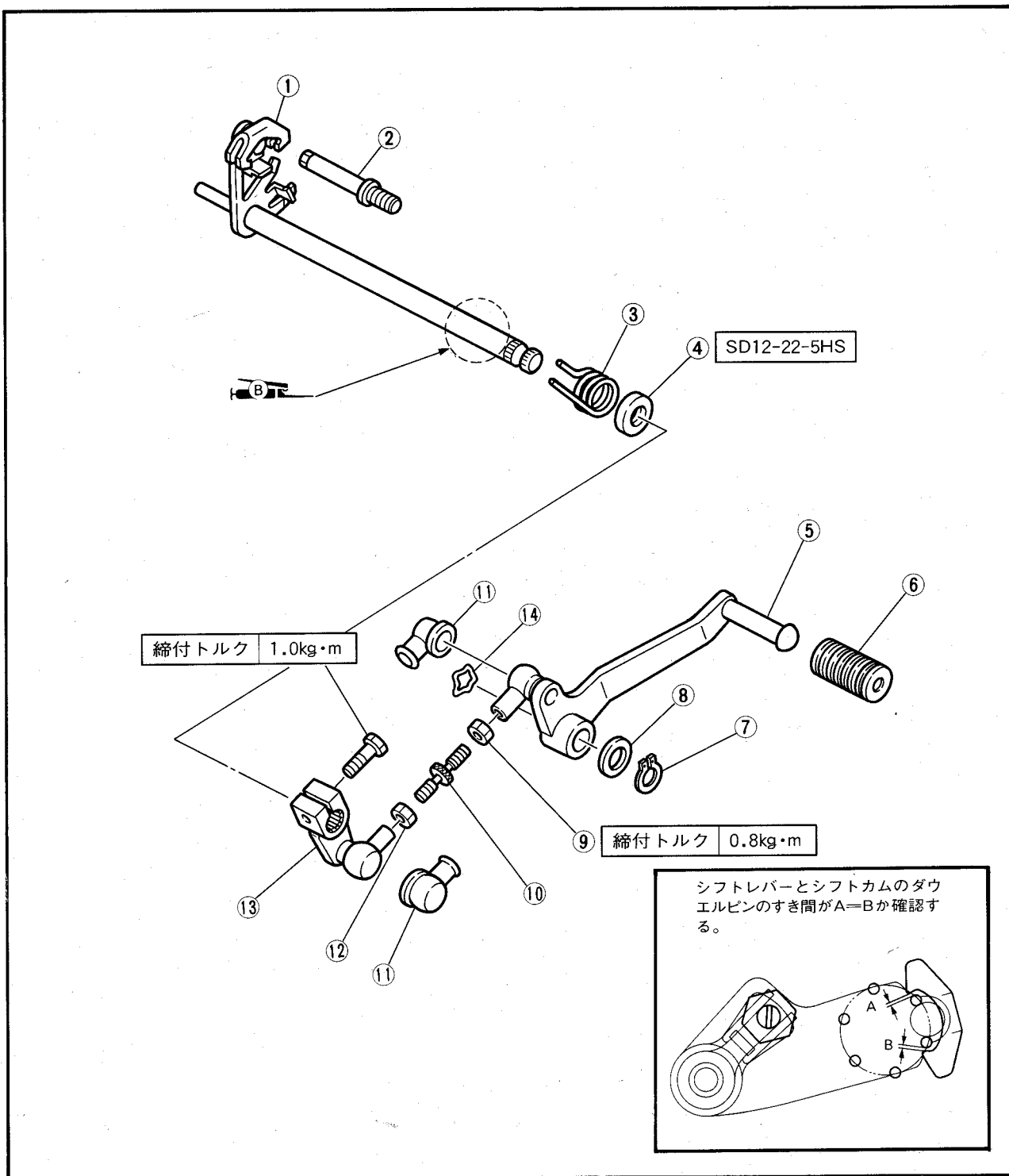


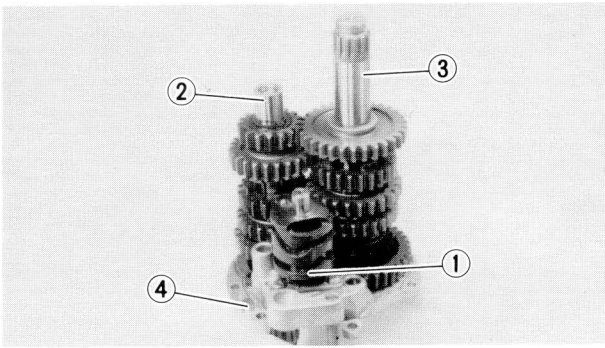
構成部品



シフトシャフト

- ①シフトシャフト Ass'y
- ②ストッパスクリュ
- ③トーションスプリング
- ④オイルシール
- ⑤シフトペダル
- ⑥シフトペダルカバー
- ⑦サークリップ
- ⑧プレートワッシャ
- ⑨ナット
- ⑩シフトロッド
- ⑪ダストカバー
- ⑫ナット
- ⑬シフトアーム
- ⑭ウエーブワッシャ

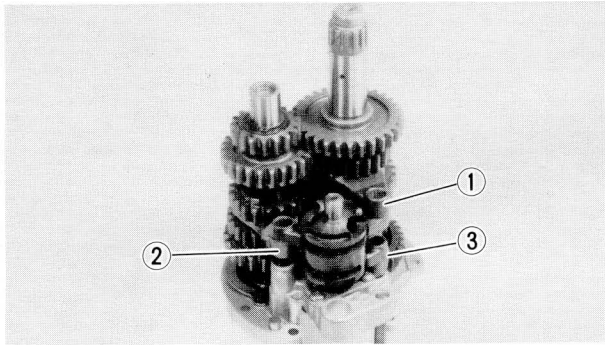




トランスミッション、シフトシャフトの組付け
1.以下の部品を組付ける。

- シフトカム①
- メインアクスル②
- ドライブアクスル③
- ダウエルピン④

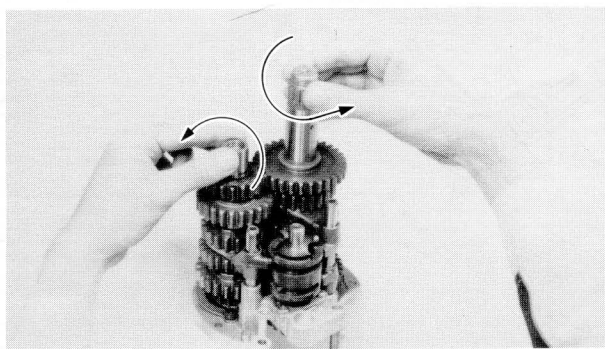
クランクケース 3 に組付ける。



2.以下の部品を組付ける。

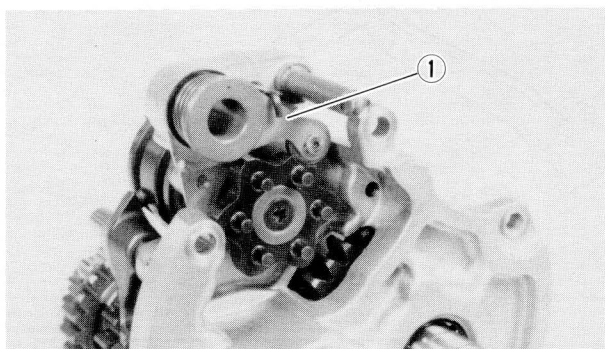
- シフトフォーク①
- シフトフォーク②
- シフトフォーク③
- シフトフォークガイドバー

シフトフォークはNoの付いた方をマグネット側に向けて組付ける。



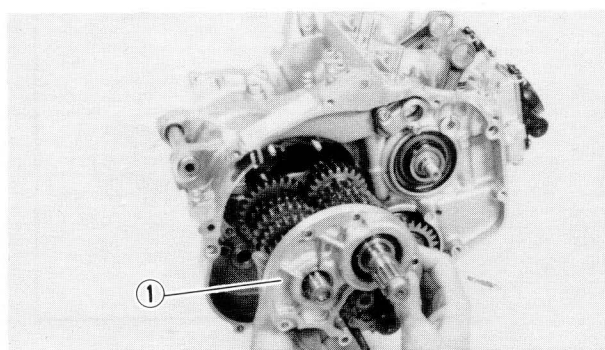
3.以下の点検をする。

- シフトカムを回転させ、シフトフォーク、メインアクスル、ドライブアクスルがスムーズに回転するか点検する。



4.以下の部品を組付ける。

- ストップレバー①



5.以下の部品を組付ける。

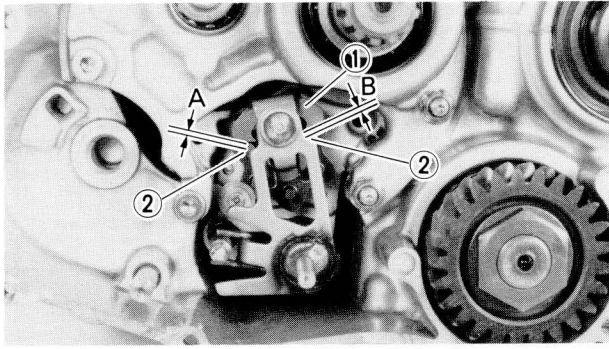
- トランスミッション Ass'y①
- クランクケース 3

クランクケース 2 に組付ける。



クランクケース 3 締付

1.5kg・m



6.以下の部品を組付ける。

- シフトシャフト

7.以下の点検をする。

- チェンジがニュートラル以外のときシフトレバー 2 ①の先端部とダウエルピン②のすき間 A、Bが等しいか点検する。

等しくない場合→シフトシャフト交換



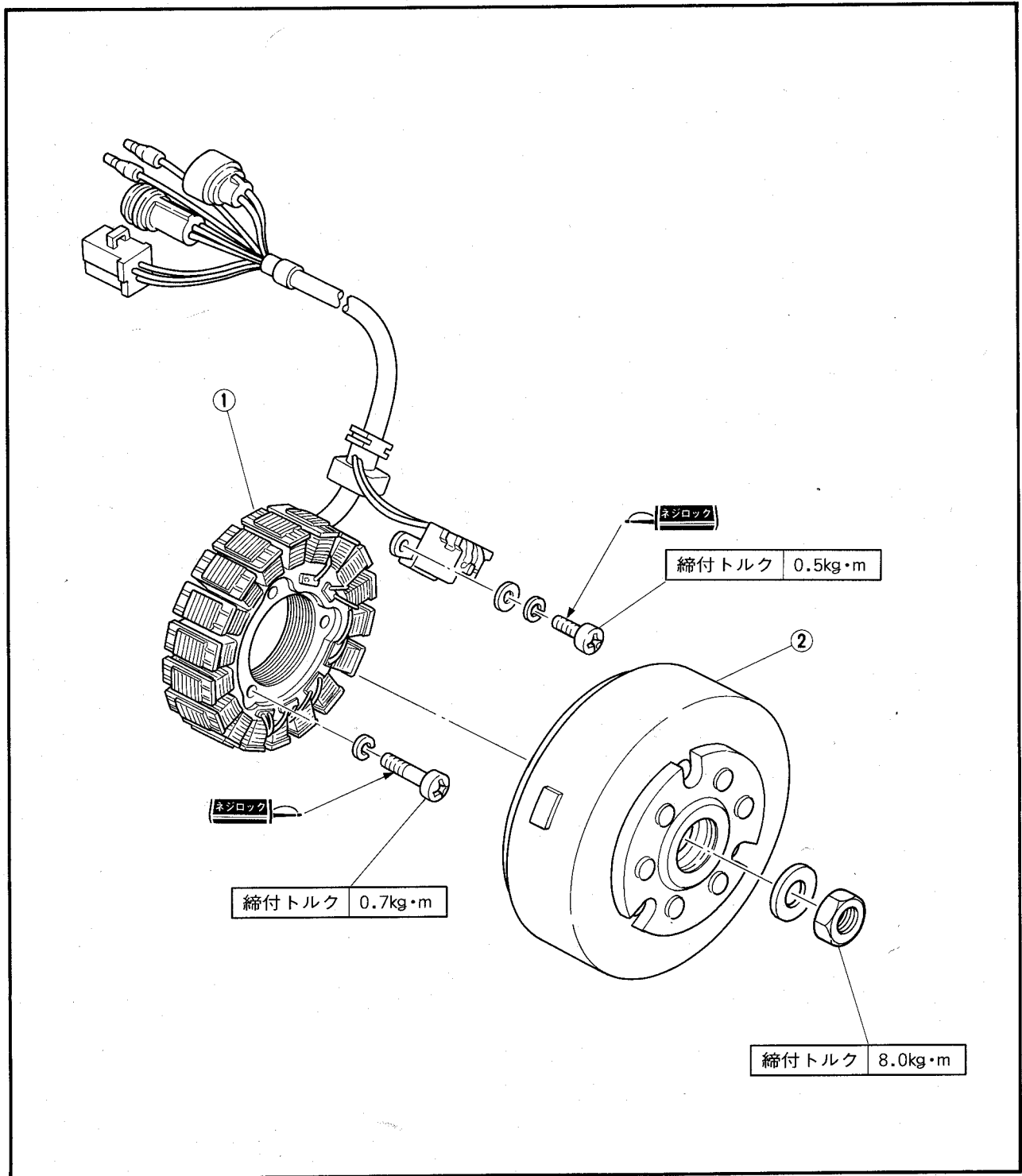
構成部品

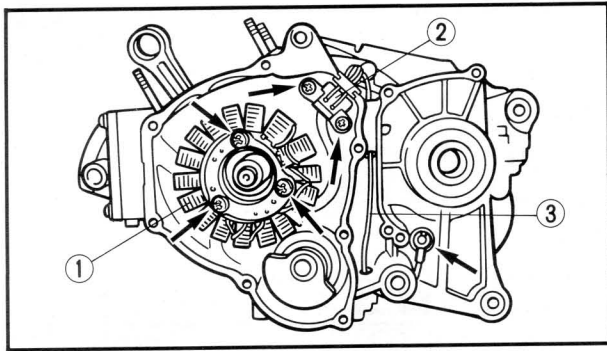


C.D.I.マグネト

- ①ステータ Ass'y
- ②ロータ Ass'y

4





C.D.Iマグネトの組付け

1. 以下の部品を組付ける。

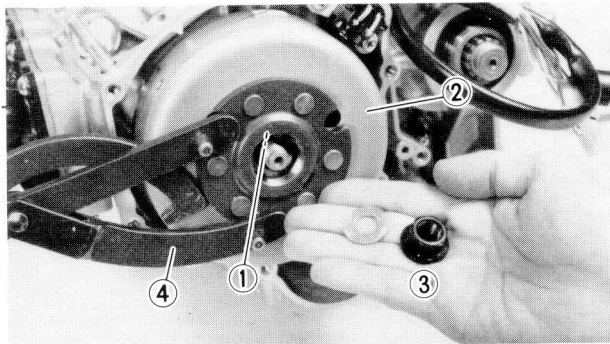
- チャージコイル①
- ピックアップコイル②
- ニュートラルスイッチリード線③

	チャージコイル締付トルク	0.7kg・m
	ピックアップ締付トルク	0.5kg・m

	チャージコイル締付スクリュ
	ピックアップコイル締付スクリュ

整備要領

- 各リード線の通し方はケーブル、ワイヤ、パイプ通し図を参照のこと。
- スクリュにはネジロックを塗布して組付けること。



2. 以下の部品を組付ける。

注意 ロータ内部に鉄類の付着がないことを確認してから組付けること。

- ウッドラフキー①
- ロータ②
- ナット③

ロータのキー溝をウッドラフキーに合わせて組付け、ロータホールディングツール④を使用してナットを締付ける。

	ロータホールディングツール
	90890—01235

	ロータ締付トルク
	8.0kg・m



キックスタータ

構成部品



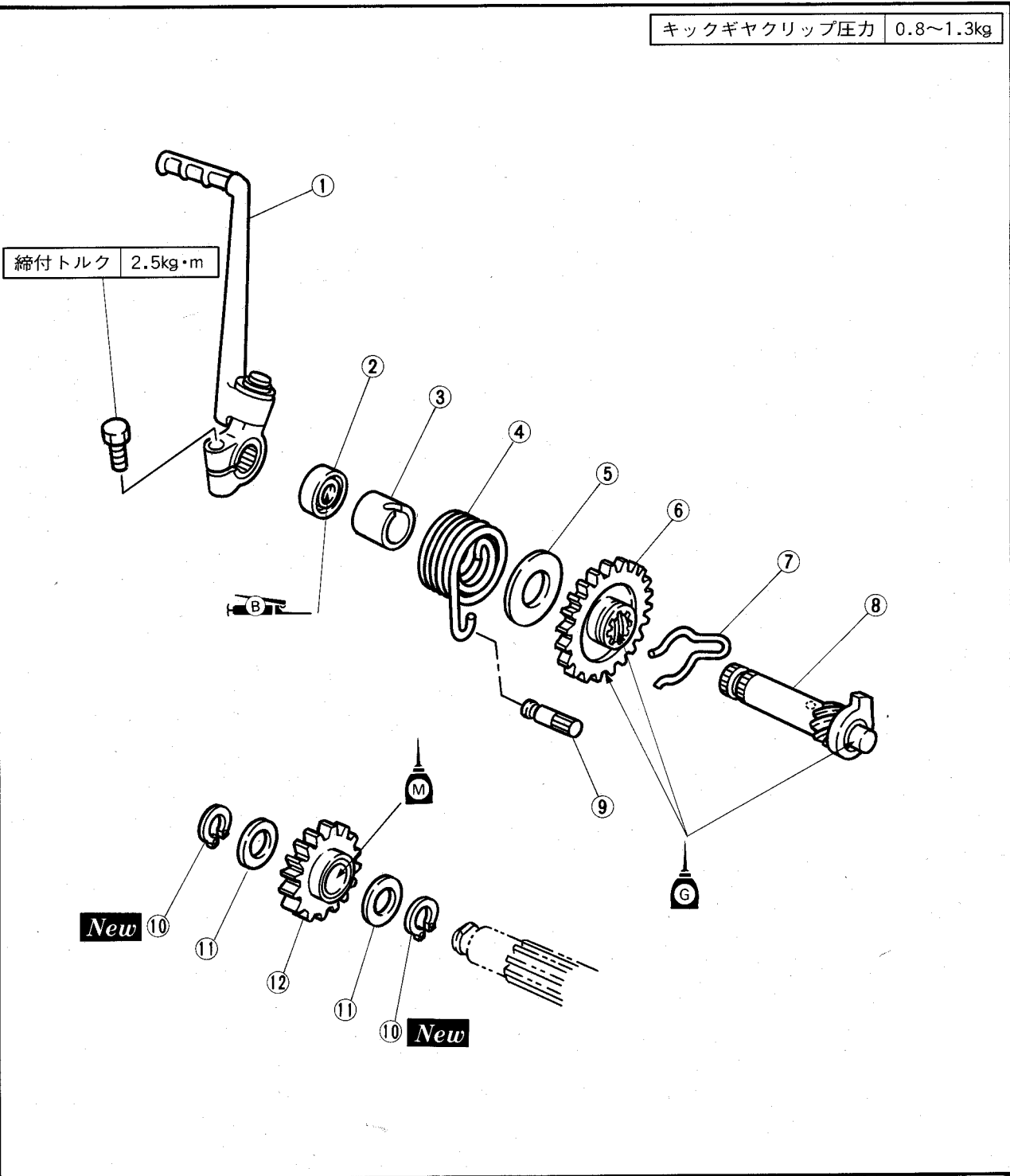
キックスタータ

- ①キッククランク Ass'y ⑥キックギヤ ⑪プレートワッシャ
- ②オイルシール ⑦クリップ ⑫キックアイドルギヤ
- ③スペーサ
- ④トーションスプリング ⑧キックアクスル Ass'y
- ⑤プレートワッシャ ⑨ストッパ
- ⑩サークリップ

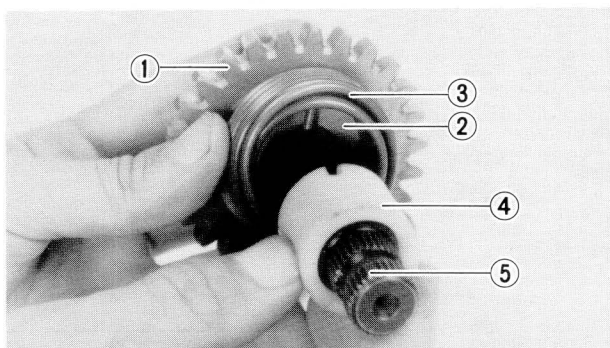
New マーク部品番号

⑩	99009-20400
---	-------------

キックギヤクリップ圧力 0.8~1.3kg



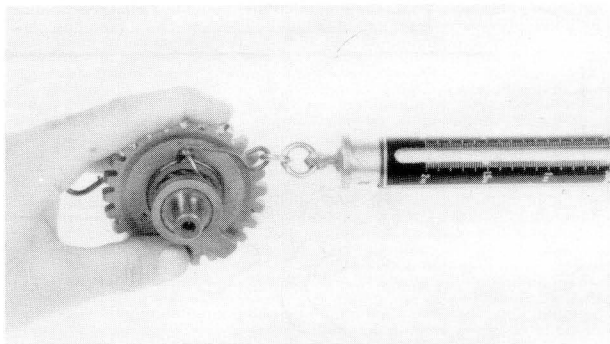
4



キックスタータの組付け

1. 以下の部品を組付ける。

- キックギヤ①
- ワッシャプレート②
- トーションスプリング③
- スペーサ④
- キックアクスル⑤



2. 以下の点検をする。

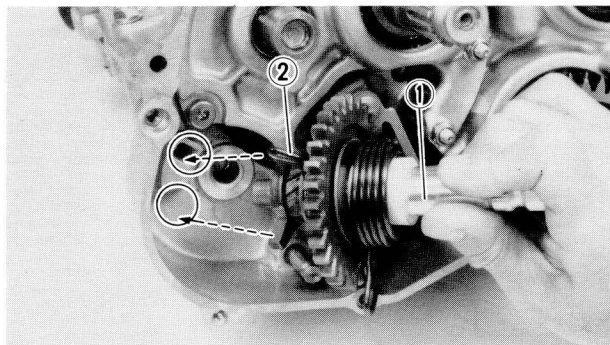
- キックギヤクリップ圧力



キックギヤクリップ圧力規定値

0.8~1.3kg

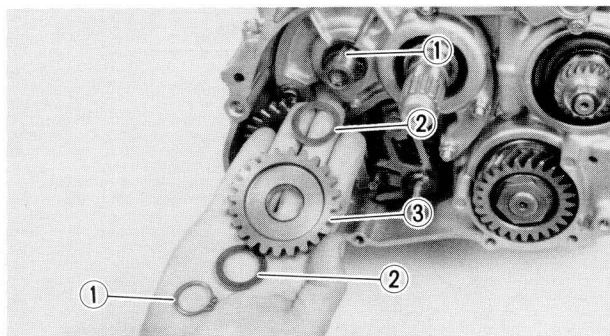
規定値以外→キックギヤクリップ交換



3. 以下の部品を組付ける。

- キックアクスル①
- キックギヤクリップ②

キックギヤクリップをクリップ溝に合わせて組付け、トーションスプリングをキックスプリングストッパ部に掛ける。



4. 以下の部品を組付ける。

- サークリップ①
- プレーンワッシャ②
- キックアイドルギヤ③

New

サークリップ



構成部品



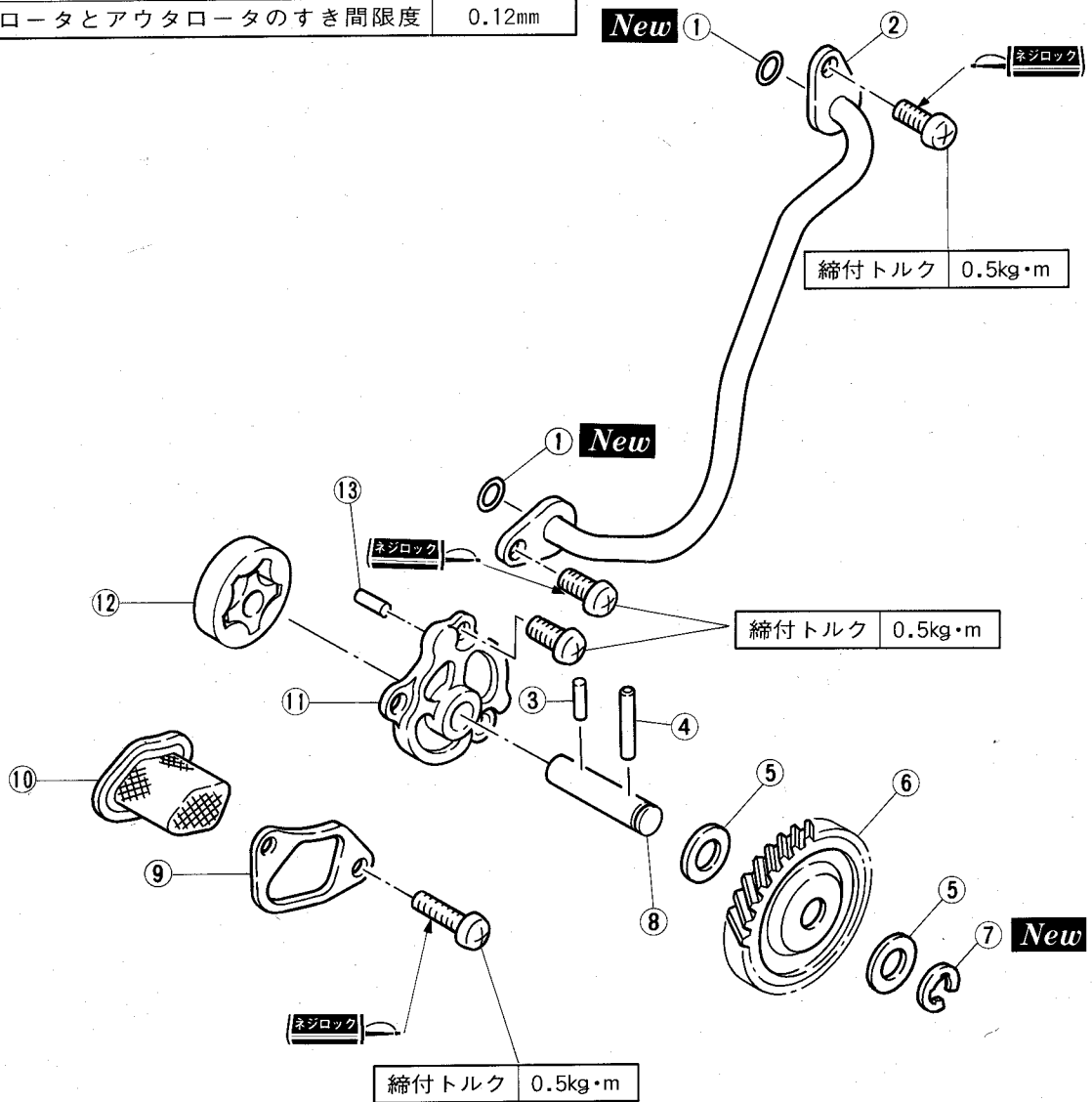
オイルポンプ、オイルストレーナ

- ① Oリング
- ② デリバリパイプ 1
- ③ ダウエルピン
- ④ ダウエルピン
- ⑤ プレートワッシャ
- ⑥ ポンプドリブンギヤ
- ⑦ サークリップ
- ⑧ ポンプシャフト
- ⑨ ストレーナカバー
- ⑩ オイルストレーナ
- ⑪ オイルポンプカバー
- ⑫ ロータ Ass'y 1
- ⑬ ダウエルピン

New マーク部品番号

①	93210-07540
⑦	99009-06600

ロータハウジング端面とロータのすき間限度	0.18mm
アウトロータとロータハウジングのすき間限度	0.17mm
インナロータとアウトロータのすき間限度	0.12mm





構成部品

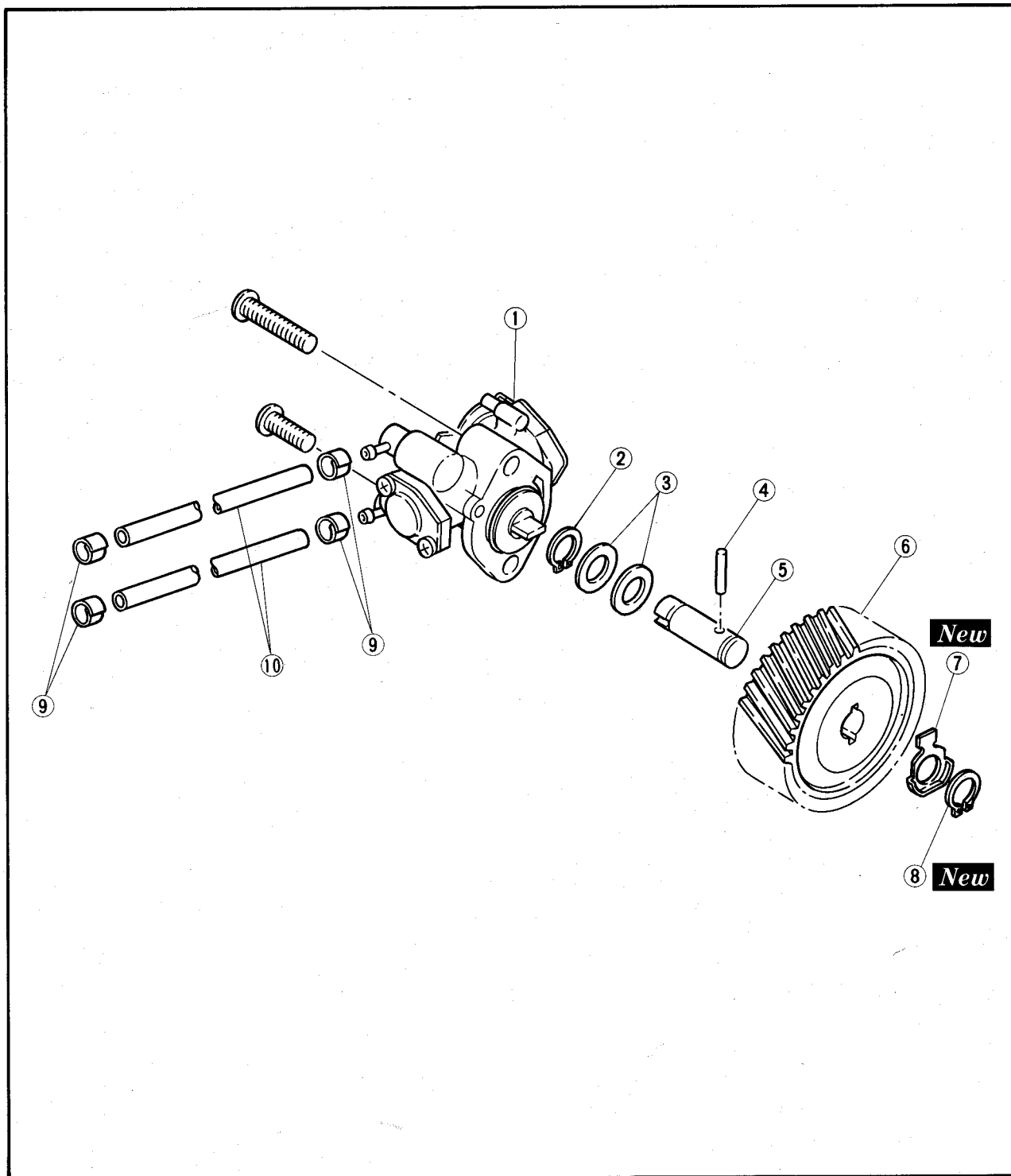


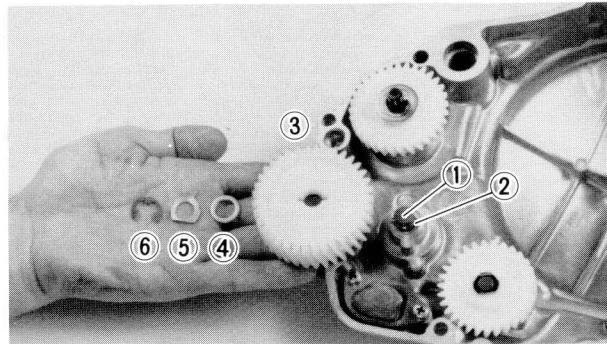
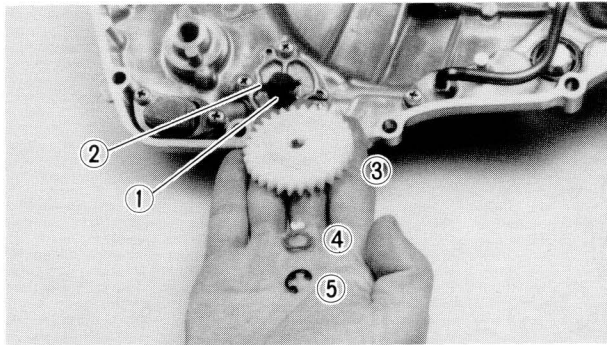
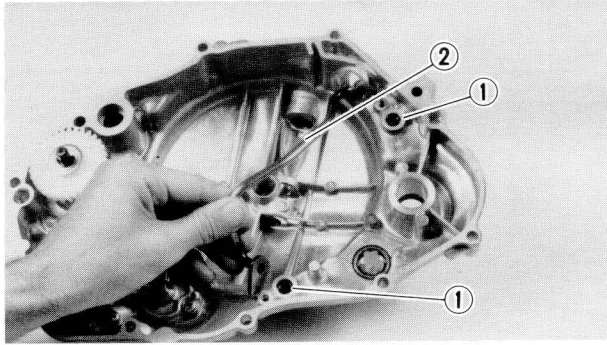
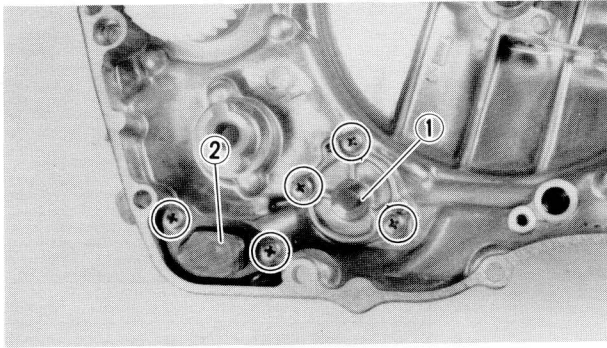
オートループポンプ

- ① オイルポンプ Ass'y
- ② サークリップ
- ③ プレートワッシャ
- ④ ダウエルピン
- ⑤ ドライブギヤシャフト
- ⑥ ポンプドライブギヤ
- ⑦ ロックワッシャ
- ⑧ サークリップ
- ⑨ クリップ
- ⑩ ホース

New マーク部品番号

⑦	90215-10253
⑧	93430-08036





オイルポンプ、ストレーナの組付け

整備要領 締付スクリューにはネジロックを塗布してから締付ける。

1.以下の部品を組付ける。

- オイルポンプ①
- オイルストレーナ②

	オイルポンプ	0.5kg・m
	オイルストレーナ	

2.以下の部品を組付ける。

- Oリング①
- デリバリパイプ②

New	Oリング
------------	------

	デリバリパイプ	0.5kg・m

3.以下の部品を組付ける。

- オイルポンプ①
- ワッシャブレン
- ダウエルピン②
- ドライブギヤ③
- ロックワッシャ④
- サークリップ⑤

New	サークリップ
------------	--------

オートループポンプドライブギヤの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- オートループポンプシャフト①
- ダウエルピン②
- オートループポンプドライブギヤ③
- プレートワッシャ④
- ロックワッシャ⑤
- サークリップ⑥

2.以下の部品を組付ける。

- オートループポンプ
シャフトの凹部とオートループポンプの凸部を合わせて組付ける。



構成部品

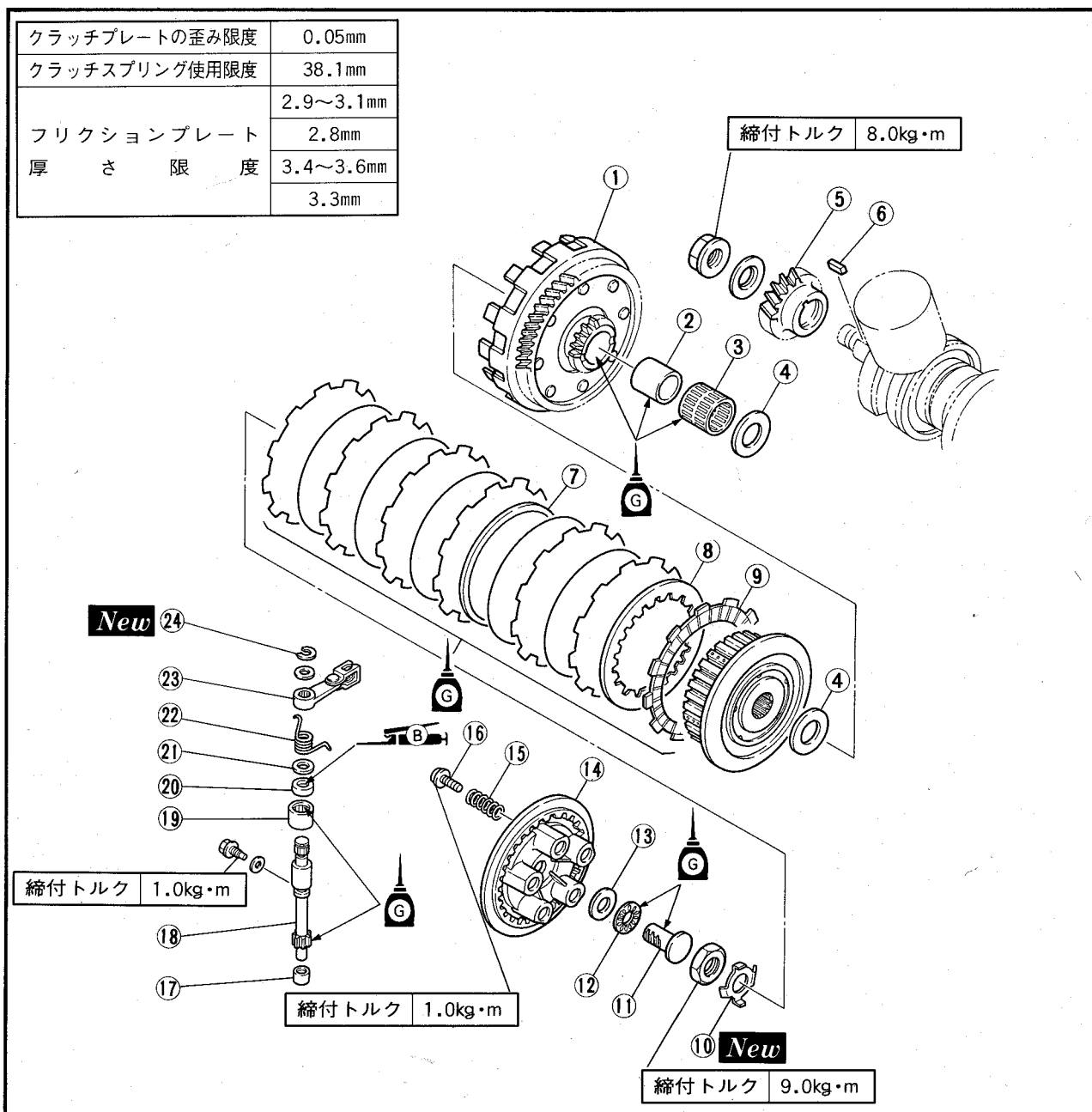


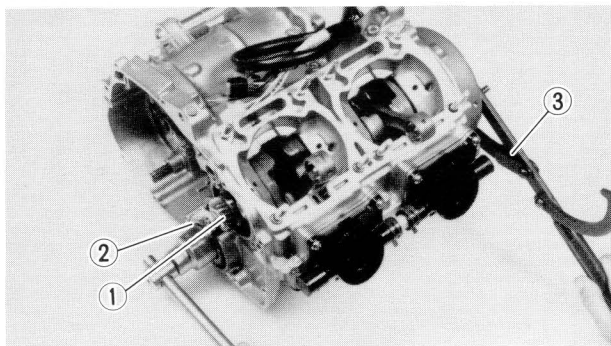
クラッチ

- ①プライマリドリブンギヤComp.
- ②スペーサ
- ③ベアリング
- ④スラストプレート1
- ⑤プライマリドライブギヤ
- ⑥ストレイトキー
- ⑦クッションリング
- ⑧クラッチプレート
- ⑨フリクションプレート
- ⑩ロックワッシャ
- ⑪プッシュロッド2
- ⑫ベアリング
- ⑬プレートワッシャ
- ⑭プレッシャプレート1
- ⑮コンプレッションスプリング
- ⑯ウイズワッシャスクリュー
- ⑰ベアリング
- ⑱プッシュレバーアクスル
- ⑲ベアリング
- ⑳オイルシール
- ㉑プレートワッシャ
- ㉒トーションスプリング
- ㉓プッシュレバーAss'y
- ㉔サークリップ

New マーク部品番号

⑩	90215-20231
㉔	99009-10400






クラッチの組付け

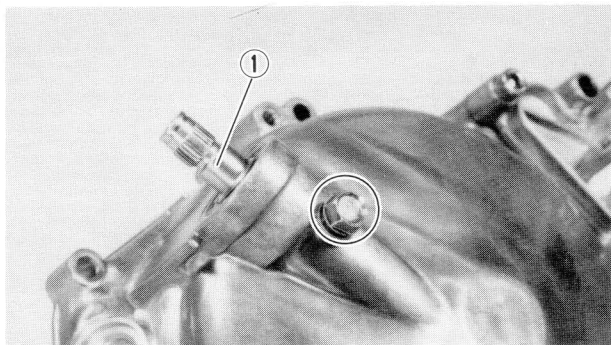
1.以下の部品を締付ける。

- ポンプドライブギヤ①
- プライマリドライブギヤ②

ロータホールディングツール③でロータを固定して各ギヤを締付ける。なおプライマリドライブギヤ締付ナットは逆ネジであるので気を付けること。

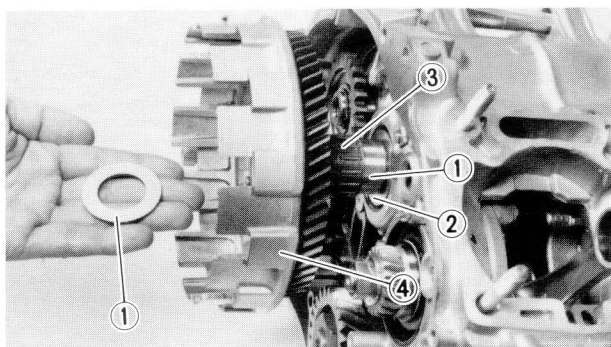
	ポンプドライブギヤ
	5.0kg・m

4



2.以下の部品を組付ける。

- プッシュアクスル



3.以下の部品を組付ける。

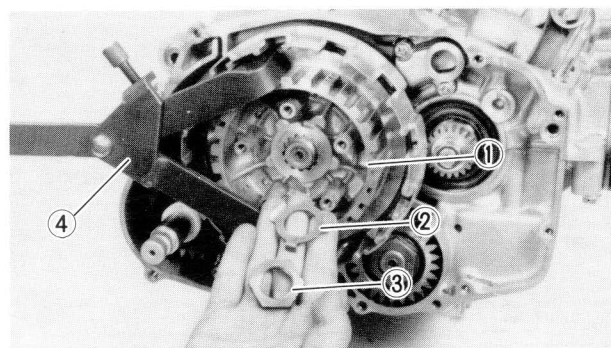
- スラストプレート①
- カラー②
- ベアリング③
- プライマリドライブギヤ④


メインアクスルにギヤオイルを塗布して組付ける。

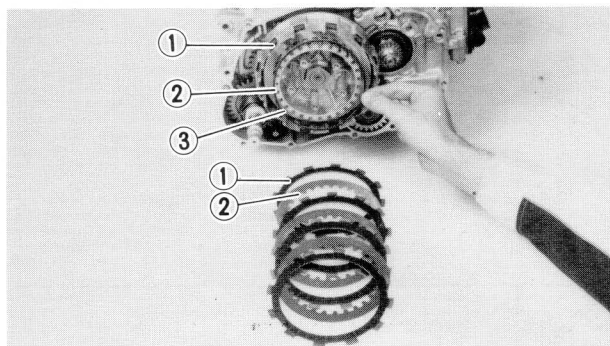
4.以下の部品を組付ける。

- クラッチボス①
- ロックワッシャ②
- ナット③

クラッチホルダ④でクラッチボスを固定してナットを締付ける。



New	ロックワッシャ
	クラッチボス
	9.0kg・m



5.以下の部品を組付ける。

整備要領 フリクションプレート、クラッチプレートにギヤオイルを塗布して交互に組付け、クッションリングは、クラッチプレート3枚組付後、組付ける。

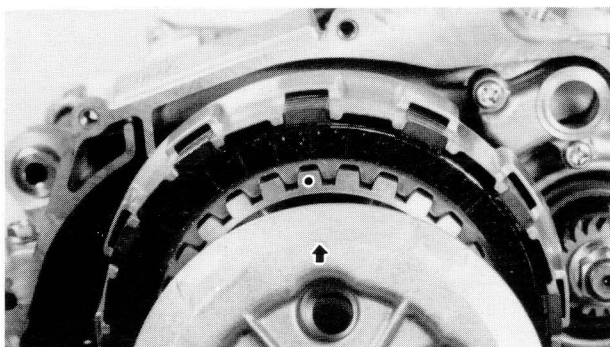
注意 フリクションプレートは組付け順序に注意すること。

- 1 枚目 t=3.5 内径小
- 2 枚目 t=3.0 内径小
- 3 枚目 t=3.0 内径小
- 4 枚目 t=3.0 内径大
- 5 枚目 t=3.0 内径小
- 6 枚目 t=3.0 内径小
- 7 枚目 t=3.0 内径大

- フリクションプレート①
- クラッチプレート②
- クッションリング③

6.以下の部品を組付ける。

- プッシュロッド
 - ベアリング
 - プレートワッシャ
- プレッシャプレートに組付ける。



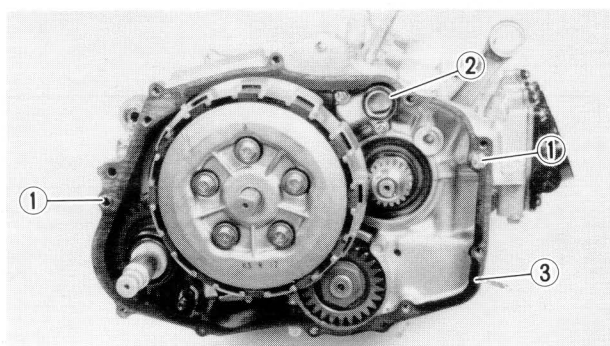
7.以下の部品を組付ける。

- プレッシャプレート
- プレッシャプレートの↑マークをクラッチボスの●マークに合わせて組付け、2～3回に分け、対角線上に締付ける。



プレッシャプレート

1.0kg・m

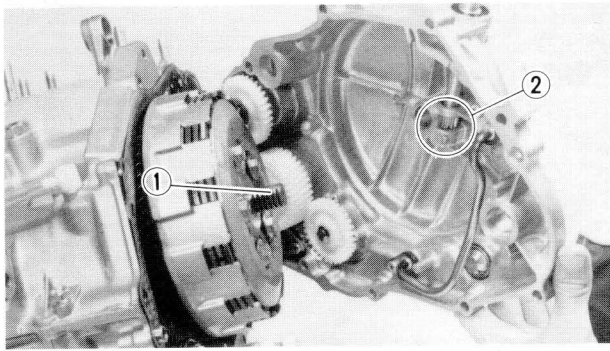


8.以下の部品を組付ける。

- ダウエルピン①
- Oリング②
- クランクケースカバーガスケット③

New

クランクケースカバーガスケット



9.以下の部品を組付ける。

- クランクケースカバー

プッシュロッド①をプッシュアクスルギヤ部②に合わせてセットし、プライマリドライブギヤと、オイルポンプドライブギヤのかみ合いを確認しながら組付ける。



クランクケースカバー

1.0kg・m

10.以下の部品を組付ける。

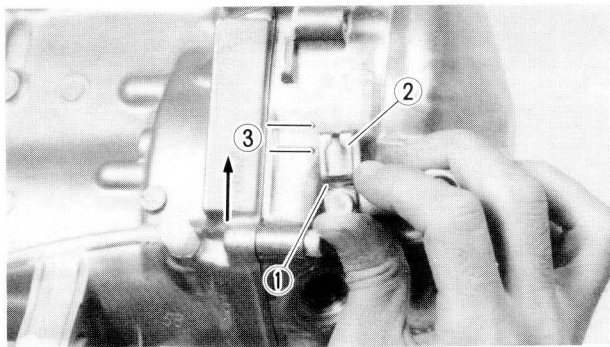
- キッククランク



キッククランク

2.5kg・m

4



11.以下の部品を組付ける。

- プレートワッシャ
- トーションスプリング①
- プッシュレバー②
- サークリップ

プッシュレバーを矢印方向に押し、クランクケースカバーの合わせマーク③範囲にプッシュレバー先端が入るように組付ける。

12.以下の部品を組付ける。

- オイルデリバリパイプ
- クリップ

マニホールドのノズル部に確実に組付ける。

13.以下の部品を締付ける。

- オイルドレンボルト



オイルドレンボルト

2.2kg・m

エンジン脱着

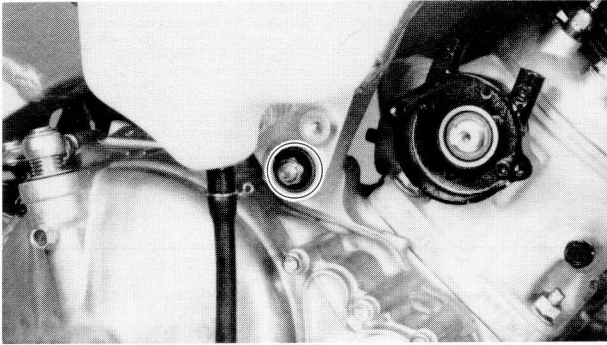
エンジン



エンジンの組付け

1.以下の部品を組付ける。

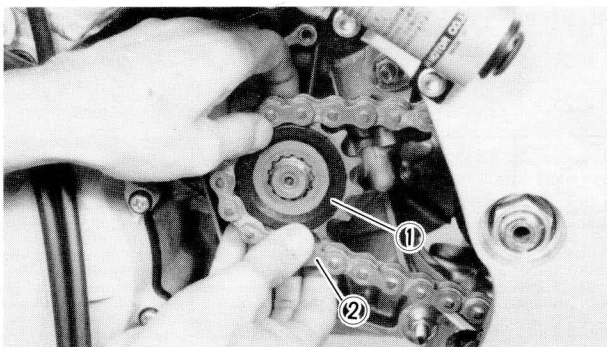
- エンジン
エンジンをフレームに組付ける。



2.以下の部品を組付ける。

- エンジンマウントボルト①②③
①②は右側から組付ける。

	① ②	3.2kg・m
	③	



ドライブチェーンの組付け

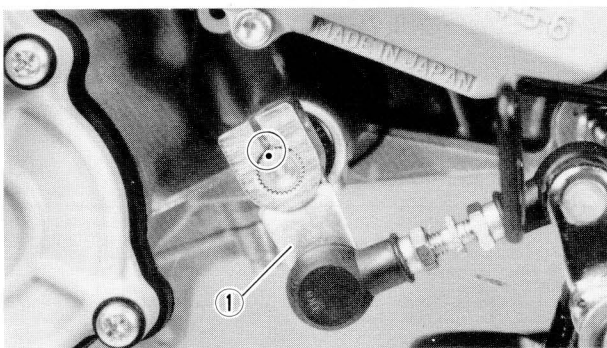
1.以下の部品を組付ける。

- ドライブsprocket①
- ドライブチェーン②

2.以下の部品を組付ける。

- ロックワッシャ
- ナット
ナット締付後、ロックワッシャを確実に折り曲げる。

New	ロックワッシャ
	ドライブsprocket締付 9.0kg・m

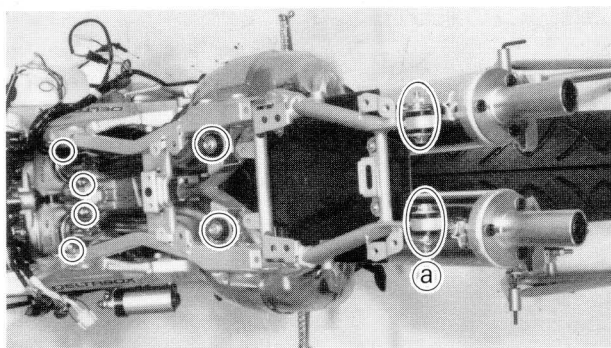


3.以下の部品を組付ける。

- チェンカバー
- シフトアーム①
シフトシャフトのポンチマークとシフトアームのスリット部を合わせて組付ける。

	チェンカバー	0.5kg・m
	シフトアーム	1.0kg・m

4



マフラの組付け

1.以下の部品を組付ける。

整備要領

- ガスケットのシール剤のついている方をブラケット側に組付ける。



- ①縮付け部、ガスケット、ワッシャ、カラー類の組付けの向き(順序)を間違えないように注意する。

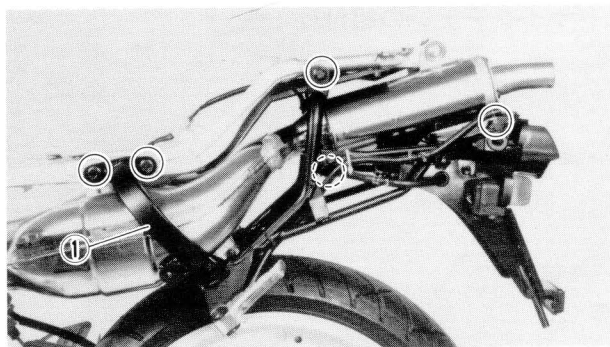
- ガスケット
- マフラ



マフラ締付け

1.8kg・m

4



2.以下の部品を組付ける。

- ステア①
- パイプ



ステア締付

1.8kg・m

3.以下の部品を組付ける。

- カバー

4.以下の接続をする。

- テール/ストップランプリヤフラッシュカブラ

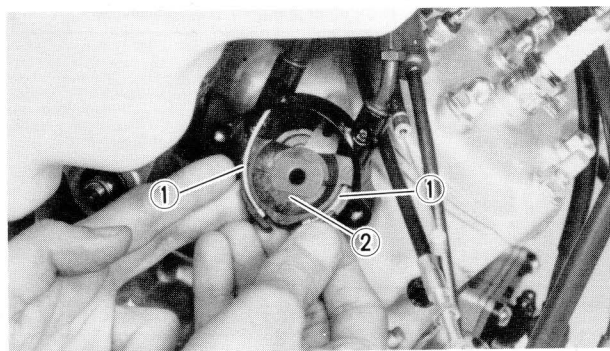
Y.P.V.Sケーブルの組付け

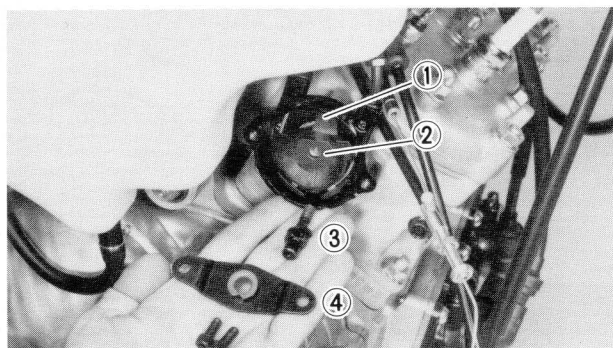
1.以下の部品を組付ける。

整備要領

プーリケーブルの組付け位置を間違わないように組付ける。

- プーリケーブル①
- プーリ②

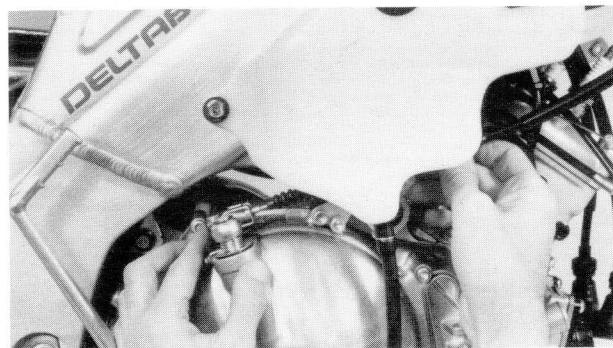




2.以下の部品を組付ける。

- 4φピン①
- プーリ Ass'y②
- ボルト③
- プレート④

プーリに4φのピンを組付け、両方のプーリケーブルが張るようにアジャスタで調整する。



クラッチケーブルの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- クラッチケーブル
- プッシュレバー先端部の合わせマークを確認する。(P4-57参照)

各配線の組付け

整備要領 各ホース類、ケーブル類はワイヤ、パイプ類通し図を参照して組付ける。

1.以下の接続をする。

- C.D.Iマグネットカプラ
- プラグキャップ
- サーモユニットリード線

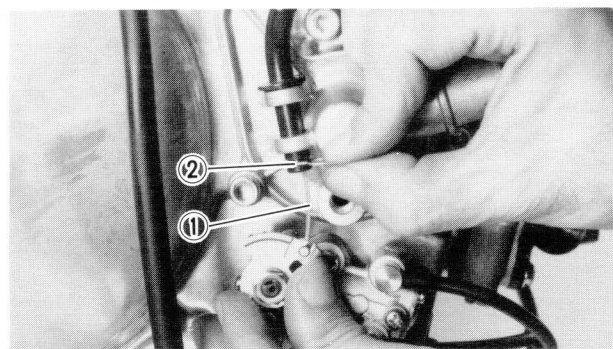
オイルポンプケーブルの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- ポンプケーブル①
- クリップ②

2.以下の部品を組付ける。

- オイルパイプ
- 組付後エア抜きをする。(P3-9参照)

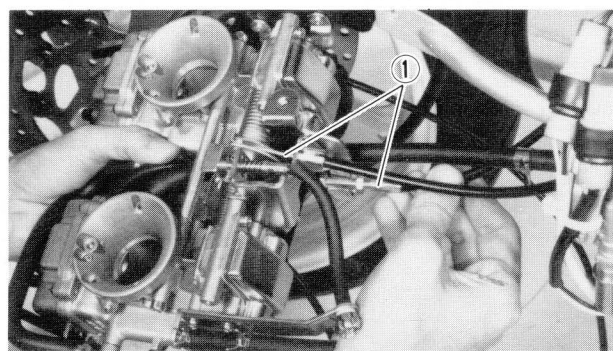


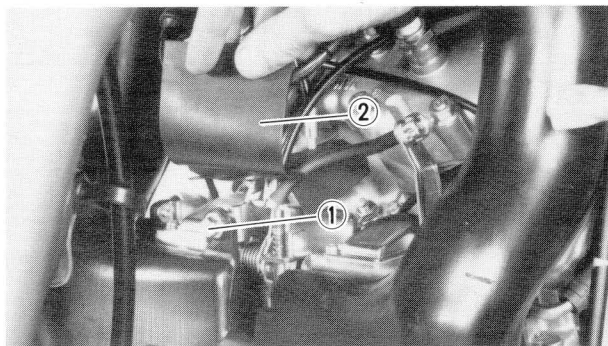
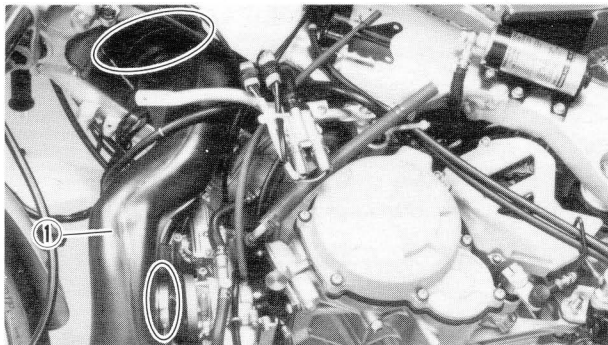
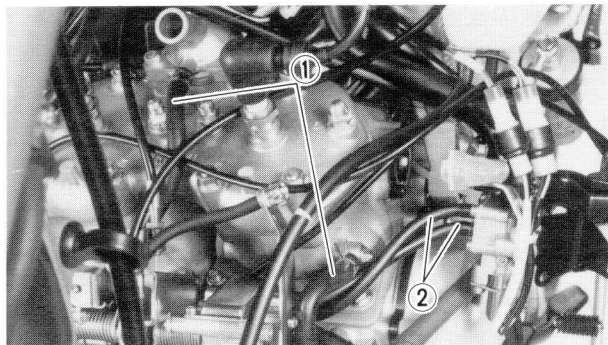
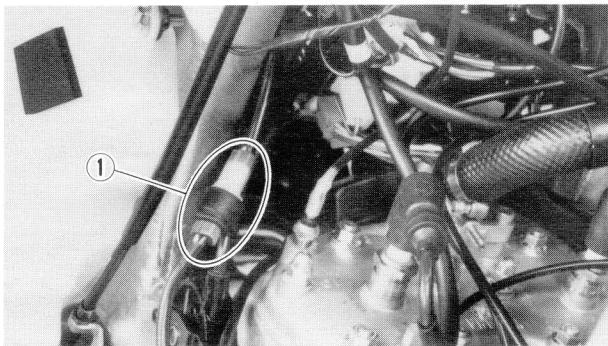
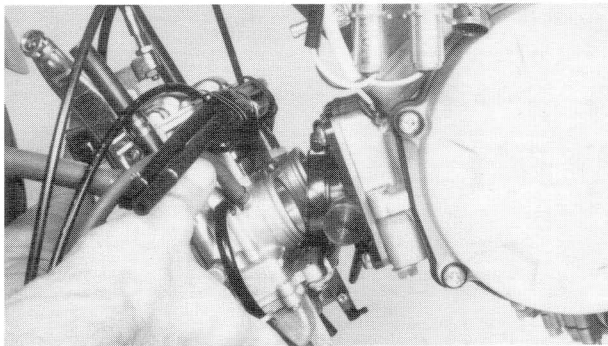
キャブレタの組付け

整備要領 各ホース類、ケーブル類はワイヤ、パイプ類通し図を参照して組付ける。

1.以下の部品を組付ける。

- スロットルケーブル①
- スロットルケーブルをキャブレタに組付ける。





2.以下の部品を組付ける。

- キャブレタAss'y
キャブレタジョイントクランプスクリュを確実に締付ける。

3.以下の部品を組付ける。

- スロットルポジションセンサカバー①

4.以下の部品を組付ける。

- 温水パイプ①
- ホース②

5.以下の部品を組付ける。

- スターターケース

サイレンサの組付け

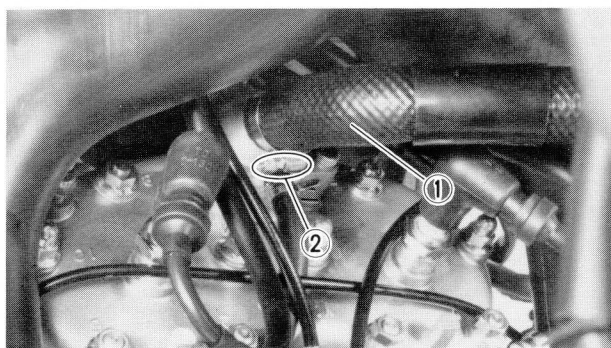
1.以下の部品を組付ける。

- サイレンサ①
エアクリーナケースとサイレンサ先端を合わせキャブレタに組付け、クランプスクリュを確実に締付ける。

2.以下の部品を組付ける。

- ボルト①
- カバー②

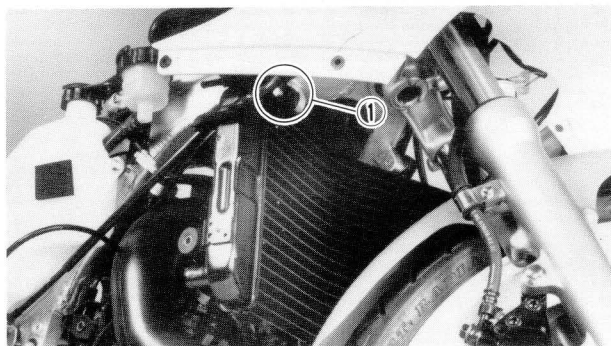
	<p>サイレンサ締付 0.5kg・m</p>
--	----------------------------



ラジエタの組付け

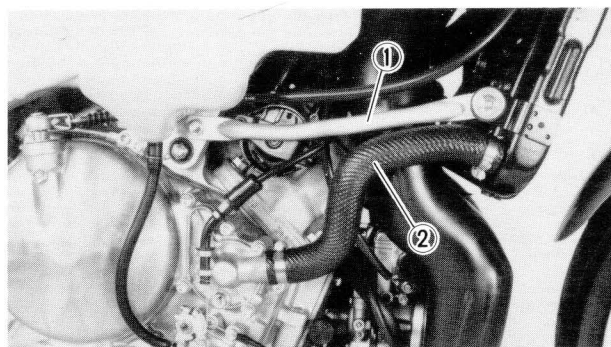
1.以下の部品を組付ける。

- ホース 2 ①
- クランプホース②を確実に締付ける。



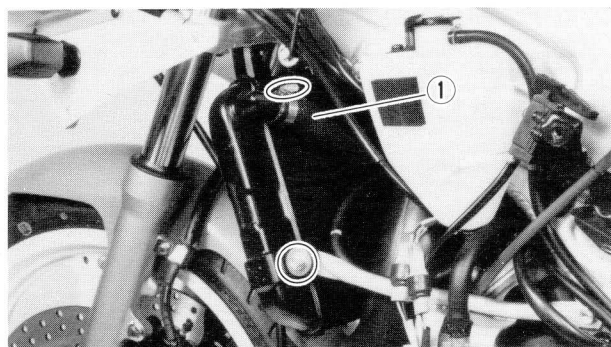
2.以下の部品を組付ける。

- ラジエタ
- 右側フレーム突起部①に合わせて組付ける。



3.以下の部品を組付ける。

- ステア①
- パイプ 1 ②
- クランプホースを確実に締付ける。



4.以下の部品を組付ける。

- ホース 2 ①
- ステア②
- ホース 2、ステアをラジエタに組付け確実に締付ける。



ラジエタ締付

0.6kg・m

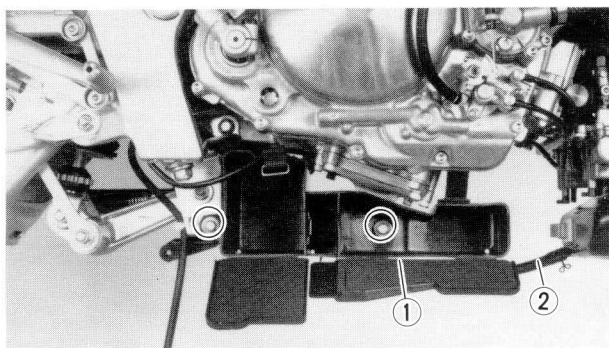
5.以下の部品を組付ける。

- ホース
- リカバリタンクからのホースをラジエタに組付ける。

6.以下の部品を組付ける。

- 冷却水ドレンボルト

7.冷却水を注入する。



バッテリーケースの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- バッテリーボックス①
- ブリーザパイプ②

2.以下の部品を組付ける。

- ヒューズボックス
- バッテリー
- 車載ツール

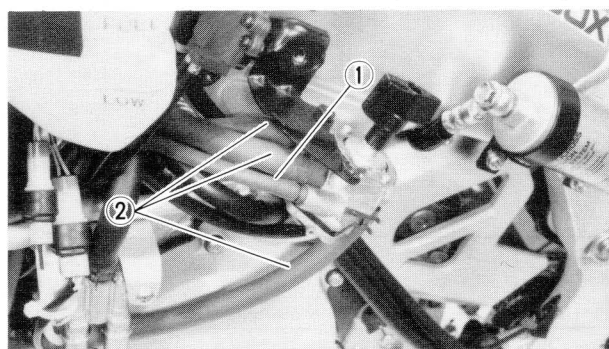
フュエルタンクの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- フュエルタンク
- オーバフローパイプ

2.以下の部品を組付ける。

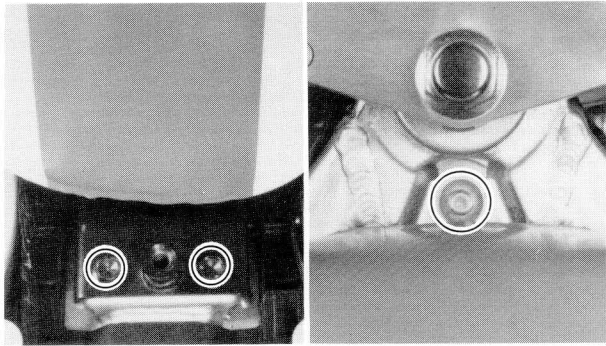
- 負圧パイプ①
- フュエルパイプ②
- フュエルコック



3.フュエルサブコックをONの位置にする。

エンジン脱着

エンジン



4.以下の部品を締付ける。

- フュエルタンク

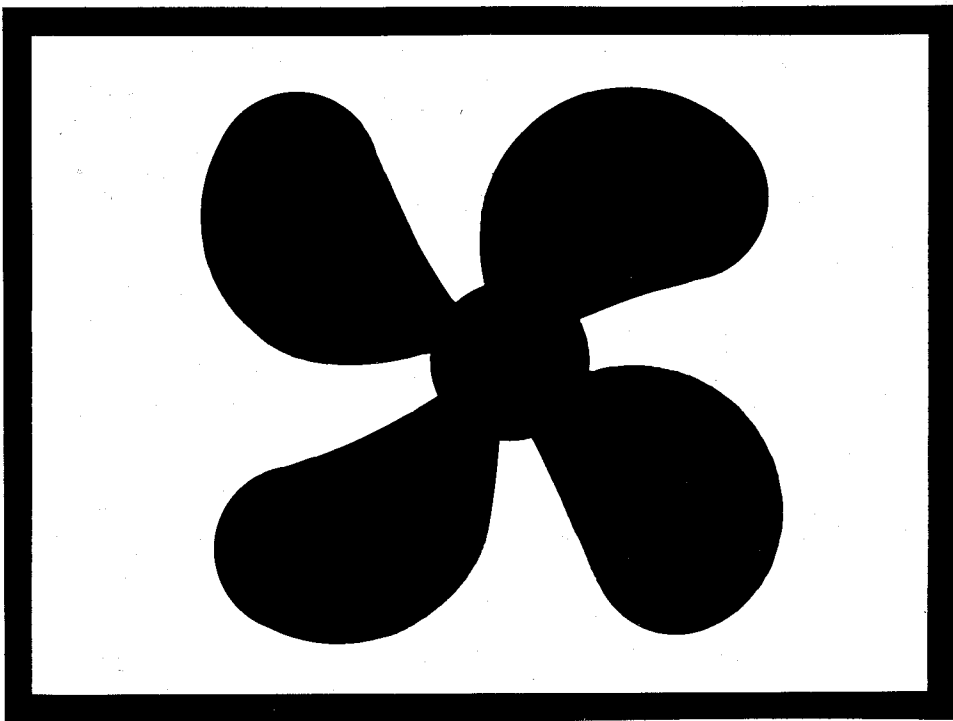
ミッションオイルの注入 (P3-6参照)

フロントアンダボディ、サイドカバー、テールカ
バーの組付け (P3-4,3-5参照)



第 5 章

水冷機構編





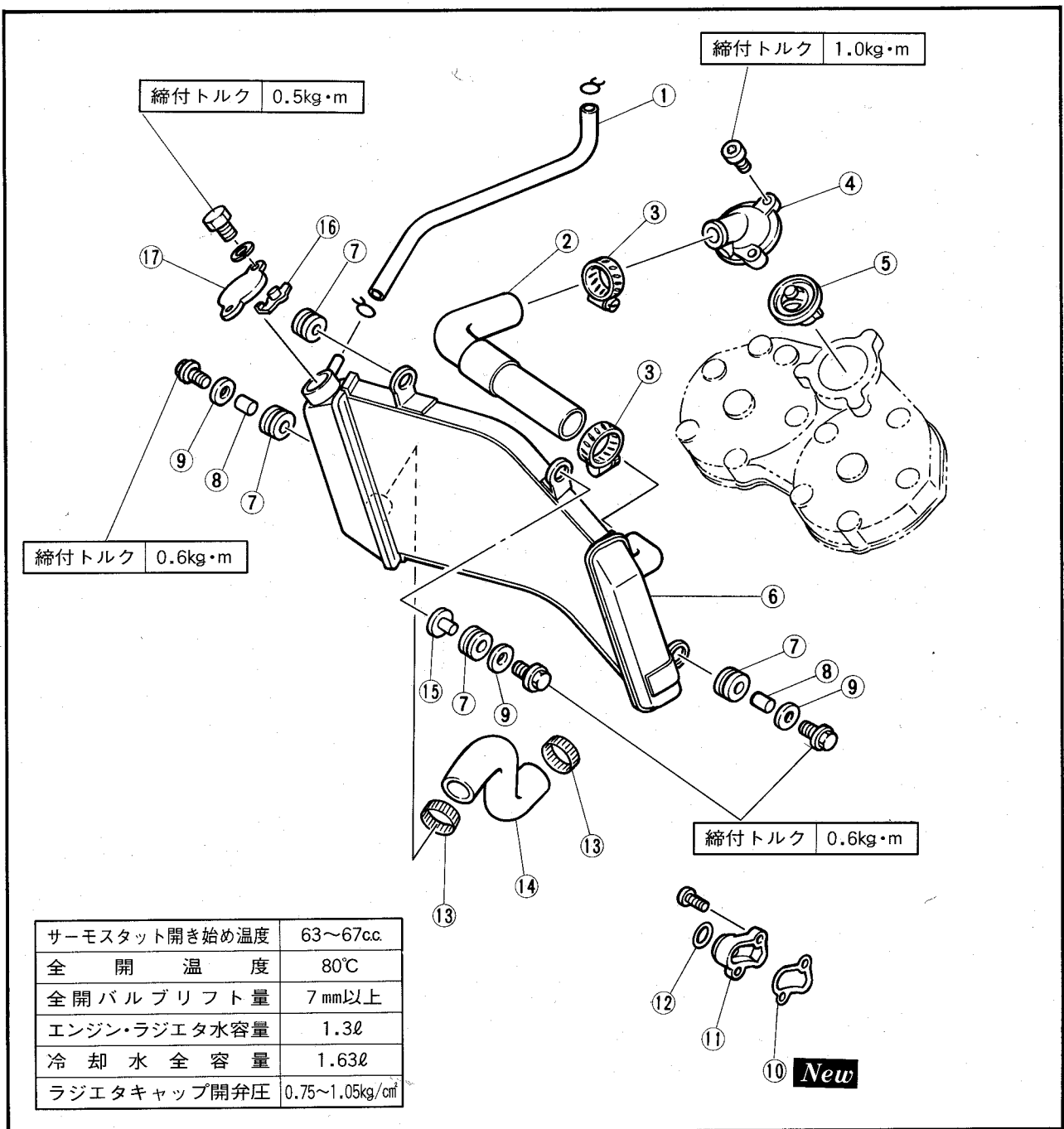
構成部品

ラジエタ、サーモスタット、ウォーターポンプ

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| ①ホース | ⑦グロメット | ⑬ホースクランプ |
| ②パイプ 2 | ⑧カラー | ⑭パイプ 1 |
| ③ホースクランプ | ⑨プレートワッシャ | ⑮カラー |
| ④サーモスタットカバー | ⑩ガスケット | ⑯ストッパ |
| ⑤サーモスタット | ⑪ジョイント | ⑰ラジエタキャップ |
| ⑥ラジエタ Ass'y | ⑫Oリング | |

New マーク部品番号

⑩ 3MA-12435-00



5



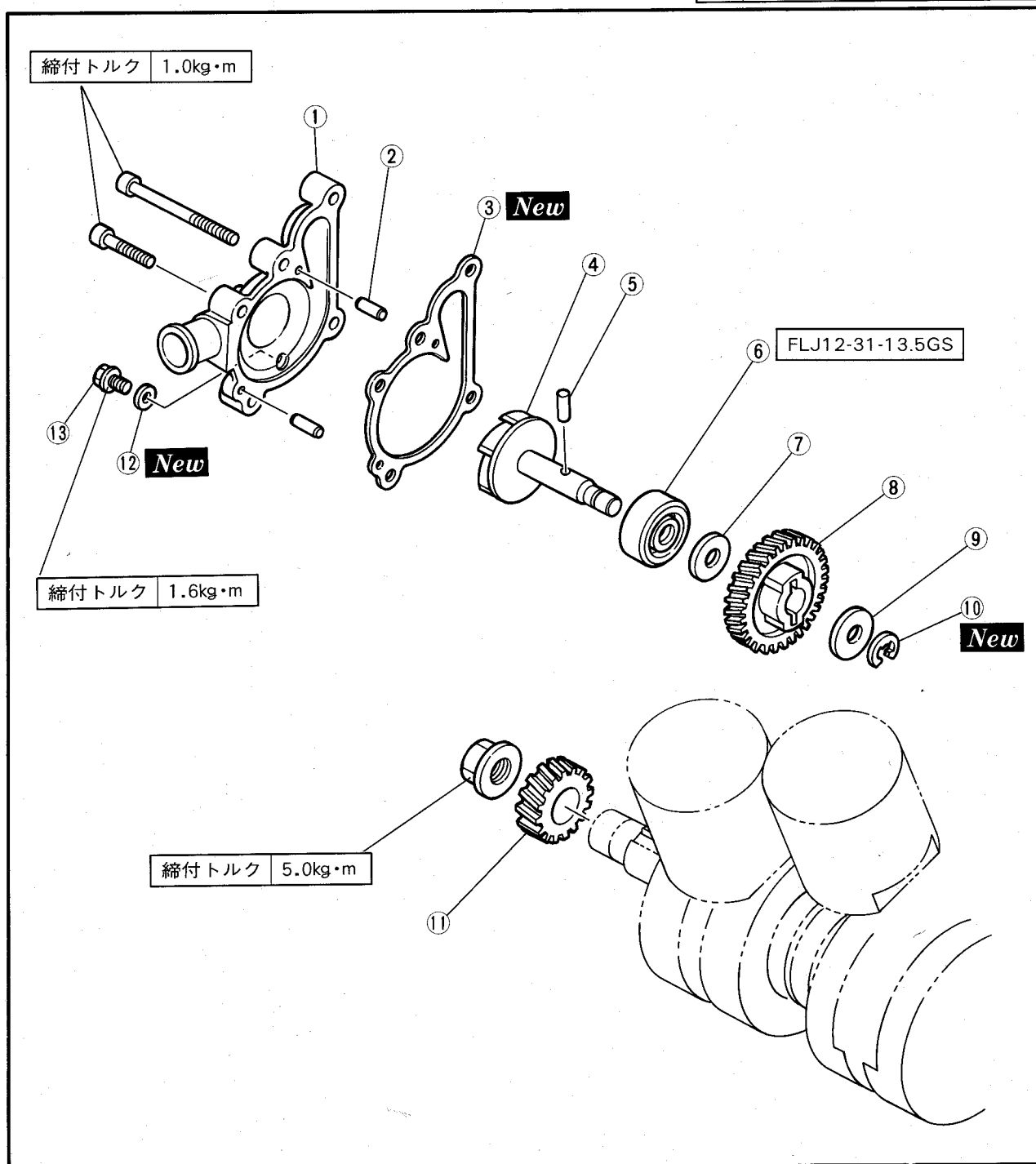
構成部品

ラジエタ、サーモスタット、ウォーターポンプ

- ①ハウジングカバー
- ②ダウエルピン
- ③ハウジングカバーガスケット 2
- ④インペラシャフト Ass'y
- ⑤ダウエルピン
- ⑥オイルシール
- ⑦プレートワッシャ
- ⑧インペラシャフトギヤ
- ⑨プレートワッシャ
- ⑩サークリップ
- ⑪ドライブギヤ
- ⑫ガスケット
- ⑬ワッシャベースドヘッドボルト

New マーク部品番号

③	3MA-12428-00
⑩	99009-06600
⑬	90430-08198



5



ラジエタ、サーモスタットの取外し

危険

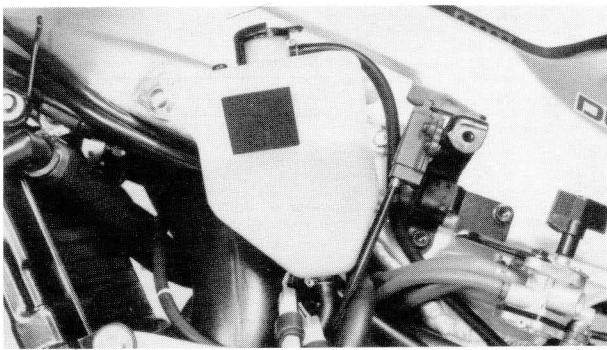
- エンジン停止直後は冷却水が高温のためラジエタ、サーモスタットの取外し、点検はエンジンが冷えてから行うこと。
- 冷却水が100°以上あると思われるときはラジエタキャップを取外さないこと。

注意

冷却水が車に付着したまま放置しておくとう塗装、メッキ等が損傷するので早めに水洗いすること。

1. 以下の部品を取外す。

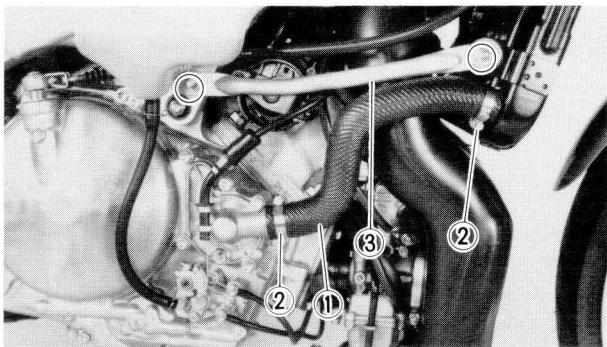
- フロントアンダボディ



2. 以下の部品を取外す。

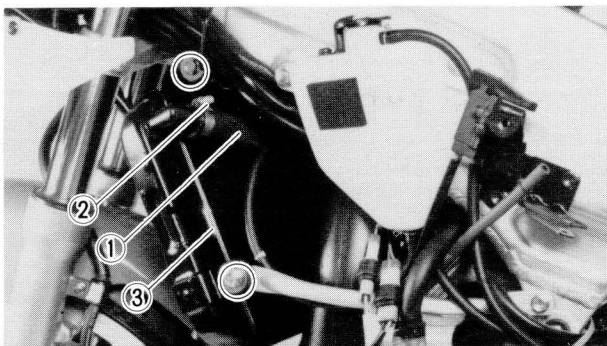
- ホース
ホースを外しリカバリタンク内の冷却水を抜く。

3. 冷却水を抜く。(P3-11参照)



4. 以下の部品を取外す。

- パイプ 1 ①
- クランプホース ②
- ステア ③



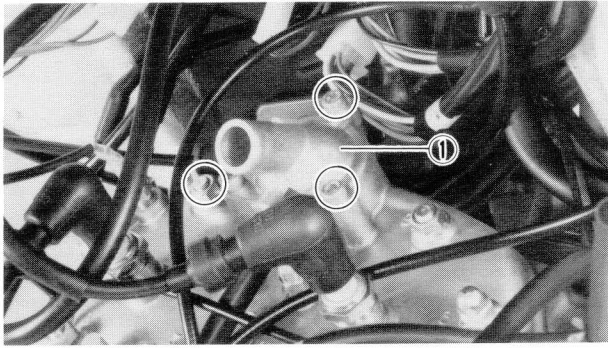
5. 以下の部品を取外す。

- パイプ 2 ①
- クランプホース ②
- ラジエタ ③

5

ラジエタ、サーモスタット、ウォーターポンプ

水冷
機構

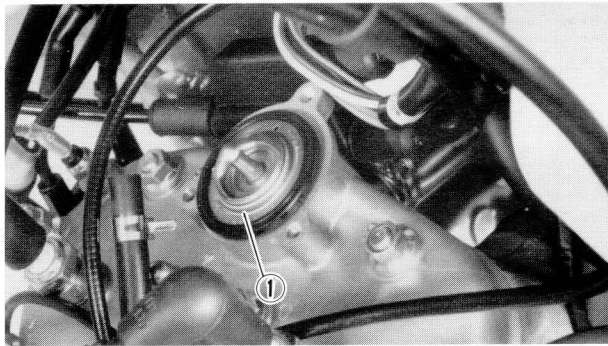


6.以下の部品を取外す。

- サイレンサ(P4-4参照)

7.以下の部品を取外す。

- サーモスタットカバー①



8.以下の部品を取外す。

- サーモスタット①

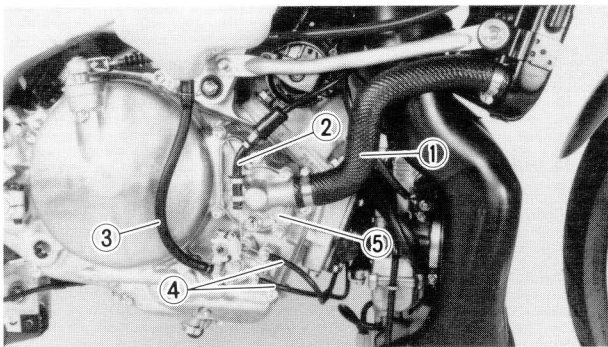
ウォーターポンプの取外し

1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ

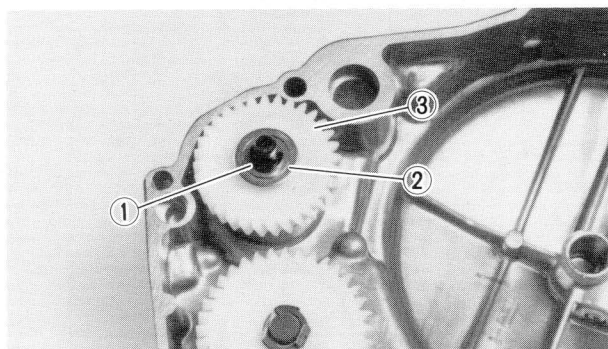
2.冷却水を抜く

3.ミッションオイルを抜く



4.以下の部品を取外す。

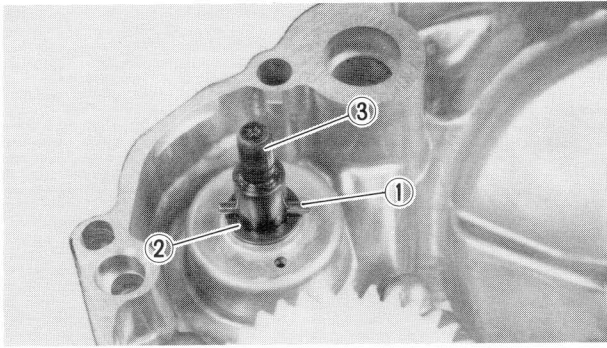
- パイプ2①
- ポンプケーブル②
- オイルパイプ③
- オイルデリバリパイプ④
- キッククランク
- クランクケースカバー 2
- ハウジングカバー⑤



5.以下の部品を取外す。

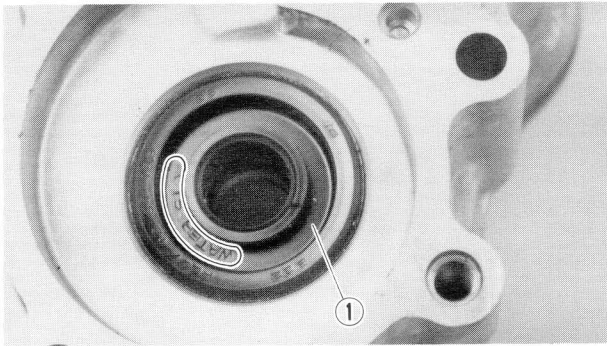
- サークリップ①
- プレーンワッシャ②
- インペラギヤ③

5



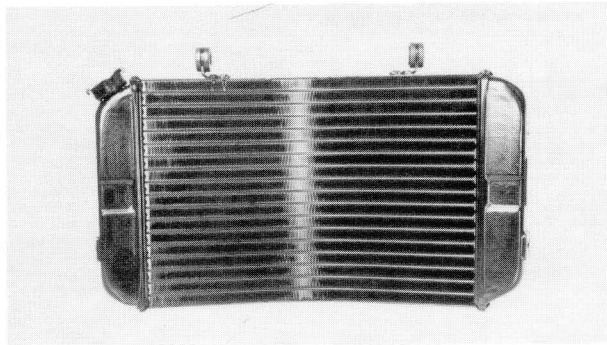
6.以下の部品を取外す。

- ダウエルピン①
- プレーンワッシャ②
- インペラシャフト③



7.以下の部品を取外す。

- オイルシール①



ラジエタ、サーモスタットの点検

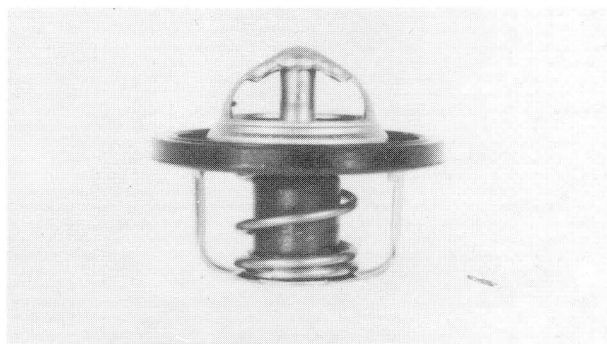
1.以下の点検をする。

- ラジエタ
 - ラジエタコアの詰り、フィンの曲りの有無
 - 詰りのあるもの→清掃
 - 曲りのあるもの→修正
 - コアの詰り、フィンの曲り、折れがラジエタ
 - コア面積の20%以上の場合、交換または修正する。

注意 ラジエタの補修には接着剤(デブコンアラルナイト)を使用し、アルゴン溶接は絶対に行なわないこと。

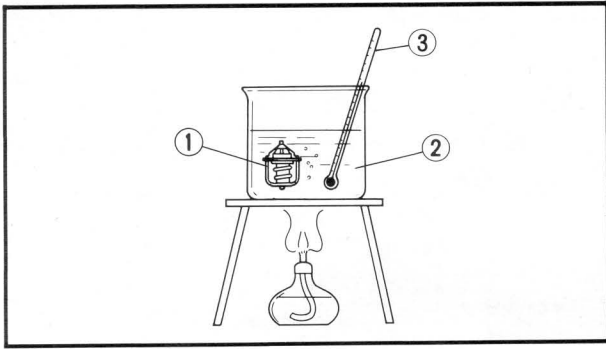
2.以下の点検をする。

- サーモスタット
 - 密閉度の点検
 - 常温でバルブが開いている→交換



ラジエタ、サーモスタット、ウォーターポンプ

水冷
機構



3.以下の点検をする。

- サーモスタット①

サーモスタットを冷却水の中に入れ開き始め温度および全開温度を点検する。

テスト容器②

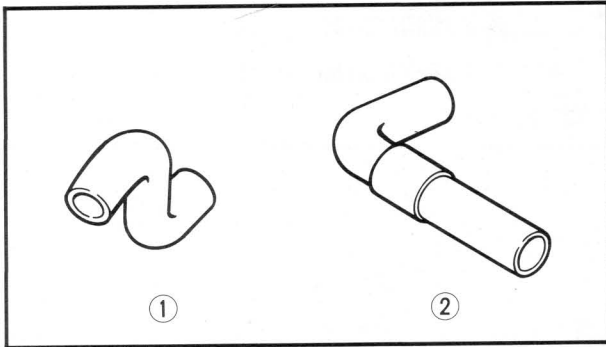
温度計③

	開き始め温度	63~67℃
	全開温度	80℃
	全開バルブリフト量	7mm以上

標準値以外→交換

整備要領

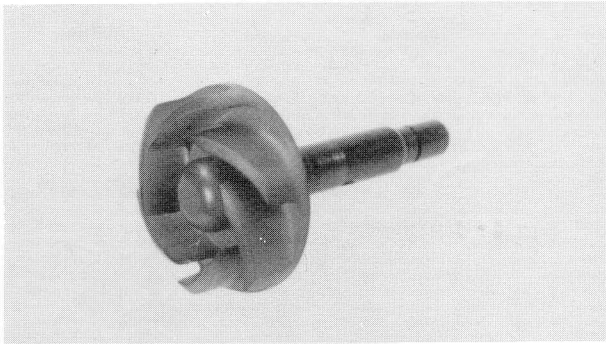
- 85℃前後に5~6分間保った後、開弁リフト量を点検する。
- サーモスタットをテスト容器の底に直接つけない。



4.以下の点検をする。

- パイプ1①
- パイプ2②

亀裂、損傷→交換



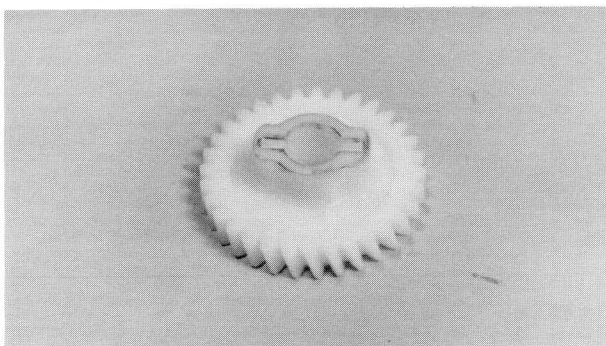
インペラシャフト、インペラギヤの点検

1.以下の点検をする。

- インペラシャフト

摩耗、損傷→交換

水あかの付着しているもの→清掃

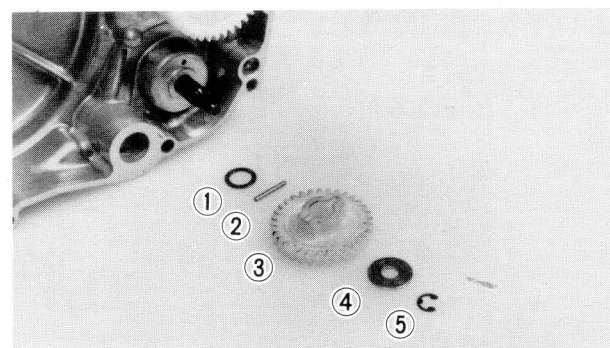
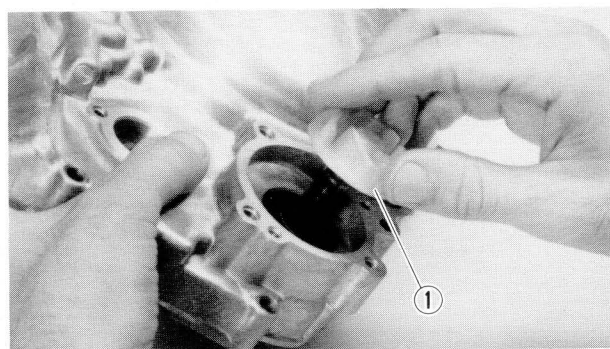
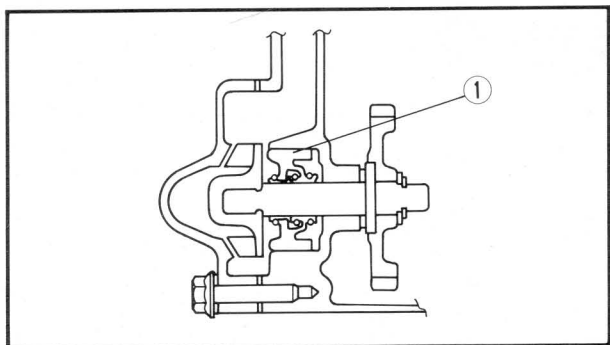
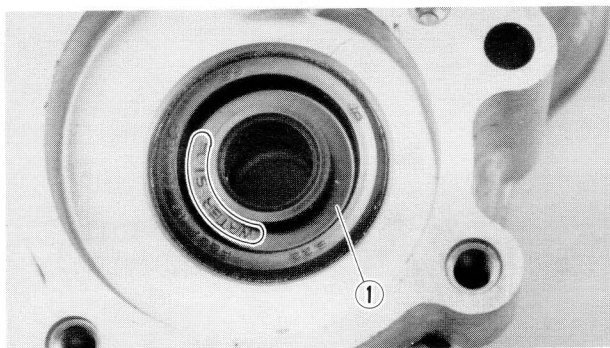
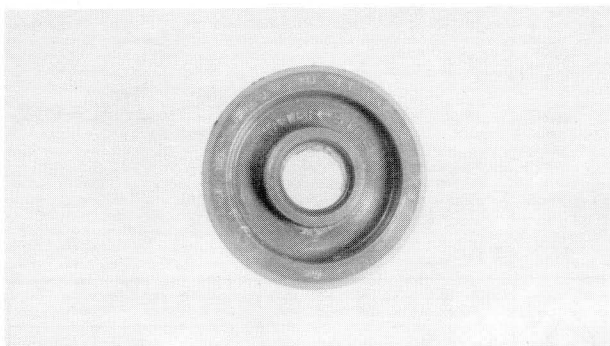


2.以下の点検をする。

- インペラギヤ

欠け、損傷→交換

5



3.以下の点検をする。

- オイルシール
損傷、老化、偏摩耗→交換

ウォーターポンプの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- オイルシール①
オイルシールの「WATERSIDE」マークを外側に向け、クランクケースカバー端面より出ないように組付ける。

整備要領

- オイルシールの“WATERSIDE”マークを必ず外側に向けて組付ける。
- オイルシール外周部にオイルを塗布して組付ける。

2.以下の部品を組付ける。

- インペラシャフト①
オイルシールリップ部およびインペラシャフト先端にグリースを塗布し、インペラシャフトを回転させながらオイルシールのリップ部を反転、損傷させないように組付ける。

3.以下の部品を組付ける。

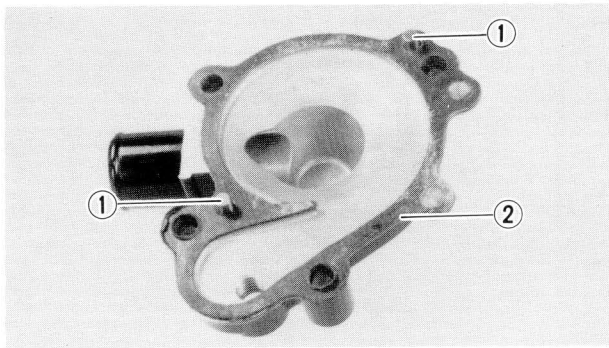
- プレーンワッシャ①
- ダウエルピン②
- インペラギヤ③
- プレーンワッシャ④
- サークリップ⑤

New

サークリップ

ラジエタ、サーモスタット、ウォーターポンプ

水冷
機構



4.以下の部品を組付ける。

- ダウエルピン①
- ハウジングカバーガスケット②

New	ハウジングカバーガスケット
------------	---------------

5.以下の部品を組付ける。

- クランクケースカバー 2
- キッククランク
- オイルパイプ
- ポンプケーブル
- オイルパイプ
- オイルデリバリパイプ

インペラシャフトを回しながら、クランクケースカバー 2 を組付ける。

6.以下の部品を組付ける。

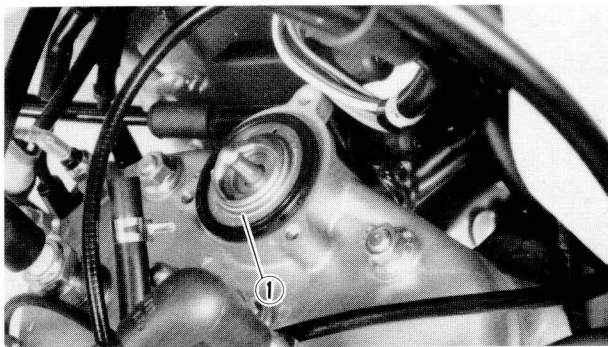
- ハウジングカバー
- パイプ 2

7.冷却水を注入する。

8.ミッションオイルを注入する。

9.オイルポンプエア抜きをする。

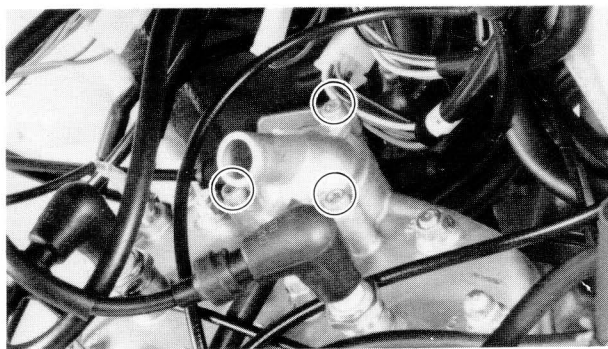
5



サーモスタット、ラジエタの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- サーモスタット①
- 穴②を後方に向けて組付ける。



2.以下の部品を組付ける。

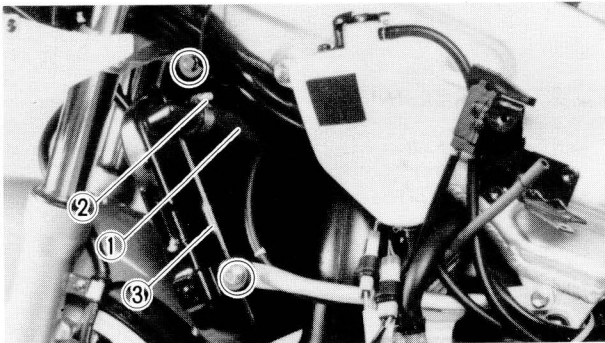
- サーモスタットカバー

	サーモスタットカバー 1.0kg・m
--	-----------------------




3.以下の部品を組付ける。

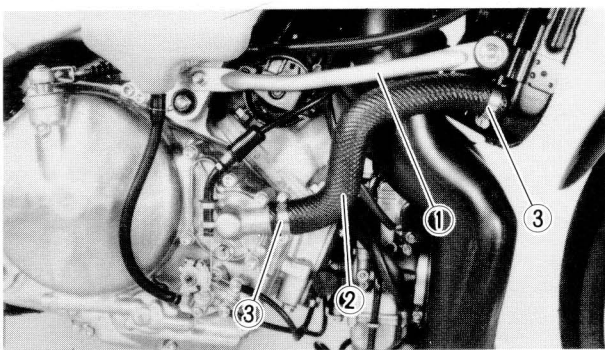
- サイレンサ



4.以下の部品を組付ける。

- パイプ 2 ①
- クランプホース ②
- ラジエタ ③

	ラジエタ
	0.6kg・m



5.以下の部品を組付ける。

- ステア ①
- パイプ 1 ②
- クランプホース ③

6.以下の部品を組付ける。

- ホース

7.冷却水を注入する。

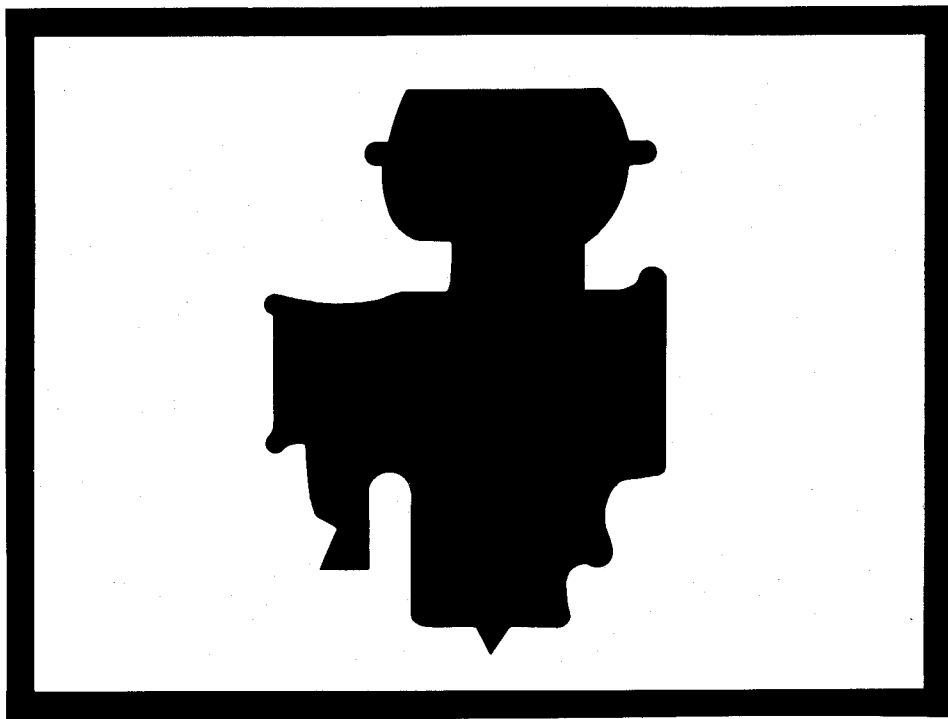
8.以下の部品を組付ける。

- フロントアンダボディ



第6章

キャブレタ編

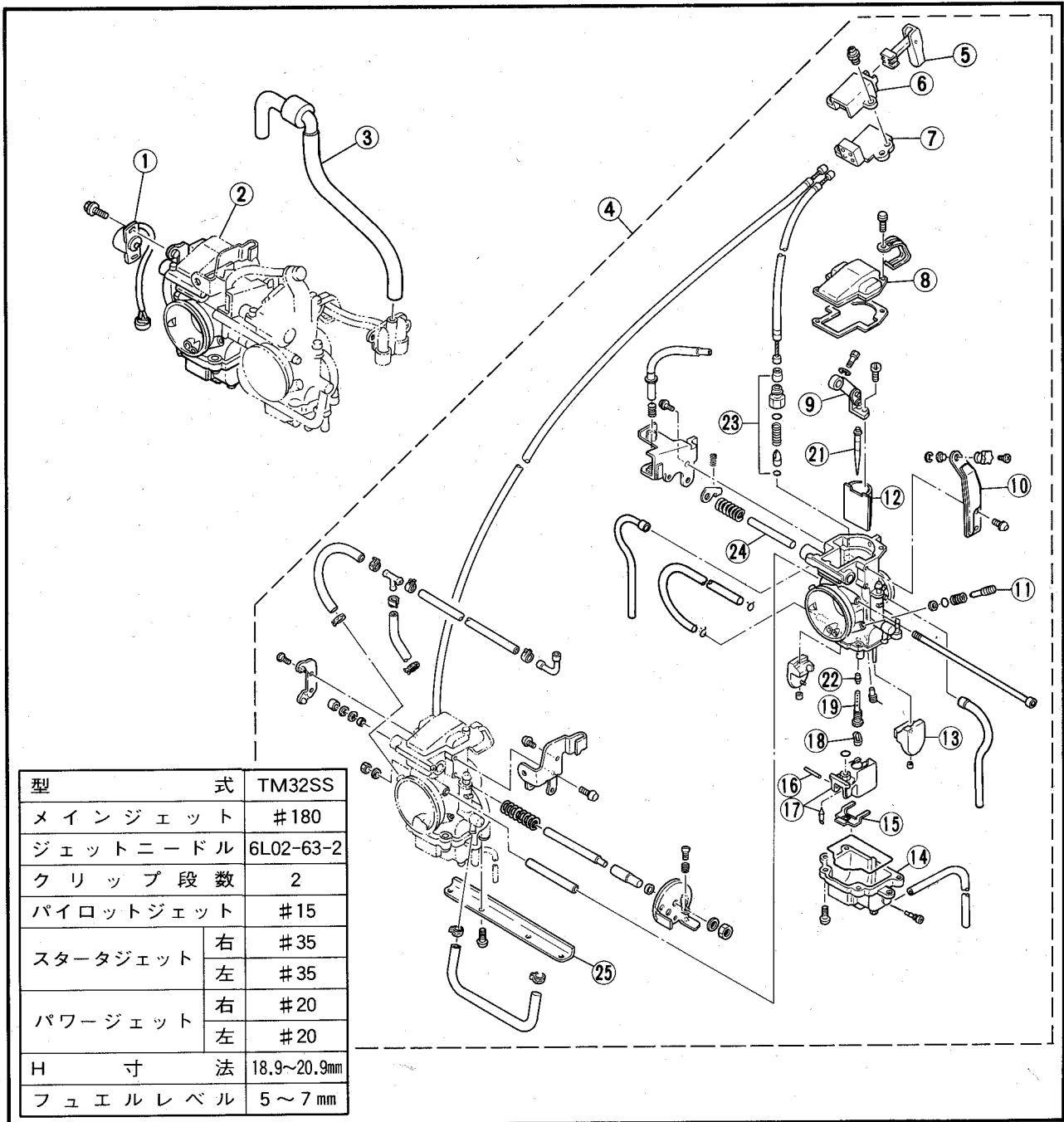




構成部品

キャブレタ

- ①サーモセンサAss'y
- ②キャブレタAss'y2
- ③フィルタ1
- ④キャブレタAss'y1
- ⑤チョークレバーComp
- ⑥スタータキャップ
- ⑦スタータケース
- ⑧キャップトップ
- ⑨コネクタ
- ⑩ブラケット
- ⑪パイロットスクリュ
- ⑫ピストンバルブ
- ⑬フロート
- ⑭フロートチャンバ
- ⑮フロートアーム
- ⑯フロートピン
- ⑰バルブシートAss'y
- ⑱メインジェット
- ⑲ニードルジェット
- ⑳パイロットジェット
- ㉑ジェットニードル
- ㉒ジェットホルダ
- ㉓スタータセット
- ㉔スロットルレバー
- ㉕プレート



型 式	TM32SS	
メインジェット	#180	
ジェットニードル	6L02-63-2	
クリップ段数	2	
パイロットジェット	#15	
スタータジェット	右	#35
	左	#35
パワージェット	右	#20
	左	#20
H 寸 法	18.9~20.9mm	
フュエルレベル	5~7mm	

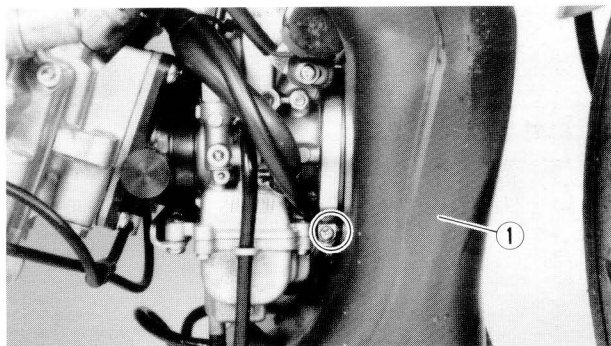
6



キャブレタの取外し

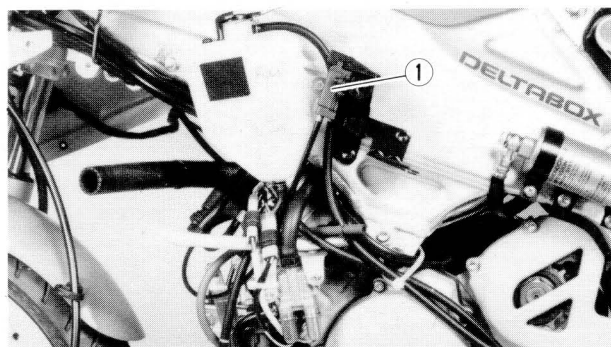
1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ
- ラジエタ
- 負圧パイプ
- フュエルホース



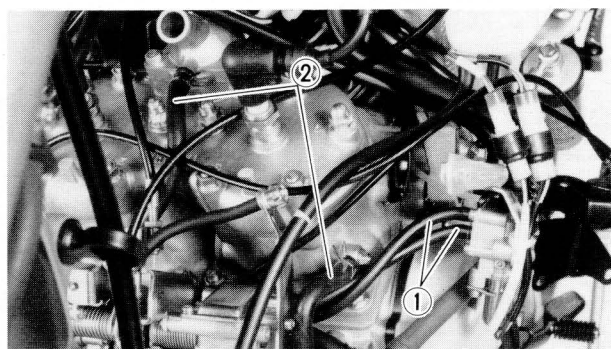
2.以下の部品を取外す。

- ホース
- サイレンサ①



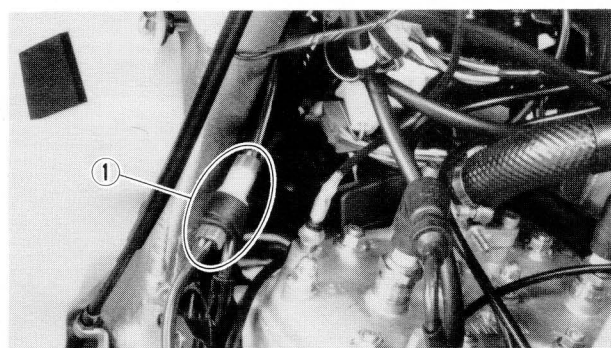
3.以下の部品を取外す。

- スタータケース①



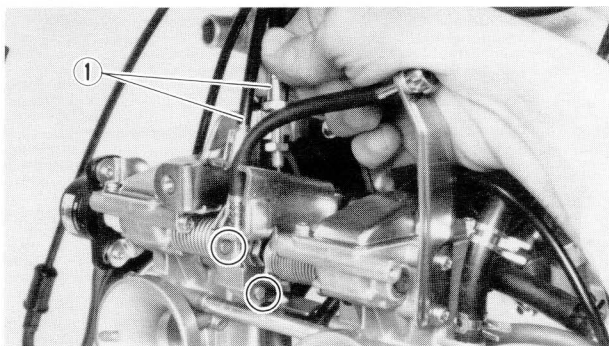
4.以下の部品を取外す。

- ホース①
- 温水パイプ②



5.以下の接続を外す。

- スロットルポジションセンサリード線カプラ①

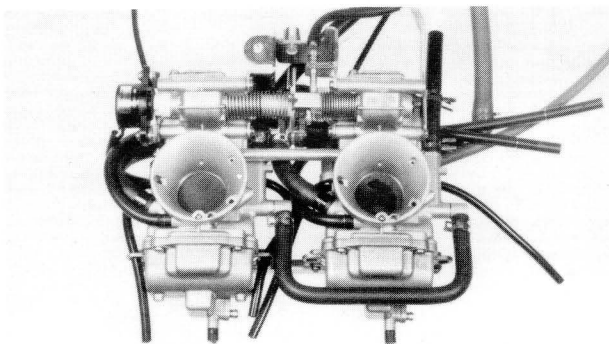


6.以下の部品を取外す。

- キャブレタ
キャブレタジョイントクランプをゆるめて取外す。

7.以下の部品を取外す。

- スロットルケーブル①

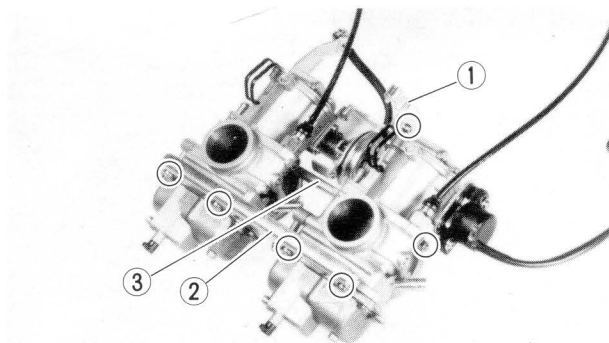


キャブレタの分解

注意 スロットルポジションセンサは絶対に外さないこと。

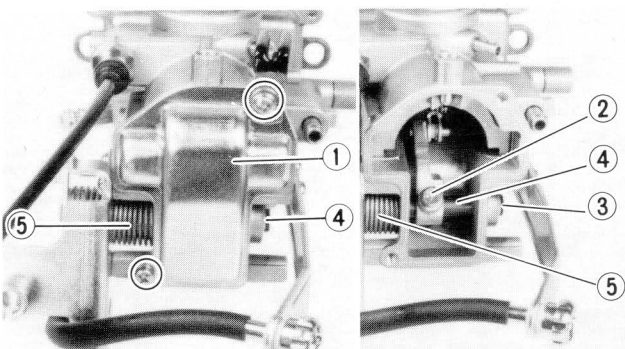
1.以下の部品を取外す。

- 各ホース、パイプ類



2.以下の部品を取外す。

- アッププレート①
- ロアプレート②
- シャフト③

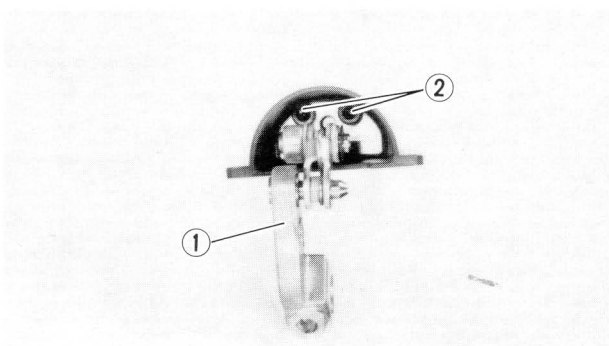


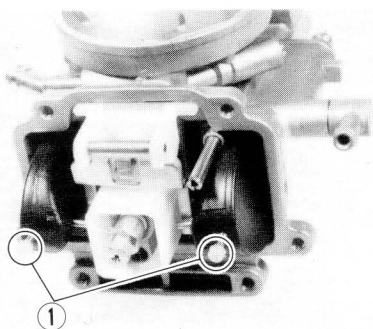
3.以下の部品を取外す。

- ミキシングチャンバトップ①
- ケーブルコネクティングスクリュー②
- サークリップ③
- シャフト④
- スプリング⑤
- ブラケット

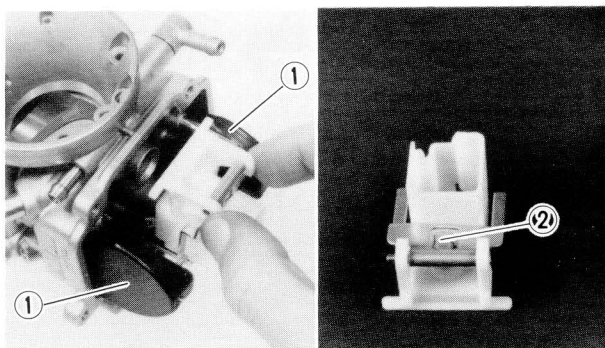
4.以下の部品を取外す。

- ケーブルコネクター①
- ニードルセットスクリュー②
- ニードルセット

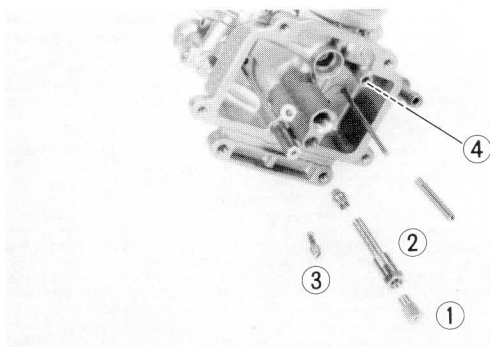




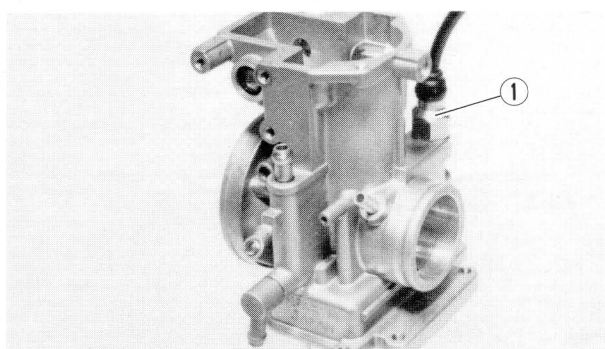
- 5.以下の部品を取外す。
 - フロントチャンバボディ
- 6.以下の部品を取外す。
 - キャップ①



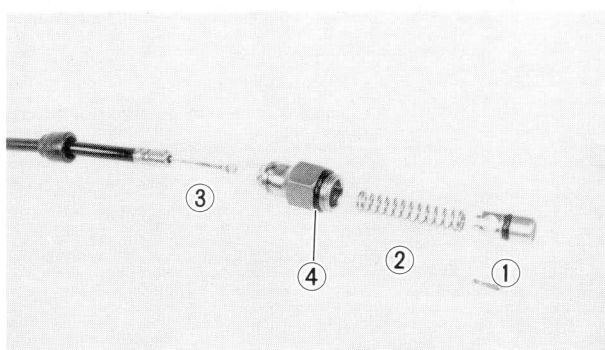
- 7.以下の部品を取外す。
 - フロート①
 - バルブシート Ass'y②



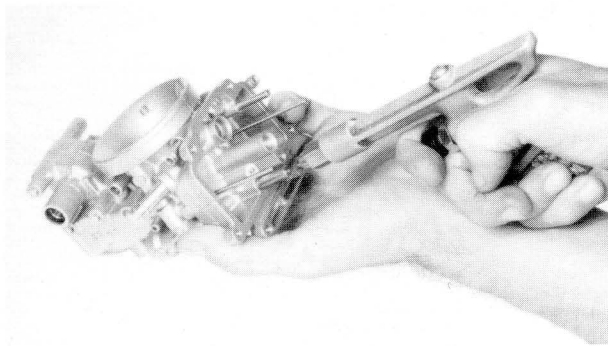
- 8.以下の部品を取外す。
 - メインジェット①
 - メインノズル②
 - パイロットジェット③
 - パワージェット④



- 9.以下の部品を取外す。
 - スタータプランジャ①



- 10.以下の部品を取外す。
 - プランジャ①
 - スプリング②
 - スタータケーブル③
 - Oリング④

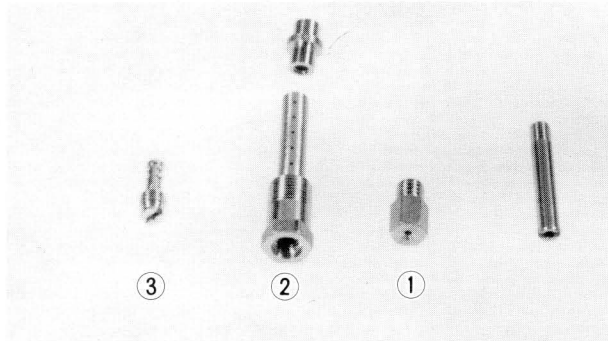


キャブレタの点検

1.以下の点検をする。

- ミキシングボディ
 - フロートチャンバボディ
- 各通路のつまりの有無を点検する。
つまりのあるもの→エアを通して清掃

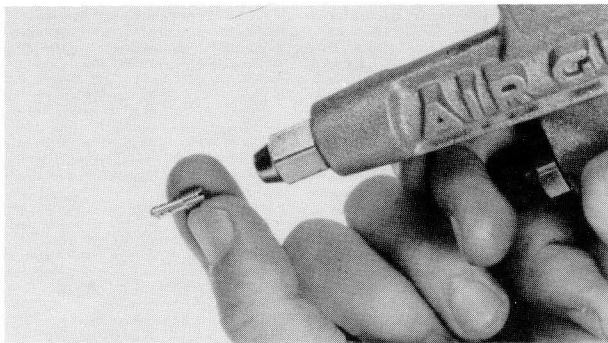
注意 針金等を通して清掃しないこと。



2.以下の点検をする。

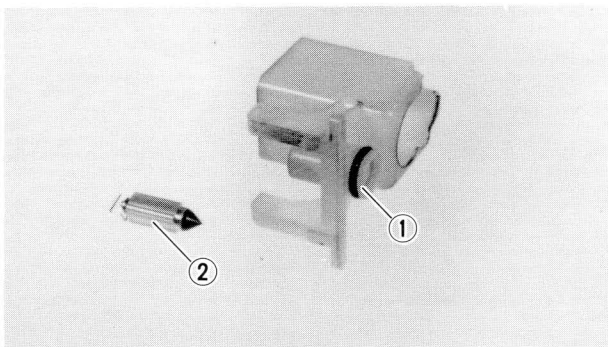
- メインジェット①
 - ジェットニードル②
 - パイロットジェット③
- 通路のつまり、損傷の有無を点検する。
つまりのあるもの→エアを通して清掃する。
損傷のあるもの→交換

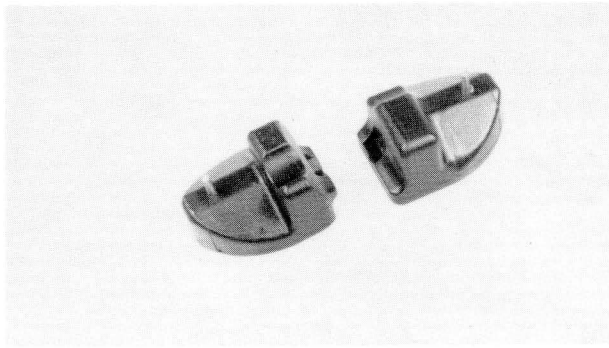
整備要領 針金等を通して清掃しないこと。



3.以下の点検をする。

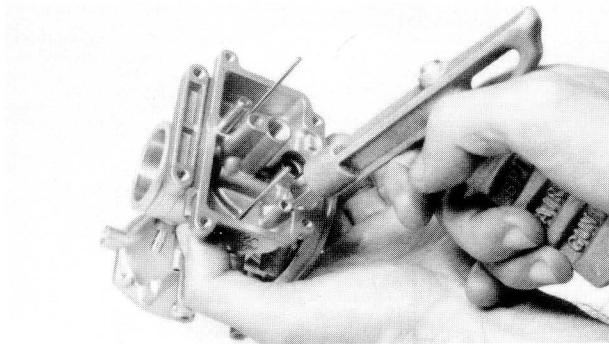
- バルブシート①
 - ニードルバルブ②
- 損傷、段付摩耗の有無を点検する。
損傷、段付摩耗のあるもの→交換





4.以下の点検をする。

- フロート
 損傷の有無を点検する。
 損傷のあるもの→交換

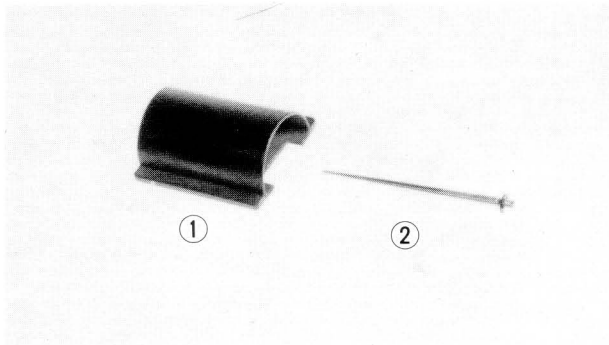


5.以下の点検をする。

- スタータジェット
 つまりの有無を点検する。
 つまりのあるもの→エアを通して清掃

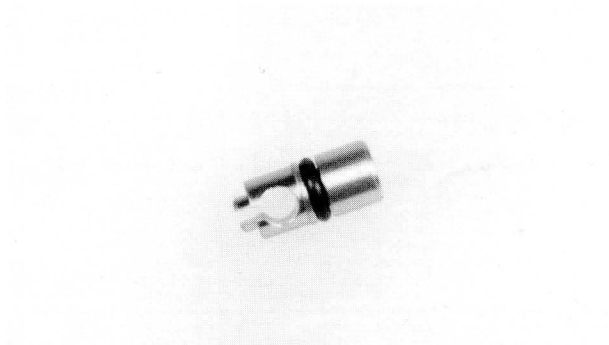
整備要領

- スタータジェットは圧入されているので
 取外しは不可。
- 針金等を使用して清掃しないこと。



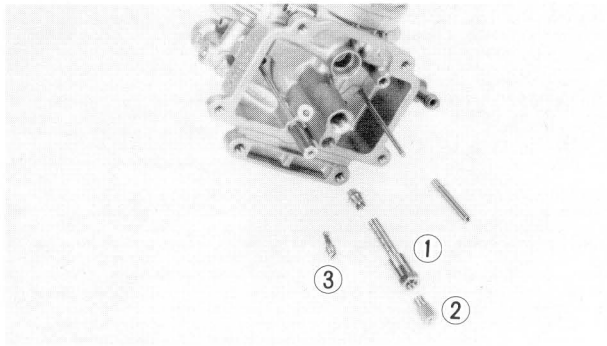
6.以下の点検をする。

- ピストンバルブ①
- ジェットニードル②
 損傷の有無を点検する。
 損傷のあるもの→交換



7.以下の点検をする。

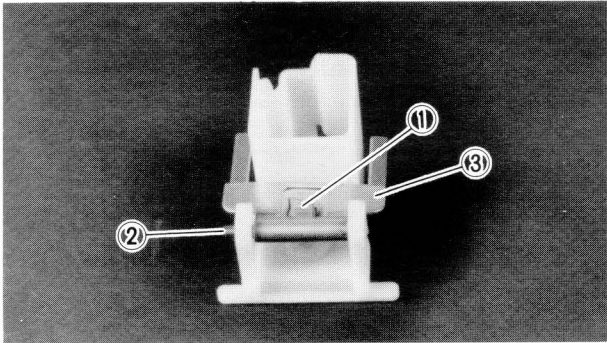
- プランジャ
 損傷の有無を点検する。
 損傷のあるもの→交換



キャブレタの組立て

1.以下の部品を組付ける。

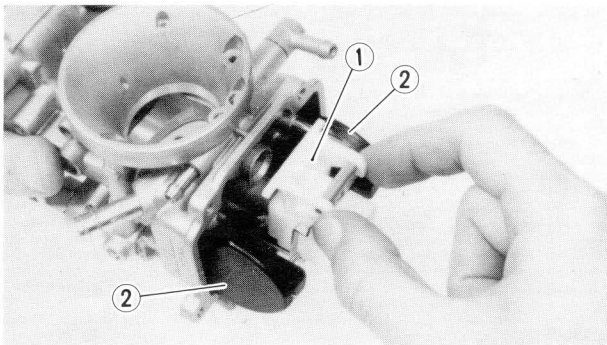
- メインノズル①
- メインジェット②
- パイロットジェット③



2.以下の部品を組付ける。

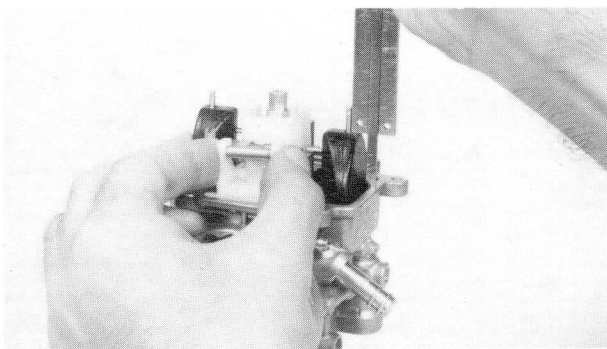
- ニードルバルブ①
- フロートピン②
- アーム③

ニードルバルブをバルブシートに組付ける。



3.以下の部品を組付ける。

- バルブシート Ass'y①
- フロート②



4.以下の点検をする。

- 簡易油面寸法(H寸法)

整備要領

フロートを一担持ち上げ、ニードルバルブの先端とアームがわずかに触れる位置で点検する。(左右共点検し、同じ値にする。)



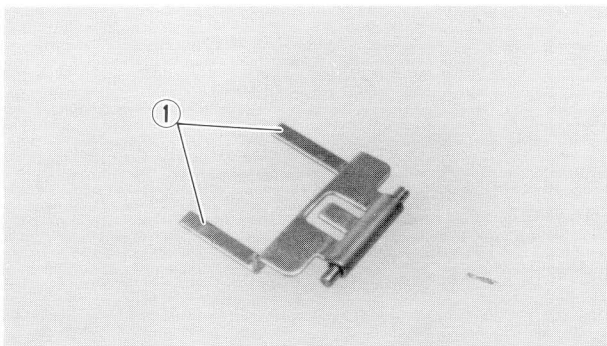
簡易油面寸法(H寸法)

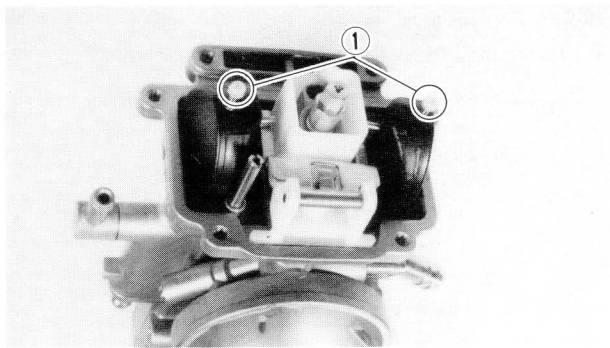
18.9~20.9mm

規定値以外→調整

5.以下の調整をする。

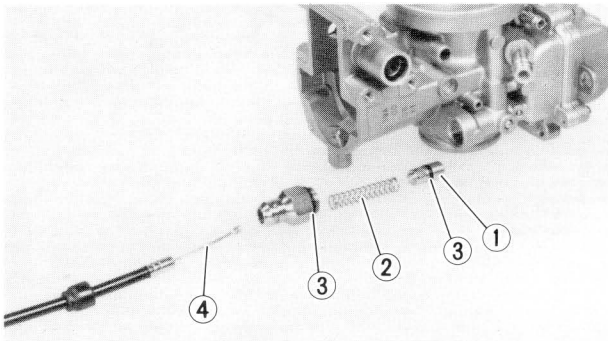
- 簡易油面寸法
- アーム①を曲げて調整する。





6.以下の部品を組付ける。

- キャップ①

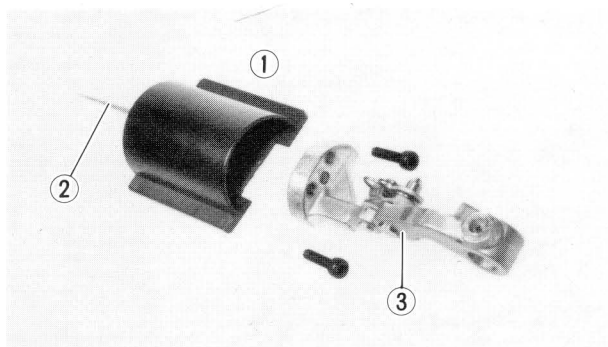


7.以下の部品を組付ける。

- フロートチャンバ

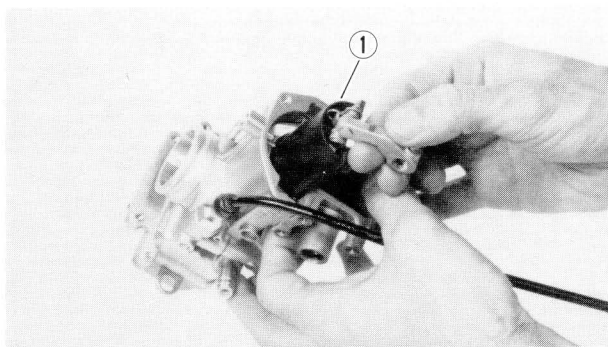
8.以下の部品を組付ける。

- プランジャ①
- スプリング②
- Oリング③
- スタータケーブル④



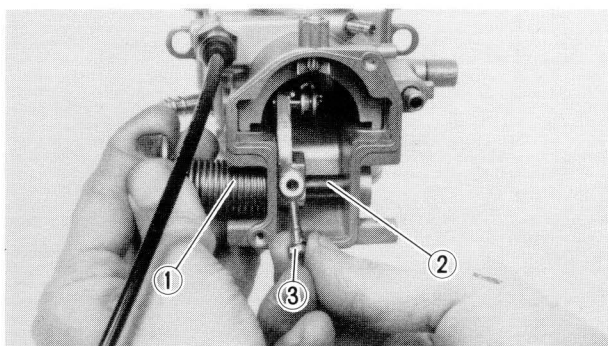
9.以下の部品を組付ける。

- ピストンバルブ①
- ニードルセット②
- ニードルコネクタ③



10.以下の部品を組付ける。

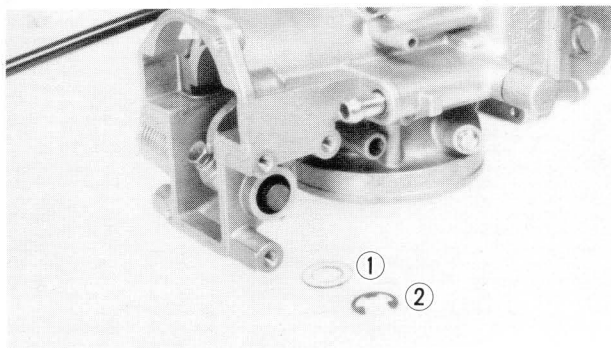
- ピストンバルブAss'y①



11.以下の部品を組付ける。

- スプリング①
- シャフト②
- ケーブルコネクティングスクリュー③

スプリングをミキシングチャンバに掛けシャフトを1回転させシャフトのネジ穴とケーブルコネクティングの穴を合わせて組付け、締付ける。

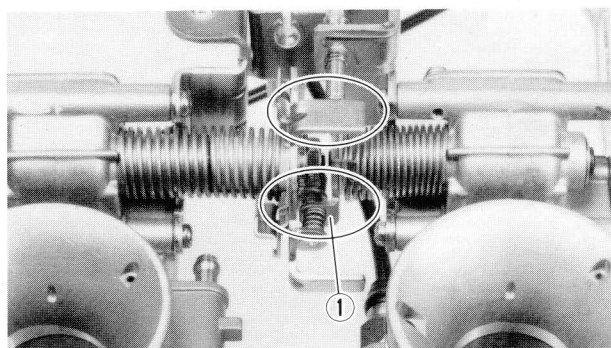


12.以下の部品を組付ける。

- ナイロンワッシャ①
- サークリップ②

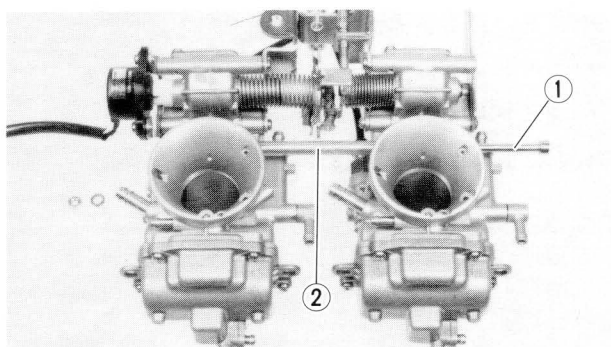
13.以下の部品を組付ける。

- ミキシングチャンバトップ
- ブラケット



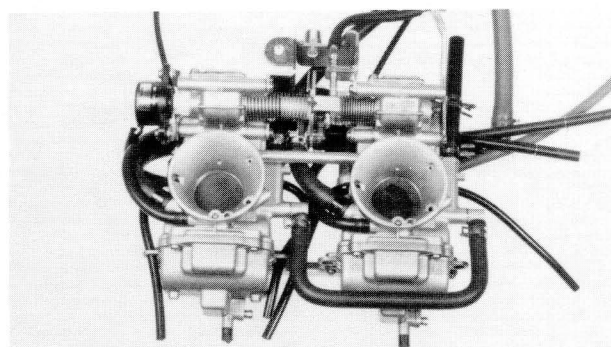
14.以下の連結をする。

- スロットルシャフト①
- スロットルストップスクリューの先端とスロットルレバーのストッパ部を合わせて組付ける。



15.以下の部品を仮締付する。

- シャフト①
- カラー②

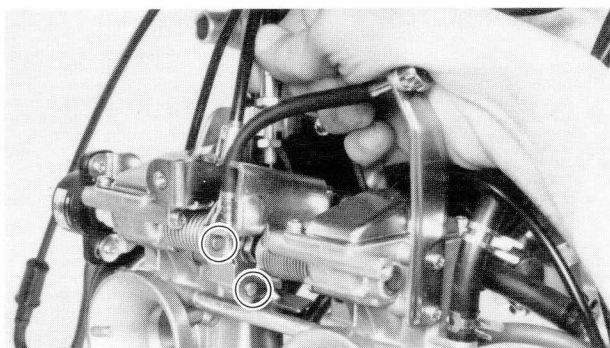


16.以下の部品を組付ける。

- アッププレート
- ロアプレート

17.シャフトを締付ける。

18.各ホース類を組付ける。



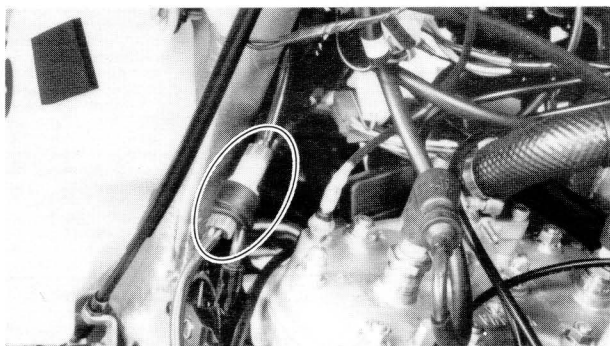
キャブレタの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- スロットルケーブル

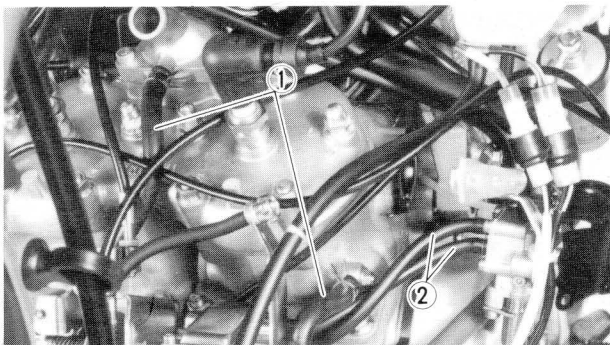
2.以下の部品を組付ける。

- キャブレタ



3.以下の接続をする。

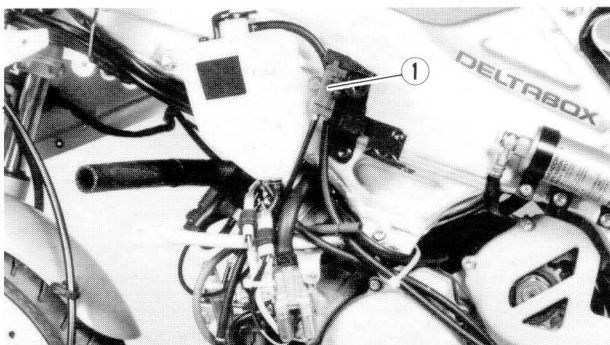
- スロットルポジションセンサリード線カブラ



4.以下の部品を組付ける。

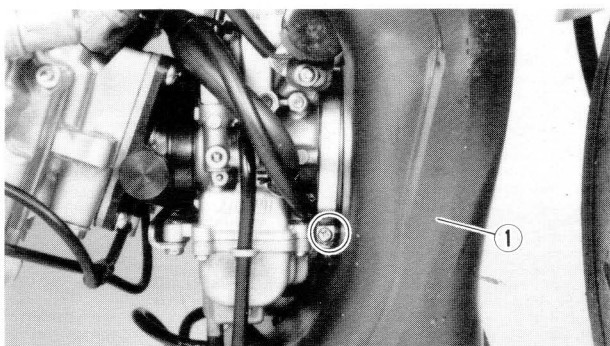
- 温水パイプ①

- ホース②



5.以下の部品を組付ける。

- スターターケース①



6.以下の部品を組付ける。

- サイレンサ①

- ホース



7.以下の部品を組付ける。

- フュエルホース
- 負圧パイプ
- ラジエタ
- フロントアンダボディ

フュエルレベルの点検

1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ

2.以下の部品を組付ける。

- フュエルレベルゲージ①

ドレン排出口に組付ける。



フュエルレベルゲージ

90890-01312

3.以下の点検をする。

- フュエルレベル②

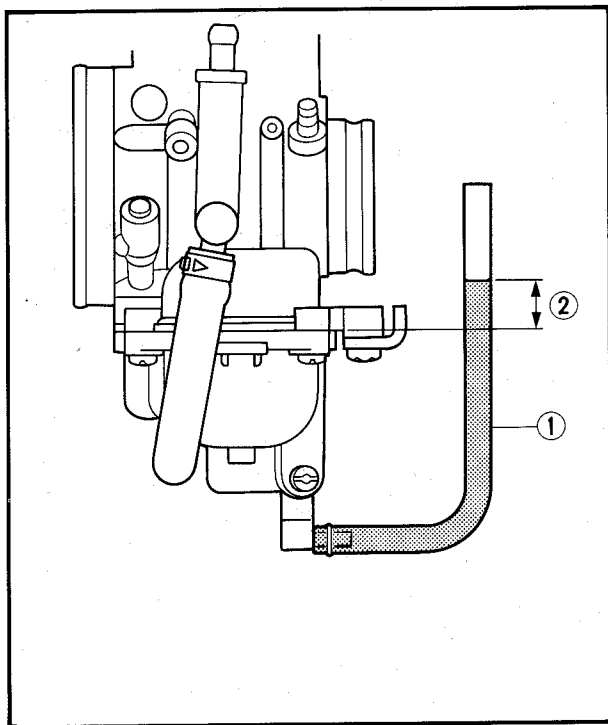
フュエルロックレバーをPRIの位置にしてドレンプラグをゆるめフロートチャンバボディの合面に合わせて油面を読みとる。



フュエルレベル

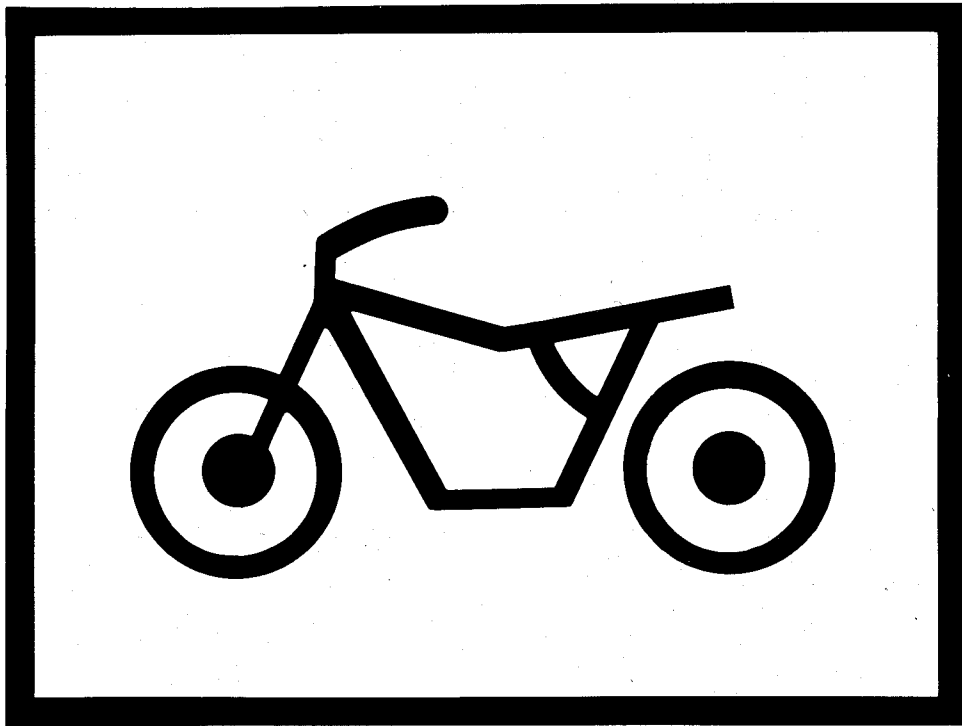
5 ~ 7 mm

規定値以外→調整(アームを曲げて調整)





第7章 車体編

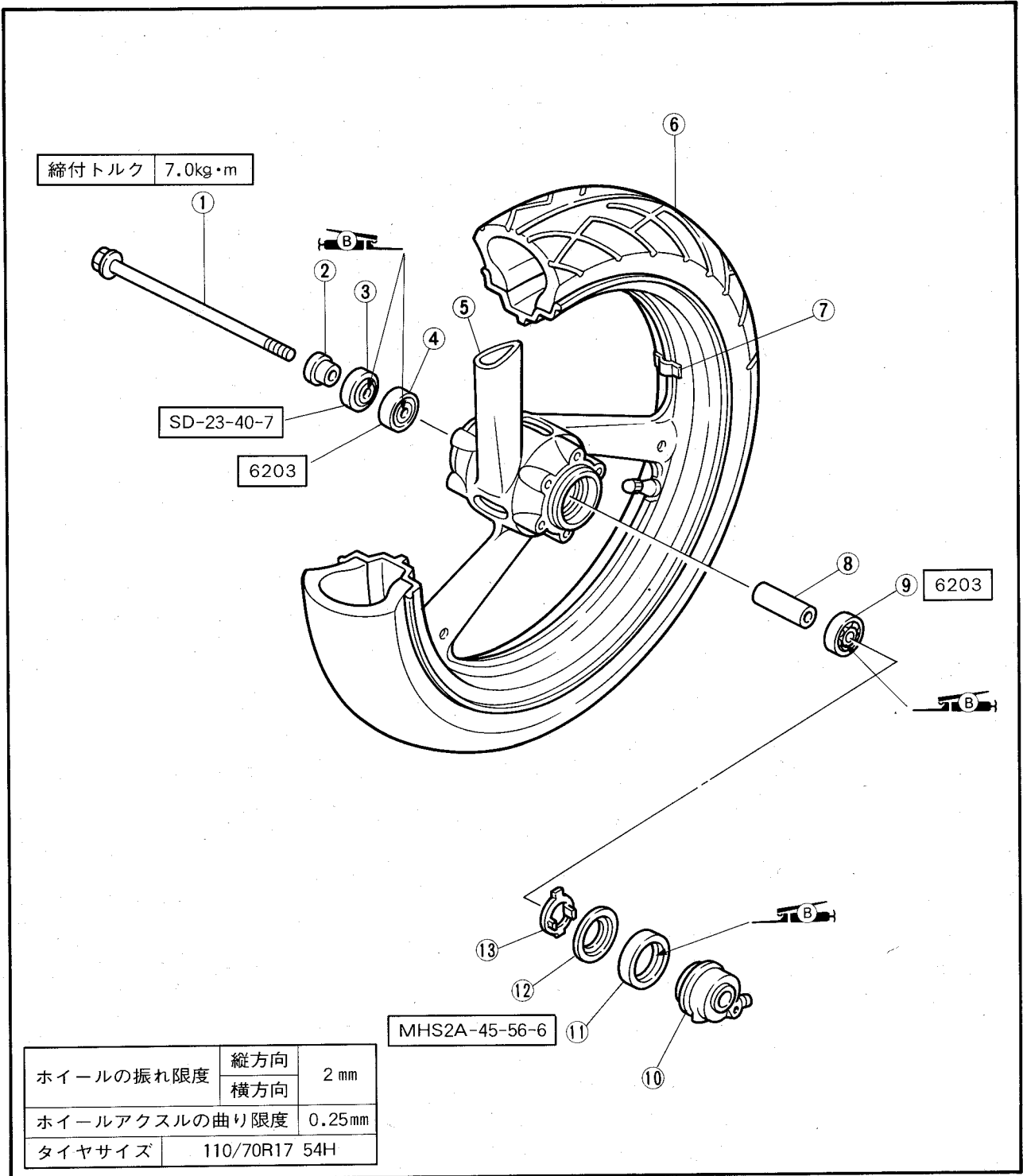




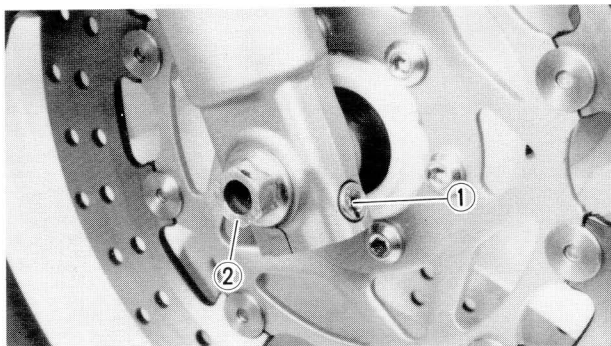
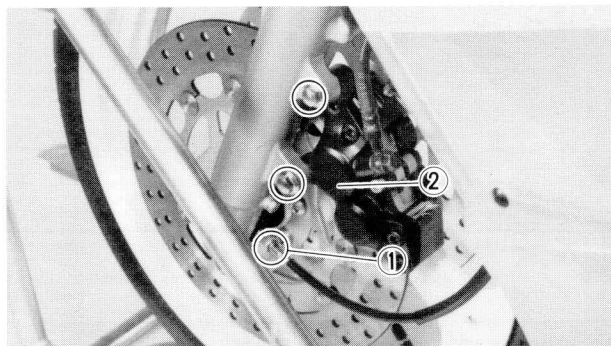
構成部品

フロントホイール

- ①ホイールアクスル
- ②カラー
- ③オイルシール
- ④ベアリング
- ⑤フロントキャストホイール
- ⑥タイヤ
- ⑦ホイールバランス
- ⑧スペーサ
- ⑨ベアリング
- ⑩ギヤユニット Ass'y
- ⑪オイルシール
- ⑫クラッチリテーナ
- ⑬メータクラッチ



ホイールの振れ限度	縦方向	2 mm
	横方向	
ホイールアクスルの曲り限度	0.25mm	
タイヤサイズ	110/70R17 54H	



フロントホイールの取外し

スタンドを使用してリアアームを固定し、エンジン下部にジャッキまたは台を置いてから行う。

1. 以下の部品を取外す。

- スピードメータケーブル①
- キャリパ②

2. 以下の部品をゆるめる。

- アクスルホルダ締付ボルト①

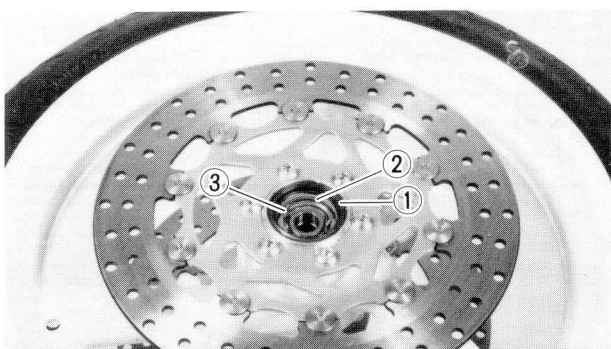
3. 以下の部品を取外す。

- ホイールアクスル②
- フロントホイール

注意 取外したホイールは倒したり、ぶついたりしてブレーキディスク等に損傷を与えないようにして取扱うこと。もしブレーキディスクに損傷を与えた場合は交換すること。

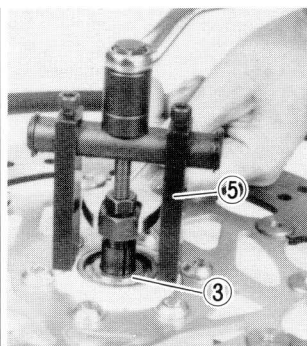
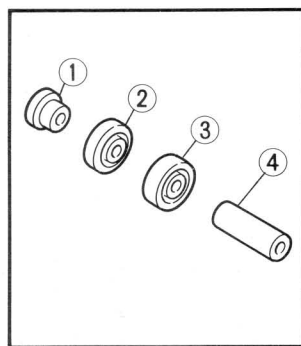
4. 以下の部品を取外す。

- ギヤユニット



5. 以下の部品を取外す。

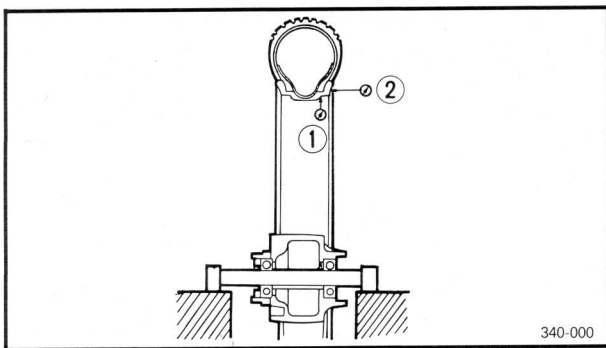
- オイルシール①
- クラッチリテーナ②
- メータクラッチ③



6. 以下の部品を取外す。

- カラー①
- オイルシール②
- ベアリング③
- スペーサ④

ベアリングプーラ⑤(ヤマハ推奨品)を使用してベアリングを取外す。



フロントホイールの点検

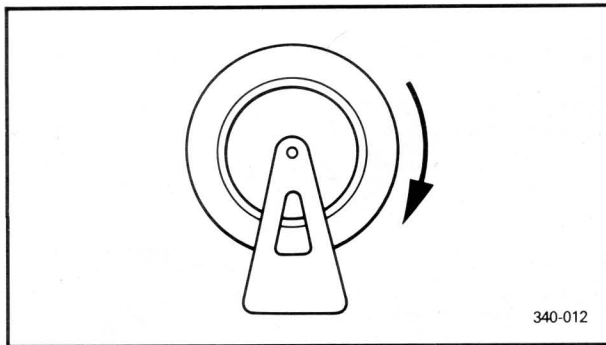
1. 以下の点検をする。

- ホイールの縦振れ①
- ホイールの横振れ②

ホイールをゆっくり回転させ点検する。

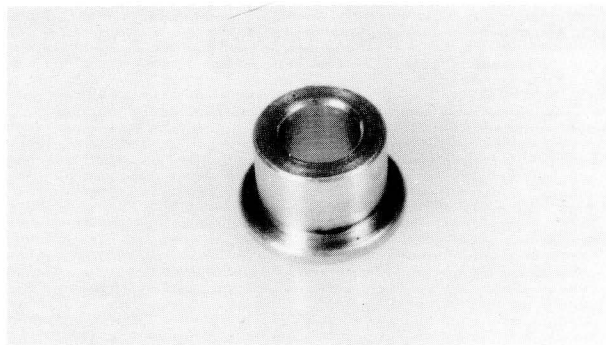
	振れ限度	縦方向	2 mm
		横方向	

限度以上→修正または交換



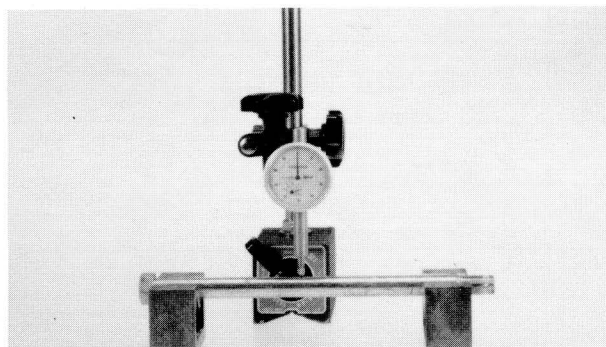
2. 以下の点検をする。

- ホイールベアリングのがた、異音
- がた、異音→交換



3. 以下の点検をする。

- カラーの段付摩耗
- 段付摩耗→カラー、オイルシールをセットで交換



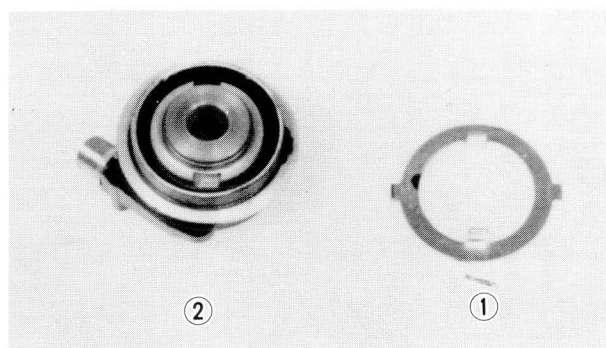
4. 以下の点検をする。

- ホイールアクスルの曲り

	ホイールアクスルの曲り限度
	0.25mm

曲り限度以上→交換

整備要領	ダイヤルゲージの側定値の1/2が曲りの値である。
------	--------------------------



ギヤユニット、メータクラッチの点検

1. 以下の点検をする。

- メータクラッチ①
- ギヤユニット②

メータクラッチ、ギヤユニットの凸凹部の損傷、変形、偏摩耗の有無を点検する。

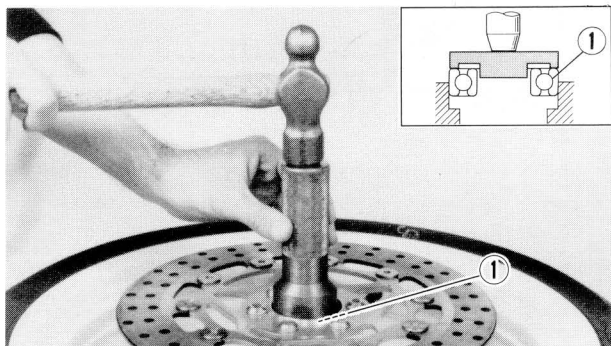
損傷、変形、偏摩耗→交換



2.以下の点検をする。

- ギヤユニットがスムーズに回転するか点検する。

回転不良→交換



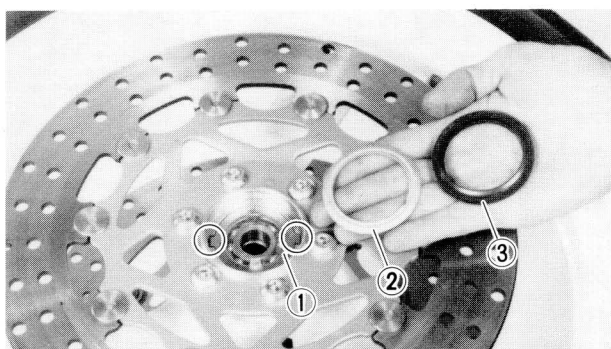
フロントホイールの組立

1.以下の部品を組付ける。

- ベアリング①
- スペーサ
- オイルシール

オイルシールリップ部、ベアリングにグリースを塗布し、左側のベアリングより組付け、スペーサ、右側ベアリング、オイルシールを組付ける。

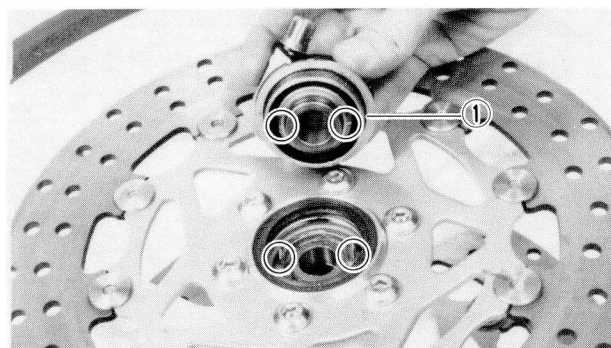
ベアリングは、サイズ記号の記入された方を外側に向け、アウトレースに力を加えて、平行に打ち込む。



2.以下の部品を組付ける。

- メータクラッチ①
- クラッチリテーナ②
- オイルシール③

ホイールハブの凹部とメータクラッチの凸部を合わせて組付ける。

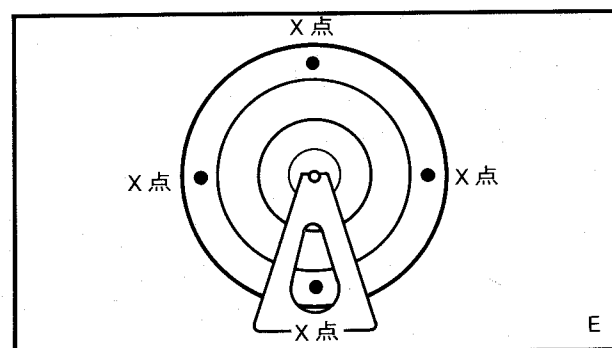
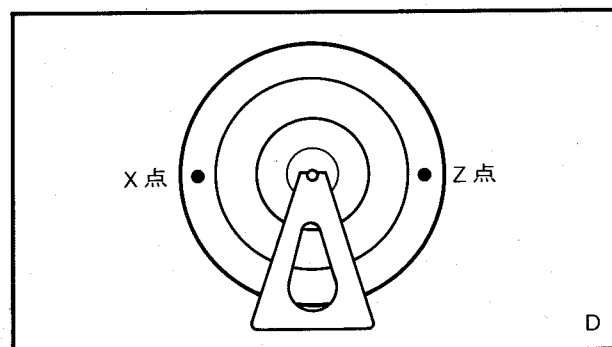
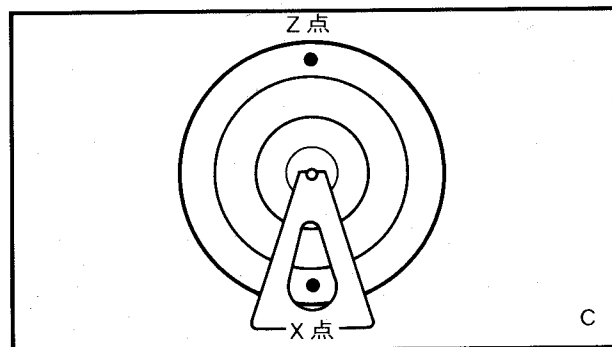
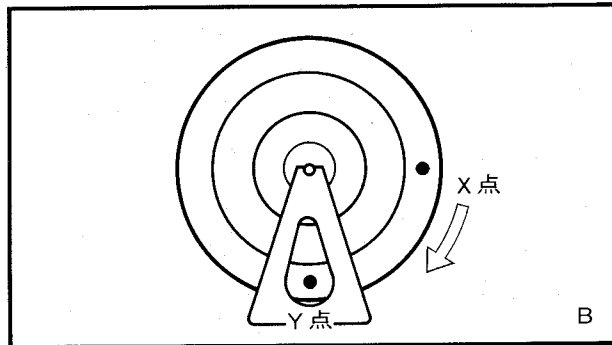
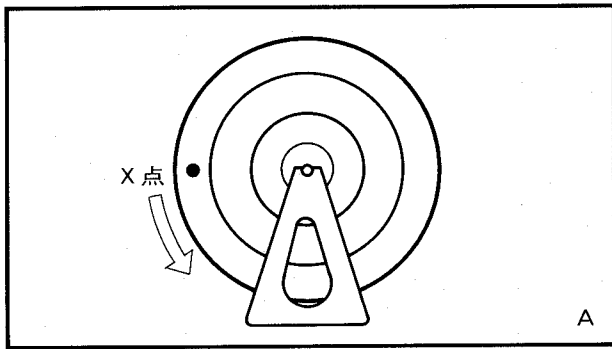


3.以下の部品を組付ける。

- ギヤユニット①
- メータクラッチの凸部とギヤユニットの凹部を合わせて組付ける。

4.以下の部品を組付ける。

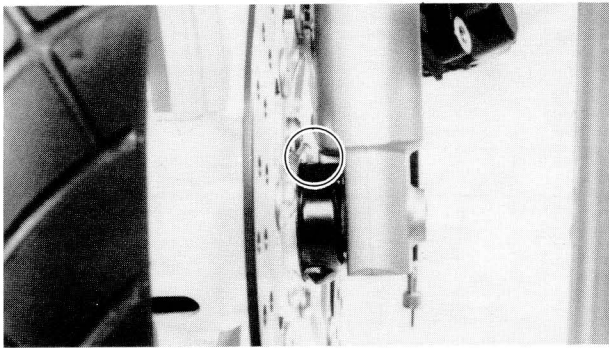
- カラー



ホイールバランス調整

• 点検、調整は以下の順序で行う。

1. 古いバランスウェイトを取外し、ホイールが軽く回るホイールバランス台にセットする。
2. ホイールを左右に少しずつ回して、一番重点を以下の順序で探す。
 - a. 重いと思われる点、X点を左図の位置まで回して手を離すと左(矢印)方向に回転する。(A)
 - b. 次にX点を左図の位置まで回して手を離すと右(矢印)方向に回転する。(B)
3. 一番重点(X点)の反対側(Z点)にバランスウェイトを取付ける。(C)
 - 一番重点(X点)を90°回転させ、X点の反対側(Z点)につりあうまでバランスウェイトをつける。(D)
4. バランスウェイト取付け後、左図の4ヵ所の位置(X点)で手を離すと、どの位置でも静止またはゆっくり回転するように調整されていることを確認する。(E)

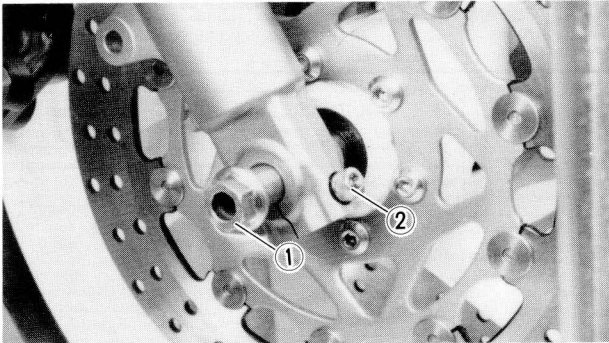


フロントホイールの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- フロントホイール

ギヤユニットのストッパー部とフロントフォークの突起部を合わせて組付ける。



2.以下の部品を締付ける。

- ホイールアクスル①
- アクスルホルダ締付ボルト②

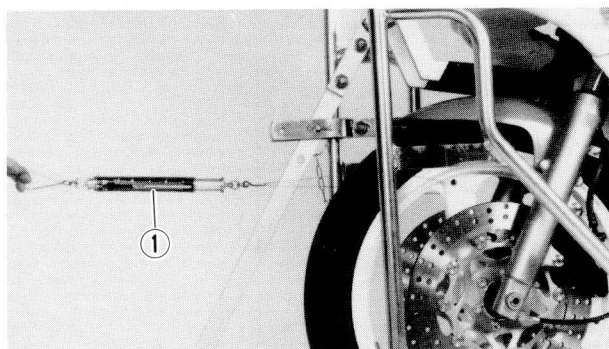
ホイールアクスルを右側より組付け、規定のトルクで締付ける。

	ホイールアクスル	7.0kg・m
	アクスルホルダ	1.5kg・m

3.以下の部品を組付ける。

- スピードメータケーブル
- キャリパ

	キャリパ
	3.5kg・m



4.以下の点検をする。

- ホイール引摺トルク

バネばかり①を使用し、ホイールを浮かした状態で引摺トルクを点検する。

	引摺トルク
	5 kg 以下

5.スタンドおよびジャッキ、台等を取り除く。

6.以下の点検をする。

- ブレーキの効き具合
- ブレーキレバーの遊び
- スピードメータの作動



構成部品

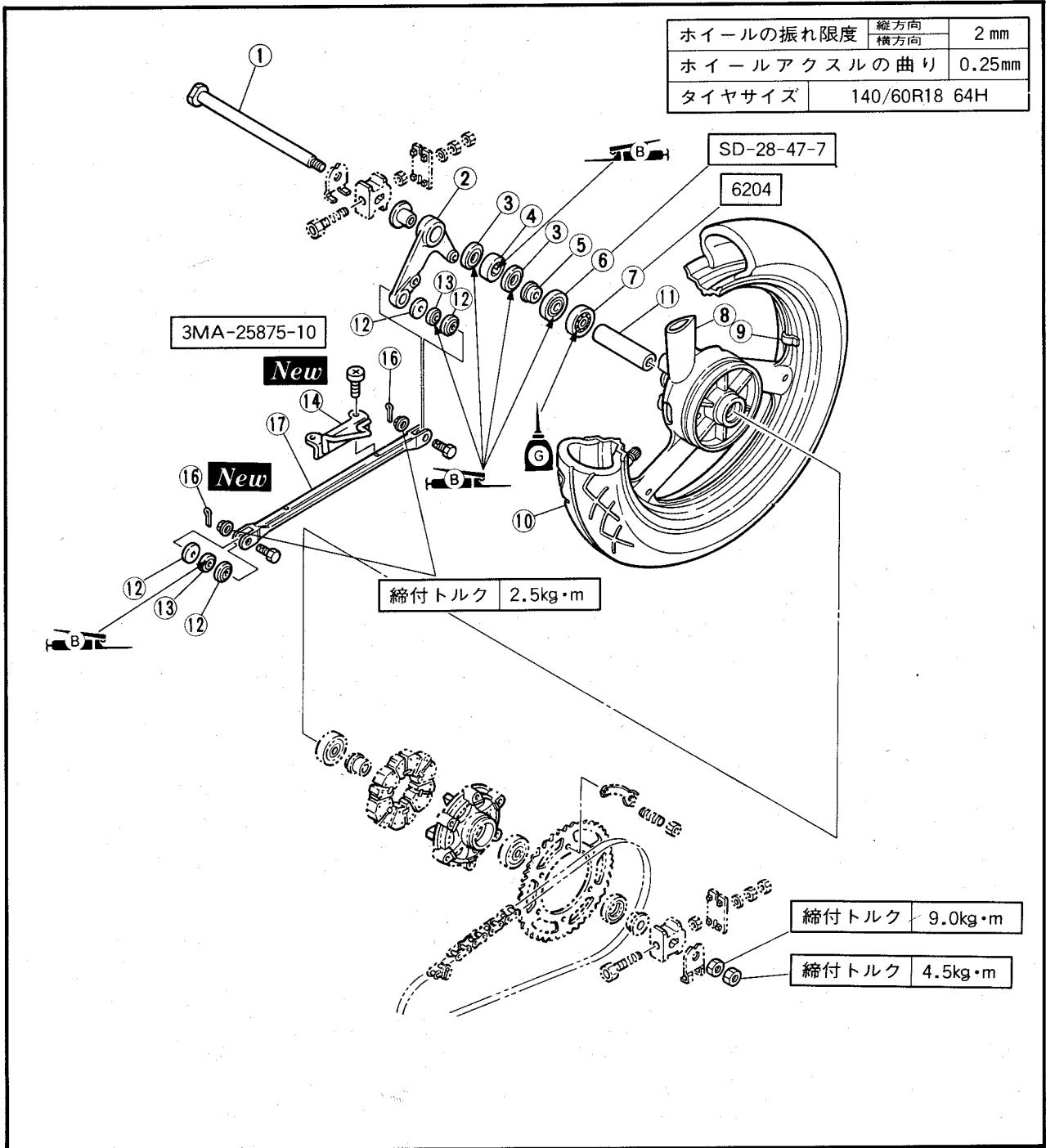
リヤホイール

- ①ホイールアクスル ⑦ベアリング ⑬ベアリング
- ②キャリパブラケット ⑧リヤキャストホイール ⑭ブレーキホースホルダ
- ③オイルシール ⑨ホイールバルンサ ⑮カラー
- ④ベアリング ⑩タイヤ ⑯コッタピン
- ⑤カラー ⑪スペーサ ⑰テンションバー
- ⑥オイルシール ⑫オイルシール

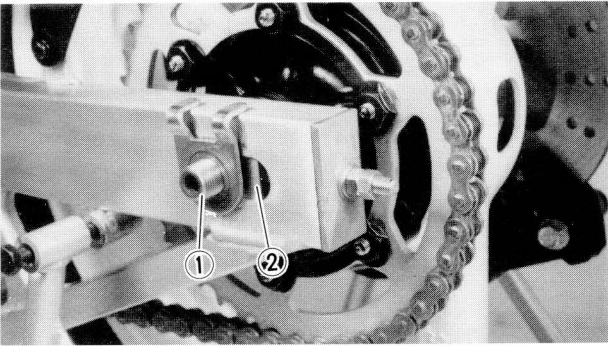
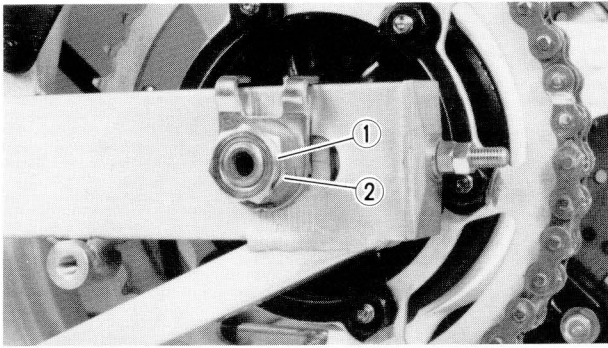
New マーク部品番号

⑯	91401-20015
---	-------------

ホイールの振れ限度	縦方向	2 mm
	横方向	
ホイールアクスルの曲り	0.25mm	
タイヤサイズ	140/60R18 64H	



7



リヤホイールの取外し

リヤアームをレーシングスタンド等で支え、リヤホイールを浮かしてから行なう。

1.以下の部品を取外す。

- リヤアクスロックナット①
- リヤアクスルナット②

2.以下の部品を取外す。

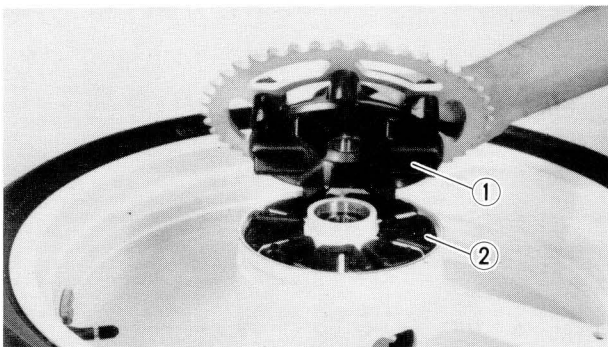
- リヤホイールアクスル①
- チェンプラー②
- リヤホイール

リヤホイールを前に押し、ドリブンスプロケットよりチェンを外してリヤホイールを取外す。

注意 取外したホイールは倒したり、ぶついたりしてブレーキディスク等に損傷を与えないようにして取扱うこと。もしブレーキディスクに損傷を与えた場合は交換すること。

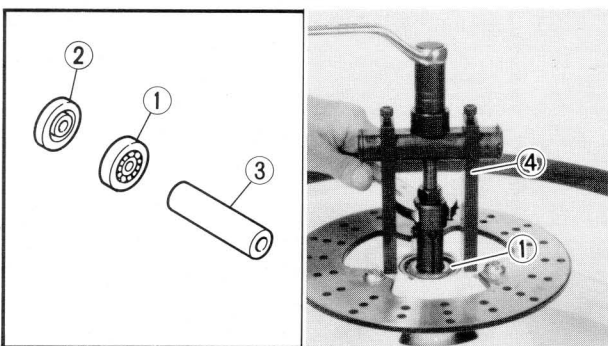
3.以下の部品を取外す。

- カラー



4.以下の部品を取外す。

- クラッチハブ①
- ダンパ②



5.以下の部品を取外す。

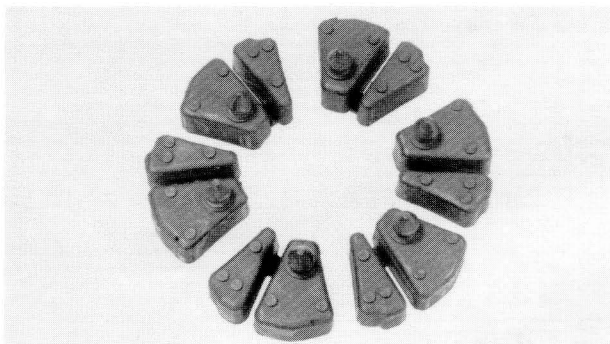
- ベアリング①
- オイルシール②
- スペーサ③

ベアリングプーラ④を使用してベアリング、オイルシールを取外す。

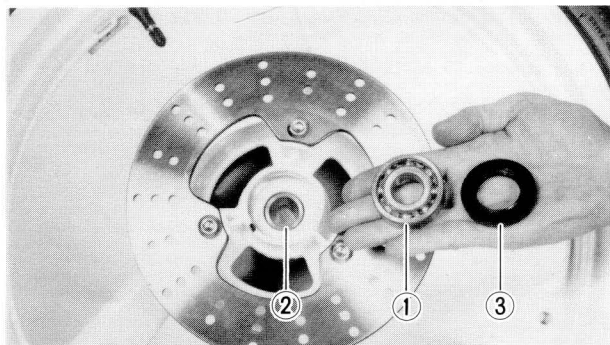


リヤホイールの点検

- 以下の点検をする。
 - ホイールの縦、横振れ (P7-3参照)
 - ホイールベアリングのがた、異音 (P7-3参照)
 - カラーの段付摩耗 (P7-3参照)
 - ホイールアクスルの曲り (P7-3参照)



- 以下の点検をする。
 - ダンパの摩耗、損傷
摩耗、損傷→交換



リヤホイールの組立

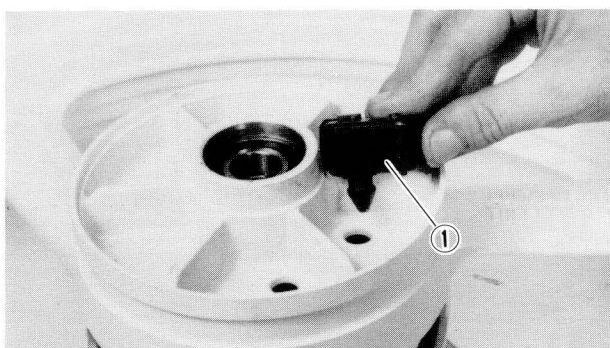
- 以下の部品を組付ける。
 - ベアリング①
 - スペーサ②
 - オイルシール③

ベアリングおよびオイルシールリップ部にグリースを塗布し、右側のベアリングより組付け、スペーサは左側より組付ける。

ベアリングは、シールされた方を内側にサイズ記号の記入された方を外側に向け、アウトレースに力を加えて、平行に打込むこと。

- 以下の部品を組付ける。
 - カラー

- 以下の部品を組付ける。
 - ダンパ①
 - クラッチハブ



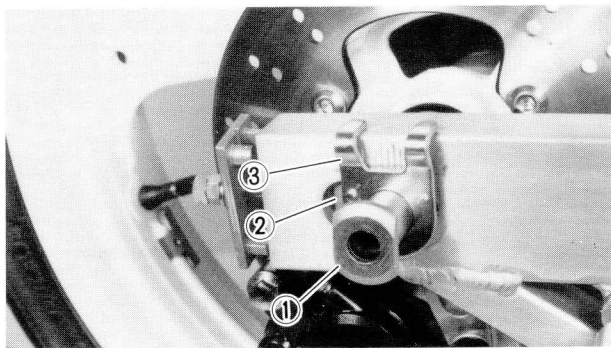


リヤホイールの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- リヤホイール
- マスタシリンダブラケット

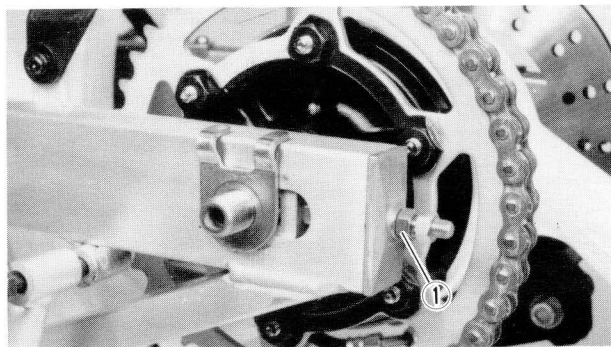
ドリブンスプロケットにドライブチェンを掛け、ディスクプレートにキャリパを組付けリヤホイールを組付ける。



2.以下の部品を組付ける。

- リヤホイールアクスル①
- チェンプラー②
- インジケータ③

チェンプラーを忘れずにリヤアームに組付け、リヤホイールアクスルにインジケータを組付け右側より組付ける。



3.以下の調整をする。

- ドライブチェンの張り具合

アジャスタ①を左右均等に締め込み張り具合を調整する。



ドライブチェンの張り具合

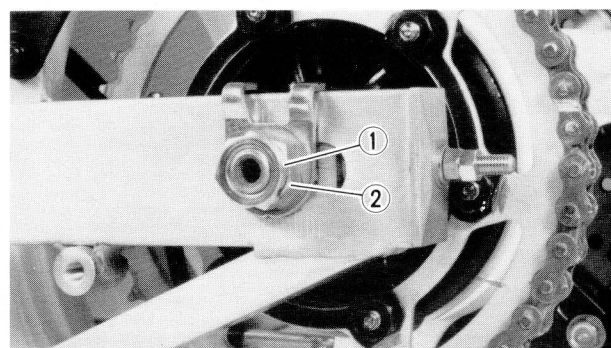
30~40mm

注意

- 刻み目盛を左右同位置に合わせること。
- 調整後、ロックナットを確実に締付けること。

4.以下の部品を締付ける。

- リヤアクスルナット①
- リヤアクスルロックナット②



リヤアクスルナット① 9.0kg・m

リヤアクスルロックナット② 4.5kg・m



5.以下の点検をする。

- ブレーキの効き具合
- ブレーキペダルの取付高さ
- リヤストップスイッチの作動
- ブレーキの引摺トルク



引摺トルク

5 kg 以下



構成部品

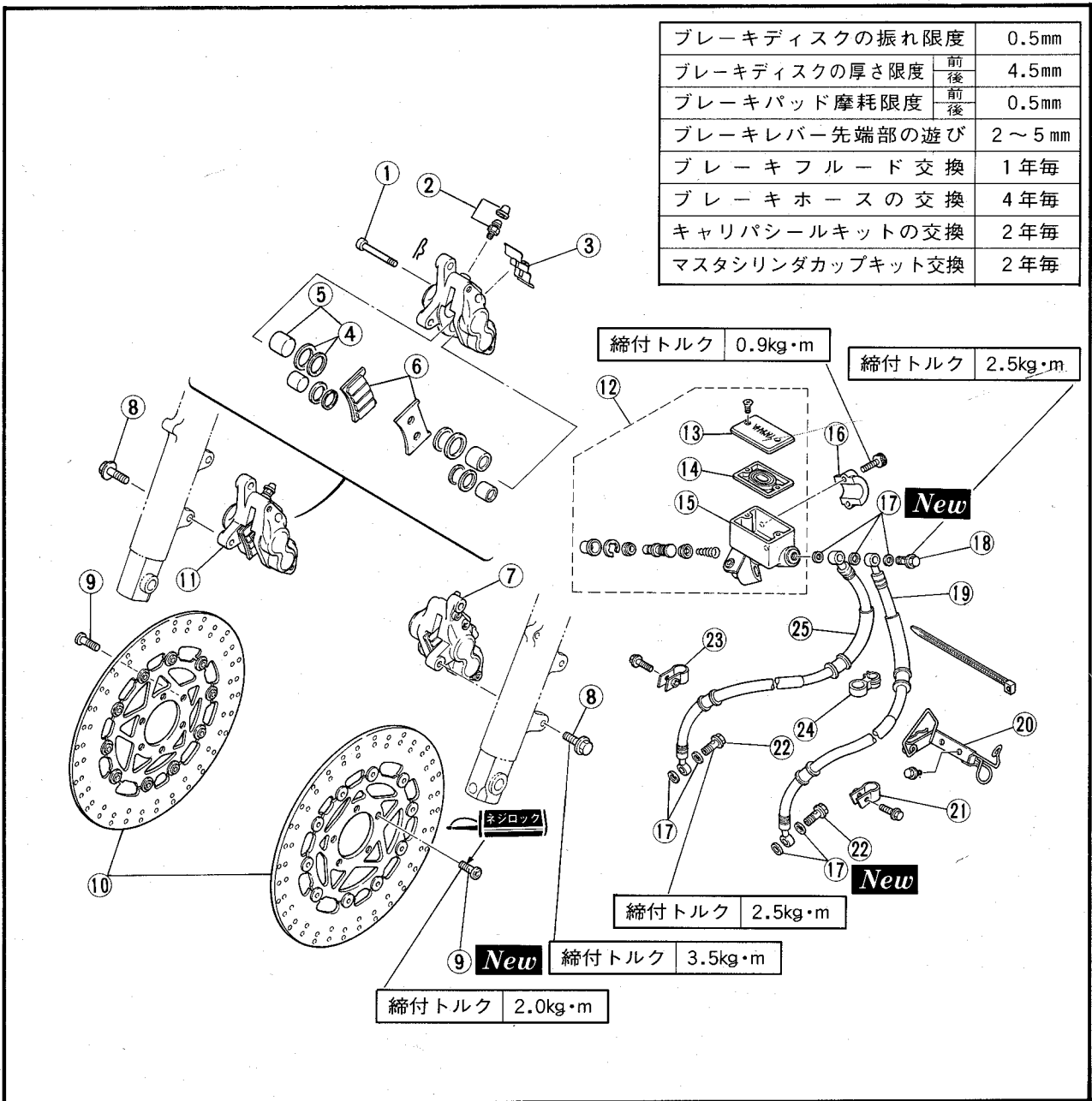
フロントブレーキ

- | | | |
|-----------------|----------------|---------------|
| ①パッドピン | ⑪キャリパAss'y (右) | ⑳ブレーキホースホルダ 1 |
| ②ブリードスクリュ | ⑫マスタシリンダAss'y | ㉑ユニオンボルト |
| ③クロススプリング | ⑬リザーバキャップ | ㉒ブレーキホースホルダ 2 |
| ④キャリパシールキット | ⑭リザーバダイヤフラム | ㉓ケーブルガイド |
| ⑤キャリパピストンAss'y | ⑮マスタシリンダ | ㉔ブレーキホース 2 |
| ⑥ブレーキパッド | ⑯マスタシリンダブラケット | |
| ⑦キャリパAss'y (左) | ⑰プレートワッシャ | |
| ⑧ワッシャベースドヘッドボルト | ⑱ユニオンボルト | |
| ⑨ボルト | ㉕ブレーキホース 1 | |
| ⑩ブレーキディスクAss'y | ㉖ブラケット | |

New マーク部品番号

⑨	90109-08718
⑰	90201-10118

ブレーキディスクの振れ限度	0.5mm
ブレーキディスクの厚さ限度	前後 4.5mm
ブレーキパッド摩耗限度	前後 0.5mm
ブレーキレバー先端部の遊び	2~5mm
ブレーキフルード交換	1年毎
ブレーキホースの交換	4年毎
キャリパシールキットの交換	2年毎
マスタシリンダカップキット交換	2年毎

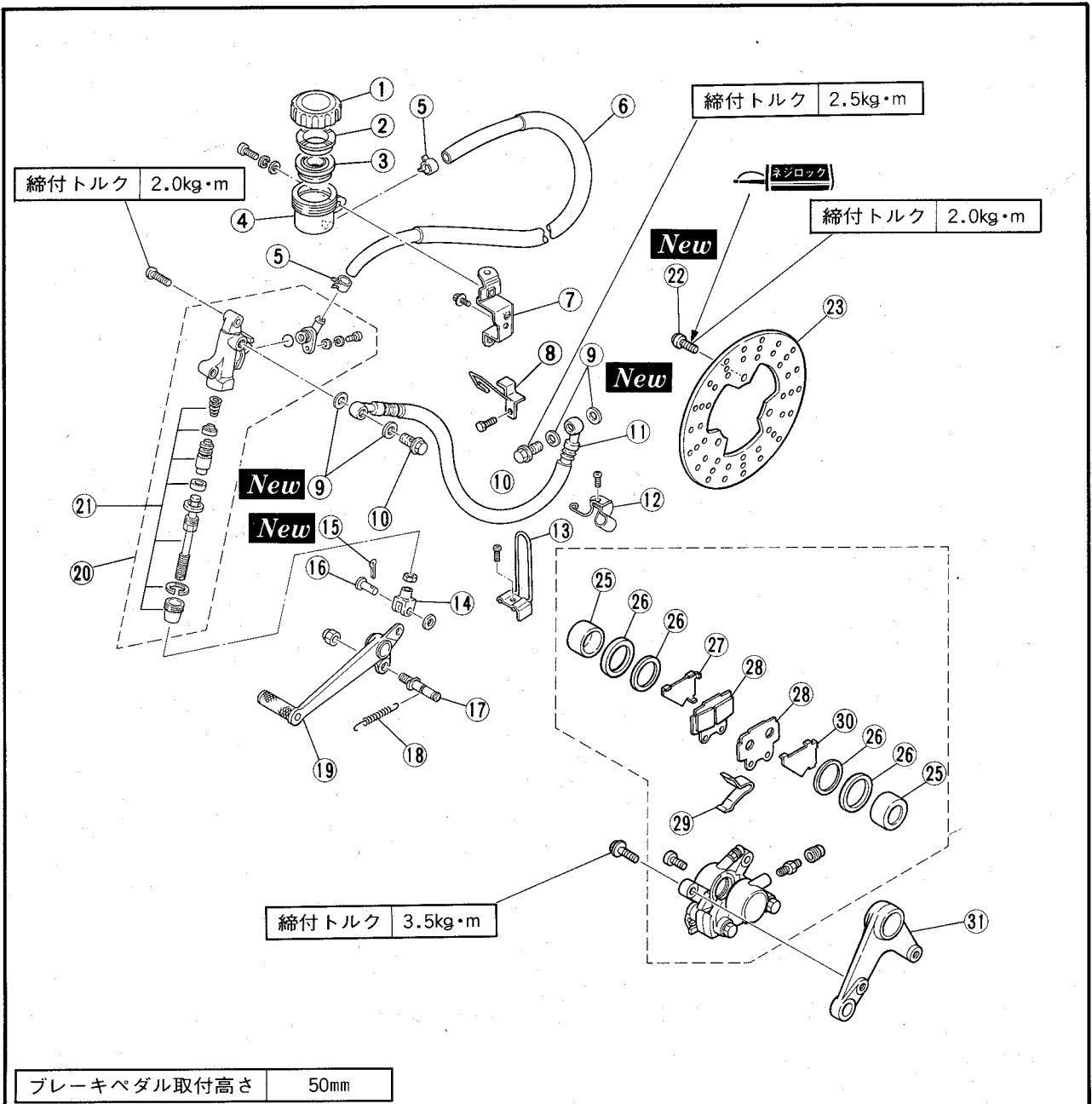




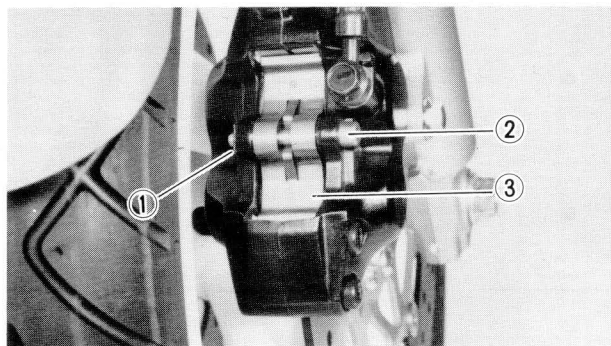
構成部品

リヤブレーキ

- | | | |
|-------------|-----------------|----------------|
| ①リザーバキャップ | ⑫ブレーキホースホルダ | ⑳ブレーキディスク |
| ②ダイヤフラムブッシュ | ⑬ブレーキホースホルダ | ㉑リヤキャリパAss'y |
| ③リザーバダイヤフラム | ⑭ジョイント | ㉒キャリパピストンAss'y |
| ④リザーバタンク | ⑮コッタピン | ㉓キャリパシールキット |
| ⑤クリップ | ⑯クレビスピン | ㉔キャリパシム |
| ⑥リザーバホース | ⑰ペダルクランクピン | ㉕リヤブレーキパッドキット |
| ⑦リザーバタンクホルダ | ⑱テンションスプリング | ㉖パッドサポート |
| ⑧ブレーキホースホルダ | ㉚ブレーキペダル | ㉗キャリパシム |
| ⑨プレートワッシャ | ㉛リヤマスタシリンダAss'y | ㉘キャリパシム |
| ⑩ユニオンボルト | ㉜マスタシリンダキット | ㉙キャリパブラケット |
| ⑪ブレーキホース | ㉝ボルト | |



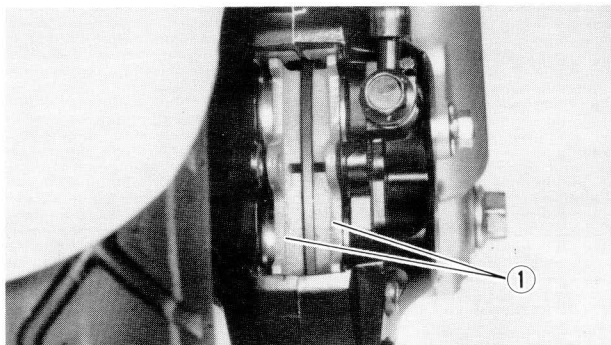
7



ブレーキパッドの交換 〔フロント〕

1.以下の部品を取外す。

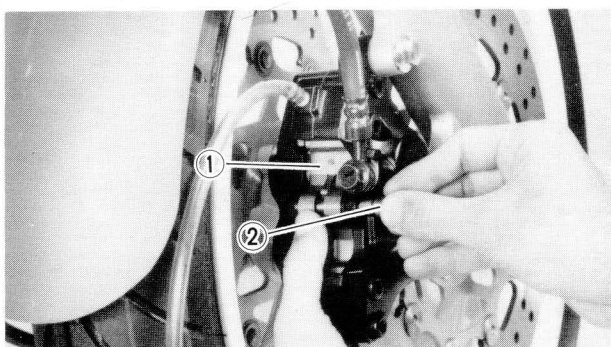
- クリップ①
- パッドピン②
- クロススプリング③



2.以下の部品を取外す。

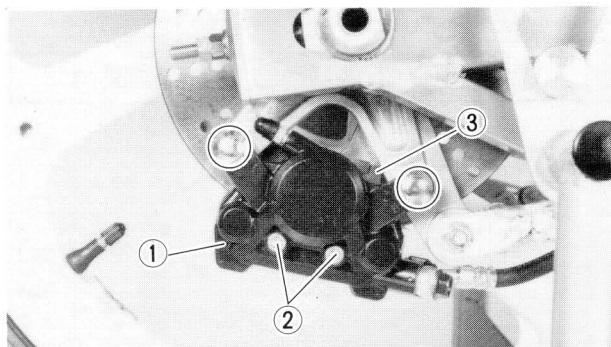
- ブレーキパッド①

注意 ブレーキパッド取外し中、むやみにブレーキレバーを操作しないこと。



3.以下の部品を組付ける。

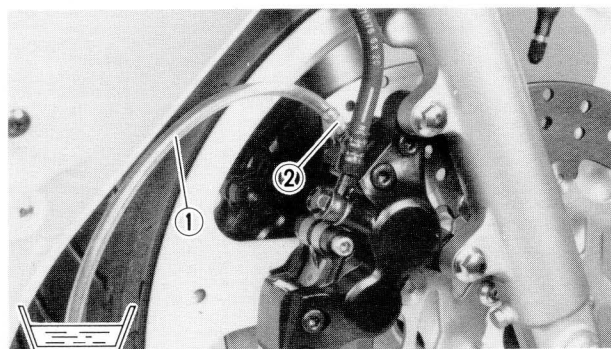
- ブレーキパッド
- クロススプリング①
- パッドピン②
- クリップ



〔リヤ〕

1.以下の部品を取外す。

- キャリパ①
- パッドピン②
- ブレーキパッド③



2.以下の部品を組付ける。

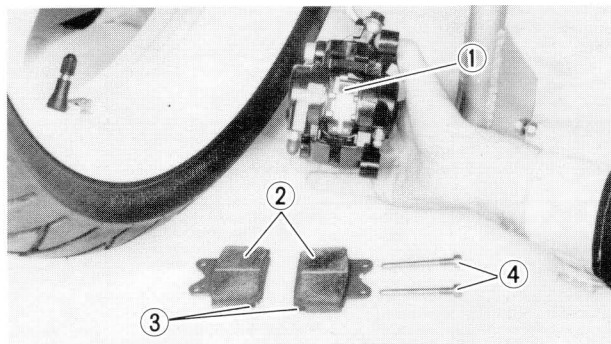
- ビニールパイプ①

ブリードスクリュ②の先端にビニールパイプを組付け、ビニールパイプ先端に受皿を用意してブリードスクリュをすこしゆるめて、指先でキャリパピストンを押し戻す。



注意

- キャリパピストンを押し戻すと、リザーバタンクの液面が上昇するので注意すること。
- 排出したブレーキフルードは、再使用しないこと。

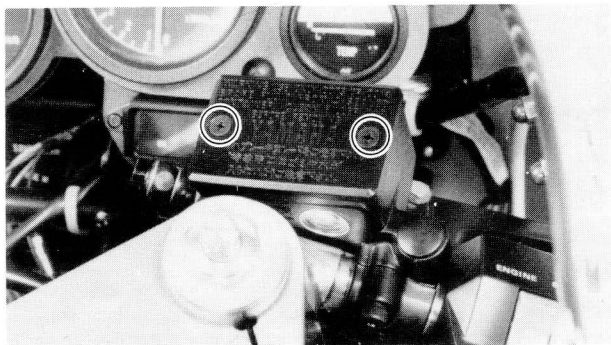


3.以下の部品を組付ける。

- パッドサポート①
- ブレーキパッド②
- パッドシム③
- パッドピン④

注意

パッドサポートの組付方向を間違わないように注意すること。



ブレーキフルードの交換〔フロント〕

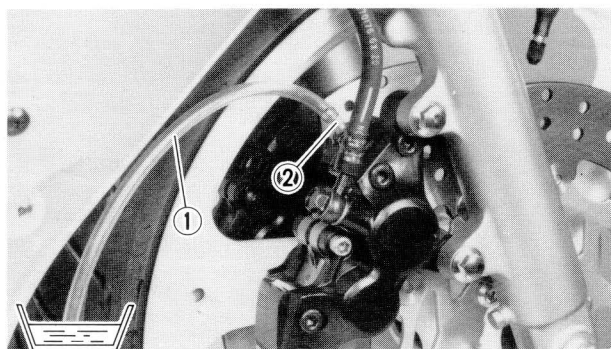
1.以下の部品を取外す。

- リザーバキャップ
マスタシリンダリザーバタンクが水平になるようにして、リザーバキャップを取外す。

注意

- リザーバダイヤフラムは、取外さないこと。
- フュエルタンク等を、ウエス等でカバーしておくこと。

7



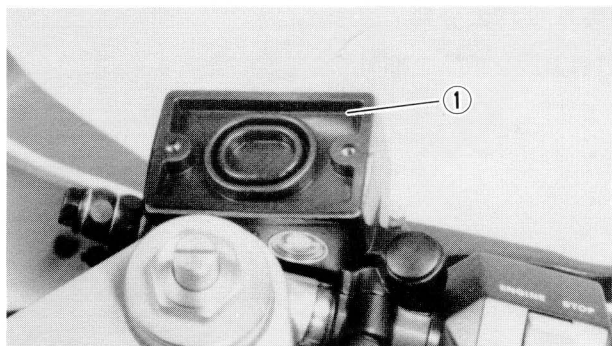
2.以下の部品を組付ける。

- ビニールパイプ①
ブリードスクリュ②の先端にビニールパイプを組付け、ビニールパイプ先端に受皿を用意して、ブリードスクリュをゆるめ、ブレーキレバーを作動させ、ブリードスクリュからブレーキフルードが出なくなるまで繰り返す。



注意

- 排出したブレーキフルードは、再使用しないこと。
- ブレーキフルードが塗装面、プラスチック、ゴム等に付着すると損傷する恐れがあるので取扱いには充分注意すること。



3. 以下の部品を締付ける。

- ブリードスクリュ



ブリードスクリュ

0.6kg・m

4. 以下の部品を取外す。

- リザーバダイヤフラム①

5. ブレーキフルードをロアレベル以上入れる。

指定ブレーキフルード	ヤマハ純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4
------------	------------------------------

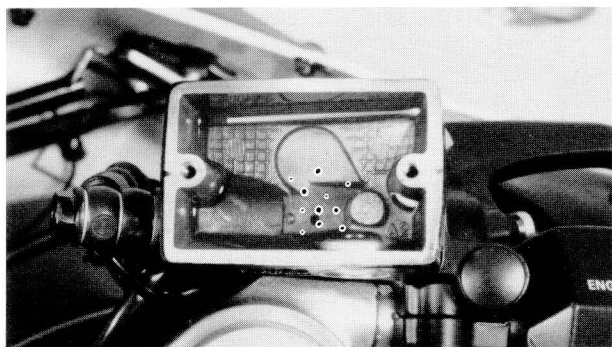
注意

他銘柄と混合しないこと。

6. ブレーキレバーを作動させ、ブレーキホースキャリパにブレーキフルードを充満させる。

注意

- ブレーキフルードがロアレベル以下にならないよう補充しながら行うこと。
- ブレーキレバーはゆっくり作動させること。

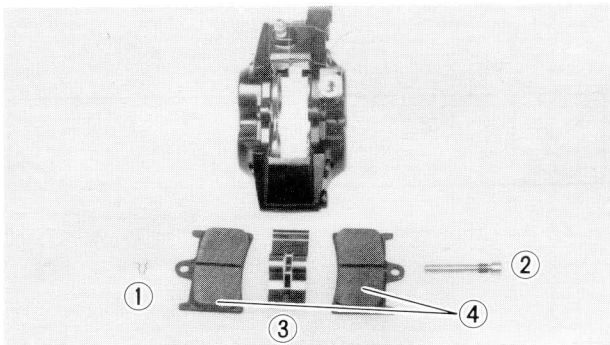
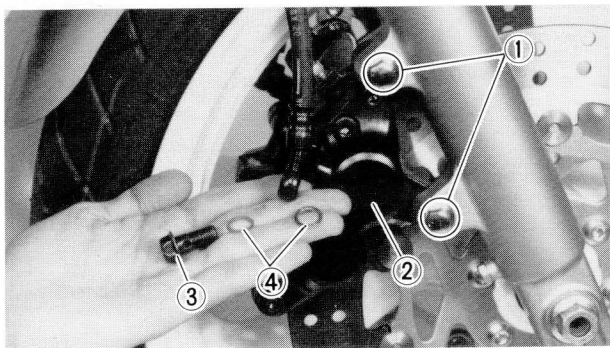


7. ブレーキレバーをゆっくり作動させ、リザーバタンク内の小さい穴からエア(気泡)が出なくなり、ブレーキレバーにおもみを感じるまで行う。

8. エア抜きをする。(P3-17参照)

[リヤ]

フロント参照



キャリパの取外し

1. ブレーキフルードを抜く。
2. 以下の部品を取外す。
 - キャリパ取付ボルト①
 - キャリパ②
 - ユニオンボルト③
 - プレートワッシャ④

キャリパの分解

1. 以下の部品を取外す。
 - クリップ①
 - パッドピン②
 - クロススプリング③
 - ブレーキパッド④
2. 以下の部品を取外す。
 - キャリパピストン

危険

- 高圧のエアを使用したり、急激にエアを吹き込まず徐々にエアを吹き込むこと。
- キャリパの中に手を入れないこと。

片側のキャリパピストンをウエス等で飛び出さないように固定する。

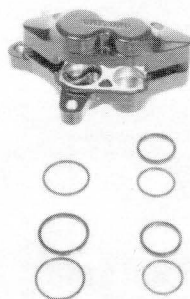
キャリパをウエスでくるみ、取外し側のキャリパピストンを下向きにする。

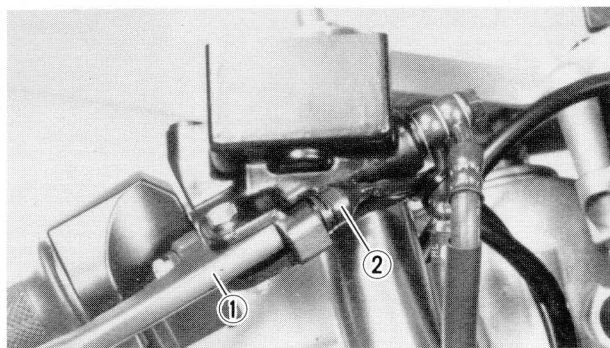
低圧エアを徐々に吹き込み、片側ずつ取外す。
※点検、組立後残っている反対側のキャリパピストンを取外す。

3. 以下の部品を取外す。

- ピストンシール
- 指先で奥へ押し込むようにして取外す。

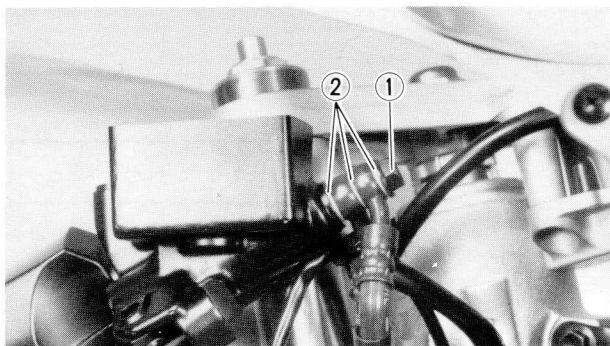
整備要領 ドライバ等は使用しないで、必ず指先で取外す。





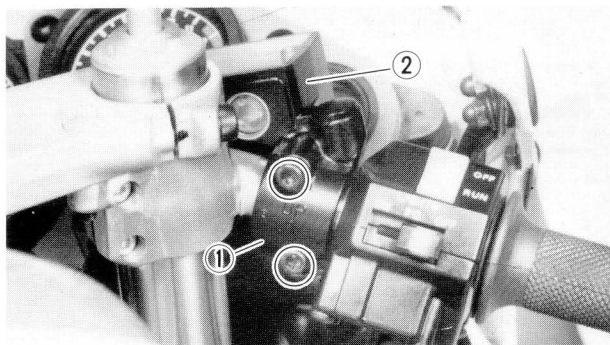
マスタシリンダの取外し〔フロント〕

1. ブレーキフルードを抜く。
2. 以下の部品を取外す。
 - ブレーキレバー①
 - コンプレッションスプリング
 - フロントストップスイッチ②

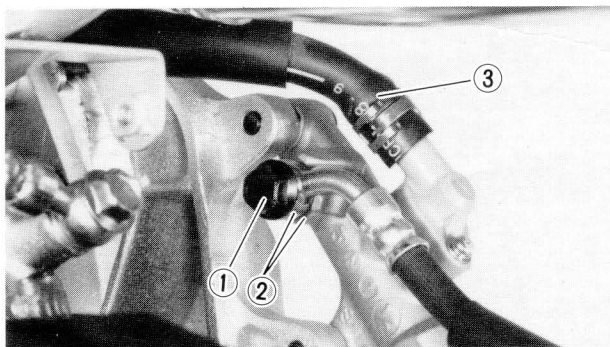


3. 以下の部品を取外す。
 - ユニオンボルト①
 - プレートワッシャ②

整備要領 ブレーキフルードが飛び散らないように注意し取外す。

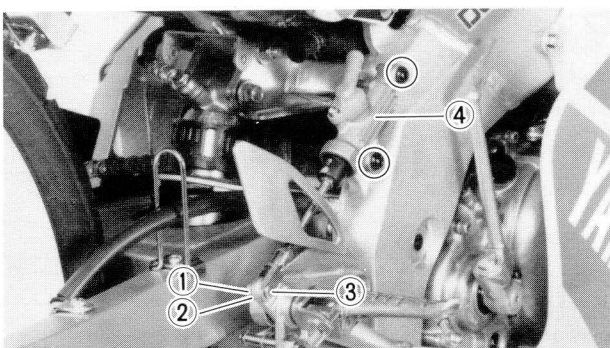


4. 以下の部品を取外す。
 - マスタシリンダブラケット①
 - マスタシリンダ②



マスタシリンダの取外し〔リヤ〕

1. ブレーキフルードを抜く
2. 以下の部品を取外す。
 - ユニオンボルト①
 - プレートワッシャ②
 - リザーバホース③

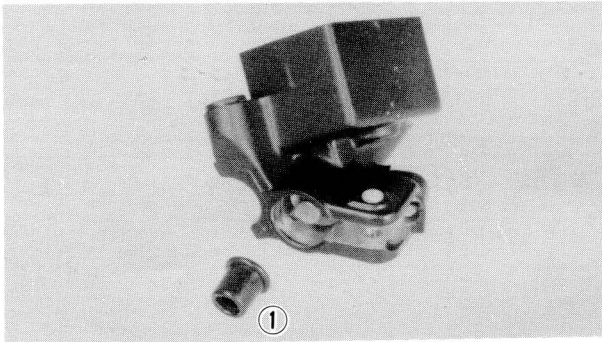


3. 以下の部品を組付ける。
 - コッタピン①
 - プレートワッシャ②
 - ピン③
 - マスタシリンダ④



4.以下の部品を取外す。

- リザーバタンク
- リザーバホース

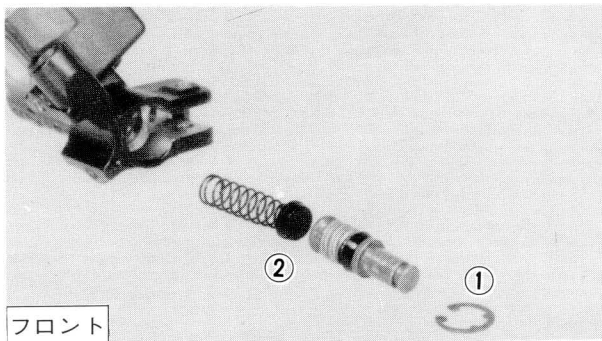


マスタシリンダの分解

1.以下の部品を取外す。

- マスタシリンダブーツ①

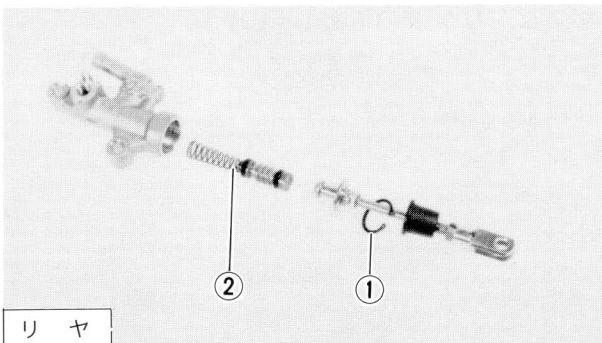
注意 破損させないように注意して取外すこと。



フロント

2.以下の部品を取外す。

- サークリップ①
- マスタシリンダキット②



リヤ

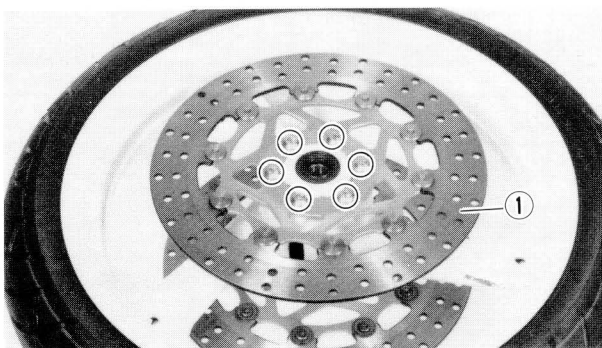
ブレーキディスクの取外し

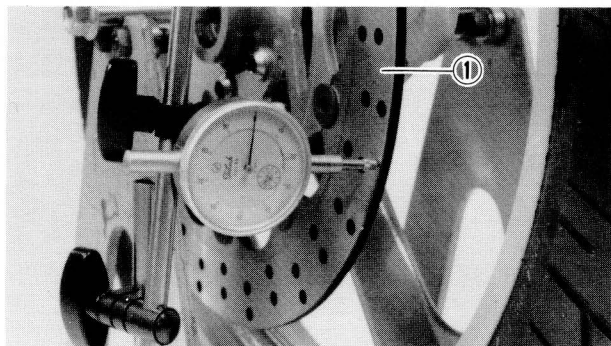
1.以下の部品を取外す。

- フロントホイール
- リヤホイール

2.以下の部品を取外す。

- ブレーキディスク①





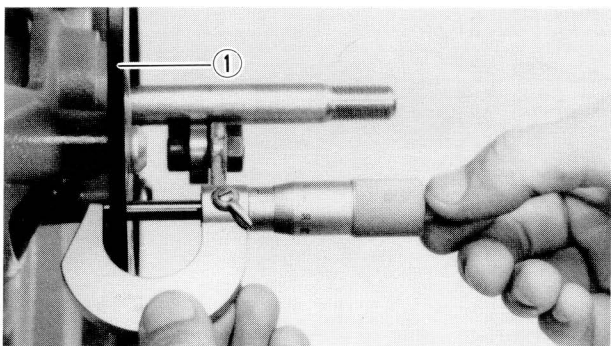
ブレーキディスクの点検

1.以下の点検をする。

- ブレーキディスク①の振れ

	振れ限度
	0.5mm

限度以上→交換

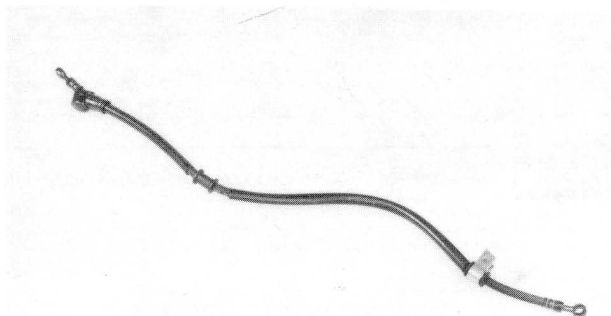


2.以下の点検をする。

- ブレーキディスク①の厚さ

	厚さ標準値	使用限度
	5.0mm	4.5mm

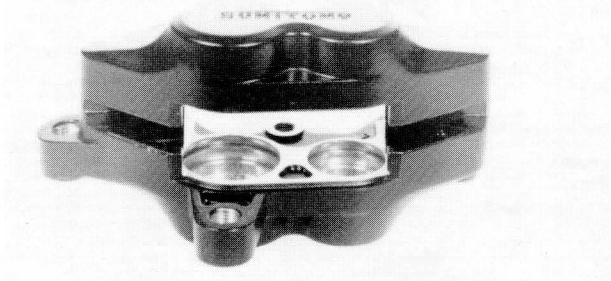
限度以下→交換



ブレーキホースの点検

1.以下の点検をする。

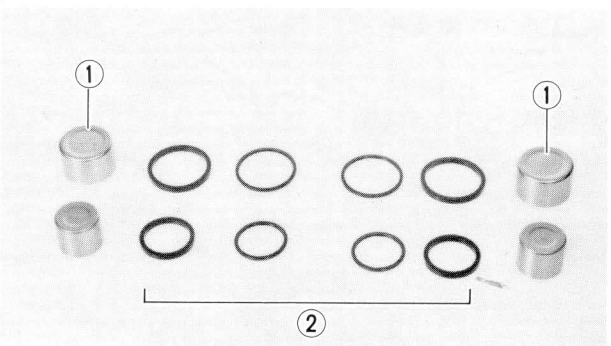
- ブレーキホースのヒビ割れ、損傷の有無
ヒビ割れ、損傷→交換



キャリパの点検

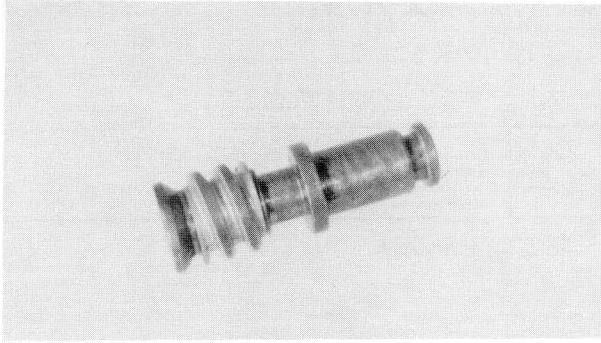
1.以下の点検をする。

- キャリパシリンダ
条痕、摩耗痕→キャリパAss'y交換



2.以下の点検をする。

- キャリパピストン①
条痕、摩耗痕→キャリパAss'y交換
- ピストンシール②
亀裂、損傷、劣化→キャリパシールキット交換

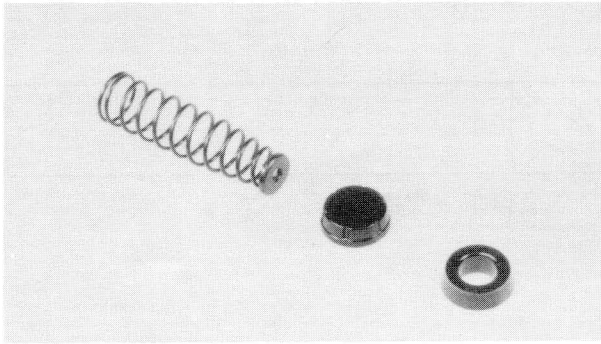


マスタシリンダの点検

1.以下の点検をする。

- マスタシリンダピストン

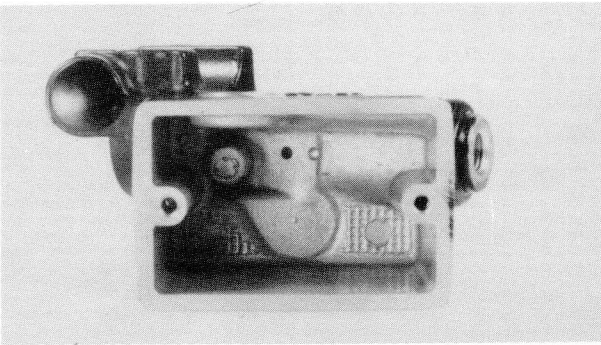
条痕、摩耗痕→マスタシリンダキットセット
交換



2.以下の点検をする。

- シリンダカップ

亀裂、損傷、劣化→マスタシリンダキットセ
ット交換

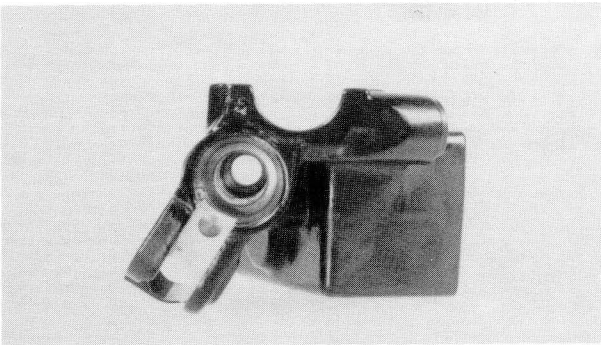


3.以下の点検をする。

- マスタシリンダリザーバタンク

汚れ、異物混入→ブレーキフルードで洗浄

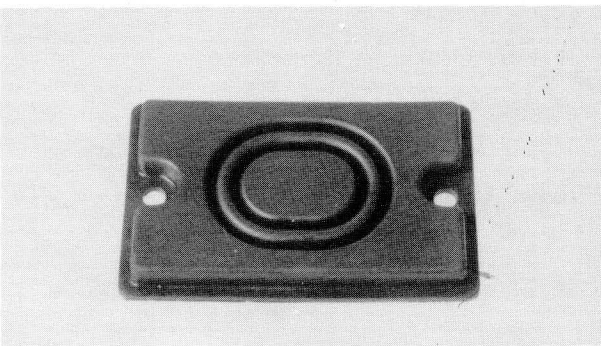
危険 ブレーキフルード以外のもので洗浄
しないこと。



4.以下の点検をする。

- マスタシリンダ

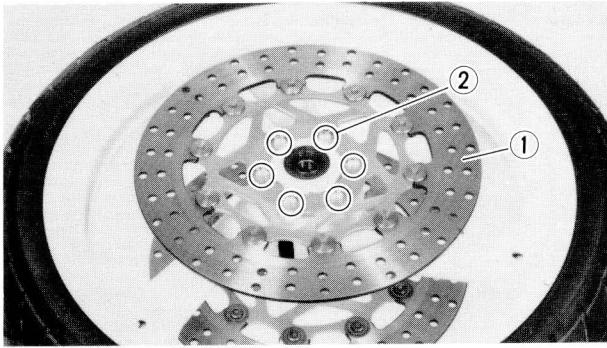
条痕、摩耗痕のあるもの→マスタシリンダ
Ass'y交換



5.以下の点検をする。

- リザーバダイヤフラム

破損、劣化→交換



ブレーキディスクの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- ブレーキディスク①
- ボルト②

	ボルト
New	ボルト
	ブレーキディスク締付ボルト 2.0kg・m

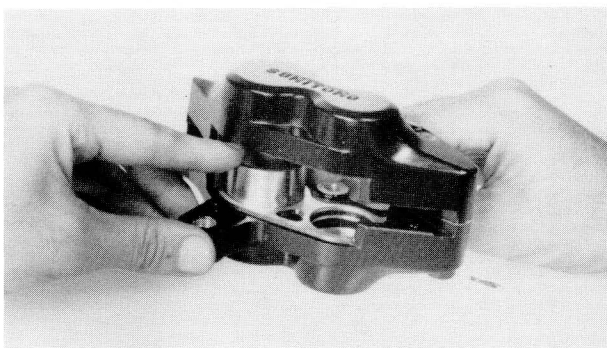
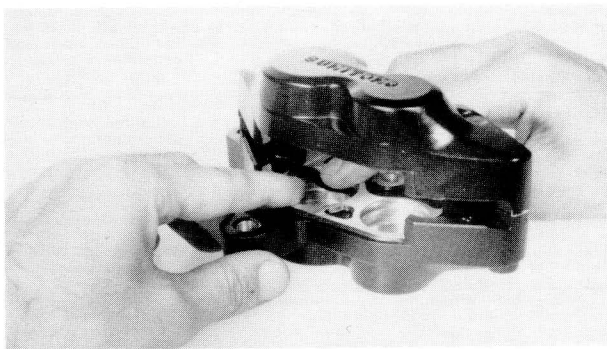
2.以下の部品を組付ける。

- フロントホイール
- リヤホイール

キャリパの組付け

1.キャリパ、キャリパシールキットをブレーキフルードで洗浄する。

危険 ブレーキフルード以外のものでも洗浄しないこと。



2.以下の部品を組付ける。

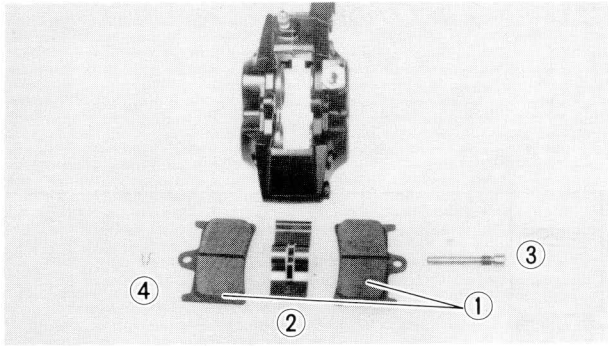
- ピストンシール
ブレーキフルードを塗布し、指先でねじれないように組付ける。

3.以下の部品を組付ける。

- キャリパピストン

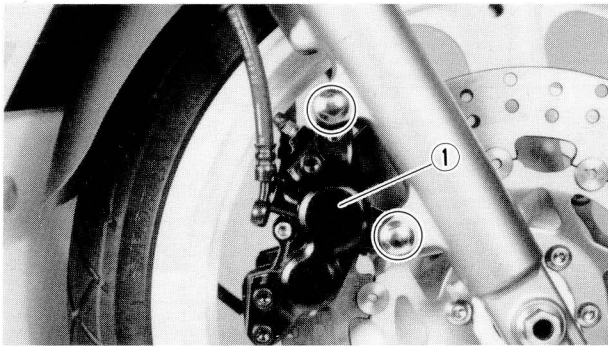
整備要領

- ブレーキフルードを塗布して組付ける。
- 無理な力を加えて組付けない。



4.以下の部品を組付ける。

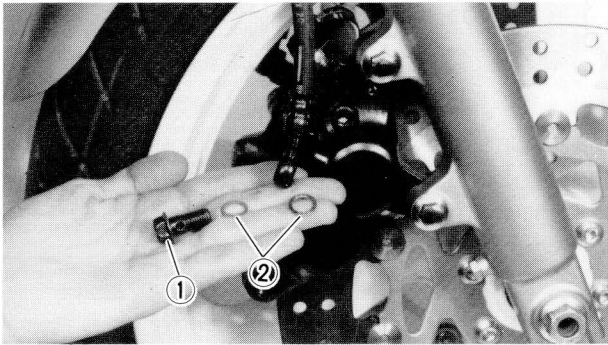
- ブレーキパッド①
- クロススプリング②
- パッドピン③
- クリップ④



5.以下の部品を組付ける。

- キャリパ①

	キャリパ締付ボルト 3.5kg・m
--	----------------------



6.以下の部品を組付ける。

- ユニオンボルト①
- プレートワッシャ②

New	プレートワッシャ
	ユニオンボルト 2.5kg・m

7.ブレーキフルードを注入して、エア抜きを行う。(P3-17参照)

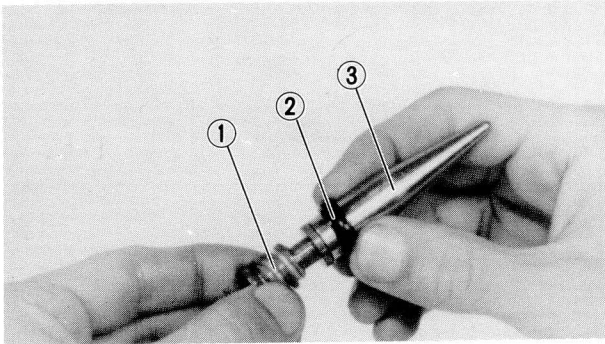
整備要領 組付後、ブレーキレバーを握って、マスタシリンダ、キャリパ、ユニオンボルト取付部よりブレーキフルードの漏れがないかを確認する。



マスタシリンダの組付け〔フロント〕

1. マスタシリンダボディ、マスタシリンダキットをブレーキフルードで洗浄する。

危険 ブレーキフルード以外のもので洗浄しないこと。



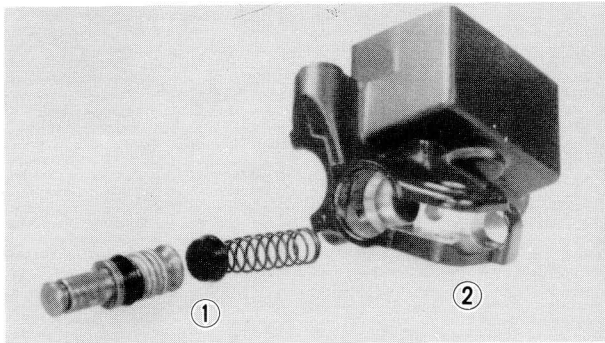
2. 以下の部品を組付ける。

- シリンダカップ①
 - マスタシリンダピストン②
- シリンダカップインストラ③を使用して組付ける。



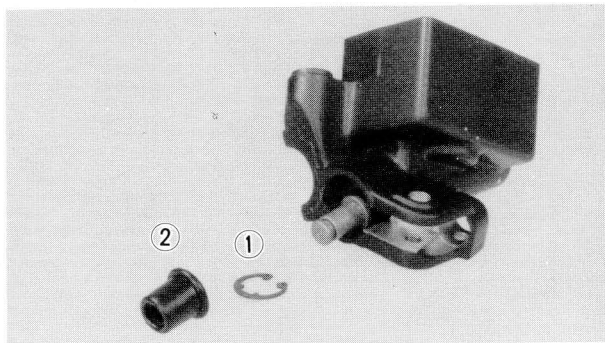
シリンダカップインストラセット

90890-01996



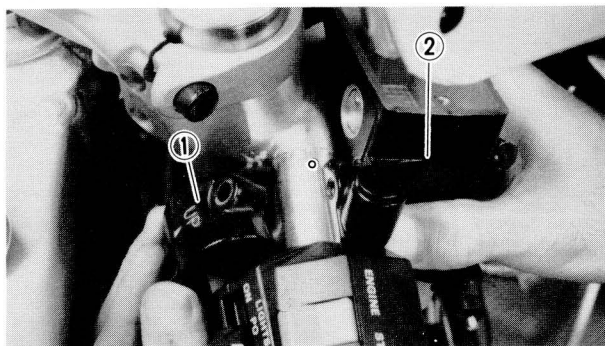
3. 以下の部品を組付ける。

- マスタシリンダキットセット①
- マスタシリンダキットセットおよびマスタシリンダボディ内部にブレーキフルードを塗布して組付ける。



4. 以下の部品を組付ける。

- サークリップ①
- マスタシリンダブーツ②



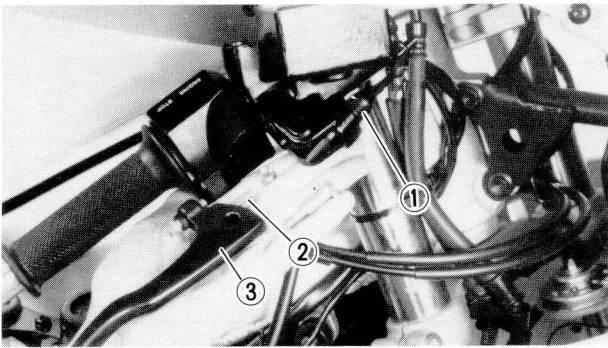
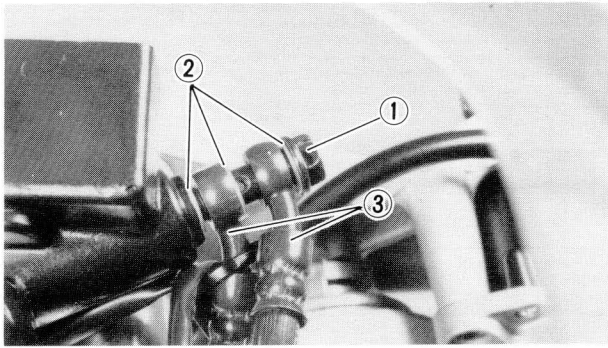
5. 以下の部品を組付ける。

- マスタシリンダ①
 - マスタシリンダブラケット②
- マスタシリンダブラケットのUPマークを上にしてポンチマークとマスタシリンダブラケットの端面を合わせ組付ける。




マスタシリンダブラケット締付トルク

0.9kg・m



6.以下の部品を組付ける。

- ユニオンボルト①
- プレートワッシャ②
- ブレーキホース③

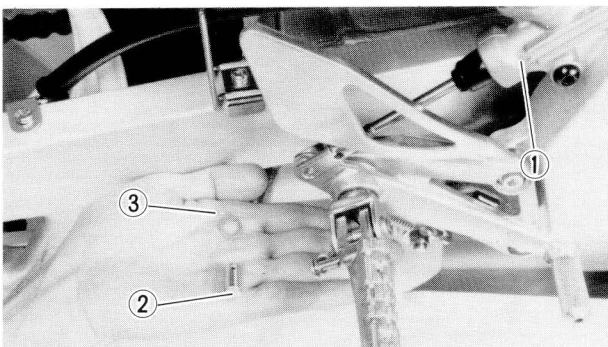
New	プレートワッシャ
	ユニオンボルト締付トルク 2.5kg・m

7.以下の部品を組付ける。

- フロントストップスイッチ①
- コンプレッションスプリング②
- ブレーキレバー③

注意	ブレーキレバー部のコンプレッションスプリングを紛失しないように組付ける。
-----------	--------------------------------------

8.ブレーキフルードを注入して、エア抜きを行う。(P3-17参照)



[リヤ]

1～4.フロント参照1.

5.以下の部品を組付ける。

- マスタシリンダ①
- ピン②
- コッタピン③

6.以下の部品を組付ける。

- リザーバタンク
- リザーバホース

7.以下の部品を組付ける。

- プレートワッシャ
- ユニオンボルト



8. ブレーキフルードを注入して、エア抜きを行う。
9. 以下の点検をする。
 - ブレーキペダル取付高さ
 - ブレーキの効き具合



構成部品

フロントフォーク

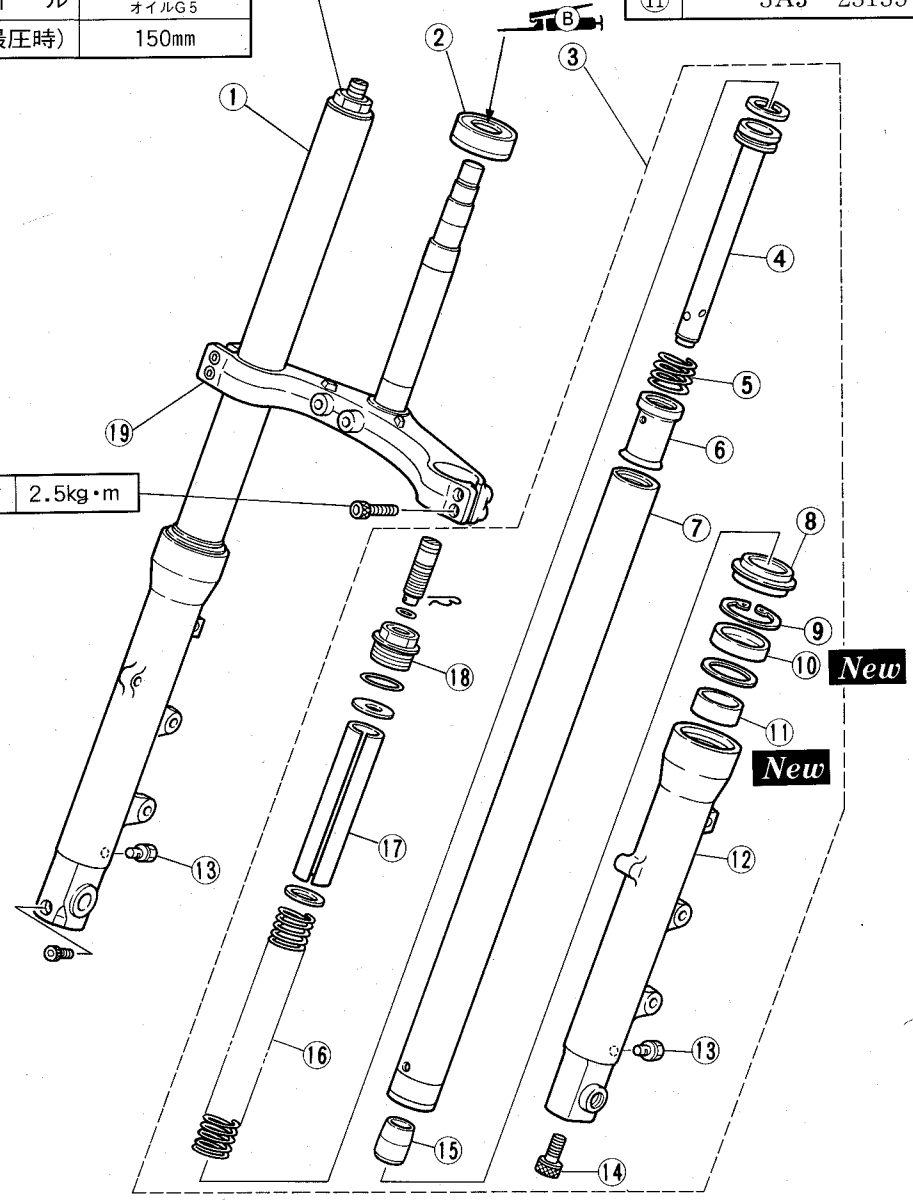
- ①フロントフォーク Ass'y (右)
- ②ベアリング
- ③フロントフォーク Ass'y (左)
- ④フロントフォークシリンダ Comp.
- ⑤リバウンドスプリング
- ⑥スプリングアジャストボルト
- ⑦インナチューブ Comp. 1
- ⑧ダストシール
- ⑨スナッピング
- ⑩オイルシール
- ⑪スライドメタル 2
- ⑫アウトチューブ 1
- ⑬ドレーンプラグ
- ⑭ヘキサゴンソケットヘッドボルト
- ⑮オイルロックスペーサ
- ⑯フロントフォークスプリング
- ⑰スペーサ
- ⑱フォークボルト
- ⑲アンダブラケット Comp.

フロントフォークスプリング使用限度	288mm
フロントフォークオイル量	425cc.
指定オイル	ヤマハサスペンション オイルG5
オイルレベル(最圧時)	150mm

締付トルク 2.3kg・m

締付トルク 2.5kg・m

New	マーク部品番号
⑩	3MA-23145-00
⑪	3AJ-23135-00

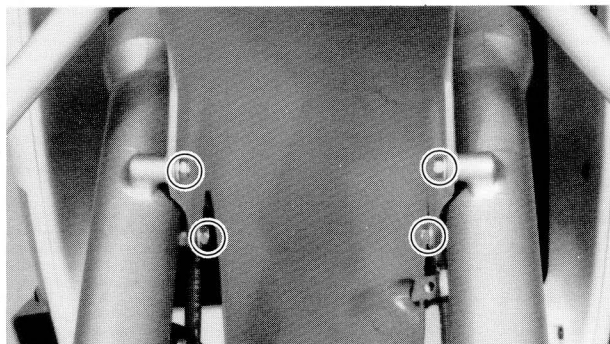




フロントフォークの取外し

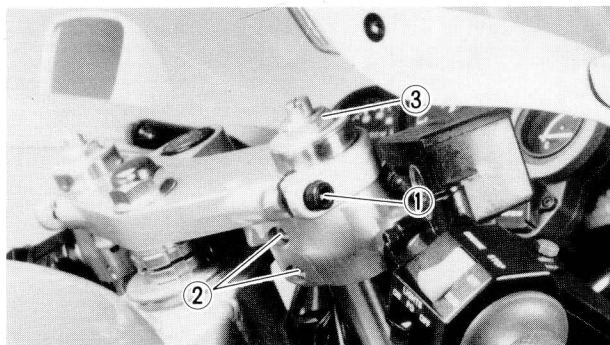
1. 以下の部品を取外す。

- フロントホイール
- キャリパ



2. 以下の部品を取外す。

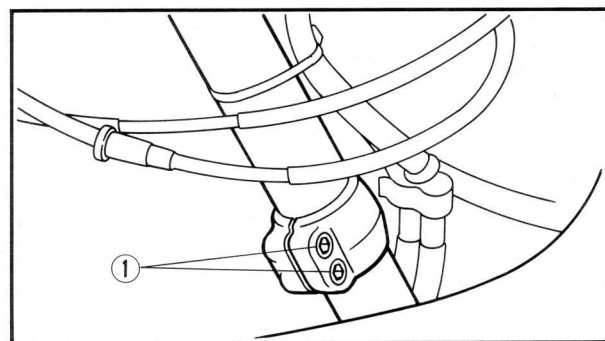
- フロントフェンダ



3. 以下の部品をゆるめる。

- ハンドルクラウン部インナチューブ締付ボルト①
- ハンドル締付ボルト②
- キャップボルト③

ハンドルクラウン部インナチューブ締付ボルトをゆるめてキャップボルトをゆるめる。



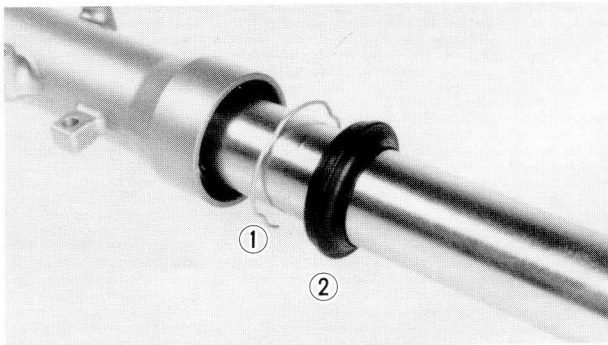
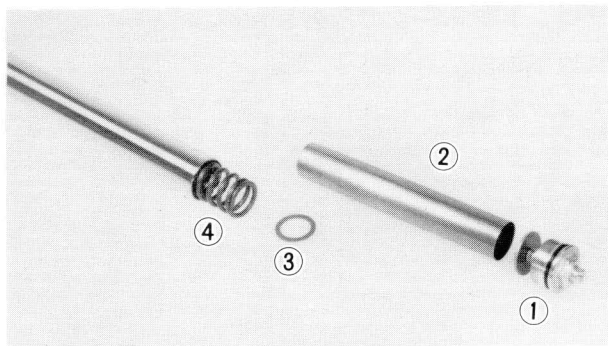
4. 以下の部品をゆるめる。

- アンダブラケット部インナチューブ締付ボルト①

5. 以下の部品を取外す。

- フロントフォーク右
- フロントフォーク左

フロントフォークを左右に回しながら下へ抜く。



フロントフォークの分解

1.以下の部品を取外す。

- キャップボルト①
- スペーサ②
- ワッシャ③
- フォークスプリング④
- フォークオイル

2.以下の部品を取外す。

- ダストシール①
 - スナップリング②
- 細い⊖ドライバ等を使用して取外す。

3.以下の部品を組付ける。

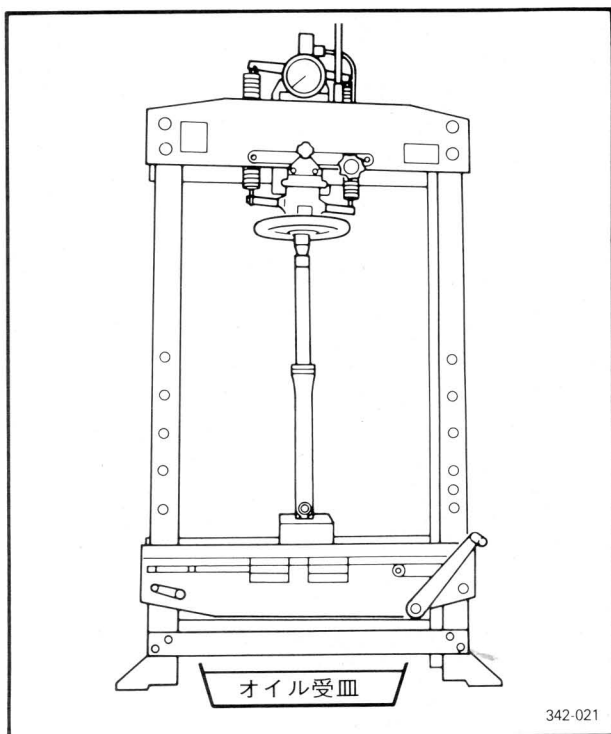
- キャップボルト
- インナチューブを一杯引き上げ、インナチューブ上端までオイルを注入して、キャップボルトを組付ける。

整備要領 フォークスプリングは、組付けないこと。

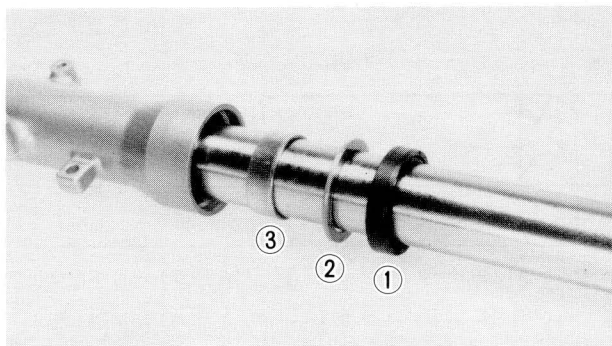
4.フロントフォークをプレスにセットし、ゆっくり加圧していくと、油圧によりオイルシールが抜ける。

注意

- キャップボルトの頭をつぶさないように気をつけること。
- オイルシール外周とアウトチューブのすき間からオイルが漏れた時点で加圧を中止すること。
- プレス下部に受皿を置いて行うこと。

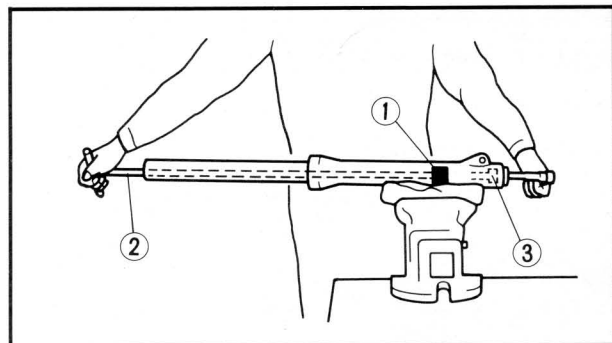


342-021



5.以下の部品を取外す。

- オイルシール①
- オイルシールワッシャ②
- スライドメタル③

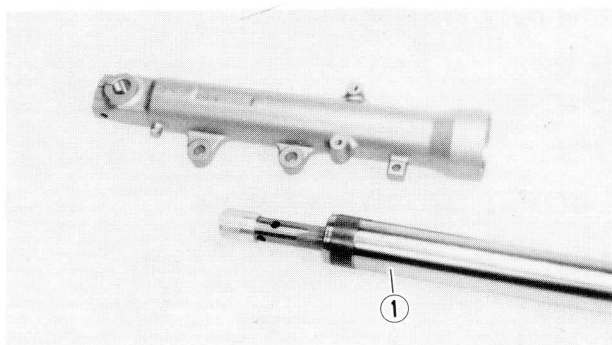


6.以下の部品を取外す。

- ヘキサゴンボルト③

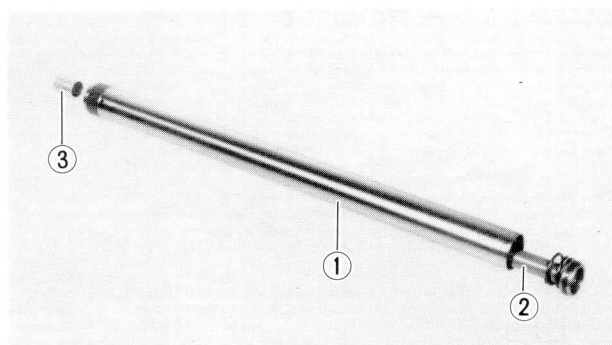
Tハンドル②とハンドルアダプタ①でシリンダCompの回り止めをして、アウタチューブ下部のヘキサゴンボルトを取外す。

	Tハンドル	90890-01326
	ハンドルアダプタ	90890-01432



7.以下の部品を取外す。

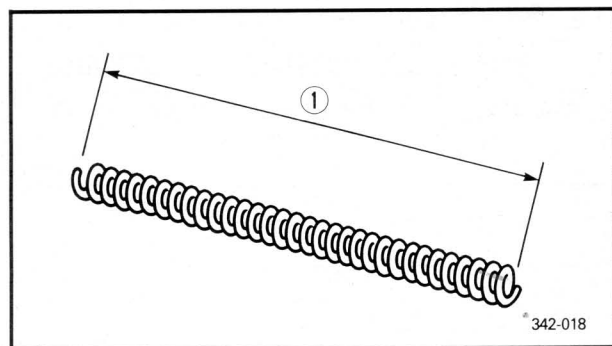
- インナチューブ①



8.以下の部品を取外す。

- インナチューブ①
- シリンダComp②
- テーパスピンドル③

インナチューブよりシリンダCompを取外す。



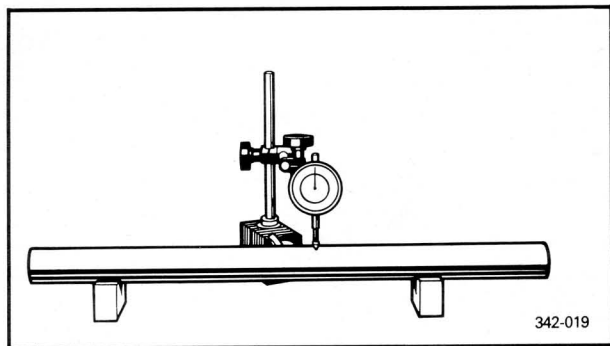
フロントフォークの点検

1.以下の点検をする。

- フロントフォークスプリング自由長①

	フロントフォークスプリング自由長	使用限度
	293.7mm	288mm

使用限度以下 → 交換



2.以下の点検をする。

- インナチューブの曲り

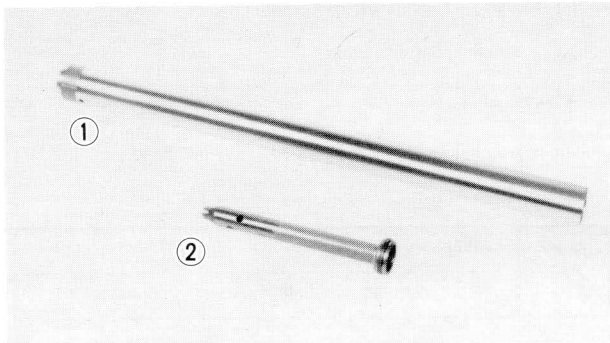


曲り使用限度

0.2mm

曲り使用限度以上 → 交換

整備要領 ダイヤルゲージ測定値数の $\frac{1}{2}$ が曲りの値であるので、数値そのまま判断しないこと。

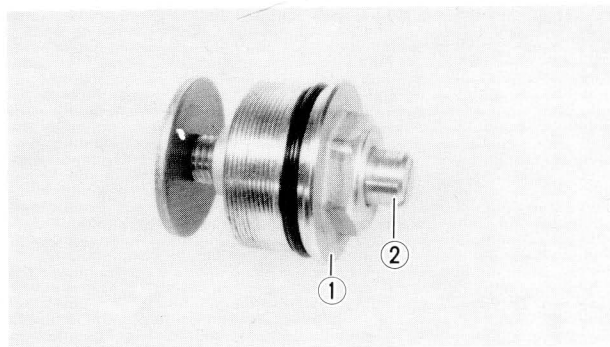


3.以下の点検をする。

- インナチューブ①
- シリンダComp②

打痕、摩耗、損傷の有無を点検する。

打痕、摩耗、損傷 → 交換

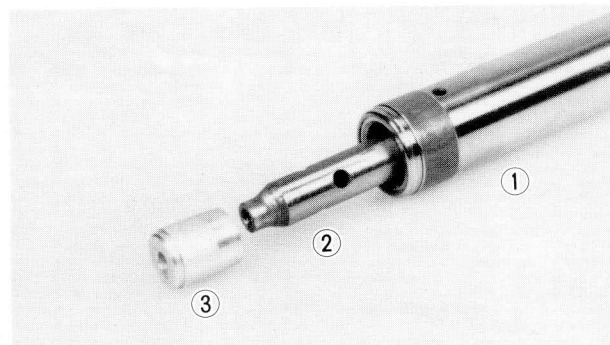


4.以下の点検をする。

- キャップボルト①
- アジャスタ②

キャップボルト部のアジャスタの作動、および損傷、摩耗の有無を点検する。

作動不良、損傷、摩耗 → 交換



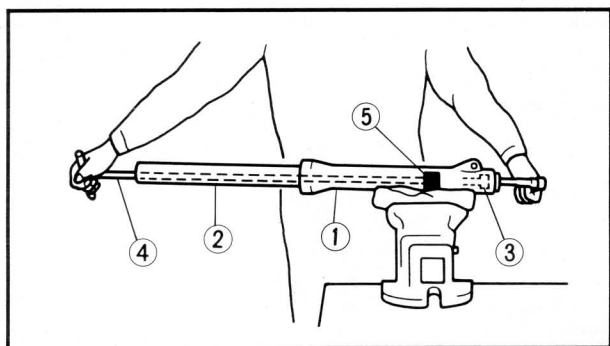
フロントフォークの組立て

1.以下の部品を組付ける。

- インナチューブ①
- シリンダComp②
- テーパスピンドル③

インナチューブにシリンダComp を組付け、テーパスピンドルをシリンダComp先端に組付ける。

注意 インナチューブを垂直に立てて、シリンダCompを上から落して組付けると損傷するので、インナチューブを斜めにして組付けること。



2.以下の部品を組付ける。

- アウタチューブ①
- インナチューブ②
- ヘキサゴンボルト③

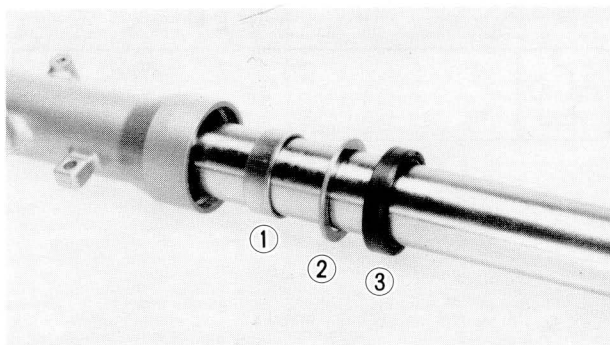
アウタチューブにインナチューブをゆっくり組付け、Tハンドル④、ホルダ⑤を使用して、ヘキサゴンボルトを規定のトルクで締付ける。



インナチューブ締付(ヘキサゴンボルト)トルク
3.0kg・m



ヘキサゴンボルト

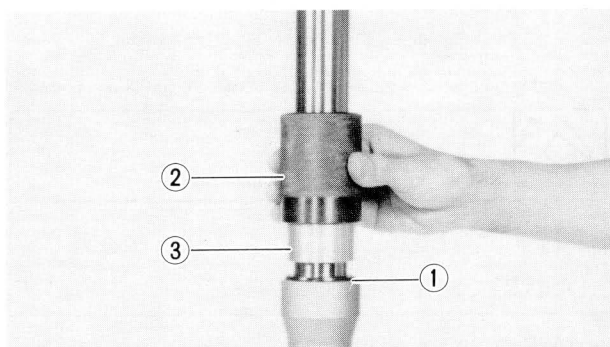


3.以下の部品を組付ける。

- スライドメタル①
- オイルシールワッシャ②
- オイルシール③



スライドメタル
オイルシール



4.以下の部品を組付ける。

- オイルシール①

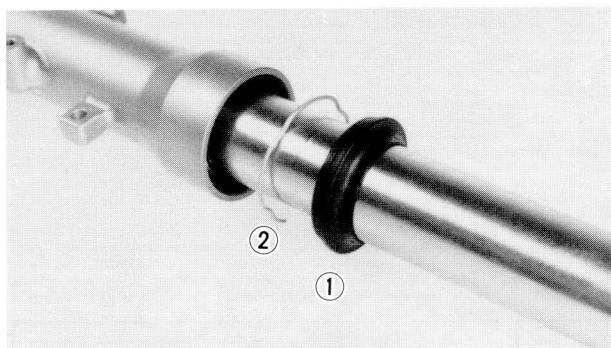
フロントフォークオイルシールドライバウエイト②、アタッチメント③を使用して、オイルシールストップリング溝が完全に見えるまで打ち込む。



フロントフォークオイルシールドライバウエイト	90890-01367
フロントフォークオイルシールドライバアタッチメント	90890-01381

整備要領

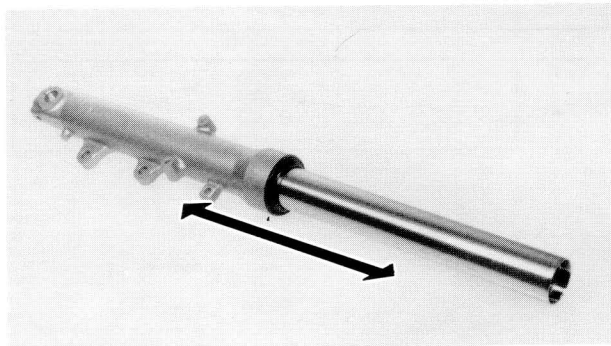
オイルシールに傷をつけないこと。



5.以下の部品を組付ける。

- スナップリング①
- ダストシール②

アウトチューブ溝に確実に組付ける。



6.以下の点検をする。

- インナチューブの摺動

スムーズに摺動しないもの→分解し再点検

7.サスペンションオイルを規定量注入する。

	オイル量	425cc.
	推奨オイル	ヤマハサスペンションオイルG5

〔参考〕

- オイルレベル

フロントフォークを最圧縮した状態にし、インナチューブ上端面よりの高さを測定する。

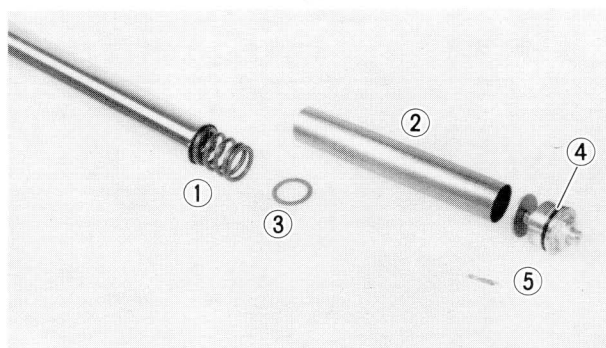
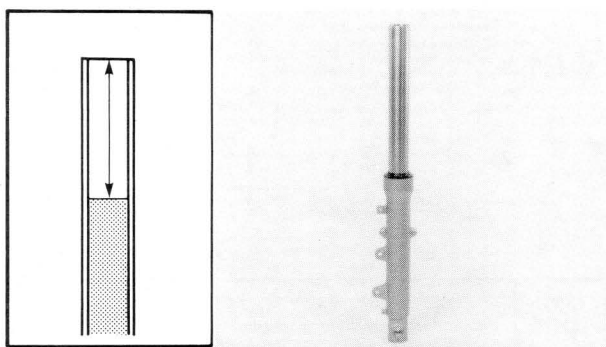
	オイルレベル
	150mm

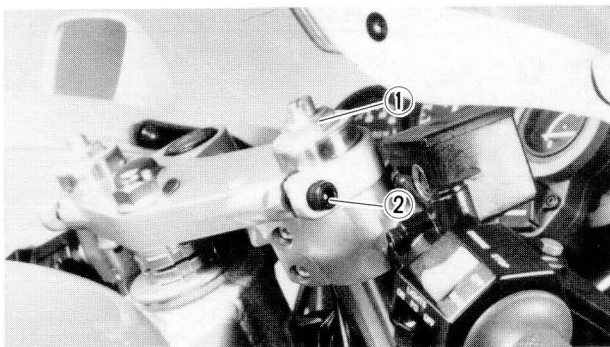
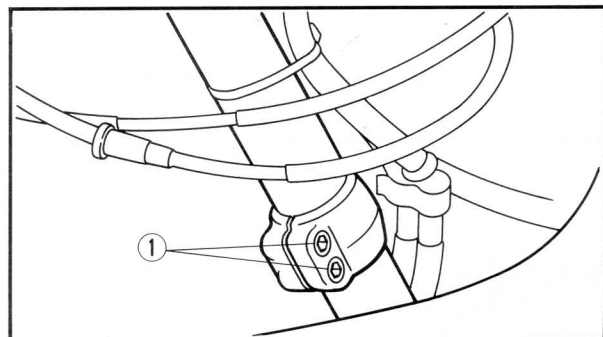
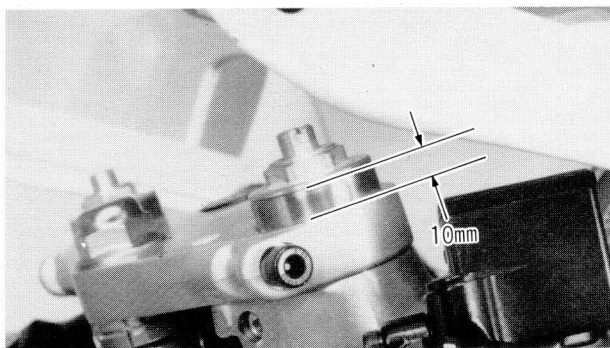
整備要領 フロントフォークスプリングを外した状態で測定する。

8.以下の部品を組付ける。

整備要領 キャップボルトは仮締付する。

- フォークスプリング①
- スペーサ②
- ワッシャ③
- Oリング④
- キャップボルト⑤





フロントフォークの組付け

1. 以下の部品を組付ける。

- フロントフォーク

インナチューブをハンドルクラウン上端部より10mm突き出した状態で、ハンドルクラウン部インナチューブ締付ボルトを仮締付けする。

整備要領 ハンドルを忘れずに組付ける。

2. 以下の部品を締付ける。

- アンダブラケット部インナチューブ締付ボルト①

	アンダブラケット部インナチューブ締付トルク	2.5kg・m
--	-----------------------	---------

3. 以下の部品を締付ける。

- キャップボルト①
- ハンドルクラウン部インナチューブ締付ボルト②

	キャップボルト締付トルク	2.3kg・m
	ハンドルクラウン部インナチューブ締付トルク	3.5kg・m

4. 以下の部品を締付ける。

- ハンドル
- フロントフェンダ

	ハンドルとインナチューブ	2.3kg・m
	インナチューブとハンドルクラウン	2.6kg・m
	フロントフェンダ	0.6kg・m

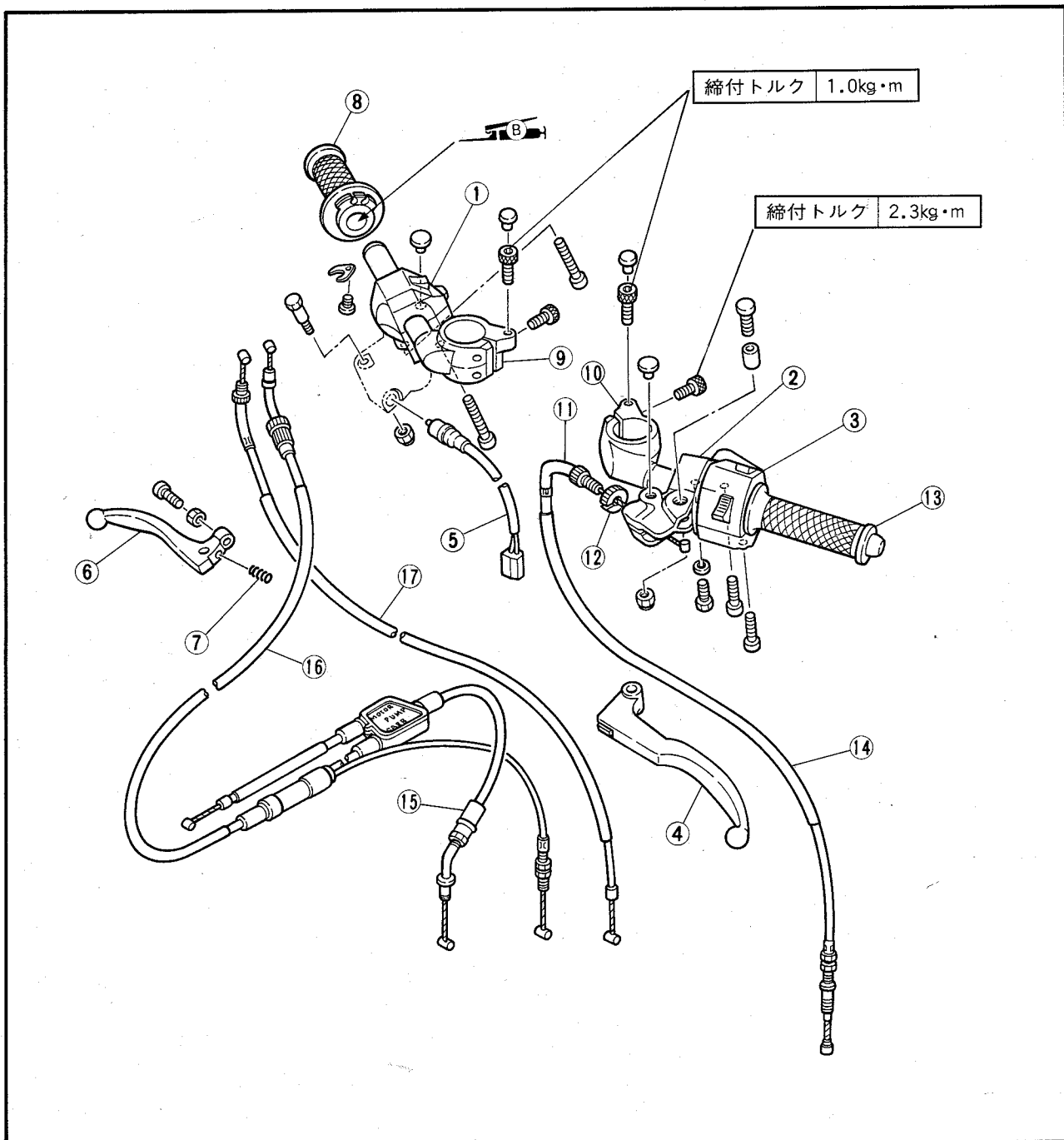
5. フロントホイールを組付ける。(P7-6参照)

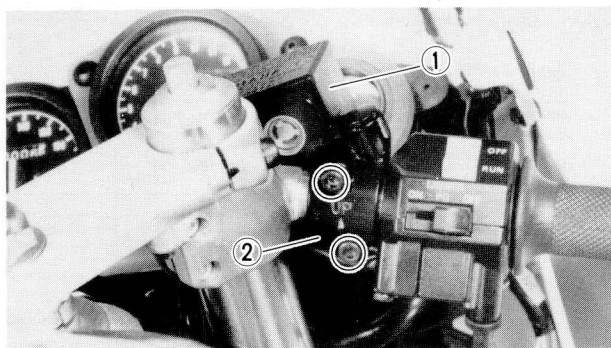


構成部品

ハンドル

- ①ハンドルスイッチ 2
- ②レバーホルダ 1
- ③ハンドルスイッチ 4
- ④レバー 1
- ⑤フロントストップスイッチ Ass'y
- ⑥レバー 2
- ⑦コンプレッションスプリング
- ⑧グリップ Ass'y
- ⑨ハンドルバー (右)
- ⑩ハンドルバー (左)
- ⑪ボルト (アジャスタ)
- ⑫ナット (ロックナット)
- ⑬グリップ
- ⑭クラッチケーブル
- ⑮ポンプケーブル Ass'y
- ⑯スロットル & ポンプケーブル Ass'y
- ⑰スロットルケーブル 2

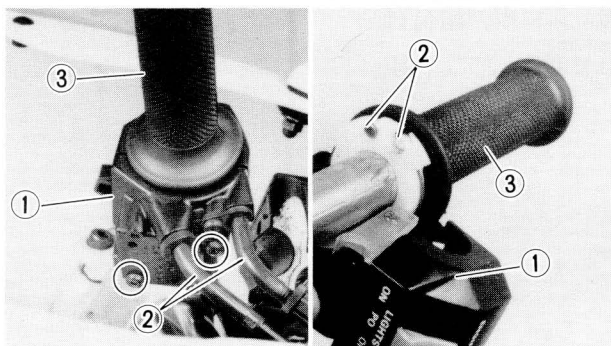




ハンドルの取外し

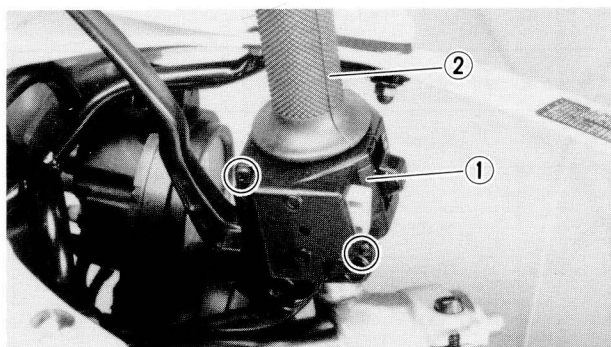
1.以下の部品を取外す。

- マスタシリンダAss'y①
- マスタシリンダブラケット②



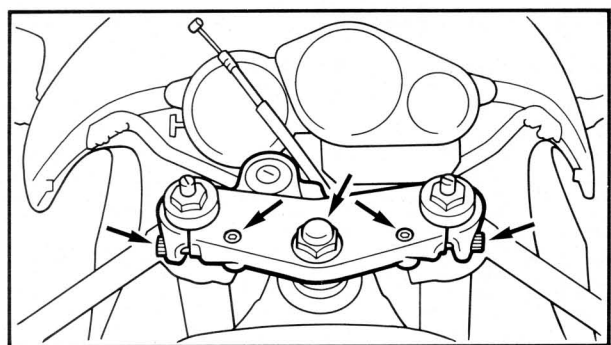
2.以下の部品を取外す。

- ハンドルスイッチ 3①
- スロットルケーブル②
- グリップAss'y③



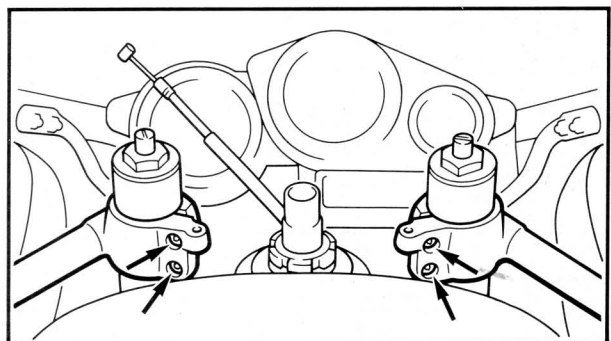
3.以下の部品を取外す。

- クラッチケーブル
- ハンドルスイッチ 4①
- グリップ②
- レバーホルダ



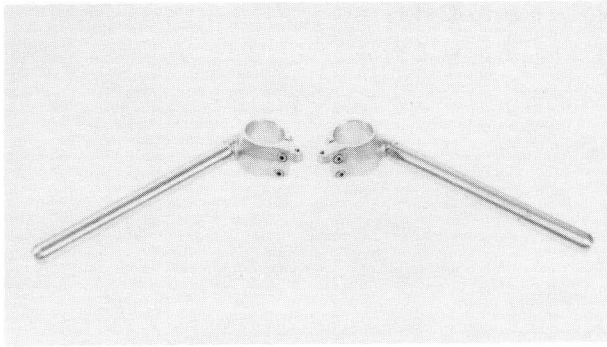
4.以下の部品を取外す。

- ハンドルクラウン



5.以下の部品を取外す。

- ハンドル

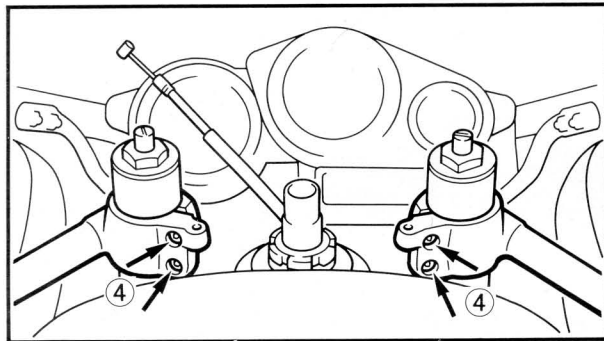


ハンドルの点検

1.以下の点検をする。

- ハンドル
 曲り、ねじれ、損傷、亀裂→交換

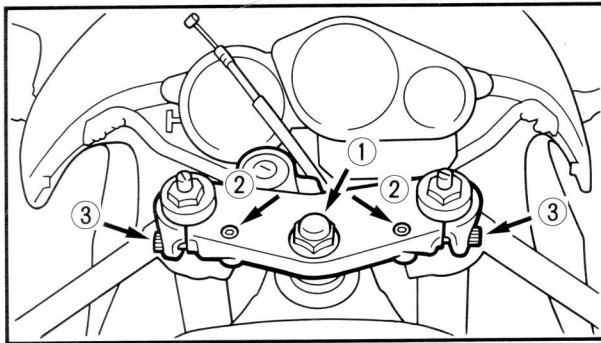
注意 転倒等で曲ったハンドルは、修正しないで新品と交換すること。



ハンドルの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- ハンドル
 インナチューブに仮締付けする。



2.以下の部品を組付ける。

整備要領 締付けは表の番号順序に締付ける。

- ハンドルクラウン

	ハンドルクラウンとステアリングシャフト①	11kg・m
	ハンドルとハンドルクラウン②	1.0kg・m
	ハンドルクラウンとインナチューブ③	2.6kg・m
	ハンドルとインナチューブ④	2.3kg・m

3.以下の部品を組付ける。

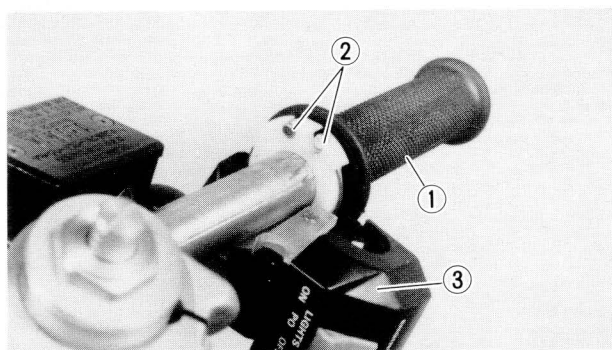
- レバーホルダ①
- グリップ
- ハンドルスイッチ 4
- クラッチケーブル

レバーホルダのスリット部をハンドルのポンチマーク②に合わせて組付ける。

4.以下の箇所にグリースを塗布する。

- スロットルグリップ内面
- スロットルケーブルタイコ部

	ヤマハグリースB
--	----------



5.以下の部品を組付ける。

- グリップAss'y①
- スロットルケーブル②
- ハンドルスイッチ③



6.以下の部品を組付ける。

- マスタシリンダAss'y①
- マスタシリンダブラケット②

マスタシリンダAss'yの端面とハンドルのポンチマーク③を合わせて組付ける。



マスタシリンダブラケット

0.9kg・m

7.以下の点検をする。

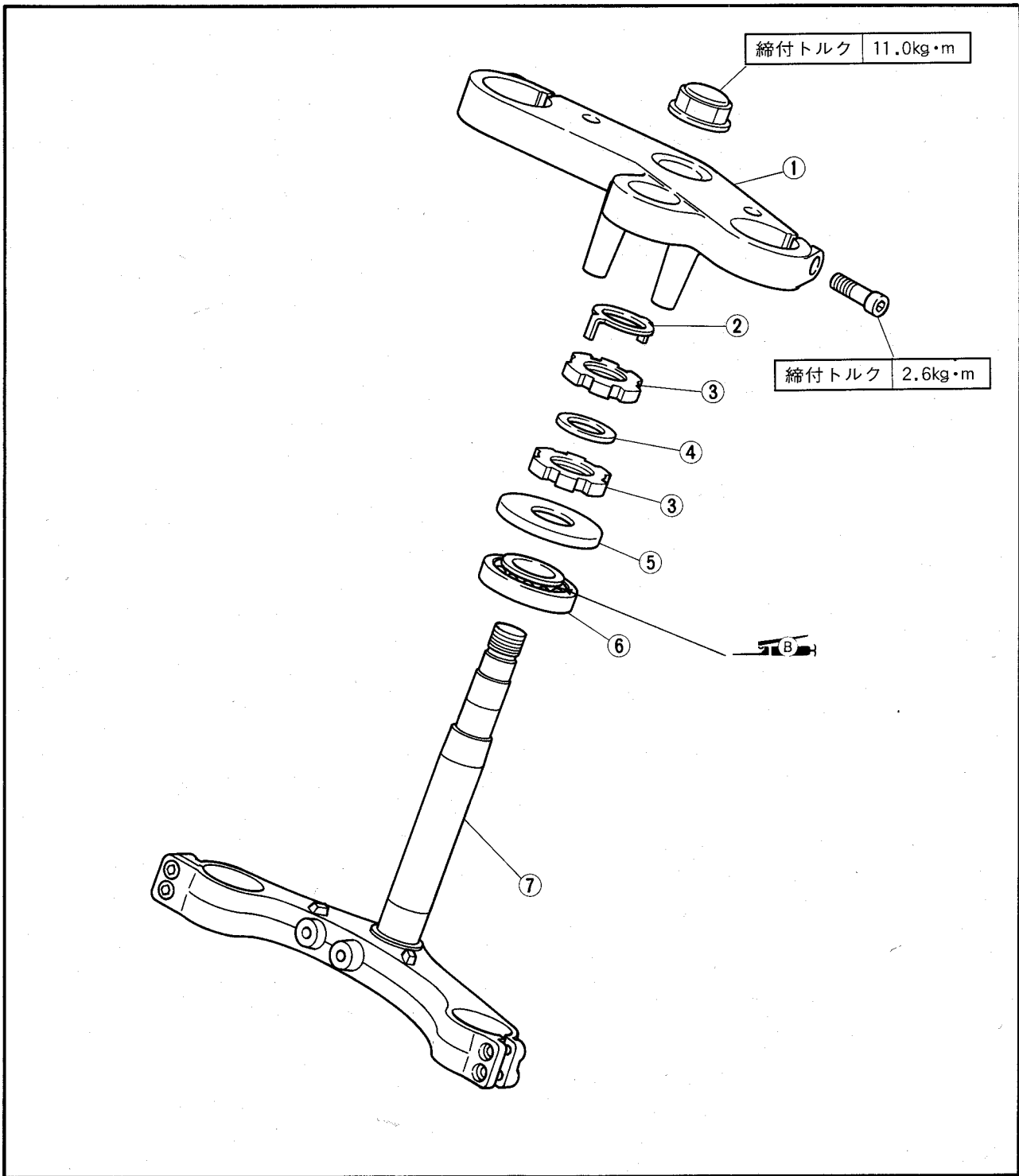
- クラッチレバーの遊び
- ブレーキレバーの遊び
- ブレーキの効き具合



構成部品

ステアリング

- ① ハンドルクラウン
- ② スペシャルワッシャ
- ③ ナット
- ④ プレートワッシャ
- ⑤ ボールレースカバー
- ⑥ ベアリング
- ⑦ アンダブラケット

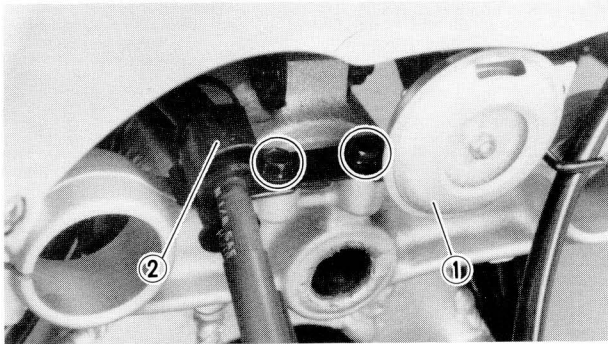




アンダブラケットの取外し

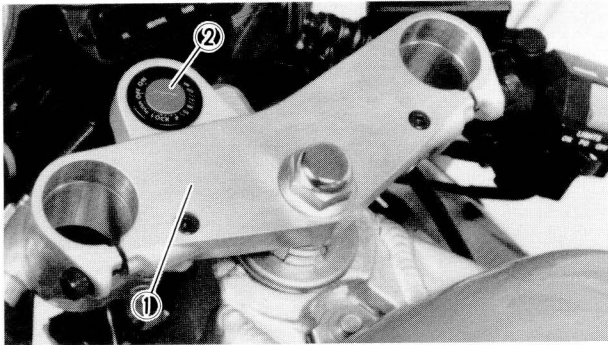
1.以下の部品を取外し

- フロントホイール
- フロントフォーク
- フュエルタンク



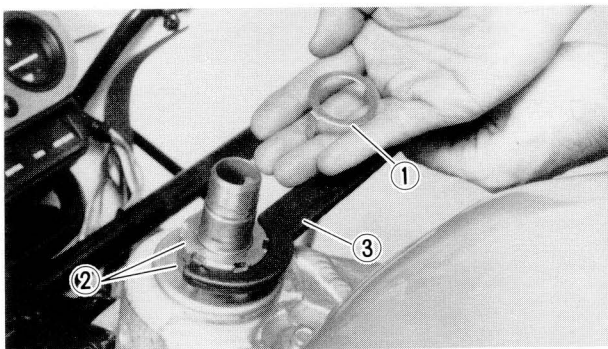
2.以下の部品を取外す。

- ホーン①
- ブレーキホースクランプ②



3.以下の部品を取外す。

- ハンドルクラウン①
- メインスイッチ②



4.以下の部品を取外す。

整備要領 ナットを外すとき、アンダブラケットを手で支えて外す。

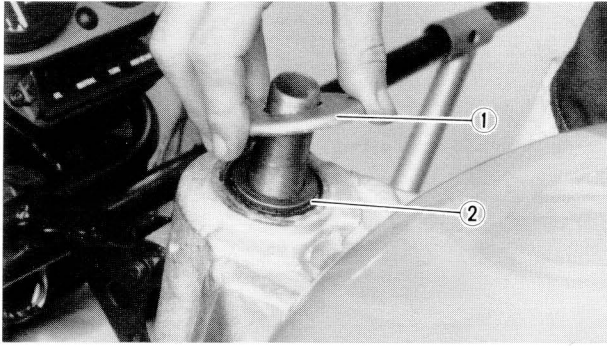
- スペシャルワッシャ①
- ナット②
- プレートワッシャ

エキゾーストリング&ステアリングナットレンチ③を使用してナットを外す。



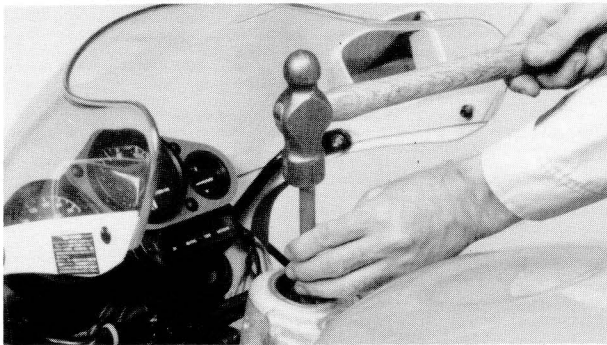
エキゾースト&ステアリングナットレンチ

90890-01268

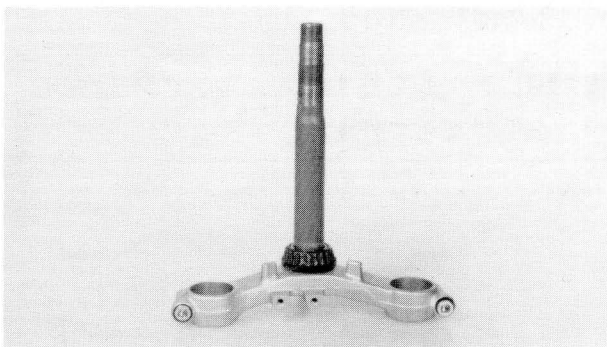


- 5.以下の部品を取外す。
- ボールレースカバー①
 - ベアリング②

- 6.以下の部品を取外す。
- アンダブラケット

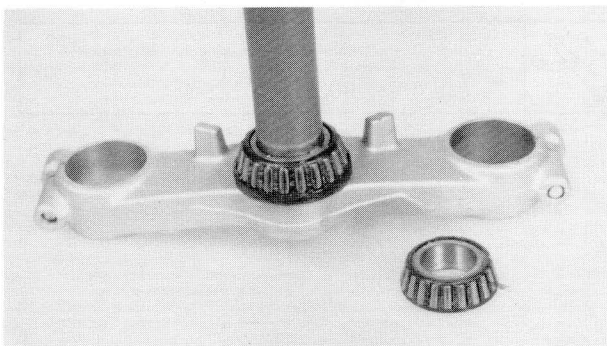


- 7.以下の部品を取外す。
- ボールレース

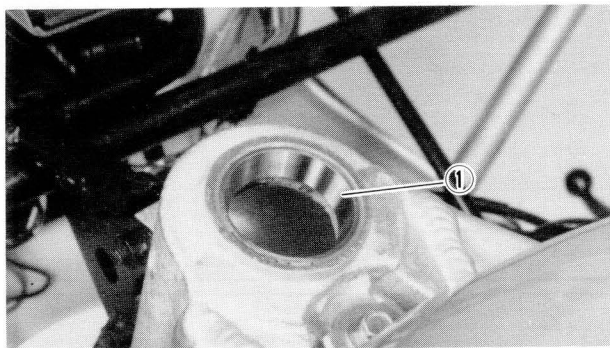


ステアリングの点検

- 1.以下の点検をする。
- アンダブラケット
損傷、亀裂→交換



- 2.以下の点検をする。
- ベアリング
損傷、異音、錆、作動不良→交換

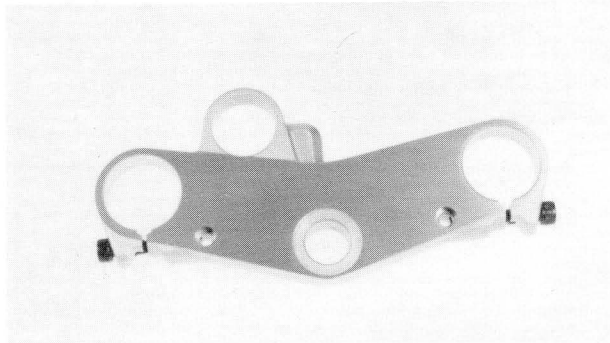


3.以下の点検をする。

- ボールレース①

ベアリング転送面の損傷、摩耗、錆、条痕の有無を点検する。

損傷、摩耗、錆、条痕 → 交換

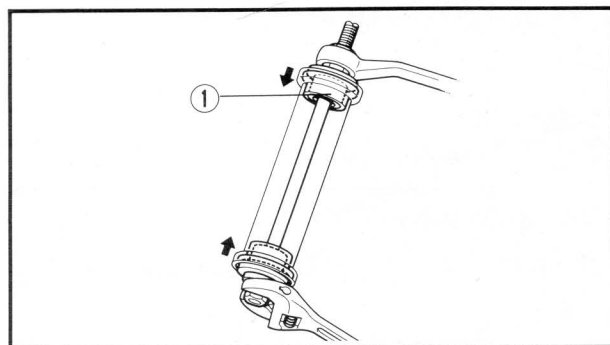


4.以下の点検をする。

- ハンドルクラウン

損傷、亀裂の有無を点検する。

損傷、亀裂 → 交換

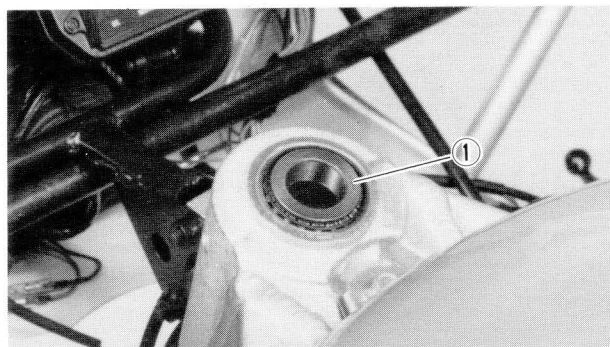


アンダブラケットの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- ボールレース

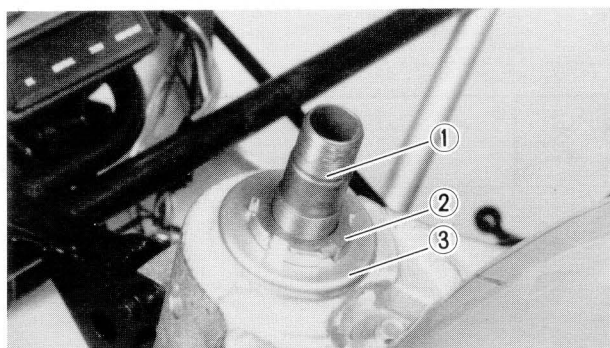
ボールレース組付工具①を使用して組付ける。
(ヤマハ推奨品)



2.以下の部品を組付ける。

整備要領 ボールレース、ベアリングにグリースを塗布し、組付ける。

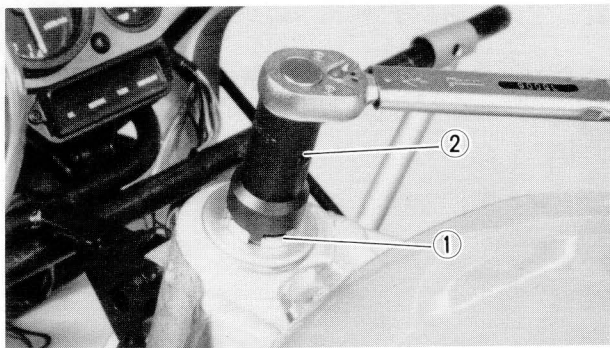
- ベアリング①



3.以下の部品を組付ける。

- アンダブラケット①
- ボールレースカバー 2②
- ナット③

アンダブラケットベアリング部にグリースを塗布し、アンダブラケット、ボールレースカバーを組付け、ナットを仮締付けする。



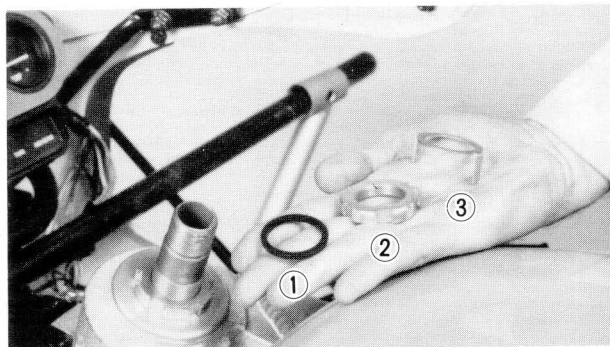
4.以下の部品を締付ける。

- ナット①
ステアリングナットホルダ②を使用して締付ける。

	ナット締付トルク 3.7kg・m
	ステアリングナットホルダ 90890-01385

5.以下の点検をする。

- ナットを約 $\frac{1}{2}$ 回転ゆるめ、アンダブラケットにがたがなく、しかも重くなくスムーズに動くか点検する。
重く、スムーズに動かないとき→ナットを約 $\frac{1}{8}$ 回転ゆるめて再調整する。



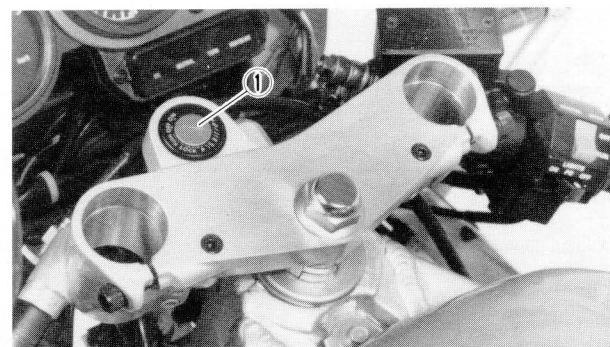
6.以下の部品を組付ける。

- ワッシャ①
- リングナット 2②
- スペシャルワッシャ③

整備要領 リングナット1、2の溝が一致しないときは、リングナット2を締め込み一致させます。

7.以下の部品を組付ける。

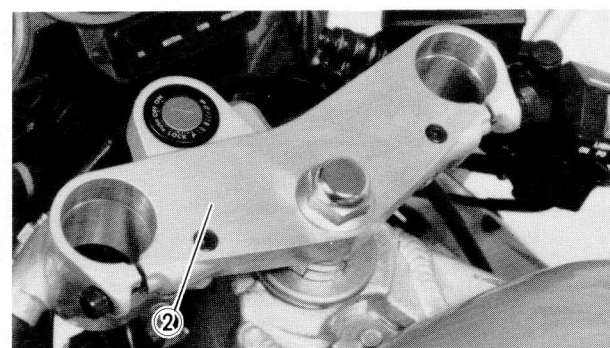
- メインスイッチ①
ハンドルクラウンに組付ける。



8.以下の部品を組付ける。

- ハンドルクラウン②

	ハンドルクラウン締付トルク 11.0kg・m
--	---------------------------





9. 以下の部品を組付ける。

- ホーン
- ブレーキホースクランプ

10. 以下の部品を組付ける。

- フュエルタンク
- フロントフォーク
- フロントホイール



構成部品

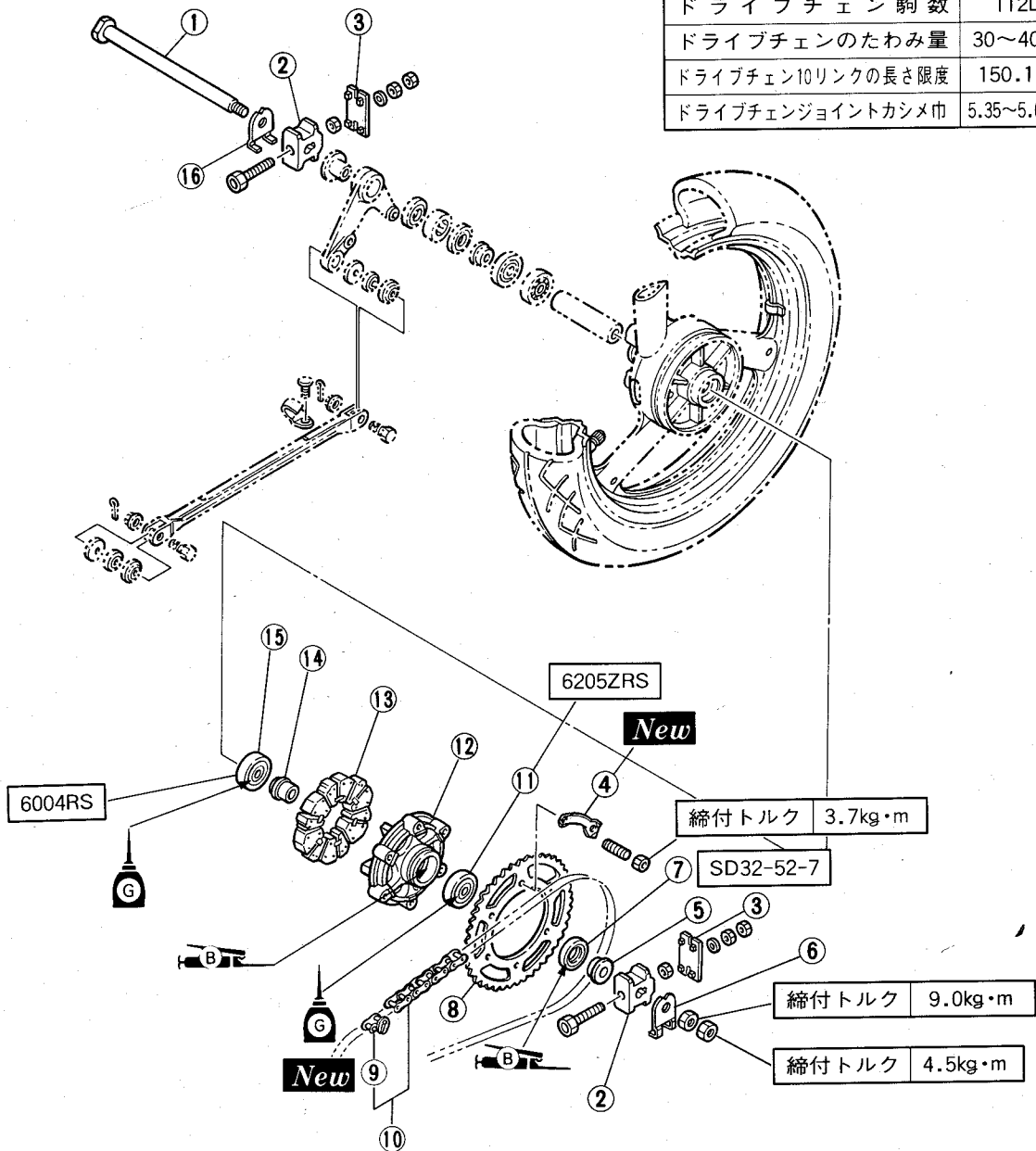
ドライブチェーン

- ①ホイールアクスル
- ②チェンプラ-1
- ③エンド1
- ④ワッシャ
- ⑤カラー
- ⑥クローワッシャ
- ⑦オイルシール
- ⑧ドリブンスプロケット
- ⑨チェンジョイント
- ⑩チェン
- ⑪ベアリング
- ⑫クラッチハブ
- ⑬ダンパ
- ⑭カラー
- ⑮ベアリング
- ⑯クローワッシャ

New マーク部品番号

④	1KT-25412-00
⑨	94681-38031

ドライブチェーンサイズ	DID520V2
ドライブチェーン 駒数	112L
ドライブチェーンのたわみ量	30~40mm
ドライブチェーン10リンクの長さ限度	150.1mm
ドライブチェーンジョイントカシメ巾	5.35~5.60mm



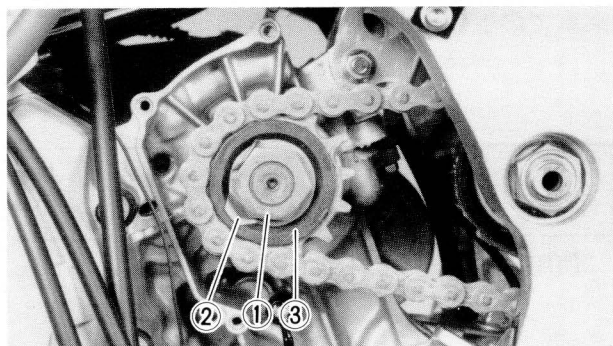
7



ドライブチェーン、ドリブンスプロケットの取外し

1.以下の部品を取外す。

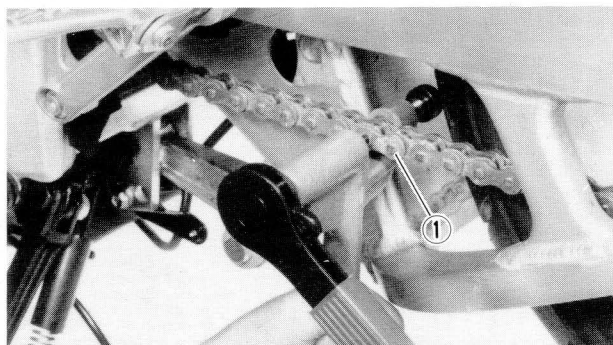
- シフトアーム
- チェンカバー 1



2.以下の部品を取外す。

- ナット①
- ロックワッシャ②
- ドライブスプロケット③

ロックワッシャの曲げを起こして、ナットを取外す。



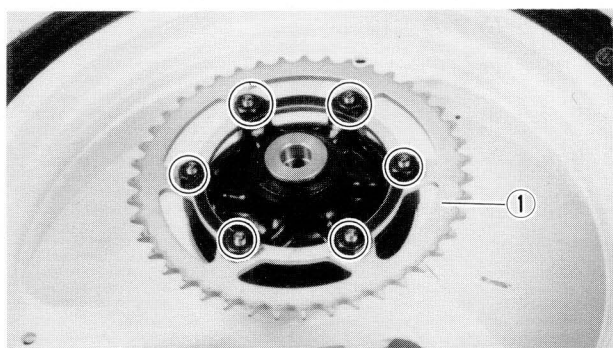
3.以下の部品を取外す。

- ドライブチェーン①
- ドライブチェーンジョイントを切り離す。

4.フレーム下部にジャッキまたは台を置く。

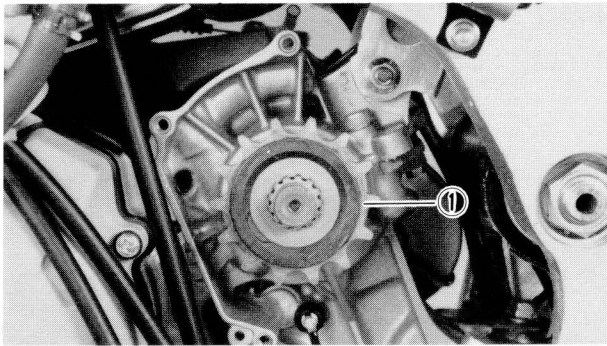
5.以下の部品を取外す。

- リヤホイール (P7-8参照)



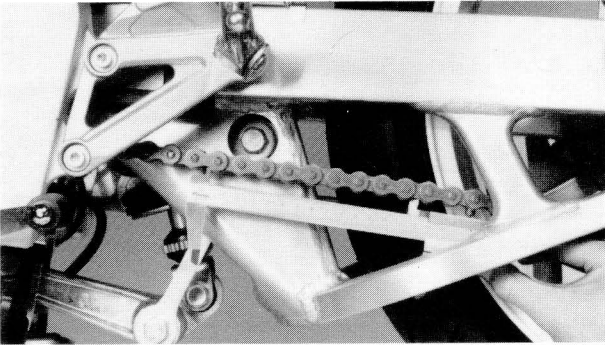
6.以下の部品を取外す。

- ドリブンスプロケット①



7.以下の部品を取外す。

- ドライブsproケット①



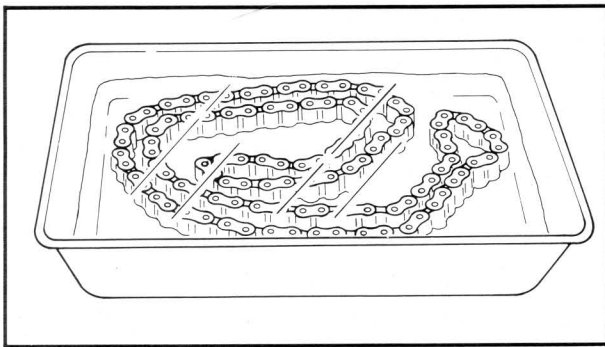
実車でのドライブチェーンの点検

1.以下の点検をする。

- ドライブチェーン10リンクの長さ

	ドライブチェーン10リンクの長さ使用限度 150.1mm
--	---------------------------------

使用限度以上 → ドリブ、ドライブsproケット、ドライブチェーン3点セット交換

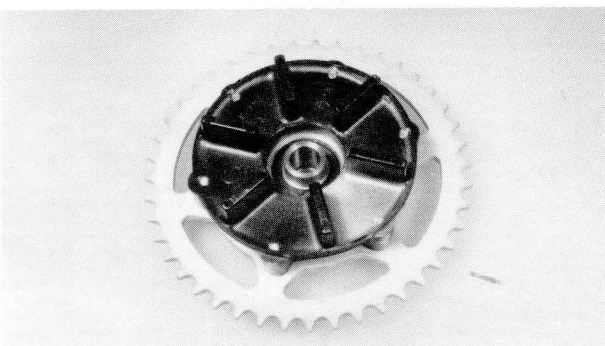


ドライブチェーンの清掃

- 洗油または灯油で洗浄する。

洗浄後 PJ1またはSAE30～50のモータオイルを十分に給油する。

注 意
<ul style="list-style-type: none"> ● 蒸気、ガソリン、シンナー、ベンジン等揮発性のもので洗浄しないこと。 ● 一般市販のスプレータイプの潤滑油は使用しないこと。

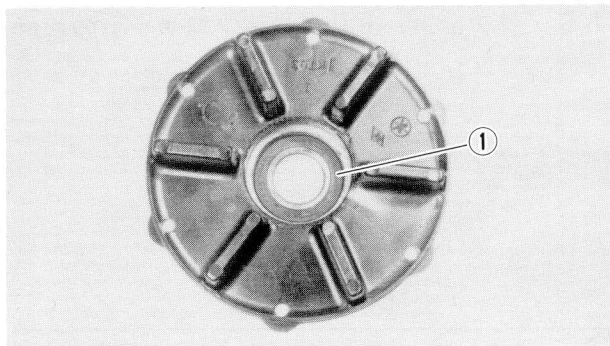


クラッチハブの点検

1.以下の点検をする。

- クラッチハブ

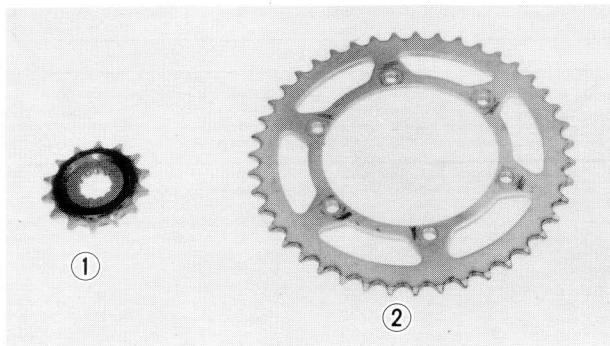
凸部の摩耗、損傷、亀裂の有無を点検する。
摩耗、損傷、亀裂 → 交換



2.以下の点検をする。

- ベアリング①

ベアリングのがた、異音の有無を点検する。
がた、異音→交換



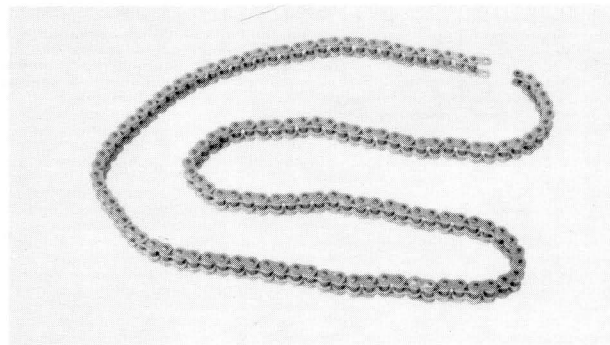
ドリブス、ドライブsprocketの点検

1.以下の点検をする。

- ドライブsprocket①
- ドリブsprocket②

摩耗、損傷の有無を点検する。

摩耗、損傷→ドライブチェーンとセットで交換



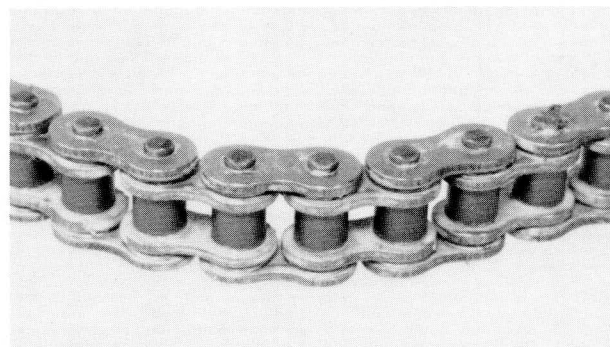
ドライブチェーンの点検

1.以下の点検をする。

- ドライブチェーン

シールリングの脱落、ローラの損傷、ピンの摩耗、がたの有無を点検する。

脱落、損傷、摩耗→ドライブチェーン、ドリブsprocket、ドライブsprocketの3点セットで交換



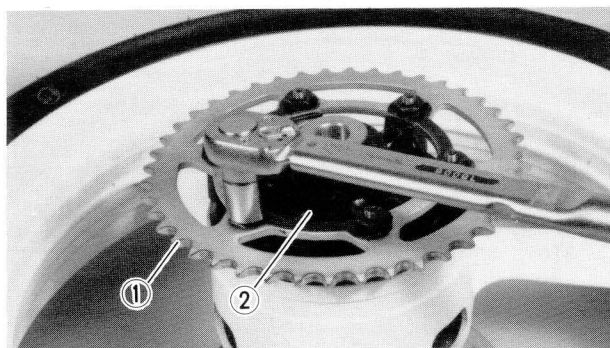
2.以下の点検をする。

- ドライブチェーン

固着の有無を点検する。

固着のあるもの→水または中性洗剤で洗浄し
乾燥後PJ1またはSAE30～50のモータオイルを給油し、
再点検する。

給油しても直らない→交換



ドライブチェーン、ドリブンスプロケットの組付け

1.以下の部品を組付ける。

- ドリブンスプロケット①
- クラッチハブ②

リヤホイールとの嵌合部にグリースを塗布してクラッチハブを組付ける。

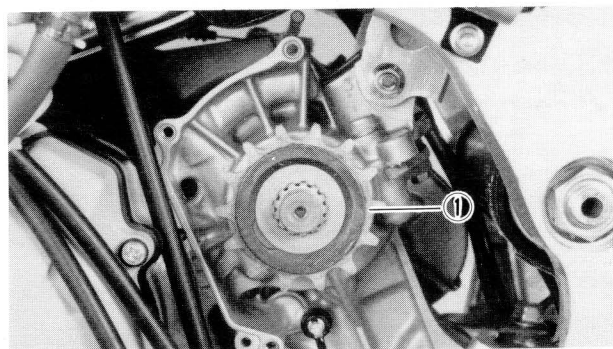


ヤマハグリースB



ドリブンスプロケット締付トルク

3.7kg・m



2.以下の部品を組付ける。

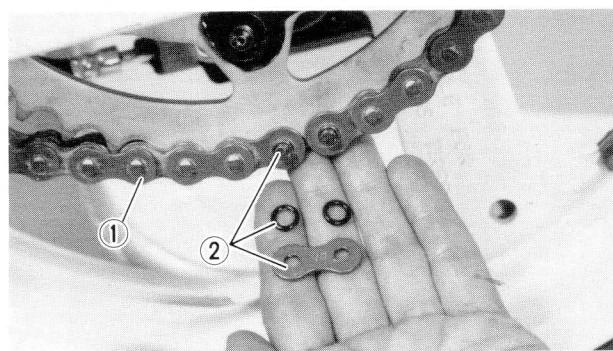
- ドライブスプロケット①

3.以下の部品を組付ける。

- リヤホイール

リヤホイール組付後、スタンドを取り除く。

7



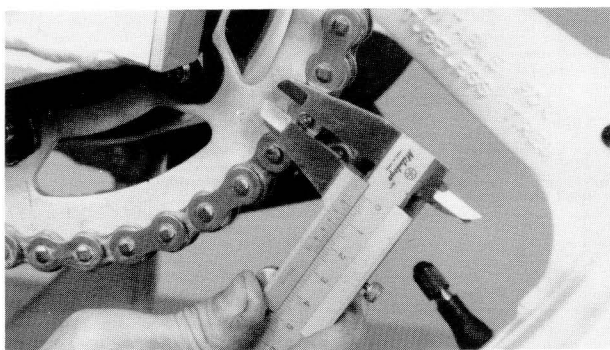
4.以下の部品を組付ける。

- ドライブチェーン①
- チェンジョイントセット②

ジョイントを確実にカシメること。



チェンジョイントセット

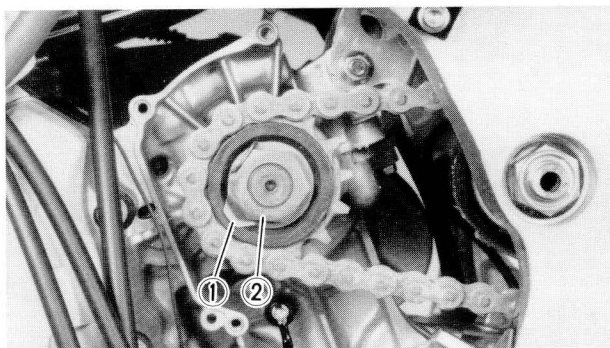


5.以下の点検をする。

- ジョイントのカシメ状態
ノギスまたはゲージを使用して点検

	カシメ巾規定値
	5.35~5.60mm

規定値以外→再組付、カシメ



6.以下の部品を組付ける。

- ロックワッシャ①
 - ナット②
- リヤブレーキを効かせてボルトを締付ける。

New	ロックワッシャ
------------	---------

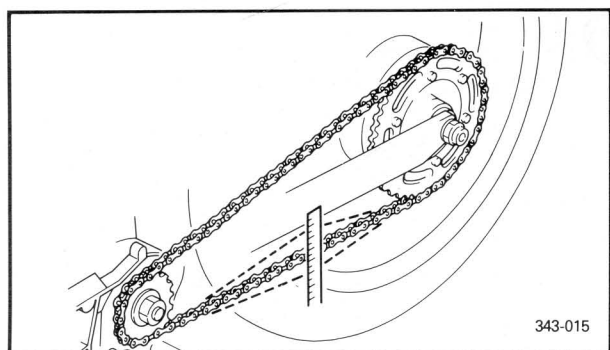
	締付トルク(ドライブスプロケット)
	9.0kg・m

7.以下の調整をする。

- ドライブチェーンの遊び量

	ドライブチェーンの遊び量
	30~40mm

注意 左右の刻み目盛りを同じ位置に合わせる。



8.以下の部品を確実に締付ける。

- リヤホイールアクスルナット(1)
- リヤホイールアクスルロックナット(2)

	①	9.0kg・m
	②	4.5kg・m

9.以下の部品を確実に締付ける。

- チェンプラーロックナット

10.以下の部品を組付ける。

- クランクケースカバー 1
- シフトアーム

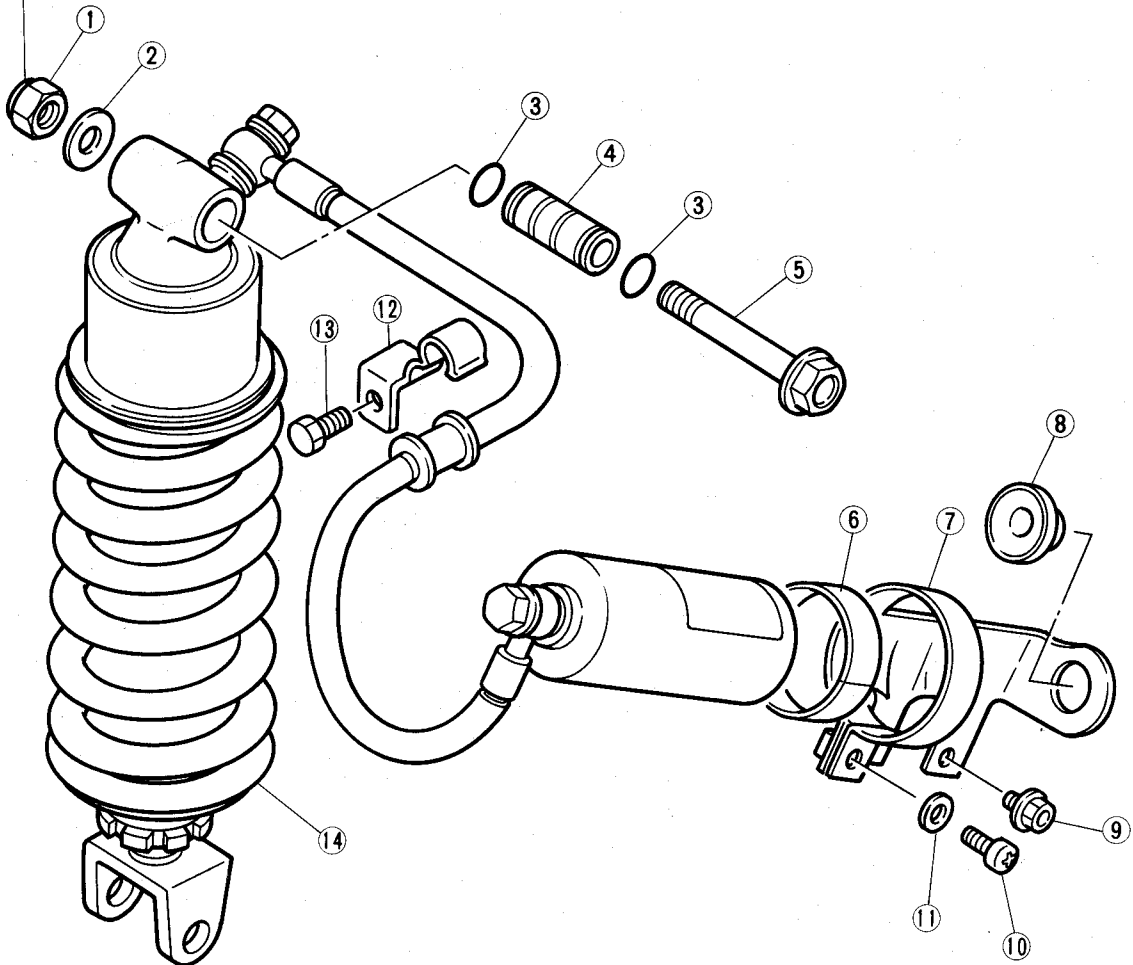


構成部品

リヤクッション

- | | | |
|-----------------|------------|----------------|
| ①Uナット | ⑥サブタンクダンパ | ⑪プレートワッシャ |
| ②プレートワッシャ | ⑦サブタンクホルダ | ⑫ホルダ |
| ③Oリング | ⑧グロメット | ⑬ボルト |
| ④カラー | ⑨ボルト | ⑭リヤクッション Ass'y |
| ⑤ワッシャベースドヘッドボルト | ⑩パンヘッドスクリュ | |

締付トルク 4.0kg・m



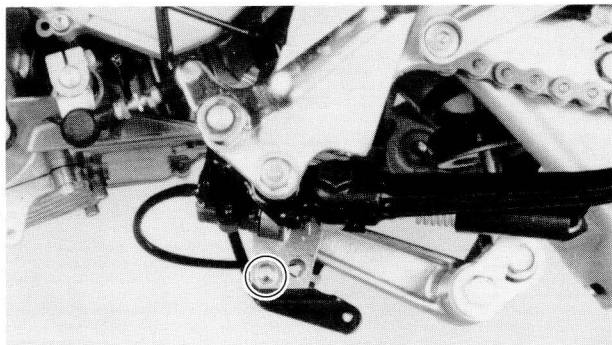
7



リヤクッションの取外し

1.以下の部品を取外す。

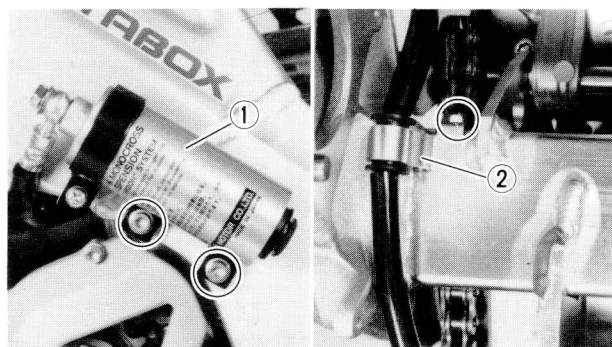
- フロントアンダボディ
- バッテリーボックス
- マフラ左(P4-6参照)



2.以下の部品を取外す。

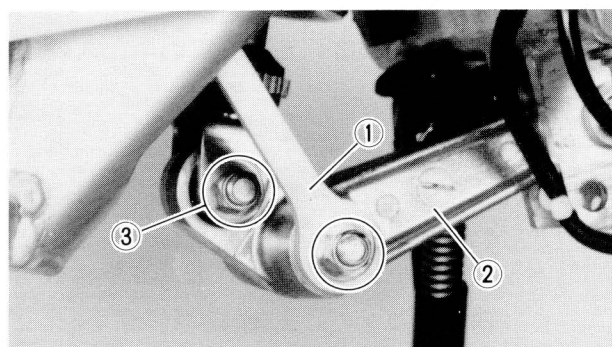
- ステア

3.スタンド等を使用してリヤアームを支える。



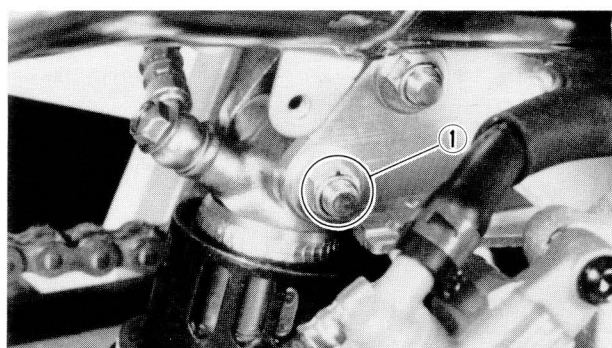
4.以下の部品を取外す。

- サブタンク①
- クランプホース②



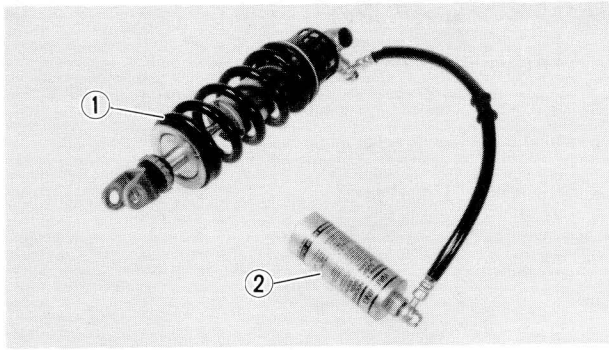
5.以下の部品を取外す。

- アーム①
- リレーアーム②
- リヤクッション下部取付ボルト、ナット③



6.以下の部品を取外す。

- リヤクッション上部取付ボルト、ナット①
 - リヤクッション
- リヤクッションを下方へ取外す。



リヤクッションの点検

1.以下の点検をする。

- リヤクッション①

リヤクッションのオイル漏れ、打痕、損傷、スプリングの亀裂、へたりの有無を点検する。

オイル漏れ、打痕、損傷
亀裂、へたり → 交換

2.以下の点検をする。

- サブタンク②

へこみ、損傷、変形の有無を点検する。

へこみ、損傷、変形 → 交換

●取扱上の注意

リヤクッション取扱上の注意

このクッションは高圧チッ素ガスを封入したド・カルボンタイプを使用しています。取り扱い上危険防止の為、下記事項を守ること。

1.ダンパは分解しないこと。

ダンパ内の高圧チッ素ガスによってオイルが吹き出します。

2.高温のところに置いたり、火の中に入れてないこと。

チッ素ガス膨張によるリヤクッション破裂の恐れがあります。

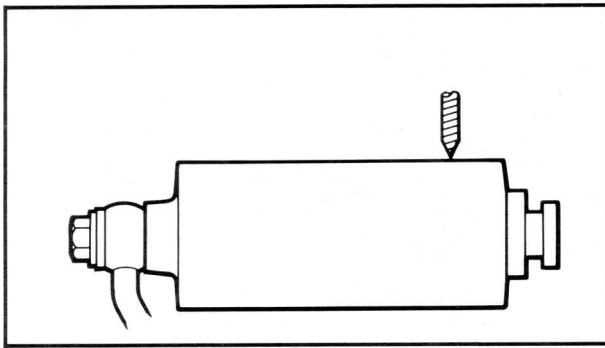
3.ダンパに損傷を与えないこと。

ダンパの損傷は減衰性能の劣化や作動不良を招く原因となります。

4.ピストンロッドの摺動面に損傷、打痕を与えないこと。

損傷、打痕を与えるとオイル洩れの原因となります。

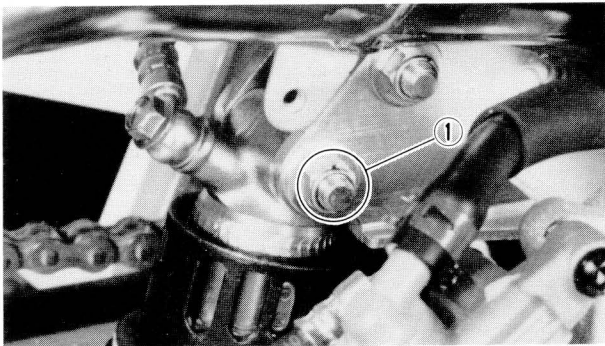
5.廃却の際は必ずガス抜きを行なうこと。



• 廃却要領(ガス抜き)

ガス抜きは危険ですので注意して行なうこと。
防護眼鏡をかけてサブタンクの図の位置に3mmのドリルで穴をあけガスを抜く。

危険 ドリルで穴貫通時、ガスと同時に切粉が飛び散る場合があるので注意すること。



リヤクッションの組付け

1.以下の部品を組付ける。

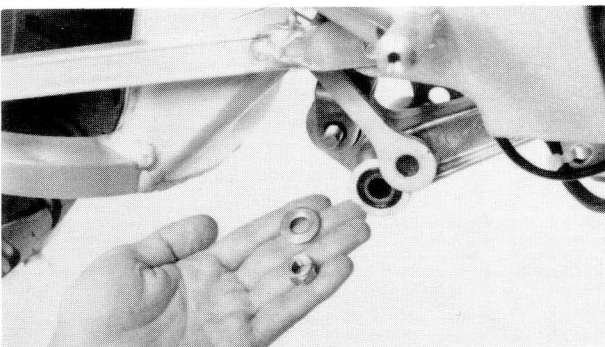
- リヤクッション上端部取付ボルト①

ボルトを左側より組付け規定のトルクで締付ける。



リヤクッション上端部締付トルク

4.0kg・m



2.以下の部品を組付ける。

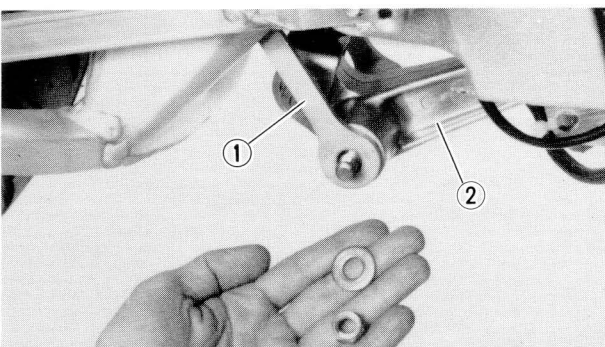
- リヤクッション下部

ボルトを左側より組付け規定のトルクで締付ける。



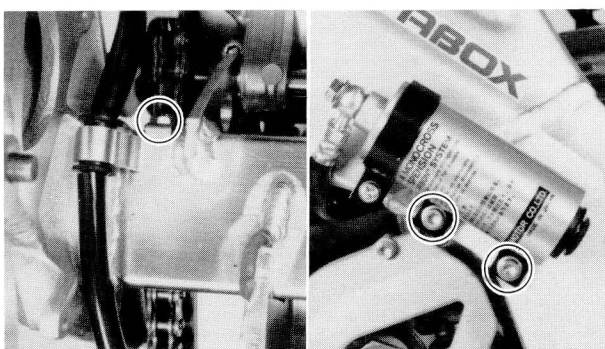
リヤクッション下部締付トルク

4.0kg・m



3.以下の部品を組付ける。

- アーム1①
- リレーアーム②



4.以下の部品を組付ける。

- サブタンク



5. エンジン下部のジャッキまたは台を取除く。

6. 以下の部品を組付ける。

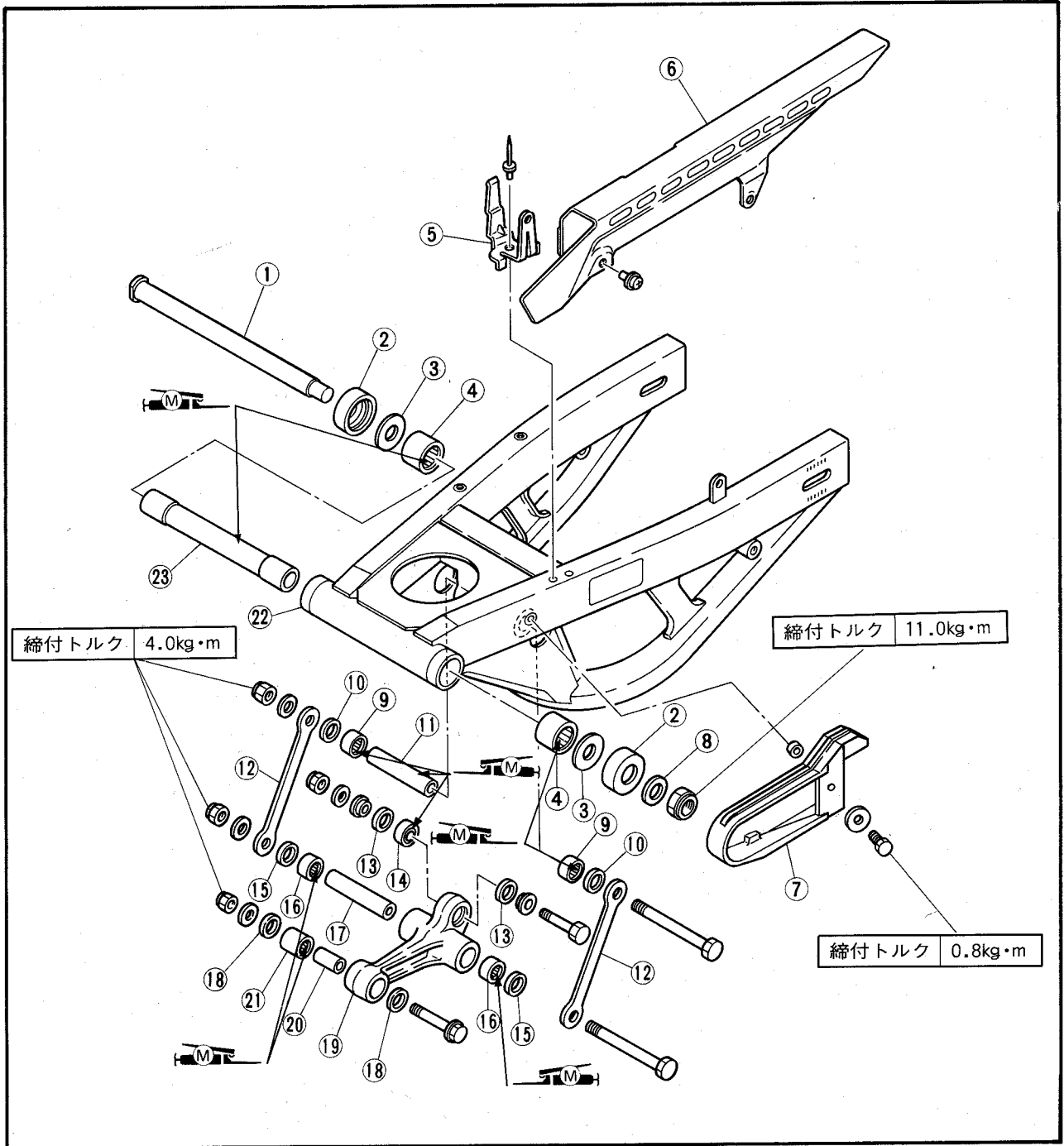
- ステア
- マフラ左
- バッテリーボックス
- フロントアンダボディ



構成部品

リヤアーム

- | | | |
|-------------|---------|--------------|
| ①ピボットシャフト | ⑨ベアリング | ⑬カラー |
| ②スラストカバー 1 | ⑩オイルシール | ⑭オイルシール |
| ③シム | ⑪カラー | ⑮リレーアーム |
| ④ベアリング | ⑫アーム 1 | ⑯カラー |
| ⑤チェーンケースステー | ⑬オイルシール | ⑰ベアリング |
| ⑥チェーンケース | ⑭ベアリング | ⑱リヤアーム Comp. |
| ⑦ガードシール | ⑮オイルシール | ⑲ブッシュ |
| ⑧プレートワッシャ | ⑯ベアリング | |

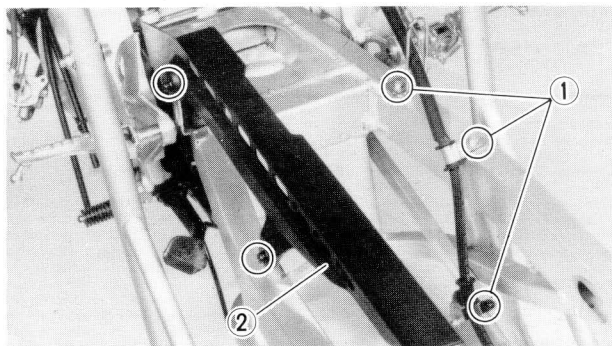


7

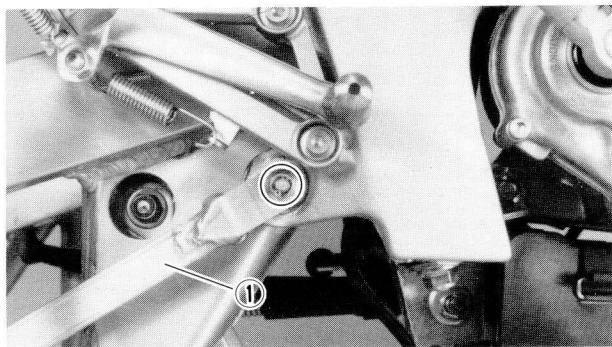


リヤアームの取外し

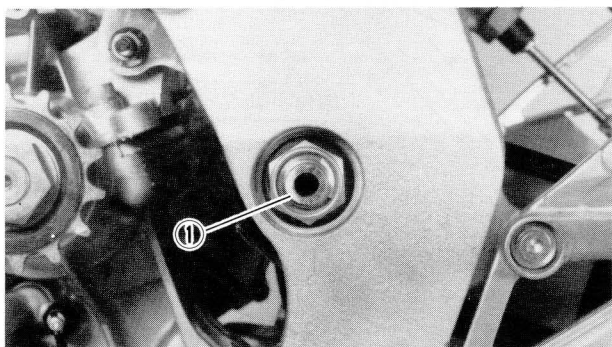
1. エンジン下部にジャッキまたは台を置く。
2. 以下の部品を取外す。
 - リヤホイール (P7-8参照)
 - リヤクッション (P7-52参照)
 - ドライブチェン



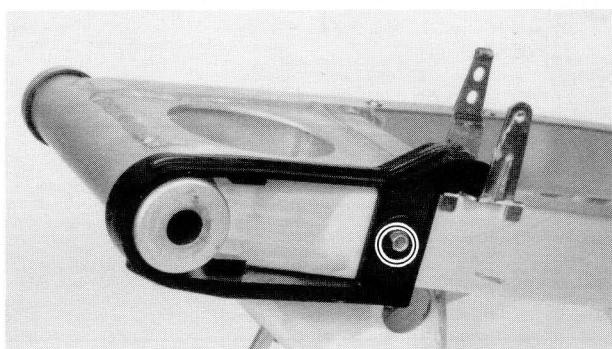
3. 以下の部品を取外す。
 - ブレーキホースホルダ①
 - チェンケース②



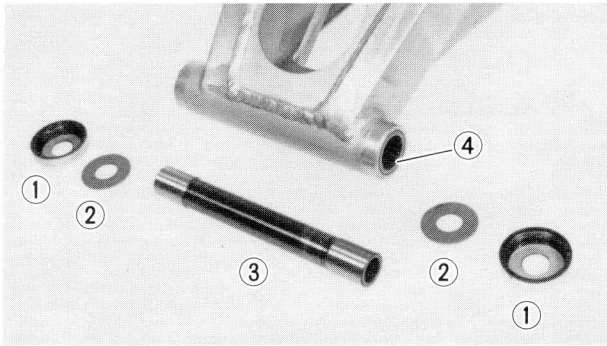
4. 以下の部品を取外す。
 - テンションロッド①



5. 以下の部品を取外す。
 - ピボットシャフト①
 - リヤアーム
 ピボットシャフトを取外して、リヤアームを取外す。

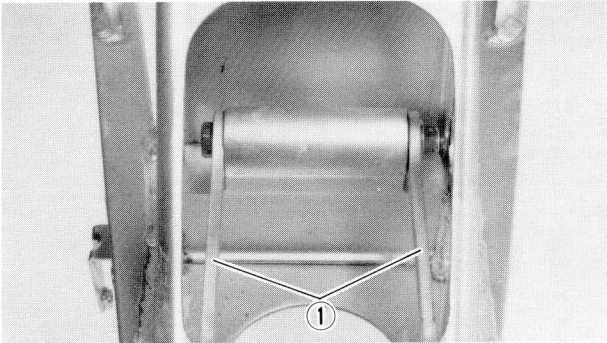


6. 以下の部品を取外す。
 - ガードシール



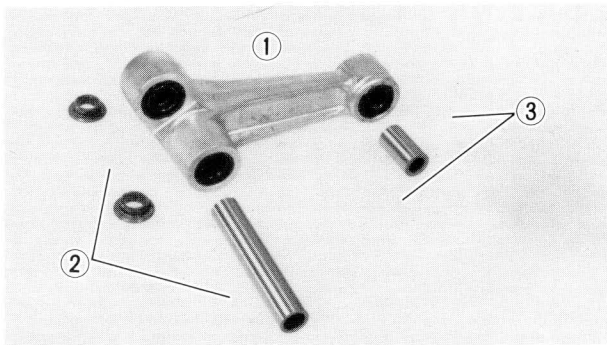
7.以下の部品を取外す。

- カバー①
- プレートワッシャ②
- ブッシュ③
- ベアリング④



8.以下の部品を取外す。

- アーム 1 ①

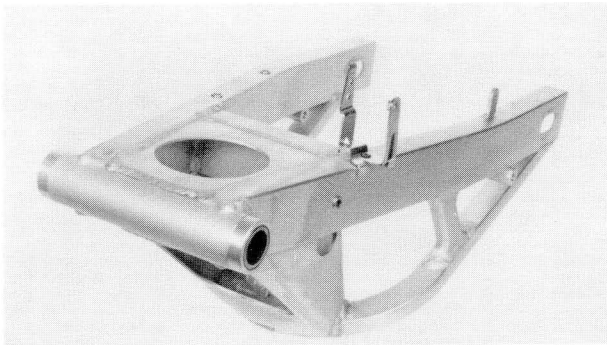


9.以下の部品を取外す。

- サイドスタンド
- リレーアーム

10.以下の部品を取外す。

- リレーアーム①
- カラー②
- プレートワッシャ③



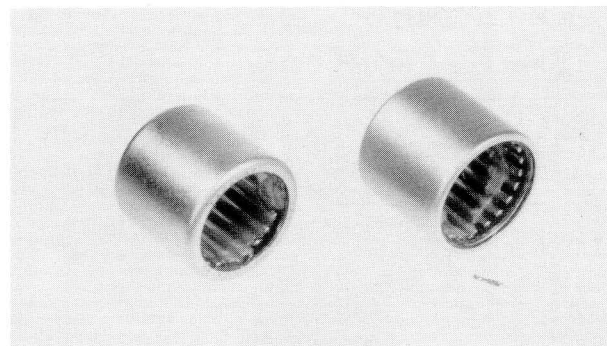
リヤアームの点検

1.以下の部品を取外す。

- リヤアーム

リヤアームの損傷、亀裂の有無を点検する。

損傷、亀裂→交換

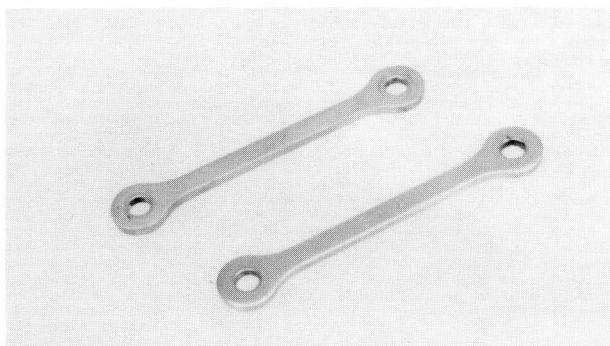


2.以下の点検をする。

- ベアリング

ベアリングのがた、異音、損傷の有無を点検する。

がた、異音、損傷→交換



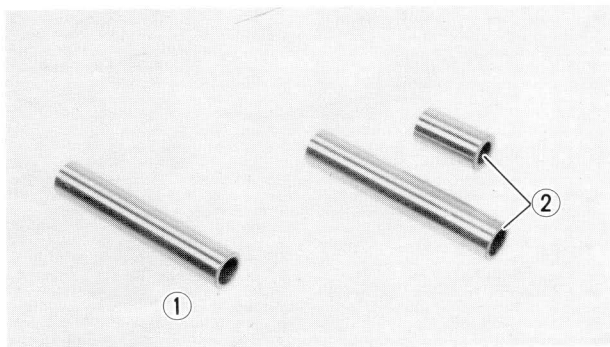
3.以下の点検をする。

- アーム 1
 損傷、亀裂の有無を点検する。
 損傷、亀裂→交換



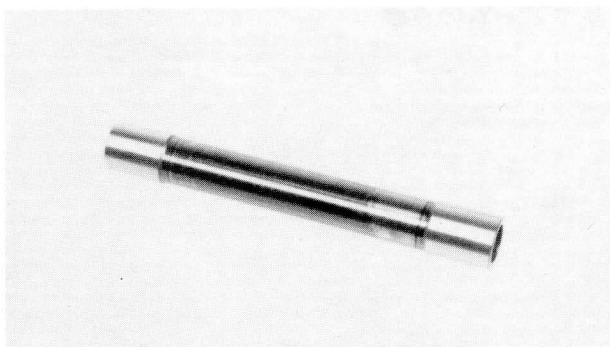
4.以下の点検をする。

- リレーアーム
 損傷、亀裂の有無を点検する。
 損傷、亀裂→交換



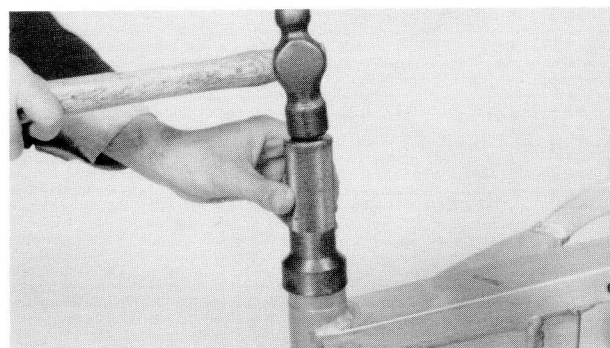
5.以下の点検をする。

- カラー(アーム 1 部)①
- カラー(リレーアーム部)②
 損傷、亀裂の有無を点検する。
 損傷、亀裂→交換



6.以下の点検をする。

- ブッシュ
 ブッシュの損傷、亀裂の有無を点検する。
 損傷、亀裂→交換

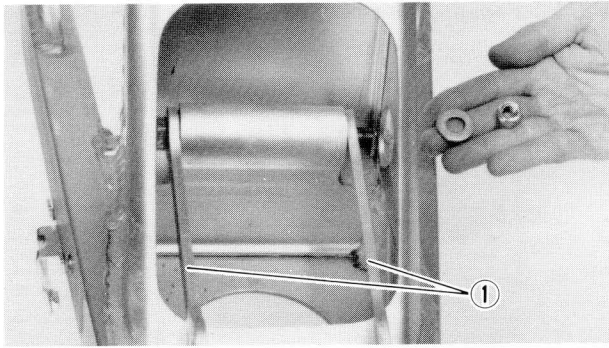


リヤアームの組付け

1.以下の部品を組付ける。

整備要領 ベアリングは文字側を外側にして組付けること。

- ベアリング



2.以下の部品を組付ける。

整備要領 オイルシールは文字側を外側にして組付ける。

- オイルシール
- カラー
- アーム 1 ①



アーム 1 締付トルク
4.0kg・m

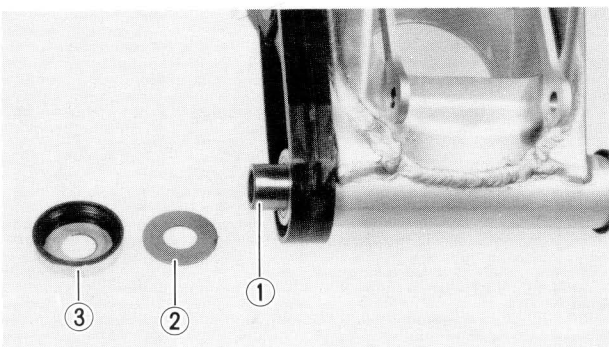
オイルシールリップ部にモリブデングリースを塗布して組付ける。

3.以下の部品を組付ける。

- ガードシール



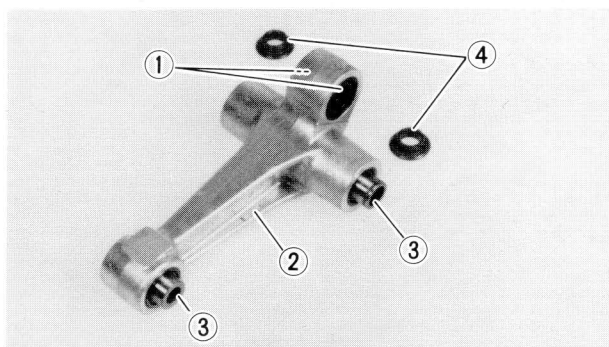
ガードシール締付トルク
0.8kg・m



4.以下の部品を組付ける。

- ブッシュ①
- プレートワッシャ②
- カバー③

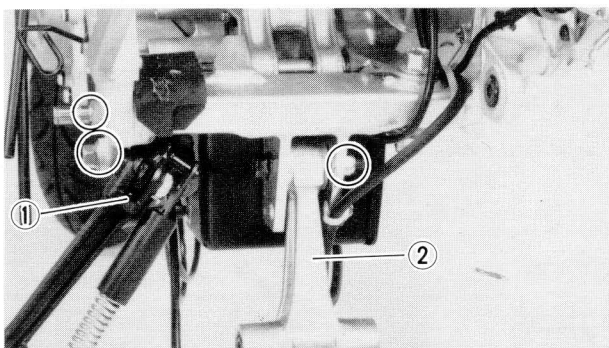
ブッシュにモリブデングリースを塗布してリヤアームに組付ける。



5.以下の部品を組付ける。

整備要領 オイルシールは文字を内側にして組付ける。

- オイルシール①
- リレーアーム②
- カラー③
- プレートワッシャ④



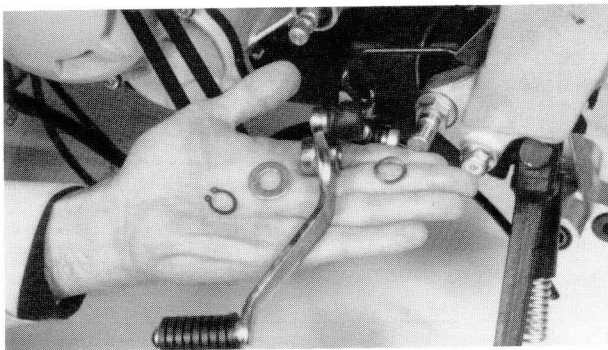
6.以下の部品を組付ける。

- サイドスタンド①
- リレーアーム②

ボルトにモリブデングリースを塗布し、左側より組付ける。

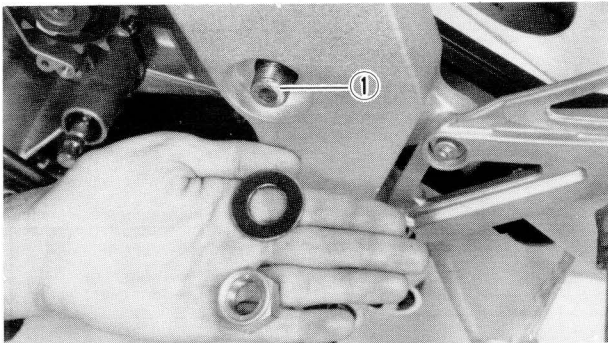


サイドスタンド	5.5kg・m
リレーアーム	4.0kg・m



7.以下の部品を組付ける。

- シフトペダル



8.以下の部品を組付ける。

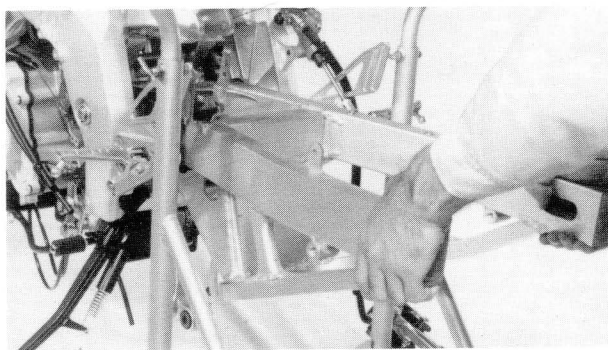
- リヤアーム
- ピボットシャフト①

ピボットシャフトにグリースを薄く塗布して組付ける。



ピボットシャフト締付トルク

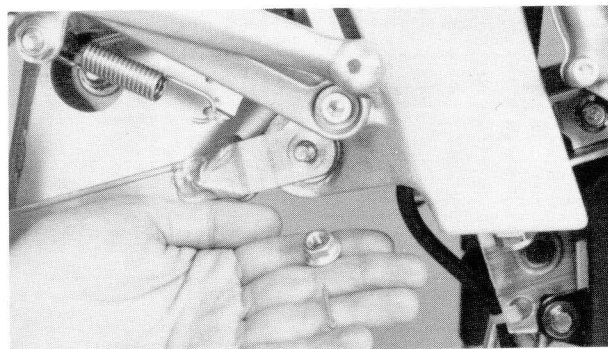
11.0kg・m



9.以下の点検をする。

- リヤアーム

リヤアームを前後、左右に動かしてがたの有無、またスムーズに作動するか点検する。がたのあるもの、スムーズに作動しないものリヤアームを取外し、ブッシュ、ベアリングの再点検をする。



10.以下の部品を組付ける。

- チェンケース
- ブレーキホースホルダ

11.以下の部品を組付ける。

- テンションバー

12.以下の部品を組付ける。

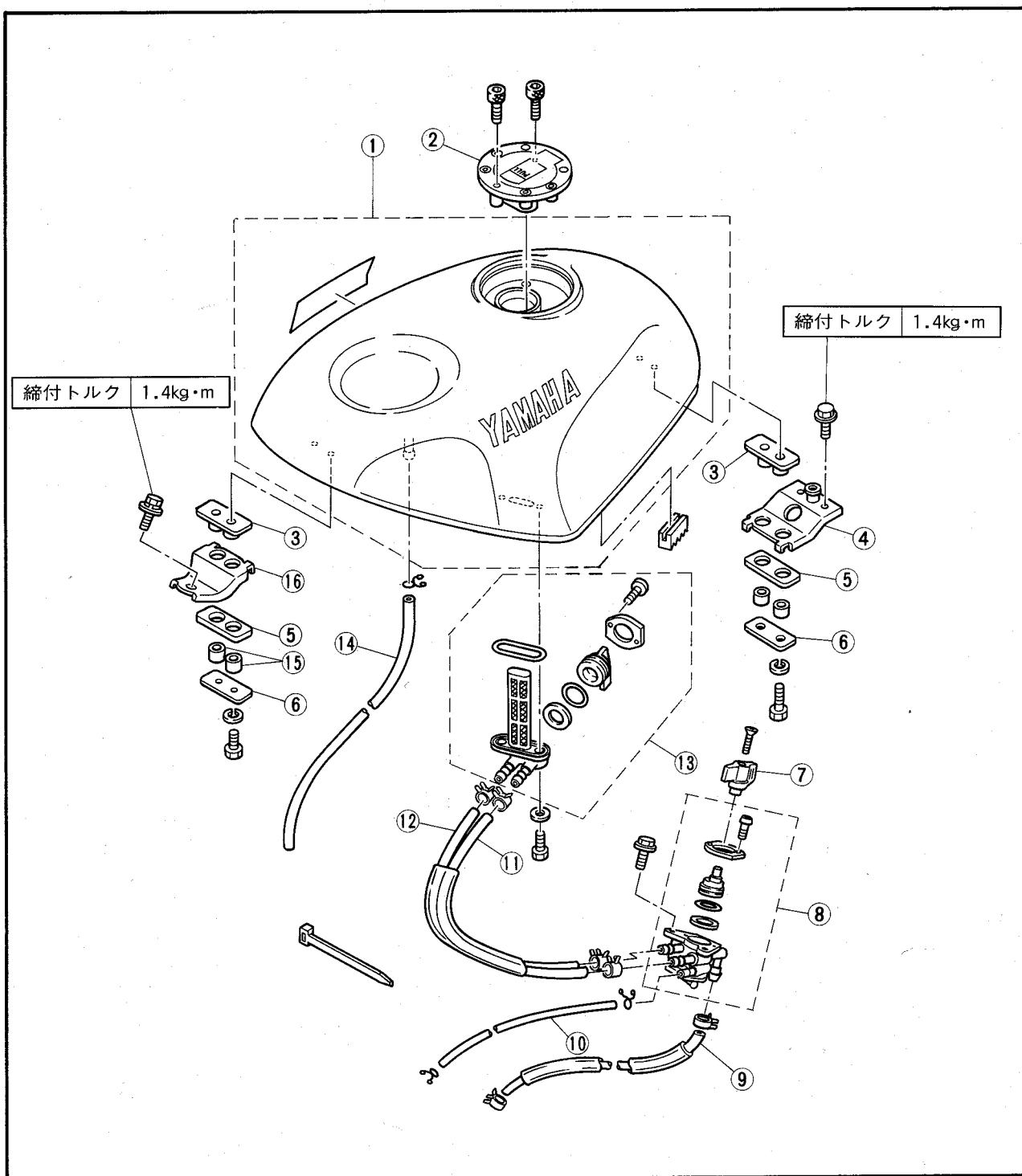
- リヤクッション (P 参照)
- リヤホイール (P 参照)
- ドライブチェン (P 参照)



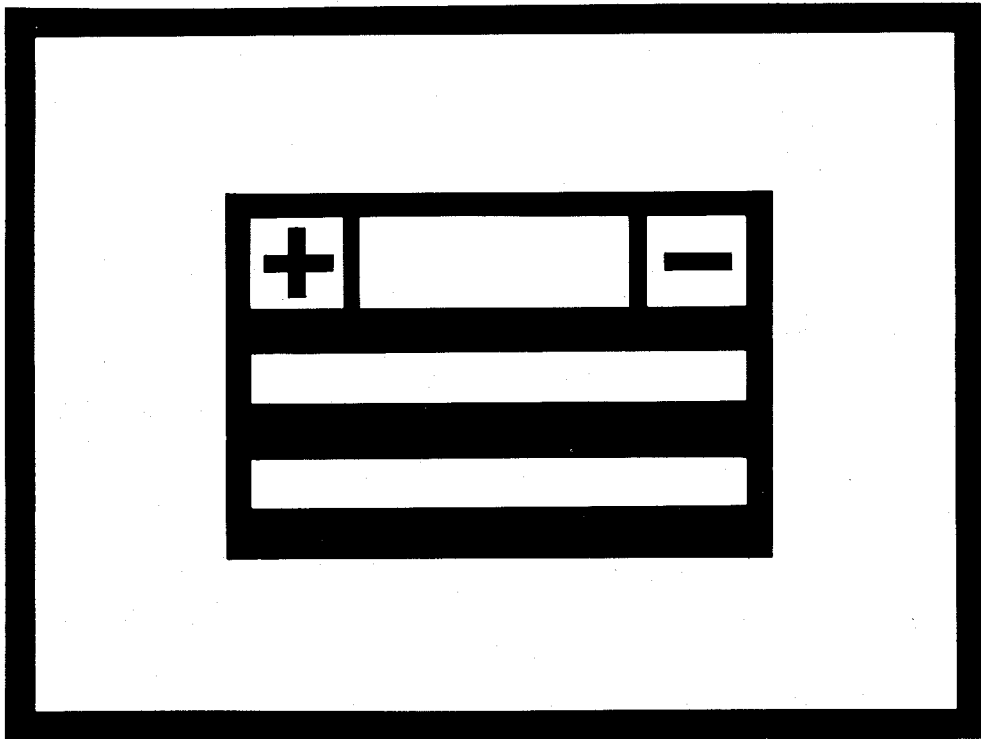
構成部品

フュエルタンク

- ①フュエルタンク Comp.
- ②キャップ Ass'y
- ③ロケーティングダンパ 1
- ④フュエルタンクブラケット 2
- ⑤ロケーティングダンパ 3
- ⑥スペシャルワッシャ
- ⑦コックレバー
- ⑧フュエルコック Ass'y 1
- ⑨ホース
- ⑩ホース
- ⑪ホース
- ⑫ホース
- ⑬フュエルコック Ass'y 2
- ⑭ホース
- ⑮カラー
- ⑯フュエルタンクブラケット 1

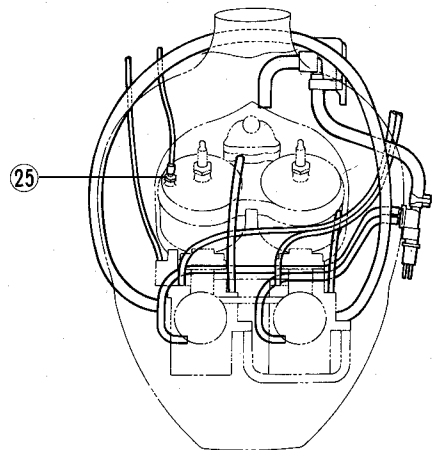
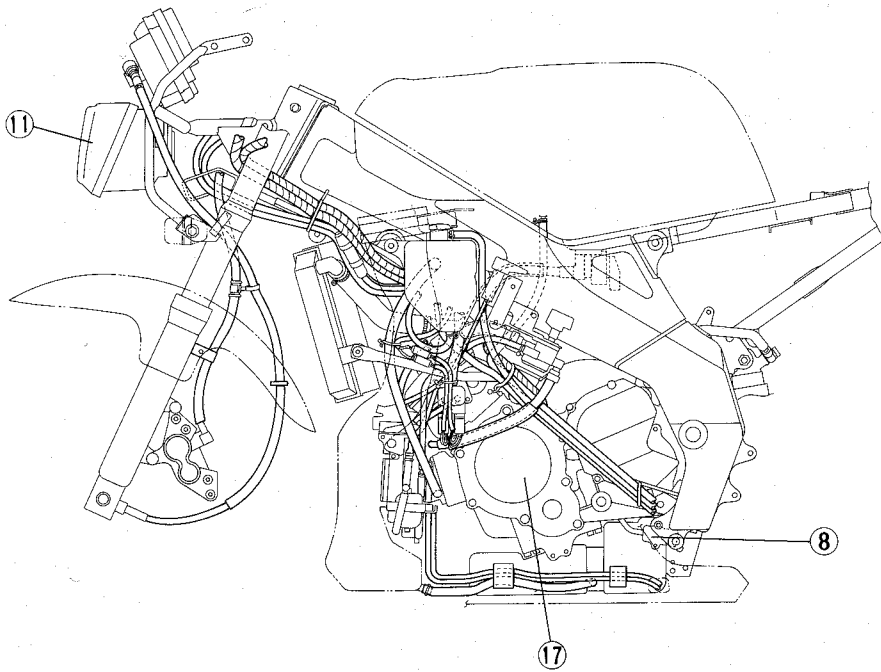
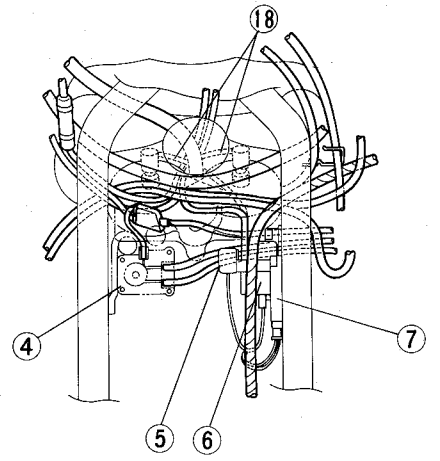
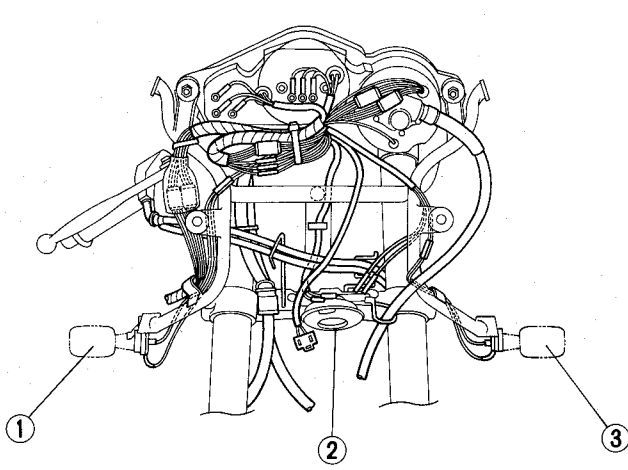


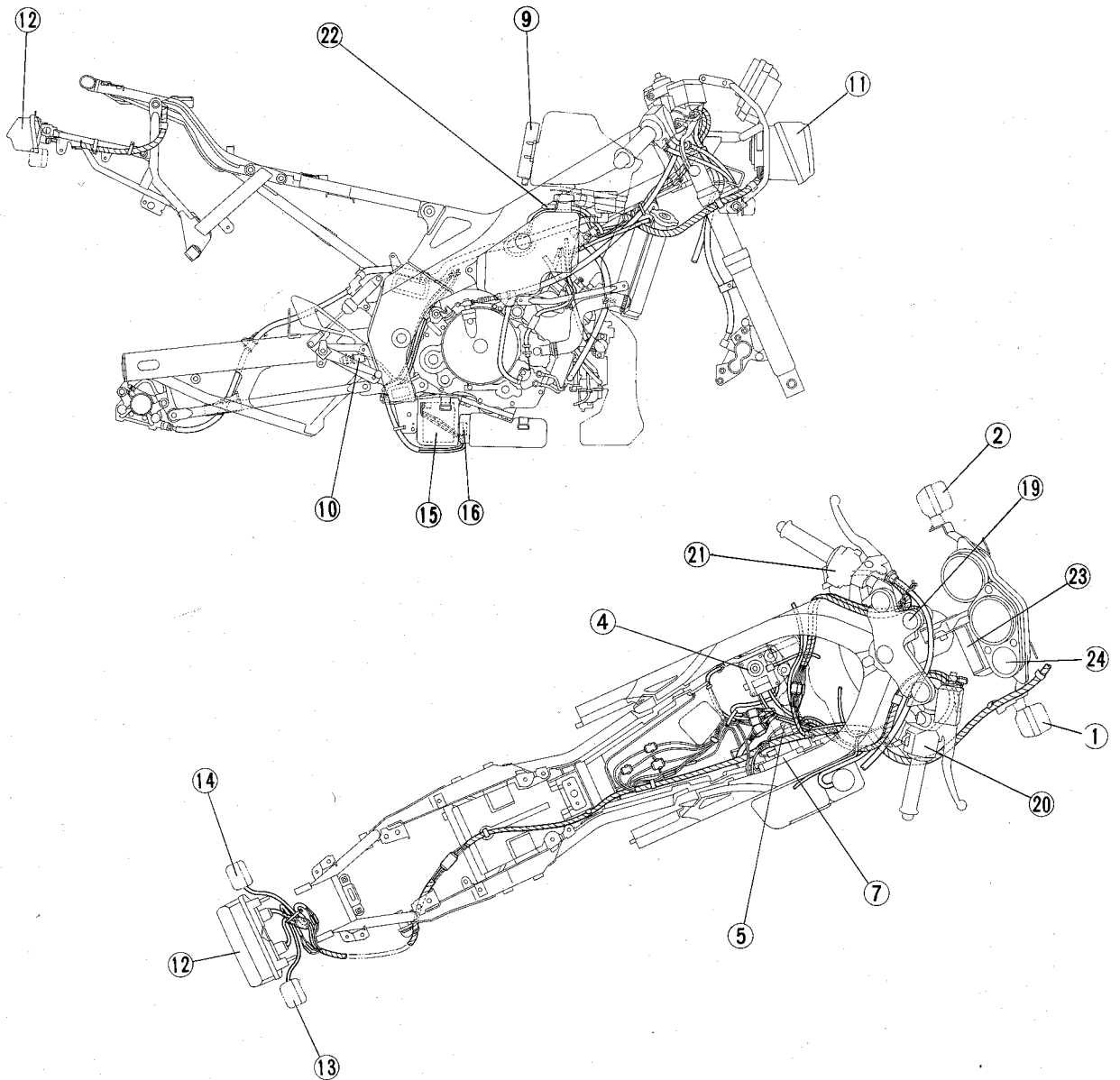
第 8 章 電装編





電装品配置図



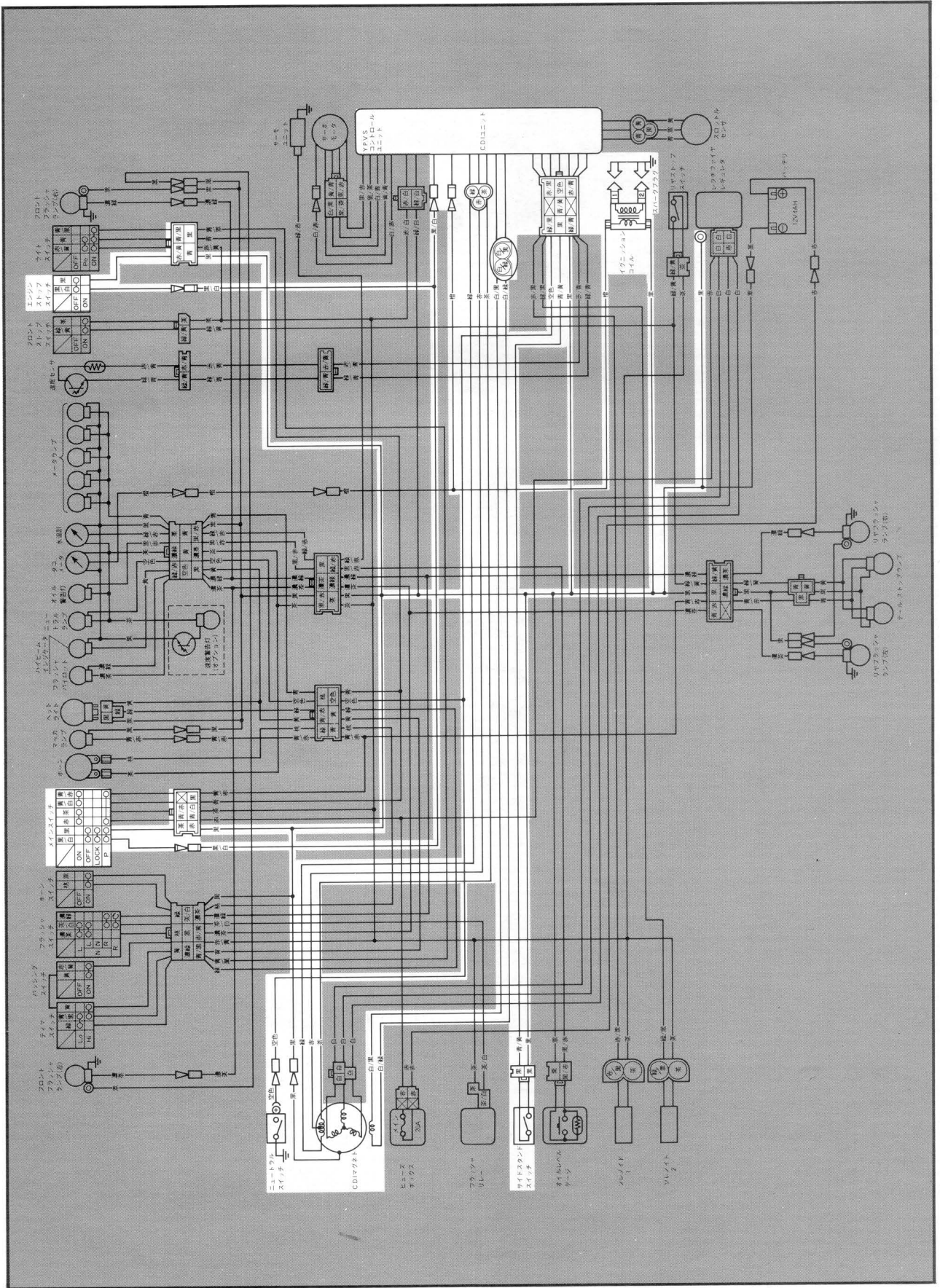


- ①フロントフラッシュランプ右
- ②ホーン
- ③フロントフラッシュランプ左
- ④サーボモータ
- ⑤フラッシュリレー
- ⑥イグニッションコイル
- ⑦レクチファイヤレギュレタ
- ⑧サイドスタンドスイッチ
- ⑨C.D.I.ユニット
- ⑩リヤストップスイッチ
- ⑪ヘッドライト
- ⑫テール/ストップランプ

- ⑬リヤフラッシュランプ右
- ⑭リヤフラッシュランプ左
- ⑮バッテリー
- ⑯ヒューズ
- ⑰C.D.I.マグネット
- ⑱ハイテンションコード
- ⑲メインスイッチ
- ⑳ハンドルスイッチ右
- ㉑ハンドルスイッチ左
- ㉒オイルレベルゲージ
- ㉓パイロットランプボックス
- ㉔水温計
- ㉕サーモユニット



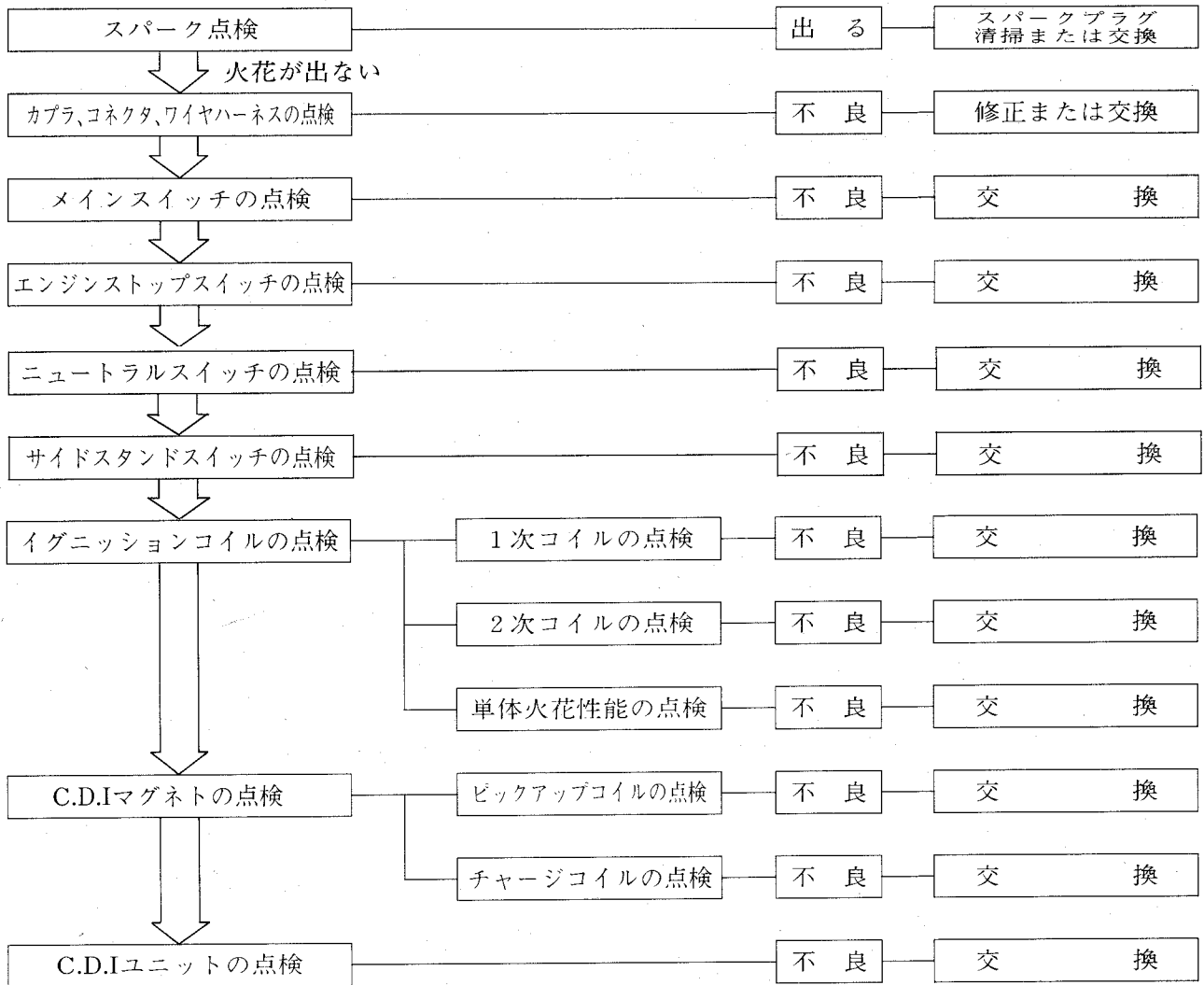
● 点火系統結線図





●点検ステップ

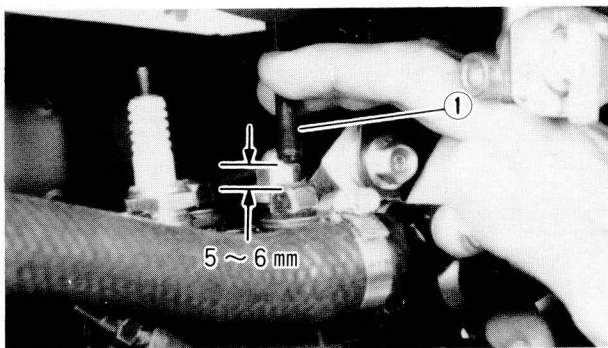
エンジン不調の原因が点火系統にあると思われる場合は、次の順序で点検する。



名称はP8-1,2の電装品配置図を参照。

- ⑥イグニッションコイル
- ⑧サイドスタンドスイッチ
- ⑨C.D.Iユニット
- ⑰C.D.Iマグネット
- ⑲メインスイッチ
- ⑳ハンドルスイッチ右

標準プラグ	型 式	BR8ES BR9ES BR10EV
		プラグキャップ
イグニッション コイル抵抗値	1次コイル	0.281~0.38Ω(20℃)
	2次コイル	4.72~7.08KΩ(20℃)
ピックアップコイル抵抗値		188~282Ω
チャージコイル抵抗値		(緑-茶) 128.8~193.2Ω (茶-赤) 3.6~ 5.4Ω



スパーク点検

1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ
- スパークプラグ
- プラグキャップ

2.以下の点検をする。

- ハイテンションコード①

ハイテンションコードよりプラグキャップを外し、シリンダヘッドと5~6mmのすき間をあけ、力強くキックしたとき、火花が飛ばば良好である。

火花が飛ぶ場合	プラグキャップ、スパークプラグを点検する。
火花が飛ばない場合	ワイヤハーネス、スイッチ、C.D.I系の電装品を点検する。

危険 高電圧に注意すること。

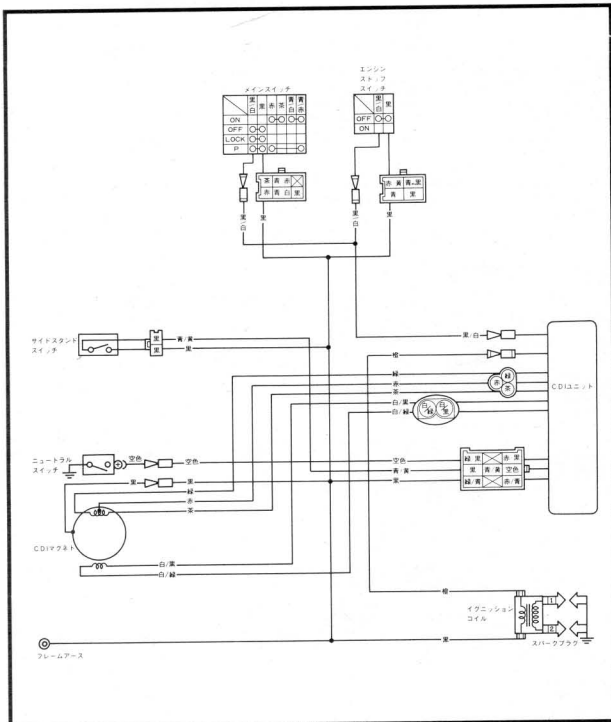
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検

1.以下の点検をする。

- カプラ、コネクタの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビの有無
遊びのあるもの→修正
汚れ、サビ等のあるもの→清掃

2.以下の点検をする。

- ワイヤハーネスの断線の有無
断線→修正または交換



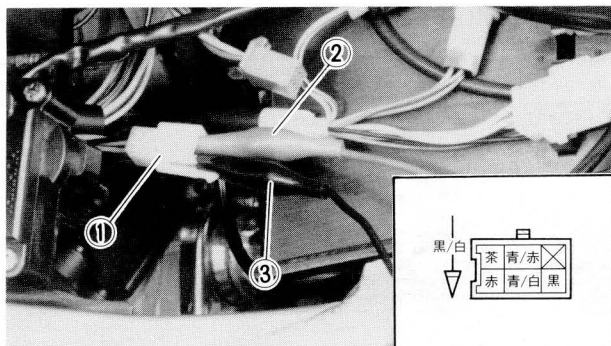
メインスイッチの点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

2.以下の接続を取外す。

- メインスイッチカプラ、コネクタ

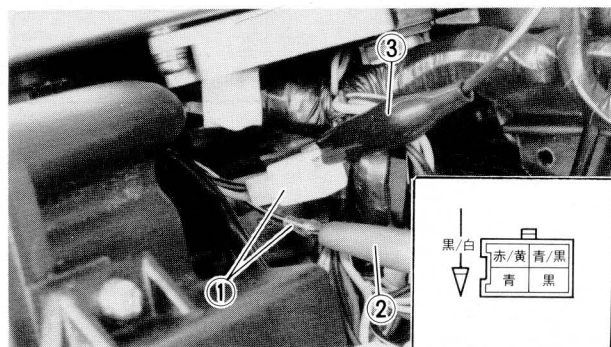


3.以下の点検をする。

- 各端子間の導通の有無を点検する。
メインスイッチカプラ、コネクタ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	ON	OFF	テスタレンジ R×1
	赤	茶	○	×	
	黒	黒/白	×	○	

○印……導通あり (不良のものは交換)
×印……導通なし



エンジンストップスイッチの点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

2.以下の点検をする。

- 端子間の導通の有無を点検する。
エンジンストップスイッチコネクタ、カプラ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	ON	OFF	テスタレンジ R×1
	黒/白	黒	×	○	

○印……導通あり (不良のものは交換)
×印……導通なし

ニュートラルスイッチの点検

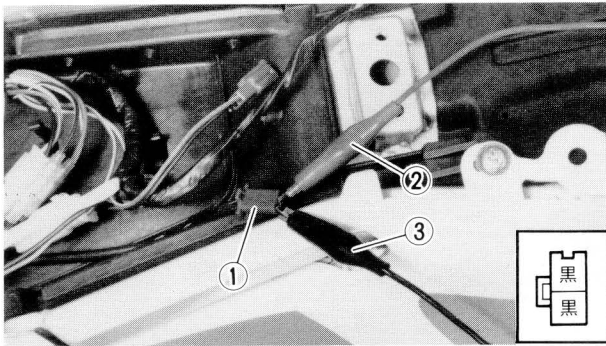
1.以下の部品を取外す。

- チェンカバー
- ニュートラルスイッチリード線
- ニュートラルスイッチ



2.以下の点検をする。

- ニュートラルスイッチの導通の有無
 テスタ赤リード線①
 テスタ黒リード線②
 接点③を押した時導通があるか点検する。
 押した時導通あり→良
 押した時導通なし→不良、交換



サイドスタンドスイッチの点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

2.以下の点検をする。

- 端子間の導通の有無
 サイドスタンドスイッチカプラ①
 テスタ赤リード線②
 テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	サイドスタンド		テスタレンジ
	黒	黒	格納	使用	
			○	×	R×1

○印導通あり (不良のものは交換)
 ×印導通なし

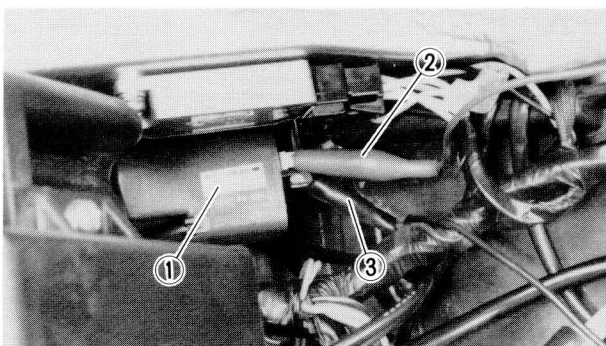
イグニッションコイル1次コイル抵抗値の点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

2.以下の点検をする。

- 抵抗値を点検する。
 イグニッションコイル①
 テスタ赤リード線②
 テスタ黒リード線③

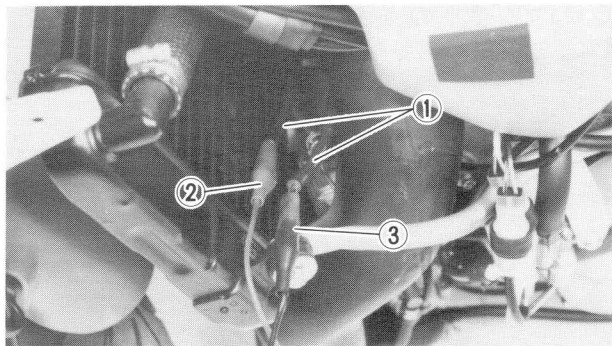


	赤リード	黒リード	規定抵抗値	テスタレンジ
	橙端子	黒端子	0.281~0.38Ω	R×1

規定抵抗値以外→交換

点火系統点検

電装



イグニッションコイル2次コイル低抗値の点検

1.以下の部品を取外す。

- プラグキャップ

2.以下の点検をする。

- 抵抗値を測定する。

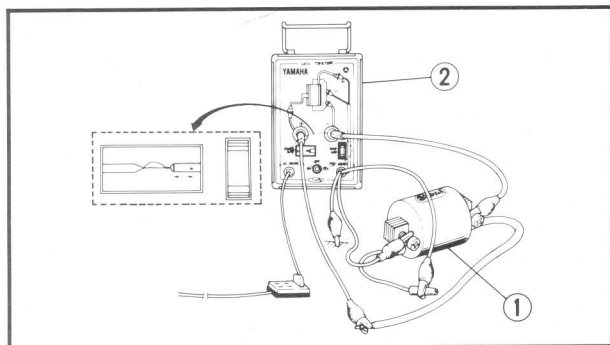
ハイテンションコード①

テスタ赤リード線②

テスタ黒リード線③

	赤リード ハイテンション コード	黒リード ハイテンション コード	規定抵抗値 4.72~7.08KΩ	テスタレンジ R×1K
--	------------------------	------------------------	----------------------	----------------

規定抵抗値以外→交換



火花性能の点検

1.以下の点検をする。

- イグニッションコイル①

コイルテスタ②を使用してイグニッションコイル単体で点検する。

	標準火花性能値 6 mm以上
--	-------------------

	コイルテスタ 90890-03074
--	-----------------------

標準性能値以下→交換

火花切れ→交換

注意 コイルテスタ使用方法は、取扱説明書に従って行うこと。



C.D.Iマグネットの点検

ピックアップコイルの点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

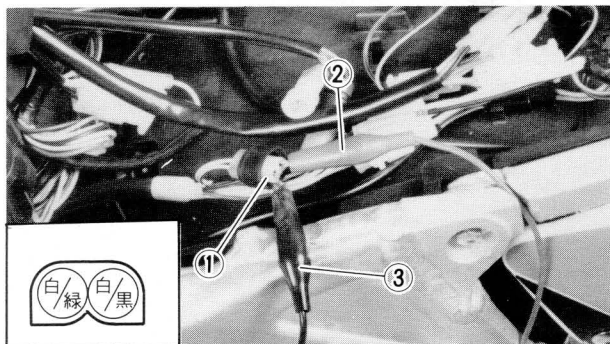
2.以下の点検をする。

- 端子間の抵抗値を測定する。

C.D.Iマグネット(ピックアップコイル)カプラ①

テスタ赤リード線②

テスタ黒リード線③



	赤リード	黒リード	規定抵抗値	テスタレンジ
	白/緑	白/黒	188~282Ω	R×100

規定抵抗値以外→交換

チャージコイルの点検

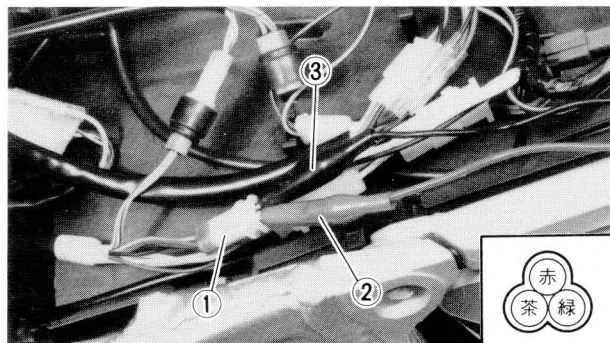
1.以下の点検をする。

- 各端子間の抵抗値を測定する。

C.D.Iマグネット(チャージコイル)カプラ①

テスタ赤リード線②

テスタ黒リード線③



	赤リード	黒リード	規定抵抗値	テスタレンジ
	緑	茶	128.8~193.2Ω	R×100
赤	茶	3.6~5.4Ω		

規定抵抗値以外→交換

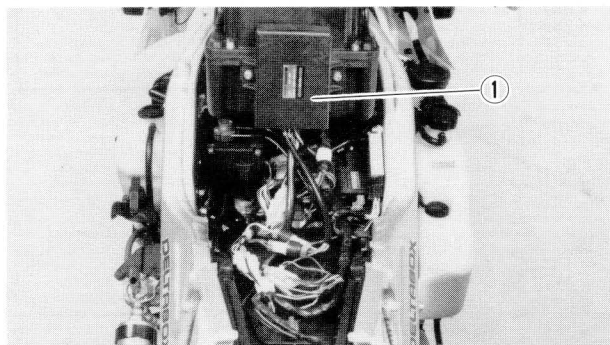
C.D.Iユニットの点検

- カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスに異状がなく、イグニッションコイル、メインスイッチ、スパークプラグにも異状のないときは、C.D.Iユニット①を交換して確認する。

C.D.Iユニットを交換する前に、特にカプラ部の差し込みを確実にする。(2~3回カプラ部の抜き、差しを繰り返してみる。)

注意

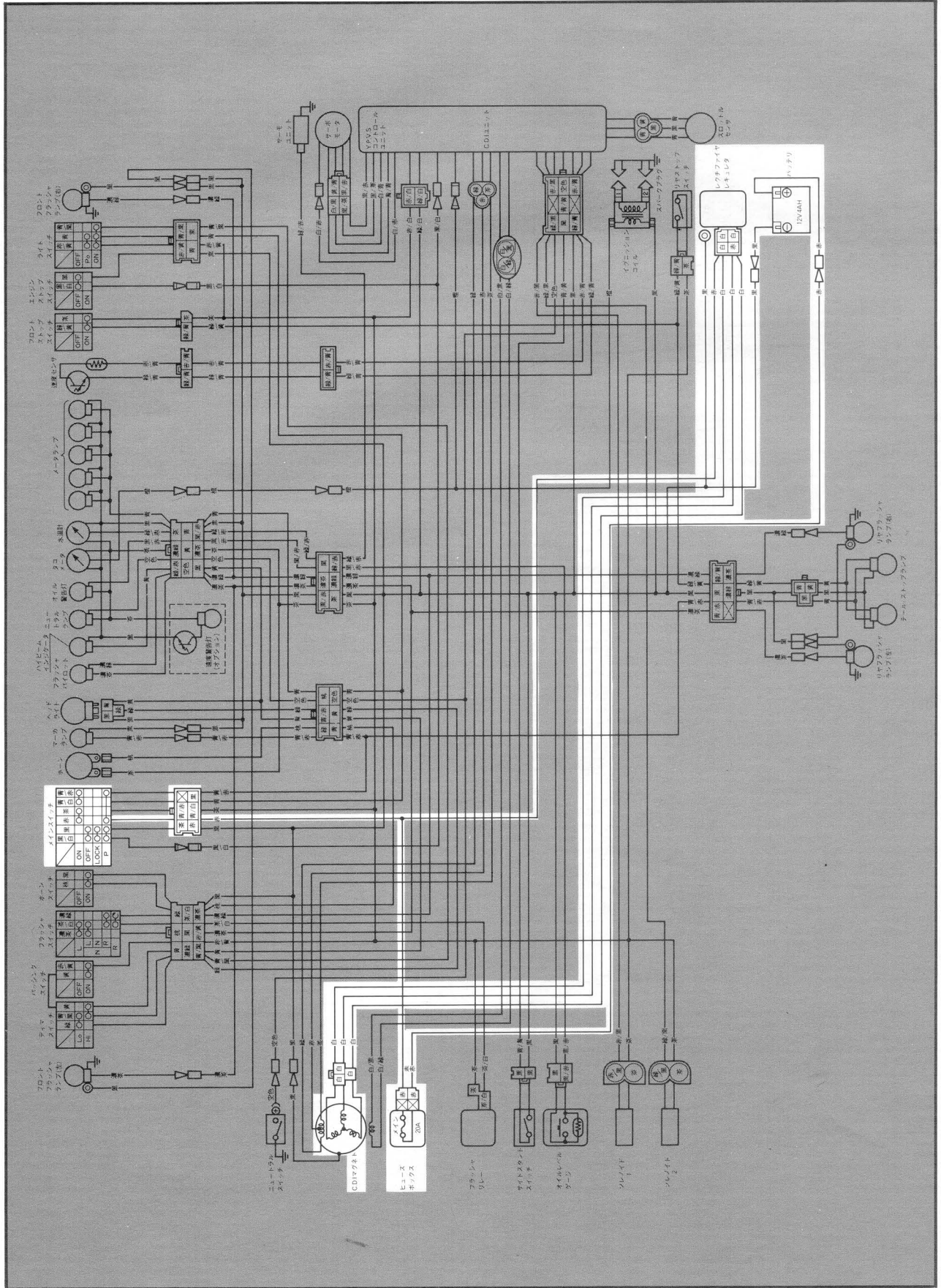
- C.D.Iユニットからイグニッションコイルへ瞬間的に大電流を流し、高電圧を発生させるので配線の接続はしっかりすること。
- ユニットには直接電源を加えない。







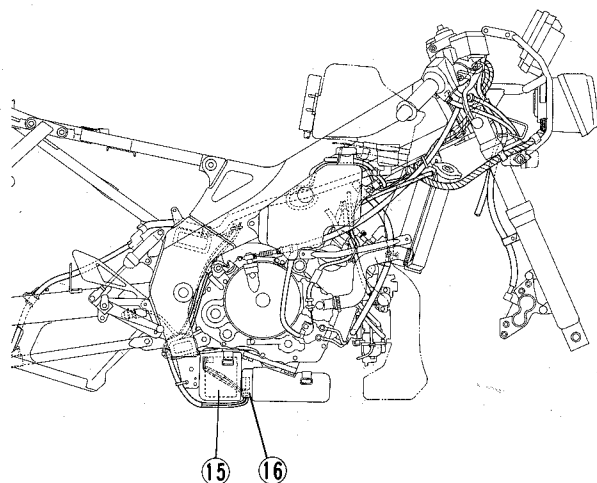
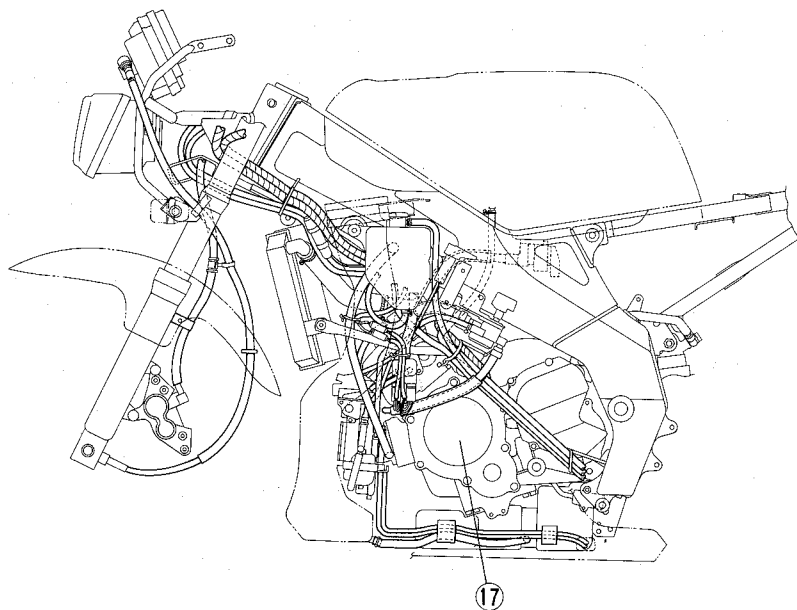
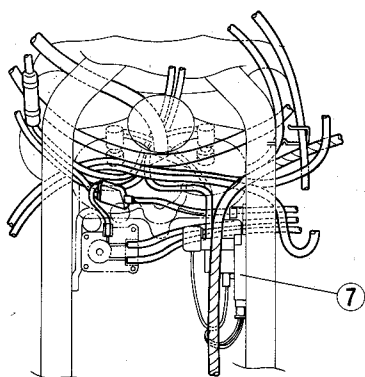
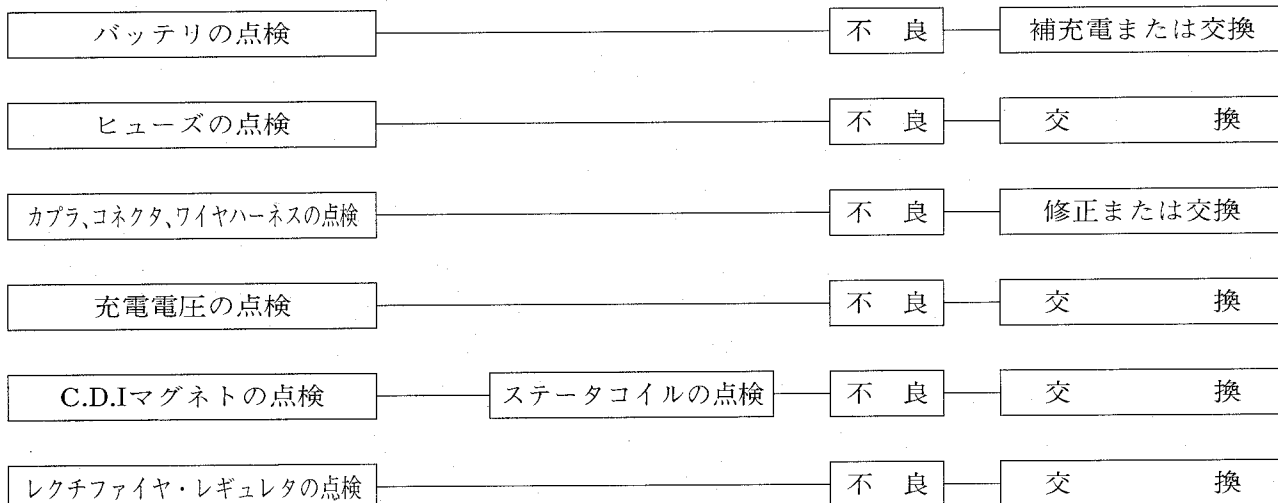
● 充電系統結線図





●点検ステップ

バッテリー上り、充電不良の原因が充電系統にあると思われる場合は、次の順序で点検する。



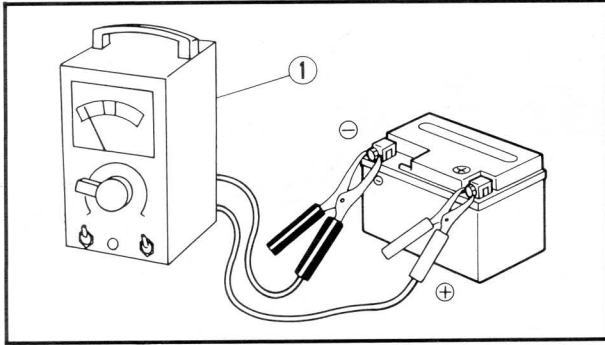
- ⑦レクチファイヤレギュレタ
- ⑮バッテリー
- ⑯ヒューズ
- ⑰C.D.Iマグネット

バッテリー	型式	YT4L-BS
	容量	12V3Ah
	充電電流×時間	0.4A×5h
ヒューズ	メイン	20A
充電電圧		14.3~15.3V/3000rpm
ステータコイル抵抗値		0.44~0.66Ω



バッテリーの点検

- 1.以下の部品を取外す。
- 2.以下の点検をする。
 - ターミナル部の緩み
緩み→増締め



- 3.以下の部品を取外す。
 - バッテリー
- 4.以下の点検をする。
 - バッテリー電圧

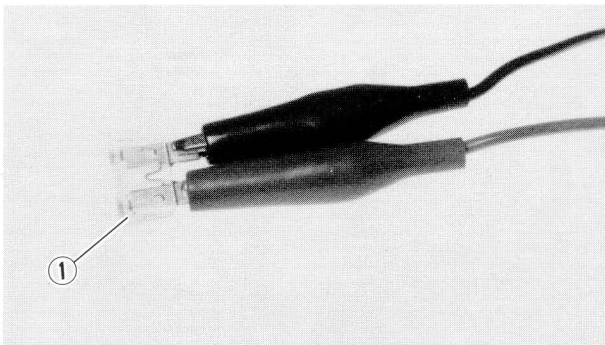
二輪車用バッテリーテスタ①を使用して点検する。

	完全充電時	緑帯範囲内
	充電不足時	黄又は赤帯範囲

黄又は赤帯範囲→補充電(P3-27参照)

補充電を行なっても緑帯範囲内にはならない
→バッテリー交換

整備要領 二輪車用バッテリーテスタの使い方は取扱説明書に従って行なうこと。



ヒューズの点検

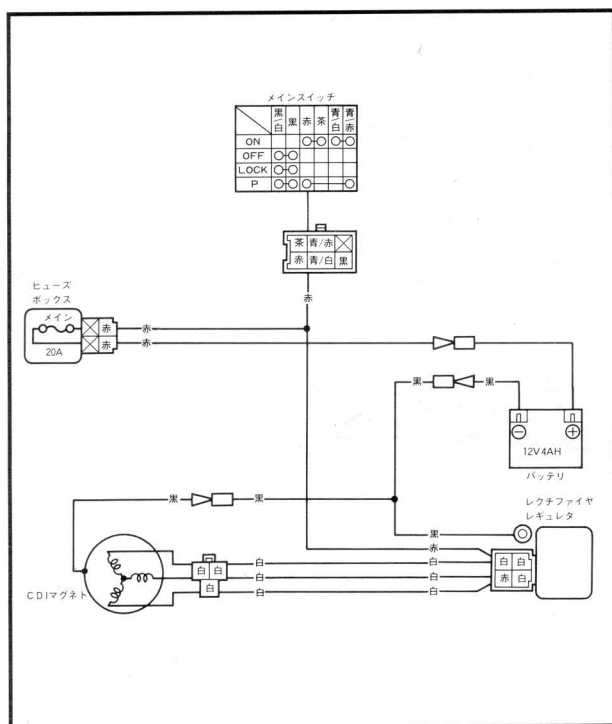
- 1.以下の部品を取外す。
 - フロントアンダボディ右
- 2.以下の点検をする。
 - ヒューズ単体①

	赤リード	黒リード	導通の有無	テストレンジ
	ヒューズ端子	ヒューズ端子	導通あり	R×1

導通がない→交換

	ヒューズ容量
	20A

注意 ヒューズを交換する場合は容量の同じものを使用すること。

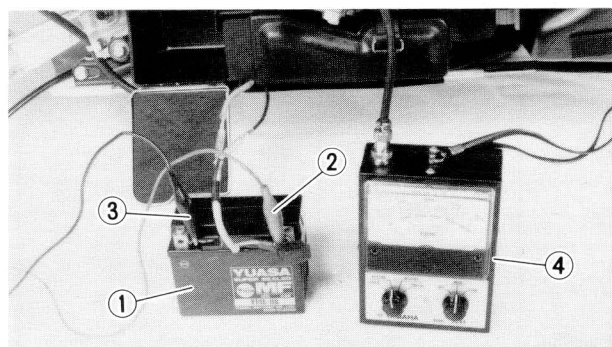


カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検

- 以下の点検をする。
 - カプラ、コネクタの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビの有無
遊びのあるもの→修正
汚れ、サビ等のあるもの→清掃
- 以下の点検をする。
 - ワイヤハーネスの断線の有無
断線のあるもの→修正または交換

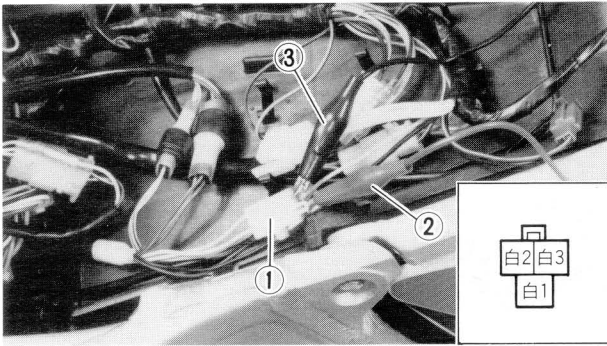
充電電圧の点検

- 以下の部品を取外す。
 - フロントアンダボディ右
- ポケットテストをバッテリー端子に接続する。
- エンジンタコメータ④をハイテンションコードに接続する。
- エンジンを始動する。
- 以下の点検をする。
 - エンジン回転数3000rpm時の電圧
バッテリー①
テスト赤リード線②
テスト黒リード線③
エンジンタコメータ④



赤リード	黒リード	標準充電電圧値	テストレンジ
バッテリー + 端子	バッテリー - 端子	14.3~15.3V /3000r.p.m	D. C20V

標準充電電圧値以外の場合は配線の接続部およびバッテリーを点検し、再度充電電圧を点検する。

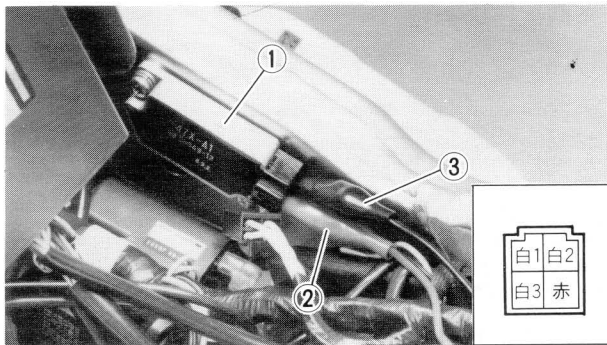


ステータコイルの点検

- 1.以下の部品を取外す。
 - フュエルタンク
- 2.以下の点検をする。
 - ステータコイル各端子間の抵抗値を測定する。
ステータコイルカプラ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	標準抵抗値	テスタレンジ
	白(1)	白(2)	0.44~0.66Ω	R × 1
	白(1)	白(3)		
	白(2)	白(3)		

標準抵抗値以外→交換



レクチファイヤレギュレタの点検

- 1.以下の部品を取外す。
 - フュエルタンク
- 2.以下の点検をする。
 - レクチファイヤレギュレタ各端子間の導通の有無を点検す。
レクチファイヤレギュレタ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	測定部分	導 通	テスタレンジ
	赤	白 ₁	正方向	○	R × 1
	赤	白 ₂			
	赤	白 ₃			
	白 ₁	アース			
	白 ₂	アース			
	白 ₃	アース			
	白 ₁	赤	逆方向	×	
	白 ₂	赤			
	白 ₃	赤			
	アース	白 ₁			
	アース	白 ₂			
	アース	白 ₃			

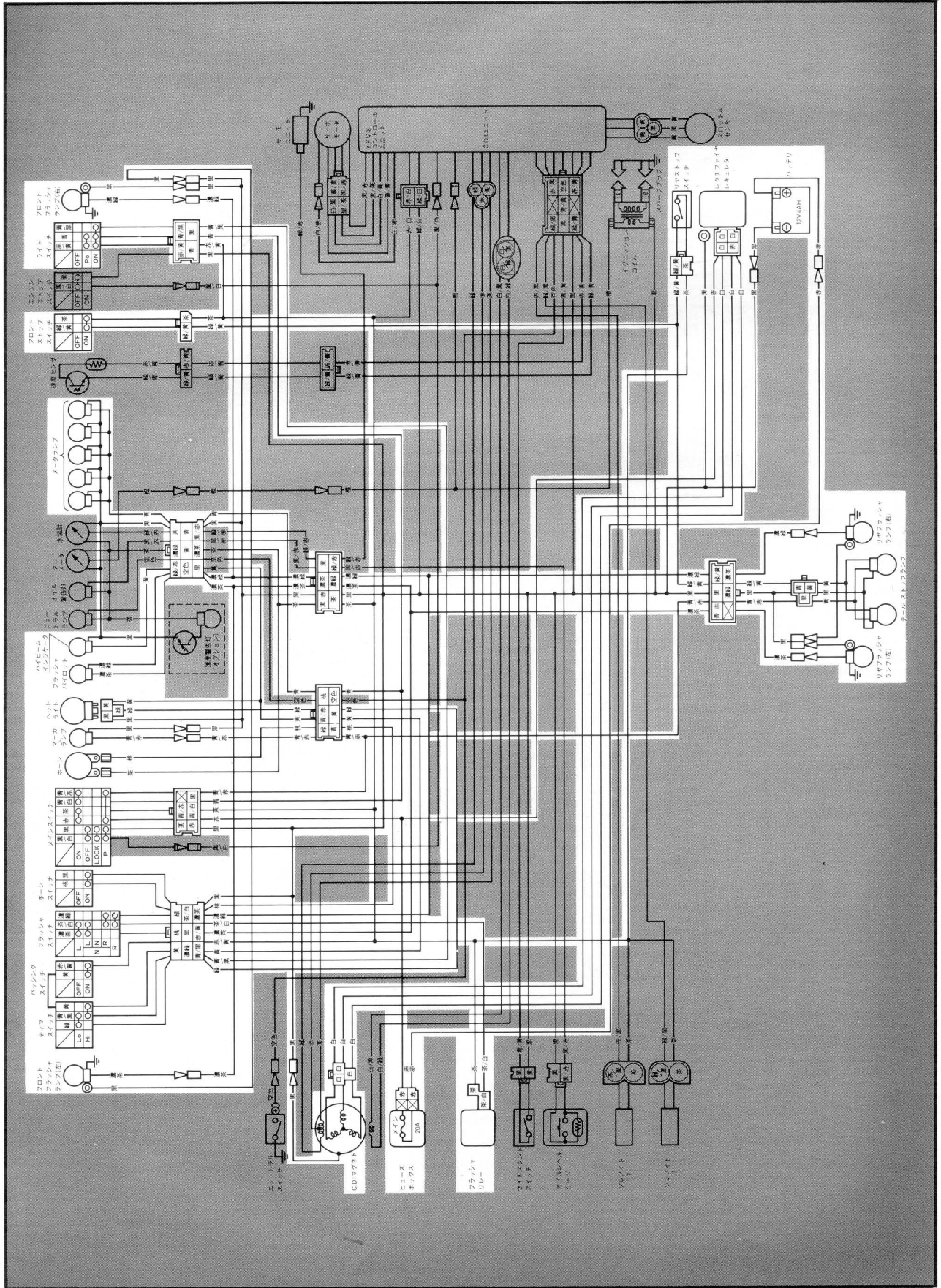
○印-----導通あり (不良のものは交換)
×印-----導通なし

正方向、逆方向とも導通のあるもの→交換
正方向、逆方向とも導通のないもの→交換





●信号、照明系統結線図





●点検ステップ

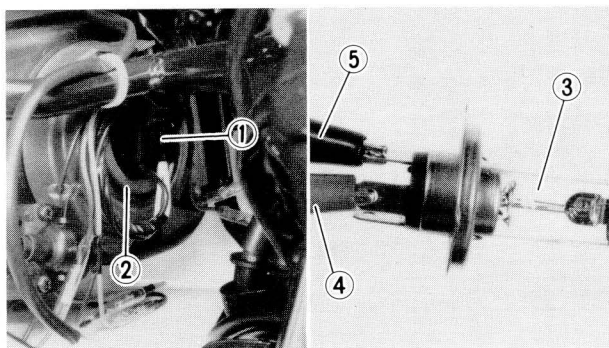
信号、照明系統の作動不良は次の順序で点検する。



名称はP8-1, 2の電装配置図を参照。

- ①フロントフラッシュランプ右
- ②ホーン
- ③フロントフラッシュランプ左
- ⑤フラッシュリレー
- ⑦レクチファイヤレギュレタ
- ⑩リヤストップスイッチ
- ⑪ヘッドライト
- ⑫テール/ストップランプ
- ⑬リヤフラッシュランプ右
- ⑭リヤフラッシュランプ左
- ⑮バッテリー
- ⑯ヒューズ
- ⑰C.D.Iマグネット
- ⑱メインスイッチ
- ⑳ハンドルスイッチ右
- ㉑ハンドルスイッチ左
- ㉒パイロットランプボックス

ヘッドランプ	12V60/55W(ハロゲン)	
フラッシュランプ	12V10W×4	
ストップ/テールランプ	12V21/5W×2	
パイロットランプ	オイル警告灯	12V3.4W
	ニュートラル	12V3.4W
	ハイビーム	12V3.4W
	フラッシュ	12V3.4W
	メータランプ	12V3.4W



バルブの点検

1.以下の部品を取外す。

- ヘッドライトソケット①
- カバー②

2.以下の点検をする。

- 端子間の導通の有無
- バルブ③
- テスタ赤リード線④
- テスタ黒リード線⑤

	赤リード	黒リード	導通の有無	テストレンジ
	緑または黄	黒端子	導通あり	R × 1

導通のないもの→交換

ヒューズの点検

(P8-13参照)

バッテリーの点検

(P8-13参照)

カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検

1.以下の点検をする。

カプラ、コネクタの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビの有無

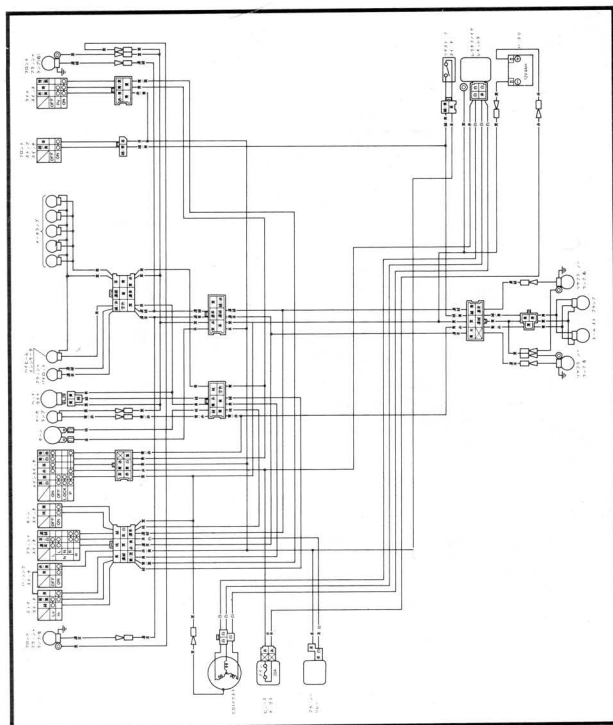
遊びのあるもの→修正

汚れ、サビ等のあるもの→清掃

2.以下の点検をする。

ワイヤハーネスの断線の有無

断線のあるもの→修正または交換



メインスイッチの点検

(P8-5参照)

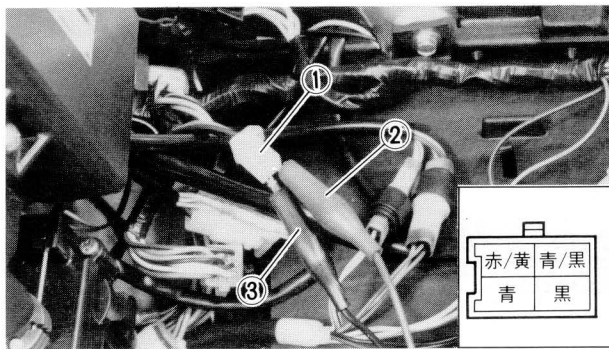
ライトスイッチの点検

1.以下の部品を取外す。

- シート
- フュエルタンク

2.以下の接続を外す。

- ライトスイッチカプラ



3.以下の点検をする。

- 各端子間の導通の有無を点検する。
 ライトスイッチカプラ①
 テスタ赤リード線②
 テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	OFF	PO	ON	テスタレンジ
	赤/黄	青	×	○	○	R×1
	青	青/黒	×	×	○	
	赤/黄	青/黒	×	×	○	

○印-----導通あり (不良のものは交換)
 ×印-----導通なし

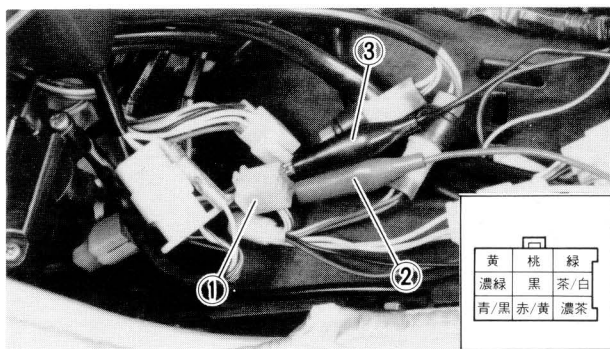
ディマスイッチの点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

2.以下の接続を外す。

- ディマスイッチカプラ

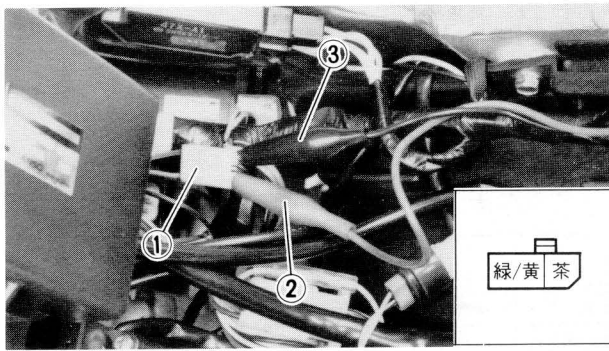


3.以下の点検をする。

- 各端子間の導通の有無を点検する。
 ディマスイッチカプラ①
 テスタ赤リード線②
 テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	HI	LO	テスタレンジ
	黄	青/黒	○	×	R×1
	緑	青/黒	×	○	

○印-----導通あり (不良のものは交換)
 ×印-----導通なし



フロントストップスイッチの点検

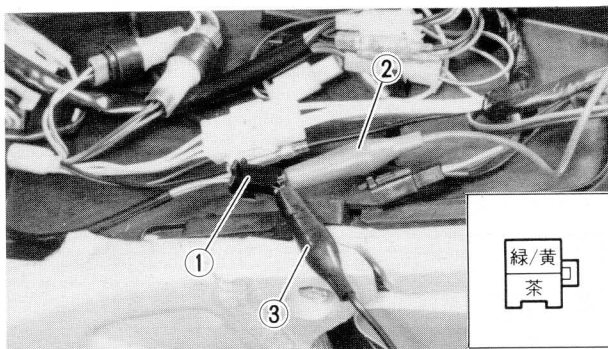
- 1.以下の部品を取外す。
 - フュエルタンク
- 2.以下の接続を外す。
 - フロントストップスイッチカプラ
- 3.以下の点検をする。
 - 端子間の導通の有無を点検する。
フロントストップスイッチカプラ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	放す(OFF)	握る(ON)	テスタリード
	茶	緑/黄	×	○	R×1

○印-----導通あり (不良のものは交換)
×印-----導通なし

リヤストップスイッチの点検

- 1.以下の部品を取外す。
 - フュエルタンク
- 2.以下の接続を外す。
 - リヤストップスイッチコネクタ
- 3.以下の点検をする。
 - 端子間の導通の有無を点検する。
リヤストップスイッチコネクタ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③



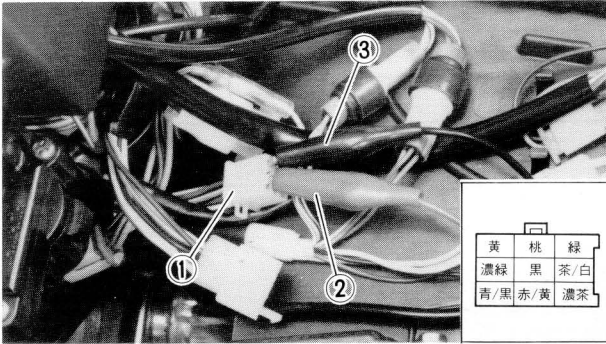
	赤リード	黒リード	放す(OFF)	踏む(ON)	テスタレンジ
	茶	緑/黄	×	○	R×1

○印-----導通あり (不良のものは交換)
×印-----導通なし



フラッシュスイッチの点検

- 以下の部品を取外す。
 - ・フュエルタンク
 - 以下の接続を外す。
 - ・フラッシュスイッチカプラ
 - 以下の点検をする。
 - ・各端子間の導通の有無を点検する。
- フラッシュスイッチカプラ①
 テスタ赤リード線②
 テスタ黒リード線③

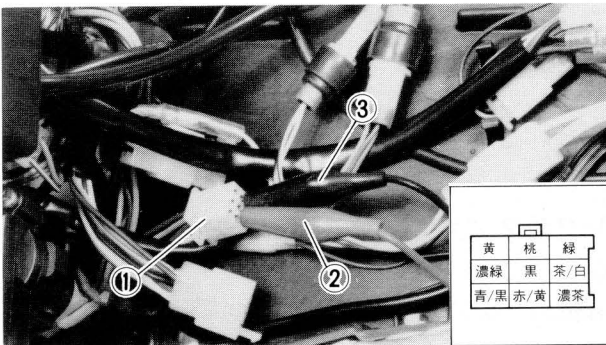


	赤リード	黒リード	L	N	R	テストレンジ
	濃 茶	茶/白	○	×	×	R×1
	濃 緑	茶/白	×	×	○	

○印-----導通あり (不良のものは交換)
 ×印-----導通なし

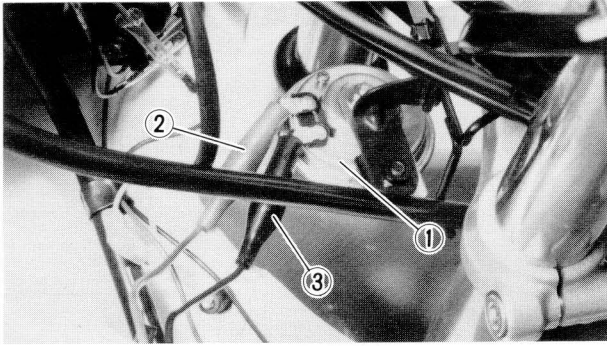
ホーンスイッチの点検

- 以下の部品を取外す。
 - ・フュエルタンク
 - 以下の接続を外す。
 - ・ホーンスイッチカプラ
 - 以下の点検をする。
 - ・端子間の導通の有無を点検する。
- ホーンスイッチカプラ①
 テスタ赤リード線②
 テスタ黒リード線③



	赤リード	黒リード	ON	OFF	テストレンジ
	桃	黒	○	×	R×1

○印-----導通あり (不良のものは交換)
 ×印-----導通なし



ホーンの点検

ホーンコイル抵抗値の点検

1.以下の部品を取外す。

- ホーンリード線


2.以下の点検をする。

- 端子間の抵抗値を測定する。

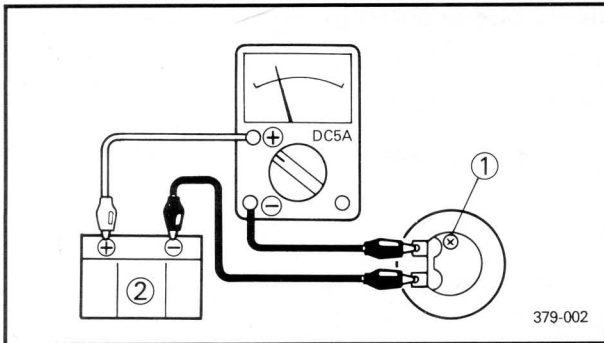
ホーン①

テスト赤リード線②

テスト黒リード線③

	赤リード	黒リード	規定抵抗値	テストレンジ
	桃端子	茶端子	4.4~4.78Ω	R×1

規定抵抗値以外→交換




ホーンの音色、音量の点検、調整

1.以下の部品を取外す。

- ホーン

2.以下の点検をする。

- アジャストスクリュー①を左右に回し、規定電流値で音量が最大になるように調整する。

	赤リード	黒リード	規定電流値	テストレンジ
	バッテリー⊕端子	ホーン端子 バッテリー⊖端子	1.5A以下	D.C5A

調整しても音色不良、音量不足、不鳴のものは交換する。

レクチファイヤレギュレタの点検 (P8-15参照)

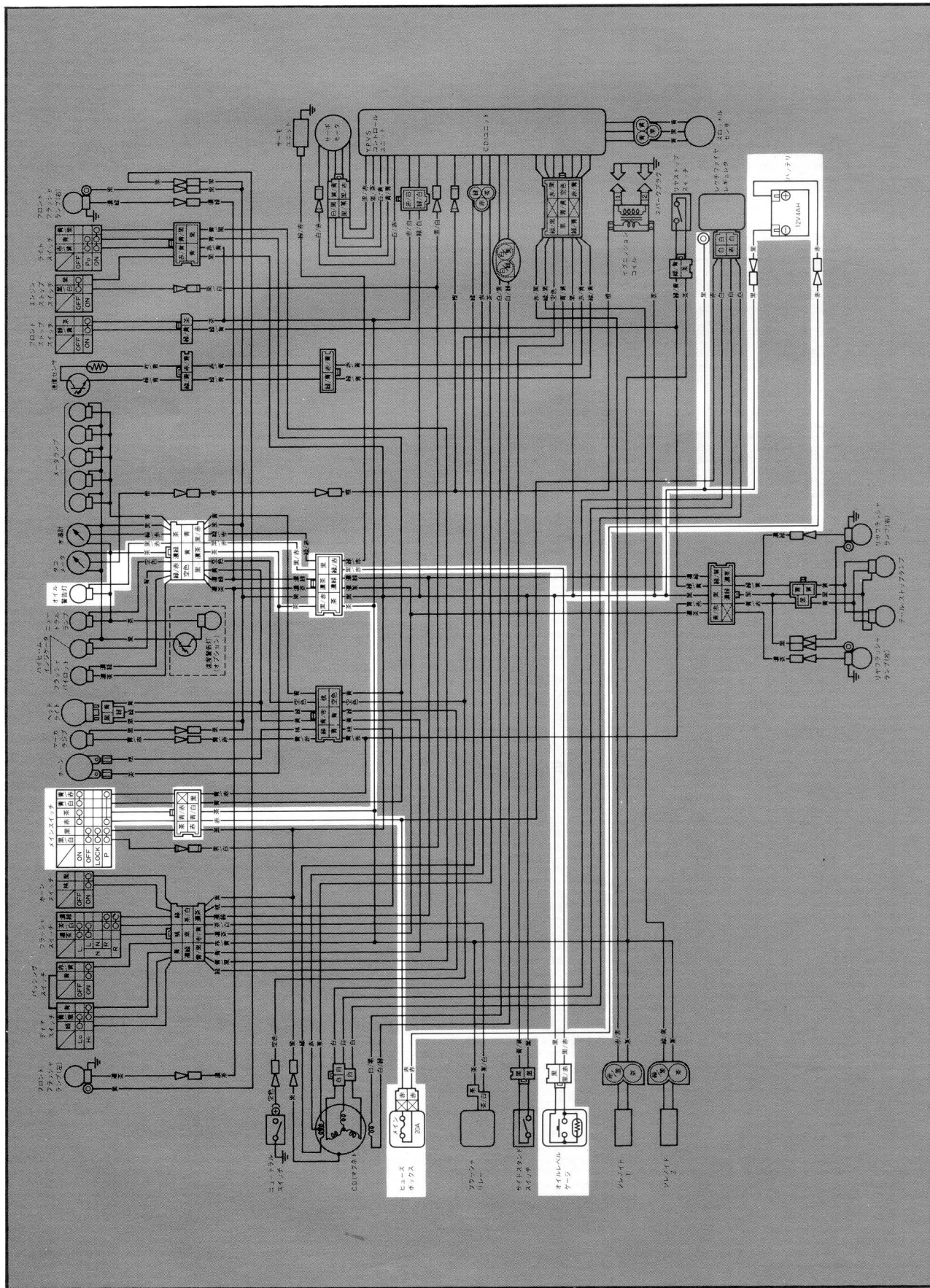
C.D.Iマグネット(ライティングコイル)の点検

(P8-9参照)





● オイルレベル警告灯系統結線図



オイルレベル警告灯系統点検

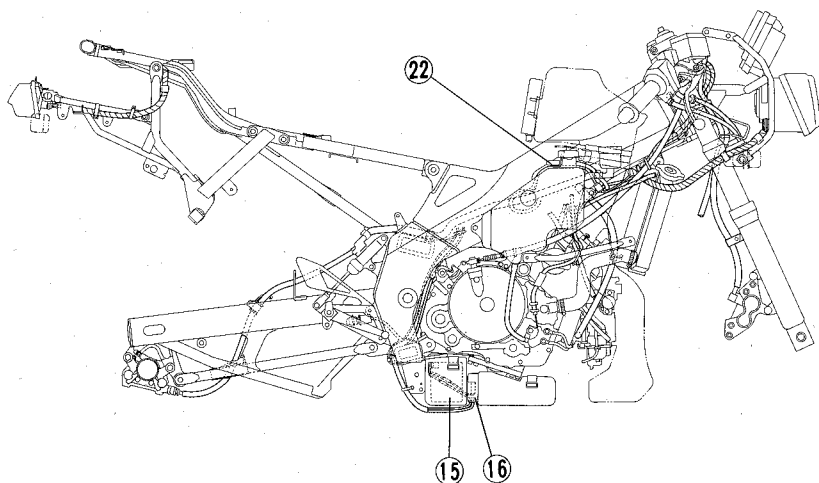
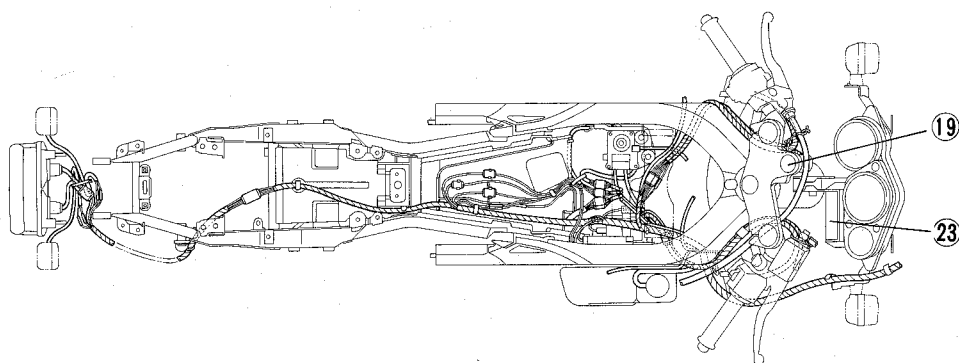
電装



●点検ステップ

オイルレベル警告灯の作動不良の場合は、次の順序で点検する。

オイルレベル警告灯の点検	不良	交換
バッテリーの点検	不良	補充電または交換
ヒューズの点検	不良	交換
カブラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検	不良	交換
メインスイッチの点検	不良	交換
オイルレベルゲージの点検	不良	交換

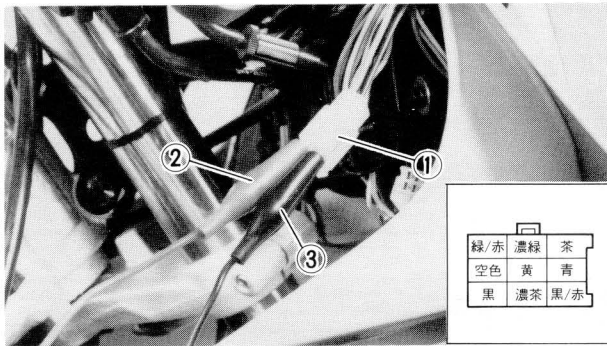


- ⑮ バッテリー
- ⑯ ヒューズ
- ⑰ メインスイッチ
- ⑱ オイルレベルゲージ
- ㉓ パイロットランプボックス

オイル警告灯	12V3.4W
--------	---------



オイルレベル警告灯系統点検



緑/赤	濃緑	茶
空色	黄	青
黒	濃茶	黒/赤

オイルレベル警告灯の点検

- 以下の接続を取外す。
 - オイルレベル警告灯カプラ
- 以下の点検をする。
 - 端子間の導通の有無を点検する。
オイルレベル警告灯カプラ①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③

	赤リード	黒リード	導通の有無	テスタレンジ
	茶	黒/赤	導通あり	R×1

導通のないもの→オイル警告灯ランプ交換

バッテリーの点検

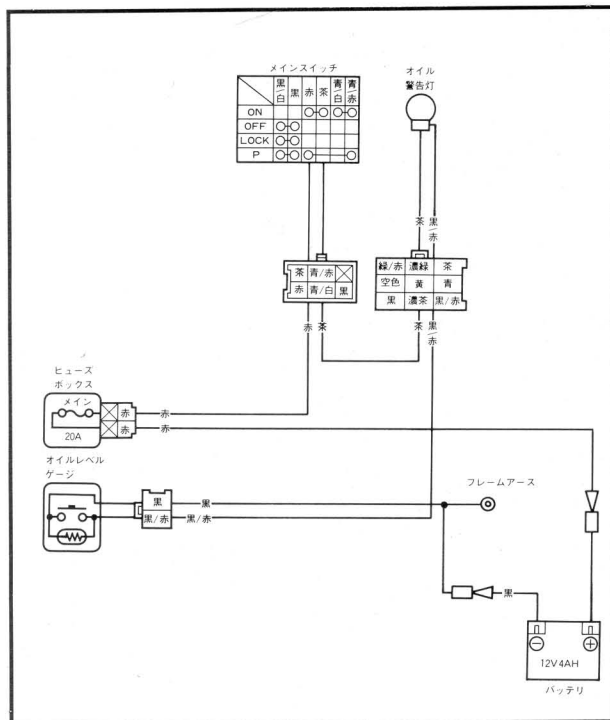
(P8-13参照)

ヒューズの点検

(P8-13参照)

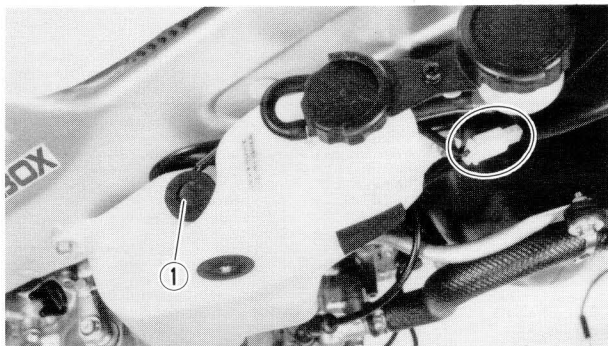
カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検

- 以下の点検をする。
 - カプラ、コネクタの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビの有無
遊びのあるもの→修正
汚れ、サビ等のあるもの→清掃
- 以下の点検をする。
 - ワイヤハーネスの断線の有無
断線のあるもの→修正または交換



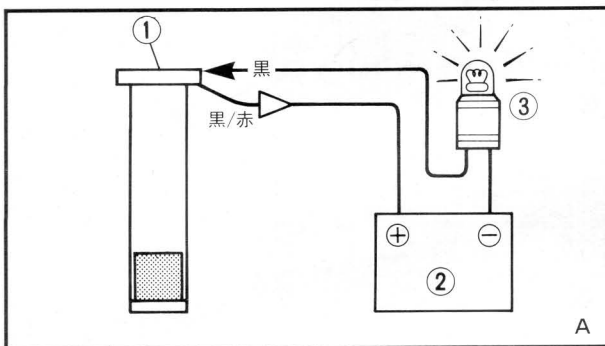
メインスイッチの点検

(P8-5参照)

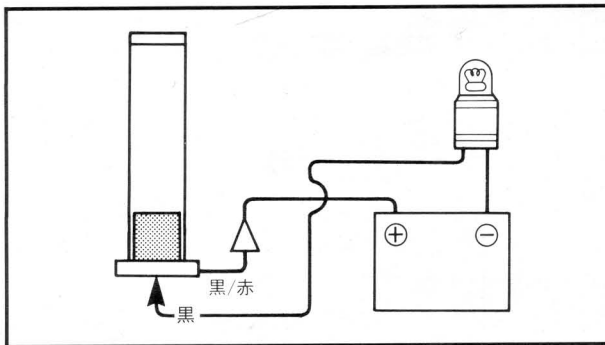


オイルレベルゲージの点検

1. 以下の部品を取外す。
 - フロントアンダボディ
 - オイルレベルゲージ①
2. 以下の部品を取外す。
 - オイルレベルゲージ①



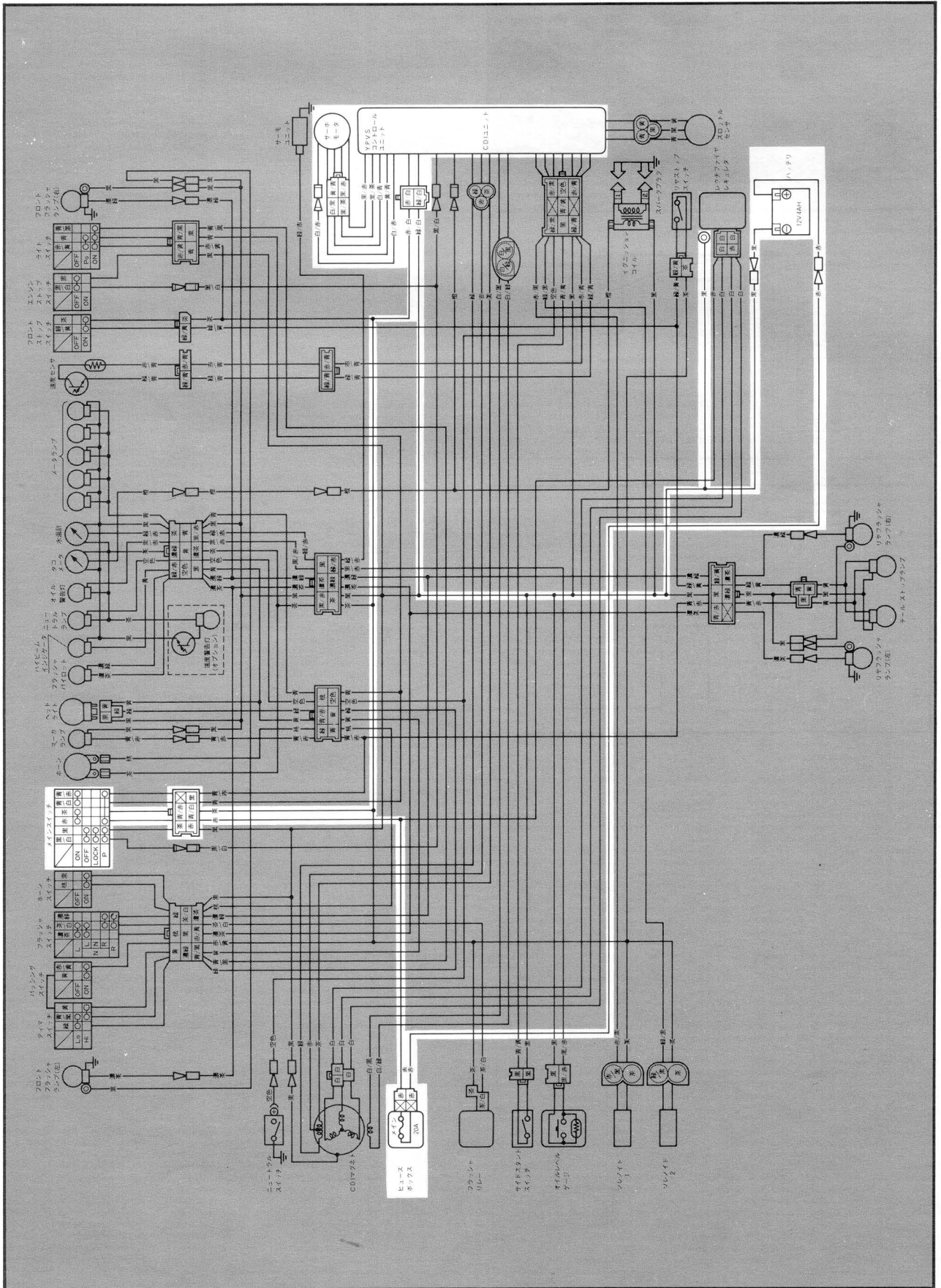
3. 以下の結線をする。
 - オイルレベルゲージ①
 - 12Vバッテリー②
 - パイロットランプ(3.4V)③



4. 以下の点検をする。
 - オイルレベルゲージを上下逆にしてパイロットランプの点灯、消灯により点検する。
 - a. フロートが1番下の位置のとき (A)
 - パイロットランプが点灯する——良
 - パイロットランプが点灯しない——不良
 不良のものはオイルレベルゲージを交換する。
 - b. オイルレベルゲージを逆にしたとき (フロートが上のとき)
 - パイロットランプが点灯する——不良
 - パイロットランプが点灯しない——良



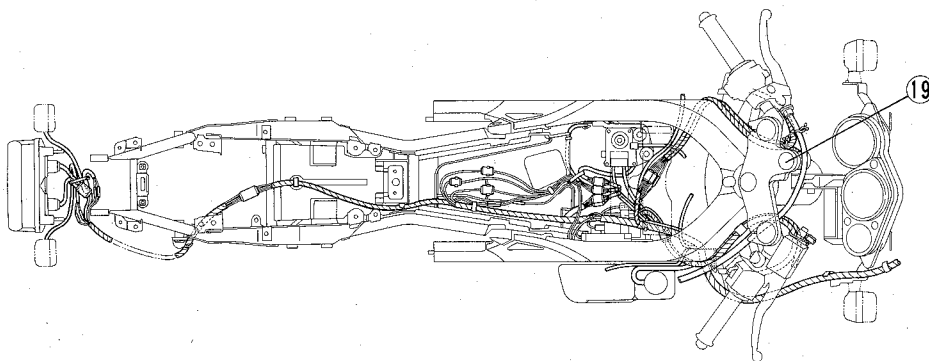
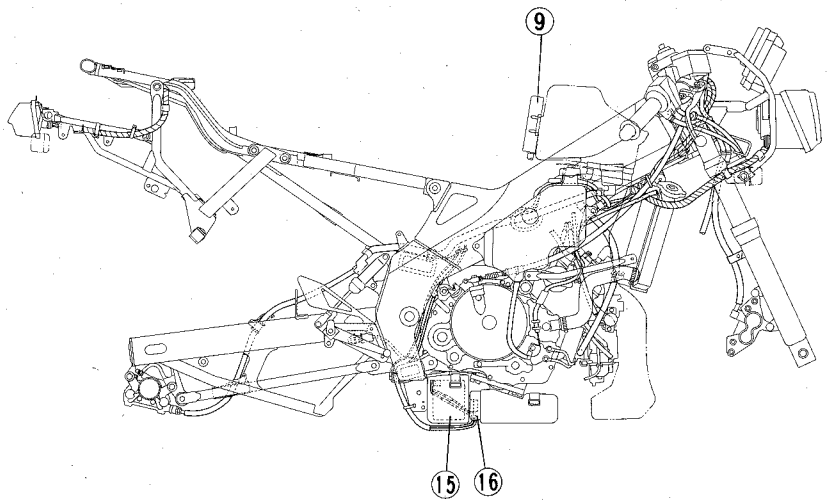
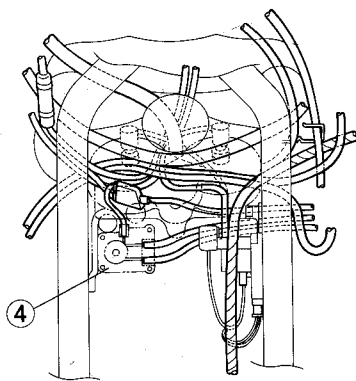
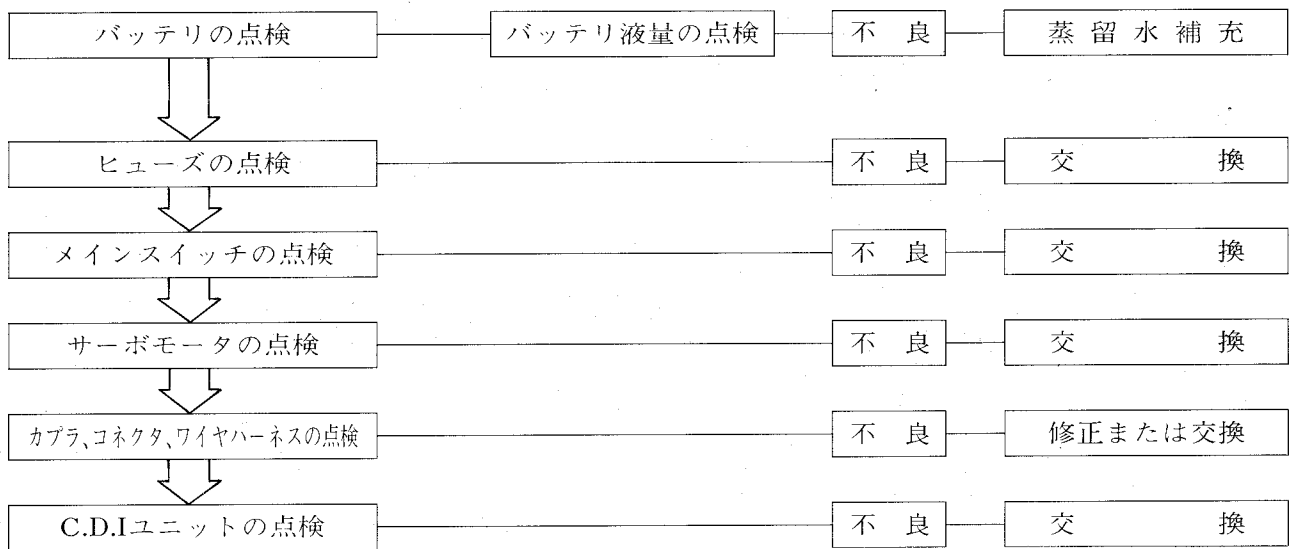
● Y.P.V.S系統結線図





●点検ステップ

Y.P.V.S作動不良の場合は、次の順序で点検する。



- ④サーボモータ
- ⑨C.D.Iユニット
- ⑮バッテリー
- ⑯ヒューズ
- ⑲メインスイッチ



バッテリーの点検

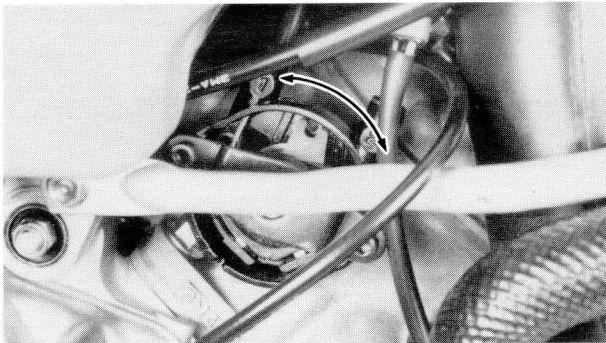
(P8-13参照)

ヒューズの点検

(P8-13参照)

メインスイッチの点検

(P8-5参照)



サーボモータの点検

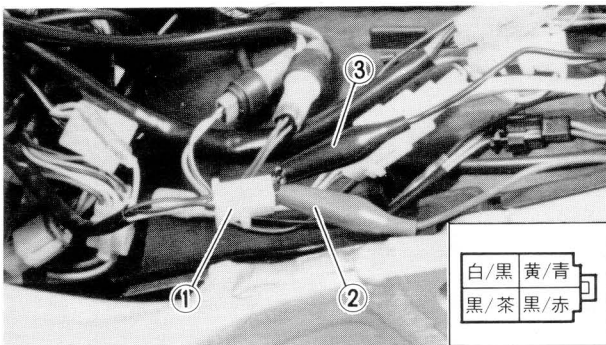
1.以下の点検をする。

• 作動点検

メインスイッチをONにしたとき、プーリ1が1サイクル作動するか点検。

作動する→良

作動しない→サーボモータ単体点検



2.以下の点検をする。

• 単体点検

(フュエルタンクを取外してから行う。)

• サーボモータカプラ①

• バッテリ⊕からのリード線②

• バッテリ⊖からのリード線③

	バッテリー⊕端子	バッテリー⊖端子	サーボモータの作動
	黒/茶	黒/赤	作動する

作動しないもの→サーボモータ交換

カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検

1.以下の点検をする。

• カプラ、コネクタの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビの有無

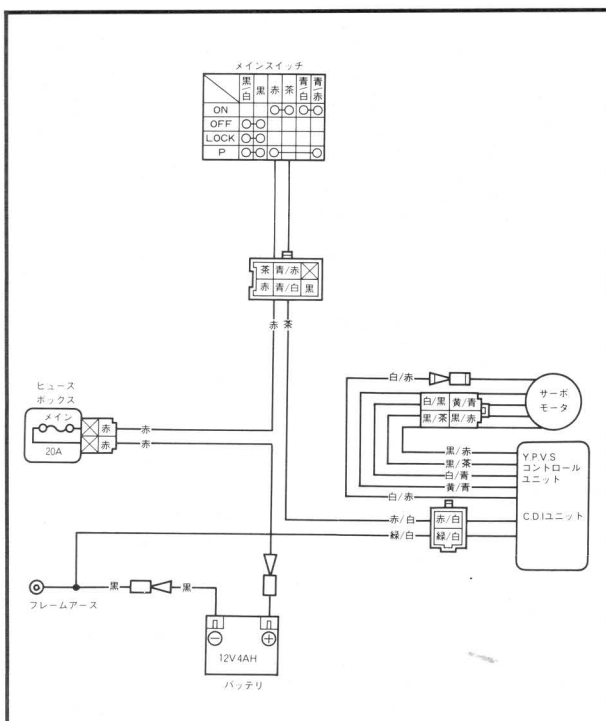
遊びのあるもの→修正

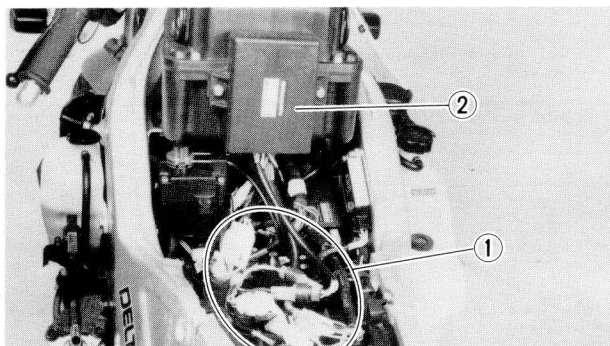
汚れ、サビ等のあるもの→清掃

2.以下の点検をする。

• ワイヤハーネスの断線の有無

断線のあるもの→修正または交換





C.D.Iユニットの点検

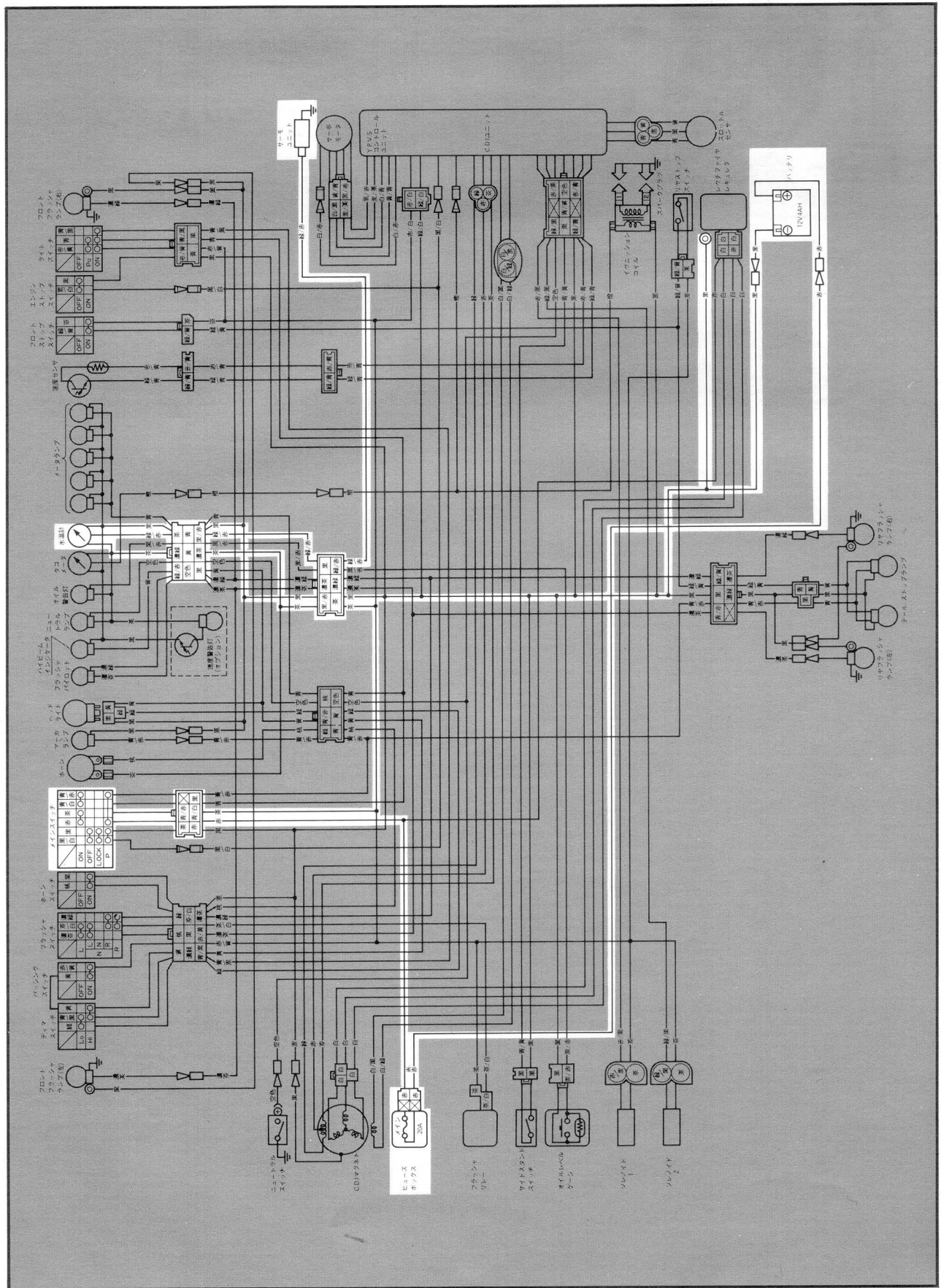
- C.D.Iユニットのカプラ、コネクタ①
- C.D.Iユニット②

1. カプラの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビ等の有無を点検する。
遊び、汚れ、サビ等のあるものは修正または交換する。
2. カプラ接続部に異常がなく、C.D.Iマグネトイグニッションコイル、スパークプラグにも異状のないときは、C.D.Iユニットを交換して確認する。

注意 C.D.Iユニットからイグニッションコイルへ瞬間的に大電流を流し、高電圧を発生させるので配線の接続はしっかりすること。



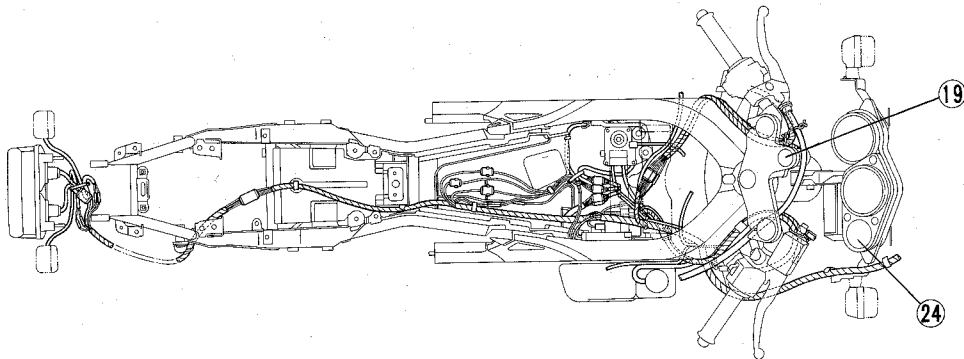
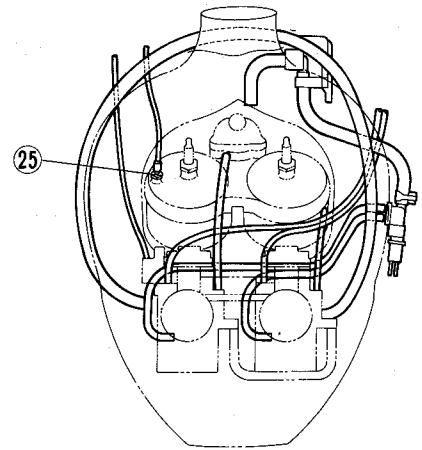
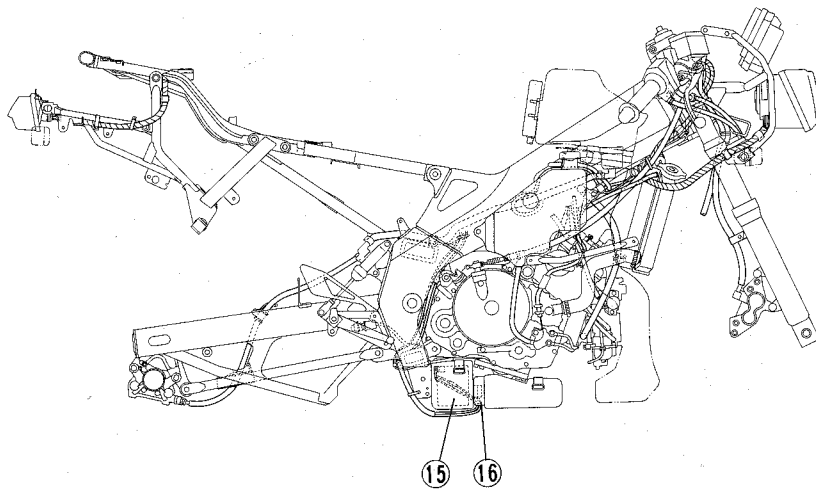
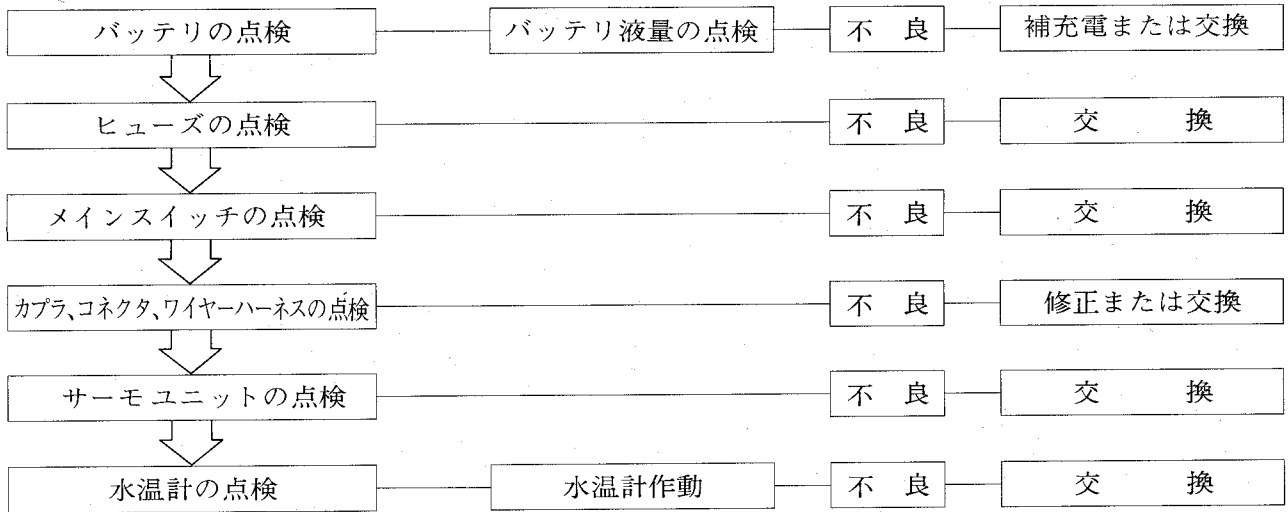
●冷却系統結線図



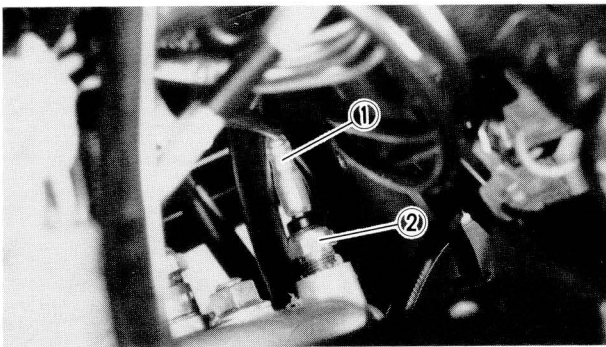
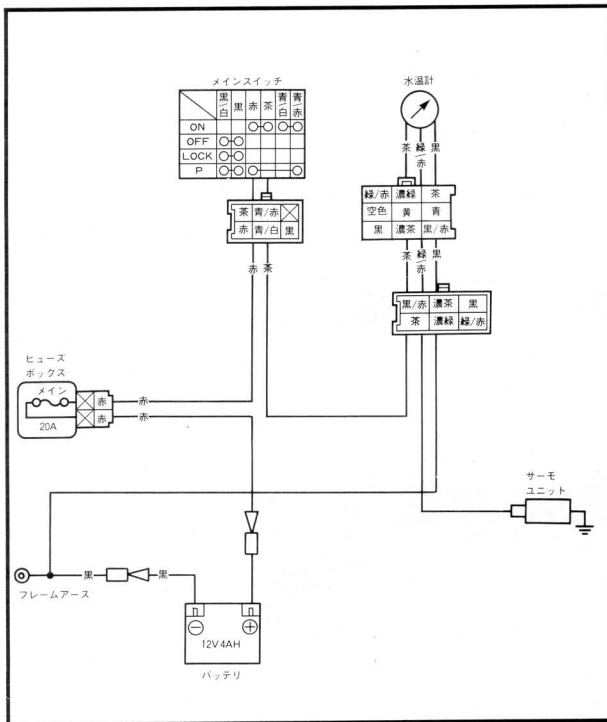


●点検ステップ

冷却システムの作動不良の場合は次の順序で点検する。



- ⑮ バッテリー
- ⑯ ヒューズ
- ⑰ メインスイッチ
- ⑳ 水温計
- ㉑ サーモユニット



バッテリーの点検

(P8-13参照)

ヒューズの点検

(P8-13参照)

メインスイッチの点検

(P8-5参照)

カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの点検

1.以下の点検をする。

- カプラ、コネクタの接続部の遊び(がた)、汚れ、サビの有無
遊びのあるもの→修正
汚れ、サビ等のあるもの→清掃

2.以下の点検をする。

- ワイヤハーネスの断線の有無
断線のあるもの→修正または交換

サーモユニットの点検

1.以下の部品を取外す。

- フュエルタンク

2.冷却水を抜く。

3.以下の部品を取外す。

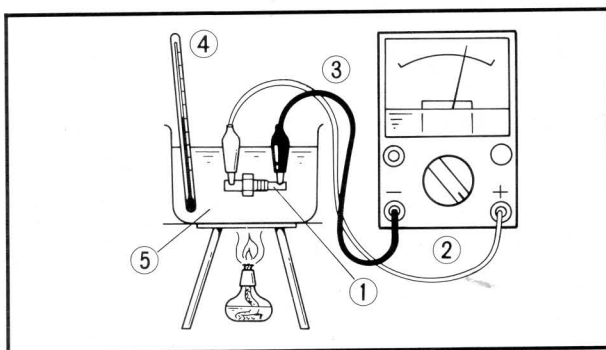
- サーモユニットリード線①
- サーモユニット②

注意

- エアツール(インパクトレンチ)を使用しないこと。
- 落したり、強い衝撃を与えないこと。
- 落したときは新品と交換する。

4.以下の点検をする。

- 冷却水を徐々に加熱して導通の有無
サーモユニット Ass'y①
テスタ赤リード線②
テスタ黒リード線③
水温計④
冷却水⑤



50℃～115℃内で導通あり

上記以外→交換

整備要領

サーモユニットをテスト容器の底に直接つけないようにする。

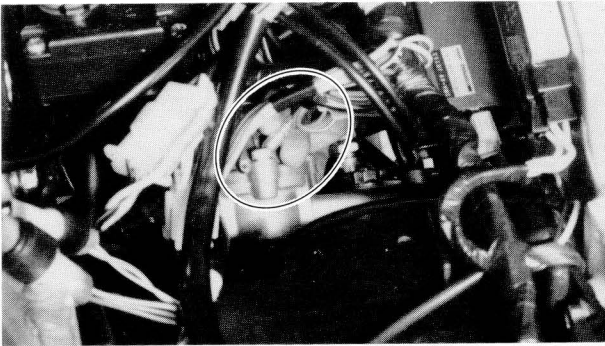


5.以下の部品を組付ける。

- サーモユニット

	サーモユニット 1.35kg・m
--	---------------------

注意 規定トルク以上に締め過ぎないこと。



6.以下の部品を組付ける。

- サーモユニットリード線
- フュエルタンク

水温計の点検

1.以下の部品を取外す。

- フロントアンダボディ

2.以下の点検をする。

- 水温計

サーモユニットのリード線を外し、エンジンにアースしメインスイッチをONにする。

水温計の指針C→H(レッドゾーン)に振れるか点検する。

振れないもの→水温計交換

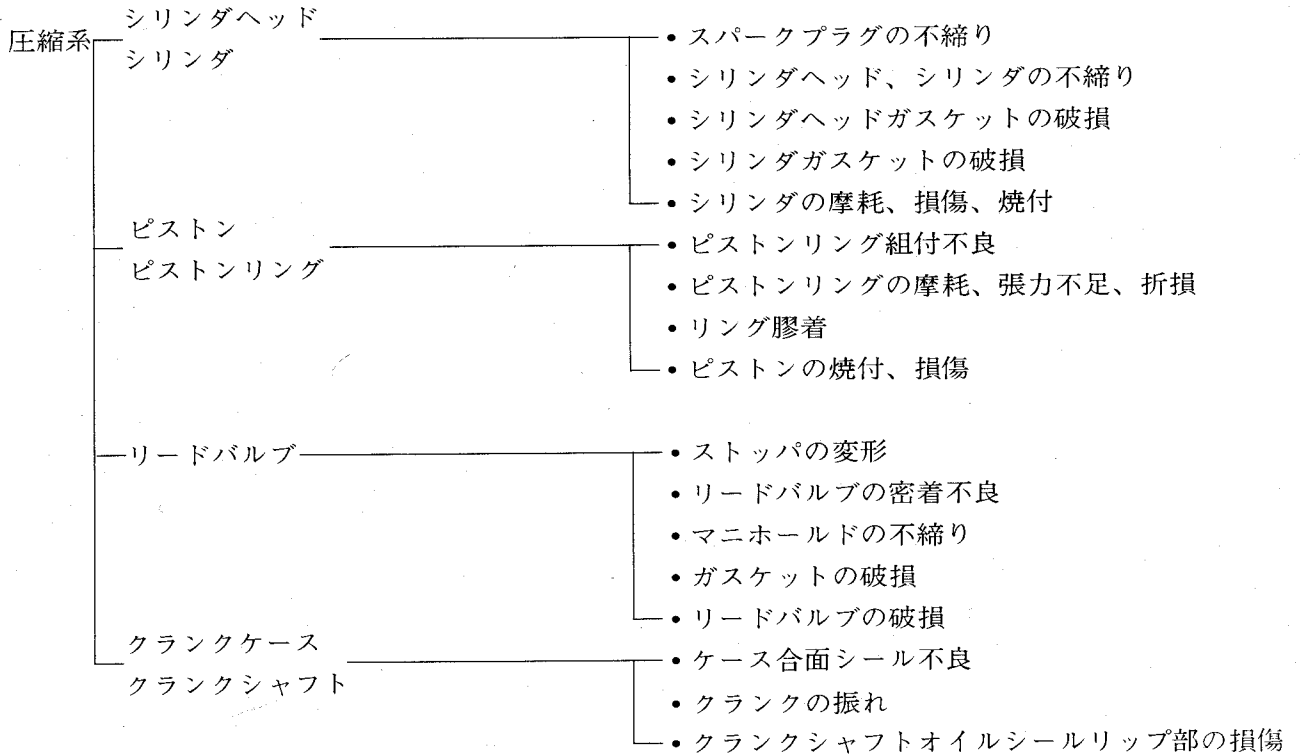
注意 水温計の指針がレッドゾーンに入ったら直ちにアースを外すこと。



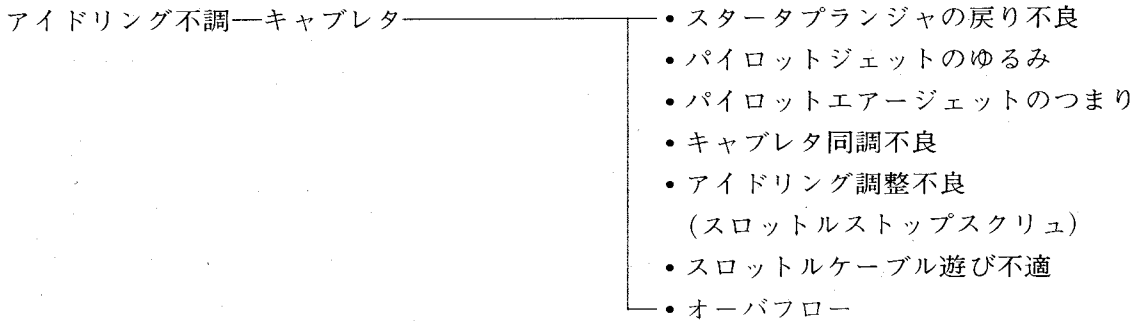
第9章

トラブルシューティング

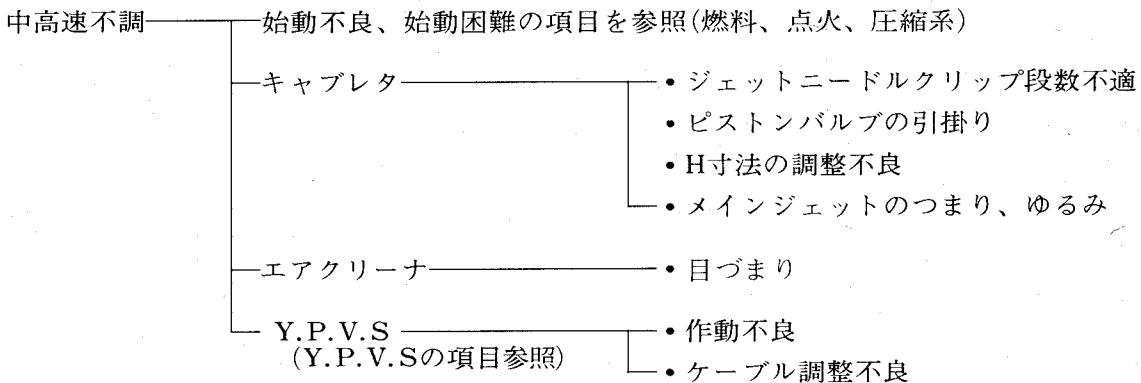




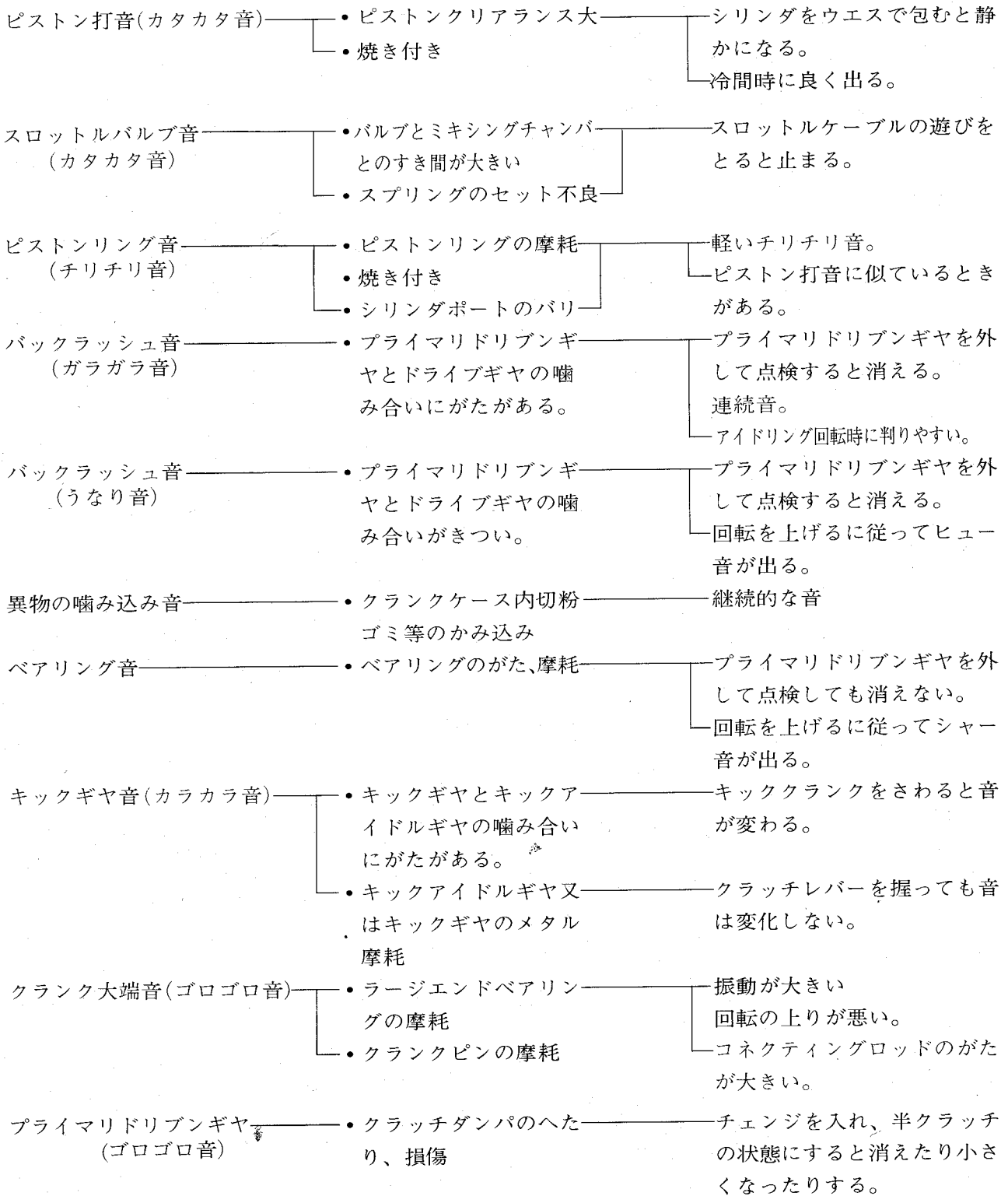
アイドリング不調



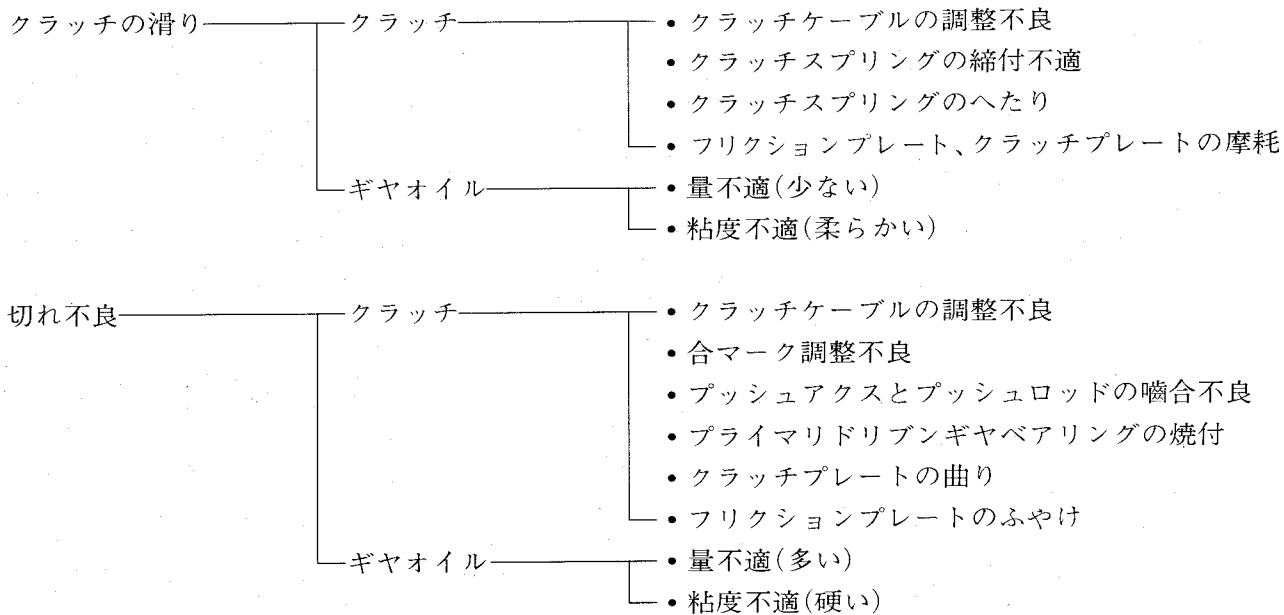
中高速不調



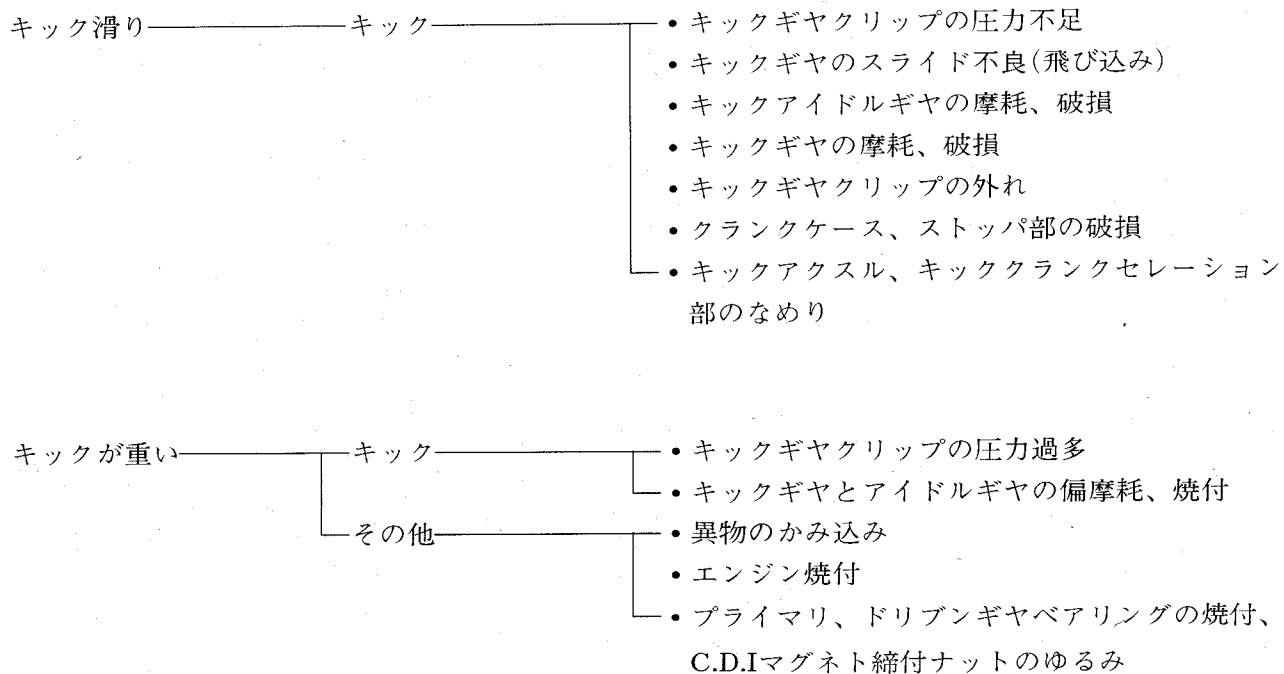
エンジン騒音



クラッチの滑り・切れ不良



キック不良



キック戻り不良

- キックスプリングの折損、外れ
- キックギヤの作動不良
- キックアクスルとクランクケースカバーのせり
- キックアクスルの当り
- キックギヤクリップの外れ
- クランクケースストップ部の破損

変速不良

チェンジが入らない——クラッチの切れ不良参照

シフトペダルが動かない

- シフトシャフト
 - シフトロットの調整不良
 - シフトシャフトの曲り
- シフトカム
 - 溝部異物かみ込み
- シフトフォーク
 - シフトフォークの焼付き
 - シフトフォークガイドバーの曲り
- トランスミッション
 - トランスミッション焼付き
 - 異物のかみ込み
 - トランスミッション組付不良

チェンジ抜け
(飛び越し)

- シフトシャフト
 - 調整不良
 - ストップレバー戻り不良
- シフトカム
 - シフトフォークの摩耗
- シフトフォーク
 - シフトカム軸方向のがた
 - シフトカム溝部の摩耗
- トランスミッション
 - ミッションギヤドッグ部の摩耗

ブレーキ不良

効き不良

- ブレーキパッドの摩耗
- ディスクプレートの摩耗
- ブレーキフルードエア混入
- ブレーキ液漏れ
- シリンダカップキット不良
- キャリパシールキット不良
- ユニオンボルトの不締り
- ブレーキホースの破損
- ディスクプレート、ブレーキパッドにオイル、グリースの付着
- ブレーキフルード量不適

フロントフォークオイル漏れ、作動不良

オイル漏れ

- インナチューブの曲り、損傷、錆
- アウタチューブの損傷、亀裂
- オイルシールリップ部の損傷
- オイルシールの組付不良
- オイル量不適(多すぎ)
- ヘキサゴンボルト(フロントフォーク下部)のゆるみ
- キャップボルトOリングの切損
- ドレンボルトのゆるみ
- ドレンボルトガスキットの損傷

作動不良

- インナチューブの曲り、変形、損傷
- アウタチューブの曲り、変形
- フォークスプリングの損傷
- スライドメタルの摩耗、損傷
- ピストンの曲り、損傷
- オイル粘度量の不適

操縦安定性不良

ハンドル

- 曲り、組付不良

ステアリング

- ハンドルクラウン組付不良
- アンダブラケットの曲り
- アンダブラケット締付不良
- ボール、ボールレースの損傷

フロントフォーク

- 左右オイル量の不一致
- 左右スプリングの不一致(ダンピングアジャスタ位置違い)
- スプリングの折損
- フロントフォークのねじれ

ホイール

- ホイールバランスの狂い
- キャストホイールの変形
- タイヤの偏摩耗
- 空気圧の不適
- ベアリングのがた
- ホイールアクスルの曲り、ゆるみ
- ホイールの振れ

フレーム

- ねじれ
- ヘッドパイプ部ボールレースの損傷
- ボールレースの組付不良

- リヤアーム
 - ベアリングブッシュのがた
 - 当り、損傷
- リヤクッション
 - スプリングのへたり
 - 調整不良
 - オイル洩れ
- ドライブチェン
 - チェン調整不良(チェンライン狂い)
- フェアリング
 - 損傷、破損
 - 取付不良

信号照明系統の不良

- ヘッドライト暗い
 - バルブの不適(規定外のバルブ)
 - 電装品アクセサリ取付過多
 - 充電不良(ステータコイル断線、レクチファイヤレギュレタの不良)
 - バッテリの不良
 - カプラ、コネクタ、ワイヤハーネスの接続不良
 - アース不良
 - スイッチの接触不良(メイン、ライトスイッチ)
 - バルブの寿命
- ヘッド球が切れる
 - バルブの不適(規定外のバルブ)
 - バッテリの不良
 - レクチファイヤレギュレタの不良
 - アース不良
 - スイッチの不良(メイン、ライトスイッチ)
 - バルブの寿命
- フラッシュランプつかない
 - アース不良
 - バッテリ上り
 - フラッシュスイッチ不良
 - フラッシュリレーの不良
 - ワイヤハーネス断線、カプラ接触不良
 - バルブ切れ
- フラッシュランプつき放し
 - フラッシュリレーの不良
 - バッテリ容量不足(上りぎみ)
 - バルブ切れ(前後どちらか)
- フラッシュの点滅が遅い
 - フラッシュリレーの不良
 - バッテリ容量不足(上りぎみ)
 - バルブの不適(規定外バルブ)
 - スイッチの不良(メイン、フラッシュスイッチ)
- フラッシュの点滅が早い
 - バルブの不適(規定外バルブ)
 - フラッシュリレーの不良

ホーン不鳴

- バッテリーの不良
- スイッチの不良(メイン、ホーンスイッチ)
- ホーン調整不良
- ホーンの不良(コイル断線、接点の損傷)
- ワイヤハーネスの断線

Y.P.V.S不調

Y.P.V.S不良

- バッテリーの不良
- メインスイッチの不良
- サーボモータの不良
- バルブにカーボン堆積
- プーリケーブルの断線
- C.D.Iユニットの不良

オーバヒート、オーバクール

オーバヒート

点火系

- スパークプラグギャップの不適
- スパークプラグ熱価の不適
- C.D.Iユニットの不良

燃料系

- キャブレタメインジェットのセッティング不適
- H寸法調整不良
- エアクリーナエレメントのつまり

圧縮系

- 燃焼室のカーボン堆積

ギヤオイル

- オイル量の不適
- オイル粘度の不適(硬い)
- オイルの品質不良

ブレーキ

- ブレーキのひきづり

冷却系

- 水温計の不良
- サーモユニットの不良
- 冷却水量の不適(少ない)
- サーモスタットの不良
- ラジエタの不良(目つまり、損傷)
- ラジエタキャップの不良
- インペラシャフトギヤ空転(ダヴェルピンの折れ、ギヤの欠け)
- インペラシャフトの破損

オーバクール

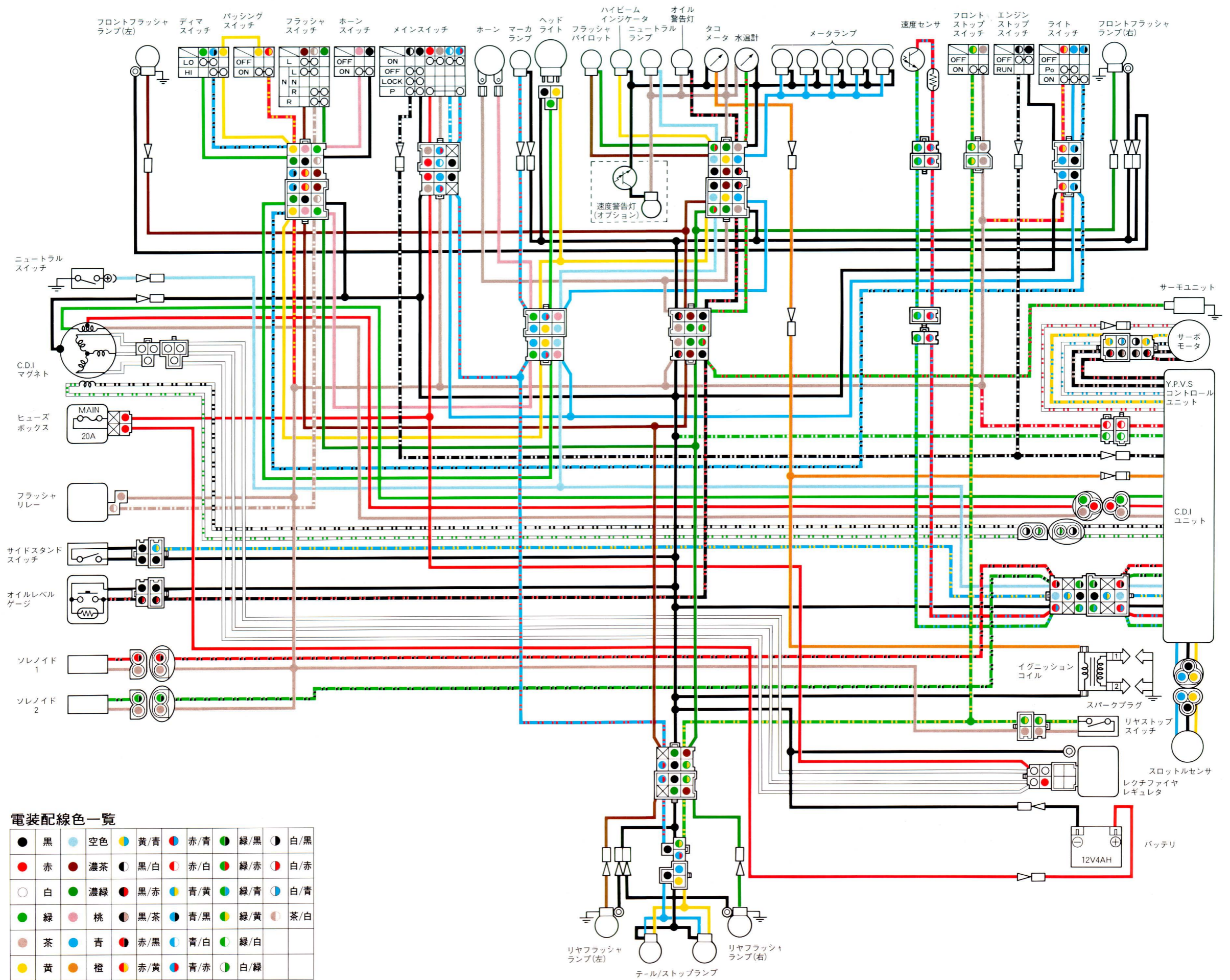
冷却系

- 水温計の不良
- サーモユニットの不良
- サーモスタットの不良

トラブル
シューティング

?

TZR250 電装配線図



ご注文の際はQQS-CLT-000-3MA品番で
お申込みください。

QQS-CLT-000-3MA



ヤマハ発動機株式会社

3MA-28197-00



注文No.391152 8902-3.8×00 TS